

調布市民福祉ニーズ調査 報告書



令和8（2026）年3月

調布市

目 次

I	調査の概要	1
第1章	調査の概要	1
1	調査の目的	1
2	アンケート調査の実施概要	1
3	住民懇談会の実施概要	3
第2章	報告書の見方	6
1	本報告書を読むに当たっての留意事項	6
2	居住地域の分類について	7
II	アンケート調査の結果	8
第1章	アンケート調査の調査項目	8
第2章	市民（18歳以上）調査結果	13
1	あなた（ご本人）についておたずねします	13
2	日頃のコミュニケーションについておたずねします	20
3	市民同士の支え合い、地域活動についておたずねします	28
4	暮らしのことについておたずねします	38
5	市民の権利を守る取組についておたずねします	52
6	誰もが暮らしやすいまちづくりについておたずねします	55
第3章	高齢者（65歳以上）調査結果	71
1	あなた（ご本人）についておたずねします	71
2	日頃のコミュニケーションについておたずねします	74
3	市民同士の支え合い、地域活動についておたずねします	80
4	就労についておたずねします	89
5	健康増進、権利擁護の取組についておたずねします	91
6	暮らしのことについておたずねします	96
7	誰もが暮らしやすいまちづくりについておたずねします	106
第4章	障害者（18歳以上）調査結果	121
1	あなた（ご本人）についておたずねします	121
2	相談支援についておたずねします	129
3	日頃のコミュニケーションについておたずねします	132
4	災害時の対策についておたずねします	138
5	暮らしについておたずねします	141
6	誰もが暮らしやすいまちづくりについておたずねします	158
7	デジタルの活用についておたずねします	177
8	調布市の障害者福祉施策についておたずねします	184
9	ご家族におたずねします	195
第5章	障害児（18歳未満）の保護者調査結果	199
1	保護者（調査に回答していただく人）についておたずねします	199
2	保護者の方に、あて名のお子さんについておたずねします	201

3	保護者の方に、相談支援についておたずねします	211
4	保護者の方に、日頃のコミュニケーションについておたずねします	215
5	保護者の方に、災害時の対策についておたずねします	218
6	保護者の方に、誰もが暮らしやすいまちづくりについておたずねします	219
7	保護者の方に、デジタルの活用についておたずねします	226
8	保護者の方に、調布市の障害者福祉施策についておたずねします	229
第6章	調査間での共通質問	237
1	日頃のコミュニケーション	237
2	市民同士の支え合い、地域活動	241
3	相談支援	245
4	活動機会、スポーツ	248
5	外出、ひきこもりの状況	250
6	市民の権利を守る取組	254
7	誰もが暮らしやすいまちづくり	256
8	災害時の対策	265
9	デジタルの活用	266
10	市の障害者福祉施策	267
11	介助者のこと	269
Ⅲ	住民懇談会の結果	271
1	緑ヶ丘・滝坂／若葉・調和小学校地域	271
2	第一・富士見台・多摩川／第三・石原・飛田給小学校地域	278
3	上ノ原・柏野／北ノ台・深大寺小学校地域	285
4	第二・八雲台・国領／染地・杉森・布田小学校地域	291
Ⅳ	調査のまとめ	299
第1章	地域別のまとめ	299
第2章	アンケート調査から見えた課題	315
第3章	住民懇談会から見えた課題	330
Ⅴ	資料編 調査票及び単純集計結果	332
1	市民（18歳以上）	332
2	高齢者（65歳以上）	342
3	障害者（18歳以上・身体障害）	352
4	障害者（18歳以上・知的障害-精神障害-難病）	366
5	障害児（18歳未満）の保護者	381

I 調査の概要

第1章 調査の概要

1 調査の目的

本調査は、国や調布市の動向を踏まえ、アンケート調査及び住民懇談会により市民の生活実態や福祉に対する意識、意見、ニーズ等を把握し、次期「調布市地域福祉計画」「調布市高齢者総合計画」「調布市障害者総合計画」を策定する際の基礎資料等とすることを目的とする。

2 アンケート調査の実施概要

(1) 調査方法

- 調査票の郵送配付
- 調査票による郵送回答／専用ウェブサイトからのインターネット回答（回答者が選択）
- 督促礼状を対象者全員に1回送付

(2) 調査期間

令和7年10月16日～令和7年11月4日

(3) 調査の一覧

調査名	対象	調査数	回答数	回答率	(参考)
			(うちインターネット)		令和 4 年度
誰もが暮らしやすいまちづくりのための福祉に関するアンケート	18 歳以上の市民（市内在住）	2,000 人	924 人 (433)	46.2% (21.7)	40.8% (10.7)
高齢者が暮らしやすいまちづくりのための福祉に関するアンケート	65 歳以上の市民（市内在住）	1,000 人	633 人 (89)	63.3% (8.9)	60.2% (3.6)
障害のある人が暮らしやすいまちづくりのための福祉に関するアンケート	18 歳以上の障害者手帳や特定医療費（指定難病）受給者証所持者	2,700 人	1,408 人 (449)	52.1% (16.6)	54.5% (8.6)
	①身体障害者手帳所持者（64 歳以下）	400 人	238 人 (91)	59.5% (22.8)	53.3% (13.8)
	②身体障害者手帳所持者（65 歳以上）	400 人	190 人 (30)	47.5% (7.5)	59.3% (2.0)
	③愛の手帳所持者	500 人	240 人 (56)	48.0% (11.2)	60.7% (4.7)
	④精神障害者保健福祉手帳所持者	800 人	392 人 (151)	49.0% (18.9)	44.3% (12.3)
	⑤難病患者	600 人	348 人 (121)	58.0% (20.2)	57.3% (9.7)
子どもと保護者が暮らしやすいまちづくりのための福祉に関するアンケート	18 歳未満の障害者手帳や児童福祉通所受給者証所持者の保護者	300 人	185 人 (118)	61.7% (39.3)	65.0% (20.0)
合計		6,000 人	3,150 人 (1,089)	52.5% (18.2)	52.2% (8.0)

3 住民懇談会の実施概要

(1) 実施概要

実施目的	地域住民，高齢者，障害者の生活実態や福祉に対する意識・意見を把握し，今後の市の福祉施策や次期「調布市地域福祉計画」「調布市高齢者総合計画」「調布市障害者総合計画」の策定の基礎資料等とすることを目的に，地域住民等が日頃の想いや感じていることを話し合い，考え合う場として開催し，地域における支え合いの仕組みづくりを推進していく契機とする。
実施回数	全 4 回（1 回×2 圏域）
実施時間	2 時間／回
実施手法	○少人数に分かれたグループディスカッション形式の懇談会を実施 ○KJ 法により，テーマごとに模造紙にまとめて結果を共有

(2) 開催日程・会場等

圏域	日時	会場
上ノ原・柏野小学校地域 北ノ台・深大寺小学校地域	令和 7 年 11 月 9 日 午前 10 時～正午	総合福祉センター (小島町 2-47-1) <2 階 201～203 会議室>
第二・八雲台・国領小学校地域 染地・杉森・布田小学校地域	令和 7 年 11 月 9 日 午後 2 時～午後 4 時	
第一・富士見台・多摩川小学校地域 第三・石原・飛田給小学校地域	令和 7 年 11 月 22 日 午前 10 時～正午	
緑ヶ丘・滝坂小学校地域 若葉・調和小学校地域	令和 7 年 11 月 22 日 午後 2 時～午後 4 時	

(3) 参加人数

圏域	地域の活動団体等	自治会	地区協議会	民生委員・児童委員	福祉関係機関	地域住民	その他	合計(人)
上ノ原・柏野小学校地域 北ノ台・深大寺小学校地域	2	-	4	2	5	2	-	15
第二・八雲台・国領小学校地域 染地・杉森・布田小学校地域	6	-	2	1	5	5	-	19
第一・富士見台・多摩川小学校地域 第三・石原・飛田給小学校地域	1	-	2	6	2	1	1	13
緑ヶ丘・滝坂小学校地域 若葉・調和小学校地域	3	1	1	4	6	4	-	19
合計	12	1	9	13	18	12	1	66

(4) 募集方法

方法	概要
広報	- 市報（令和7年10月5日号） - 市ホームページ（令和7年10月8日～11月22日）
案内チラシ	- 調布市社会福祉協議会（地域福祉コーディネーター、地域支え合い推進員）を通じて配布 - アンケート調査票に同封（令和7年10月16日発送）
その他	- 民生児童委員協議会に周知 - 地域福祉推進会議委員に周知 - 高齢者福祉推進協議会委員に周知 - 自立支援協議会全体会に周知 - 地域活動関係者等に個別に周知

☆案内チラシ



(5) 懇談会のテーマ

懇談会の テーマ	誰もが地域で支え合い安心して暮らすための「つながり」ってどんなもの？
話し合う 3つのテーマ	①「つながりがあってよかったことは？（ご自身の経験など）」 ②「“地域とつながりがない状況”を考えてみよう」 ③「②の“地域とつながりがない状況”をなくすために、どんなきっかけや取組ができそう？」

(6) 進行プログラム

プログラム	進行内容
1	開会
2	開会あいさつ
3	オリエンテーション（懇談会の趣旨等）
4	地域福祉コーディネーターによる活動の事例紹介
5	オリエンテーション（懇談会の進行説明）
6	懇談会 テーブルワーク 1 「つながりがあってよかったことは？（ご自身の経験など）」
	懇談会 テーブルワーク 2 「“地域とつながりがない状況”を考えてみよう」
	懇談会 テーブルワーク 3 「ワーク 2 の“地域とつながりがない状況”をなくすために、どんなきっかけや取組ができそう？」
7	各テーブルによるワーク内容の発表
8	講評・閉会あいさつ
9	住民懇談会 終了

第2章 報告書の見方

1 本報告書を読むに当たっての留意事項

●「回答者数」について

それぞれの質問の回答者数は、全体的場合はN (Number of cases)、それ以外の場合にはnと表記している。

●図表の単位について

回答は、それぞれの質問の回答者数を基数とした百分率(%)で示している。％は小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを表記している。そのため、合計値が100.0%にならない場合がある。また、回答者が2つ以上回答することのできる質問(複数回答)についても、％の合計は100.0%にならない場合がある。

●図表における選択肢について

図表の記載に当たっては、調査票の選択肢の文言を一部省略している場合がある。省略していない選択肢は、「資料編」の調査票を参照のこと。

●集計方法について

この報告書では、以下の3つの集計を行っている。

①全体集計

回答者全体、又は質問に該当する人全体のみで集計した結果である。

②クロス集計

上記①の全体集計をさらに男女や年代ごとに詳細に集計した結果である。なお、集計の柱となる項目の「無回答」は掲載を省略している。したがって、集計の柱となる項目の回答者数の合計は、全体と一致しない。

③自由回答の整理

自由回答は、項目ごとに分け件数を数えた後、主な意見を抜粋して掲載している。

●クロス集計表の網掛けについて

クロス集計表で網掛けしている項目は、最も回答の多かった項目である。

●経年比較について

経年比較は過去の調査との比較である。なお、平成19年度から平成28年度までの調査対象は64歳以下であったが、令和元年度から65歳以上も調査対象に含むこととした。そのため、令和元年度以降の調査結果は64歳以下の回答を抽出したもの(n)とし、必要に応じて全体(N)と併せて掲載している。また、令和7年度も65歳以上を調査対象に含むため、回答者のうち、60歳代以下(65～69歳を含む)に絞って再集計した結果を用いて分析している。

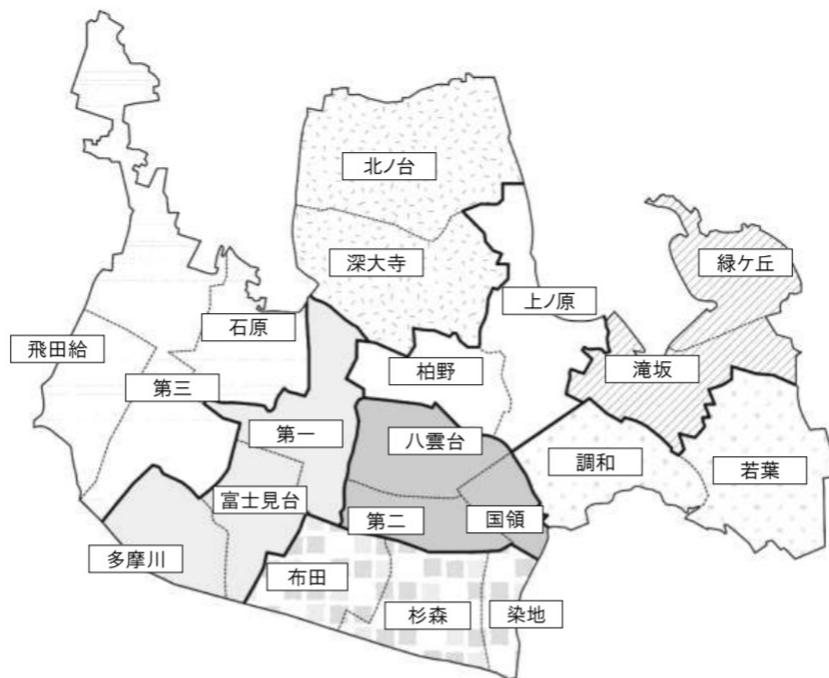
2 居住地域の分類について

市内を8つの福祉圏域に区分している。

なお、実際の福祉圏域は、小学校区を基礎としているため、地番まで区分されている地区もあるが、本調査では、下記表に掲げる地区により集計している。

■福祉圏域の地域区分

下記の□内の記載は小学校区の名称



福祉圏域名	福祉圏域に属する地区
緑ヶ丘・滝坂 小学校地域	東つつじヶ丘1丁目, 2丁目 緑ヶ丘 仙川町 西つつじヶ丘1丁目, 2丁目, 3丁目 若葉町1丁目
若葉・調和 小学校地域	東つつじヶ丘3丁目 菊野台 入間町 西つつじヶ丘4丁目 若葉町2丁目, 3丁目
上ノ原・柏野 小学校地域	佐須町1丁目, 2丁目, 4丁目, 5丁目 調布ヶ丘3丁目 柴崎 深大寺南町1丁目, 2丁目, 3丁目 深大寺東町3丁目, 4丁目
北ノ台・深大寺 小学校地域	深大寺東町1丁目, 2丁目, 5丁目, 6丁目, 7丁目, 8丁目 深大寺北町 深大寺元町2丁目, 3丁目, 4丁目, 5丁目 深大寺南町4丁目, 5丁目
第二・八雲台・国領 小学校地域	国領町1丁目, 2丁目, 3丁目, 4丁目, 5丁目, 8丁目 佐須町3丁目 布田2丁目, 3丁目 調布ヶ丘2丁目 八雲台
染地・杉森・布田 小学校地域	国領町6丁目, 7丁目 布田5丁目, 6丁目 多摩川6丁目, 7丁目 染地
第一・富士見台・多摩川 小学校地域	多摩川1丁目, 2丁目, 3丁目, 4丁目, 5丁目 調布ヶ丘1丁目, 4丁目 布田1丁目, 4丁目 深大寺元町1丁目 下石原1丁目 小島町
第三・石原・飛田給 小学校地域	上石原 富士見町 西町 下石原2丁目, 3丁目 飛田給 野水

Ⅱ アンケート調査の結果

第1章 アンケート調査の調査項目

【調査名】誰もが暮らしやすいまちづくりのための福祉に関するアンケート

市民（18歳以上）

大項目	問番号	設問
1 基本属性	問1	性別
	問2	年齢
	問3	居住地域（福祉圏域）
	問4	居住年数（通算）
	問5	住居形態
	問6	同居の家族構成
	問7	職業
2 日頃のコミュニケーション	問8	近所付き合いの程度
	問9	近所付き合いの必要性（場面ごと）
	問10	孤独・孤立の状況（主観的な孤独感尺度）
	問11	孤独・孤立の状況（客観的な社会的つながりの尺度）
3 市民同士の支え合い、地域活動	問12	①手助けしてほしいこと，②手助けできること
	問13	助け合いを後押しする取組
	問14	地域活動・ボランティア活動 ①取組状況，②今後の取組意向
	問15	地域活動・ボランティア活動に参加しやすい条件
4 暮らしのこと	問16	経済的に困った経験の有無
	付問	その原因（困っている，困ったことがある方）
	問17	外出の状況（本人）
	付問1	ひきこもりの期間（本人）
	付問2	ひきこもりの理由（本人）
	問18	外出の状況（家族）
	付問1	ひきこもりの期間（家族）
	付問2	ひきこもりの理由（家族）
	問19	複合的な課題を抱えた世帯の認知状況
	問20	困ったときの相談相手（人・機関）
	問21	どこに相談したらいいかわからない生活上の困りごとの有無
	付問	困りごとの内容（あると答えた方）
	問22	地域の中での不安や課題
5 市民の権利を守る取組	問23	市民の権利を守る制度・事業の認知度（成年後見等）
	問24	判断能力が低下した際の各制度の利用意向
	付問	各制度を利用しない理由（制度を利用しない，わからない方）
6 誰もが暮らしやすいまちづくり	問25	災害時の不安や心配ごと
	問26	地域のつながりに対する考え方
	問27	市内のバリアフリー化の状況
	問28	心のバリアフリーの普及に必要な取組
	問29	共生社会の充実のための法律や考え方，条例の認知度
	問30	更生支援（再犯防止）関係者の認知度
	問31	更生支援（再犯防止）に必要な取組
	問32	今後力を入れるべき保健福祉施策（サービス）
	問33	地域福祉への意見・提案＜自由記述＞

【調査名】高齢者が暮らしやすいまちづくりのための福祉に関するアンケート

高齢者（65 歳以上）

大項目	問番号	設問
1 基本属性	問1	性別
	問2	年齢
	問3	居住地域（福祉圏域）
	問4	居住年数（通算）
	問5	住居形態
	問6	同居の家族構成
	問7	介護支援の有無
2 日頃のコミュニケーション	問8	近所付き合いの程度
	問9	近所付き合いの必要性（場面ごと）
	問10	孤独・孤立の状況（主観的な孤独感尺度）
	問11	孤独・孤立の状況（客観的な社会的つながりの尺度）
3 市民同士の支え合い，地域活動	問12	①手助けしてほしいこと，②手助けできること
	問13	①手助けした経験，②手助けしてもらった経験
	問14	助け合いを後押しする取組
	問15	地域活動・ボランティア活動 ①取組状況，②今後の取組意向
	問16	地域活動・ボランティア活動に参加しやすい条件
4 就労	問17	就労状況
	付問	職業に就いた経緯（会社等で働いている人）
	問18	就業理由
	問19	高齢者の就労に必要な要件
5 健康増進，権利擁護の取組	問20	認知症予防，フレイル予防の取組状況
	問21	人生のエンディングに向けた事柄 ①認知度，②活用意向
	問22	認知症対策の取組
	問23	市民の権利を守る制度・事業の認知度（成年後見等）
	問24	判断能力が低下した際の各制度の利用意向
	付問	各制度を利用しない理由（制度を利用しない，わからない方）
6 暮らしのこと	問25	外出の目的
	付問	外出の移動手段
	問26	コロナ禍後の暮らしへの影響
	問27	外出の状況（本人）
	付問1	ひきこもりの期間（本人）
	付問2	ひきこもりの理由（本人）
	問28	外出の状況（家族）
	付問1	ひきこもりの期間（家族）
	付問2	ひきこもりの理由（家族）
	問29	困ったときの相談相手（人・機関）
	問30	どこに相談したらいいかわからない困りごとの内容
	問31	サードプレイス（居場所）の有無
	問32	サードプレイス（居場所）の必要性，希望
7 誰もが暮らしやすいまちづくり	問33	地域の暮らしの満足度
	問34	高齢者の生活を守る取組や相談窓口等の認知度
	問35	市内のバリアフリー化の状況
	問36	共生社会の充実のための法律や考え方，条例の認知度
	問37	今後力を入れるべき高齢者保健福祉施策（サービス）
	問38	介護者支援策への意向
	問39	地域福祉への意見・提案＜自由記述＞

【調査名】障害のある人が暮らしやすいまちづくりのための福祉に関するアンケート

障害者（18歳以上）

大項目	問番号	設問
1 基本属性	問1	回答者
	問2	性別
	問3	年齢
	問4	居住地域（福祉圏域）
	問5	住居形態
	問6	同居の家族構成
	問7	①所持する手帳・受給者証，②等級
	問8	病気や障害の種類
2 相談支援	問9	困ったときの相談相手（人・機関）
	問10	医療機関の受診で困ること
	問11	今後の居住形態の意向
3 日頃のコミュニケーション	問12	孤独・孤立の状況（主観的な孤独感尺度）
	問13	孤独・孤立の状況（客観的な社会的つながりの尺度）
4 災害時の対策	問14	避難場所・避難経路・警戒区域等の確認状況
	問15	緊急時の情報入手先
5 暮らしのこと	問16	現在の就労状況
	問17	障害や病気を周囲に伝えたか
	問18	今後の就労意向
	問19	就労の支援策
	問20	生活上の活動機会の有無
	問21	スポーツ・運動をする頻度
	問22	スポーツ・運動をする希望場所
	問23	スポーツ・運動の実施の為に必要な支援
	問24	外出の状況（本人）
	付問1	ひきこもりの期間（本人）
	付問2	ひきこもりの理由（本人）
	問25	外出の状況（家族）
	付問1	ひきこもりの期間（家族）
	付問2	ひきこもりの理由（家族）
6 誰もが暮らしやすいまちづくり	問26	住みやすさの評価
	問27	共生社会の充実のための法律や考え方，条例の認知度
	問28	外出の移動手段
	問29	市内のバリアフリー化の状況
	問30	心のバリアフリーの普及に必要な取組
	問31	暮らしや外出時の差別，偏見，配慮の有無
	問32	①ヘルプカードの所持，②ヘルプマークの所持
	問33	ヘルプカードやヘルプマークの効果
7 デジタルの活用	問34	市の保健福祉情報の入手先
	問35	スマートフォン等の利用状況
	問36	デジタル活用へのアイデア＜自由記述＞
8 調布市の障害者福祉施策	問37	相談窓口・制度の認知度
	問38	今後力を入れるべき障害者福祉施策（サービス）
	問39	地域福祉への意見・提案＜自由記述＞
9 介助者のこと	問40	（家族介助者のみ）介助者の年齢
	問41	（家族介助者のみ）介助の不安
	問42	（家族介助者のみ）介護者支援策への意向

【調査名】子どもと保護者が暮らしやすいまちづくりのための福祉に関するアンケート

障害児（18歳未満）の保護者

大項目	問番号	設問
1 基本属性	問1	保護者（回答者）とあて名本人（子ども）との関係
	問2	性別（保護者）
	問3	年齢（保護者）
	問4	居住地域（福祉圏域）（保護者）
	問5	健康状態（保護者）
2 あて名のお子さんのこと	問6	あて名本人の就学状況
	問7	あて名本人の性別
	問8	①所持する手帳・受給者証，②等級
	問9	病気や障害の種類
	問10	学校以外の時間の活動場所（就学後のお子さん）
	問11	放課後活動に求めること（就学後のお子さん）
	問12	生活上の活動機会の有無
	問13	スポーツ・運動をする頻度
	問14	子どもの日常生活に関する不安
	問15	医療機関の受診で困ること
	問16	子どもの進学先の希望
	問17	子どもの将来の働き方の希望
	問18	子どもが就労する上で必要なこと
	問19	今後の居住形態の意向
3 相談支援	問20	困ったときの相談相手（人・機関）
	問21	介助の不安
	問22	本人の介助できょうだいの不安や困りごと
	問23	介護者（保護者）支援策への意向
4 日頃のコミュニケーション	問24	孤独・孤立の状況（主観的な孤独感尺度）
	問25	孤独・孤立の状況（客観的な社会的つながりの尺度）
5 災害時の対策	問26	避難場所・避難経路・警戒区域等の確認状況
	問27	緊急時の情報入手先
6 誰もが暮らしやすいまちづくり	問28	住みやすさの評価
	問29	共生社会の充実のための法律や考え方，条例の認知度
	問30	外出の移動手段
	問31	市内のバリアフリー化の状況
	問32	心のバリアフリーの普及に必要な取組
	問33	暮らしや外出時の差別，偏見，配慮の有無
	問34	①ヘルプカードの所持，②ヘルプマークの所持
	問35	ヘルプカードやヘルプマークの効果
7 デジタルの活用	問36	市の保健福祉情報の入手先
	問37	デジタル活用へのアイデア＜自由記述＞
8 調布市の障害者福祉施策	問38	「i（あい）-ファイル」の認知度
	問39	相談窓口・制度の認知度
	問40	今後力を入れるべき障害児福祉施策（サービス）
	問41	地域福祉への意見・提案＜自由記述＞

【各調査に共通する主なテーマと設問】

- 今後の地域福祉の主なテーマについて、複数の調査間で設問を設定している。
- 以下が主なテーマと共通する設問である。

テーマ	設問	市民調査	高齢者調査	障害者調査	障害児保護者調査
日頃のコミュニケーション	近所付き合いの程度	問 8	問 8	—	—
	近所付き合いの必要性（場面ごと）	問 9	問 9	—	—
	孤独・孤立の状況（主観的な孤独感尺度）	問 10	問 10	問 12	問 24
	孤独・孤立の状況（客観的な社会的つながりの尺度）	問 11	問 11	問 13	問 25
市民同士の支え合い，地域活動	①手助けしてほしいこと	問 12	問 12	—	—
	②手助けできること	問 13	問 14	—	—
	助け合いを後押しする取組	問 13	問 14	—	—
	地域活動・ボランティア活動	問 14	問 15	—	—
相談支援	①取組状況，②今後の取組意向	問 14	問 15	—	—
	地域活動・ボランティア活動に参加しやすい条件	問 15	問 16	—	—
	困ったときの相談相手（人・機関）	問 20	問 29	問 9	問 20
	医療機関の受診で困ること	—	—	問 10	問 15
活動機会，スポーツ	今後の居住形態の意向	—	—	問 11	問 19
	生活上の活動機会の有無	—	—	問 20	問 12
	スポーツ・運動をする頻度	—	—	問 21	問 13
	外出の移動手段	—	問 25 付問	問 28	問 30
外出，ひきこもりの状況	外出の状況（本人）	問 17	問 27	問 24	—
	ひきこもりの期間（本人）	付問 1	付問 1	付問 1	—
	ひきこもりの理由（本人）	付問 2	付問 2	付問 2	—
	外出の状況（家族）	問 18	問 28	問 25	—
	ひきこもりの期間（家族）	付問 1	付問 1	付問 1	—
	ひきこもりの理由（家族）	付問 2	付問 2	付問 2	—
	市民の権利を守る制度・事業の認知度（成年後見等）	問 23	問 23	—	—
市民の権利を守る取組	判断能力が低下した際の各制度の利用意向	問 24	問 24	—	—
	各制度を利用しない理由	付問	付問	—	—
	住みやすさの評価	—	—	問 26	問 28
	市内のバリアフリー化の状況	問 27	問 35	問 29	問 31
誰もが暮らしやすいまちづくり	心のバリアフリーの普及に必要な取組	問 28	—	問 30	問 32
	暮らしや外出時の差別，偏見，配慮の有無	—	—	問 31	問 33
	①ヘルプカードの所持	—	—	問 32	問 34
	②ヘルプマークの所持	—	—	問 32	問 34
	ヘルプカードやヘルプマークの効果	—	—	問 33	問 35
	共生社会の充実のための法律や考え方，条例の認知度	問 29	問 36	問 27	問 29
	災害時の対策	—	—	問 14	問 26
デジタルの活用	避難場所・避難経路・警戒区域等の確認状況	—	—	問 15	問 27
	緊急時の情報入手先	—	—	問 15	問 27
市の障害者福祉施策	市の保健福祉情報の入手先	—	—	問 34	問 36
	相談窓口・制度の認知度	—	—	問 37	問 39
	今後力を入れるべき障害者福祉施策（サービス）	—	—	問 38	問 40
介助者のこと	介助の不安	—	—	問 41	問 21
	介護者支援策への意向	—	問 38	問 42	問 23

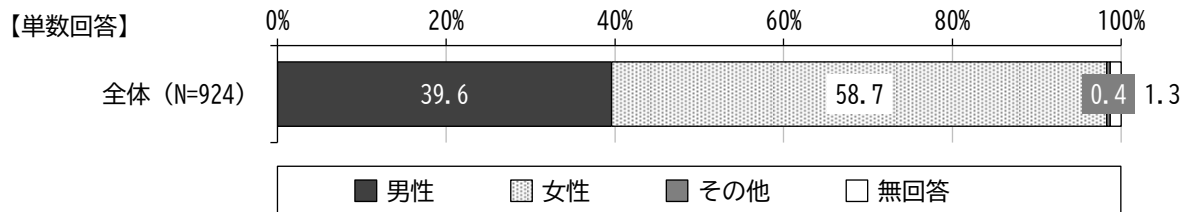
第2章 市民（18歳以上）調査結果

【調査名】誰もが暮らしやすいまちづくりのための福祉に関するアンケート

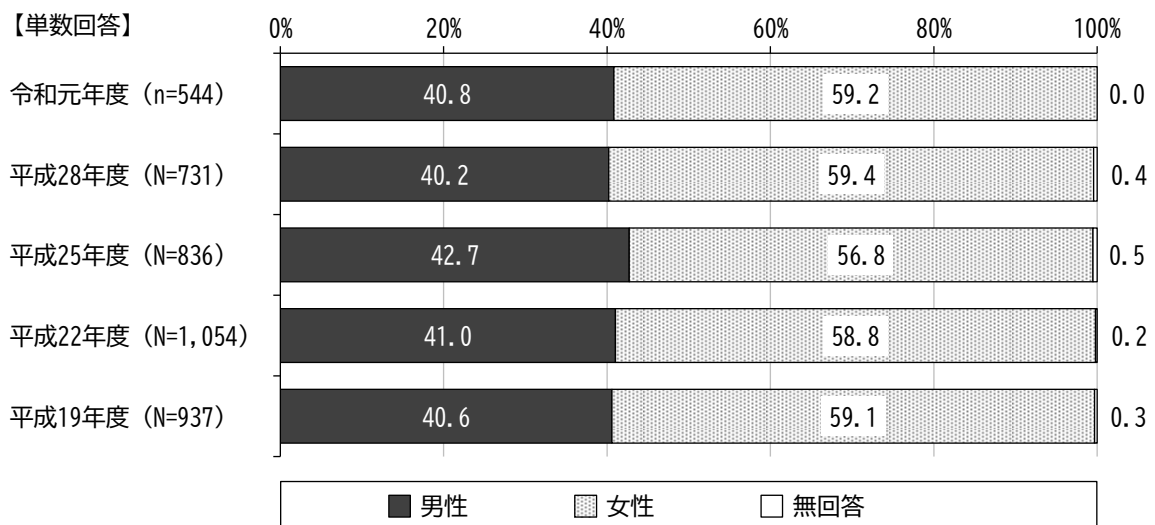
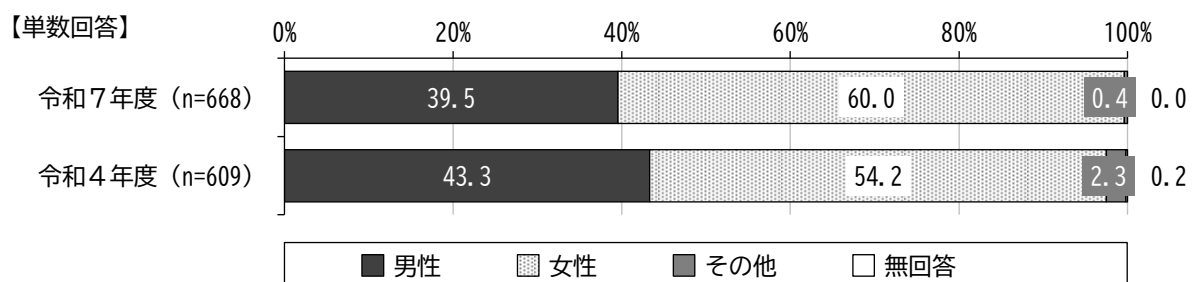
1 あなた（ご本人）についておたずねします

問1 性別を教えてください。（1つに○）

○ 回答者の性別は、「男性（39.6%）」、「女性（58.7%）」、「その他（0.4%）」である。



○ 経年で比較すると、今回の性別比は、これまでの調査のうち、男性割合が最も少なく、女性割合が最も多くなっている。

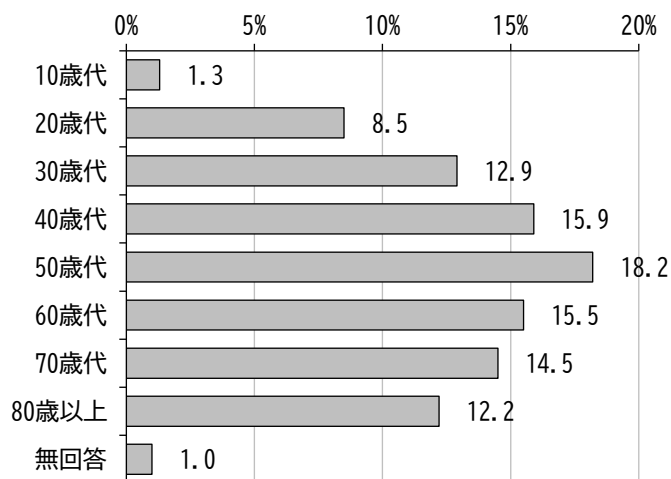


※「その他」は令和4年度調査では「回答しない」

問2 年齢を教えてください。(1つに○)(令和7年10月1日現在)

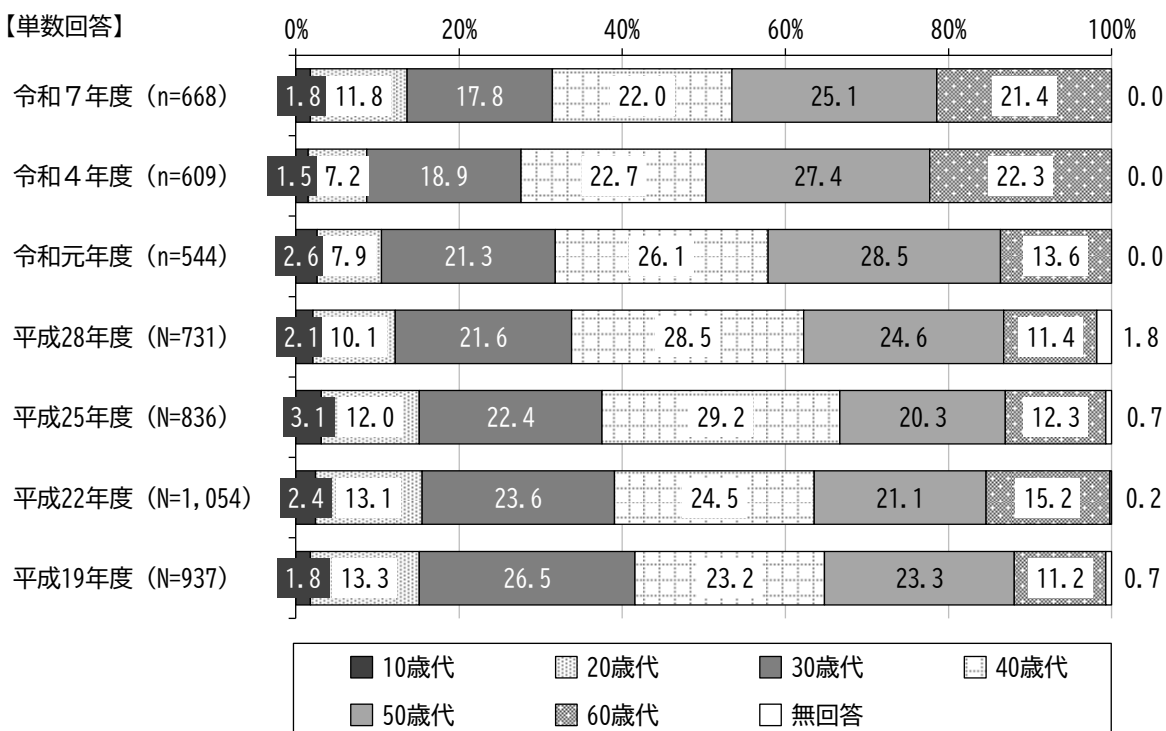
- 年齢は、「50 歳代 (18.2%)」が最も多く、「40 歳代 (15.9%)」,「60 歳代 (15.5%)」が続いている。

【単数回答】全体 (N=924)



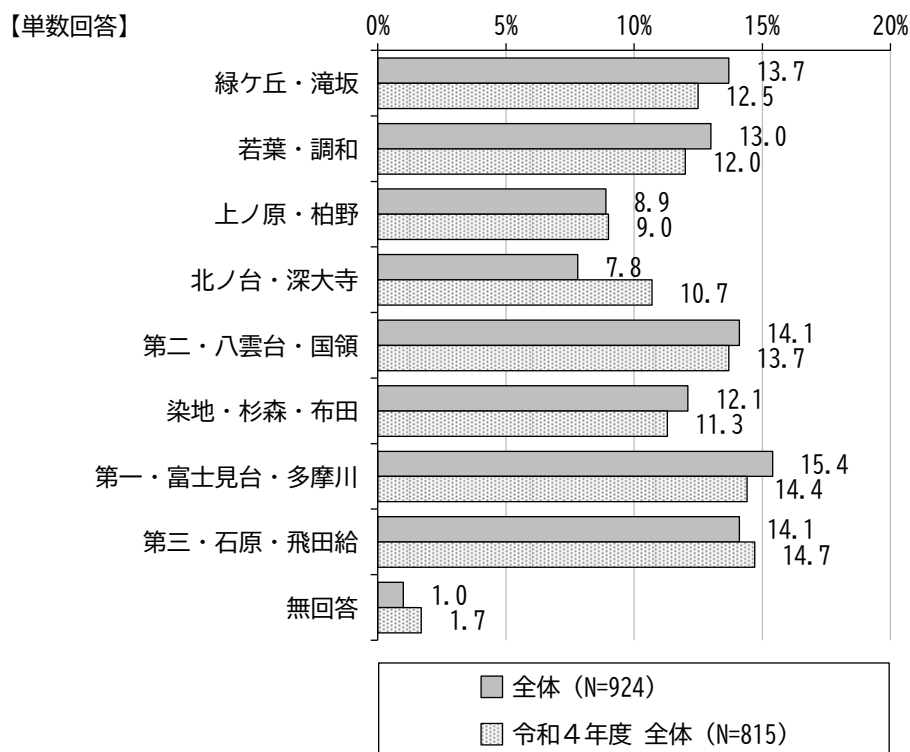
- 経年で比較すると、今回の年齢割合はこれまでの調査に比べて、「30 歳代」と「40 歳代」がやや少なくなっている。

【単数回答】



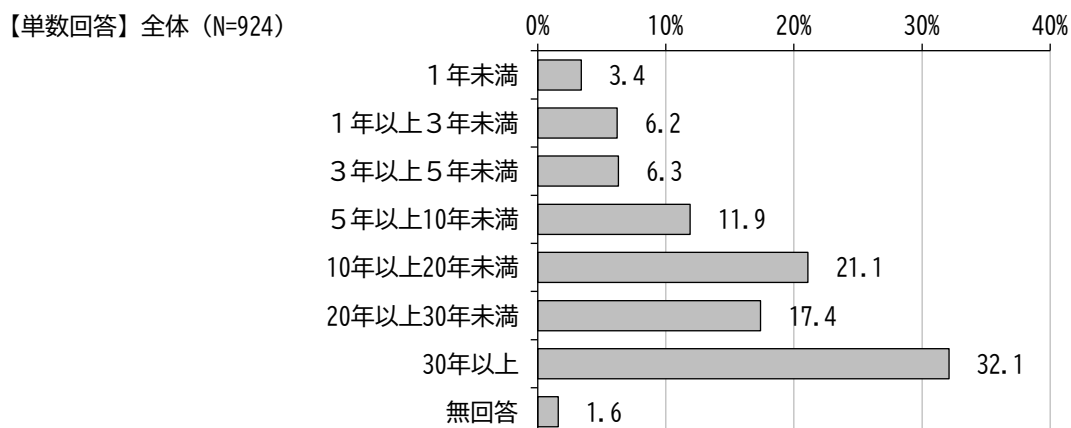
問3 お住まいの地域を教えてください。(1つに○)

- 居住地域の割合を福祉圏域別にみると、「第一・富士見台・多摩川 (15.4%)」が最も多く、「第二・八雲台・国領 (14.1%)」「第三・石原・飛田給 (14.1%)」、「緑ヶ丘・滝坂 (13.7%)」が続いている。
- 令和4年度の調査結果と比較すると、大きな変化はみられない。



問4 市内での居住年数（市外への転居期間を除く通算年数）を教えてください。(1つに○)

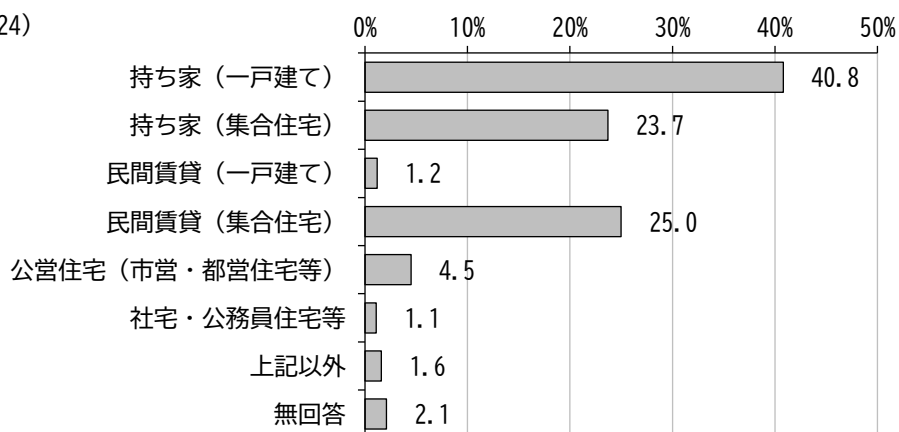
- 居住年数は、「30年以上 (32.1%)」が最も多く、「10年以上20年未満 (21.1%)」、「20年以上30年未満 (17.4%)」が続いている。



問5 住居形態を教えてください。(1つに○)

- 住居形態は、「持ち家（一戸建て）（40.8%）」が最も多く、「民間賃貸（集合住宅）（25.0%）」、「持ち家（集合住宅）（23.7%）」が続いている。

【単数回答】全体（N=924）



－ 回答者属性分析 －

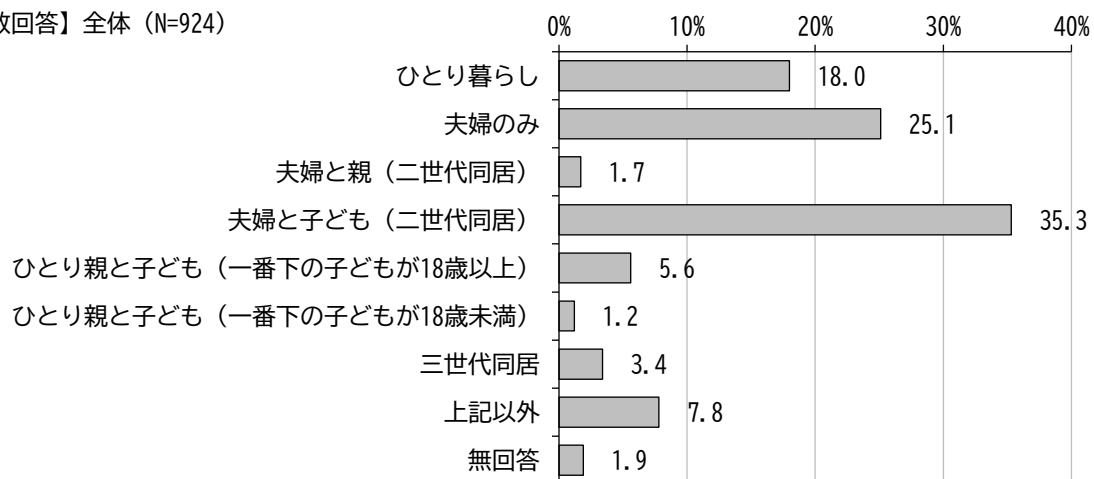
- 住居形態の割合を福祉圏域別にみると、第一・富士見台・多摩川小学校地域で「持ち家（集合住宅）」、第二・八雲台・国領小学校地域で「民間賃貸（集合住宅）」、それ以外の地域で「持ち家（一戸建て）」が最も多くなっている。また、北ノ台・深大寺小学校地域で「持ち家（一戸建て）」が8割を超えている。

単位：%		持ち家（一戸建て）	持ち家（集合住宅）	民間賃貸（一戸建て）	民間賃貸（集合住宅）	公営住宅（市営・都営住宅等）	社宅・公務員住宅等	上記以外	無回答
全体（N=924）		40.8	23.7	1.2	25.0	4.5	1.1	1.6	2.1
福祉圏域別	緑ヶ丘・滝坂（n=127）	38.6	23.6	1.6	31.5	1.6	1.6	0.0	1.6
	若葉・調和（n=120）	45.8	14.2	1.7	26.7	5.0	0.0	5.8	0.8
	上ノ原・柏野（n=82）	50.0	31.7	0.0	13.4	0.0	2.4	0.0	2.4
	北ノ台・深大寺（n=72）	81.9	1.4	2.8	8.3	1.4	0.0	1.4	2.8
	第二・八雲台・国領（n=130）	26.9	26.2	0.0	28.5	12.3	0.0	2.3	3.8
	染地・杉森・布田（n=112）	37.5	28.6	1.8	17.0	9.8	1.8	0.9	2.7
	第一・富士見台・多摩川（n=142）	26.1	35.2	0.7	31.7	0.7	2.8	1.4	1.4
	第三・石原・飛田給（n=130）	43.1	20.8	1.5	30.0	3.1	0.0	0.8	0.8

問6 同居している家族構成を教えてください。(1つに○)

- 家族構成は、「夫婦と子ども(二世世代同居)(35.3%)」が最も多く、「夫婦のみ(25.1%)」,「ひとり暮らし(18.0%)」が続いている。

【単数回答】全体(N=924)



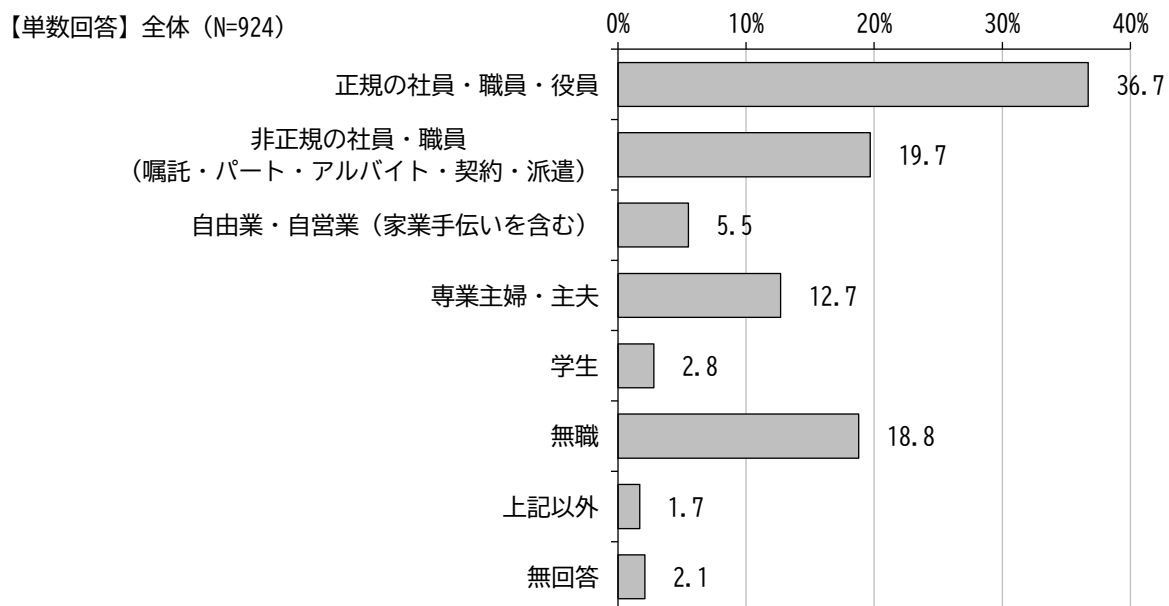
－ 回答者属性分析 －

- 家族構成の割合を年代別にみると、60 歳代、70 歳代、80 歳以上で「夫婦のみ」、それ以外の年代で「夫婦と子ども（二世世代同居）」が最も多くなっている。
- 福祉圏域別にみると、上ノ原・柏野小学校地域で「夫婦のみ」、それ以外の地域で「夫婦と子ども（二世世代同居）」が最も多くなっている。また、第二・八雲台・国領小学校地域、第一・富士見台・多摩川小学校地域で「ひとり暮らし」が2割を超えている。

単位：％		ひとり暮らし	夫婦のみ	夫婦と親（二世世代同居）	夫婦と子ども（二世世代同居）	ひとりが親と子ども（一番下の子どもが18歳以上）	ひとりが親と子ども（一番下の子どもが18歳未満）	三世世代同居	左記以外	無回答
全体（N=924）		18.0	25.1	1.7	35.3	5.6	1.2	3.4	7.8	1.9
年代別	10歳代（n=12）	0.0	0.0	0.0	58.3	8.3	0.0	16.7	16.7	0.0
	20歳代（n=79）	22.8	10.1	0.0	35.4	5.1	1.3	6.3	19.0	0.0
	30歳代（n=119）	22.7	15.1	0.8	50.4	0.8	0.8	3.4	5.9	0.0
	40歳代（n=147）	15.6	10.9	2.0	53.7	3.4	3.4	1.4	8.8	0.7
	50歳代（n=168）	10.7	22.6	2.4	45.2	6.0	2.4	1.8	8.3	0.6
	60歳代（n=143）	15.4	40.6	3.5	22.4	7.7	0.0	4.9	2.8	2.8
	70歳代（n=134）	17.9	43.3	1.5	20.9	6.0	0.0	2.2	5.2	3.0
	80歳以上（n=113）	27.4	31.0	0.9	12.4	9.7	0.0	4.4	8.8	5.3
福祉圏域別	緑ヶ丘・滝坂（n=127）	18.1	24.4	1.6	37.8	3.1	1.6	5.5	7.1	0.8
	若葉・調和（n=120）	13.3	30.8	1.7	35.0	5.8	0.8	5.0	6.7	0.8
	上ノ原・柏野（n=82）	12.2	35.4	3.7	32.9	7.3	0.0	2.4	3.7	2.4
	北ノ台・深大寺（n=72）	9.7	25.0	0.0	37.5	6.9	1.4	4.2	12.5	2.8
	第二・八雲台・国領（n=130）	23.1	23.1	1.5	31.5	7.7	0.8	0.8	7.7	3.8
	染地・杉森・布田（n=112）	17.9	20.5	0.9	33.0	6.3	1.8	5.4	10.7	3.6
	第一・富士見台・多摩川（n=142）	23.2	22.5	1.4	39.4	3.5	1.4	1.4	6.3	0.7
	第三・石原・飛田給（n=130）	17.7	23.8	3.1	35.4	5.4	1.5	3.1	9.2	0.8

問7 現在の職業を教えてください。(1つに○)

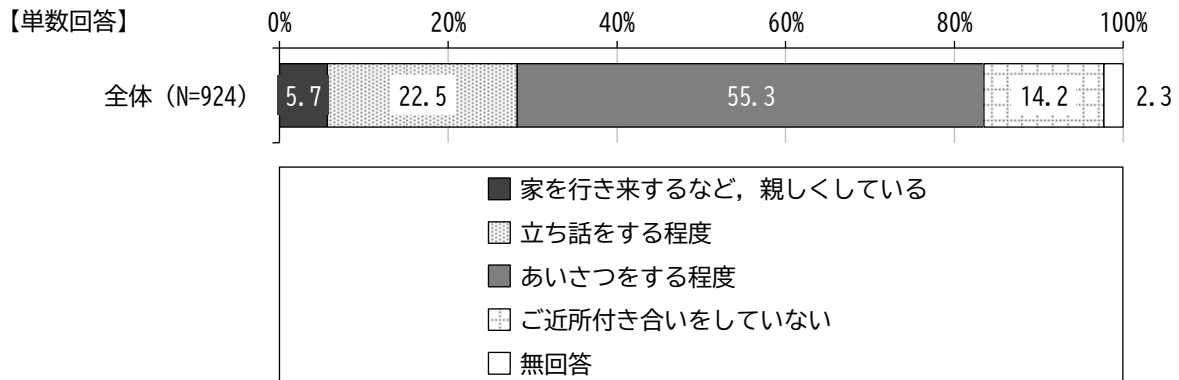
- 職業は、「正規の社員・職員・役員(36.7%)」が最も多く、「非正規の社員・職員(嘱託・パート・アルバイト・契約・派遣)(19.7%)」、「無職(18.8%)」が続いている。



2 日頃のコミュニケーションについておたずねします

問8 ご近所付き合いは、どの程度していますか。(主なもの1つに○)

- 近所付き合いの状況は、「あいさつをする程度（55.3%）」が最も多く、「立ち話をする程度（22.5%）」、「ご近所付き合いをしていない（14.2%）」が続いている。
- 「家を行き来するなど、親しくしている」と「立ち話をする程度」を合わせた『親密な近所付き合いをしている』の割合は28.2%となっている。

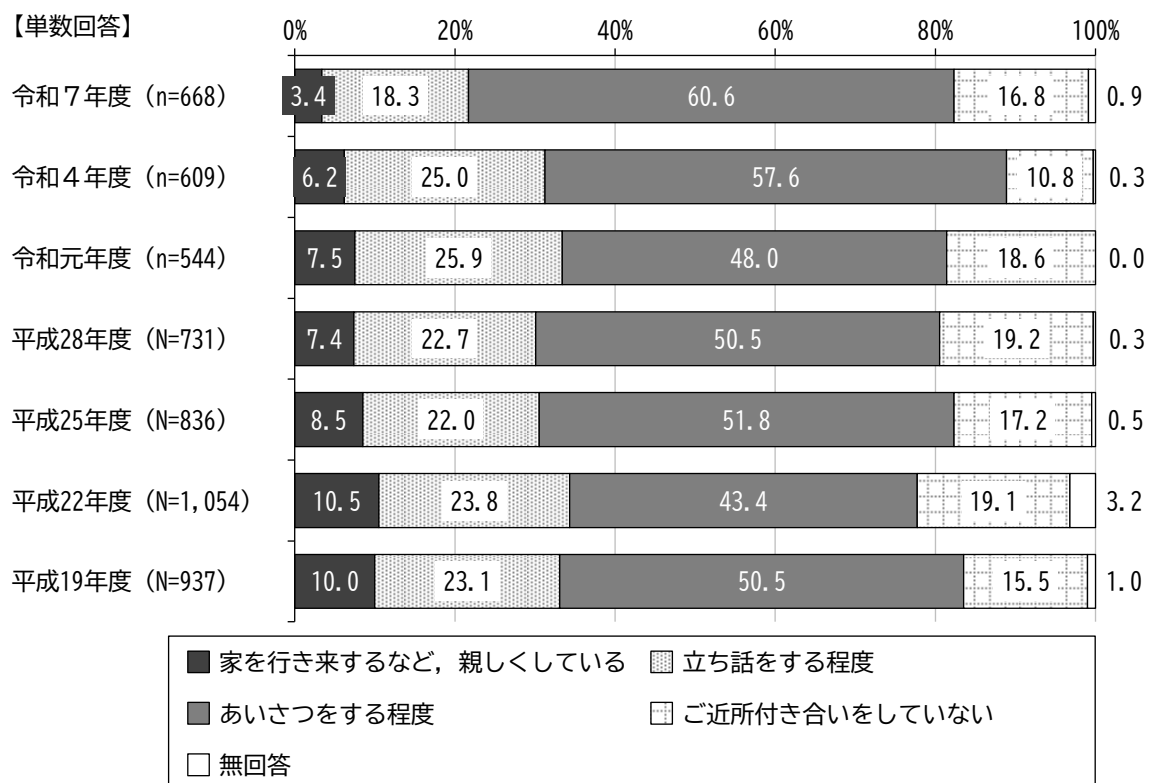


－ 回答者属性分析 －

- 近所付き合いの状況の割合を性別にみると、『親密な近所付き合いをしている』の割合は、男性で21.6%，女性で32.4%となっている。
- 年代別にみると、『親密な近所付き合いをしている』の割合は、10歳代で25.0%，20歳代以上では年代が上がるほど割合が多くなる傾向がみられ、70歳代、80歳以上では4割を超えている。
- 福祉圏域別にみると、『親密な近所付き合いをしている』の割合は、緑ヶ丘・滝坂小学校地域で16.6%と、それ以外の地域と比べて少なくなっている。
- 家族構成別にみると、『親密な近所付き合いをしている』の割合は、ひとり暮らしで22.3%，ひとり暮らし以外で30.2%となっている。また、ひとり暮らしでは「ご近所付き合いをしていない」の割合が全体と比べて26.2ポイント高くなっている。
- 住居形態別にみると、『親密な近所付き合いをしている』の割合は、持ち家（一戸建て）で38.8%，持ち家（集合住宅）で30.6%，民間賃貸（集合住宅）で9.5%，公営住宅（市営・都営住宅等）で42.8%となっている。また、民間賃貸（集合住宅）では「ご近所付き合いをしていない」の割合が全体と比べて21.7ポイント高くなっている。

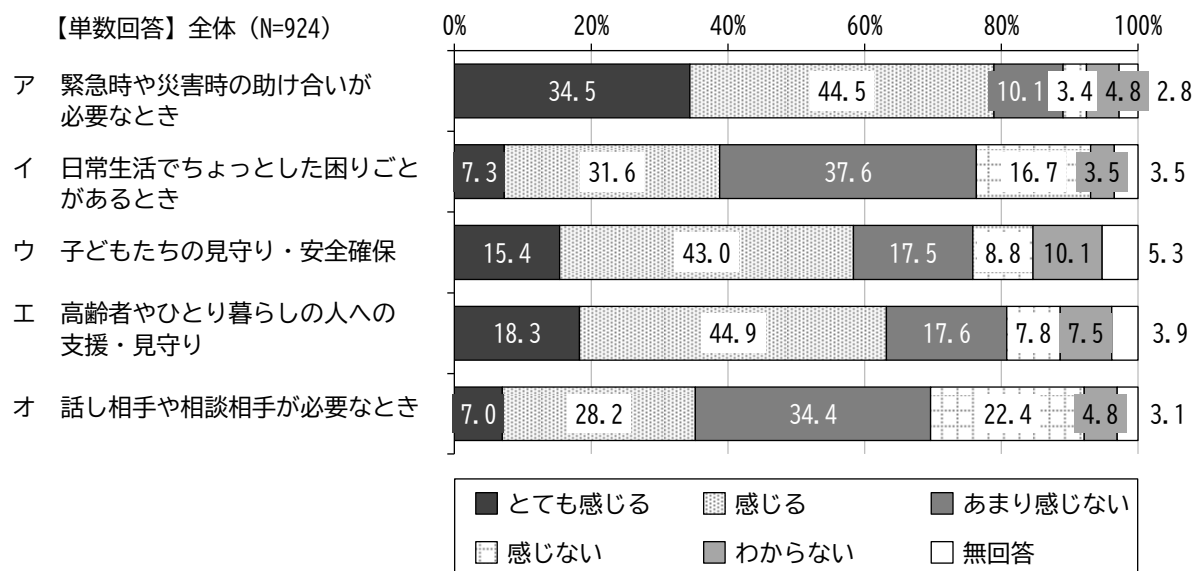
単位：％		親家 を し く し て い る な ど ，	立 ち 話 を す る 程 度	あ い さ つ を す る 程 度	い ご 近 所 付 き 合 い を し て い な い	無 回 答	を『親密な近所付き合い をしている』
全体（N=924）		5.7	22.5	55.3	14.2	2.3	28.2
性 別	男性（n=366）	4.1	17.5	59.6	16.1	2.7	21.6
	女性（n=542）	6.6	25.8	53.0	13.1	1.5	32.4
	その他（n=4）	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	50.0
年 代 別	10歳代（n=12）	0.0	25.0	58.3	16.7	0.0	25.0
	20歳代（n=79）	0.0	5.1	65.8	29.1	0.0	5.1
	30歳代（n=119）	1.7	11.8	58.0	28.6	0.0	13.5
	40歳代（n=147）	4.1	15.0	66.0	14.3	0.7	19.1
	50歳代（n=168）	4.8	22.6	62.5	9.5	0.6	27.4
	60歳代（n=143）	4.9	28.7	52.4	11.2	2.8	33.6
	70歳代（n=134）	12.7	34.3	45.5	5.2	2.2	47.0
	80歳以上（n=113）	10.6	34.5	36.3	9.7	8.8	45.1
福 祉 圏 域 別	緑ヶ丘・滝坂（n=127）	2.4	14.2	63.8	18.9	0.8	16.6
	若葉・調和（n=120）	10.0	28.3	49.2	10.8	1.7	38.3
	上ノ原・柏野（n=82）	4.9	23.2	58.5	11.0	2.4	28.1
	北ノ台・深大寺（n=72）	4.2	30.6	56.9	2.8	5.6	34.8
	第二・八雲台・国領（n=130）	4.6	20.0	50.0	20.0	5.4	24.6
	染地・杉森・布田（n=112）	7.1	22.3	55.4	12.5	2.7	29.4
	第一・富士見台・多摩川（n=142）	6.3	17.6	54.2	21.8	0.0	23.9
	第三・石原・飛田給（n=130）	5.4	28.5	56.9	8.5	0.8	33.9
家 族 構 成 別	ひとり暮らし（n=166）	5.4	16.9	37.3	40.4	0.0	22.3
	ひとり暮らし以外（n=740）	5.9	24.3	60.4	8.6	0.7	30.2
住 居 形 態 別	持ち家（一戸建て）（n=377）	7.2	31.6	56.0	4.5	0.8	38.8
	持ち家（集合住宅）（n=219）	7.3	23.3	59.4	9.6	0.5	30.6
	民間賃貸（一戸建て）（n=11）	9.1	9.1	72.7	9.1	0.0	18.2
	民間賃貸（集合住宅）（n=231）	1.7	7.8	54.5	35.9	0.0	9.5
	公営住宅（市営・都営住宅等）（n=42）	9.5	33.3	52.4	4.8	0.0	42.8
	社宅・公務員住宅等（n=10）	0.0	10.0	60.0	30.0	0.0	10.0
	上記以外（n=15）	6.7	26.7	40.0	20.0	6.7	33.4

- 経年で比較すると、今回の『親密な近所付き合いをしている』の割合は、これまでの調査のうち、最も少なくなっている。



問9 どのような時にご近所付き合いの必要性を感じますか。(それぞれ1つに○)

- 近所付き合いの必要性について、「とても感じる」と「感じる」を合わせた『感じる』の割合は、[ア 緊急時や災害時の助け合いが必要なとき (79.0%)] が最も多く、[エ 高齢者やひとり暮らしの人への支援・見守り (63.2%)], [ウ 子どもたちの見守り・安全確保 (58.4%)] が続いている。



－ 回答者属性分析 －

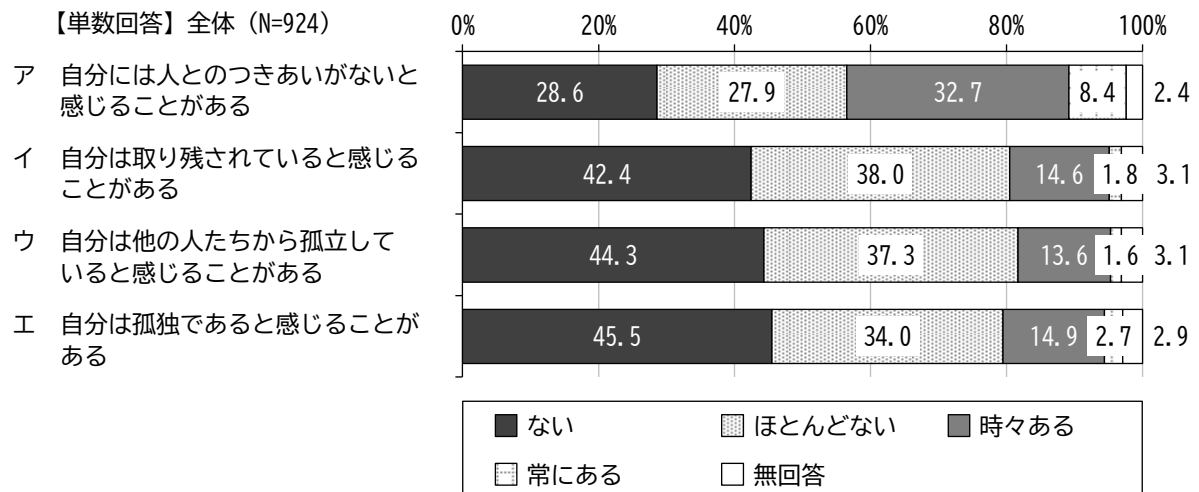
- 近所付き合いの必要性を『感じる』の割合を年代別にみると、すべての年代で [ア 緊急時や災害時の助け合いが必要なとき] が最も多くなっている。
- 福祉圏域別にみると、すべての圏域で [ア 緊急時や災害時の助け合いが必要なとき] が最も多くなっている。
- 家族構成別にみると、ひとり暮らし、ひとり暮らし以外ともに [ア 緊急時や災害時の助け合いが必要なとき] が最も多くなっているが、ひとり暮らしでは全体と比べて 12.7 ポイント低くなっている。
- 住居形態別にみると、公営住宅（市営・都営住宅等）で [ア 緊急時や災害時の助け合いが必要なとき] と [エ 高齢者やひとり暮らしの人への支援・見守り] が同率となっている。それ以外の区分で [ア 緊急時や災害時の助け合いが必要なとき] が最も多くなっている。

<『感じる』の割合>

単位：％		ア 合 緊 急 が 必 要 な 時 き	イ た 日 常 生 活 で あ る と き	ウ 安 子 ど も た ち の 見 守 り ・ 保 護	エ の 高 齢 者 や ひ と り 暮 ら し の 支 援 ・ 見 守 り	オ 必 話 し 相 手 や 相 談 相 手 が な と き
全体 (N=924)		79.0	38.9	58.4	63.2	35.2
年 代 別	10歳代 (n=12)	91.7	25.0	75.0	50.0	33.3
	20歳代 (n=79)	81.0	20.2	63.3	50.7	17.7
	30歳代 (n=119)	74.8	32.0	67.2	53.8	31.1
	40歳代 (n=147)	81.0	38.1	64.6	64.6	32.7
	50歳代 (n=168)	84.0	42.2	60.7	74.4	33.9
	60歳代 (n=143)	80.5	46.9	60.9	73.4	41.3
	70歳代 (n=134)	78.4	42.6	50.8	62.6	41.0
	80歳以上 (n=113)	70.0	43.4	40.7	54.9	44.3
福 祉 圏 域 別	緑ヶ丘・滝坂 (n=127)	79.5	37.8	54.4	61.4	29.1
	若葉・調和 (n=120)	80.0	47.5	55.0	60.8	33.4
	上ノ原・柏野 (n=82)	73.1	26.9	52.4	56.1	28.1
	北ノ台・深大寺 (n=72)	80.6	40.3	59.7	66.7	31.9
	第二・八雲台・国領 (n=130)	75.4	31.5	59.2	66.9	30.8
	染地・杉森・布田 (n=112)	81.2	41.1	66.1	67.8	39.2
	第一・富士見台・多摩川 (n=142)	81.0	42.3	54.9	62.0	39.4
	第三・石原・飛田給 (n=130)	80.0	41.5	66.9	65.4	46.9
家 族 構 成 別	ひとり暮らし (n=166)	66.3	29.5	37.9	52.5	29.5
	ひとり暮らし以外 (n=740)	83.7	41.8	64.0	67.1	37.5
住 居 形 態 別	持ち家（一戸建て） (n=377)	85.9	44.3	68.1	67.6	39.5
	持ち家（集合住宅） (n=219)	81.7	43.8	58.0	70.3	42.0
	民間賃貸（一戸建て） (n=11)	91.0	18.2	36.4	54.6	9.1
	民間賃貸（集合住宅） (n=231)	69.3	24.7	49.8	53.3	26.0
	公営住宅（市営・都営住宅等） (n=42)	76.2	69.1	54.8	76.2	47.6
	社宅・公務員住宅等 (n=10)	100.0	40.0	70.0	50.0	20.0
	上記以外 (n=15)	80.0	20.0	33.3	46.7	6.7

問 10 次の項目についてあなたはどれくらいの頻度で感じていますか。
(それぞれ1つに○)

- 孤独・孤立の状況について、「時々ある」と「常にある」を合わせた『ある』の割合は、
[ア 自分には人とのつきあいが無いと感じることがある (41.1%)] が最も多く、[エ 自分は孤独であると感じることがある (17.6%)]、[イ 自分は取り残されていると感じることがある (16.4%)] が続いている。



－ 孤独感尺度 －

- 問 10 の項目「エ」が孤独な状況を直接うかがう「直接質問」であるのに対し、項目「ア」～「ウ」は「UCLA孤独感尺度（日本語版の3項目短縮版）」と呼ばれ、間接的な質問（間接質問）により回答をスコア化して孤独感を評価するものである。
- 今回は、令和6年に内閣府が行った「孤独・孤立の実態把握に関する全国調査」に倣い、「ない」を1点、「ほとんどない」を2点、「時々ある」を3点、「常にある」を4点としてスコア化し、その合計スコアについて、便宜的に「10～12点」（常にある）、「7～9点」（時々ある）、「4～6点」（ほとんどない）、「3点」（決してない）の4区分に整理した。
- 間接質問のスコア化の結果を性別にみると、男性、女性ともに「ほとんどない」が最も多くなっている。
- 年代別にみると、70歳代で「決してない」、20歳代、30歳代、50歳代、80歳以上で「ほとんどない」、40歳代、60歳代で「時々ある」が最も多く、10歳代で「決してない」と「時々ある」が同率となっている。

<孤独感尺度>

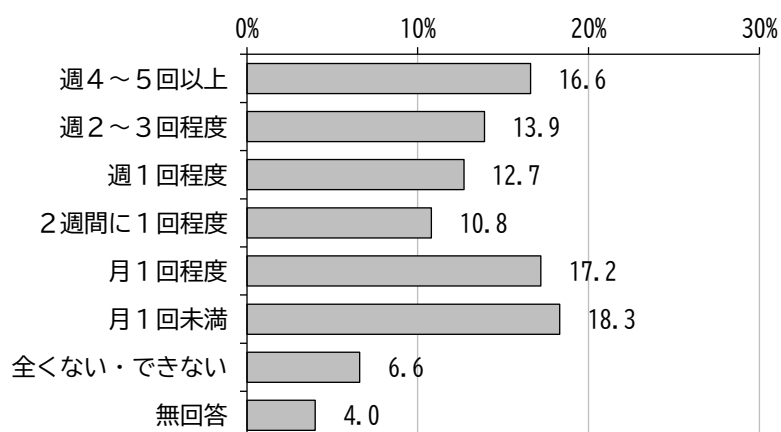
		決してない	ほとんどない	時々ある	常にある	無回答
全体 (N=924)		25.2	37.7	31.3	2.6	3.2
性別	男性 (n=366)	24.9	36.6	32.0	2.7	3.8
	女性 (n=542)	25.6	38.4	31.2	2.6	2.2
	その他 (n=4)	25.0	50.0	25.0	0.0	0.0
年代別	10歳代 (n=12)	33.3	25.0	33.3	8.3	0.0
	20歳代 (n=79)	32.9	40.5	22.8	2.5	1.3
	30歳代 (n=119)	20.2	42.0	37.0	0.8	0.0
	40歳代 (n=147)	21.1	36.1	38.8	3.4	0.7
	50歳代 (n=168)	20.2	36.9	35.7	6.5	0.6
	60歳代 (n=143)	26.6	32.9	35.0	2.1	3.5
	70歳代 (n=134)	38.8	38.1	20.9	0.0	2.2
	80歳以上 (n=113)	20.4	41.6	23.0	0.9	14.2

問 11 家族や友人たちとのコミュニケーション頻度についておたずねします。あなたと同じ居していない家族や友人たちとのコミュニケーション頻度について、お答えください。(それぞれ1つに○)

ア 直接会って話す(手話等を含む)

○ 直接会って話す(手話等を含む)頻度は、「月1回未満(18.3%)」が最も多く、「月1回程度(17.2%)」、「週4～5回以上(16.6%)」が続いている。

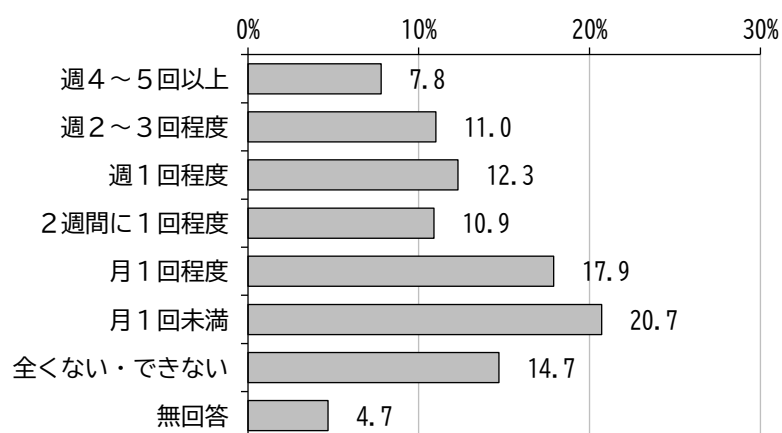
【単数回答】全体 (N=924)



イ 電話（ビデオ通話含む）

- 電話（ビデオ通話含む）の頻度は、「月1回未満（20.7%）」が最も多く、「月1回程度（17.9%）」、「全くない・できない（14.7%）」が続いている。

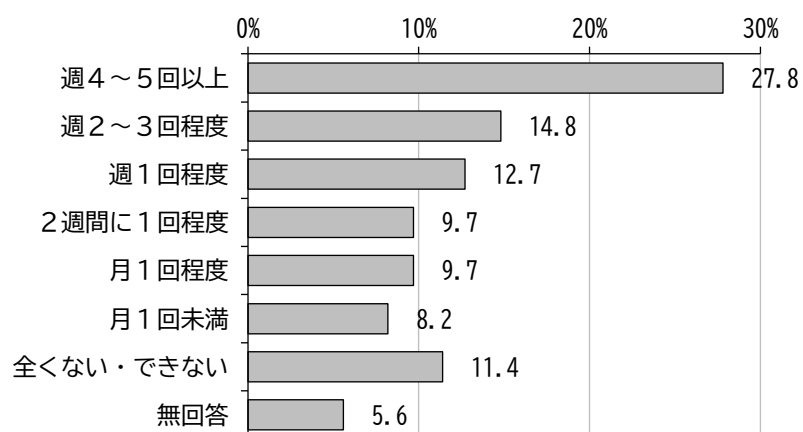
【単数回答】全体（N=924）



ウ SNSや電子メールなど

- SNSや電子メールなどの頻度は、「週4～5回以上（27.8%）」が最も多く、「週2～3回程度（14.8%）」、「週1回程度（12.7%）」が続いている。

【単数回答】全体（N=924）

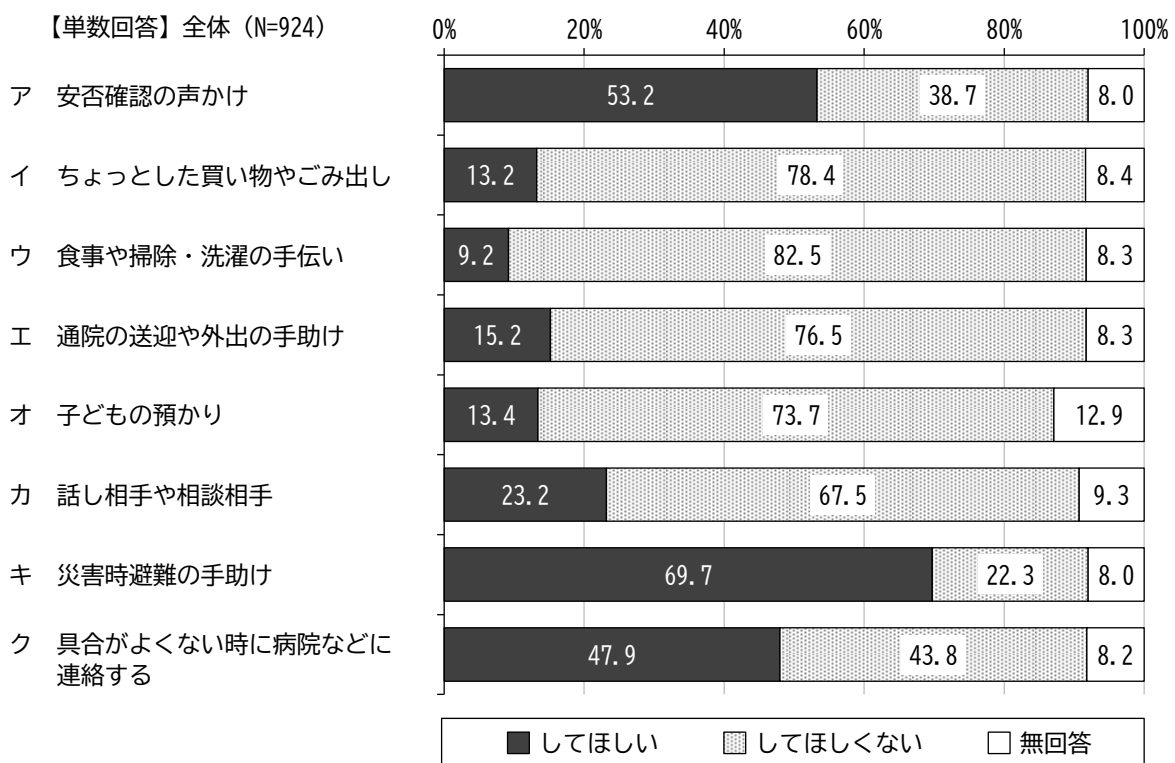


3 市民同士の支え合い、地域活動についておたずねします

問 12 あなたは次の事柄について、家族以外のまわりの人から手助けをしてほしいと思いますか。また、まわりの人に手助けできること（してもいいこと）はありますか。
①手助けしてほしいか、②手助けできるかについて、それぞれ1つに○を付けてください。

①手助けしてほしいか

○ 手助けを「してほしい」の割合は、[キ 災害時避難の手助け（69.7%）]が最も多く，
[ア 安否確認の声かけ（53.2%）]，[ク 具合がよくない時に病院などに連絡する（47.9%）]が続いている。



－ 回答者属性分析 －

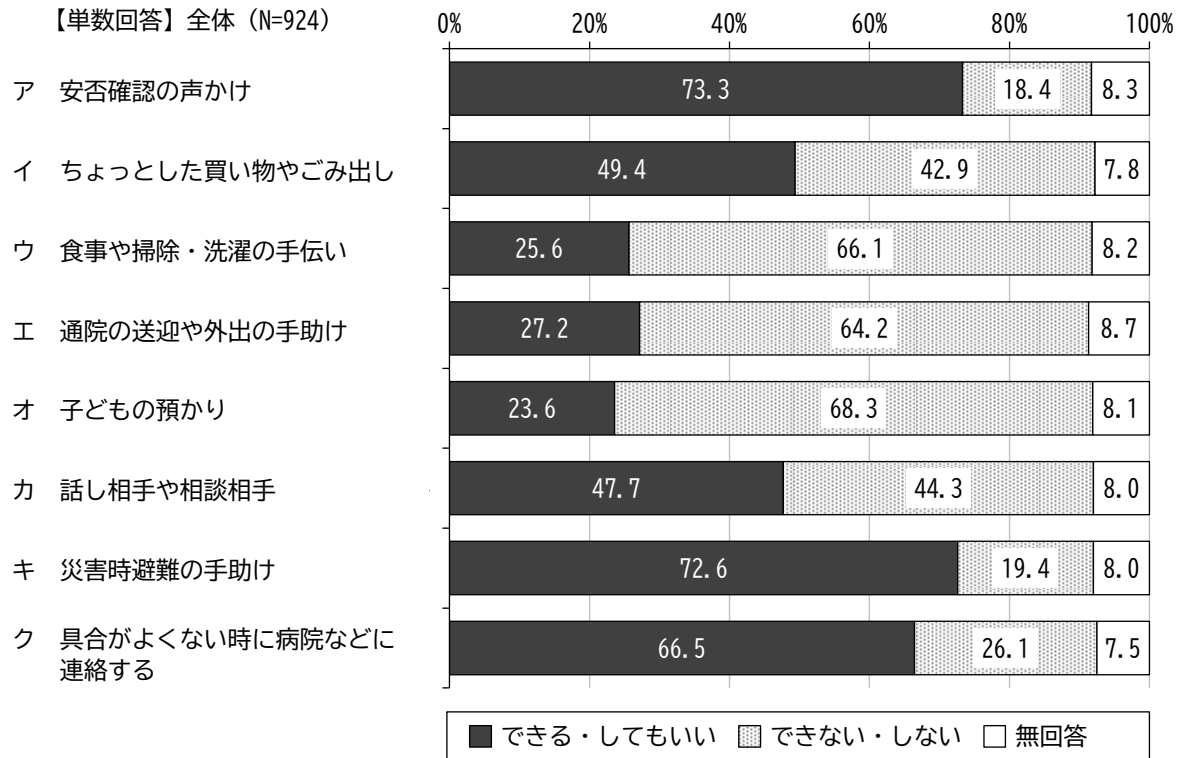
- 手助けを「してほしい」の割合を性別にみると、男性、女性ともに〔キ 災害時避難の手助け〕が最も多くなっている。
- 年代別にみると、すべての年代で〔キ 災害時避難の手助け〕が最も多くなっている。
- 福祉圏域別にみると、すべての地域で〔キ 災害時避難の手助け〕が最も多くなっている。

< 「してほしい」の割合 >

単位：％		ア 安否確認の 声かけ	イ ちやごみつ と出した買 い物	ウ 食事や掃 除・洗濯の 手伝い	エ 通院の送迎 や外出の手 助け	オ 子どもの預 かり	カ 話し相手や 相談相手	キ 災害時避難 の手助け	ク 具合がよく 連なれない 時に
全体 (N=924)		53.2	13.2	9.2	15.2	13.4	23.2	69.7	47.9
性別	男性 (n=366)	51.4	12.3	10.9	14.8	13.1	24.3	66.7	45.1
	女性 (n=542)	55.0	14.0	7.9	15.3	13.8	22.5	72.7	50.4
	その他 (n=4)	75.0	25.0	25.0	25.0	0.0	25.0	75.0	25.0
年代別	10歳代 (n=12)	75.0	50.0	50.0	58.3	50.0	58.3	91.7	83.3
	20歳代 (n=79)	68.4	12.7	7.6	13.9	19.0	22.8	82.3	48.1
	30歳代 (n=119)	65.5	13.4	10.9	16.8	26.1	31.1	84.9	55.5
	40歳代 (n=147)	52.4	15.0	12.2	15.6	24.5	23.8	76.9	49.0
	50歳代 (n=168)	59.5	11.9	9.5	15.5	7.1	19.0	72.0	49.4
	60歳代 (n=143)	47.6	8.4	2.8	7.0	7.0	20.3	63.6	46.2
	70歳代 (n=134)	37.3	7.5	3.7	9.7	3.7	16.4	53.7	36.6
	80歳以上 (n=113)	46.9	23.0	14.2	25.7	7.1	28.3	59.3	48.7
福祉圏域別	緑ヶ丘・滝坂 (n=127)	55.9	18.1	14.2	16.5	18.9	24.4	78.0	57.5
	若葉・調和 (n=120)	54.2	14.2	10.0	14.2	10.0	17.5	63.3	45.0
	上ノ原・柏野 (n=82)	39.0	14.6	9.8	14.6	7.3	19.5	65.9	45.1
	北ノ台・深大寺 (n=72)	54.2	13.9	8.3	13.9	8.3	23.6	76.4	47.2
	第二・八雲台・国領 (n=130)	50.8	13.1	6.9	14.6	11.5	19.2	67.7	49.2
	染地・杉森・布田 (n=112)	57.1	10.7	7.1	15.2	18.8	25.0	67.0	47.3
	第一・富士見台・多摩川 (n=142)	58.5	14.1	12.7	16.2	17.6	31.7	71.1	44.4
	第三・石原・飛田給 (n=130)	53.8	8.5	4.6	16.2	11.5	23.1	72.3	47.7

②手助けできるか

- 手助けを「できる・してもいい」の割合は、[ア 安否確認の声かけ (73.3%)] が最も多く、[キ 災害時避難の手助け (72.6%)], [ク 具合がよくない時に病院などに連絡する (66.5%)] が続いている。



－ 回答者属性分析 －

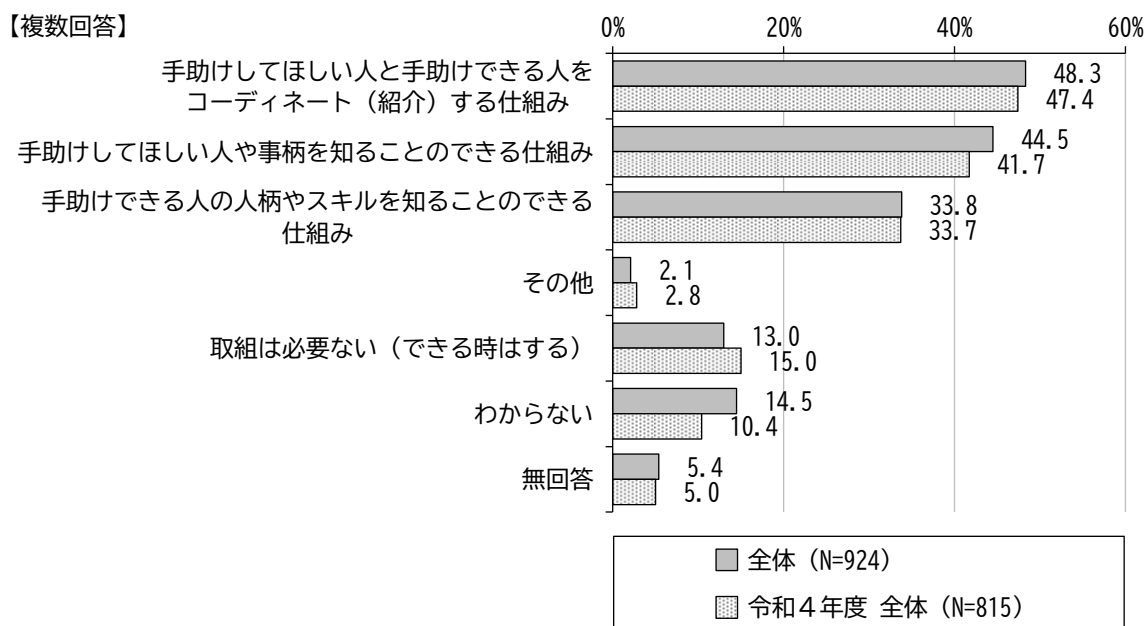
- 手助けを「できる・してもいい」の割合を性別にみると、男性で〔キ 災害時避難の手助け〕，女性で〔ア 安否確認の声かけ〕が最も多くなっている。
- 年代別にみると，30 歳代，60 歳代，70 歳代で〔ア 安否確認の声かけ〕が最も多く，80 歳以上では〔ク 具合がよくない時に病院などに連絡する〕が最も多くなっている。それ以外の年代で〔キ 災害時避難の手助け〕が最も多くなっている。
- 福祉圏域別にみると，緑が丘・滝坂小学校地域で〔キ 災害時避難の手助け〕が最も多く，若葉・調和地域，北ノ台・深大寺小学校地域，第一・富士見台・多摩川小学校地域，第三・石原・飛田給小学校地域で〔ア 安否確認の声かけ〕と〔キ 災害時避難の手助け〕が同率となっている。それ以外の地域で〔ア 安否確認の声かけ〕が最も多くなっている。

<「できる・してもいい」の割合>

単位：％		ア 安 否 確 認 の 声 か け	イ ち よ つ と し た 買 い 物	ウ 食 事 や 掃 除 ・ 洗 濯 の 手 伝 い	エ 通 院 の 送 迎 や 外 出 の 手 助 け	オ 子 ど も の 預 か り	カ 話 し 相 手 や 相 談 相 手	キ 災 害 時 避 難 の 手 助 け	ク 病 院 な ど に よ く 連 絡 す る に 具 合 が よ く な い 時 に
全体 (N=924)		73.3	49.4	25.6	27.2	23.6	47.7	72.6	66.5
性 別	男性 (n=366)	71.9	47.0	27.3	31.7	23.2	45.4	75.4	64.2
	女性 (n=542)	75.1	51.5	24.9	24.7	24.5	50.0	71.4	68.5
	その他 (n=4)	100.0	50.0	25.0	0.0	0.0	25.0	100.0	75.0
年 代 別	10歳代 (n=12)	75.0	83.3	58.3	58.3	41.7	66.7	91.7	83.3
	20歳代 (n=79)	79.7	45.6	22.8	20.3	27.8	44.3	82.3	69.6
	30歳代 (n=119)	85.7	48.7	29.4	26.9	39.5	58.0	84.9	72.3
	40歳代 (n=147)	75.5	49.7	27.9	29.3	29.3	46.3	81.6	68.7
	50歳代 (n=168)	82.1	56.0	32.1	33.9	23.2	52.4	83.9	76.8
	60歳代 (n=143)	78.3	58.7	23.8	27.3	24.5	49.7	78.3	72.7
	70歳代 (n=134)	67.9	45.5	20.1	24.6	12.7	45.5	55.2	56.7
	80歳以上 (n=113)	42.5	32.7	17.7	20.4	8.8	34.5	38.9	43.4
福 祉 圏 域 別	緑ヶ丘・滝坂 (n=127)	74.0	47.2	28.3	26.0	27.6	48.0	75.6	65.4
	若葉・調和 (n=120)	68.3	43.3	17.5	20.8	15.0	40.8	68.3	61.7
	上ノ原・柏野 (n=82)	73.2	54.9	28.0	26.8	19.5	46.3	72.0	70.7
	北ノ台・深大寺 (n=72)	80.6	58.3	26.4	29.2	27.8	58.3	80.6	75.0
	第二・八雲台・国領 (n=130)	69.2	49.2	24.6	28.5	24.6	43.8	66.2	65.4
	染地・杉森・布田 (n=112)	75.0	45.5	24.1	29.5	26.8	49.1	71.4	68.8
	第一・富士見台・多摩川 (n=142)	75.4	54.9	30.3	30.3	23.2	53.5	75.4	65.5
	第三・石原・飛田給 (n=130)	76.9	47.7	27.7	28.5	26.2	46.9	76.9	66.2

問 13 家族以外のまわりの人に、問 12 ア～クのような手伝いや手助けをする（してもらう）にあたり、どのような取組があるとよいと思いますか。（いくつでも○）

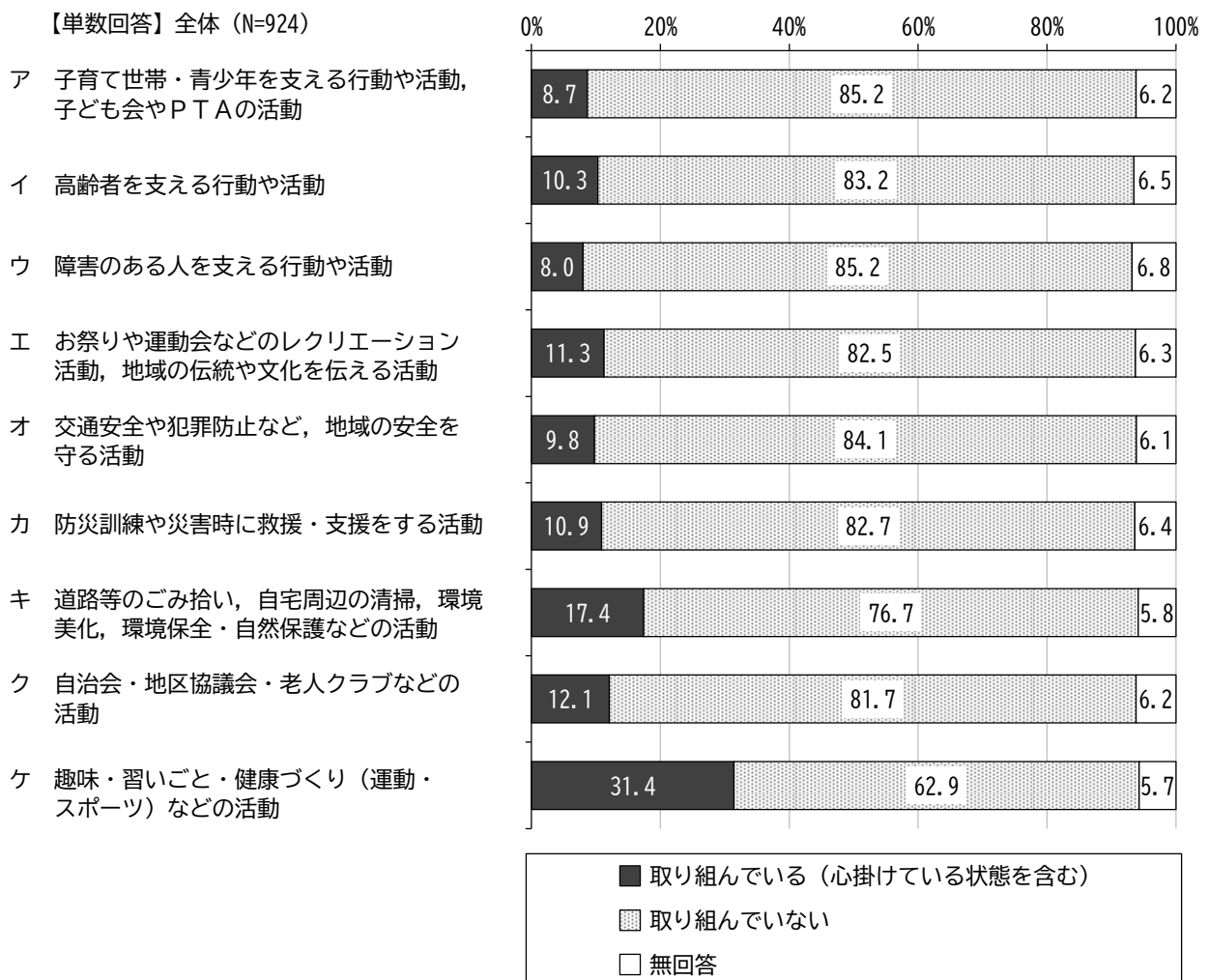
- 家族以外のまわりの人に手伝いや手助けをする（してもらう）ために必要な取組は、「手助けしてほしい人と手助けできる人をコーディネート（紹介）する仕組み（48.3%）」が最も多く、「手助けしてほしい人や事柄を知ることのできる仕組み（44.5%）」、「手助けできる人の人柄やスキルを知ることのできる仕組み（33.8%）」が続いている。
- 令和4年度の調査結果と比較すると、大きな変化はみられない。



問 14 あなたは地域での活動に参加したり，地域のために日頃から心掛けていることはありますか。①現在の状況，②今後の意向をお答えください。（それぞれ1つに○）

①現在の状況

- 地域での活動等の取組状況について，すべての活動で「取り組んでいない」が多くなっている。
- 「取り組んでいる（心掛けている状態を含む）」の割合は，[ケ 趣味・習いごと・健康づくり（運動・スポーツ）などの活動（31.4%）]が最も多く，[キ 道路等のごみ拾い，自宅周辺の清掃，環境美化，環境保全・自然保護などの活動（17.4%）]，[ク 自治会・地区協議会・老人クラブなどの活動（12.1%）]が続いている。



－ 回答者属性分析 －

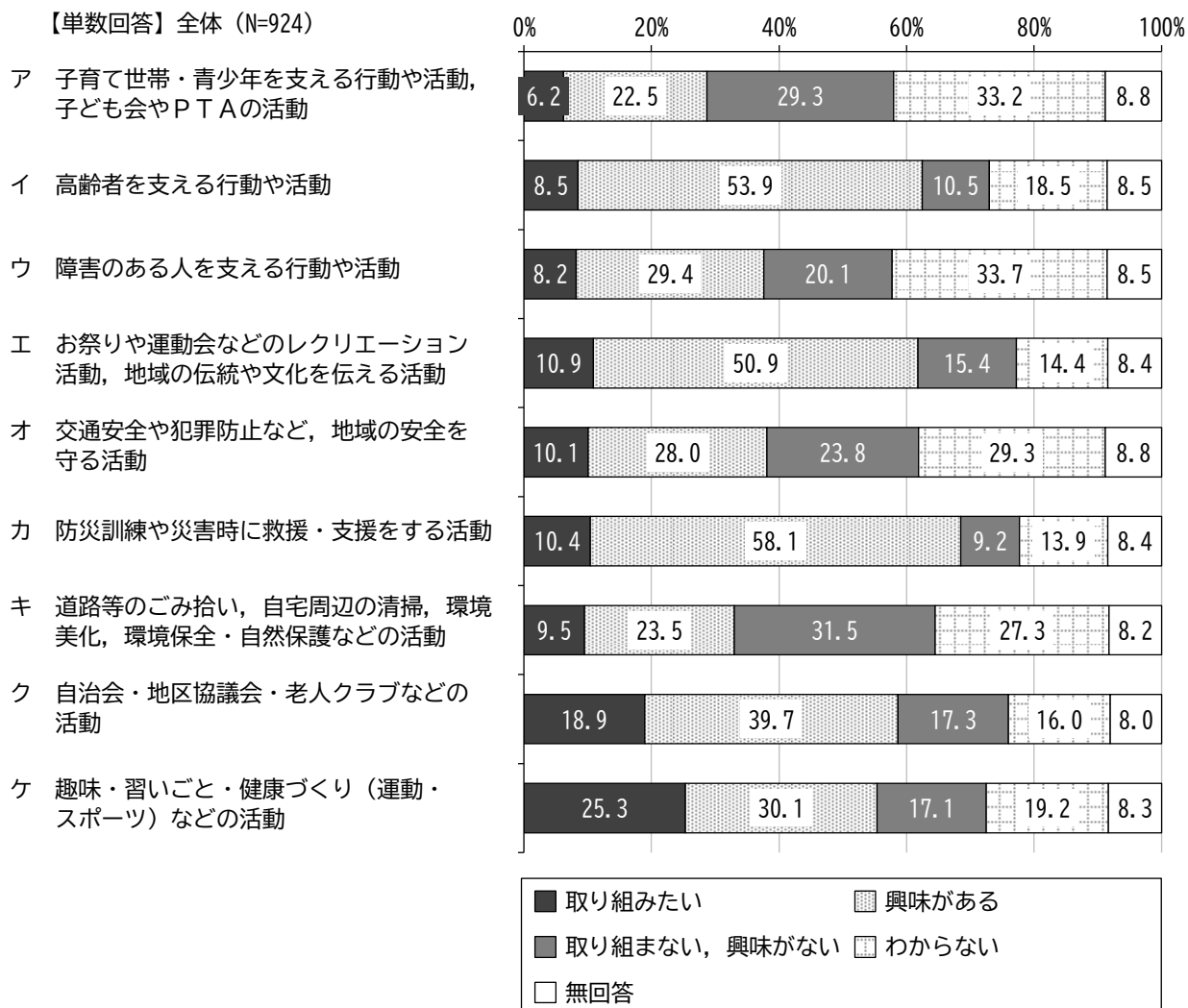
- 地域での活動等の取組状況について、「取り組んでいる（心掛けている状態を含む）」の割合を性別にみると、男性、女性ともに〔ケ 趣味・習いごと・健康づくり（運動・スポーツ）などの活動〕が最も多くなっている。
- 年代別にみると、すべての年代で〔ケ 趣味・習いごと・健康づくり（運動・スポーツ）などの活動〕が最も多くなっている。
- 福祉圏域別にみると、すべての地域で〔ケ 趣味・習いごと・健康づくり（運動・スポーツ）などの活動〕が最も多くなっている。

<「取り組んでいる（心掛けている状態を含む）」の割合>

単位：％		ア P T A の 活 動	イ 高 齢 者 を 支 え る 行 動 や 活 動	ウ 障 害 の あ る 人 を 支 え る 行 動	エ 伝 統 的 な 文 化 を 伝 え る 活 動 の ク	オ 地 交 通 の 安 全 を 犯 罪 防 止 な ど 、	カ 支 援 を 訓 練 や 災 害 時 に 救 援 ・	キ 保 全 ・ 清 掃 の 自 然 環 境 の 美 し く 保 持 な ど 、 自 宅 周 辺 の 路 等 の ご み 拾 い の 活 動 等	ク 自 治 会 な ど の 地 区 協 議 会 ・ 老 人	ケ の 活 動 （ 運 動 ・ 習 い ご と ・ 健 康 づ く り な ど ）
全体（N=924）		8.7	10.3	8.0	11.3	9.8	10.9	17.4	12.1	31.4
性 別	男性（n=366）	7.4	8.2	8.7	11.5	8.5	11.2	19.1	11.5	27.3
	女性（n=542）	9.8	12.0	7.7	11.3	10.9	10.7	16.4	12.7	34.1
	その他（n=4）	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	25.0	25.0	25.0	100.0
年 代 別	10歳代（n=12）	8.3	33.3	33.3	25.0	33.3	25.0	25.0	8.3	58.3
	20歳代（n=79）	2.5	0.0	1.3	10.1	5.1	5.1	8.9	3.8	22.8
	30歳代（n=119）	12.6	5.0	5.9	12.6	9.2	7.6	11.8	5.9	27.7
	40歳代（n=147）	19.7	8.8	4.8	11.6	8.2	6.8	11.6	6.8	29.9
	50歳代（n=168）	8.3	13.1	11.3	11.9	11.3	13.7	14.9	13.7	29.2
	60歳代（n=143）	6.3	11.2	11.2	11.2	11.2	12.6	22.4	15.4	30.1
	70歳代（n=134）	3.7	14.2	11.2	11.9	10.4	13.4	26.1	17.2	39.6
	80歳以上（n=113）	4.4	13.3	4.4	7.1	9.7	13.3	23.9	20.4	38.1
福 祉 圏 域 別	緑ヶ丘・滝坂（n=127）	5.5	8.7	5.5	7.1	8.7	6.3	14.2	7.9	26.0
	若葉・調和（n=120）	11.7	12.5	6.7	10.0	11.7	14.2	23.3	16.7	31.7
	上ノ原・柏野（n=82）	4.9	8.5	12.2	6.1	7.3	4.9	15.9	6.1	29.3
	北ノ台・深大寺（n=72）	6.9	13.9	9.7	18.1	13.9	8.3	22.2	18.1	43.1
	第二・八雲台・国領（n=130）	8.5	9.2	7.7	12.3	10.0	12.3	17.7	10.0	29.2
	染地・杉森・布田（n=112）	7.1	7.1	7.1	12.5	8.0	12.5	17.0	11.6	41.1
	第一・富士見台・多摩川（n=142）	13.4	13.4	9.2	11.3	10.6	13.4	12.7	13.4	31.0
	第三・石原・飛田給（n=130）	9.2	10.0	8.5	14.6	10.0	13.1	20.0	14.6	26.9

②今後の意向

- 地域での活動等の今後の取組意向について、「取り組みたい」と「興味がある」の合計割合は、[カ 防災訓練や災害時に救援・支援をする活動（68.5%）]が最も多く、[イ 高齢者を支える行動や活動（62.4%）]，[エ お祭りや運動会などのレクリエーション活動，地域の伝統や文化を伝える活動（61.8%）]が続いている。



－ 回答者属性分析 －

- 地域での活動等の今後の取組意向について、「取り組みたい」と「興味がある」の合計割合を性別にみると、男性、女性ともに〔カ 防災訓練や災害時に救援・支援をする活動〕が最も多くなっている。
- 年代別にみると、10歳代、20歳代で〔エ お祭りや運動会などのレクリエーション活動、地域の伝統や文化を伝える活動〕、80歳以上で〔ケ 趣味・習いごと・健康づくり（運動・スポーツ）などの活動〕、それ以外の年代で〔カ 防災訓練や災害時に救援・支援をする活動〕が最も多くなっている。
- 福祉圏域別にみると、すべての地域で〔カ 防災訓練や災害時に救援・支援をする活動〕が最も多くなっている。

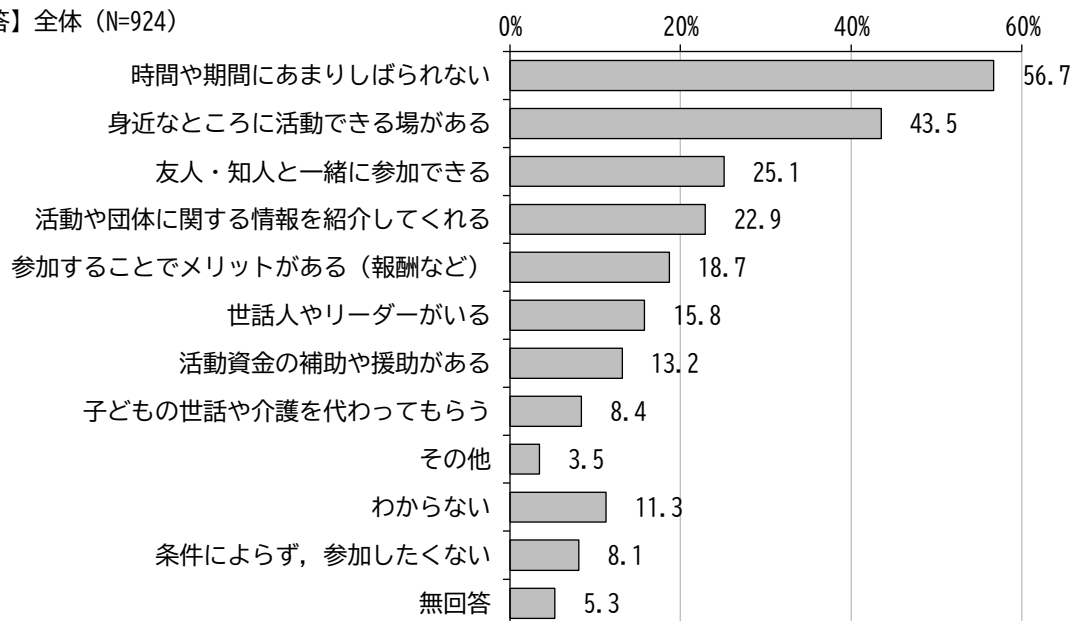
<「取り組みたい」と「興味がある」の合計割合>

単位：％		ア P T A の 活 動 、 青 少 年 を 支 え や え	イ 高 齢 者 を 支 え る 行 動 や 活 動	ウ や 障 害 の あ る 人 を 支 え る 行 動	エ 伝 統 や 文 化 を 伝 え る 活 動 、 地 域 の ク	オ お 祭 り や 運 動 会 な ど の レ クリエーション活動など、	カ 支 援 を 訓 練 する 活 動 、 災 害 時 に 救 援 ・	キ 保 全 の 自 然 環 境 の 美 化 、 自 宅 周 辺 の ご み 拾 い など、	ク 自 治 会 な ど の 地 区 協 議 会 ・ 老 人	ケ の 活 動 、 趣 味 ・ 運 動 ・ 習 い ごと ・ ス ポ ー ツ ） な ど、 健康づくり
全体 (N=924)		28.7	62.4	37.6	61.8	38.1	68.5	33.0	58.6	55.4
性別	男性 (n=366)	30.6	64.7	39.6	67.0	40.2	71.0	29.8	63.4	51.9
	女性 (n=542)	28.3	61.8	37.5	59.8	37.6	67.9	35.4	56.7	58.1
	その他 (n=4)	0.0	75.0	0.0	50.0	25.0	50.0	25.0	75.0	100.0
年代別	10歳代 (n=12)	41.7	83.4	41.6	100.0	50.0	91.7	25.0	83.3	66.7
	20歳代 (n=79)	26.6	79.8	27.9	82.2	26.6	79.7	21.6	74.7	53.2
	30歳代 (n=119)	40.4	81.5	49.6	84.1	43.7	86.6	21.9	79.8	63.0
	40歳代 (n=147)	37.4	75.5	44.9	74.8	42.1	79.6	24.5	69.4	57.8
	50歳代 (n=168)	32.8	73.2	42.8	70.2	45.2	79.2	34.5	65.4	58.3
	60歳代 (n=143)	30.1	60.9	44.1	59.5	46.9	71.3	51.1	57.4	65.1
	70歳代 (n=134)	20.1	41.8	32.9	38.8	32.1	51.5	42.6	38.8	47.8
	80歳以上 (n=113)	9.7	24.8	15.0	25.6	22.1	29.2	29.2	28.3	39.9
福祉圏域別	緑ヶ丘・滝坂 (n=127)	33.0	66.9	43.3	63.0	40.2	75.6	28.4	65.4	63.0
	若葉・調和 (n=120)	23.3	62.5	35.0	55.8	34.2	64.2	32.5	55.0	46.7
	上ノ原・柏野 (n=82)	23.2	61.0	36.6	60.9	32.9	65.9	31.7	56.1	53.7
	北ノ台・深大寺 (n=72)	36.1	61.2	33.3	63.9	44.4	66.7	37.5	61.1	65.3
	第二・八雲台・国領 (n=130)	26.1	54.6	35.4	59.3	40.0	64.6	33.8	50.0	53.8
	染地・杉森・布田 (n=112)	29.5	63.4	37.5	66.1	35.7	67.9	34.8	62.5	59.8
	第一・富士見台・多摩川 (n=142)	30.3	71.9	43.7	70.5	39.4	76.8	30.3	65.5	55.7
	第三・石原・飛田給 (n=130)	30.8	60.0	36.1	59.3	40.8	66.9	37.7	57.7	51.5

問 15 どのような条件であれば、地域活動・ボランティア活動に参加・活動しやすいですか。(いくつでも○)

- 地域活動・ボランティア活動に参加・活動しやすい条件は、「時間や期間にあまりしばられない(56.7%)」が最も多く、「身近なところに活動できる場がある(43.5%)」、「友人・知人と一緒に参加できる(25.1%)」が続いている。

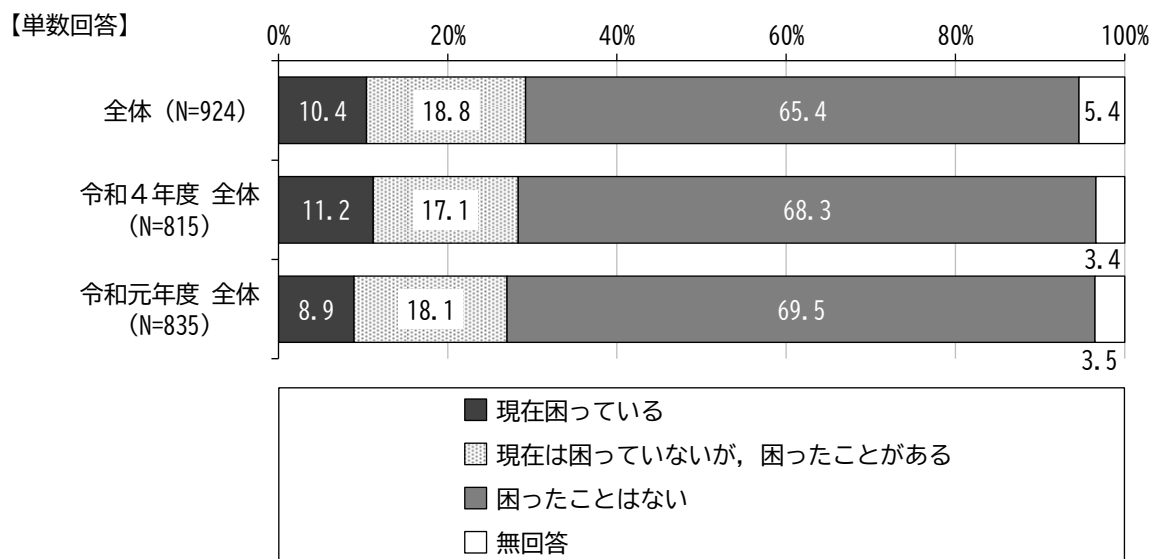
【複数回答】全体 (N=924)



4 暮らしのことについておたずねします

問 16 これまでに経済的に困った経験がありますか。(1つに○)

- 経済的に困った経験は、「困ったことはない(65.4%)」が最も多く、「現在は困っていないが、困ったことがある(18.8%)」、「現在困っている(10.4%)」が続いている。
- 「現在困っている」と「現在は困っていないが、困ったことがある」を合わせた『困ったことがある』は29.2%となっている。
- 令和元年度、令和4年度の調査結果と比較すると、大きな変化はみられない。



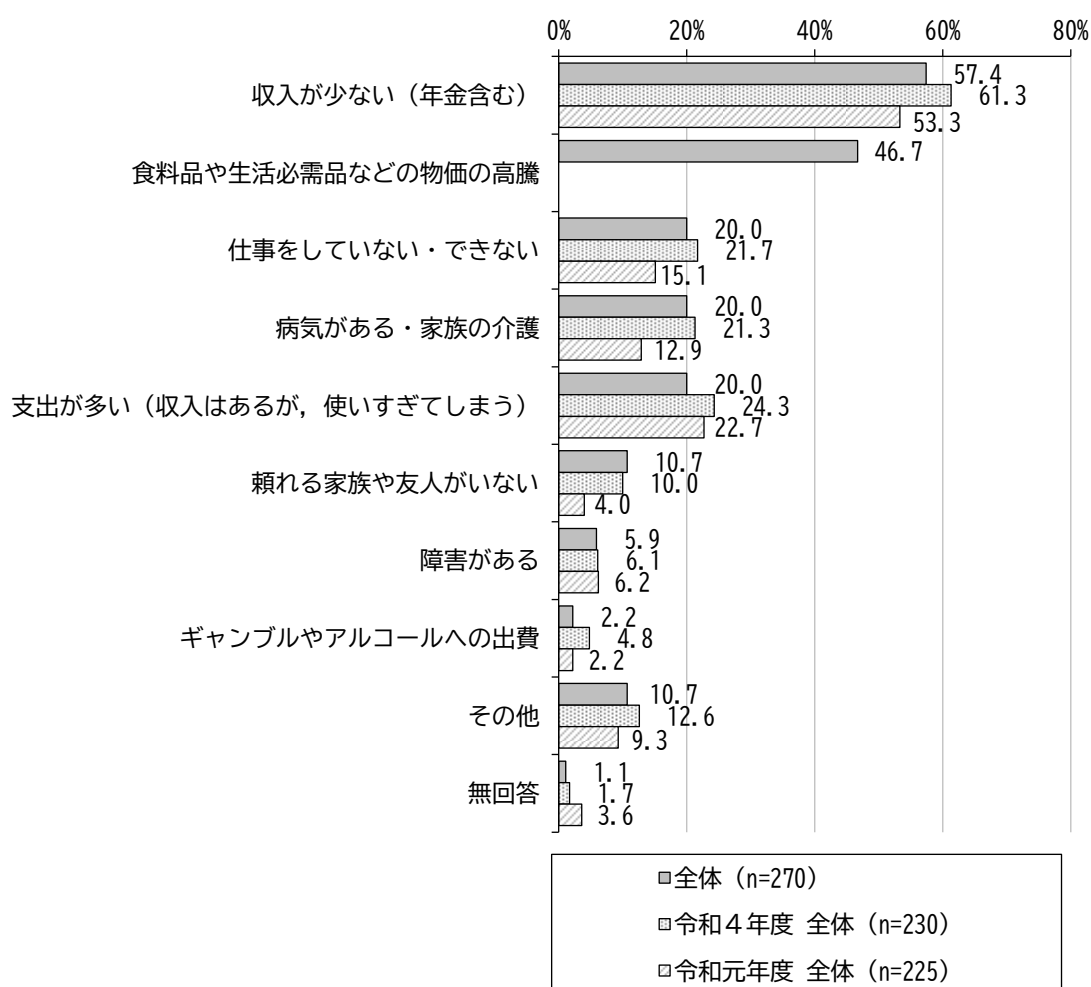
－ 回答者属性分析 －

- 経済的に困った経験を年代別にみると、すべての年代で「困ったことはない」が最も多くなっている。また、20歳代、40歳代、50歳代、80歳以上で『困ったことがある』が3割を超えている。
- 福祉圏域別にみると、すべての地域で「困ったことはない」が最も多くなっている。また、北ノ台・深大寺小学校地域、第二・八雲台・国領小学校地域、第一・富士見台・多摩川小学校地域、第三・石原・飛田給小学校地域で『困ったことがある』が3割を超えている。
- 住居形態別にみると、公営住宅（市営・都営住宅等）で「現在は困っていないが、困ったことがある」と「困ったことはない」が同率となっている。それ以外の区分で「困ったことはない」が最も多くなっている。また、民間賃貸（一戸建て）、民間賃貸（集合住宅）、公営住宅（市営・都営住宅等）で『困ったことがある』が4割を超えている。

単位：％		現在困っている	が現在、困ったことはない	困ったことはない	無回答	『困ったことがある』	【困ったことはない 「再掲」】
全体（N=924）		10.4	18.8	65.4	5.4	29.2	65.4
年代別	10歳代（n=12）	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0
	20歳代（n=79）	15.2	16.5	67.1	1.3	31.7	67.1
	30歳代（n=119）	10.9	16.8	71.4	0.8	27.7	71.4
	40歳代（n=147）	16.3	19.0	63.9	0.7	35.3	63.9
	50歳代（n=168）	11.9	25.6	61.9	0.6	37.5	61.9
	60歳代（n=143）	6.3	18.2	68.5	7.0	24.5	68.5
	70歳代（n=134）	4.5	14.2	71.6	9.7	18.7	71.6
	80歳以上（n=113）	9.7	22.1	52.2	15.9	31.8	52.2
福祉圏域別	緑ヶ丘・滝坂（n=127）	11.0	17.3	66.9	4.7	28.3	66.9
	若葉・調和（n=120）	10.8	13.3	73.3	2.5	24.1	73.3
	上ノ原・柏野（n=82）	6.1	11.0	74.4	8.5	17.1	74.4
	北ノ台・深大寺（n=72）	12.5	20.8	59.7	6.9	33.3	59.7
	第二・八雲台・国領（n=130）	7.7	30.8	53.8	7.7	38.5	53.8
	染地・杉森・布田（n=112）	12.5	14.3	69.6	3.6	26.8	69.6
	第一・富士見台・多摩川（n=142）	13.4	18.3	65.5	2.8	31.7	65.5
	第三・石原・飛田給（n=130）	8.5	22.3	63.8	5.4	30.8	63.8
住居形態別	持ち家（一戸建て）（n=377）	7.4	11.7	76.9	4.0	19.1	76.9
	持ち家（集合住宅）（n=219）	6.4	20.5	66.7	6.4	26.9	66.7
	民間賃貸（一戸建て）（n=11）	18.2	27.3	45.5	9.1	45.5	45.5
	民間賃貸（集合住宅）（n=231）	18.6	26.0	52.8	2.6	44.6	52.8
	公営住宅（市営・都営住宅等）（n=42）	11.9	38.1	38.1	11.9	50.0	38.1
	社宅・公務員住宅等（n=10）	10.0	10.0	80.0	0.0	20.0	80.0
	上記以外（n=15）	6.7	20.0	66.7	6.7	26.7	66.7

付問 問 16 で「1～2（困っている、困ったことがある）」と答えた人におたずねします。
困っている（困った）原因は何ですか。（いくつでも○）

- 困っている（困った）原因は、「収入が少ない（年金含む）（57.4%）」が最も多く、「食料品や生活必需品などの物価の高騰（46.7%）」、「仕事をしていない・できない（20.0%）」「病気がある・家族の介護（20.0%）」「支出が多い（収入はあるが、使いすぎてしまう）（20.0%）」が続いている。
- 令和元年度から令和4年度にかけては、「収入が少ない（年金含む）」、「仕事をしていない・できない」、「病気がある・家族の介護」、「頼れる家族や友人がいない」の項目が高くなっているが、令和4年度の調査結果と比較すると、大きな変化はみられない。



※「食料品や生活必需品などの物価の高騰」は今回調査のみの選択肢

※令和元年度は「特になし」（8.4%）の選択肢あり

－ 回答者属性分析 －

- 困っている（困った）原因の割合を年代別にみると、すべての年代で「収入が少ない（年金含む）」が最も多くなっている。また、20歳代で「支出が多い（収入はあるが、使いすぎてしまう）」が3割を超えているほか、50歳代以上で「病気がある・家族の介護」が2割を超えている。

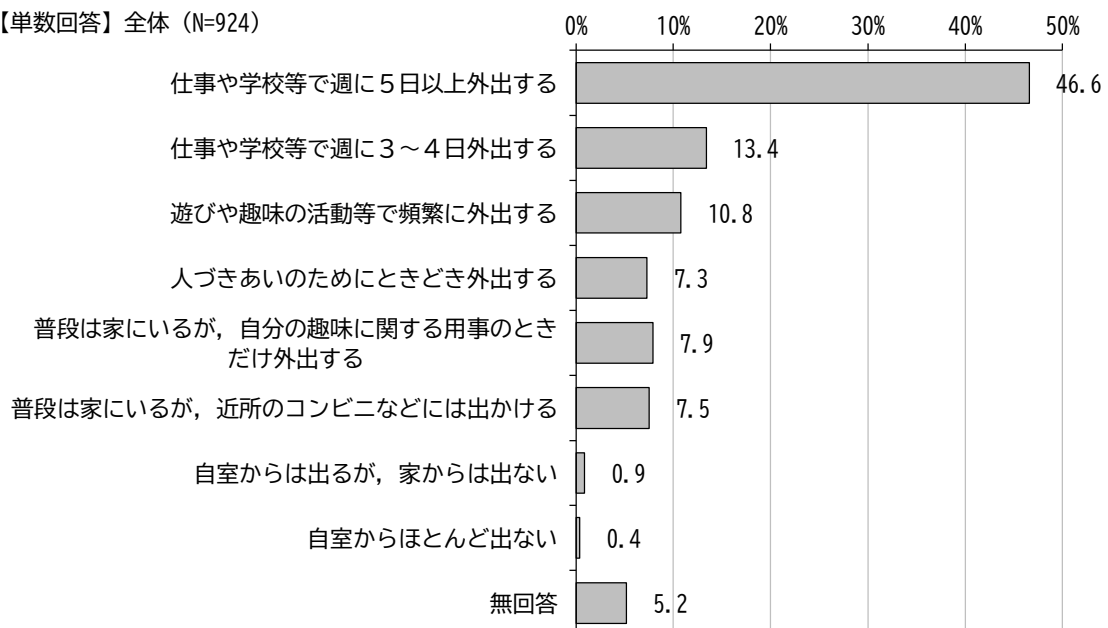
単位：％		仕事を していない・ できない	収入が 少ない（年 金含む）	頼る家 族や友人 がいない	病気 がある・ 家族の 介護	障 害 が あ る	支 出 が 多 い （ 収 入 は あ る が 、 使 い す ぎ て し ま う ）	ギ ャ ン ブ ル や ア ル コ ー ル へ の 出 費	食 料 品 や 生 活 必 需 品 な ど の 物 価 の高騰	そ の 他	無 回 答
全体（n=270）		20.0	57.4	10.7	20.0	5.9	20.0	2.2	46.7	10.7	1.1
年 代 別	20歳代（n=25）	24.0	68.0	4.0	4.0	0.0	36.0	0.0	44.0	8.0	0.0
	30歳代（n=33）	18.2	63.6	3.0	15.2	12.1	24.2	3.0	54.5	12.1	0.0
	40歳代（n=52）	19.2	59.6	21.2	13.5	5.8	17.3	3.8	55.8	13.5	0.0
	50歳代（n=63）	22.2	46.0	12.7	25.4	4.8	28.6	1.6	36.5	11.1	1.6
	60歳代（n=35）	8.6	51.4	8.6	25.7	5.7	14.3	2.9	40.0	14.3	0.0
	70歳代（n=25）	24.0	68.0	12.0	24.0	0.0	8.0	4.0	52.0	4.0	4.0
	80歳以上（n=36）	25.0	58.3	5.6	27.8	11.1	8.3	0.0	50.0	8.3	2.8

※10歳代はn=0のため省略

問 17 あなたは普段、どのくらい外出しますか。現在のことについてお答えください。
（1つに○）

- 外出の状況は、「仕事や学校等で週に5日以上外出する（46.6%）」が最も多く、「仕事や学校等で週に3～4日外出する（13.4%）」、「遊びや趣味の活動等で頻繁に外出する（10.8%）」が続いている。

【単数回答】全体（N=924）



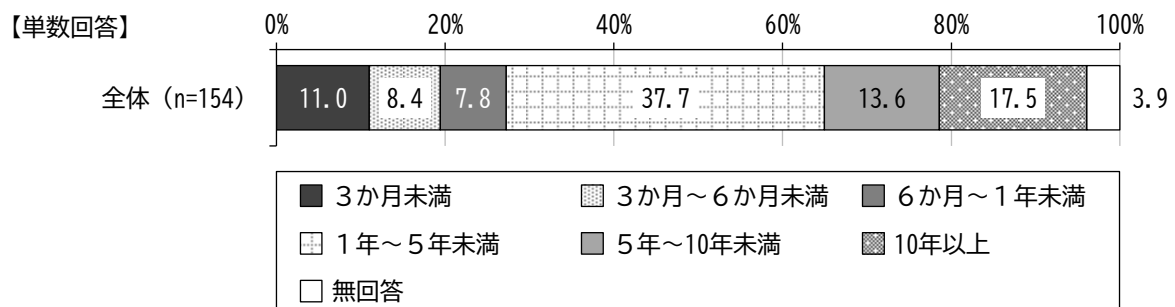
－ 回答者属性分析 －

- 外出の状況の割合を年代別にみると、70 歳代で「遊びや趣味の活動等で頻繁に外出する」、80 歳以上で「普段は家にいるが、近所のコンビニなどには出かける」が最も多くなっている。それ以外の年代で「仕事や学校等で週に 5 日以上外出する」が最も多くなっている。

単位：％		仕事や学校等で週に 5 日以上外出する	仕事や学校等で週に 3～4 日外出する	遊びや趣味の活動等で頻繁に外出する	人どき外出するためにときどき外出する	普段は家だけに外出するが、自分の趣味だけに外出する	普段は家の中にいるが、近所はコンビニなどには出かける	自室からは出ないが、家から出る	自室からほとんど出ない	無回答
全体 (N=924)		46.6	13.4	10.8	7.3	7.9	7.5	0.9	0.4	5.2
年代別	10歳代 (n=12)	83.3	8.3	0.0	0.0	8.3	0.0	0.0	0.0	0.0
	20歳代 (n=79)	74.7	12.7	1.3	3.8	3.8	3.8	0.0	0.0	0.0
	30歳代 (n=119)	68.1	14.3	4.2	4.2	2.5	5.0	0.0	0.0	1.7
	40歳代 (n=147)	66.0	19.7	6.8	2.7	2.0	1.4	0.0	0.0	1.4
	50歳代 (n=168)	58.9	15.5	3.6	4.2	6.0	8.3	0.0	0.6	3.0
	60歳代 (n=143)	39.2	19.6	14.0	5.6	9.1	3.5	0.0	0.0	9.1
	70歳代 (n=134)	14.9	6.7	25.4	18.7	13.4	9.7	0.7	1.5	9.0
	80歳以上 (n=113)	7.1	3.5	21.2	12.4	17.7	23.0	6.2	0.9	8.0
職業別	正規の社員・職員・役員 (n=339)	76.1	12.7	2.4	2.1	2.4	2.1	0.0	0.0	2.4
	非正規の社員・職員 (n=182)	53.8	33.0	2.7	1.1	1.1	3.8	0.0	0.5	3.8
	自由業・自営業 (n=51)	60.8	13.7	7.8	5.9	5.9	5.9	0.0	0.0	0.0
	専業主婦・主夫 (n=117)	12.0	1.7	31.6	19.7	17.1	10.3	0.9	0.0	6.8
	学生 (n=26)	73.1	15.4	3.8	3.8	3.8	0.0	0.0	0.0	0.0
	無職 (n=174)	2.3	2.3	25.3	15.5	19.0	21.8	4.0	1.1	8.6
	上記以外 (n=16)	37.5	0.0	6.3	18.8	12.5	6.3	0.0	0.0	18.8

付問1 問17で「5～8（外出頻度が低い）」のいずれかに答えた方にうかがいます。
あなたの外出状況が現在の状態となって、どのくらい経ちますか。（1つに○）

- 外出状況が現在の状態となって、どのくらい経つかは、「1 年～5 年未満（37.7%）」が最も多く、「10 年以上（17.5%）」、「5 年～10 年未満（13.6%）」が続いている。

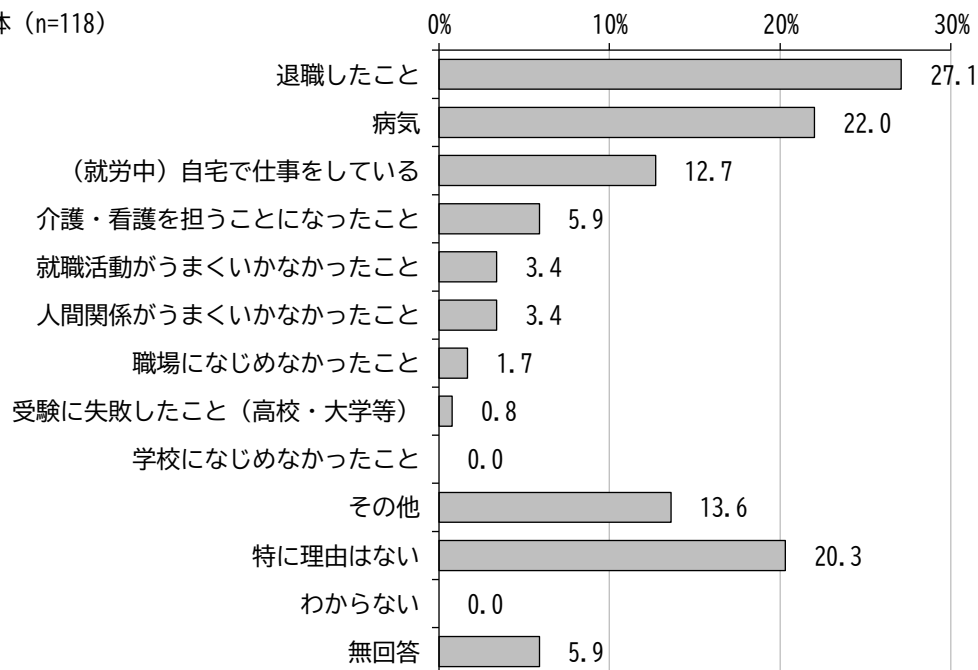


付問2 付問1で「3～6（外出状況が現在の状態となって6か月以上）」のいずれかに答えた方にうかがいます。

あなたの外出状況が現在の状態になった主な理由は何ですか。（いくつでも○）

- 外出状況が現在の状態になった主な理由は、「退職したこと（27.1%）」が最も多く、「病気（22.0%）」、「特に理由はない（20.3%）」が続いている。

【複数回答】全体（n=118）



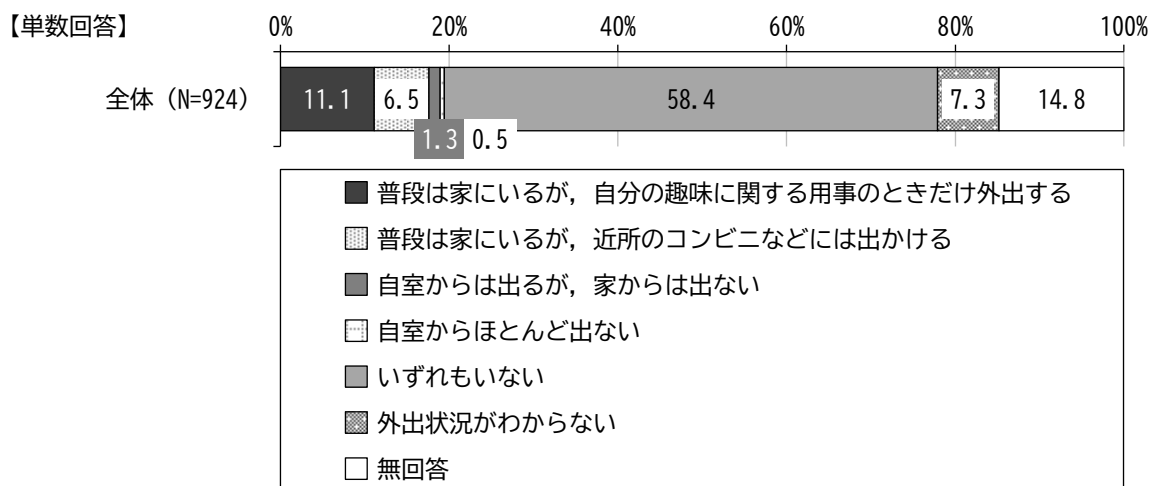
－ 回答者属性分析 －

- 外出状況が現在の状態になった主な理由の割合を年代別にみた結果は以下の表のとおりである（サンプル（n）数が少ないため、コメントは割愛）。

単位：%		病気	介護・看護を担うこと	(就労中) 自宅で仕事	学校になじめなかったこと	職場になじめなかったこと	受験に失敗したこと（高校・大学等）	就職活動がうまくいかなかったこと	人間関係がうまくいかなかったこと	退職したこと	その他	特に理由はない	わからない	無回答
全体（n=118）		22.0	5.9	12.7	0.0	1.7	0.8	3.4	3.4	27.1	13.6	20.3	0.0	5.9
年代別	10歳代（n=1）	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	20歳代（n=5）	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	40.0	0.0	0.0	20.0	40.0	0.0	0.0
	30歳代（n=9）	0.0	0.0	77.8	0.0	11.1	0.0	0.0	11.1	22.2	11.1	0.0	0.0	0.0
	40歳代（n=2）	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0
	50歳代（n=22）	31.8	4.5	27.3	0.0	4.5	0.0	9.1	9.1	13.6	18.2	9.1	0.0	0.0
	60歳代（n=15）	6.7	6.7	6.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	53.3	6.7	33.3	0.0	0.0
	70歳代（n=26）	30.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	42.3	3.8	23.1	0.0	7.7
	80歳以上（n=36）	25.0	13.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	19.4	25.0	0.0	11.1

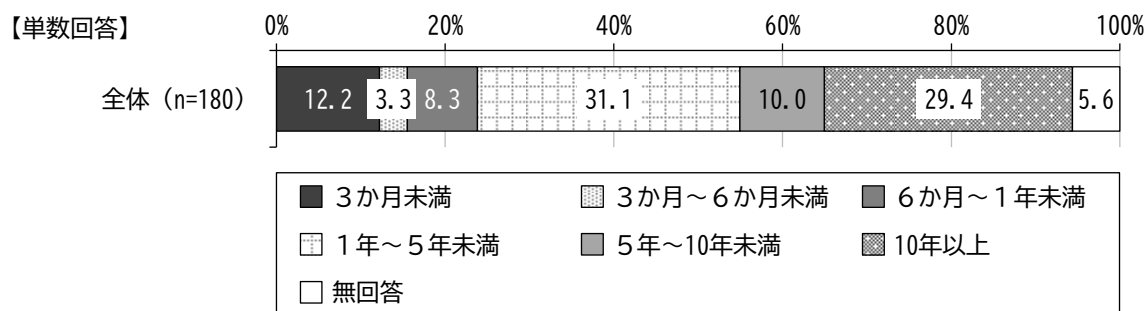
問 18 あなた以外で，市内にお住まいのご家族（同居・別居問わず）に下記の外出状況が当てはまる人はいますか。（1つに○）

- 市内に住む家族の外出状況は，「いずれもいない（58.4%）」が最も多く，「普段は家にいるが，自分の趣味に関する用事するときだけ外出する（11.1%）」，「外出状況がわからない（7.3%）」が続いている。



付問1 問18で「1～4（外出頻度が低い）」のいずれかに答えた方にうかがいます。
ご家族の外出状況が現在の状態となって，どのくらい経ちますか。（1つに○）

- 家族の外出状況が現在の状態となって，どのくらい経つかは，「1年～5年未満（31.1%）」が最も多く，「10年以上（29.4%）」，「3か月未満（12.2%）」が続いている。

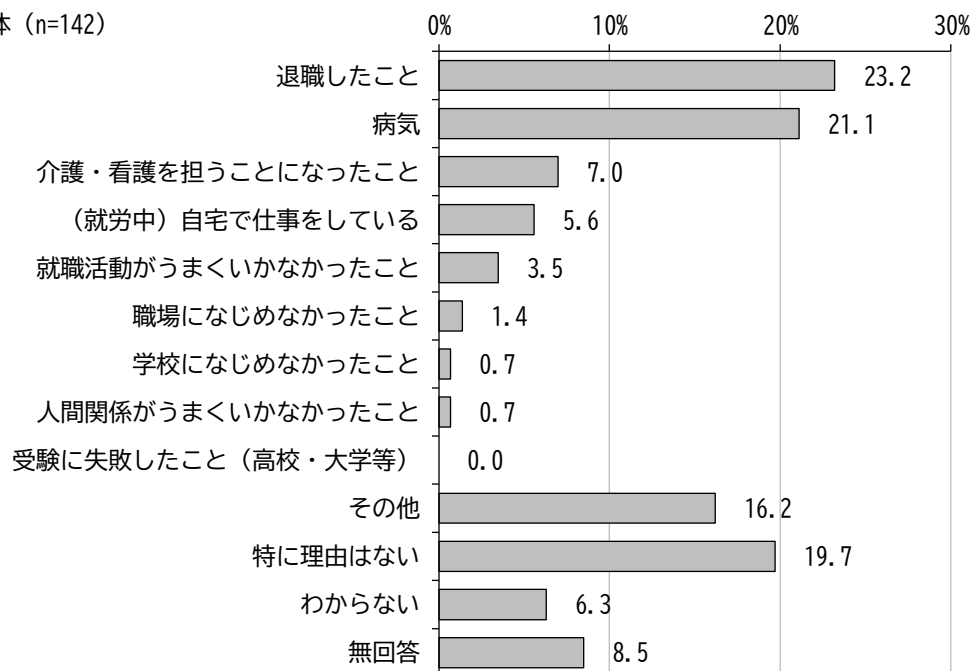


付問2 付問1で「3～6（外出状況が現在の状態となって6か月以上）」のいずれかに答えた方にうかがいます。

ご家族の外出状況が現在の状態になった主な理由は何ですか。（いくつでも○）

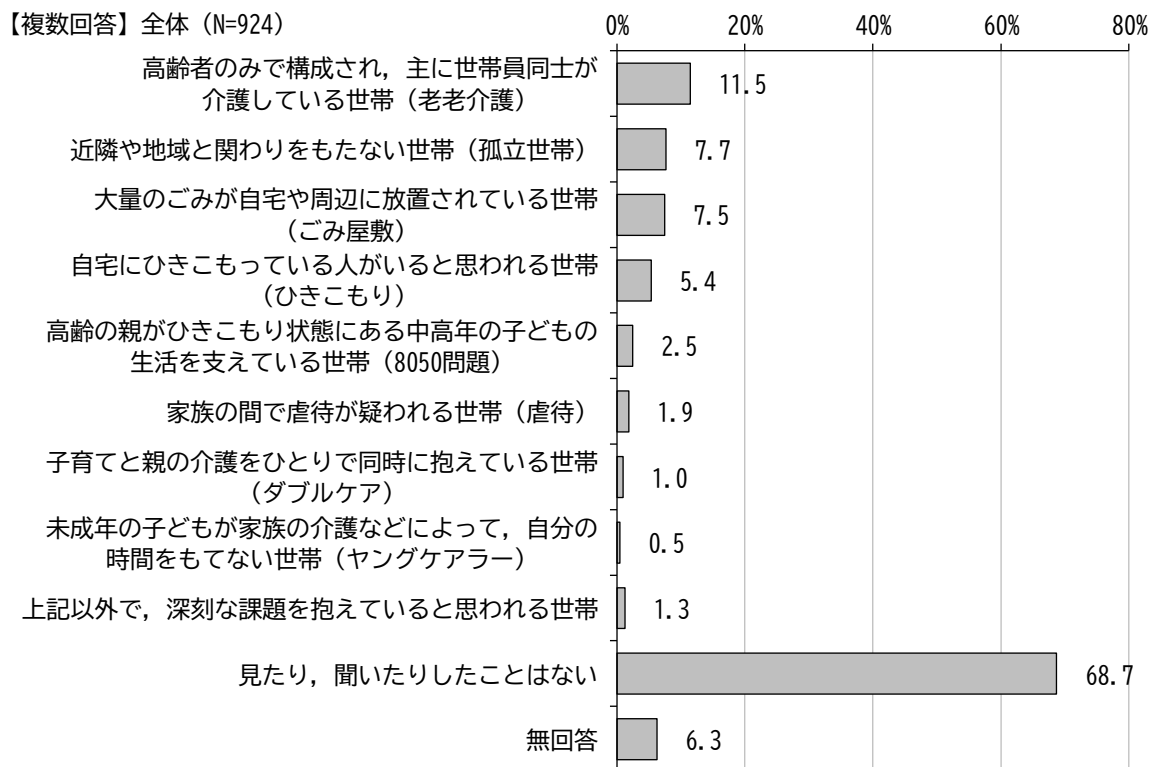
- 家族の外出状況が現在の状態になった主な理由は、「退職したこと（23.2%）」が最も多く、「病気（21.1%）」、「特に理由はない（19.7%）」が続いている。

【複数回答】全体（n=142）



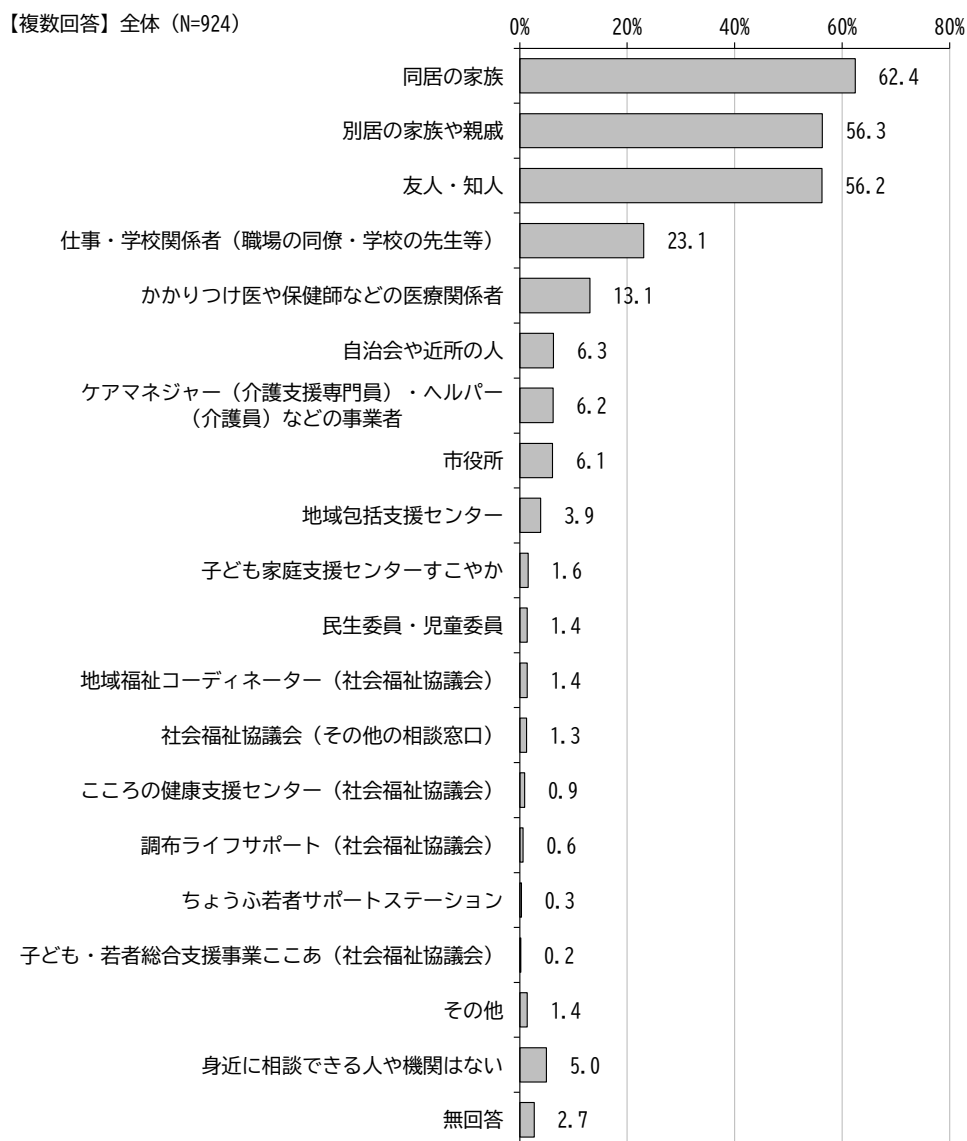
問 19 あなたの地域で次のような世帯を見たり、聞いたりしたことがありますか。
(いくつでも○)

- 複雑な課題を抱えた世帯の見聞状況は、「見たり、聞いたりしたことはない(68.7%)」が最も多く、「高齢者のみで構成され、主に世帯員同士が介護している世帯(老老介護)(11.5%)」、「近隣や地域と関わりをもたない世帯(孤立世帯)(7.7%)」が続いている。



問 20 日常生活での困りごとを相談できる人や機関はありますか。(いくつでも○)

- 困ったときの身近な相談相手(人・機関)は、「同居の家族(62.4%)」が最も多く、「別居の家族や親戚(56.3%)」、「友人・知人(56.2%)」が続いている。



－ 回答者属性分析 －

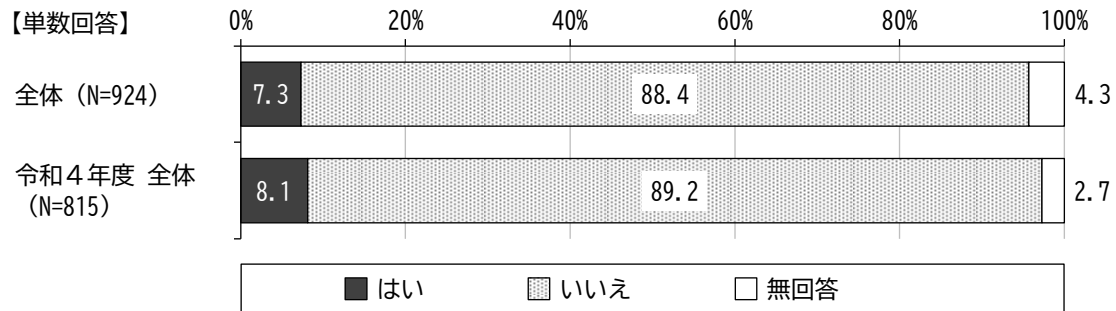
- 困ったときの身近な相談相手(人・機関)の割合を性・年代別にみると、男性：30～40歳代，女性：70歳以上で「別居の家族や親戚」，女性：10～20歳代，女性：30～40歳代で「友人・知人」が最も多く，男性：10～20歳代で「同居の家族」と「友人・知人」が同率となっている。それ以外の区分で「同居の家族」が最も多くなっている。
- 福祉圏域別にみると，緑ヶ丘・滝坂小学校地域で「別居の家族や親戚」，第一・富士見台・多摩川小学校地域で「友人・知人」，それ以外の地域で「同居の家族」が最も多くなっている。
- 家族構成別にみると，ひとり暮らしで「別居の家族や親戚」，ひとり暮らし以外で「同居の家族」が最も多くなっている。

単位：％		同居の家族	別居の家族や親戚	自治会や近所の人	友人・知人	仕事・学校関係者（職場の同僚・学校の先生等）	民生委員・児童委員	ケアマネジャー（介護支援専門員）・ヘルパーなどの事業者	かかりつけ医や保健師などの医療関係者	市役所	地域福祉コーディネーター（社会福祉協議会）
全体（N=924）		62.4	56.3	6.3	56.2	23.1	1.4	6.2	13.1	6.1	1.4
性・年代別	男性：10～20歳代（n=38）	65.8	31.6	2.6	65.8	36.8	2.6	2.6	2.6	0.0	0.0
	男性：30～40歳代（n=92）	56.5	59.8	2.2	51.1	35.9	2.2	1.1	9.8	9.8	2.2
	男性：50～60歳代（n=134）	59.7	55.2	6.7	45.5	19.4	0.7	4.5	13.4	7.5	1.5
	男性：70歳以上（n=101）	52.5	42.6	11.9	36.6	3.0	5.0	15.8	25.7	5.9	3.0
	女性：10～20歳代（n=53）	66.0	39.6	1.9	71.7	34.0	0.0	0.0	9.4	5.7	0.0
	女性：30～40歳代（n=173）	75.1	67.6	6.4	75.7	38.7	0.6	1.7	10.4	4.6	0.0
	女性：50～60歳代（n=175）	69.1	61.1	8.0	65.7	27.4	0.6	6.9	10.3	6.9	0.0
	女性：70歳以上（n=141）	53.2	59.6	5.7	42.6	1.4	0.7	12.1	17.0	4.3	3.5
福祉圏域別	緑ヶ丘・滝坂（n=127）	58.3	60.6	0.0	55.1	22.0	0.0	6.3	11.0	7.9	1.6
	若葉・調和（n=120）	70.0	57.5	6.7	55.0	24.2	0.8	7.5	14.2	4.2	1.7
	上ノ原・柏野（n=82）	72.0	54.9	1.2	50.0	25.6	1.2	4.9	12.2	2.4	1.2
	北ノ台・深大寺（n=72）	65.3	52.8	12.5	56.9	16.7	1.4	4.2	13.9	5.6	1.4
	第二・八雲台・国領（n=130）	52.3	50.8	7.7	51.5	22.3	1.5	6.2	14.6	6.9	1.5
	染地・杉森・布田（n=112）	64.3	52.7	10.7	60.7	18.8	2.7	8.0	14.3	4.5	1.8
	第一・富士見台・多摩川（n=142）	60.6	57.0	7.0	63.4	26.1	2.1	4.9	13.4	7.0	1.4
	第三・石原・飛田給（n=130）	64.6	61.5	6.2	56.9	26.9	1.5	6.2	11.5	7.7	0.0
家族構成別	ひとり暮らし（n=166）	1.2	59.0	2.4	49.4	20.5	1.2	6.6	10.8	4.2	2.4
	ひとり暮らし以外（n=740）	76.4	56.2	6.8	58.1	24.2	1.5	5.9	13.6	6.6	1.2

単位：％		調布ライフサポート （社会福祉協議会）	子ども・若者総合支援 事業（社会福祉協議会）	このころの健康支援セン ター（社会福祉協議会）	社会福祉協議会（その 他の相談窓口）	地域包括支援センタ ー	ちようふ若者サポ ートステーション	子ども家庭支援セン ターすこやか	その他	身近に相談できる人 や機関はない	無回答
全体（N=924）		0.6	0.2	0.9	1.3	3.9	0.3	1.6	1.4	5.0	2.7
性・年代別	男性：10～20歳代（n=38）	0.0	0.0	0.0	5.3	0.0	0.0	0.0	5.3	7.9	0.0
	男性：30～40歳代（n=92）	1.1	0.0	0.0	1.1	1.1	1.1	1.1	0.0	8.7	1.1
	男性：50～60歳代（n=134）	1.5	0.0	1.5	0.0	2.2	0.0	0.7	0.7	8.2	0.7
	男性：70歳以上（n=101）	1.0	1.0	2.0	4.0	8.9	1.0	1.0	1.0	8.9	5.9
	女性：10～20歳代（n=53）	1.9	1.9	1.9	0.0	1.9	1.9	0.0	0.0	1.9	0.0
	女性：30～40歳代（n=173）	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	0.0	5.8	2.3	0.0	0.6
	女性：50～60歳代（n=175）	0.0	0.0	1.7	0.6	5.1	0.0	1.1	0.6	6.3	0.6
	女性：70歳以上（n=141）	0.7	0.0	0.0	2.1	7.8	0.0	0.0	2.1	2.1	7.1
福祉圏域別	緑ヶ丘・滝坂（n=127）	0.8	0.0	0.0	0.8	3.1	0.0	0.8	0.0	3.9	3.1
	若葉・調和（n=120）	0.8	0.0	1.7	1.7	3.3	0.0	1.7	1.7	5.8	0.8
	上ノ原・柏野（n=82）	0.0	0.0	0.0	0.0	1.2	0.0	1.2	2.4	3.7	2.4
	北ノ台・深大寺（n=72）	1.4	0.0	0.0	2.8	8.3	0.0	0.0	1.4	8.3	2.8
	第二・八雲台・国領（n=130）	0.8	0.0	0.8	1.5	3.1	0.0	0.8	1.5	5.4	4.6
	染地・杉森・布田（n=112）	0.9	0.9	3.6	1.8	4.5	0.9	2.7	0.9	5.4	0.9
	第一・富士見台・多摩川（n=142）	0.7	0.7	0.7	0.7	4.9	0.7	3.5	1.4	4.2	2.1
	第三・石原・飛田給（n=130）	0.0	0.0	0.0	0.8	3.1	0.8	1.5	1.5	4.6	2.3
家族構成別	ひとり暮らし（n=166）	0.0	0.0	0.6	1.8	4.8	0.6	0.0	1.2	8.4	4.8
	ひとり暮らし以外（n=740）	0.8	0.3	0.9	1.2	3.8	0.3	2.0	1.4	4.3	1.8

問 21 現在、あなた自身やご家族は、どこに相談すればいいかわからない生活上の困りごとを抱えていますか。(1つに○)

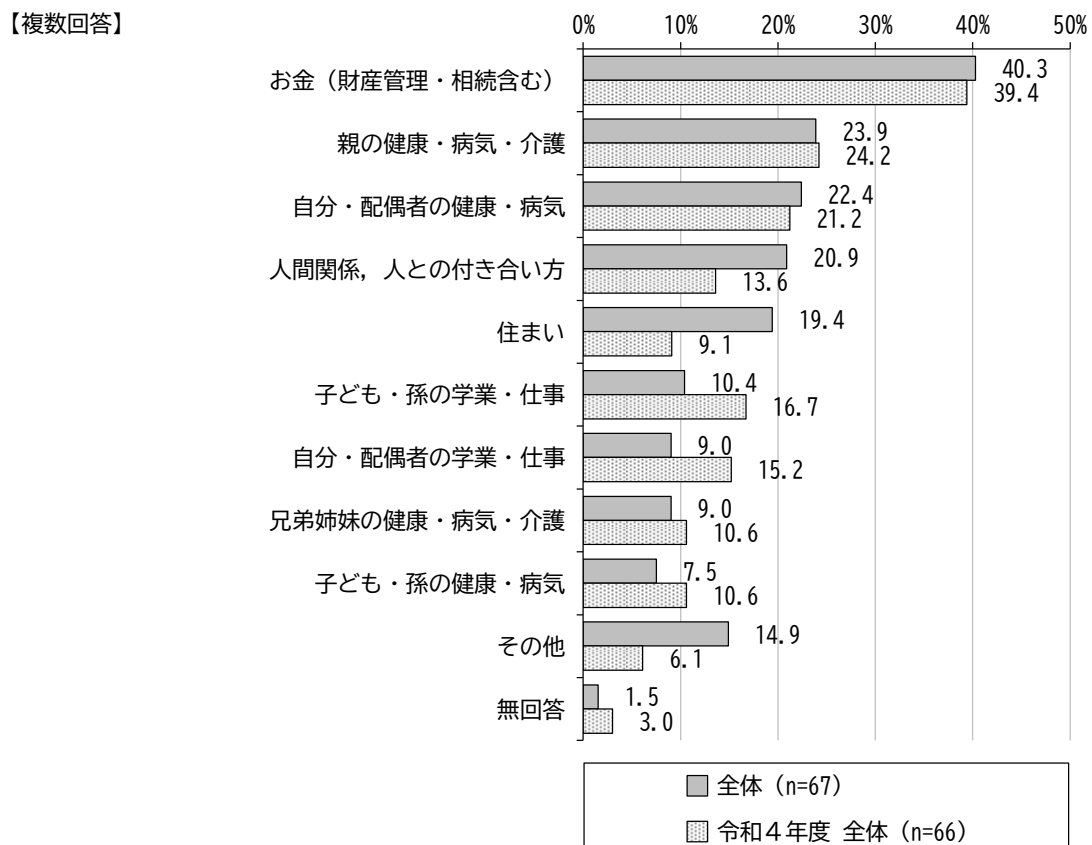
- どこに相談すればいいかわからない生活上の困りごとを抱えているかは、「はい (7.3%)」、「いいえ (88.4%)」である。
- 令和4年度の調査結果と比較すると、大きな変化はみられない。



付問 問 21 で「1 はい」と答えた方におたずねします。

差し支えなければ、お困りの内容をお聞かせください。(いくつでも○)

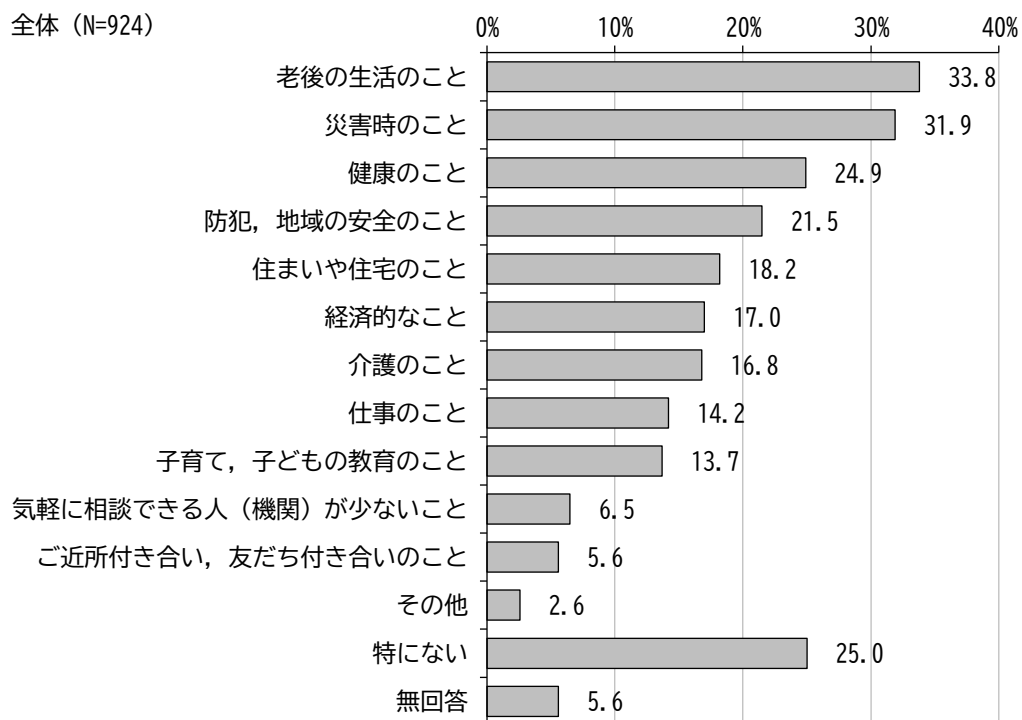
- 相談先がわからない生活上の困りごとの内容は、「お金(財産管理・相続含む) (40.3%)」が最も多く、「親の健康・病気・介護 (23.9%)」、「自分・配偶者の健康・病気 (22.4%)」が続いている。
- 令和4年度の調査結果と比較すると、「住まい」が10.3ポイント、「人間関係、人との付き合い方」が7.3ポイント高く、「子ども・孫の学業・仕事」が6.3ポイント、「自分・配偶者の学業・仕事」が6.2ポイント低くなっている。



問 22 あなたは、身近な地域の中で不安や課題と感じていることはありますか。
(いくつでも○)

- 地域の中で不安や課題と感じていることは、「老後の生活のこと（33.8%）」が最も多く、「災害時のこと（31.9%）」、「特にない（25.0%）」が続いている。

【複数回答】全体（N=924）



－ 回答者属性分析 －

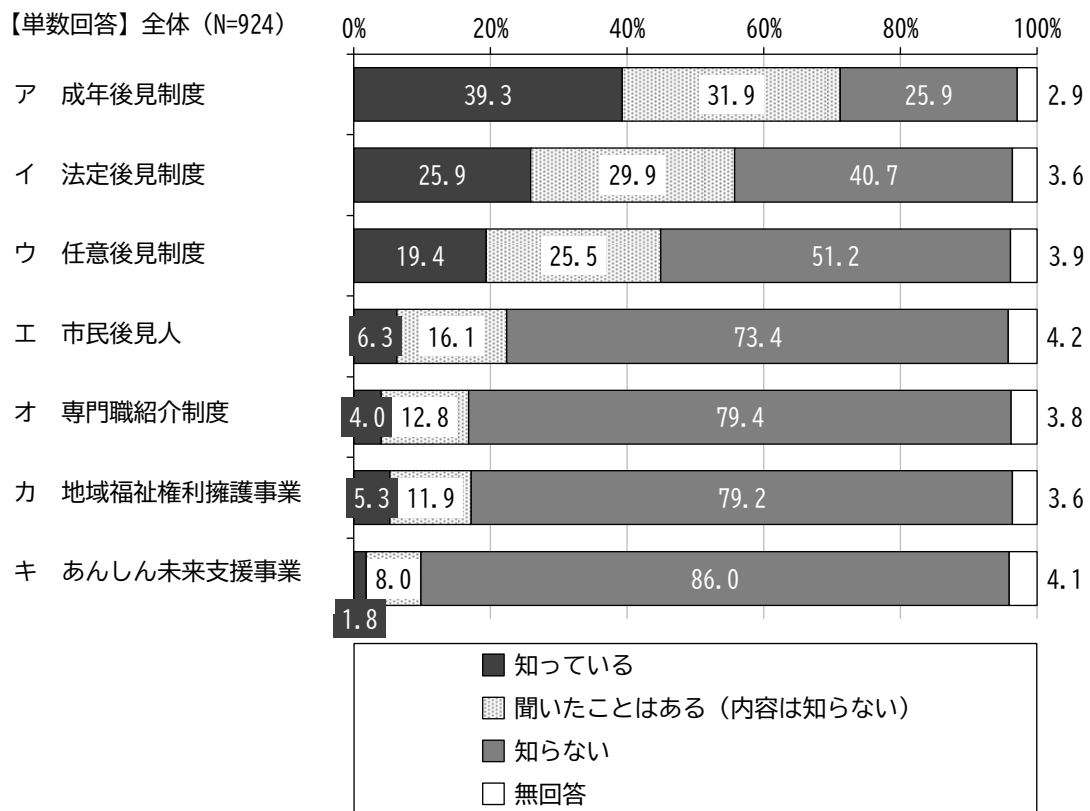
- 地域の中で不安や課題と感じていることの割合を性・年代別にみると、「特にない」を除くと、男性は、10～20歳代で「経済的なこと」、30～40歳代、50～60歳代で「老後の生活のこと」が最も多く、70歳以上で「防犯、地域の安全のこと」と「災害時のこと」が同率となっている。女性は、10～20歳代、30～40歳代で「災害時のこと」、50～60歳代、70歳以上で「老後の生活のこと」が最も多くなっている。
- 福祉圏域別にみると、北ノ台・深大寺小学校地域、第二・八雲台・国領小学校地域、第三・石原・飛田給小学校地域で「災害時のこと」、それ以外の地域で「老後の生活のこと」が最も多くなっている。

単位：％		子育て、子どもの教育のこと	健康のこと	介護のこと	老後の生活のこと	住まいや住宅のこと	仕事のこと	経済的なこと	ご近所付き合い、友だち	防犯、地域の安全のこと	災害時のこと	気軽に相談できる人（機会）が少ないこと	その他	特にない	無回答
全体（N=924）		13.7	24.9	16.8	33.8	18.2	14.2	17.0	5.6	21.5	31.9	6.5	2.6	25.0	5.6
性・年代別	男性：10～20歳代（n=38）	13.2	18.4	2.6	10.5	10.5	18.4	21.1	7.9	7.9	13.2	5.3	2.6	36.8	5.3
	男性：30～40歳代（n=92）	31.5	26.1	14.1	33.7	27.2	25.0	26.1	13.0	23.9	29.3	5.4	1.1	26.1	2.2
	男性：50～60歳代（n=134）	4.5	28.4	21.6	41.0	19.4	14.9	18.7	1.5	16.4	29.1	3.0	2.2	26.1	2.2
	男性：70歳以上（n=101）	0.0	25.7	12.9	19.8	9.9	1.0	7.9	0.0	26.7	26.7	9.9	2.0	32.7	10.9
	女性：10～20歳代（n=53）	18.9	9.4	13.2	15.1	13.2	20.8	15.1	1.9	18.9	28.3	3.8	1.9	30.2	1.9
	女性：30～40歳代（n=173）	38.2	31.2	16.2	36.4	27.2	23.1	20.2	11.0	27.2	38.7	4.6	2.3	16.8	1.7
	女性：50～60歳代（n=175）	5.1	21.1	26.3	52.0	18.3	13.7	19.4	6.3	20.6	44.0	9.1	4.0	16.0	4.6
	女性：70歳以上（n=141）	0.7	25.5	11.3	26.2	9.2	2.1	9.2	2.8	22.0	25.5	9.2	3.5	34.0	10.6
福祉圏域別	緑ヶ丘・滝坂（n=127）	15.7	26.8	16.5	40.2	18.1	21.3	20.5	7.1	22.0	33.1	7.1	1.6	22.0	6.3
	若葉・調和（n=120）	14.2	20.8	15.8	30.8	18.3	10.8	20.0	4.2	20.8	27.5	8.3	0.8	29.2	4.2
	上ノ原・柏野（n=82）	7.3	26.8	17.1	30.5	11.0	9.8	7.3	4.9	15.9	29.3	1.2	2.4	28.0	4.9
	北ノ台・深大寺（n=72）	8.3	22.2	13.9	29.2	13.9	6.9	11.1	2.8	30.6	33.3	5.6	4.2	27.8	2.8
	第二・八雲台・国領（n=130）	13.8	24.6	21.5	28.5	13.8	10.8	13.1	6.2	21.5	31.5	6.2	2.3	26.2	8.5
	染地・杉森・布田（n=112）	15.2	24.1	16.1	31.3	21.4	16.1	25.0	8.0	20.5	28.6	8.9	3.6	27.7	5.4
	第一・富士見台・多摩川（n=142）	16.2	28.9	16.9	43.7	22.5	18.3	18.3	6.3	20.4	36.6	9.9	2.1	16.9	4.2
	第三・石原・飛田給（n=130）	14.6	24.6	16.2	32.3	21.5	14.6	16.2	4.6	23.8	35.4	3.1	4.6	25.4	4.6

5 市民の権利を守る取組についておたずねします

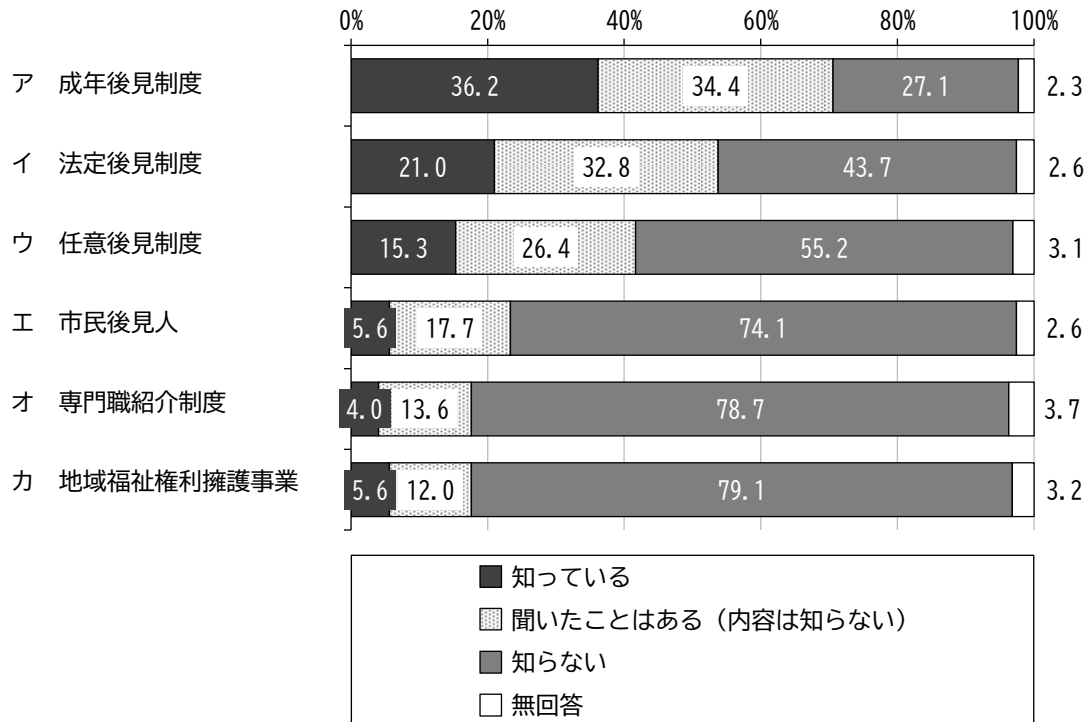
問 23 市や社会福祉協議会等で行っている下記の制度や事業をご存知ですか。
(それぞれ1つに○)

- 市や社会福祉協議会等で行っている市民の権利を守る制度や事業について、「知っている」の割合は,[ア 成年後見制度(39.3%)]が最も多く,[イ 法定後見制度(25.9%)],[ウ 任意後見制度(19.4%)]が続いている。
- 令和4年度の調査結果と比較すると,大きな変化はみられない。



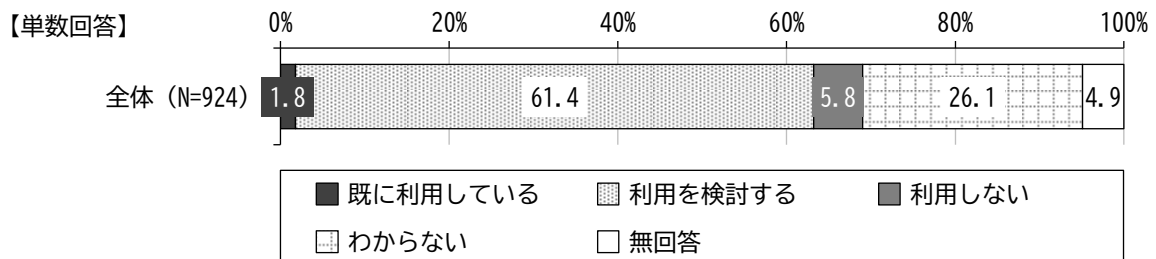
※ [キ あんしん未来支援事業] は今回調査のみの項目

【単数回答】令和4年度 全体 (N=815)



問24 あなたやご家族のどなたかが認知症などによって判断が十分にできなくなる場合に備えて、あるいは既にできない場合、前問（問23）のいずれかの制度や事業を利用したいと思いますか。（1つに○）

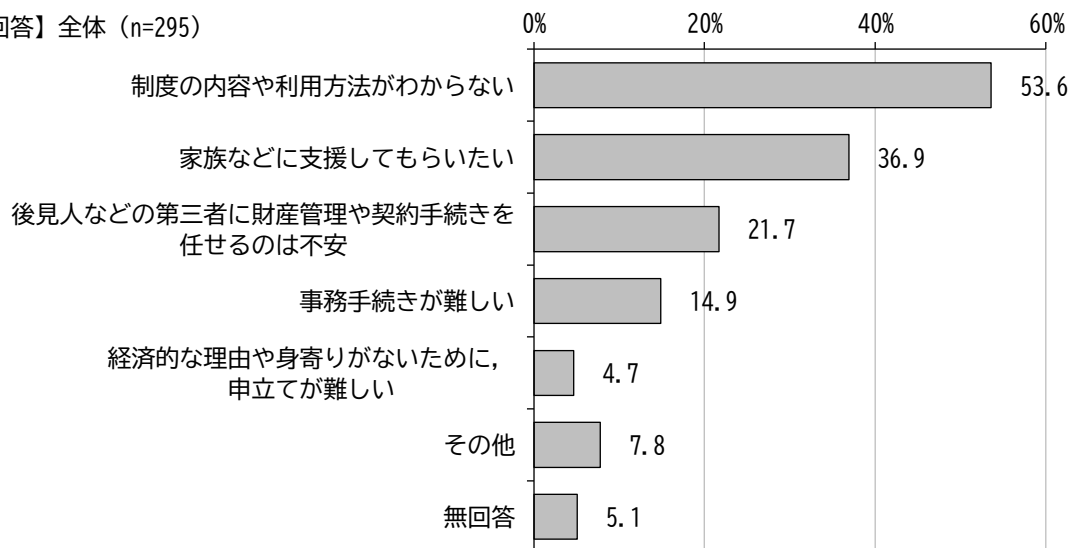
- 問23の市や社会福祉協議会等で行っている市民の権利を守る制度や事業の利用意向は、「利用を検討する（61.4%）」が最も多く、「わからない（26.1%）」、「利用しない（5.8%）」が続いている。



付問 問 24 で「3 利用しない」, 「4 わからない」と答えた方におたずねします。
制度を利用しない, または, わからないと答えた主な理由は何ですか。
(いくつでも○)

- 制度を利用しない, または, わからないと答えた主な理由は, 「制度の内容や利用方法がわからない (53.6%)」が最も多く, 「家族などに支援してもらいたい (36.9%)」, 「後見人などの第三者に財産管理や契約手続きを任せるのは不安 (21.7%)」が続いている。

【複数回答】全体 (n=295)

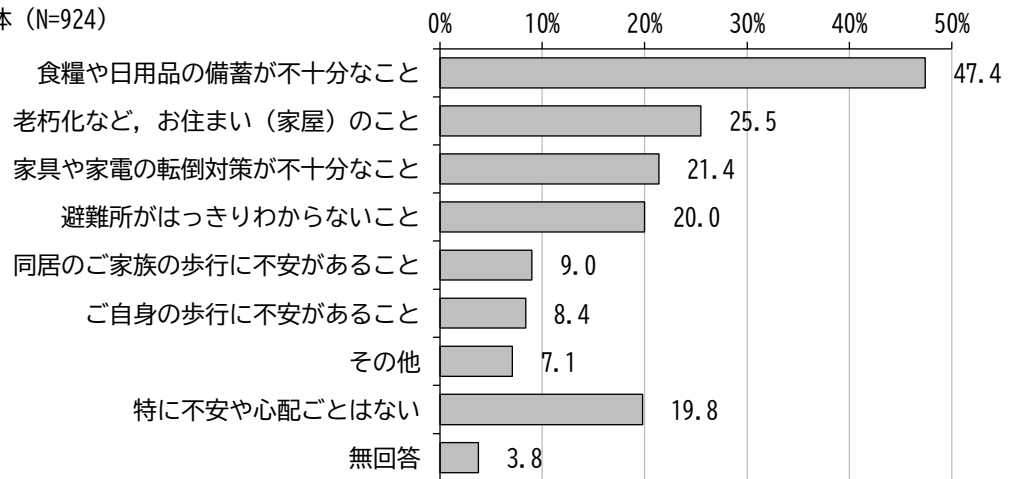


6 誰もが暮らしやすいまちづくりについておたずねします

問 25 災害時についての不安や心配ごとはありますか。(いくつでも○)

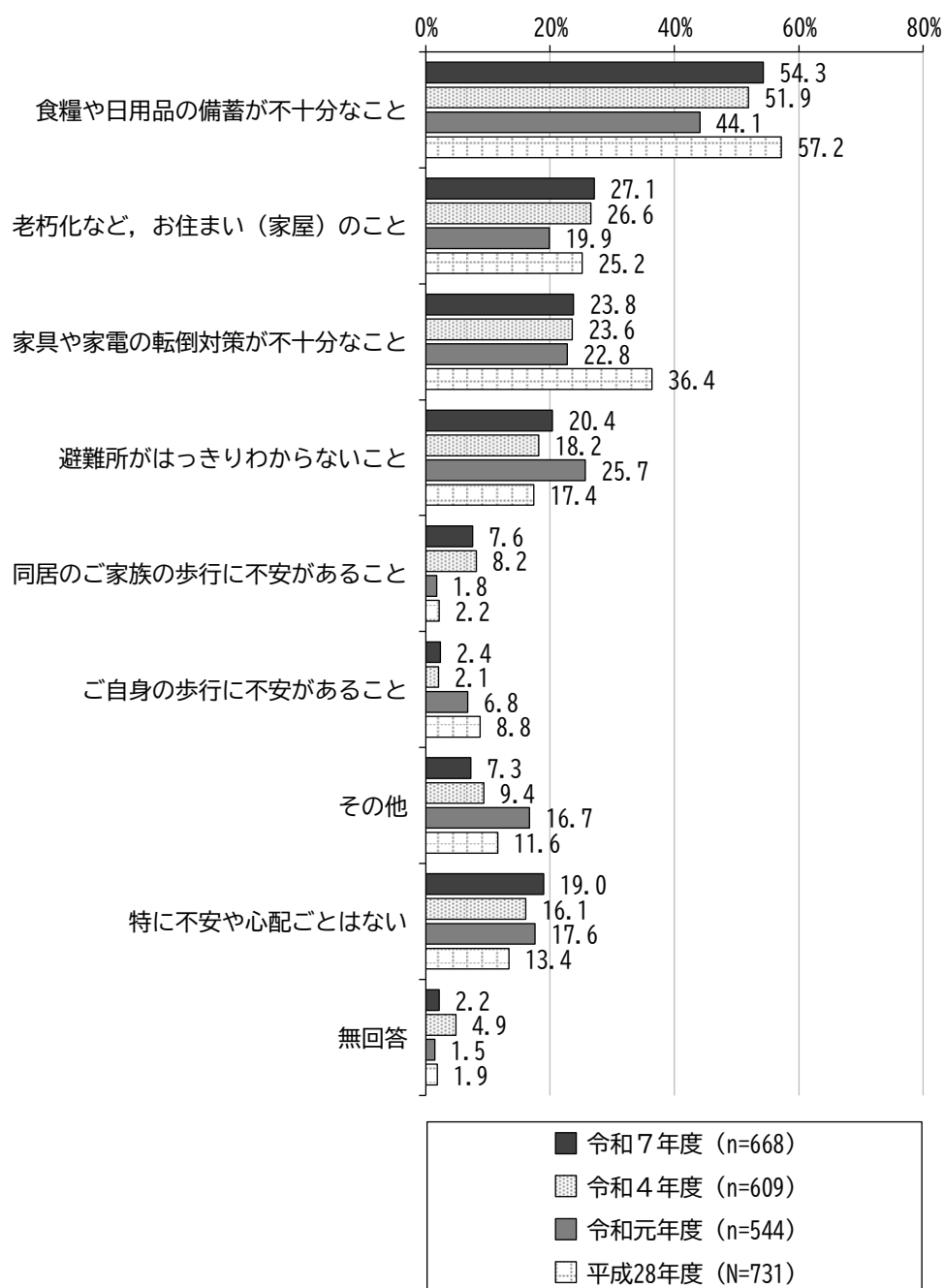
- 災害時についての不安や心配ごとは、「食糧や日用品の備蓄が不十分なこと(47.4%)」が最も多く、「老朽化など、お住まい(家屋)のこと(25.5%)」、「家具や家電の転倒対策が不十分なこと(21.4%)」が続いている。

【複数回答】全体(N=924)



- 経年で比較すると、令和7年度も平成28年度、令和元年度、令和4年度と同様に「食糧や日用品の備蓄が不十分なこと」が最も多くなっている。また、令和4年度と同様に「老朽化など、お住まい（家屋）のこと」が2番目に多くなっている。

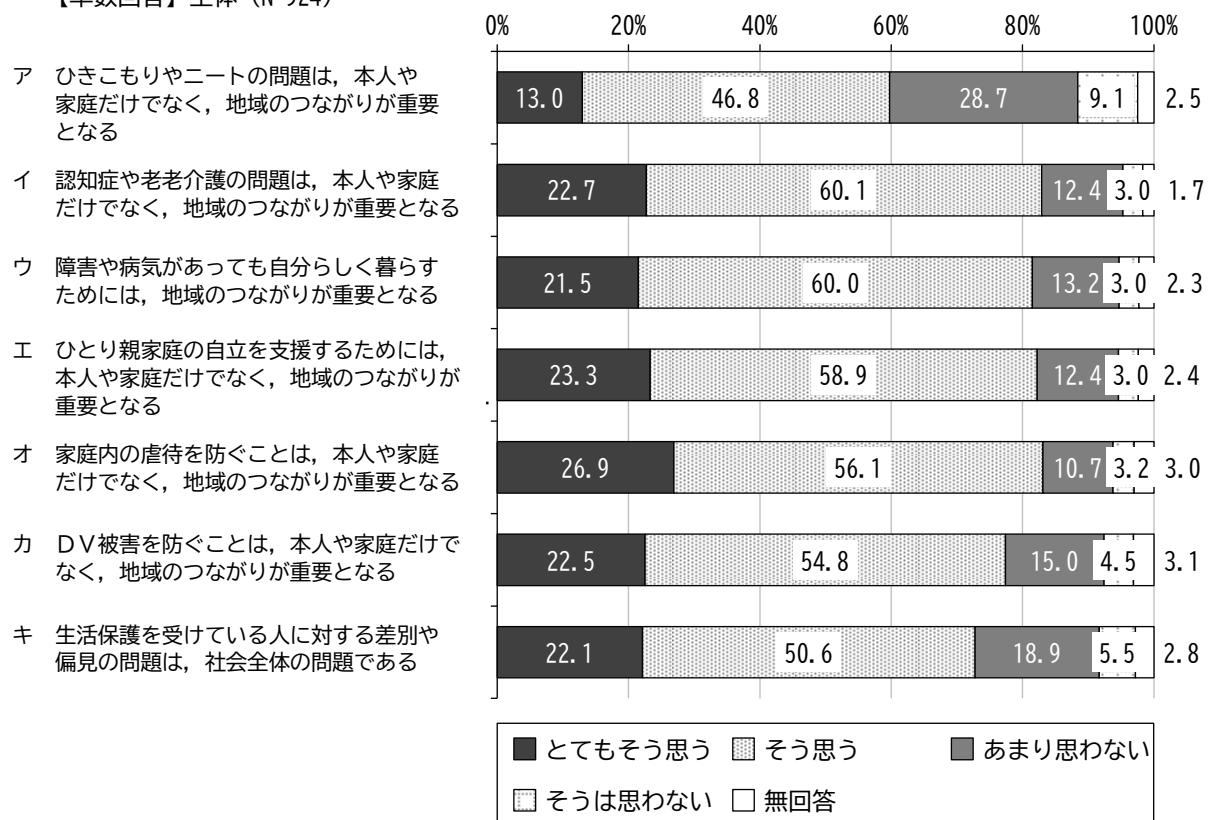
【複数回答】



問 26 地域のつながりに対する考え方について、あなたはどのように思いますか。
(それぞれ1つに○)

- 地域のつながりに対する考え方について、「とてもそう思う」と「そう思う」を合わせた『そう思う』の割合は、[オ 家庭内の虐待を防ぐことは、本人や家庭だけでなく、地域のつながりが重要となる (83.0%)] が最も多く、[イ 認知症や老老介護の問題は、本人や家庭だけでなく、地域のつながりが重要となる (82.8%)], [エ ひとり親家庭の自立を支援するためには、本人や家庭だけでなく、地域のつながりが重要となる (82.2%)] が続いている。
- 一方、「あまり思わない」と「そうは思わない」を合わせた『そう思わない』の割合は、[ア ひきこもりやニートの問題は、本人や家庭だけでなく、地域のつながりが重要となる (37.8%)] が最も多く、[キ 生活保護を受けている人に対する差別や偏見の問題は、社会全体の問題である (24.4%)], [カ DV被害を防ぐことは、本人や家庭だけでなく、地域のつながりが重要となる (19.5%)] が続いている。

【単数回答】全体 (N=924)



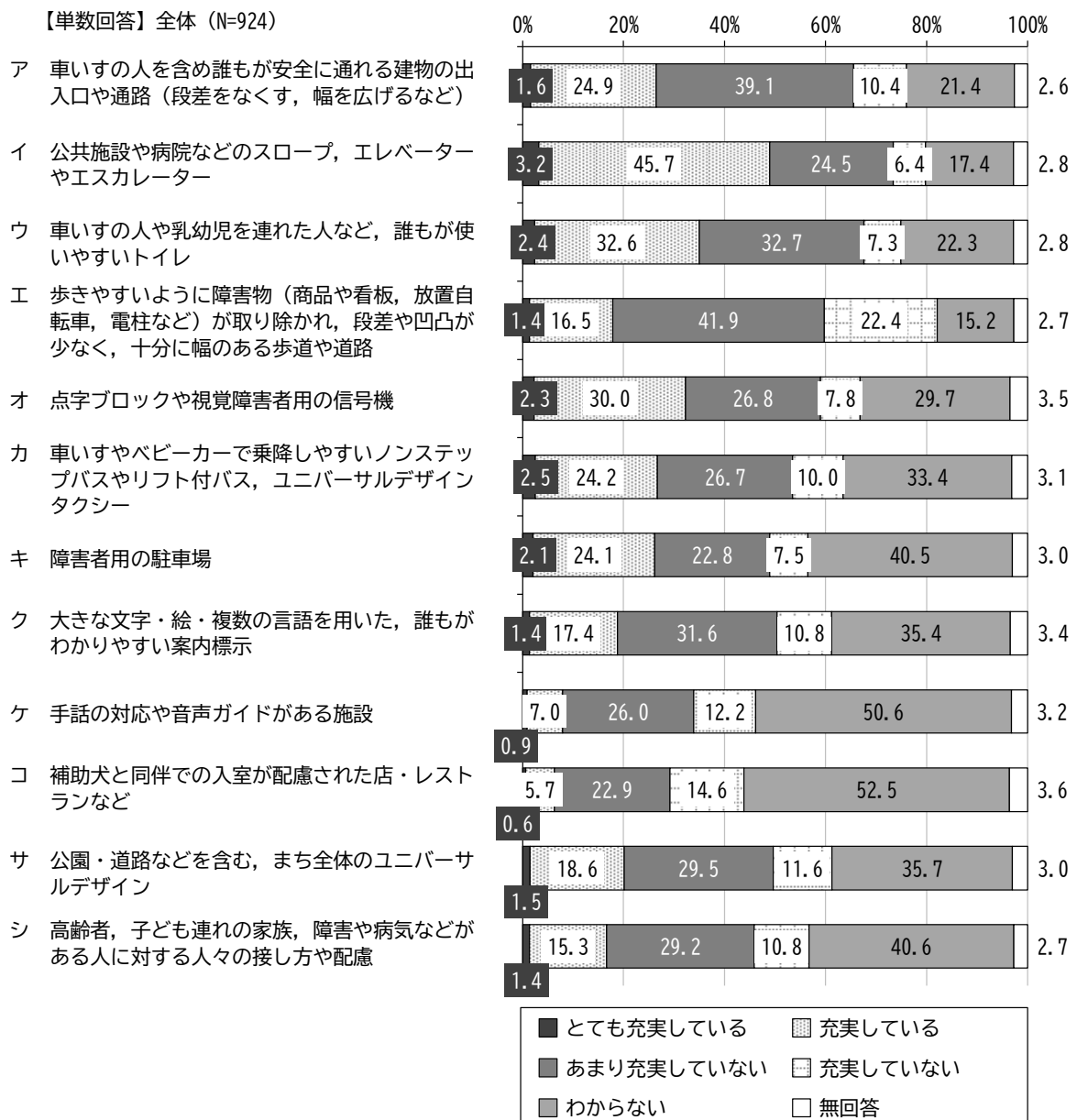
- 経年で比較する（令和7年度調査、令和4年度調査のみの項目を除く）と、[ア ひきこもりやニートの問題は、本人や家庭だけでなく、地域のつながりが重要となる]と [エ ひとり親家庭の自立を支援するためには、本人や家庭だけでなく、地域のつながりが重要となる] について、今回の『そう思う』割合がこれまでで最も多くなっている。
- 一方、[イ 認知症や老老介護の問題は、本人や家庭だけでなく、地域のつながりが重要となる] について、今回の『そう思わない』割合がこれまでで最も多くなっている。

単位：％		とても そう思う	そう 思う	あまり 思わない	そうは 思わない	無回答	『そう思う』	『そう思わない』
ア ひきこもりやニートの問題は、本人や家庭だけでなく、地域のつながりが重要となる	令和7年度（n=668）	12.4	44.2	32.2	10.3	0.9	56.6	42.5
	令和4年度（n=609）	14.1	37.6	36.6	10.7	1.0	51.7	47.3
	令和元年度（n=544）	14.0	42.0	33.1	9.4	1.5	56.0	42.5
	平成28年度（N=731）	10.0	36.9	39.1	9.7	4.2	46.9	48.8
イ 認知症や老老介護の問題は、本人や家庭だけでなく、地域のつながりが重要となる	令和7年度（n=668）	23.1	60.3	12.4	3.6	0.6	83.4	16.0
	令和4年度（n=609）	32.3	53.0	11.3	2.0	1.3	85.3	13.3
	令和元年度（n=544）	27.2	58.9	10.1	2.9	0.9	86.1	13.0
	平成28年度（N=731）	21.6	62.2	11.2	1.4	3.6	83.8	12.6
ウ 障害や病気があっても自分らしく暮らすためには、地域のつながりが重要となる	令和7年度（N=924）	21.5	60.0	13.2	3.0	2.3	81.5	16.2
	令和4年度（N=815）	24.9	55.3	14.6	1.7	3.4	80.2	16.3
エ ひとり親家庭の自立を支援するためには、本人や家庭だけでなく、地域のつながりが重要となる	令和7年度（n=668）	23.7	60.2	12.1	3.3	0.7	83.9	15.4
	令和4年度（n=609）	27.4	54.8	14.0	2.8	1.0	82.2	16.8
	令和元年度（n=544）	22.8	59.2	14.5	2.0	1.5	82.0	16.5
	平成28年度（N=731）	19.2	58.8	15.2	2.9	4.0	78.0	18.1
オ 家庭内の虐待を防ぐことは、本人や家庭だけでなく、地域のつながりが重要となる	令和7年度（n=668）	29.5	56.6	9.9	3.1	0.9	86.1	13.0
	令和4年度（n=609）	28.1	47.5	18.4	4.6	1.5	75.6	23.0
	令和元年度（n=544）	38.8	50.6	7.5	1.8	1.3	89.4	9.3
	平成28年度（N=731）	27.6	57.6	9.0	1.9	3.8	85.2	10.9
カ DV被害を防ぐことは、本人や家庭だけでなく、地域のつながりが重要となる	令和7年度（n=668）	23.2	56.1	15.6	4.2	0.9	79.3	19.8
	令和4年度（n=609）	22.5	47.3	22.8	6.2	1.1	69.8	29.0
	令和元年度（n=544）	27.0	53.5	15.1	3.3	1.1	80.5	18.4
	平成28年度（N=731）	19.3	52.0	21.1	3.3	4.4	71.3	24.4
キ 生活保護を受けている人に対する差別や偏見の問題は、社会全体の問題である	令和7年度（N=924）	22.1	50.6	18.9	5.5	2.8	72.7	24.4
	令和4年度（N=815）	17.2	49.2	24.7	5.0	3.9	66.4	29.7

※ [ウ 障害や病気があっても自分らしく暮らすためには、地域のつながりが重要となる]、[キ 生活保護を受けている人に対する差別や偏見の問題は、社会全体の問題である] は令和7年度調査、令和4年度調査のみの項目

問 27 市内のバリアフリー・ユニバーサルデザインについて、どのように感じていますか。
(それぞれ1つに○)

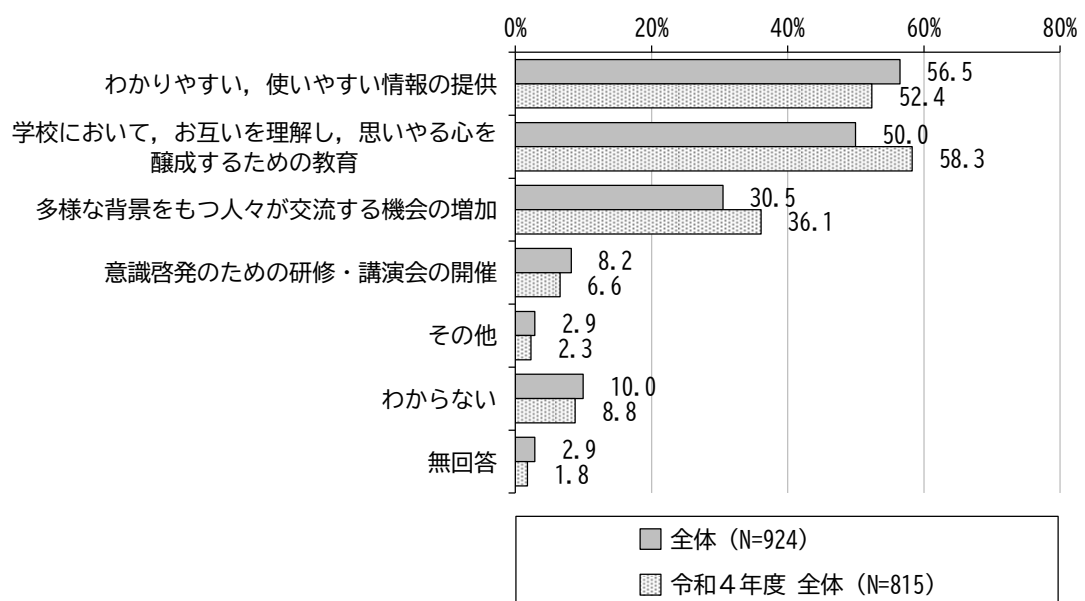
- 市内のバリアフリー・ユニバーサルデザインの状況について、「とても充実している」と「充実している」を合わせた『充実している』の割合は、[イ 公共施設や病院などのスロープ、エレベーターやエスカレーター (48.9%)] が最も多く、[ウ 車いすの人や乳幼児を連れた人など、誰もが使いやすいトイレ (35.0%)], [オ 点字ブロックや視覚障害者用の信号機 (32.3%)] が続いている。
- 一方、「あまり充実していない」と「充実していない」を合わせた『充実していない』の割合は、[エ 歩きやすいように障害物（商品や看板、放置自転車、電柱など）が取り除かれ、段差や凹凸が少なく、十分に幅のある歩道や道路 (64.3%)] が最も多く、[ア 車いすの人を含め誰もが安全に通れる建物の出入口や通路（段差をなくす、幅を広げるなど) (49.5%)], [ク 大きな文字・絵・複数の言語を用いた、誰もがわかりやすい案内標示 (42.4%)] が続いている。



問 28 誰もが暮らしやすいまちづくりに向けて、病気・障害・国籍・生活習慣などの違いによる心理的な障壁を取り除く（心のバリアフリー）ために、特に必要な取組は何だと思いますか。（2つまで○）

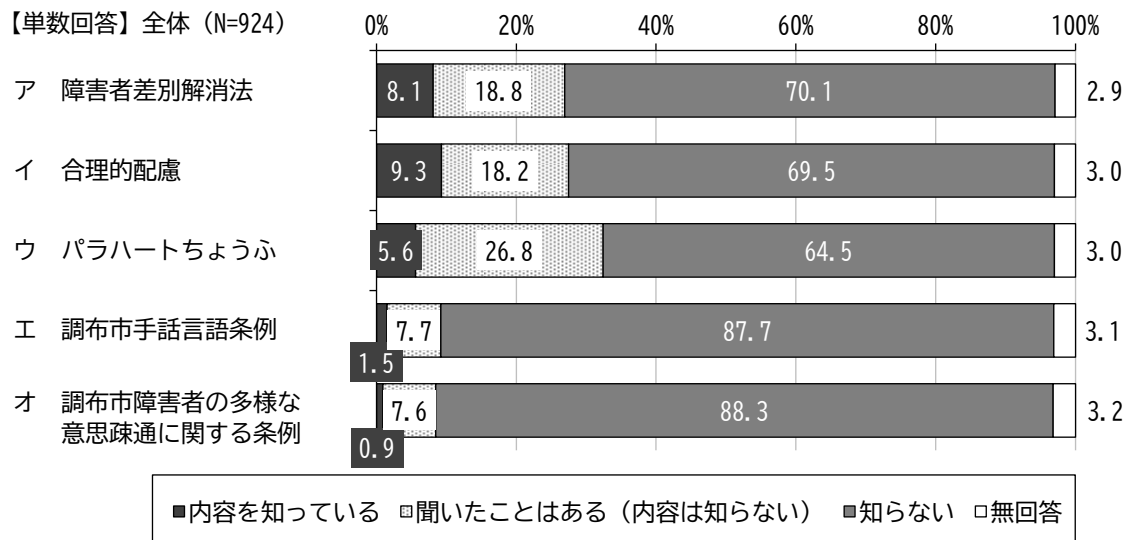
- 心のバリアフリー化に向けた取組は、「わかりやすい、使いやすい情報の提供（56.5%）」が最も多く、「学校において、お互いを理解し、思いやる心を醸成するための教育（50.0%）」、「多様な背景をもつ人々が交流する機会の増加（30.5%）」が続いている。
- 令和4年度の調査結果と比較すると、「学校において、お互いを理解し、思いやる心を醸成するための教育」が8.3ポイント、「多様な背景をもつ人々が交流する機会の増加」が5.6ポイント低くなっている。

【複数回答】



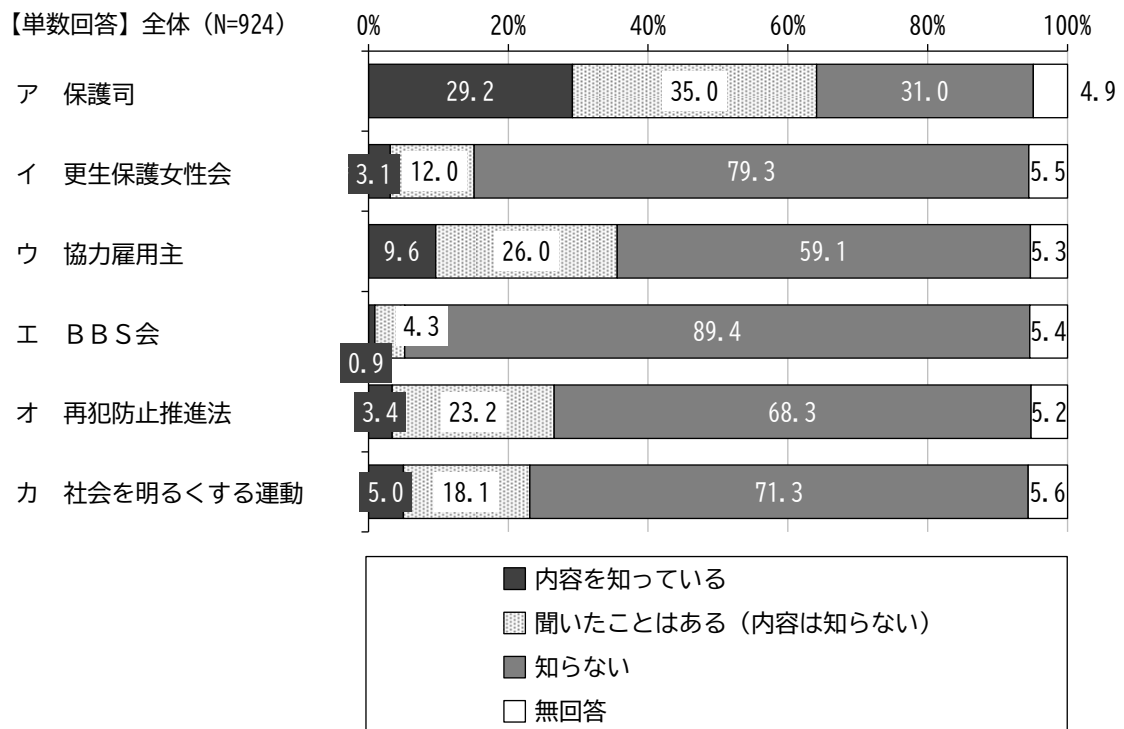
問 29 共生社会の充実のための法律や考え方，調布市が令和6年度に制定した2つの条例を知っていますか。（それぞれ1つに○）

- 共生社会の充実のための法律や考え方について，「内容を知っている」の割合は，[イ 合理的配慮（9.3%）]が最も多く，[ア 障害者差別解消法（8.1%）]，[ウ パラハートちょうふ（5.6%）]が続いている。市が令和6年度に制定した2つの条例について，「内容を知っている」の割合は，[エ 調布市手話言語条例（1.5%）]，[オ 調布市障害者の多様な意思疎通に関する条例（0.9%）]が続いている。



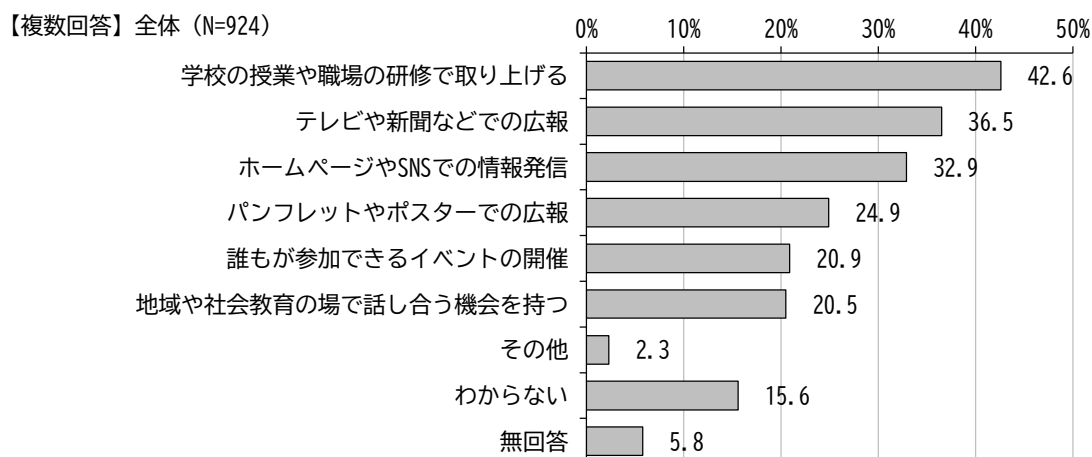
問 30 犯罪や非行の防止，犯罪や非行をした人たちの更生（立ち直り）に協力する下記の民間協力者や活動などを知っていますか。（それぞれ1つに○）

- 犯罪や非行の防止，犯罪や非行をした人たちの更生（立ち直り）に協力する民間協力者や活動などの認知度について、「内容を知っている」の割合は，[ア 保護司（29.2%）]が最も多く，[ウ 協力雇用主（9.6%）]が続いている。それ以外の項目は「知らない」が6割を超えている。



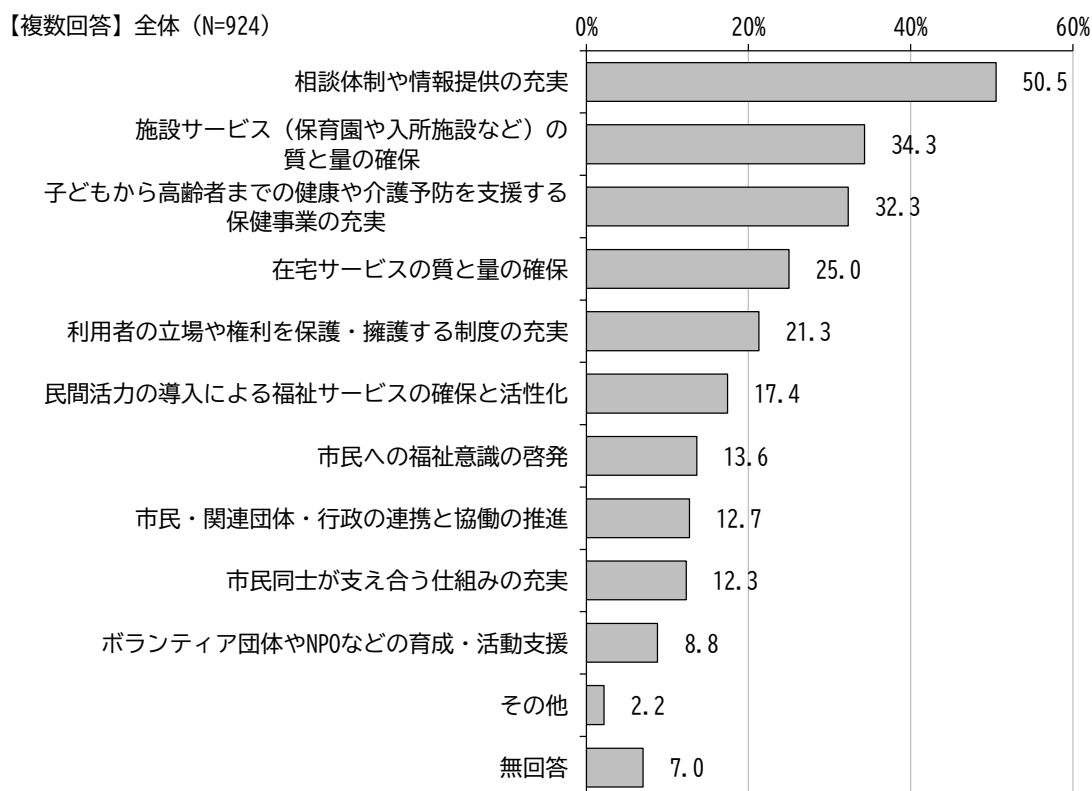
問 31 更生支援（再犯防止）に関して広く市民の理解や関心を深めるためには、どのような取組が必要だと思いますか。（3つまで○）

- 更生支援（再犯防止）に関して広く市民の理解や関心を深めるために必要な取組は、「学校の授業や職場の研修で取り上げる（42.6%）」が最も多く、「テレビや新聞などでの広報（36.5%）」、「ホームページやSNSでの情報発信（32.9%）」が続いている。



問 32 調布市の福祉施策（サービス）をより充実していくために、特に重要と考える取組は何ですか。（3つまで○）

- 市の福祉施策（サービス）の充実のために重要な取組は、「相談体制や情報提供の充実（50.5%）」が最も多く、「施設サービス（保育園や入所施設など）の質と量の確保（34.3%）」、「子どもから高齢者までの健康や介護予防を支援する保健事業の充実（32.3%）」が続いている。



－ 回答者属性分析 －

- 市の福祉施策（サービス）の充実のために重要な取組の割合を年代別にみると、10 歳代、30 歳代で「施設サービス（保育園や入所施設など）の質と量の確保」、それ以外の年代で「相談体制や情報提供の充実」が最も多くなっている。
- 性・年代別にみると、男性、女性ともにすべての年代で「相談体制や情報提供の充実」が最も多くなっている。
- 福祉圏域別にみると、すべての地域で「相談体制や情報提供の充実」が最も多くなっている。

単位：％		相談体制や情報提供の充実	利用者の立場や権利を保護・擁護する制度の充実	子どもから高齢者までの健康の充実や介護予防を支援する保健事業の充実	在宅サービスの質と量の確保	施設サービス（保育園や入所施設など）の質と量の確保	ボランテニア団体や N P O などの育成・活動支援	市民同士が支え合う仕組みの充実	民間活力の導入による福祉サービスの確保と活性化	市民・関連団体・行政の連携と協働の推進	市民への福祉意識の啓発	その他	無回答
全体 (N=924)		50.5	21.3	32.3	25.0	34.3	8.8	12.3	17.4	12.7	13.6	2.2	7.0
年代別	10歳代 (n=12)	33.3	25.0	8.3	25.0	50.0	16.7	16.7	8.3	33.3	0.0	0.0	8.3
	20歳代 (n=79)	57.0	36.7	32.9	17.7	32.9	2.5	7.6	17.7	21.5	10.1	2.5	0.0
	30歳代 (n=119)	44.5	25.2	37.8	17.6	54.6	4.2	16.0	14.3	10.1	12.6	2.5	1.7
	40歳代 (n=147)	50.3	19.7	33.3	19.0	32.7	12.2	9.5	20.4	15.0	12.9	2.7	3.4
	50歳代 (n=168)	54.8	22.0	36.3	25.6	31.0	7.7	14.9	19.6	13.1	19.0	1.2	0.6
	60歳代 (n=143)	53.8	15.4	30.8	29.4	33.6	10.5	14.7	21.0	14.0	15.4	1.4	9.1
	70歳代 (n=134)	55.2	20.1	29.1	29.9	29.9	11.2	10.4	14.2	8.2	10.4	3.0	13.4
	80歳以上 (n=113)	39.8	17.7	27.4	33.6	25.7	9.7	11.5	14.2	8.0	14.2	2.7	18.6
性・年代別	男性：10～20歳代 (n=38)	47.4	31.6	23.7	18.4	31.6	2.6	10.5	23.7	28.9	7.9	2.6	0.0
	男性：30～40歳代 (n=92)	46.7	27.2	31.5	17.4	39.1	12.0	13.0	14.1	13.0	16.3	3.3	3.3
	男性：50～60歳代 (n=134)	50.7	21.6	33.6	25.4	26.9	11.2	12.7	21.6	10.4	17.9	1.5	2.2
	男性：70歳以上 (n=101)	51.5	12.9	33.7	28.7	30.7	11.9	8.9	14.9	7.9	14.9	3.0	14.9
	女性：10～20歳代 (n=53)	58.5	37.7	34.0	18.9	37.7	5.7	7.5	11.3	18.9	9.4	1.9	1.9
	女性：30～40歳代 (n=173)	48.0	19.7	37.6	19.1	43.9	6.9	12.1	19.7	12.7	11.0	2.3	2.3
	女性：50～60歳代 (n=175)	57.7	16.0	34.3	28.6	36.0	7.4	16.6	19.4	16.0	16.6	1.1	6.3
	女性：70歳以上 (n=141)	46.1	24.1	24.8	34.8	26.2	9.2	12.1	13.5	8.5	10.6	2.1	15.6
福祉圏域別	緑ヶ丘・滝坂 (n=127)	49.6	18.1	38.6	26.0	39.4	7.1	13.4	18.9	14.2	10.2	1.6	4.7
	若葉・調和 (n=120)	47.5	25.0	26.7	24.2	36.7	6.7	15.0	11.7	10.0	20.8	1.7	8.3
	上ノ原・柏野 (n=82)	51.2	24.4	26.8	34.1	29.3	9.8	8.5	20.7	9.8	9.8	0.0	8.5
	北ノ台・深大寺 (n=72)	45.8	30.6	40.3	19.4	30.6	13.9	12.5	12.5	11.1	9.7	4.2	4.2
	第二・八雲台・国領 (n=130)	56.2	16.9	31.5	22.3	31.5	11.5	10.8	15.4	16.2	13.1	2.3	9.2
	染地・杉森・布田 (n=112)	45.5	25.0	33.9	25.0	33.0	6.3	9.8	17.9	16.1	9.8	3.6	6.3
	第一・富士見台・多摩川 (n=142)	57.0	20.4	29.6	26.1	33.1	8.5	17.6	23.2	13.4	16.2	2.8	4.9
	第三・石原・飛田給 (n=130)	48.5	17.7	32.3	23.8	37.7	9.2	10.0	17.7	10.0	16.9	1.5	7.7

問 33 市民同士がお互いに支え合い、住み慣れたまちで誰もが安心して暮らすことのできるまちづくりを進めるためには、以下の①～③の取組が重要です。これらの取組について、ご意見、ご提案をお聞かせください。（自由記述）

○ 市民同士がお互いに支え合い、住み慣れたまちで誰もが安心して暮らすまちづくりの取組についてのご意見、ご提案を自由記述形式でたずねたところ、401 件の回答があった。以下に項目別の意見数を掲載する。

項目	意見区分	意見数
①地域活動の活性化・市民同士の支え合いの仕組みづくり	ア 自治会活動の活性化 イ 地域活動の活性化 ウ 地域活動の情報 エ 近所のつながり	95
②相談・サービスの充実	ア 市のサービス イ サービス等の情報提供 ウ 相談体制の充実	108
③安全・安心の確保等	ア 交通安全 イ バリアフリー化 ウ 防災の強化 エ 防犯の強化	95
取組番号の選択なし		23
3つの取組以外で気になっていること	ア 生活環境 イ 市の施策 ウ 医療、福祉、子育て、防災 エ アンケート	80
合計		401

○ 項目別に意見を抜粋して掲載する（原文通り）。

①地域活動の活性化・市民同士の支え合いの仕組みづくり

ア 自治会活動の活性化

- 自治会活動などを通じて、多数の人が気軽に参加出来るような体制をつくり運営できると良い。（男性、60 歳代）
- 自治会に参加していますが役員がお年寄りだらけで不安です。我が家は古いマンションのため、マンションごと加入が必須となっていますが、周りの新しいマンションの方は、自治会の存在すら知らないだろうし、当然入り方も分からないと思います。マンション管理組合もほぼ外注のような時代ですが「自治会」はもっと分かりやすく、参加メリットと入会方法を各自治会やったほうが良いのだろうと思います。（女性、40 歳代）

- 自治会への加入率を上げるための施策がほしいところ。災害等があったときにも、結局自治会のような組織がしっかりしていないと支援もなかなか届かない。(男性, 50 歳代)

イ 地域活動の活性化

- 同じ地域内で組に分かれて運動会を行う等、一緒に活動する機会、顔を合わせられる機会があればいいのではないかと思います。(女性, 30 歳代)
- 障害のある人, 中学生, 高校生, 子供, 赤ちゃん連れの人, 高齢の人, 誰もが立ち寄れるホットスペース的な所があって, たまにイベント的な何かを作ってみようみたいな催しがある。お互いにコミュニケーションを取れる様な場所作りがあったらいいと思います。居場所のない人にとっては, 居場所も出来てよいのでは。ただ管理人的な人が居ないと難しい, アドバイスをしてもらって管理する人の育成もしなくてはいいと思います。例えば編物, 縫物を高齢の人に教えてもらうとか。そういう所で相談, サービスにつなげていけたら良いと思います。(女性, 60 歳代)
- 運営する為の資金をもう少し欲しい。道具や設備を整えるための対応を早くして欲しい。(男性, 20 歳代)

ウ 地域活動の情報

- 地域活動は特定の人にしか認知されていないように感じます。子どもが小学生のときには, 地域運動会があり地域の人と交流したりしましたが, 子どもが大きくなると, 特に私たちのような外から来た人には, 地域活動に参加する機会がないように感じます。どんな活動があるのか知らないので, もっと広報していただけたらありがたいです。(女性, 40 歳代)
- 調布のパンフレット等に色々な情報を載せているが, 情報が多すぎて, 読む気になれない。その都度情報を絞って配信した方が, 分散されずに認知度が高まるのではないか。(女性, 40 歳代)
- 地域活動に一時参加したことがあるが, 「時間的な制約を受ける」ことが参加の足かせになると感じた。活動・会合の動画配信があれば, その場でどのような発言があったのか, 活動方向性がどうなっているのかが, リアルタイムでなくても知ることができる。対面や実際に会合に参加して得られる情報や体験・提供できる活動もあるだろうが, 活動を知ってもらう・参加意識を持ってもらうために, もっと技術を活用する余地はあるのではないかと思います。すでにやっていたらすみません。(男性, 60 歳代)

エ 近所のつながり

- どんどん無くなっている自治体や学校エリアでの地域の繋がり復活。自身や災害時に助け合うことが出来るよう基盤づくり。お金を出して支援していく! 地区のお祭りなどを通してやる。(女性, 50 歳代)
- 都会的な生活により, 居住者の出入りがあるのは仕方ないが, それにより近所付き合いが減って防犯の目も薄くなることを危惧している。また, 災害発生時の即時互助の関係を作れるかも不安に感じる。(男性, 30 歳代)
- 色々な背景をもつご家庭が増えている今, 家族の安心安全のためにも交流を深めることに抵抗があることも事実です。昔のようにいかないと思うことも多くあります。(女性, 30 歳代)

②相談・サービスの充実

ア 市のサービス

- 福祉サービス等、こちらから調べて聞きに行かない限り案内がない。福祉サービスを利用したいと思っても、手続きが複雑、時間と労力を要し利用しづらい。(男性, 30 歳代)
- 今の時代は、ご近所付き合いというものを嫌う傾向にあると思うので(私自身も出来るだけ近所の人とは関わりたくない)、それよりも個人の権利を保障するような制度やサービスを充実させた方がより住みやすく快適な環境を作る事が出来るのではないかと考えます。(女性, 10 歳代)
- 私は入間町に住んでいる為、調布市のサービスや相談窓口と言うと、調布駅近くの市役所などの施設に行かないと、受けられないというイメージがあります。調布市のはずれに住んでいる人達は、調布の中心迄行かないと具体的なサービスが受けられないという事です。入間町にも支所はありますが、わざわざ行かないとたどり着かない場所にあり、何かのついでと言う事が出来ません。提案したいのは、23 区でも見られる様な駅に行政サービスを受けられる支所を置いては如何でしょうか。入間町近辺だと仙川か、つつじが丘の駅に行政の窓口があるとサービスを受けられる、情報をキャッチ出来る、市民の意見も聞く事が出来て、市としても活性化するのではないかと思います。(女性, 50 歳代)

イ サービス等の情報提供

- ②相談・サービスの充実だけでなくどのようにその情報を周知するか？を検討する事を重要視する事が大事と考えている。ホームページ・SNSへ載せる事で満足しても見たい人や知っている人のみへの周知となってしまう。頻繁に目に入るようなもの(広報誌や駅・バス広告等)で、周知が大事だと思う(あと、地域の掲示板等)。広報誌は誰向けのお知らせかを大きく記載し、詳細は本文(字のみだけは避けられる為、分かり易くする必要ありだが)、費用面の相談も必要とは思いますが。③にも関連だが、災害関連情報や事件(以前頻発していた強盗等)も周知して欲しい。近隣で発生しても気付かず過ごし…となるといざという時に対策、検討も出来なくなる為。(女性, 30 歳代)
- 何を何処に相談すればよいか分からない時、最初にワンストップで何でも相談出来る所の連絡先、情報が広く周知されていると良いと思う。警察は110番、火事は119番の様に。CSWやサポーターについての周知が足りないと思う。(女性, 70 歳代)
- 日頃、必要に感じていない福祉やそれに関する市としての活動について、知らない人や興味のない人にも広く知れるような広報(知る機会)にもう少し取り組んでいただけるとありがたいです。(このようなアンケートもひとつの機会、きっかけになると思いました)(男性, 60 歳代)

ウ 相談体制の充実

- 市の相談窓口を増やし、相談しやすい環境を作って欲しい。(男性, 70 歳代)
- 相談できる環境への取り組みはとても重要だと思いますが、相談したい内容・個人の状況は人それぞれのため、例えば「福祉サービス」の相談窓口といった専門窓口でなく、何でも相談できる窓口があれば良いと思う。まず、状況をヒアリングすることで

そこから適切な窓口を紹介するほうが様々なサービスに連携しやすいと思うし、どこに相談すべきか分からない人もとりあえず助けを求めやすくなると思う。実際私も相談したい内容があっても HP に記載してある内容ではなくこれは相談して良いのか、そもそも分からない…ということがあった。お年寄り等はなおさらだと思う。

(女性, 30 歳代)

- 行政の相談やサービスを利用したいときに、実際に行動を起こすにはハードルを感じます。スマホで出来る、軽い内容でも相談できるなど、気軽に利用できるような仕組みや周知があるといいなと思います。(女性, 30 歳代)
- 相談したいとき、情報を取りたいとき、市役所の営業時間外でもチャットや AI によってある程度の情報が得られるシステムがあるといいと思います。(女性, 50 歳代)

③安全・安心の確保等

ア 交通安全

- 小さい子供がいる為、交差点の見守り、旗振りの方とかを小学校の下校に合わせてお願いしたい。公園のパトロール、地域のパトロール強化。道路が狭いし、歩道が危ない所があるので(旧甲州街道)安全対策をして欲しい。(女性, 40 歳代)
- 調布は幹線も住居の周りの道路も、歩道がなかったり道自体が狭かったりという状況。バリアフリーや子育て環境の観点で早く対応を充実させるべきです。(女性, 60 歳代)
- 歩道や車道が狭い、でこぼこ。広い公園、大きい遊具が少ない。街灯が少ない。交通ルールが守られていない。(男性, 30 歳代)

イ バリアフリー化

- 高齢者や心身障がい者が住みやすい便利なやさしい町づくりに努力して欲しい。(男性, 70 歳代)
- 車椅子での移動の時、段差をなるべく少なくして欲しい!!実際バスには乗りづらいです!!(女性, 70 歳代)

ウ 防災の強化

- 調布市は災害発生時の対策について積極的に取り組んでいるが、避難した経験からすると量の点で十分ではないように思う。(男性, 40 歳代)
- 調布市からの警報アナウンスが時々流れますが、家中でも外に出ても聞き取れない(音はきこえるが内容が分からない)スマホで聞ければと思います。地震警報は鳴りますが。(女性, 70 歳代)
- 防犯や災害への取り組み。例えば水害が多く発生しているにも関わらず、自宅前の排水溝等にカバーを掛けている住宅が散見される。市では市報等で周知していると言うが、発信すれば良いと言うことではなく個別にチラシを入れたり対話が必要だと思います。防犯面からも野川河川周辺の除草等の整備が必要。またすぐに伸びてしまうので三鷹市のように石での整備をした方が良くと思います。サイクリング道路にしても東京都との協議の上整備してほしいと思います。(男性, 60 歳代)

エ 防犯の強化

- 街灯が少なく、夜間は防犯面で恐怖を感じます。特に裏道は真っ暗です。(女性, 70 歳代)
- 見回りの実施の強化。(男性, 30 歳代)
- 景気の悪化に伴い様々な犯罪が増えており、知識がないと対応を誤ってしまう可能性も高まります。高齢になるにつれ、新しい技術などには疎くなっていくことが予想されるので、最新の犯罪の手法を常に周知することは必要なのかなと感じます。(女性, 40 歳代)

3つの取組以外で気になっていること

ア 生活環境

- タバコを吸う人が多いので取り締まりを強化して欲しいです。条例による受動喫煙禁止のエリア内でも散見されます。(男性, 40 歳代)
- 自転車専用レーンをたくさん作ってください。(男性, 10 歳代)
- 市民を増やすだけ増やしても、そこに追いつかないものが多い。駅前の駐輪場が少ないとか。(女性, 40 歳代)

イ 市の施策

- 調布駅前の開発が行きあたりばったりに感じており、特に助けが必要な人たちや子どもたちにとってより良いものを作ろうという意識を感じられない。また、社会福祉協議会の施設を移設するという話を聞いたことがあるのですが、それも利用者を第一に考えて選択をしていってほしいと思います。(女性, 30 歳代)
- 地域の繋がり深化をターゲットにするという意味では、市役所前でよく行われている青空マーケットのような催事を各地域で年一回でも開催するのも良いのかなと思います。(飛田給駅の FC 東京とタッグを組んだイベント等は効果ありだと感じています。) 調布市は他地方公共団体よりも恵まれている点が沢山あるので、人との繋がりを持ちたいと思わない人へも自然とアプローチできる方法を模索していきたいですね。(男性, 40 歳代)
- 様々な取り組みが本当に必要な人に届く仕組みづくりを考えて欲しい。取り組みに対し、深く理解をし、必要性を感じさせる事ができなければ、ボランティアを募るのは困難かと思います。(女性, 50 歳代)

ウ 医療、福祉、子育て、防災

- 学校に行けていない子、不登校の子どもに対しての支援が乏しい。学校の先生の負担大の為、専門に対応する人を学校に置く事。(女性, 50 歳代)
- 私は四肢障害ではないので利用はしないが、市内の様々な駐車場の障害者用駐車スペースに、明らかに健常者が駐車しているのをよく見かける。障害者用だという事を誰もが気づくようにハッキリ表示してほしい。(女性, 50 歳代)

エ アンケート

- 今回のアンケートで調布市がいろいろな取り組みを行っていることがわかったが、ほとんど認知していなかった。機関誌等は読まずに捨ててしまうため、他の広報が必要だと思う。(男性, 30 歳代)
- 市役所からのアンケートが多過ぎる。回答率を上げたいのであれば、質問項目を減らした方がいい。10 分程度のアンケートであれば苦にならない。(女性, 40 歳代)

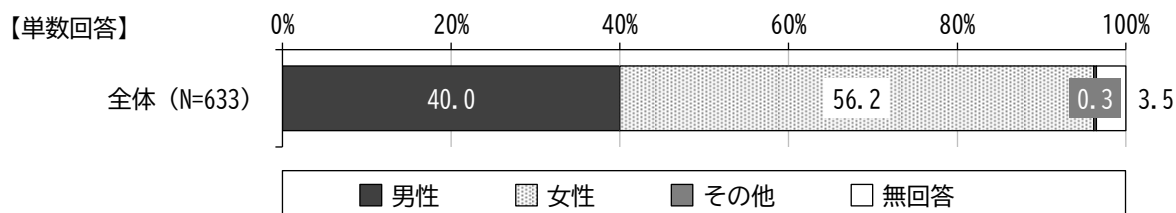
第3章 高齢者（65歳以上）調査結果

【調査名】高齢者が暮らしやすいまちづくりのための福祉に関するアンケート

1 あなた（ご本人）についておたずねします

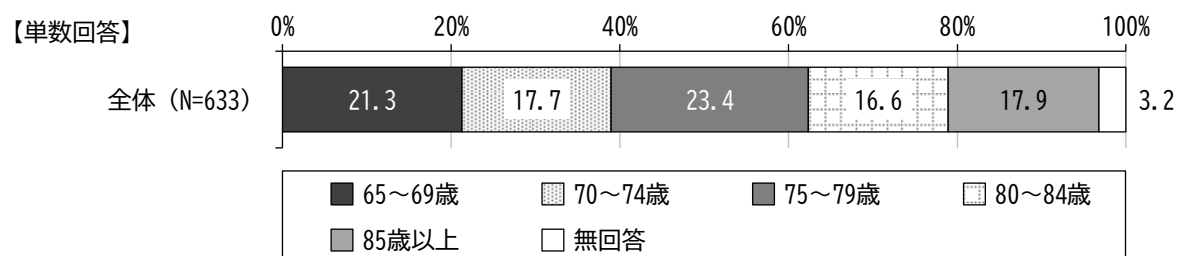
問1 性別を教えてください。（1つに○）

○ 性別は、「男性（40.0%）」、「女性（56.2%）」、「その他（0.3%）」である。



問2 年齢を教えてください。（1つに○）（令和7年10月1日現在）

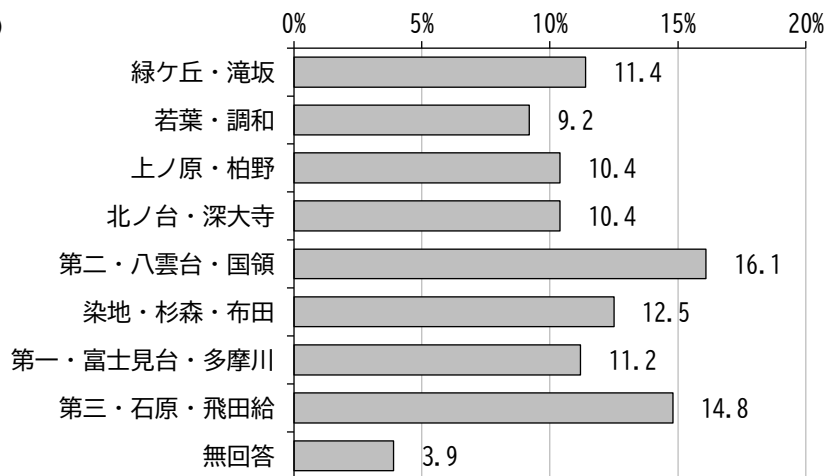
○ 年齢は、「75～79歳（23.4%）」が最も多く、「65～69歳（21.3%）」、「85歳以上（17.9%）」が続いている。



問3 お住まいの地域を教えてください。(1つに○)

- 居住地域(福祉圏域)は、「第二・八雲台・国領(16.1%)」が最も多く、「第三・石原・飛田給(14.8%)」、「染地・杉森・布田(12.5%)」が続いている。

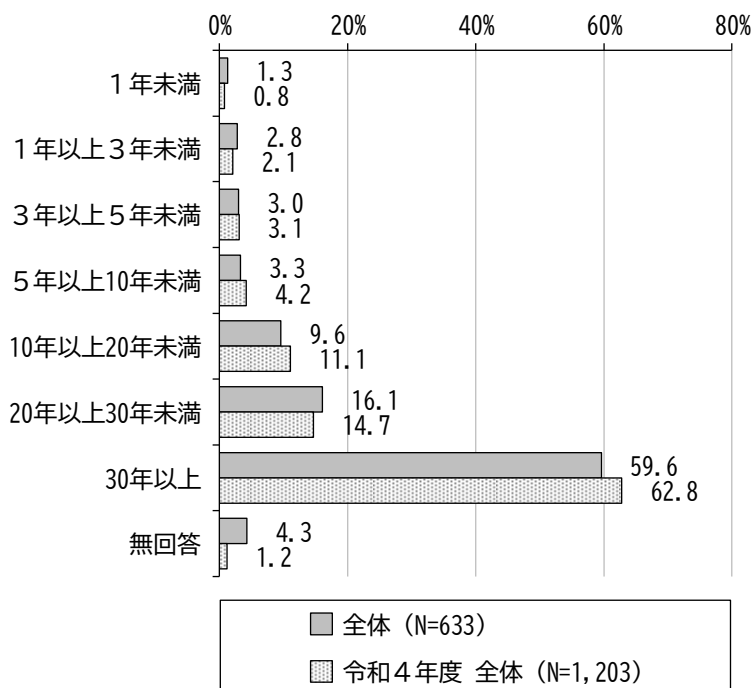
【単数回答】全体(N=633)



問4 市内での居住年数(市外への転居期間を除く通算年数)を教えてください。(1つに○)

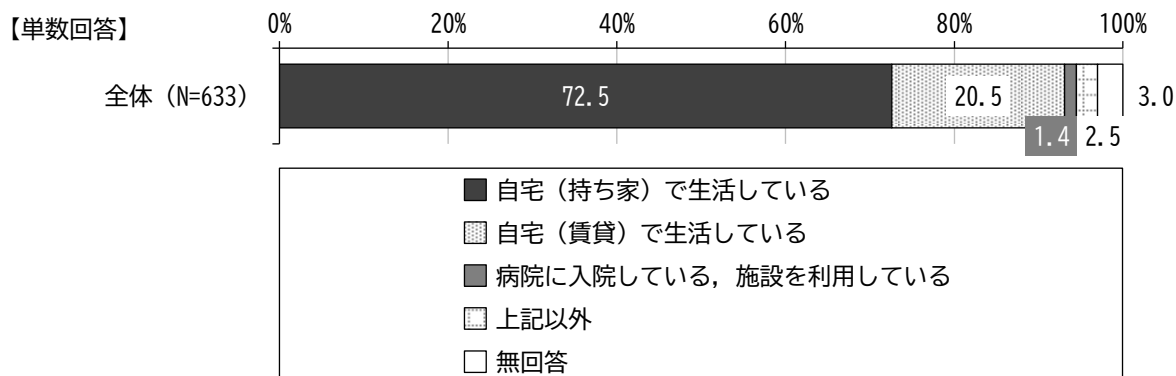
- 居住年数は、「30年以上(59.6%)」が最も多く、「20年以上30年未満(16.1%)」、「10年以上20年未満(9.6%)」が続いている。
- 令和4年度の調査結果と比較すると、大きな変化はみられない。

【単数回答】



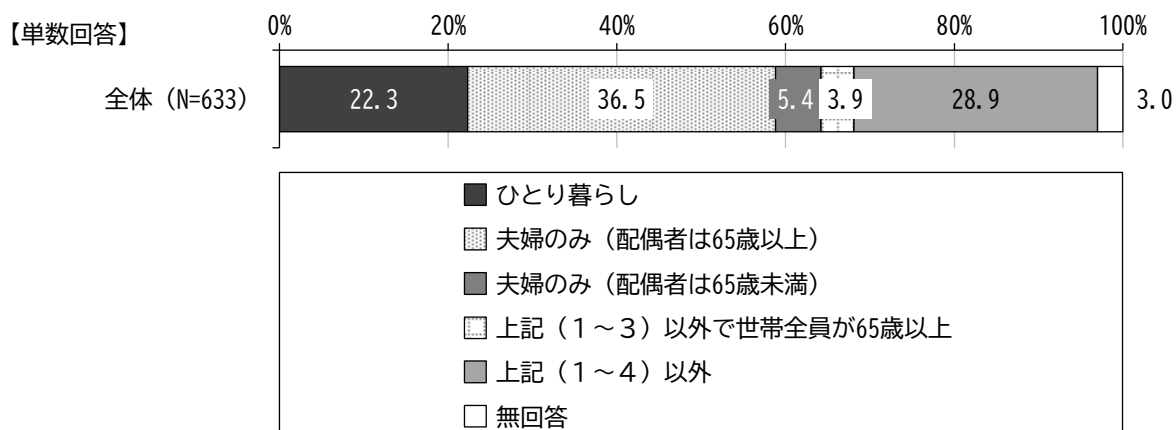
問5 住居形態を教えてください。(1つに○)

- 住居形態は、「自宅（持ち家）で生活している（72.5%）」が最も多く、「自宅（賃貸）で生活している（20.5%）」、「上記以外（2.5%）」が続いている。



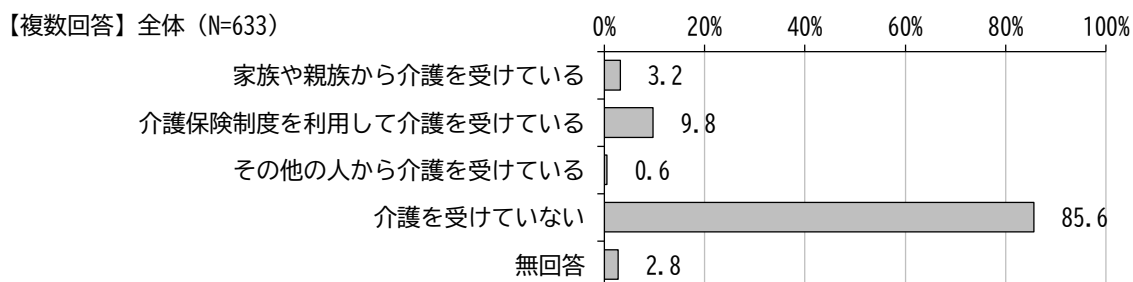
問6 同居している家族構成を教えてください。(1つに○)

- 家族構成は、「夫婦のみ（配偶者は65歳以上）（36.5%）」が最も多く、「上記（1～4）以外（28.9%）」、「ひとり暮らし（22.3%）」が続いている。



問7 あなたは現在、介護を受けていますか。(いくつでも○)

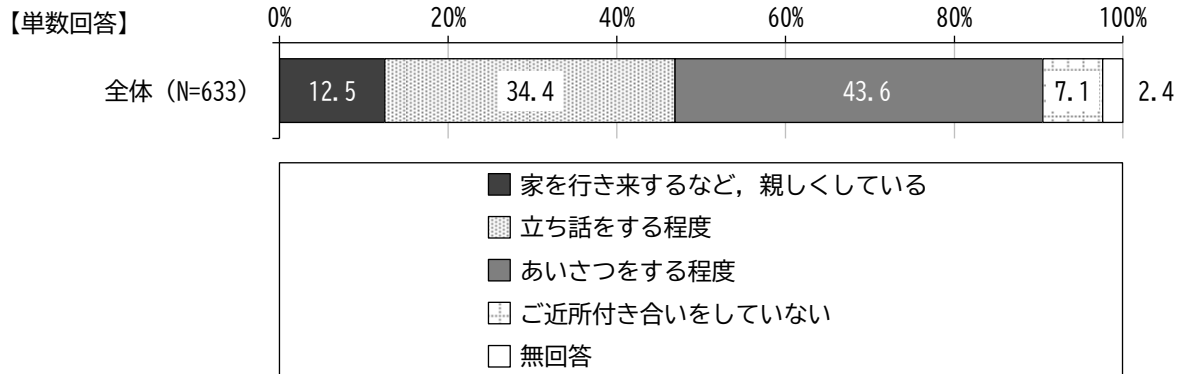
- 介護の状況は、「介護を受けていない（85.6%）」が最も多く、「介護保険制度を利用して介護を受けている（9.8%）」、「家族や親族から介護を受けている（3.2%）」が続いている。



2 日頃のコミュニケーションについておたずねします

問8 ご近所付き合いは、どの程度していますか。(主なもの1つに○)

- 近所付き合いの状況は、「あいさつをする程度（43.6%）」が最も多く、「立ち話をする程度（34.4%）」、「家を行き来するなど、親しくしている（12.5%）」が続いている。
- 「家を行き来するなど、親しくしている」と「立ち話をする程度」を合わせた『親密な近所付き合いをしている』割合は46.9%となっている。



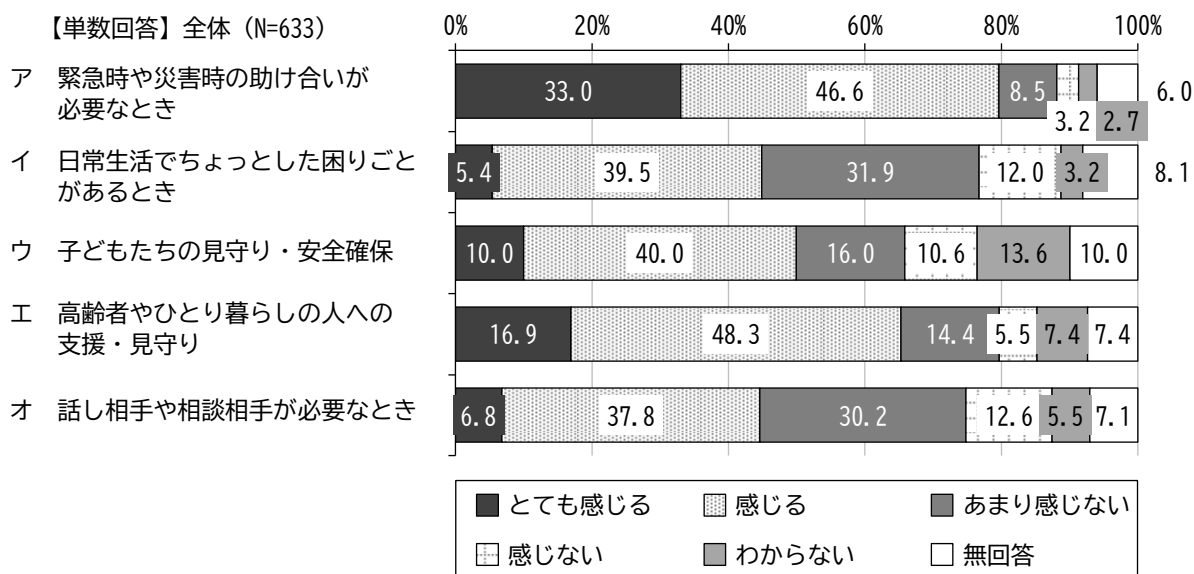
－ 回答者属性分析 －

- 近所付き合いの状況の割合を性別にみると、『親密な近所付き合いをしている』の割合は、男性で38.0％、女性で53.9％となっている。
- 福祉圏域別にみると、『親密な近所付き合いをしている』の割合は、上ノ原・柏野小学校地域で31.8％と、それ以外の地域と比べて少なくなっている。
- 家族構成別にみると、『親密な近所付き合いをしている』の割合は、ひとり暮らしで52.5％、夫婦のみで45.6％、その他の世帯で48.1％となっている。

単位：％		親家 しく くして 来る など ，	立 ち 話 を す る 程 度	あ い さ つ を す る 程 度	い ご 近 所 付 き 合 い を し て	無 回 答	を『親 密な 近所 付き 合 い 』
全体 (N=633)		12.5	34.4	43.6	7.1	2.4	46.9
性 別	男性 (n=253)	9.1	28.9	49.8	8.7	3.6	38.0
	女性 (n=356)	14.3	39.6	38.5	6.2	1.4	53.9
	その他 (n=2)	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
福 祉 圏 域 別	緑ヶ丘・滝坂 (n=72)	12.5	31.9	43.1	8.3	4.2	44.4
	若葉・調和 (n=58)	12.1	34.5	46.6	6.9	0.0	46.6
	上ノ原・柏野 (n=66)	1.5	30.3	63.6	3.0	1.5	31.8
	北ノ台・深大寺 (n=66)	16.7	36.4	37.9	7.6	1.5	53.1
	第二・八雲台・国領 (n=102)	10.8	37.3	40.2	9.8	2.0	48.1
	染地・杉森・布田 (n=79)	20.3	36.7	36.7	2.5	3.8	57.0
	第一・富士見台・多摩川 (n=71)	8.5	35.2	45.1	9.9	1.4	43.7
構 成 別 家 族	第三・石原・飛田給 (n=94)	11.7	38.3	39.4	8.5	2.1	50.0
	ひとり暮らし (n=141)	15.6	36.9	37.6	9.9	0.0	52.5
	夫婦のみ (n=265)	11.3	34.3	48.3	6.0	0.0	45.6
構 成 別 家 族	その他の世帯 (n=208)	12.5	35.6	43.8	7.2	1.0	48.1

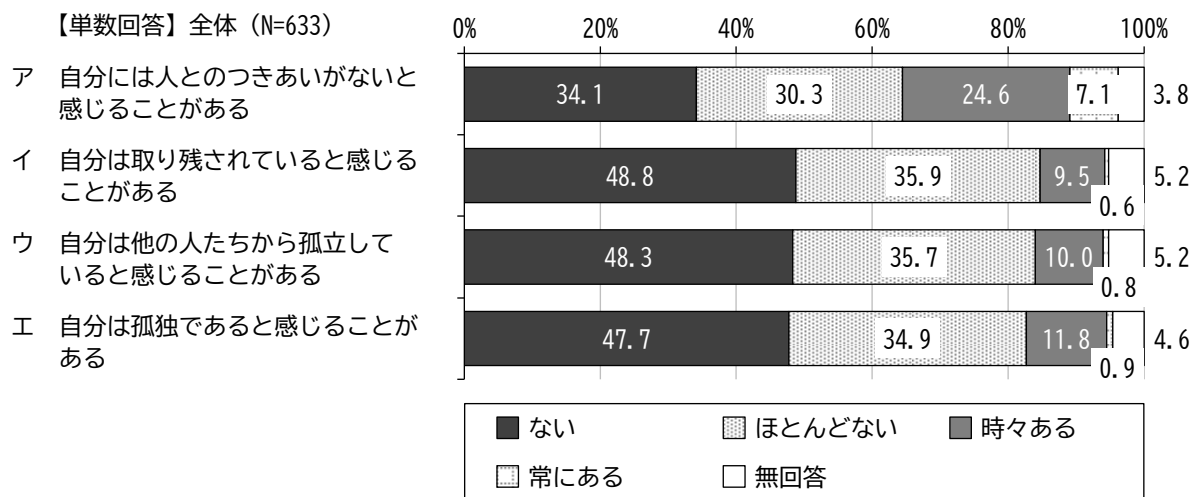
問9 どのような時にご近所付き合いの必要性を感じますか。(それぞれ1つに○)

- 近所付き合いの必要性について、「とても感じる」と「感じる」を合わせた『感じる』の割合は、[ア 緊急時や災害時の助け合いが必要なとき (79.6%)] が最も多く、[エ 高齢者やひとり暮らしの人への支援・見守り (65.2%)], [ウ 子どもたちの見守り・安全確保 (50.0%)] が続いている。
- 一方、「あまり感じない」と「感じない」を合わせた『感じない』の割合は、[イ 日常生活でちょっとした困りごとがあるとき (43.9%)] が最も多く、[オ 話し相手や相談相手が必要なとき (42.8%)], [ウ 子どもたちの見守り・安全確保 (26.6%)] が続いている。



問 10 次の項目についてあなたはどれくらいの頻度で感じていますか。
(それぞれ1つに○)

- 孤独・孤立の状況について、「時々ある」と「常にある」を合わせた『ある』の割合は、
[ア 自分には人とのつきあいが無いと感じることがある (31.7%)] が最も多く、[エ 自分は孤独であると感じることがある (12.7%)], [ウ 自分は他の人たちから孤立していると感じることがある (10.8%)] が続いている。



－ 孤独感尺度 －

- 「UCLA孤独感尺度（日本語版の3項目短縮版）」（本編 25 ページ参照）による間接質問のスコア化の結果を年代別にみると、65～69 歳で「決してない」が最も多く、それ以外の年代で「ほとんどない」が最も多くなっている。

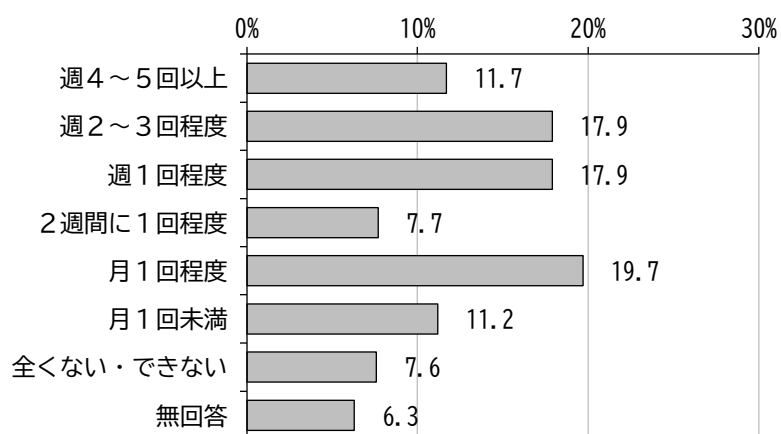
単位：%		決してない	ほとんどない	時々ある	常にある	無回答
全体 (N=633)		30.8	40.3	21.6	1.6	5.7
年代別	65～69歳 (n=135)	36.3	34.1	25.2	1.5	3.0
	70～74歳 (n=112)	26.8	44.6	25.9	1.8	0.9
	75～79歳 (n=148)	33.1	38.5	22.3	1.4	4.7
	80～84歳 (n=105)	28.6	41.9	20.0	1.0	8.6
	85歳以上 (n=113)	25.7	44.2	15.0	2.7	12.4

問 11 家族や友人たちとのコミュニケーション頻度についておたずねします。あなたと同居していない家族や友人たちとのコミュニケーション頻度について、お答えください。（それぞれ1つに○）

ア 直接会って話す（手話等を含む）

○ 直接会って話す（手話等を含む）頻度は、「月1回程度（19.7%）」が最も多く、「週2～3回程度（17.9%）」、「週1回程度（17.9%）」が続いている。

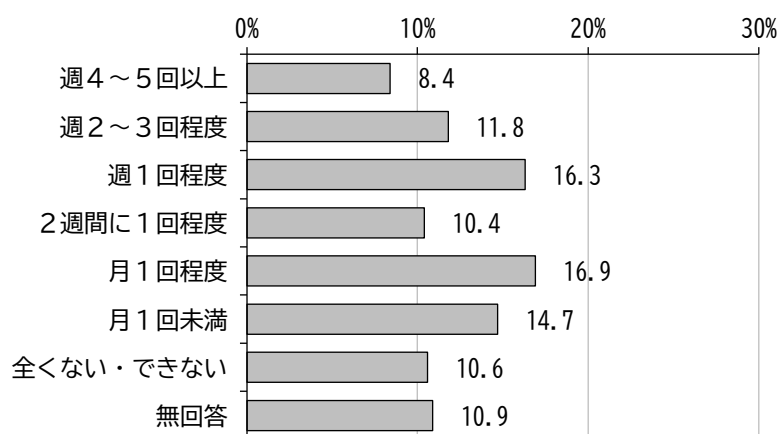
【単数回答】全体（N=633）



イ 電話（ビデオ通話含む）

○ 電話（ビデオ通話含む）の頻度は、「月1回程度（16.9%）」が最も多く、「週1回程度（16.3%）」、「月1回未満（14.7%）」が続いている。

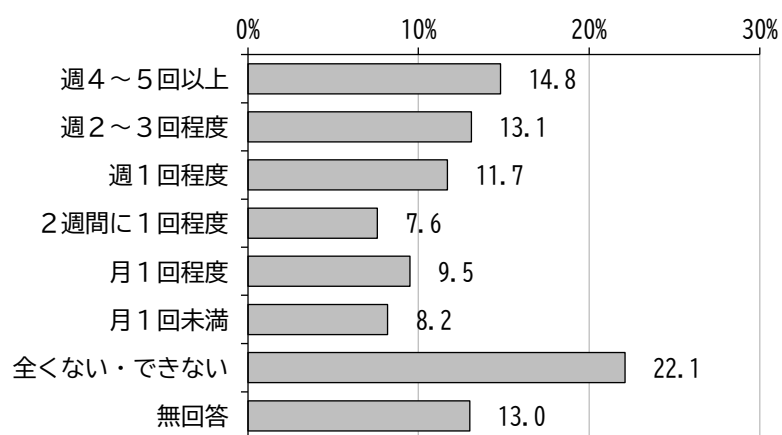
【単数回答】全体（N=633）



ウ SNSや電子メールなど

- SNSや電子メールなどの頻度は、「全くない・できない (22.1%)」が最も多く、「週4～5回以上 (14.8%)」,「週2～3回程度 (13.1%)」が続いている。

【単数回答】全体 (N=633)

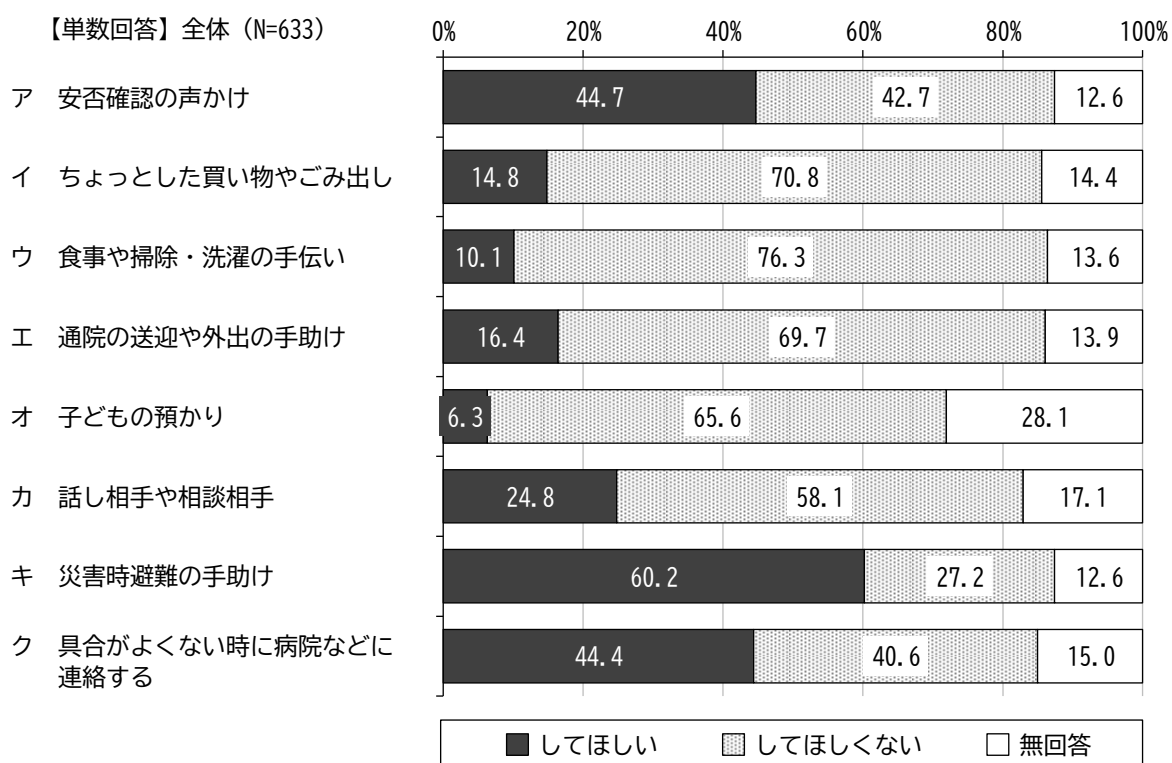


3 市民同士の支え合い、地域活動についておたずねします

問 12 あなたは次の事柄について、家族以外のまわりの人から手助けをしてほしいと思いますか。また、まわりの人に手助けできること（してもいいこと）はありますか。
①手助けしてほしいか、②手助けできるかについて、それぞれ1つに○を付けてください。

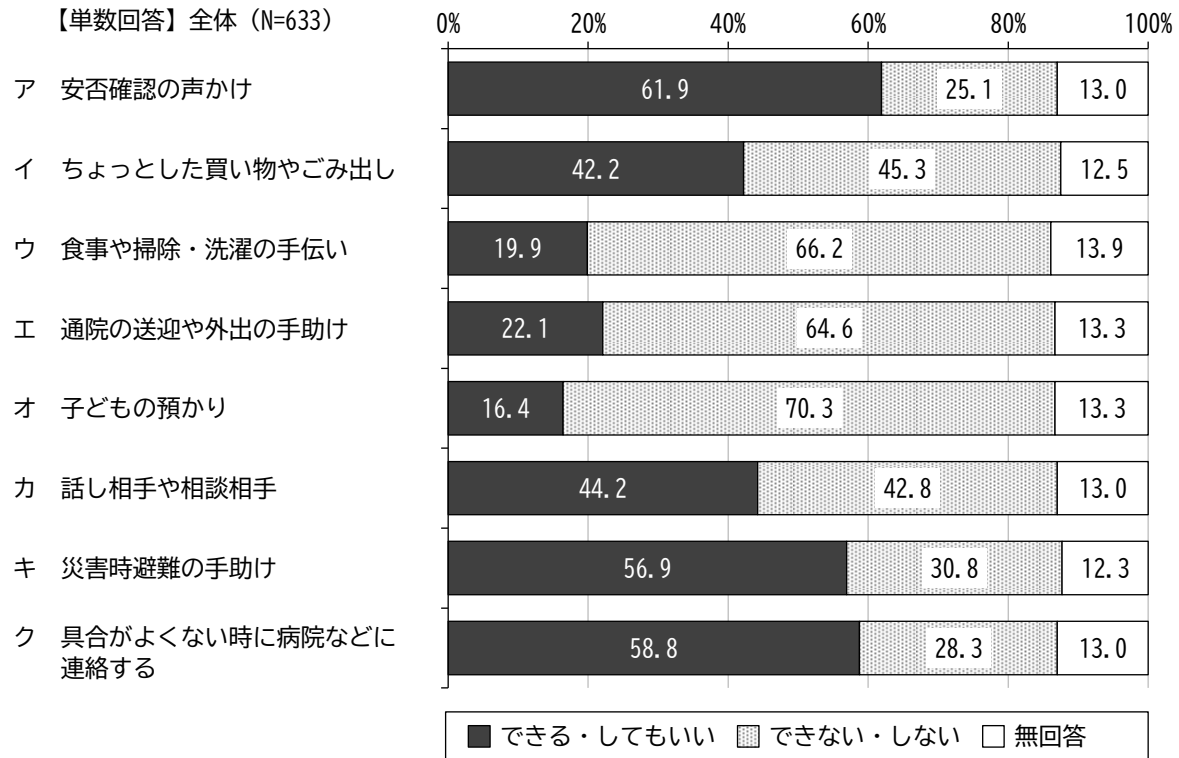
①手助けしてほしいか

○ 手助けを「してほしい」の割合は、[キ 災害時避難の手助け（60.2%）]が最も多く、[ア 安否確認の声かけ（44.7%）]，[ク 具合がよくない時に病院などに連絡する（44.4%）]が続いている。



②手助けできるか

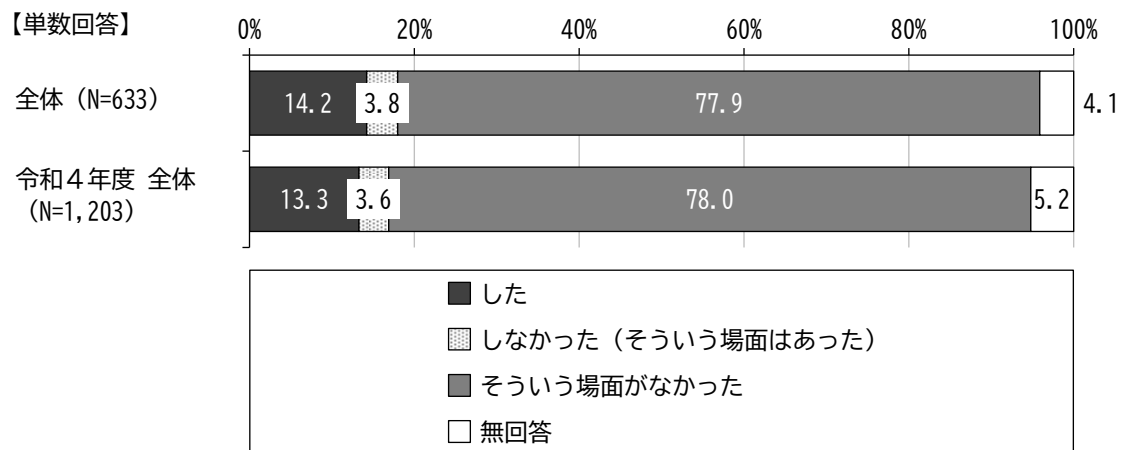
- 手助けを「できる・してもいい」の割合は、[ア 安否確認の声かけ (61.9%)] が最も多く、[ク 具合がよくない時に病院などに連絡する (58.8%)], [キ 災害時避難の手助け (56.9%)] が続いている。



問 13 この１年で、家族以外のまわりの人に、問 12 ア～クのような手伝いや手助けをしましたか。また、手伝いや手助けをしてもらいましたか。（それぞれ１つに○）

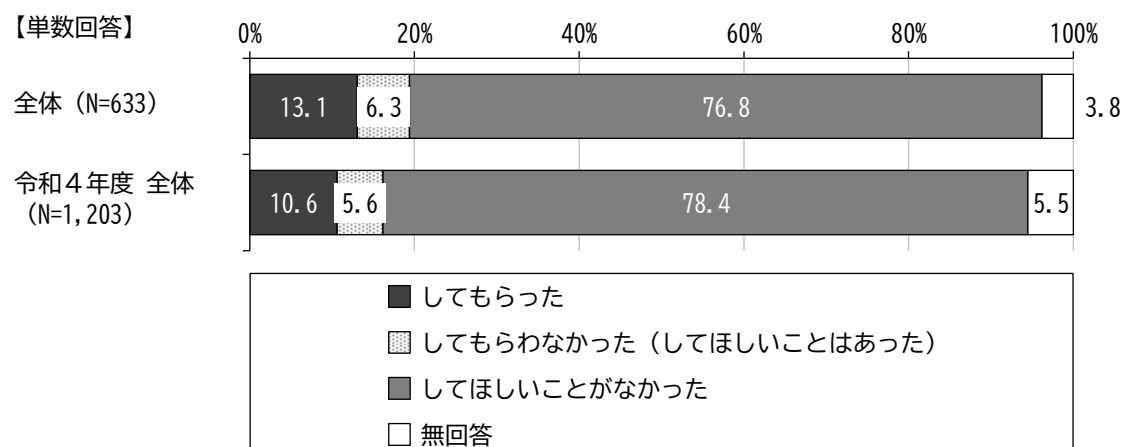
①手伝いや手助けをしたか

- この１年で家族以外のまわりの人に手伝いや手助けをした経験は、「そういう場面がなかった（77.9%）」が最も多く、「した（14.2%）」、「しなかった（そういう場面はあった）（3.8%）」が続いている。
- 令和４年度の調査結果と比較すると、大きな変化はみられない。



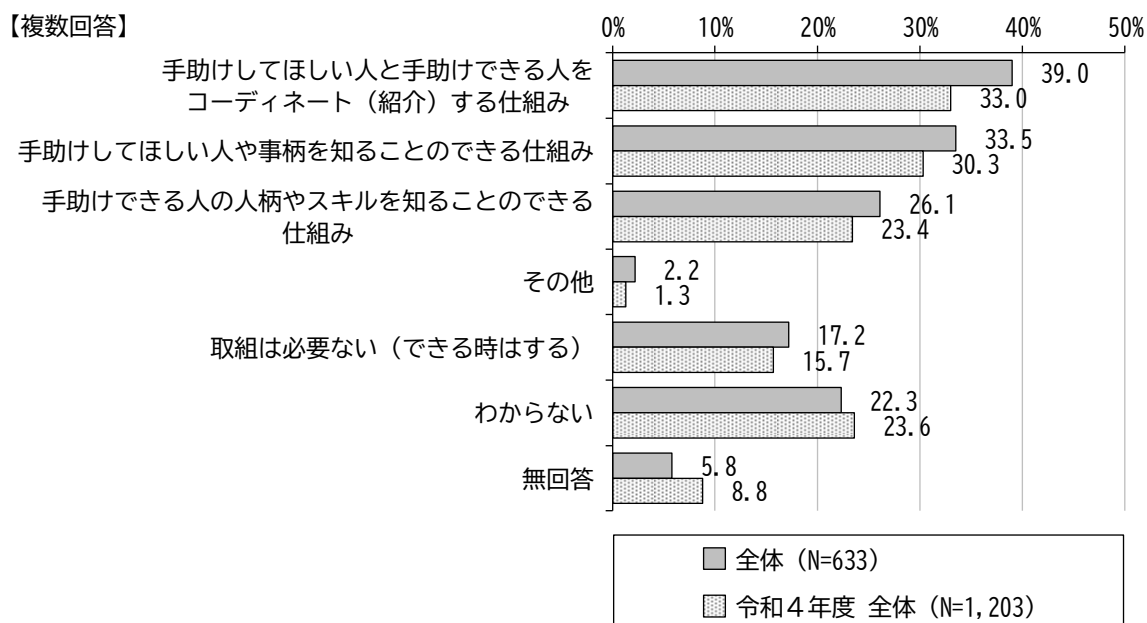
②手伝いや手助けをしてもらったか

- この１年で家族以外のまわりの人に手伝いや手助けをしてもらった経験は、「してほしいことがなかった（76.8%）」が最も多く、「してもらった（13.1%）」、「してもらわなかった（してほしいことはあった）（6.3%）」が続いている。
- 令和４年度の調査結果と比較すると、大きな変化はみられない。



問 14 家族以外のまわりの人に、問 12 ア～クのような手伝いや手助けをする（してもらう）にあたり、どのような取組があるとよいと思いますか。（いくつでも○）

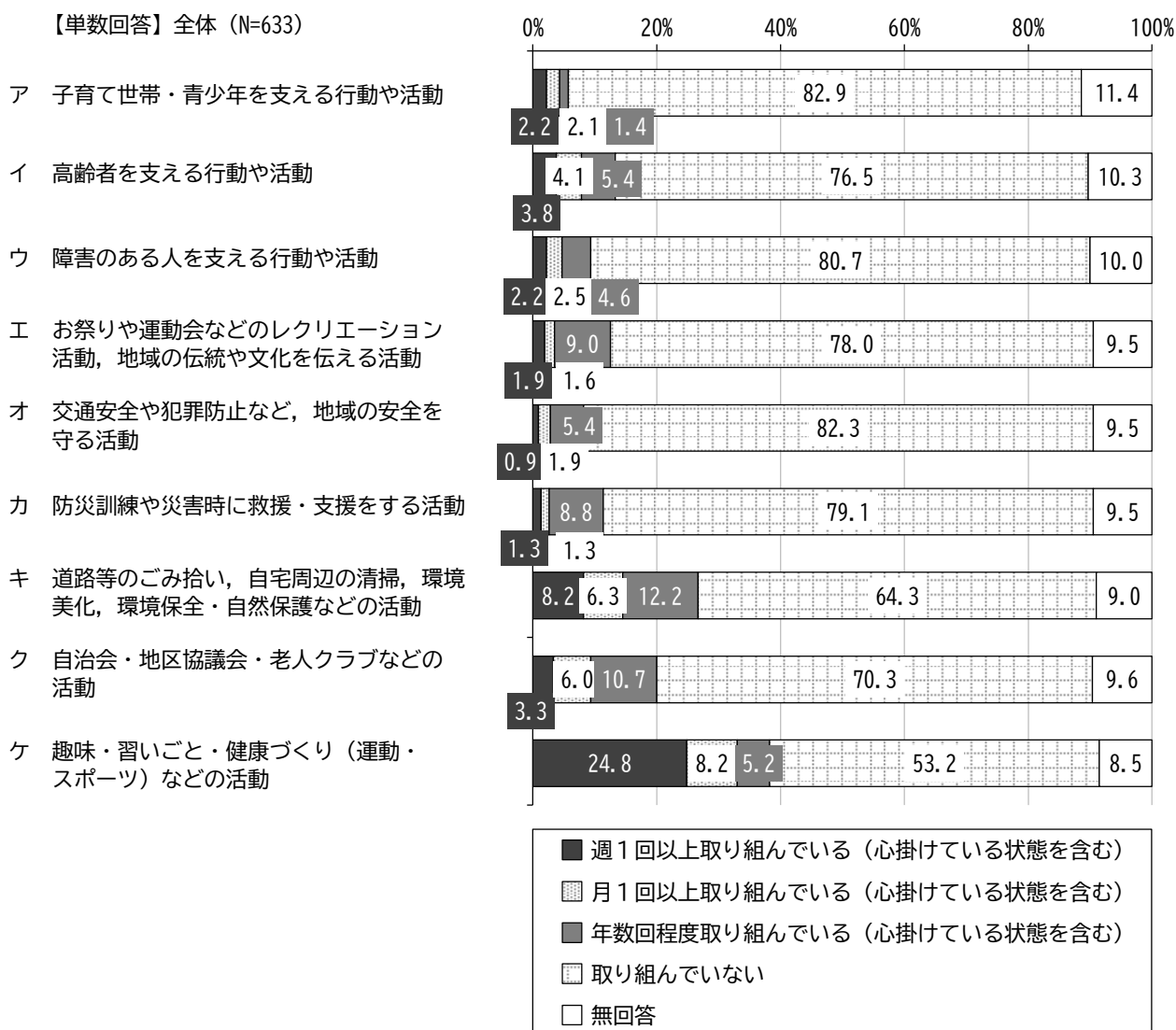
- 家族以外のまわりの人に手伝いや手助けをする（してもらう）にあたり、あるとよい取組は、「手助けしてほしい人と手助けできる人をコーディネート（紹介）する仕組み（39.0%）」が最も多く、「手助けしてほしい人や事柄を知ることのできる仕組み（33.5%）」、「手助けできる人の人柄やスキルを知ることのできる仕組み（26.1%）」が続いている。
- 令和4年度の調査結果と比較すると、「手助けしてほしい人と手助けできる人をコーディネート（紹介）する仕組み」が6.0ポイント高くなっている。



問 15 あなたは地域での活動に参加したり，地域のために日頃から心掛けていることはありますか。①現在の状況，②今後の意向をお答えください。（それぞれ1つに○）

①現在の状況

- 地域での活動等の取組状況は，[ケ 趣味・習いごと・健康づくり（運動・スポーツ）などの活動]を除くすべての活動で「取り組んでいない」が6割を超えている。
- 「週1回以上取り組んでいる（心掛けている状態を含む）」と「月1回以上取り組んでいる（心掛けている状態を含む）」と「年数回程度取り組んでいる（心掛けている状態を含む）」を合わせた『取り組んでいる』の割合は，[ケ 趣味・習いごと・健康づくり（運動・スポーツ）などの活動（38.2%）]が最も多く，[キ 道路等のごみ拾い，自宅周辺の清掃，環境美化，環境保全・自然保護などの活動（26.7%）]，[ク 自治会・地区協議会・老人クラブなどの活動（20.0%）]が続いている。



－ 回答者属性分析 －

- 地域での活動等に『取り組んでいる』の割合を福祉圏域別にみると、すべての地域で
[ケ 趣味・習いごと・健康づくり（運動・スポーツ）などの活動] が最も多くなっている。

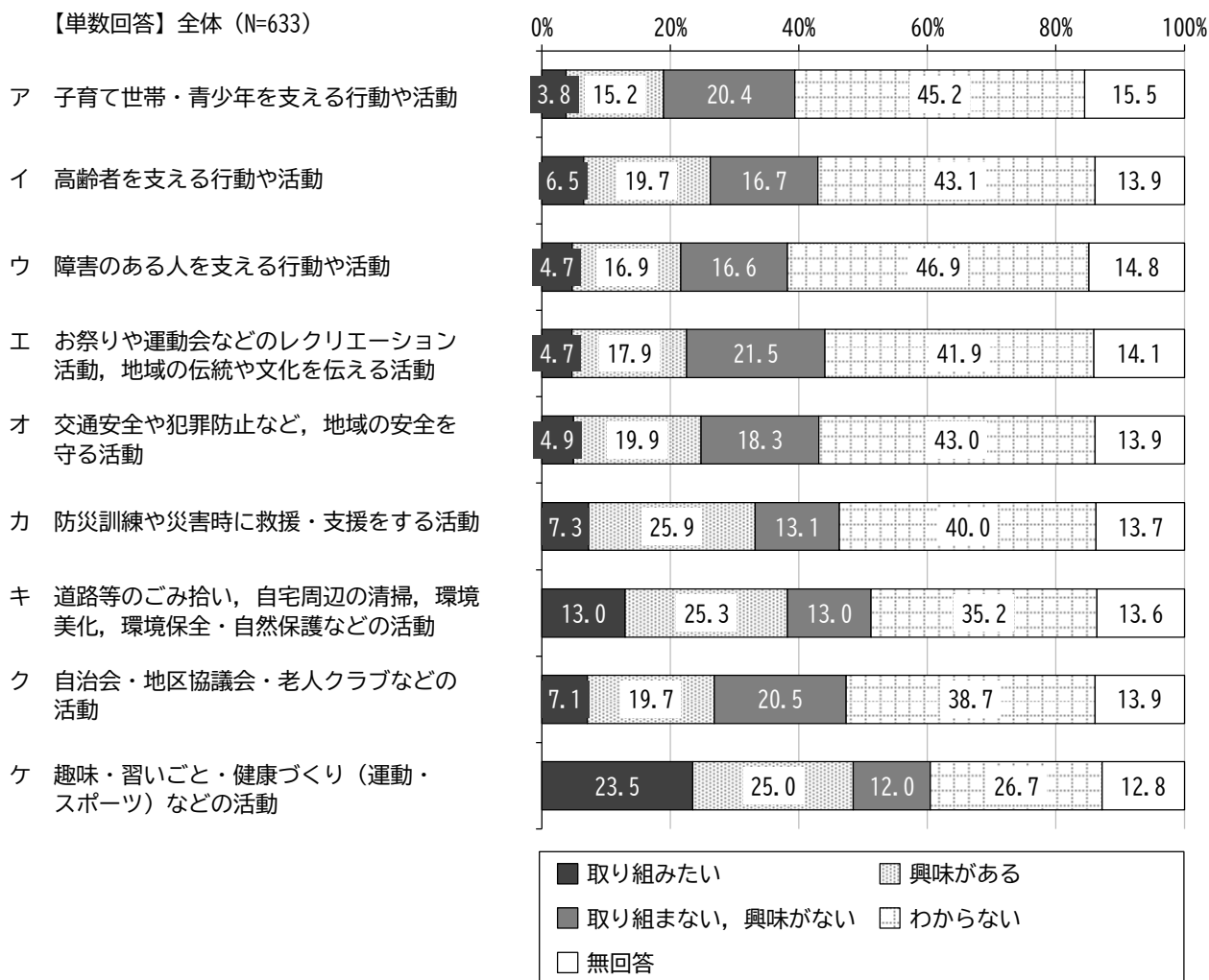
<『取り組んでいる』の割合>

単位：％		ア 子育 て世帯・ 活 動 ・ 青 少 年 を 支 え	イ 高 齢 者 を 支 え る 行 動 や 活 動	ウ 障 害 の あ る 人 を 支 え る 行 動	エ 伝 統 的 な 文 化 を 伝 え る 活 動 、 レ ク リ エ ー シ ョ ン な ど の 活 動	オ 地 域 の 安 全 や 犯 罪 防 止 な ど 、 交 通 の 安 全 な ど	カ 防 災 訓 練 や 災 害 時 に 救 援 ・ 支 援 す る 活 動	キ 保 全 ・ 自 然 ・ 環 境 保 護 な ど の 活 動	ク 道 路 等 の ご み 拾 い 、 自 宅 周 辺 の 清 掃 、 環 境 美 化 な ど の 活 動	ケ 自 治 会 ・ 地 区 協 議 会 ・ 老 人 の 活 動	ケ 趣 味 ・ 運 動 ・ 習 い ご と ・ ス ポ ー ツ ・ 健 康 な ど の 活 動
全体（N=633）		5.7	13.3	9.3	12.5	8.2	11.4	26.7	20.0	38.2	
福 祉 圏 域 別	緑ヶ丘・滝坂（n=72）	4.2	15.3	12.5	12.5	8.3	11.1	26.4	18.1	36.1	
	若葉・調和（n=58）	5.1	13.8	6.8	15.5	8.6	12.0	22.3	20.6	44.8	
	上ノ原・柏野（n=66）	7.5	6.0	6.0	10.6	7.5	7.5	21.1	15.1	40.9	
	北ノ台・深大寺（n=66）	6.0	18.2	6.0	10.6	9.1	10.6	36.3	27.2	46.9	
	第二・八雲台・国領（n=102）	6.0	15.7	14.7	7.8	9.8	14.7	30.3	14.6	35.3	
	染地・杉森・布田（n=79）	7.6	13.9	6.3	15.2	6.4	11.4	26.6	26.5	34.2	
	第一・富士見台・多摩川（n=71）	5.6	11.2	5.6	15.5	9.9	9.9	28.1	19.7	39.4	
	第三・石原・飛田給（n=94）	5.3	13.9	13.9	14.9	8.5	12.8	21.3	23.4	38.3	

②今後の意向

- 地域での活動等の今後の取組意向について、「取り組みたい」と「興味がある」の合計割合は、[ケ 趣味・習いごと・健康づくり（運動・スポーツ）などの活動（48.5%）]が最も多く、[キ 道路等のごみ拾い，自宅周辺の清掃，環境美化，環境保全・自然保護などの活動（38.3%）]，[カ 防災訓練や災害時に救援・支援をする活動（33.2%）]が続いている。

【単数回答】全体（N=633）



－ 回答者属性分析 －

- 地域での活動等の今後の取組意向について、「取り組みたい」と「興味がある」の合計割合を福祉圏域別にみると、すべての地域で〔ケ 趣味・習いごと・健康づくり（運動・スポーツ）などの活動〕が最も多くなっている。

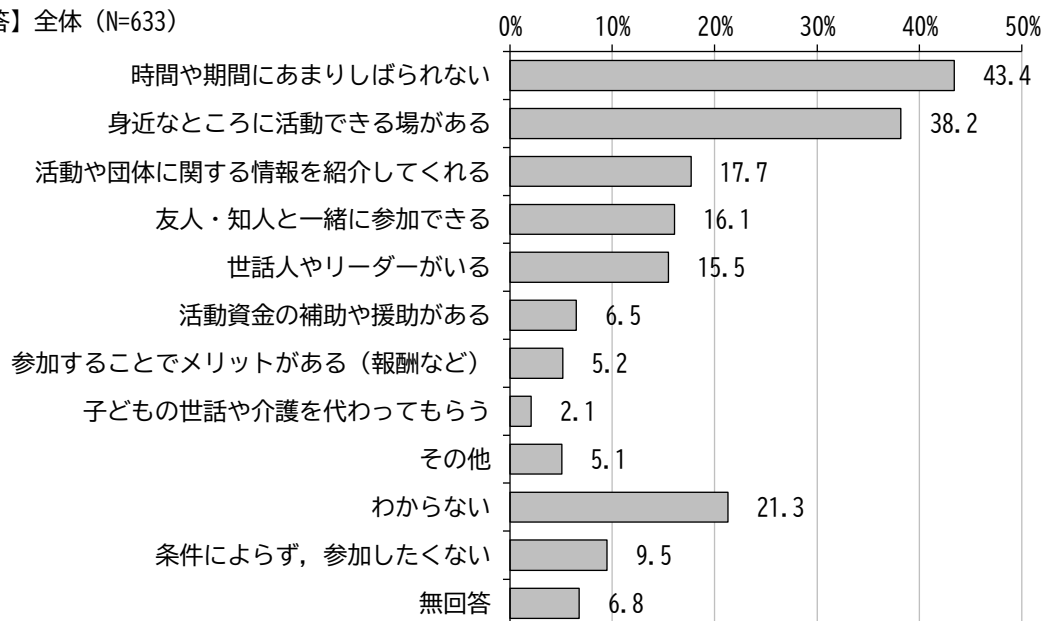
<「取り組みたい」と「興味がある」の合計割合>

単位：％		ア 子育 て世 帯・ 青少 年を 支え る行 動や 活動	イ 高 齢 者 を 支 え る 行 動 や 活動	ウ 障 害 の あ る 人 を 支 え る 行 動	エ 伝 統 や 文 化 を 伝 え る 活 動 、 地 域 の ク リ エ ー シ ョ ン 活 動 な ど	オ お 祭 り や 運 動 会 な ど 、 防 止 活 動 な ど	カ 防 災 訓 練 や 災 害 時 に 救 援 ・ 支 援 を す る 活 動	キ 保 全 ・ 自 然 、 環 境 美 化 、 自 宅 周 辺 の 清 掃 、 ご み 拾 い な ど	ク 自 治 会 な ど の 活 動	ケ の 活 動 （ 趣 味 ・ 運 動 ・ 習 い ご と ・ 健 康 づ く り な ど
全体（N=633）		19.0	26.2	21.6	22.6	24.8	33.2	38.3	26.8	48.5
福祉圏域別	緑ヶ丘・滝坂（n=72）	20.9	25.0	25.0	30.5	25.0	33.4	43.0	36.1	55.6
	若葉・調和（n=58）	17.3	22.4	17.2	22.4	24.1	34.4	37.9	29.3	50.0
	上ノ原・柏野（n=66）	15.1	22.7	22.7	22.7	24.2	40.9	37.9	22.7	50.0
	北ノ台・深大寺（n=66）	21.2	30.3	27.2	28.8	33.3	37.9	46.9	37.9	57.6
	第二・八雲台・国領（n=102）	19.6	28.4	26.5	18.6	26.5	30.4	35.3	21.5	44.1
	染地・杉森・布田（n=79）	17.7	22.8	12.7	19.0	21.6	29.1	35.5	26.6	44.3
	第一・富士見台・多摩川（n=71）	22.5	29.6	21.1	23.9	25.3	35.3	45.1	22.5	49.3
	第三・石原・飛田給（n=94）	20.3	28.7	22.3	19.2	24.4	33.0	30.8	24.5	44.6

問 16 どのような条件であれば、地域活動・ボランティア活動に参加・活動しやすいですか。(いくつでも○)

- 地域活動・ボランティア活動に参加・活動しやすい条件は、「時間や期間にあまりしばられない(43.4%)」が最も多く、「身近なところに活動できる場がある(38.2%)」,「わからない(21.3%)」が続いている。

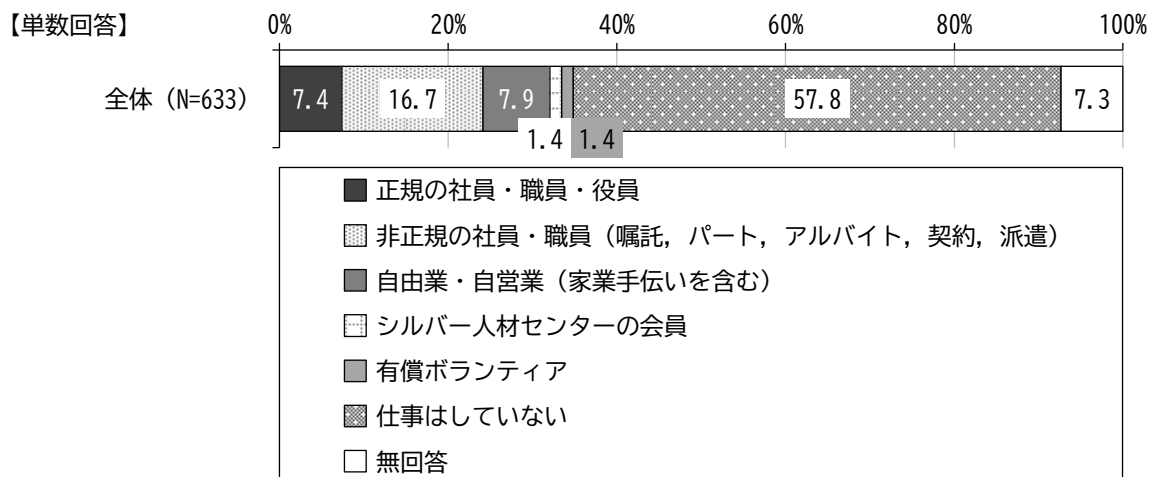
【複数回答】全体 (N=633)



4 就労についておたずねします

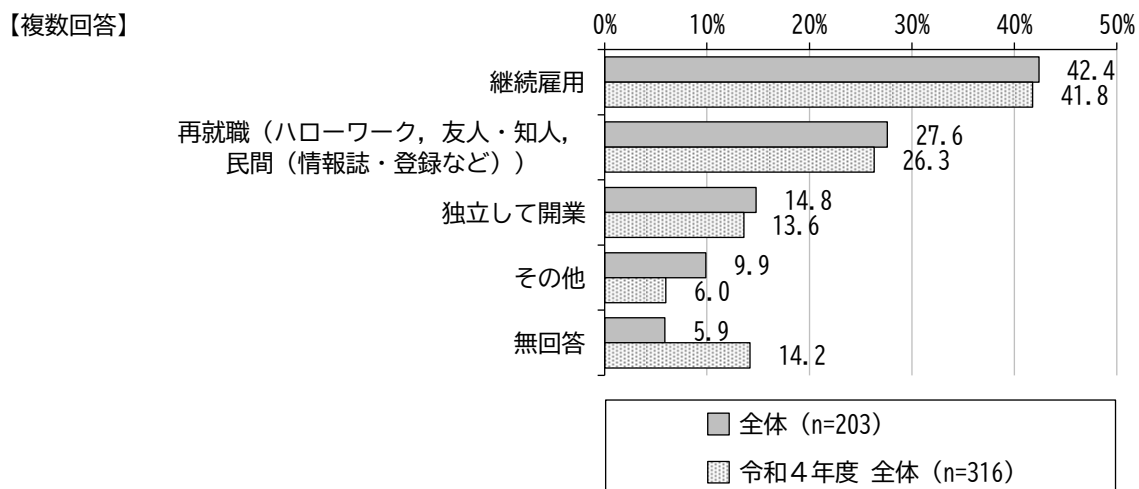
問 17 現在の職業を教えてください。(1つに○)

- 現在の職業は、「仕事はしていない (57.8%)」が最も多く、「非正規の社員・職員 (嘱託, パート, アルバイト, 契約, 派遣) (16.7%)」, 「自由業・自営業 (家業手伝いを含む) (7.9%)」が続いている。



付問 問 17 で「1～3 (会社などで働いている)」と答えた方におたずねします。
現在の職業に就いている経緯を教えてください。(いくつでも○)

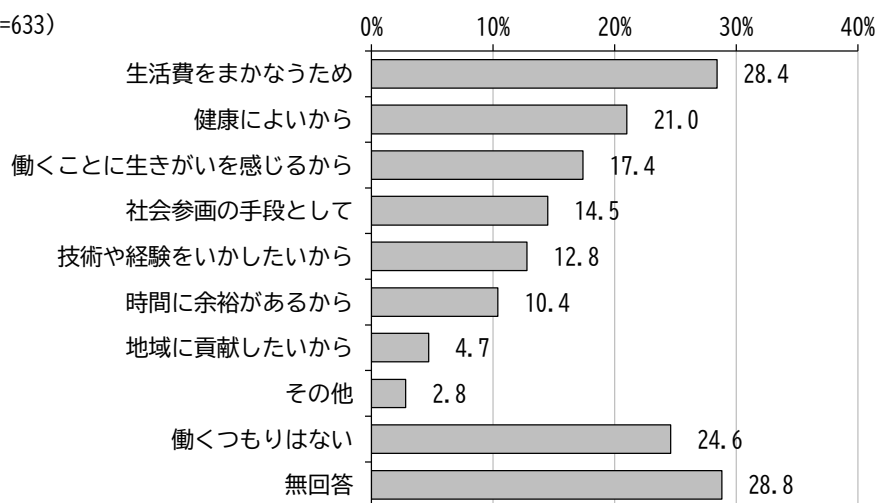
- 現在の職業に就いている経緯は、「継続雇用 (42.4%)」が最も多く、「再就職 (ハローワーク, 友人・知人, 民間 (情報誌・登録など)) (27.6%)」, 「独立して開業 (14.8%)」が続いている。
- 令和4年度の調査結果と比較すると, 大きな変化はみられない。



問 18 あなたが仕事をする（したいと思う）主な理由は何ですか。（いくつでも○）

- 仕事をする（したいと思う）理由は、「生活費をまかなうため（28.4%）」が最も多く、「働くつもりはない（24.6%）」、「健康によいから（21.0%）」が続いている。

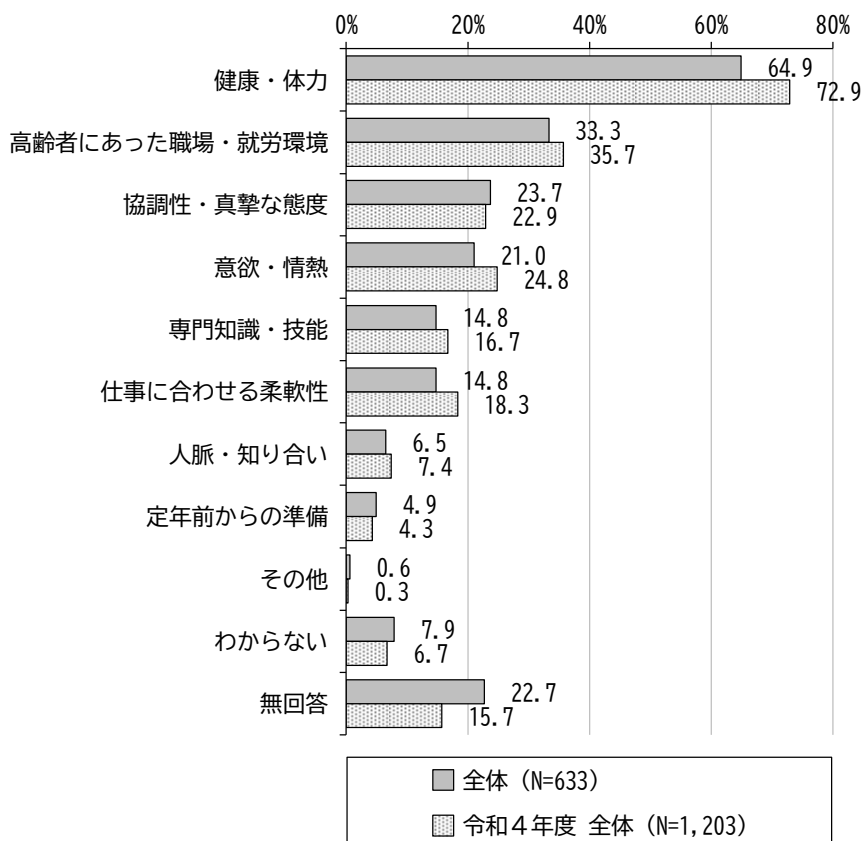
【複数回答】全体（N=633）



問 19 高齢者が就労する（続ける）ために特に必要なことは何ですか。（3つまで○）

- 高齢者が就労する（続ける）ために必要なことは、「健康・体力（64.9%）」が最も多く、「高齢者にあった職場・就労環境（33.3%）」、「協調性・真摯な態度（23.7%）」が続いている。
- 令和4年度の調査結果と比較すると、「健康・体力」が 8.0 ポイント低くなっている。

【複数回答】

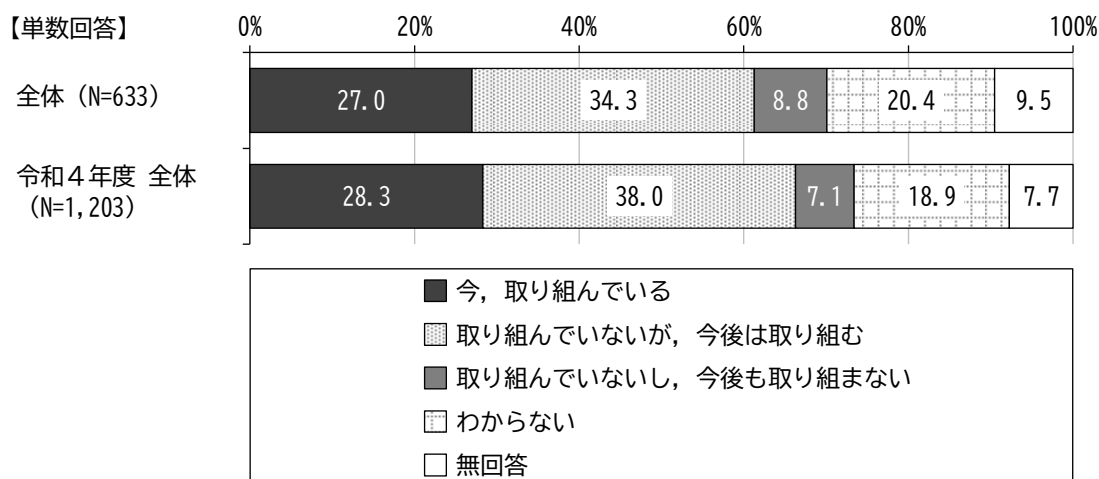


5 健康増進，権利擁護の取組についておたずねします

問 20 あなたは，健やかに暮らすために，次のことに取り組んでいますか。
(それぞれ1つに○)

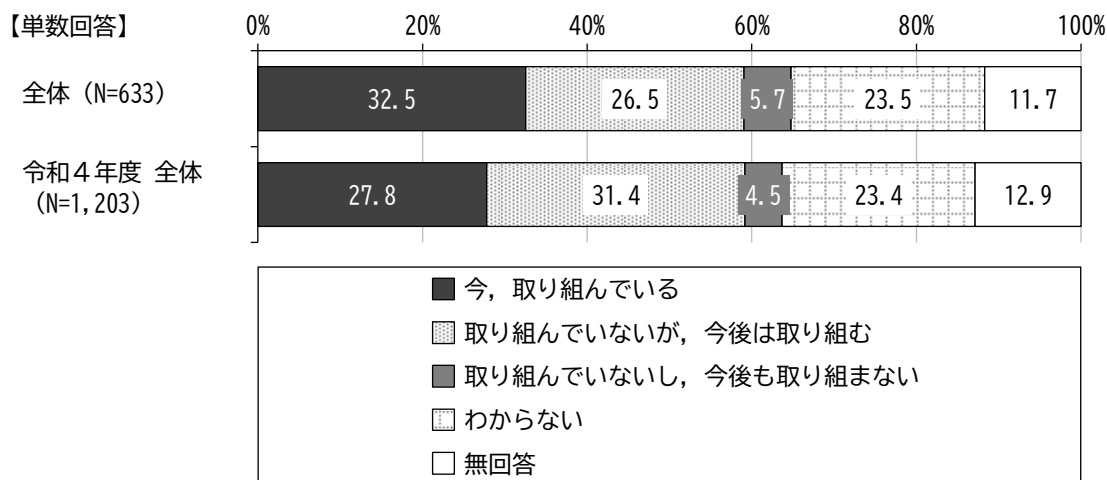
ア 認知症予防

- 認知症予防の取組状況は，「取り組んでいないが，今後は取り組む（34.3%）」が最も多く，「今，取り組んでいる（27.0%）」，「わからない（20.4%）」が続いている。
- 令和4年度の調査結果と比較すると，大きな変化はみられない。



イ フレイル予防

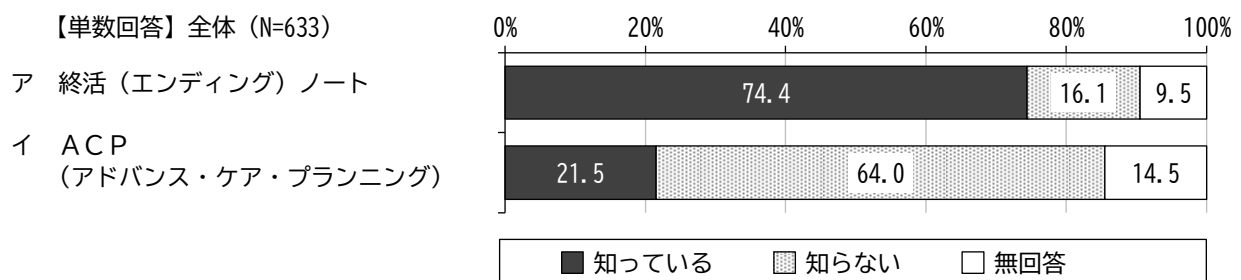
- フレイル予防の取組状況は，「今，取り組んでいる（32.5%）」が最も多く，「取り組んでいないが，今後は取り組む（26.5%）」，「わからない（23.5%）」が続いている。
- 令和4年度の調査結果と比較すると，大きな変化はみられない。



問 21 近年、人生のエンディングに向けて、元気なうちからさまざまな準備をする活動が広がっています。①あなたは、次のような事柄をご存知でしたか。②今後、次のような事柄を活用したいと思いますか。(それぞれ1つに○)

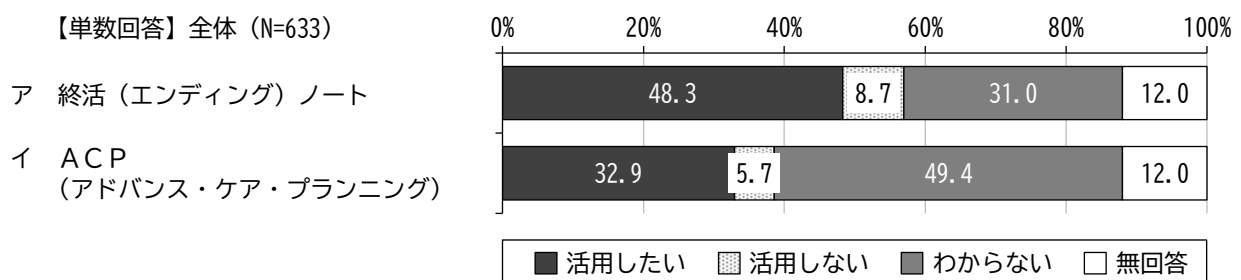
①認知状況

- 人生のエンディングに向けた事柄の認知度について、[ア 終活（エンディング）ノート] は、「知っている（74.4%）」、「知らない（16.1%）」である。
- [イ ACP（アドバンス・ケア・プランニング）] は、「知っている（21.5%）」、「知らない（64.0%）」である。



②今後の意向

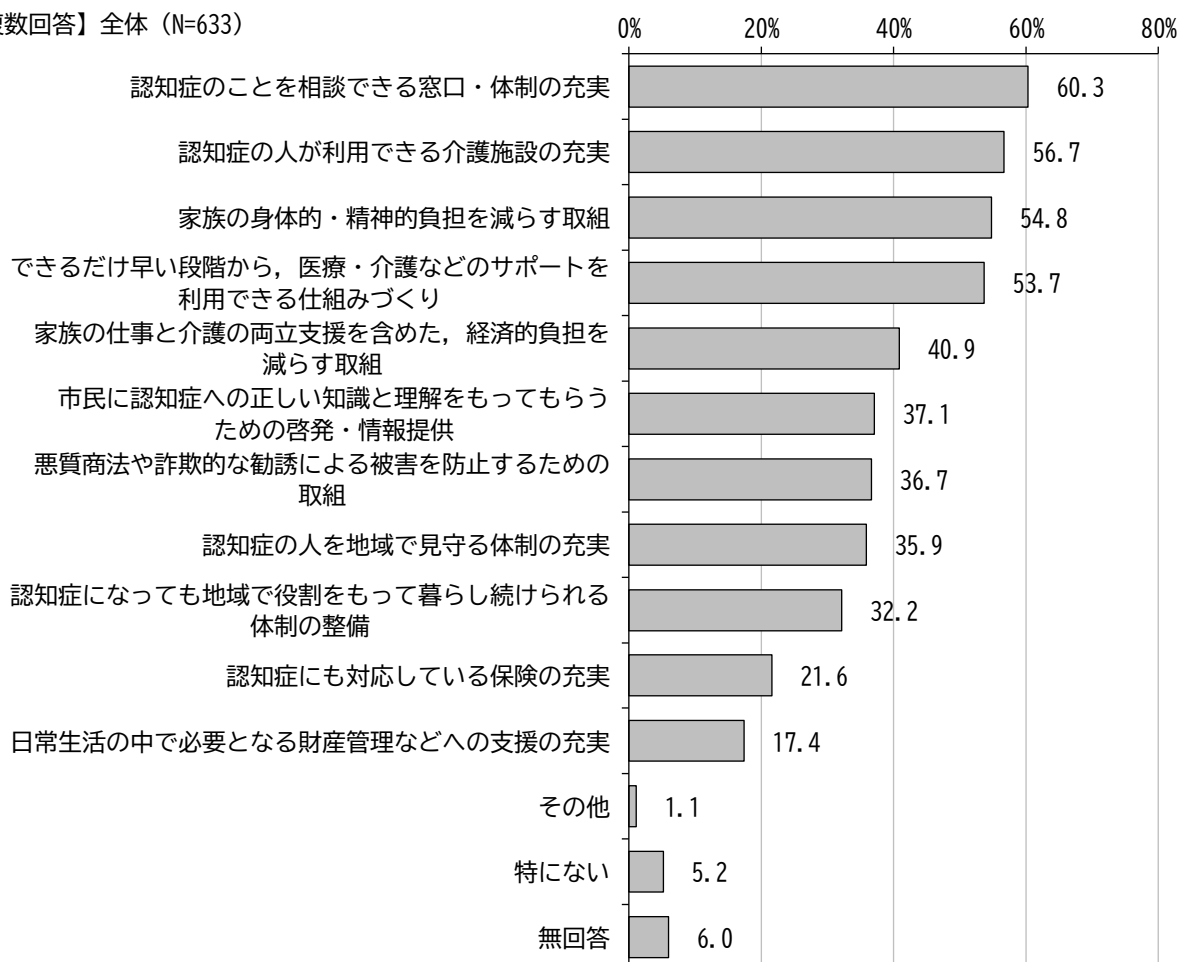
- 人生のエンディングに向けた事柄の利用意向について、[ア 終活（エンディング）ノート] は、「活用したい（48.3%）」が最も多く、「わからない（31.0%）」、「活用しない（8.7%）」が続いている。
- [イ ACP（アドバンス・ケア・プランニング）] は、「わからない（49.4%）」が最も多く、「活用したい（32.9%）」、「活用しない（5.7%）」が続いている。



問 22 認知症の人やその家族を支えるため、どのような取組に力を入れる必要があると思いますか。(いくつでも○)

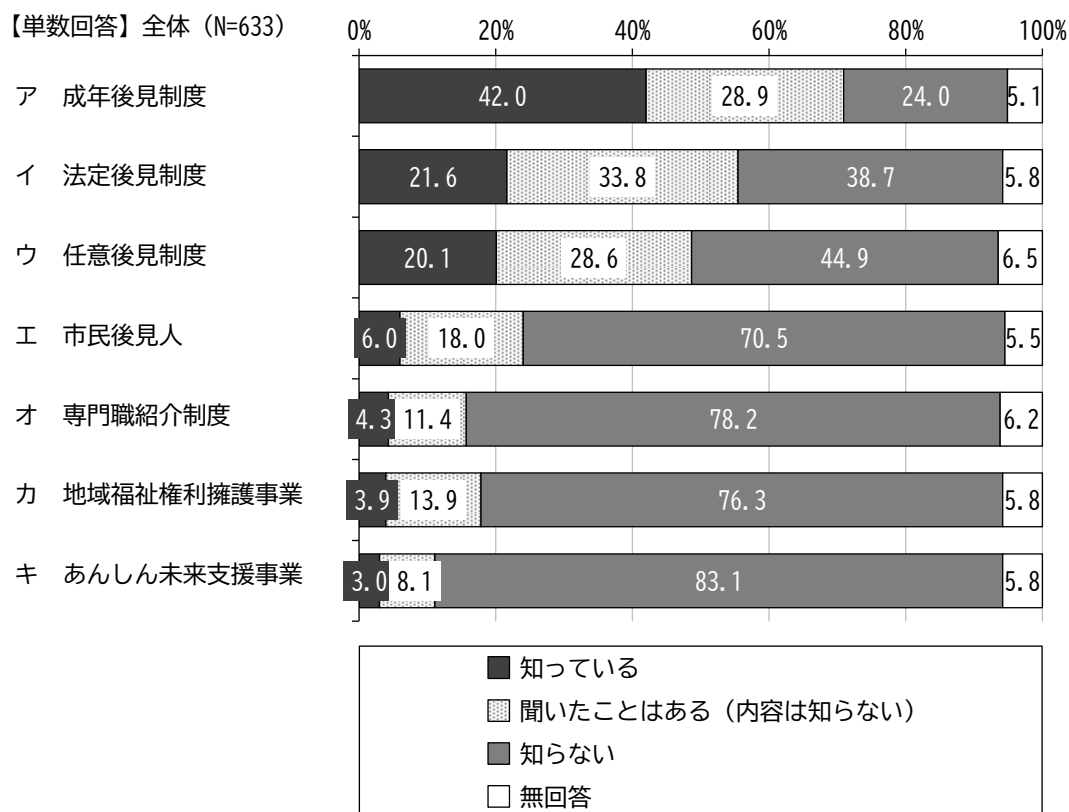
- 認知症の人やその家族を支えるために力を入れる必要がある取組は、「認知症のことを相談できる窓口・体制の充実 (60.3%)」が最も多く、「認知症の人が利用できる介護施設の充実 (56.7%)」,「家族の身体的・精神的負担を減らす取組 (54.8%)」が続いている。

【複数回答】全体 (N=633)



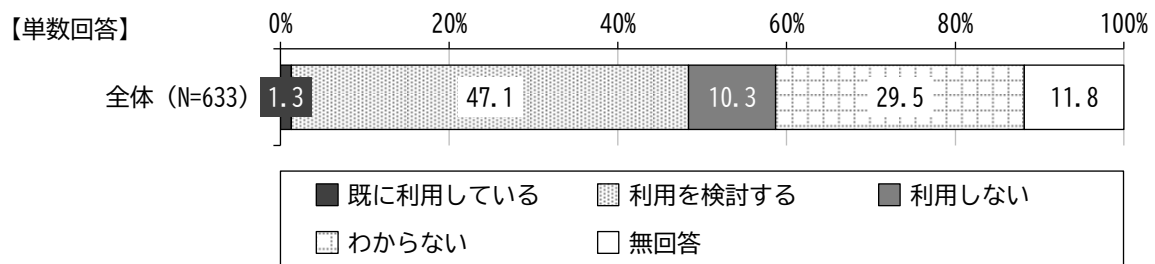
問 23 市や社会福祉協議会等で行っている下記の制度や事業をご存知ですか。
(それぞれ1つに○)

- 市や社会福祉協議会等で行っている市民の権利を守る制度や事業について、「知っている」の割合は,[ア 成年後見制度(42.0%)]が最も多く,[イ 法定後見制度(21.6%)],
[ウ 任意後見制度 (20.1%)]が続いている。



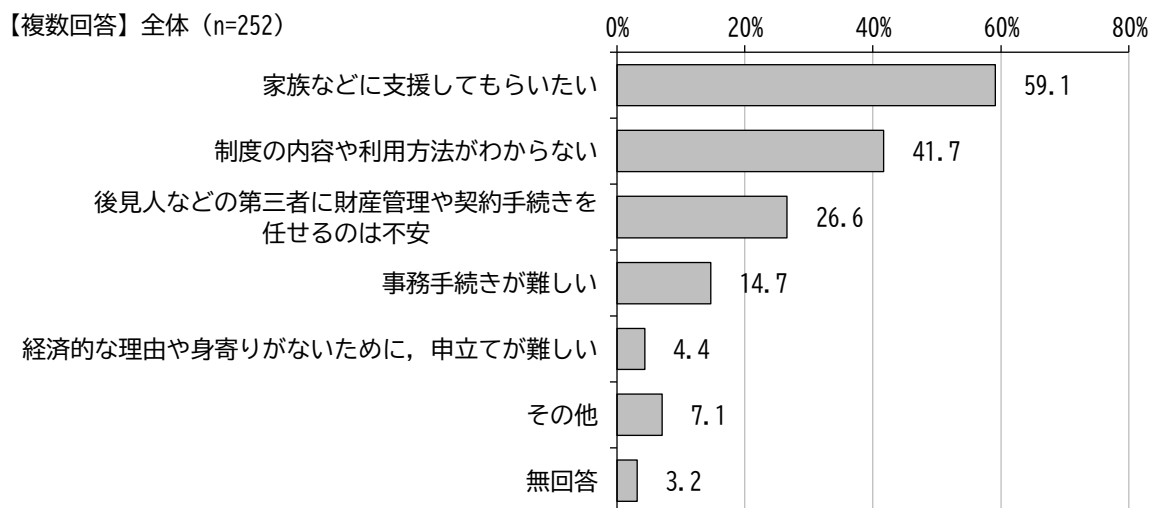
問 24 あなたやご家族のどなたかが認知症などによって判断が十分にできなくなる場合に備えて、あるいは既にできない場合、前問（問 23）のいずれかの制度を利用したいと思いますか。（1 つに○）

○ 問 23 の市や社会福祉協議会等で行っている市民の権利を守る制度や事業の利用意向は、「利用を検討する（47.1%）」が最も多く、「わからない（29.5%）」、「利用しない（10.3%）」が続いている。



付問 問 24 で「3 利用しない」、「4 わからない」と答えた方におたずねします。
制度を利用しない、または、わからないと答えた主な理由は何ですか。
（いくつでも○）

○ 制度を利用しない、または、わからないと答えた主な理由は、「家族などに支援してもらいたい（59.1%）」が最も多く、「制度の内容や利用方法がわからない（41.7%）」、「後見人などの第三者に財産管理や契約手続きを任せるのは不安（26.6%）」が続いている。

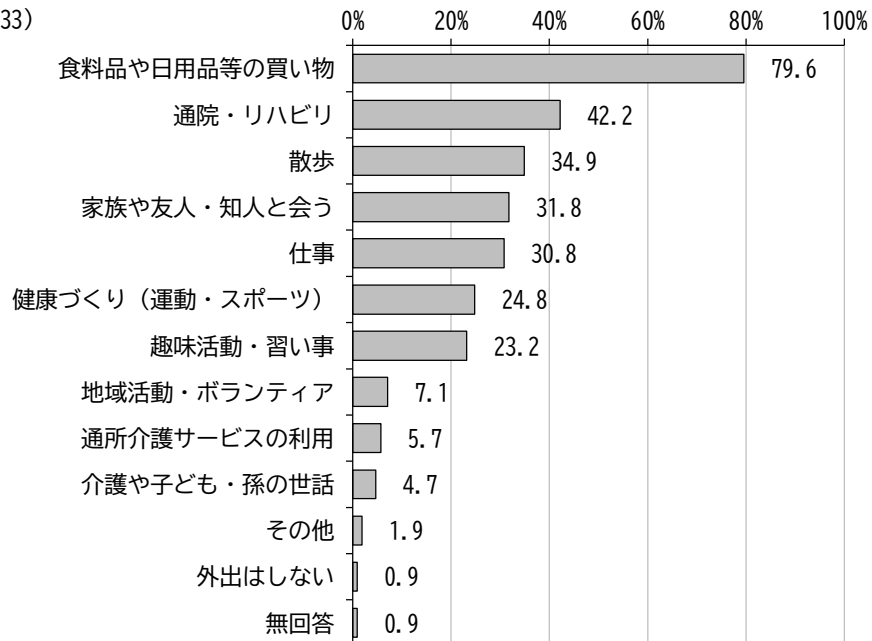


6 暮らしのことについておたずねします

問 25 あなたは主にどのような目的で外出をしますか。(3つまで○)

- 外出の目的は、「食料品や日用品等の買い物 (79.6%)」が最も多く、「通院・リハビリ (42.2%)」、「散歩 (34.9%)」が続いている。

【複数回答】全体 (N=633)

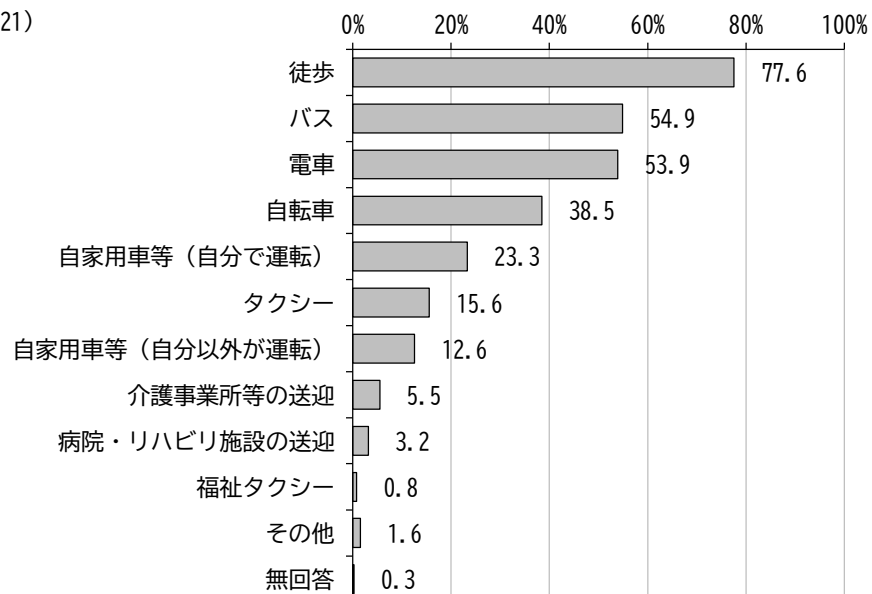


付問 前問 (問 25) で「1～11 (さまざまな目的で外出をする)」のいずれかに答えた方におたずねします。

利用している移動手段は何ですか。(いくつでも○)

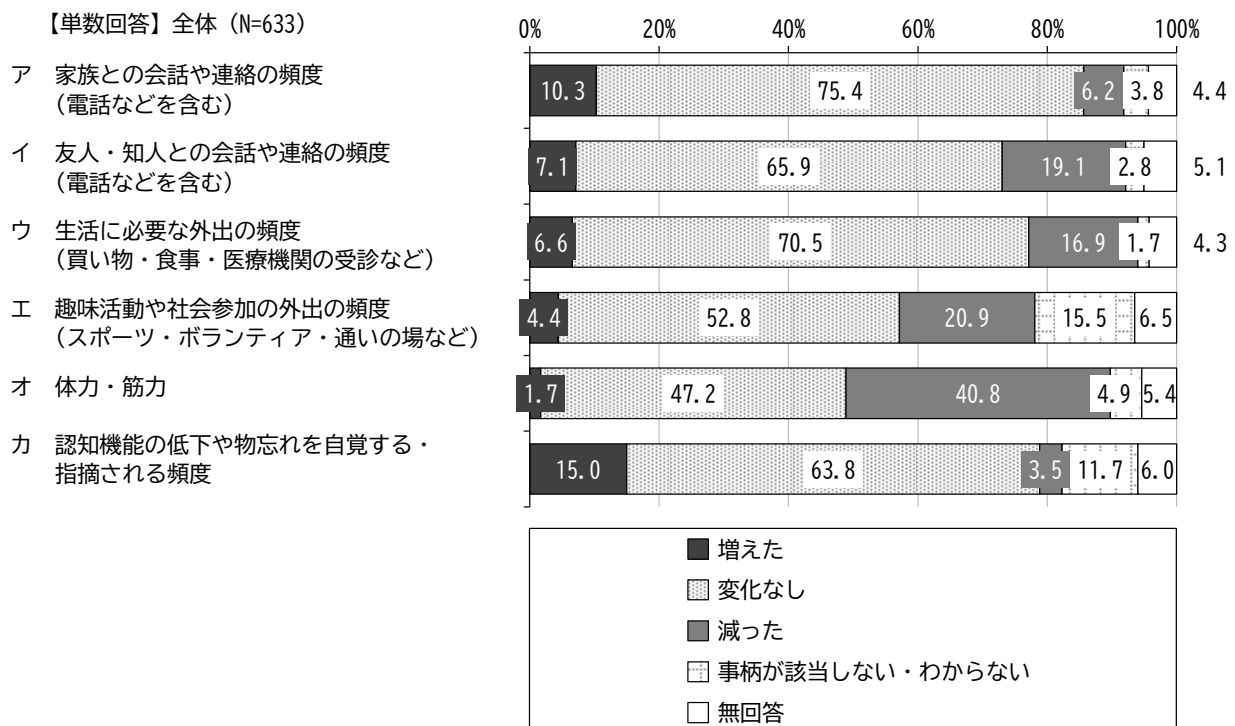
- 利用している移動手段は、「徒歩 (77.6%)」が最も多く、「バス (54.9%)」、「電車 (53.9%)」が続いている。

【複数回答】全体 (n=621)

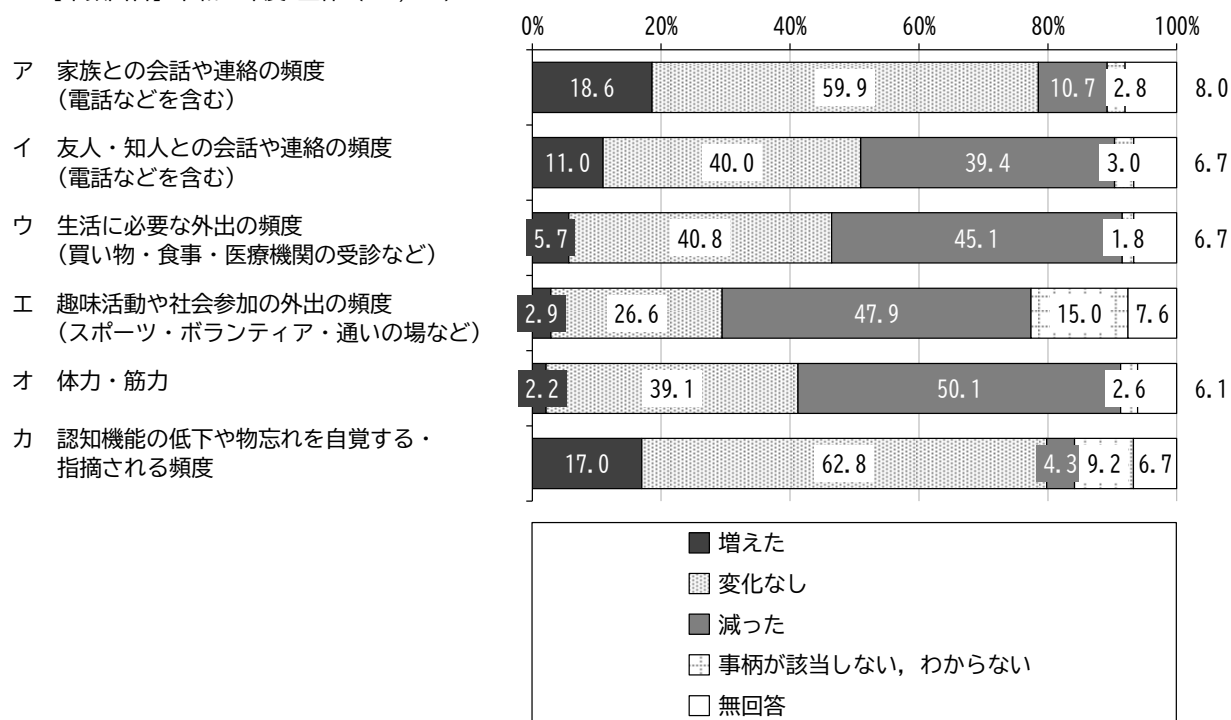


問 26 新型コロナウイルス感染症の流行後、現在のあなたの暮らしにどのような影響がありますか。(それぞれ1つに○)

- 新型コロナウイルス感染症の流行後の暮らしへの影響について、「増えた」の割合は、[カ 認知機能の低下や物忘れを自覚する・指摘される頻度 (15.0%)] が最も多く、[ア 家族との会話や連絡の頻度 (電話などを含む) (10.3%)], [イ 友人・知人との会話や連絡の頻度 (電話などを含む) (7.1%)] が続いている。
- 一方、「減った」の割合は、[オ 体力・筋力 (40.8%)], [エ 趣味活動や社会参加の外出の頻度 (スポーツ・ボランティア・通いの場など) (20.9%)], [イ 友人・知人との会話や連絡の頻度 (電話などを含む) (19.1%)] が続いている。
- 令和4年度の調査結果と比較すると、「増えた」の割合は、[家族との会話や連絡の頻度 (電話などを含む)] で 8.3 ポイント低くなっている。また、「減った」の割合は、[生活に必要な外出の頻度 (買い物・食事・医療機関の受診など)] で 28.2 ポイント、[趣味活動や社会参加の外出の頻度 (スポーツ・ボランティア・通いの場など)] で 27.0 ポイント、[友人・知人との会話や連絡の頻度 (電話などを含む)] で 20.3 ポイント、[体力・筋力] で 9.3 ポイント低くなっている。



【単数回答】令和4年度 全体 (N=1,203)

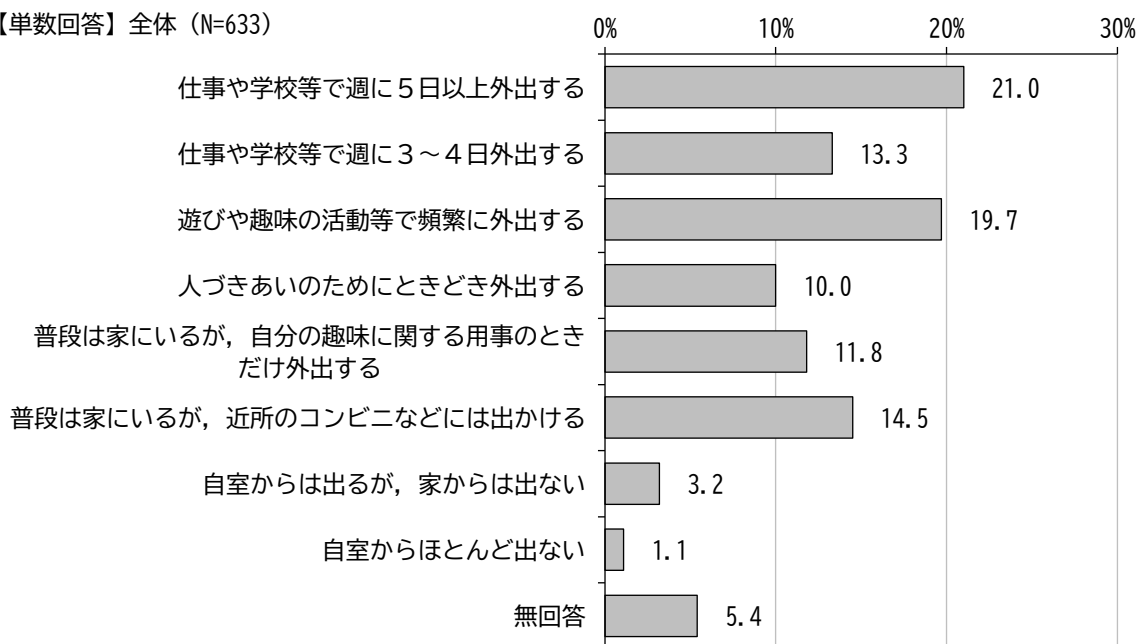


※令和4年度調査は今回調査と項目数が異なるため、記号を省略している。

問 27 あなたは普段、どのくらい外出しますか。現在のことについてお答えください。
(1つに○)

○ 外出の状況は、「仕事や学校等で週に5日以上外出する (21.0%)」が最も多く、「遊びや趣味の活動等で頻繁に外出する (19.7%)」、「普段は家にいるが、近所のコンビニなどには出かける (14.5%)」が続いている。

【単数回答】全体 (N=633)



－ 回答者属性分析 －

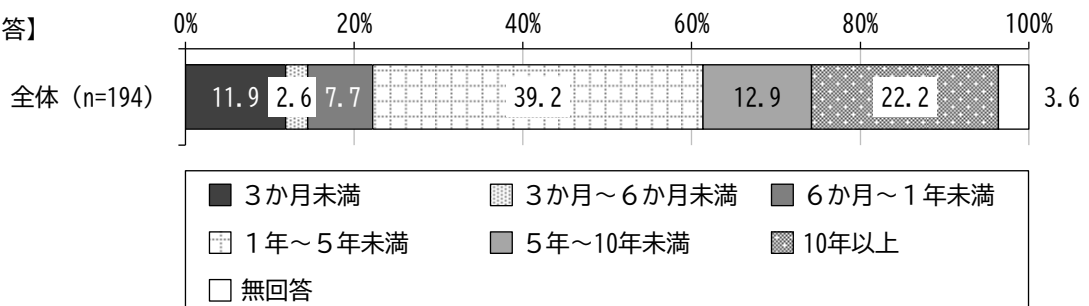
- 外出状況の結果の割合を年代別にみると、65～69歳、70～74歳で「仕事や学校等で週に5日以上外出する」、75～79歳で「遊びや趣味の活動等で頻繁に外出する」、85歳以上で「普段は家にいるが、近所のコンビニなどには出かける」が最も多く、80～84歳で「遊びや趣味の活動等で頻繁に外出する」と「普段は家にいるが、近所のコンビニなどには出かける」が同率となっている。
- 職業別にみると、正規の社員・職員・役員、非正規の社員・職員、自由業・自営業で「仕事や学校等で週に5日以上外出する」、無職（仕事はしていない）で「遊びや趣味の活動等で頻繁に外出する」が最も多くなっている。

単位：％		上仕 外 出 す る	日仕 外 出 す る	に遊 び や 趣 味 の 活 動 等 で 頻 繁	き外 出 す る	人づ き あ い の た め に と き ど	け趣 味 に 関 する 用 事 が 、 と き だ の	普 段 は 家 に い る は が 出 、 か 近 け 所 の	コ ン ビ は 二 な い に る は が 出 、 か 近 け 所 の	は 自 室 か ら は 出 る が 、 家 か ら	自 室 か ら ほ ん と ど 出 な い	無 回 答
全体 (N=633)		21.0	13.3	19.7	10.0	11.8	14.5	3.2	1.1	5.4		
年 代 別	65～69歳 (n=135)	43.7	24.4	17.8	4.4	4.4	3.0	0.0	0.0	2.2		
	70～74歳 (n=112)	27.7	22.3	14.3	12.5	9.8	8.9	0.0	1.8	2.7		
	75～79歳 (n=148)	16.2	10.1	27.0	10.1	12.8	15.5	0.7	0.7	6.8		
	80～84歳 (n=105)	11.4	6.7	21.0	15.2	17.1	21.0	1.9	0.0	5.7		
	85歳以上 (n=113)	1.8	1.8	18.6	8.8	16.8	24.8	14.2	3.5	9.7		
職 業 別	正規の社員・職員・役員 (n=47)	66.0	17.0	4.3	2.1	2.1	6.4	0.0	0.0	2.1		
	非正規の社員・職員 (n=106)	48.1	46.2	2.8	1.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.9		
	自由業・自営業 (n=50)	46.0	18.0	12.0	2.0	4.0	12.0	2.0	0.0	4.0		
	シルバー人材センターの会員 (n=9)	11.1	55.6	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	有償ボランティア (n=9)	11.1	22.2	44.4	11.1	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0		
	仕事はしていない (n=366)	4.6	2.7	27.6	14.2	17.5	20.2	4.9	1.9	6.3		

付問1 問27で「5～8（外出頻度が低い）」のいずれかに答えた方にうかがいます。
あなたの外出状況が現在の状態となって、どのくらい経ちますか。（1つに○）

- 外出状況が現在の状態となって、どのくらい経つかは、「1年～5年未満（39.2%）」が最も多く、「10年以上（22.2%）」が続いている。

【単数回答】

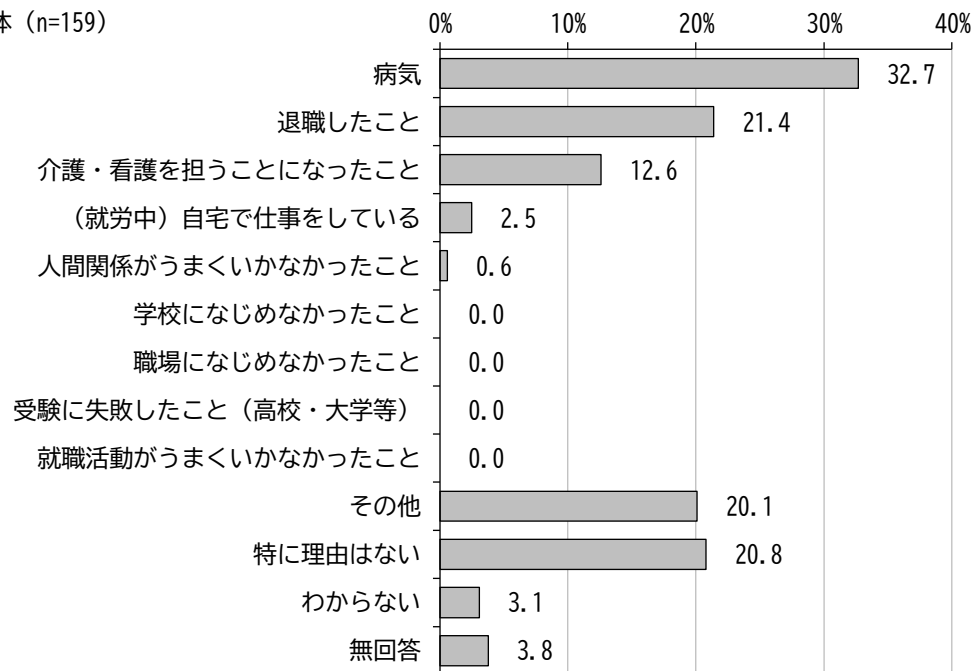


付問2 付問1で「3～6（外出状況が現在の状態となって6か月以上）」のいずれかに答えた方にうかがいます。

あなたの外出状況が現在の状態になった主な理由は何ですか。（いくつでも○）

- 外出状況が現在の状態になった主な理由は、「病気（32.7%）」が最も多く、「退職したこと（21.4%）」、「特に理由はない（20.8%）」が続いている。

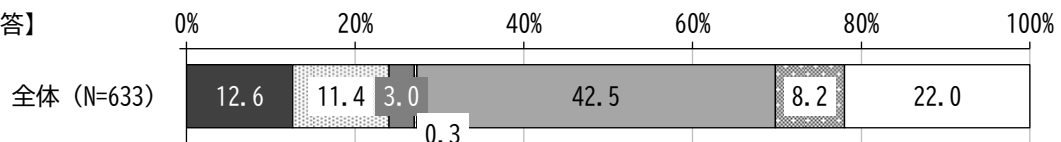
【複数回答】全体（n=159）



問28 あなた以外で、市内にお住まいのご家族（同居・別居問わず）に下記の外出状況が当てはまる人はいますか。（1つに○）

- 市内に住む家族の外出状況は、「いずれもいない（42.5%）」が最も多く、「普段は家にいるが、自分の趣味に関する用事するときだけ外出する（12.6%）」、「普段は家にいるが、近所のコンビニなどには出かける（11.4%）」が続いている。

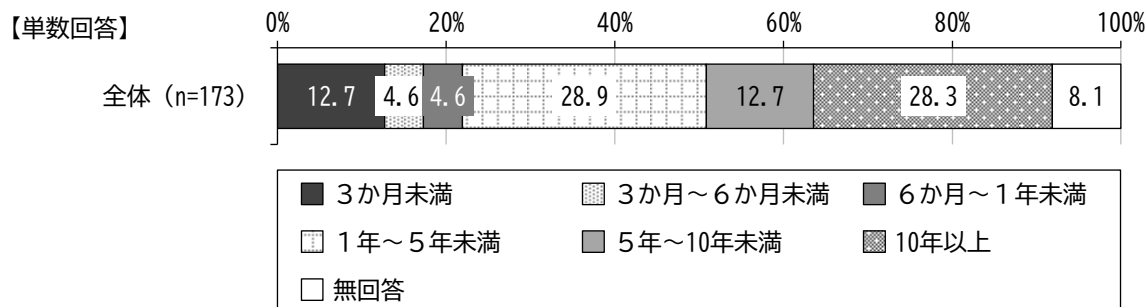
【単数回答】



- 普段は家にいるが、自分の趣味に関する用事するときだけ外出する
- ▨ 普段は家にいるが、近所のコンビニなどには出かける
- 自室からは出るが、家からは出ない
- ▨ 自室からほとんど出ない
- いずれもいない
- ▨ 外出状況がわからない
- 無回答

付問1 問28で「1～4（外出頻度が低い）」のいずれかに答えた方にうかがいます。
ご家族の外出状況が現在の状態となって、どのくらい経ちますか。（1つに○）

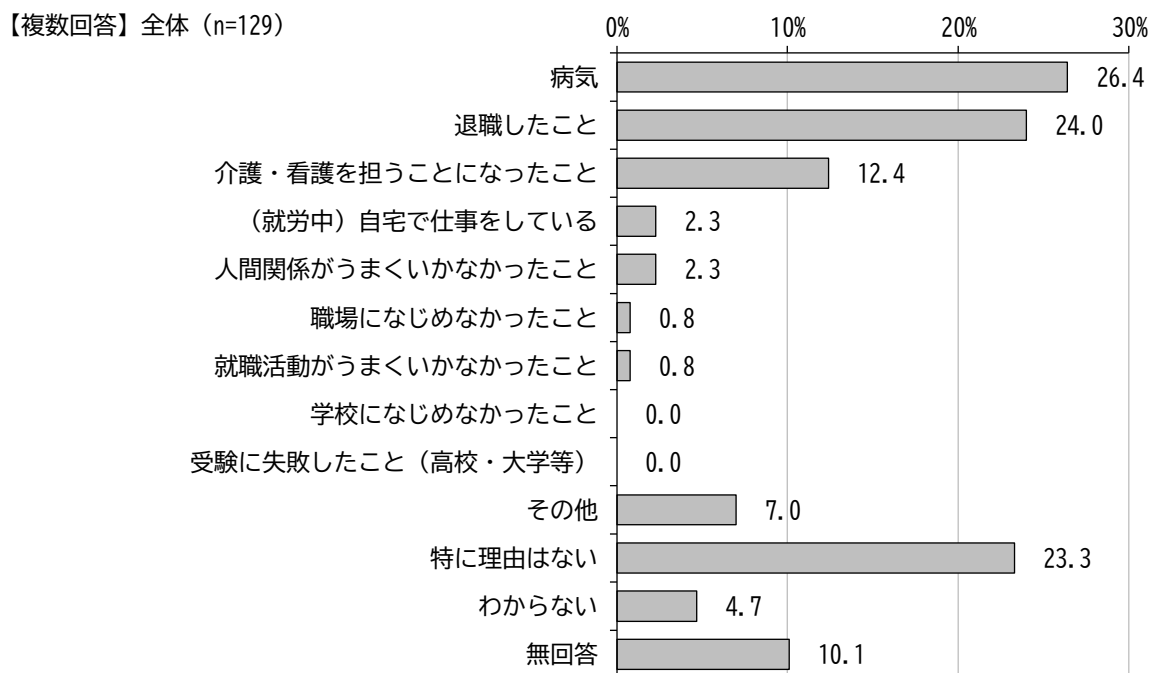
- 家族の外出状況が現在の状態となって、どのくらい経つかは、「1年～5年未満（28.9%）」が最も多く、「10年以上（28.3%）」、「3か月未満（12.7%）」「5年～10年未満（12.7%）」が続いている。



付問2 付問1で「3～6（外出状況が現在の状態となって6か月以上）」のいずれかに答えた方にうかがいます。

ご家族の外出状況が現在の状態になった主な理由は何ですか。（いくつでも○）

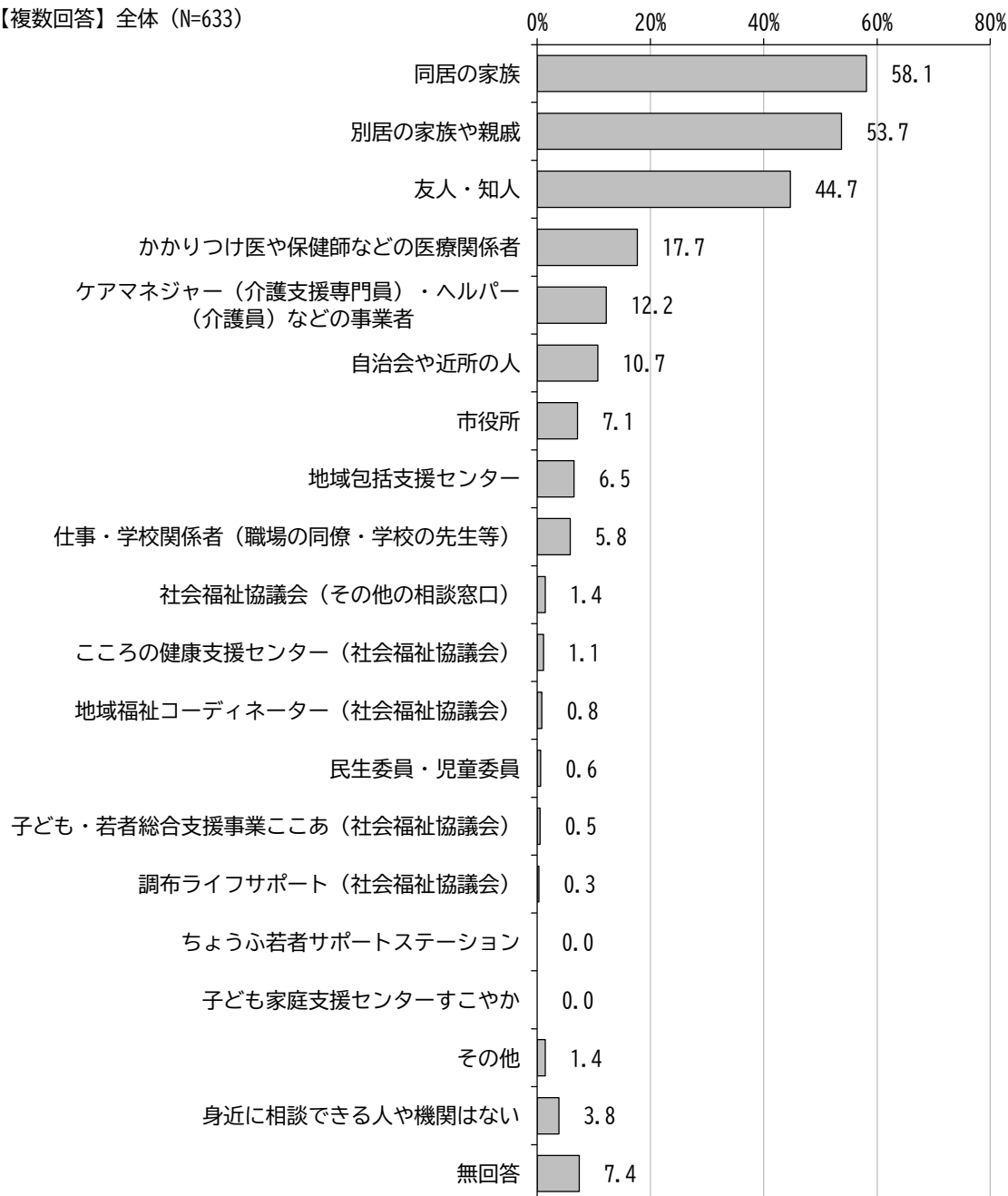
- 家族の外出状況が現在の状態になった主な理由は、「病気（26.4%）」が最も多く、「退職したこと（24.0%）」、「特に理由はない（23.3%）」が続いている。



問 29 日常生活での困りごとを相談できる人や機関はありますか。(いくつでも○)

- 日常生活での困りごとを相談できる人や機関は、「同居の家族 (58.1%)」が最も多く、「別居の家族や親戚 (53.7%)」,「友人・知人 (44.7%)」が続いている。

【複数回答】全体 (N=633)



－ 回答者属性分析 －

- 日常生活での困りごとを相談できる人や機関の割合を年代別にみると、65～74 歳、85 歳以上で「同居の家族」、75～84 歳で「別居の家族や親戚」が最も多くなっている。また、85 歳以上で「ケアマネジャー（介護支援専門員）・ヘルパー（介護員）などの事業者」が2割を超えている。
- 性・年代別にみると、男性はすべての年代で「同居の家族」、女性はそのすべての年代で「別居の家族や親戚」が最も多くなっている。また、女性：85 歳以上で「ケアマネジャー（介護支援専門員）・ヘルパー（介護員）などの事業者」が3割を超えており、男性：85 歳以上の1割台に比べて多くなっている。

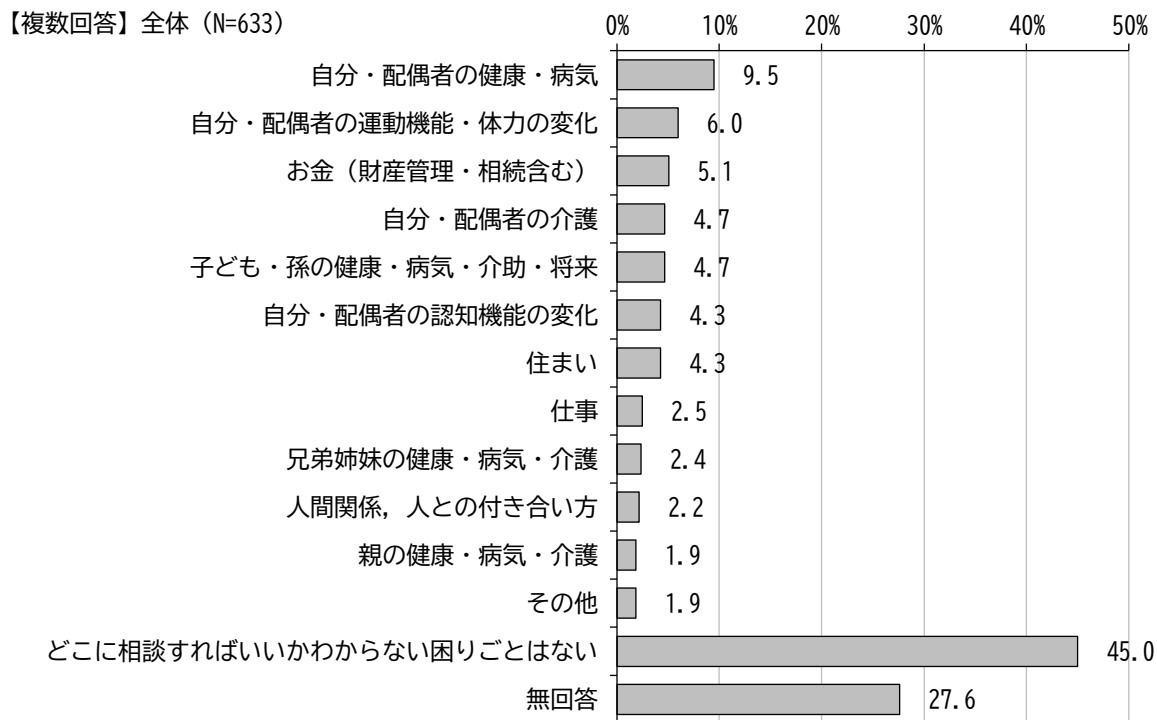
- 福祉圏域別にみると、若葉・調和小学校地域、第三・石原・飛田給小学校地域で「別居の家族や親戚」、それ以外の地域で「同居の家族」が最も多くなっている。

単位：％		同居の家族	別居の家族や親戚	自治会や近所の人	友人・知人	仕事・学校関係者（職場の同僚・学校の先生等）	民生委員・児童委員	ケアマネジャー（介護支援専門員）・ヘルパー（介護員）などの事業者	かかりつけ医や保健師などの医療関係者	市役所	地域福祉コーディネーター（社会福祉協議会）
全体（N=633）		58.1	53.7	10.7	44.7	5.8	0.6	12.2	17.7	7.1	0.8
年代別	65～74歳（n=247）	65.2	53.4	8.9	52.6	10.9	0.4	5.7	15.8	7.7	1.2
	75～84歳（n=253）	55.3	56.1	13.0	45.5	3.6	0.8	11.5	19.0	7.1	0.8
	85歳以上（n=113）	49.6	48.7	9.7	26.5	0.0	0.9	28.3	19.5	3.5	0.0
性・年代別	男性：65～74歳（n=126）	69.0	44.4	7.9	43.7	11.1	0.8	2.4	19.0	10.3	1.6
	男性：75～84歳（n=93）	65.6	45.2	14.0	43.0	6.5	1.1	8.6	22.6	11.8	0.0
	男性：85歳以上（n=34）	52.9	44.1	11.8	23.5	0.0	2.9	17.6	17.6	2.9	0.0
	女性：65～74歳（n=120）	61.7	62.5	10.0	61.7	10.8	0.0	9.2	12.5	5.0	0.8
	女性：75～84歳（n=158）	49.4	63.3	12.7	46.2	1.9	0.6	13.3	16.5	4.4	1.3
	女性：85歳以上（n=78）	48.7	51.3	9.0	28.2	0.0	0.0	33.3	20.5	3.8	0.0
福祉圏域別	緑ヶ丘・滝坂（n=72）	62.5	52.8	9.7	47.2	5.6	0.0	9.7	12.5	6.9	0.0
	若葉・調和（n=58）	56.9	63.8	13.8	51.7	3.4	1.7	13.8	19.0	10.3	1.7
	上ノ原・柏野（n=66）	66.7	56.1	6.1	39.4	3.0	0.0	9.1	16.7	3.0	0.0
	北ノ台・深大寺（n=66）	57.6	54.5	10.6	47.0	6.1	1.5	6.1	12.1	4.5	0.0
	第二・八雲台・国領（n=102）	57.8	52.0	12.7	46.1	5.9	0.0	14.7	25.5	9.8	0.0
	染地・杉森・布田（n=79）	54.4	43.0	10.1	53.2	7.6	0.0	11.4	20.3	6.3	3.8
	第一・富士見台・多摩川（n=71）	50.7	47.9	2.8	36.6	4.2	0.0	7.0	11.3	8.5	0.0
	第三・石原・飛田給（n=94）	62.8	63.8	17.0	41.5	9.6	2.1	22.3	21.3	3.2	1.1

単位：％		福祉調布ライフサポート（社会福祉協議会）	子ども・若者総合支援事業（社会福祉協議会）	こころの健康支援センター（社会福祉協議会）	社会福祉協議会（その他の相談窓口）	地域包括支援センター	ちようふ若者サポートステーション	子ども家庭支援センターすこやか	その他	身近に相談できる人や機関	無回答
全体（N=633）		0.3	0.5	1.1	1.4	6.5	0.0	0.0	1.4	3.8	7.4
年代別	65～74歳（n=247）	0.0	0.8	0.8	1.6	4.9	0.0	0.0	1.2	4.5	4.0
	75～84歳（n=253）	0.8	0.0	1.6	1.6	5.9	0.0	0.0	1.2	3.6	6.7
	85歳以上（n=113）	0.0	0.9	0.9	0.9	9.7	0.0	0.0	2.7	3.5	15.0
性・年代別	男性：65～74歳（n=126）	0.0	0.8	0.8	2.4	5.6	0.0	0.0	1.6	7.1	4.0
	男性：75～84歳（n=93）	1.1	0.0	2.2	2.2	6.5	0.0	0.0	1.1	6.5	3.2
	男性：85歳以上（n=34）	0.0	0.0	0.0	2.9	11.8	0.0	0.0	5.9	2.9	17.6
	女性：65～74歳（n=120）	0.0	0.8	0.8	0.8	4.2	0.0	0.0	0.8	1.7	4.2
	女性：75～84歳（n=158）	0.6	0.0	1.3	1.3	5.7	0.0	0.0	1.3	1.9	8.9
	女性：85歳以上（n=78）	0.0	1.3	1.3	0.0	9.0	0.0	0.0	1.3	3.8	12.8
福祉圏域別	緑ヶ丘・滝坂（n=72）	0.0	0.0	1.4	0.0	5.6	0.0	0.0	1.4	4.2	4.2
	若葉・調和（n=58）	0.0	1.7	3.4	1.7	5.2	0.0	0.0	1.7	6.9	3.4
	上ノ原・柏野（n=66）	1.5	0.0	1.5	1.5	6.1	0.0	0.0	1.5	3.0	7.6
	北ノ台・深大寺（n=66）	0.0	0.0	0.0	1.5	4.5	0.0	0.0	0.0	3.0	12.1
	第二・八雲台・国領（n=102）	0.0	0.0	0.0	3.9	9.8	0.0	0.0	1.0	4.9	5.9
	染地・杉森・布田（n=79）	0.0	0.0	2.5	0.0	6.3	0.0	0.0	0.0	5.1	8.9
	第一・富士見台・多摩川（n=71）	0.0	1.4	0.0	1.4	5.6	0.0	0.0	4.2	2.8	9.9
	第三・石原・飛田給（n=94）	1.1	1.1	1.1	1.1	6.4	0.0	0.0	2.1	2.1	3.2

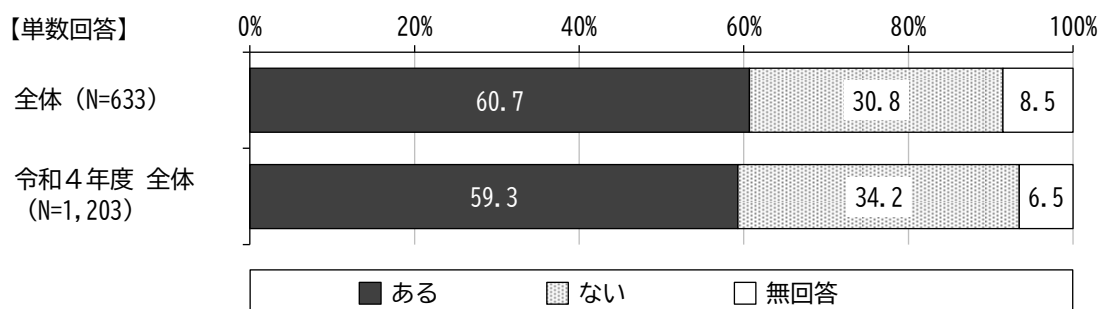
問 30 現在、あなた自身やご家族は、どこに相談すればいいかわからない生活上の困りごとを抱えていますか。差し支えなければ、お困りの内容をお聞かせください。
(いくつでも○)

- 相談先がわからない生活上の困りごとは、「どこに相談すればいいかわからない困りごとはない (45.0%)」が最も多く、「自分・配偶者の健康・病気 (9.5%)」、「自分・配偶者の運動機能・体力の変化 (6.0%)」が続いている。



問 31 自宅以外にひとりで、あるいは友人・知人と過ごす場所がありますか。(1つに○)

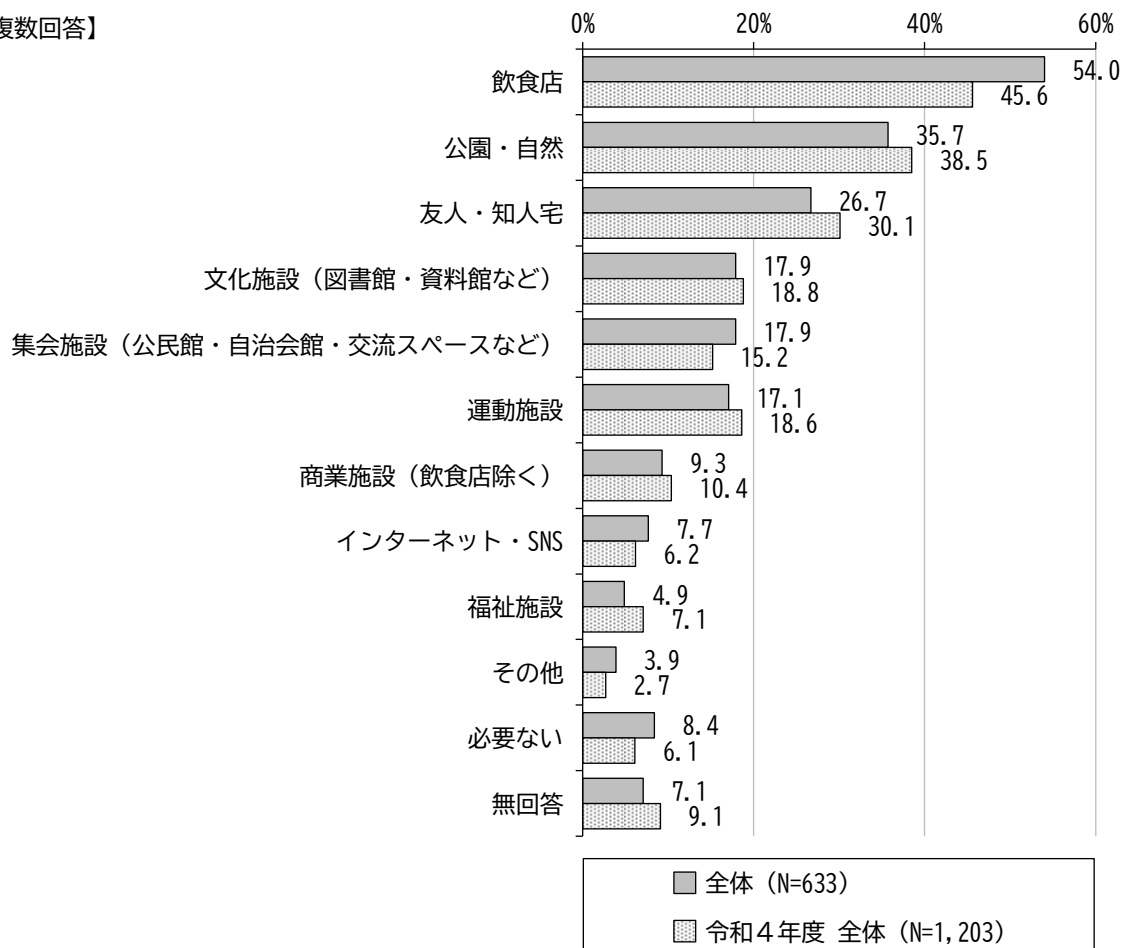
- 自宅以外にひとりで、あるいは友人・知人と過ごす場所の有無は、「ある (60.7%)」、「ない (30.8%)」である。
- 令和4年度の調査結果と比較すると、大きな変化はみられない。



問 32 自宅以外にひとりで、あるいは友人・知人と過ごす場合、どのような場所を望みますか。(いくつでも○)

- 自宅以外にひとりで、あるいは友人・知人と過ごしたい場所は、「飲食店 (54.0%)」が最も多く、「公園・自然 (35.7%)」、「友人・知人宅 (26.7%)」が続いている。
- 令和4年度の調査結果と比較すると、「飲食店」が8.4ポイント高くなっている。

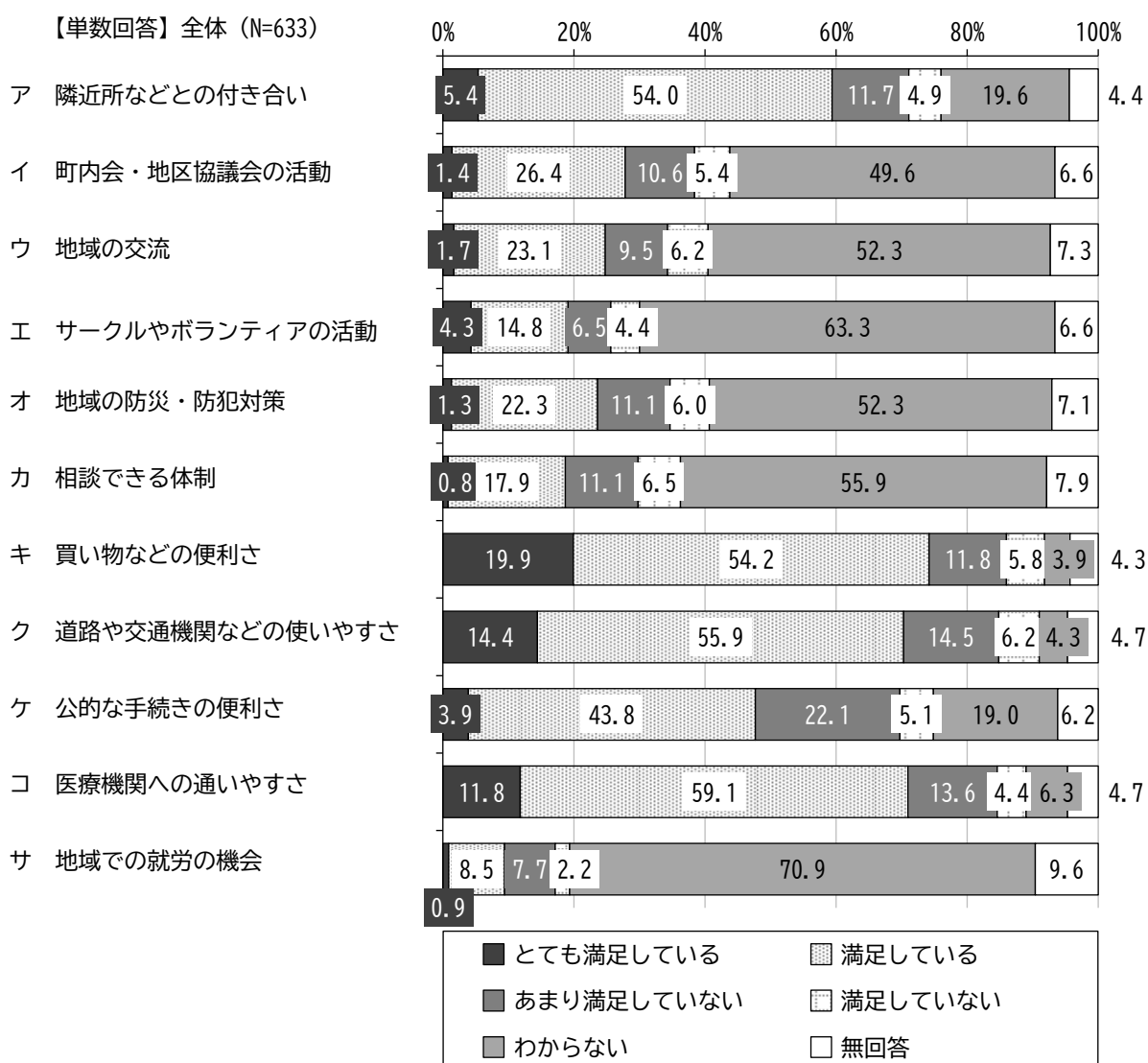
【複数回答】



7 誰もが暮らしやすいまちづくりについておたずねします

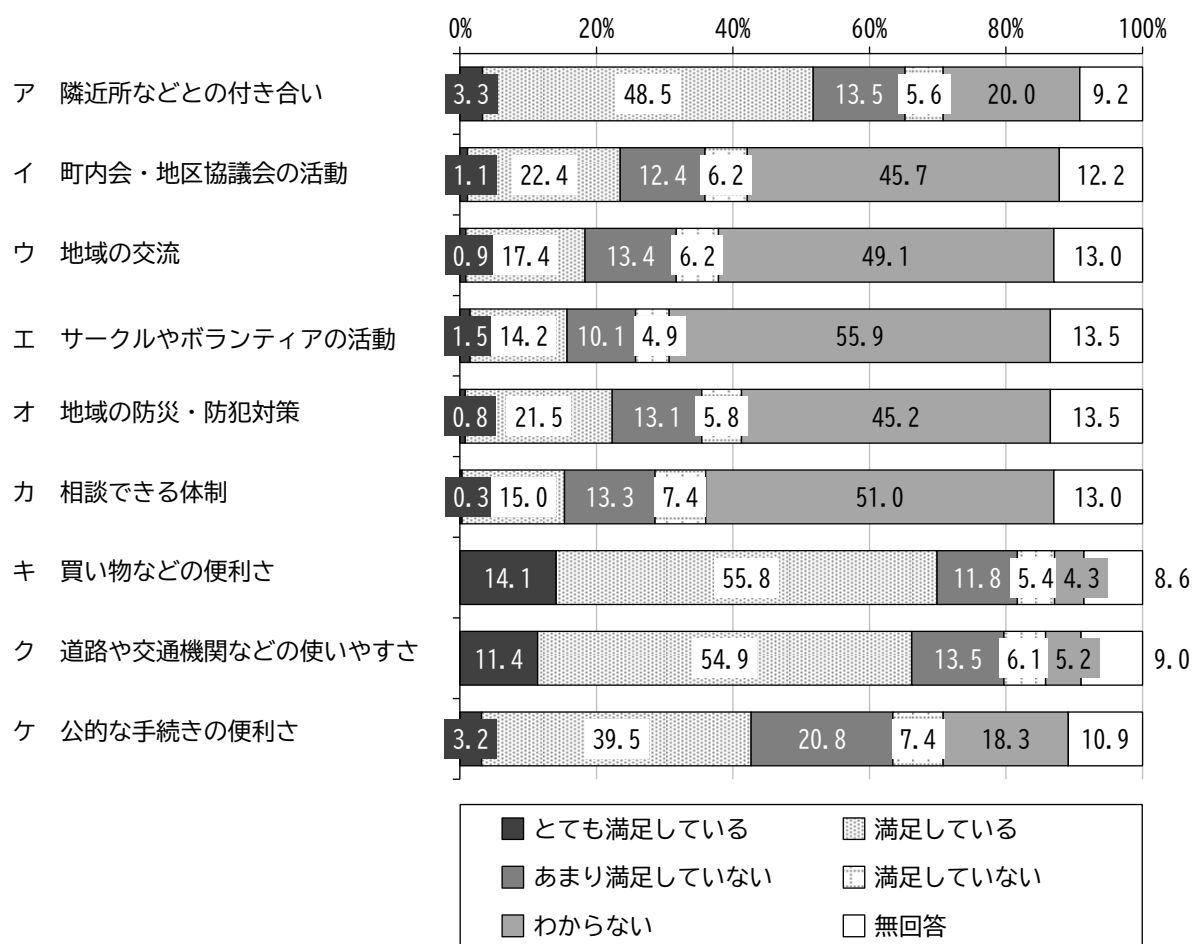
問 33 お住まいの地域の暮らしやすさについて、どのように感じていますか。
(それぞれ1つに○)

- 地域の暮らしやすさの状況について、「とても満足している」と「満足している」を合わせた『満足している』の割合は、[キ 買い物などの便利さ (74.1%)] が最も多く、[コ 医療機関への通いやすさ (70.9%)], [ク 道路や交通機関などの使いやすさ (70.3%)] が続いている。
- 令和4年度の調査結果と比較すると、『満足している』の割合は、[ア 隣近所などとの付き合い] で7.6ポイント、[ウ 地域の交流] で6.5ポイント高くなっている。



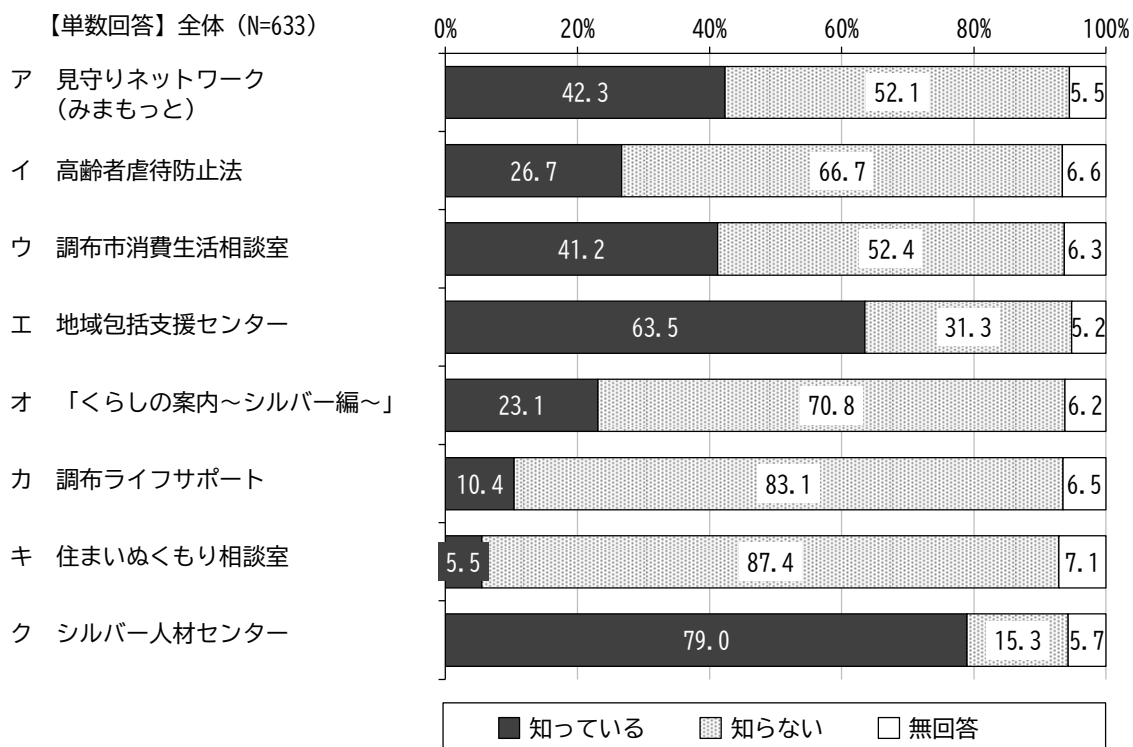
※ [コ 医療機関への通いやすさ], [サ 地域での就労の機会] は今回調査のみの項目

【単数回答】令和4年度 全体 (N=1,203)

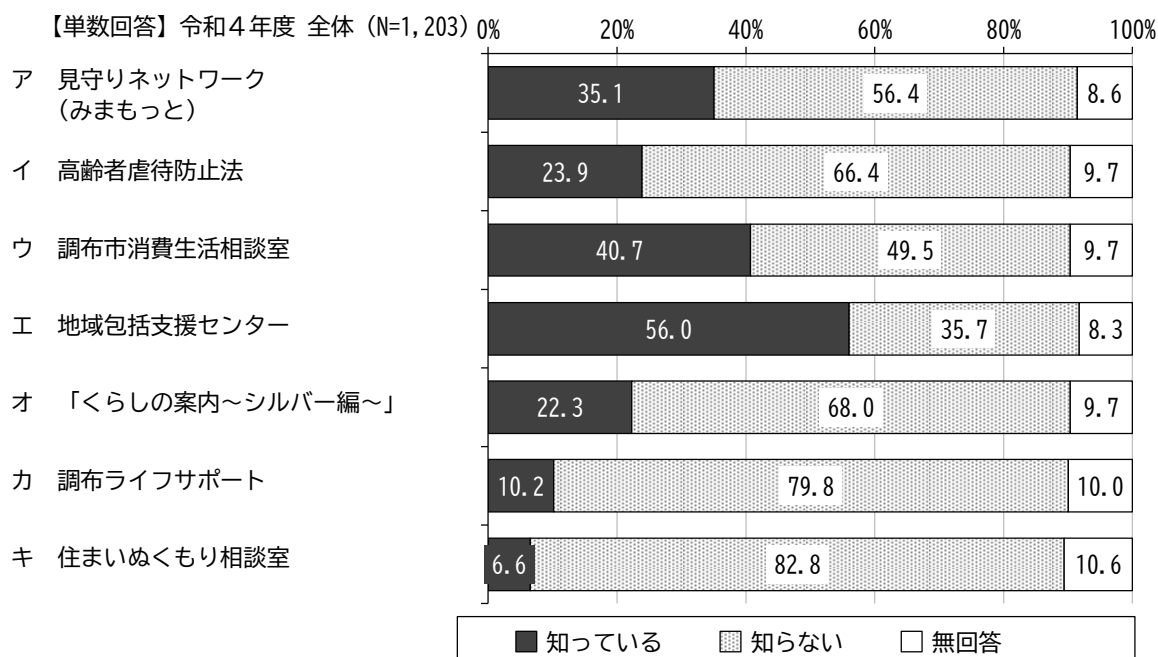


問 34 高齢者の生活を守る取組や相談窓口などがあります。下記のことをご存知ですか。
(それぞれ1つに○)

- 高齢者の生活を守る取組や相談窓口などの認知状況について、「知っている」の割合は、
[ク シルバー人材センター (79.0%)] が最も多く、[エ 地域包括支援センター (63.5%)], [ア 見守りネットワーク (みまもっと) (42.3%)] が続いている。
- 令和4年度の調査結果と比較すると、「知っている」の割合は、[ア 見守りネットワーク (みまもっと)] が7.2ポイント、[エ 地域包括支援センター] が7.5ポイント、それぞれ高くなっている。



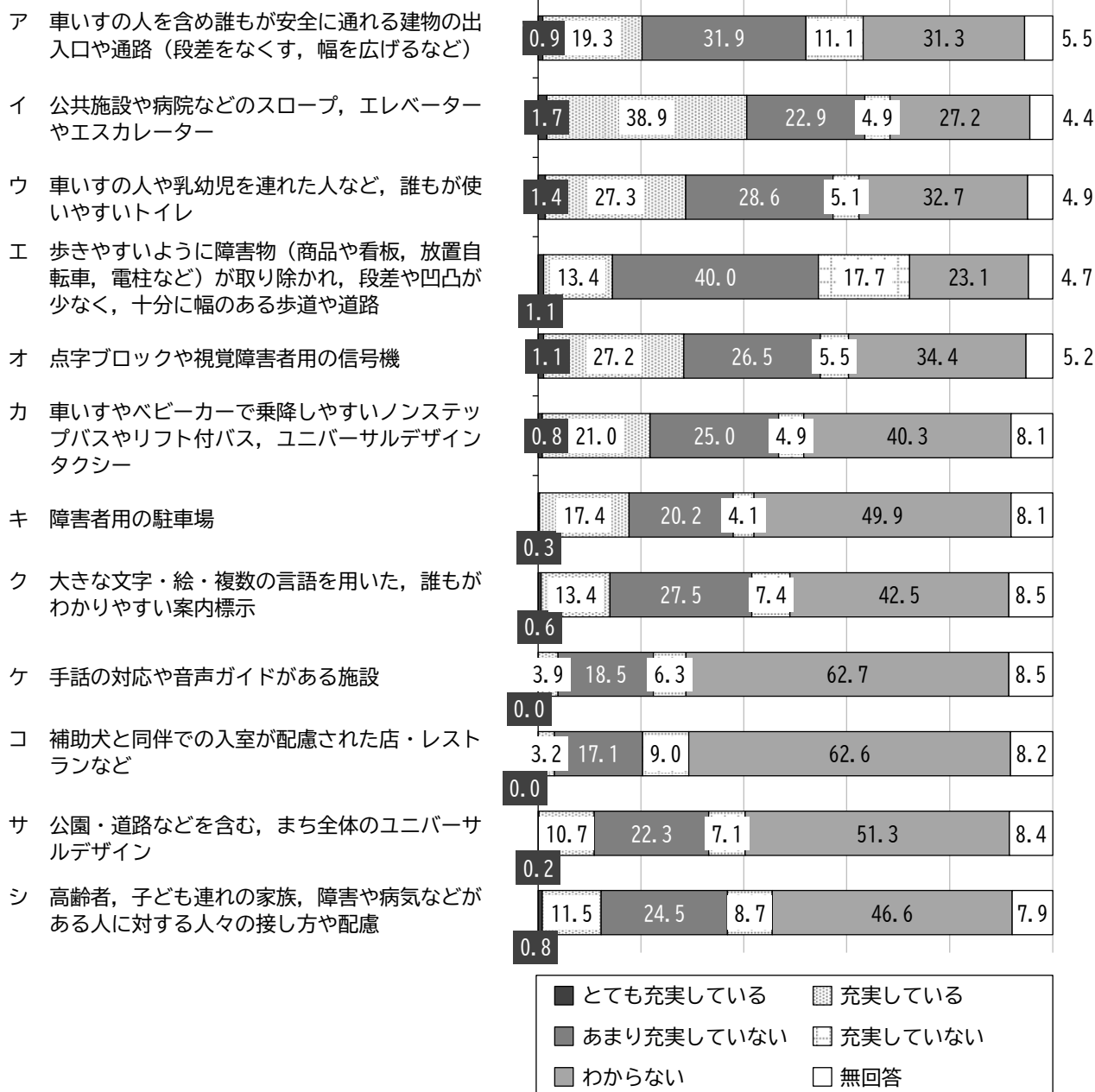
※ [ク シルバー人材センター] は今回調査のみの項目



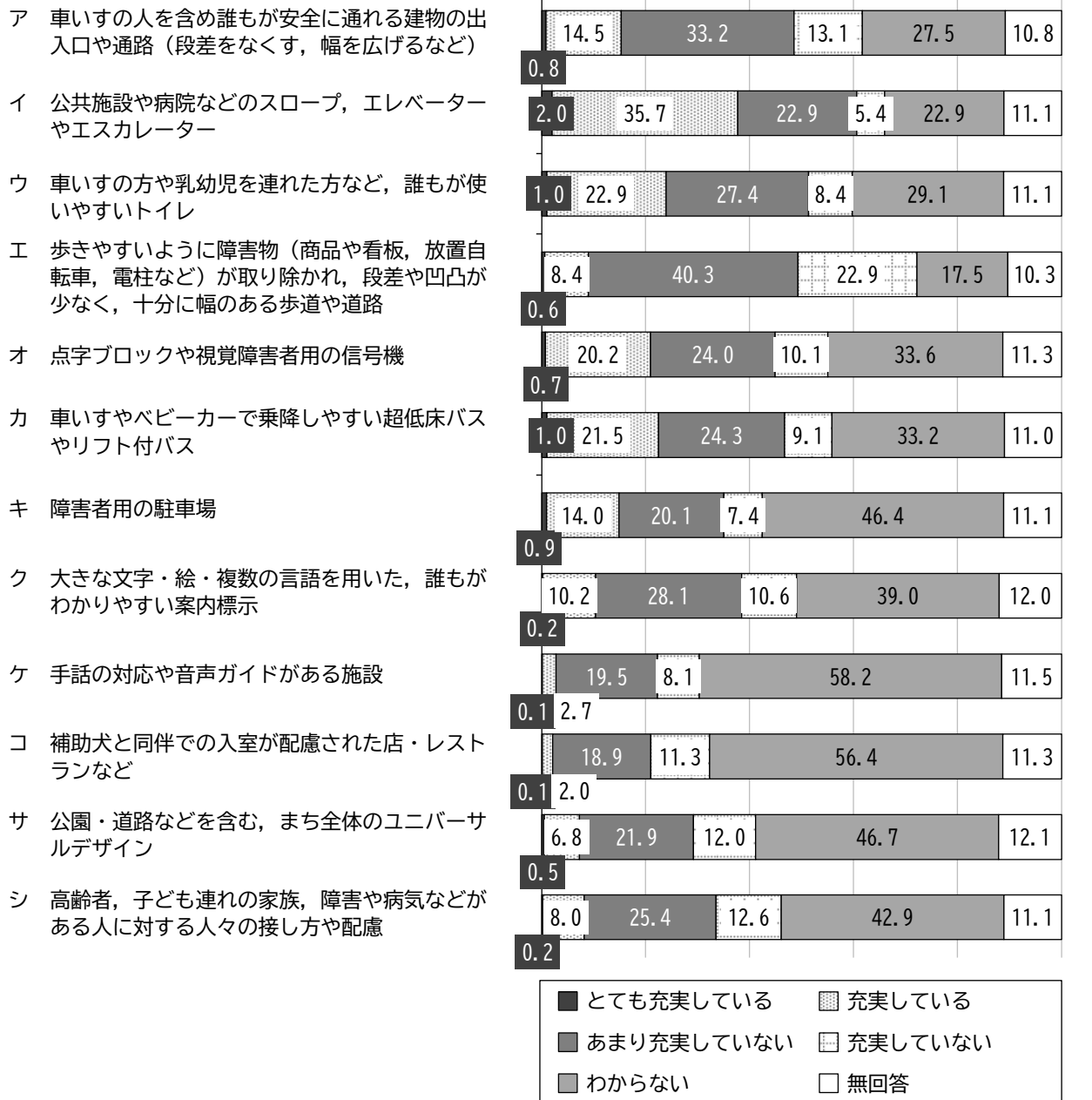
問 35 市内のバリアフリー・ユニバーサルデザインについて、どのように感じていますか。
(それぞれ1つに○)

- 市内のバリアフリー・ユニバーサルデザインの状況について、「とても充実している」と「充実している」を合わせた『充実している』の割合は、[イ 公共施設や病院などのスロープ，エレベーターやエスカレーター（40.6%）]が最も多く，[ウ 車いすの人や乳幼児を連れた人など，誰もが使いやすいトイレ（28.7%）]，[オ 点字ブロックや視覚障害者用の信号機（28.3%）]が続いている。
- 一方，「あまり充実していない」と「充実していない」を合わせた『充実していない』の割合は，[エ 歩きやすいように障害物（商品や看板，放置自転車，電柱など）が取り除かれ，段差や凹凸が少なく，十分に幅のある歩道や道路（57.7%）]が最も多く，[ア 車いすの人を含め誰もが安全に通れる建物の出入口や通路（段差をなくす，幅を広げるなど）（43.0%）]，[ク 大きな文字・絵・複数の言語を用いた，誰もがわかりやすい案内標示（34.9%）]が続いている。
- 令和4年度の調査結果と比較すると，『充実している』の割合は，[オ 点字ブロックや視覚障害者用の信号機]で7.4ポイント，[エ 歩きやすいように障害物（商品や看板，放置自転車，電柱など）が取り除かれ，段差や凹凸が少なく，十分に幅のある歩道や道路]で5.5ポイント高くなっている。

【単数回答】全体 (N=633)

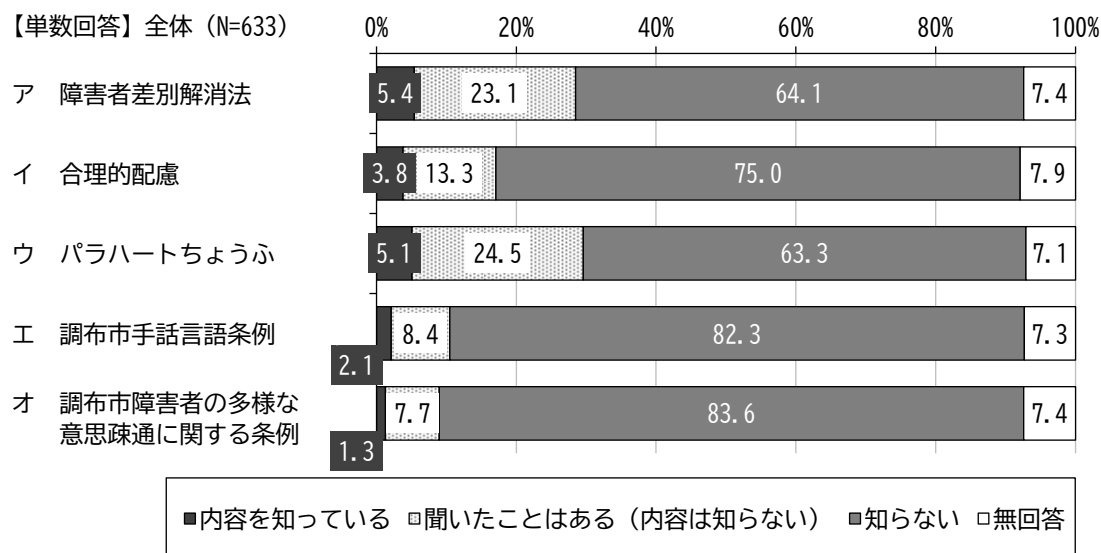


【単数回答】令和4年度 全体 (N=1,203)



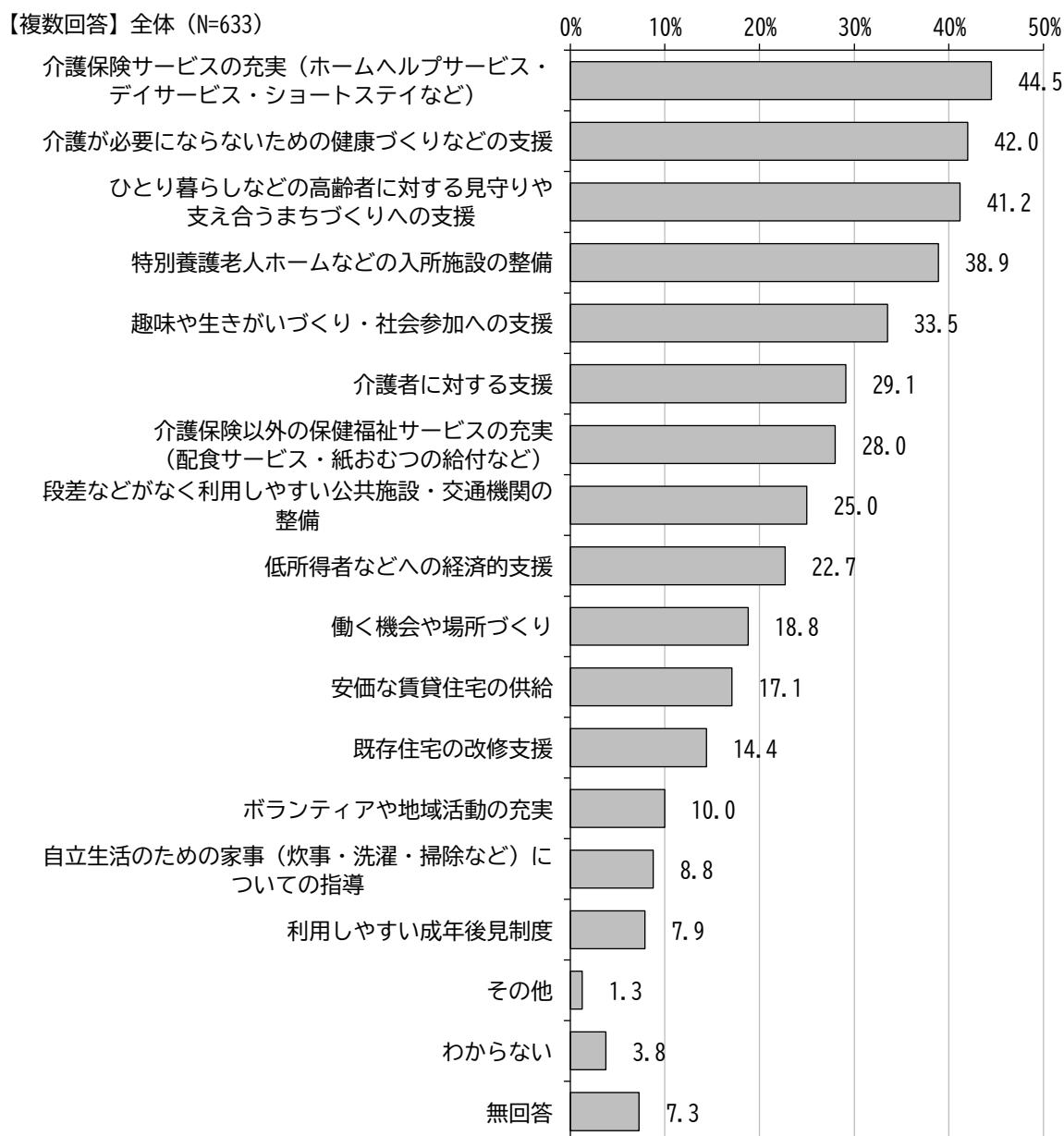
問 36 共生社会の充実のための法律や考え方，調布市が令和6年度に制定した2つの条例を知っていますか。（それぞれ1つに○）

- 共生社会の充実のための法律や考え方について，「内容を知っている」の割合は，[ア 障害者差別解消法（5.4%）] が最も多く，[ウ パラハートちょうふ（5.1%）] が続いている。市が令和6年度に制定した2つの条例について，「内容を知っている」の割合は，[エ 調布市手話言語条例（2.1%）]，[オ 調布市障害者の多様な意思疎通に関する条例（1.3%）] が続いている。



問 37 調布市の高齢者保健福祉施策（サービス）をより充実していくために、特に重要と考える取組は何ですか。（5つまで○）

- 市の高齢者保健福祉施策（サービス）の充実のために重要な取組は、「介護保険サービスの充実（ホームヘルプサービス・デイサービス・ショートステイなど）（44.5%）」が最も多く、「介護が必要にならないための健康づくりなどの支援（42.0%）」、「ひとり暮らしなどの高齢者に対する見守りや支え合うまちづくりへの支援（41.2%）」が続いている。



－ 回答者属性分析 －

- 市の高齢者保健福祉施策（サービス）の充実のために重要な取組の割合を性・年代別にみると、男性は、65～74 歳で「働く機会や場所づくり」、85 歳以上で「介護が必要にならないための健康づくりなどの支援」が最も多く、75～84 歳で「介護が必要にならないための健康づくりなどの支援」と「介護保険サービスの充実（ホームヘルプサービス・デイサービス・ショートステイなど）」が同率となっている。女性は、65～74 歳で「ひとり暮らしなどの高齢者に対する見守りや支え合うまちづくりへの支援」、75～84 歳で「介護が必要にならないための健康づくりなどの支援」、85 歳以上で「介護保険サービスの充実（ホームヘルプサービス・デイサービス・ショートステイなど）」が最も多くなっている。
- 福祉圏域別にみると、緑ヶ丘・滝坂小学校地域、北ノ台・深大寺小学校地域で「介護が必要にならないための健康づくりなどの支援」が最も多く、若葉・調和小学校地域で「趣味や生きがいづくり・社会参加への支援」と「介護が必要にならないための健康づくりなどの支援」、第一・富士見台・多摩川小学校地域で「介護保険サービスの充実（ホームヘルプサービス・デイサービス・ショートステイなど）」と「ひとり暮らしなどの高齢者に対する見守りや支え合うまちづくりへの支援」、第三・石原・飛田給小学校地域で「ひとり暮らしなどの高齢者に対する見守りや支え合うまちづくりへの支援」と「特別養護老人ホームなどの入所施設の整備」が同率となっている。それ以外の地域で「介護保険サービスの充実（ホームヘルプサービス・デイサービス・ショートステイなど）」が最も多くなっている。

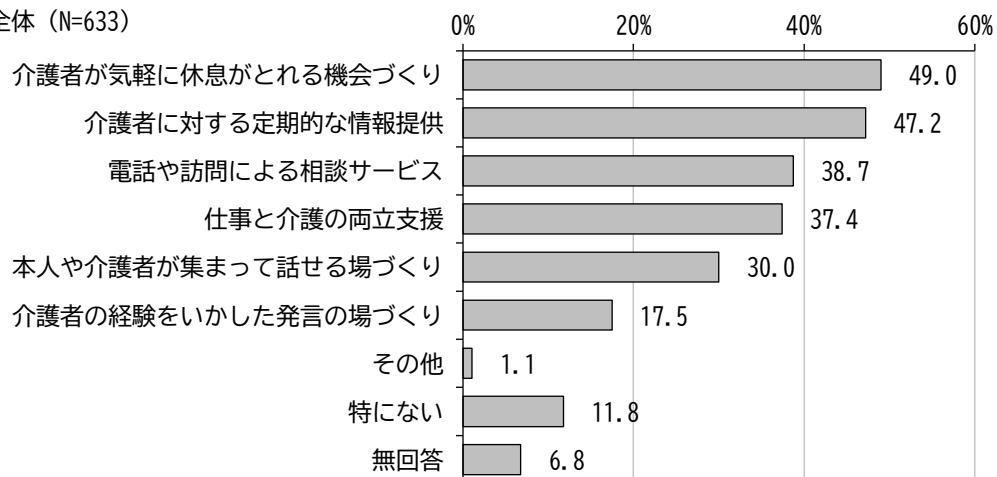
単位：％		趣味や生きがいづくり・社会参加への支援	働く機会や場所づくり	介護が必要にならないための健康づくりなどの支援	洗濯・掃除などの家事（炊事・指導）	自立生活のための家事（炊事・指導）	ヘルプサービス・デイサービス・ショートステイなど	介護保険サービスの充実（ホームヘルプサービス・紙おむつの給付など）	介護保険以外の保健福祉サービスの充実（配食サービス・紙おむつの給付など）	ボランティアや地域活動の充実	ひとり暮らしなどの高齢者に対する見守りや支え合うまちづくりにへの支援	低所得者などへの経済的支援
全体（N=633）		33.5	18.8	42.0	8.8	44.5	28.0	10.0	41.2	22.7		
性・年代別	男性：65～74歳（n=126）	38.9	39.7	37.3	11.9	37.3	27.8	14.3	31.0	27.0		
	男性：75～84歳（n=93）	36.6	15.1	44.1	14.0	44.1	22.6	7.5	40.9	24.7		
	男性：85歳以上（n=34）	35.3	2.9	50.0	2.9	44.1	38.2	5.9	38.2	23.5		
	女性：65～74歳（n=120）	38.3	25.8	39.2	10.0	49.2	30.8	7.5	51.7	15.8		
	女性：75～84歳（n=158）	30.4	9.5	47.5	5.7	46.8	29.1	9.5	44.9	22.2		
	女性：85歳以上（n=78）	21.8	5.1	41.0	6.4	46.2	23.1	12.8	38.5	25.6		
福祉圏域別	緑ヶ丘・滝坂（n=72）	29.2	19.4	43.1	18.1	40.3	22.2	4.2	38.9	15.3		
	若葉・調和（n=58）	41.4	20.7	41.4	8.6	39.7	27.6	12.1	39.7	22.4		
	上ノ原・柏野（n=66）	30.3	21.2	37.9	9.1	43.9	31.8	6.1	37.9	18.2		
	北ノ台・深大寺（n=66）	48.5	18.2	50.0	4.5	47.0	19.7	13.6	40.9	27.3		
	第二・八雲台・国領（n=102）	26.5	18.6	41.2	11.8	51.0	34.3	8.8	40.2	28.4		
	染地・杉森・布田（n=79）	29.1	17.7	44.3	6.3	45.6	30.4	13.9	40.5	24.1		
	第一・富士見台・多摩川（n=71）	38.0	22.5	40.8	8.5	42.3	26.8	11.3	42.3	25.4		
	第三・石原・飛田給（n=94）	33.0	14.9	43.6	5.3	44.7	27.7	12.8	47.9	18.1		

単位：％		既存住宅の改修支援	安価な賃貸住宅の供給	機や段の差のい公共がなく施設・利用通し	ど特別入養所施設老人のホームな	利用しやすいうい成年後見	介護者に対する支援	その他	わからない	無回答
全体（N=633）		14.4	17.1	25.0	38.9	7.9	29.1	1.3	3.8	7.3
性・年代別	男性：65～74歳（n=126）	15.1	20.6	21.4	33.3	7.1	26.2	0.8	4.8	4.8
	男性：75～84歳（n=93）	17.2	20.4	24.7	35.5	6.5	25.8	1.1	2.2	8.6
	男性：85歳以上（n=34）	5.9	14.7	29.4	38.2	8.8	23.5	0.0	11.8	2.9
	女性：65～74歳（n=120）	12.5	15.0	20.0	48.3	6.7	35.8	0.8	1.7	4.2
	女性：75～84歳（n=158）	17.1	17.1	34.2	38.0	12.0	29.1	2.5	1.9	8.9
	女性：85歳以上（n=78）	12.8	11.5	19.2	42.3	5.1	26.9	1.3	7.7	10.3
福祉圏域別	緑ヶ丘・滝坂（n=72）	8.3	16.7	19.4	38.9	12.5	31.9	1.4	1.4	9.7
	若葉・調和（n=58）	17.2	27.6	19.0	37.9	0.0	25.9	0.0	1.7	3.4
	上ノ原・柏野（n=66）	18.2	7.6	27.3	40.9	6.1	36.4	3.0	3.0	6.1
	北ノ台・深大寺（n=66）	21.2	15.2	27.3	34.8	7.6	25.8	0.0	1.5	3.0
	第二・八雲台・国領（n=102）	15.7	21.6	29.4	37.3	5.9	26.5	2.0	2.9	7.8
	染地・杉森・布田（n=79）	13.9	22.8	21.5	38.0	7.6	31.6	1.3	10.1	6.3
	第一・富士見台・多摩川（n=71）	8.5	14.1	26.8	33.8	8.5	26.8	0.0	4.2	8.5
	第三・石原・飛田給（n=94）	14.9	11.7	28.7	47.9	13.8	25.5	1.1	3.2	8.5

問 38 介護者支援策として、あなたが必要だと思うことは次のどれですか。
(いくつでも○)

- 必要だと思う介護者支援策は、「介護者が気軽に休息がとれる機会づくり (49.0%)」が最も多く、「介護者に対する定期的な情報提供 (47.2%)」,「電話や訪問による相談サービス (38.7%)」が続いている。

【複数回答】全体 (N=633)



問 39 市民同士がお互いに支え合い、住み慣れたまちで誰もが安心して暮らすことのできるまちづくりを進めるためには、以下の①～③の取組が重要です。これらの取組について、ご意見、ご提案をお聞かせください。（自由記述）

○ 市民同士がお互いに支え合い、住み慣れたまちで誰もが安心して暮らすまちづくりの取組についてのご意見、ご提案を自由記述形式でたずねたところ、211 件の回答があった。以下に項目別の意見数を掲載する。

項目	意見区分	意見数
①地域活動の活性化・市民同士の支え合いの仕組みづくり	ア 自治会活動の活性化 イ 支え合い、ボランティア ウ 地域活動の情報 エ 近所のつながり オ 声かけ	37
②相談・サービスの充実	ア 市のサービス イ サービス等の情報提供 ウ 相談体制の充実	52
③安全・安心の確保等	ア 交通安全 イ 防災の強化 ウ 防犯の強化	38
取組番号の選択なし		29
3つの取組以外で気になっていること	ア 生活環境 イ 市の施策 ウ 医療、福祉、子育て、防災 エ 交通の利便性 オ アンケート	55
合計		211

○ 項目別に意見を抜粋して掲載する（原文通り）。

①地域活動の活性化・市民同士の支え合いの仕組みづくり

ア 自治会活動の活性化

- ほどよく他者に関心や協力のできる関係が大事だと思います。そのためには自治会活動が大きな役割を持っています。市内のユニークな自治会活動を伝える手段があるといいと思います。（男性、75～79 歳）
- 自治会会員が少なくなり、消滅した所もあります。古い方は年を取って辞めていくし、引っ越して来た新しい方はまず入会しません。どうすればいいのか私には分かりませんが、魅力ある自治会を考えていけばと思います。（女性、70～74 歳）

イ 支え合い、ボランティア

- 市民同士の支え合いの仕組みづくりには自治会の力が大事に思えますが、自治会に入っている家が少ないと思えます。調布市へ転入の際に自治会へ入る案内、様々な相

談に応える市役所の支援組織の紹介などされては。高齢者施設、保育園の近くに高齢者の集まれる場所（高齢者の仕事場、憩いの場）を交流目的に設置し、可能な人は介護士、保育士の手伝いをする（早朝、夜の預かり、食事、掃除など）。シルバー人材センターの充実。覗いてみようかなと思わせるようなコマーシャル。（女性、75～79歳）

- いつでも年齢に関係なくふらりと立ち寄れる様な場があると年を重ねた人や子供や例えば障がいがある人などその中には最低限のルールがあり、それらを支える人も高齢者などという、自由な場が欲しい。常に自然と支える人が居てと。高齢者も関係的には無視ができないながらも役に立ちたいという思いは常に頭の中には持っている。シニアパワーを大いに利用して欲しいもので有る。（女性、80～84歳）
- シルバー人材の活用。ボランティアの参加の簡単さ。（女性、65～69歳）

ウ 地域活動の情報

- 地域活動は各地域で色々あるようですが、私はよく知らず、一人暮らしになり知り合いに何かやりたいと話した所、老人会に誘って下さり入りました。市でももう少し広報に力を入れてはと思います。東町のランチはあまり利用されていない様子に見えます。もっと気軽に誰でも行かれる居場所にできないでしょうか。どういうコンセプトでどう運営をすれば皆の気楽な居場所になるのか、私には考えても分かりません。中身が大事だと思うのですが…。（女性、75～79歳）

エ 近所のつながり

- 市民活動までは望まないが、災害時に助け合える、声かけができるなど、また昨今の闇バイトなどの被害防止等も含め、開かれた地域づくり、コミュニティづくりは必要ではないかと思う。昔は町内会が有り、近所の人付き合いがあったが、今はなくなった。（男性、65～69歳）
- マンション住まい長いがポストに氏名、玄関表札もない。「隣は何をする人ぞ」強く感じます。民生委員一度も来訪なし。（女性、80～84歳）
- 30代までは、地域、近所で昔からの隣人同士で交流、助け合う交流があった。自らが、高齢者となった今、つくづく思うのが子供、児童を含めた若者の人口が減り、接触すら無くなっている。介護施設等で学校児童、生徒達が交流の機会あるのは知っているが、その親世代さらには成長した若者達がまず交流、接触する機会、イベントが全く無いように思える。もし、あったとしても見聞きしていない。中高年よりも、若い世代から地域で交流継続していく事業が個人的には必要と思う。（男性、65～69歳）

オ 声かけ

- 見守りパトロール隊があったら良い。1.安心、安全の確認。2.困った時に相談が出来る。3.安否確認をする。4.話し相手になってもらう。（男性、70～74歳）

②相談・サービスの充実

ア 市のサービス

- 複雑な手続きを要さず、予約や長時間の待ち時間がいない、気軽に相談できるサービス体制を希望します。（男性、65～69歳）

- 一層のサービスの充実と、利用しやすい、相談しやすい環境整備が必要。(男性, 65～69 歳)
- 可能な限り自立した生活をしたいが、それが難しくなったとき、手続き等複雑でなく緊急時簡便に利用できる行政のサービス (女性, 70～74 歳)

イ サービス等の情報提供

- 相談・サービスをどこに連絡すれば良いか分かりやすく案内してほしいです。(女性, 65～69 歳)
- 調布市が提供している各種サービスの一覧表があると便利だと思います。(男性, 70～74 歳)

ウ 相談体制の充実

- 支援が必要となった時、一番最初に相談できる窓口が市役所にあってほしい。その後のニーズにあった相談先を指示してくれる、新規の相談者に寄り添える窓口があると安心です。(女性, 65～69 歳)
- 相談窓口が複数ある現状は一定のメリットがありますが、複数の悩みが絡む複雑なケースに対応するため、窓口を一本化し、相談の一次受付と内容分析を行った後に、専門の窓口へ連携する仕組みを推奨します。(男性, 65～69 歳)
- 気軽に相談できる場所をもっと増やして欲しい。(女性, 70～74 歳)

③安全・安心の確保等

ア 交通安全

- 歩道が狭く、段差や斜めになっている場所が多いと思う。自転車の利用率が高く、歩道歩行マナーも悪い為、危険を感じる事が多々あり。対策整備が必要と思う。(女性, 70～74 歳)
- 駅周辺の歩道は整備されていますが、住まいの近くは歩道が狭く左右傾斜、車道との段差が大きい。狭い道は路面が荒れているなど、歩くにも車椅子にも困難があります。バスの乗り降りも大変な所もあります。それらが改善されれば外出が楽になります。段差の大きいバス停には、歩道上に柵やポールがあると助かります。(女性, 75～79 歳)
- 高齢者だからという訳でなく、居住地により大きな差がある。歩道(狭い、区分なし)、自転車通行路(狭い車道、歩道)、街灯(疎ら)の整備を推進してほしい。(男性, 65～69 歳)

イ 防災の強化

- 事前の備蓄、避難計画、防災意識の向上、情報収集、家族で避難場所や連絡方法を常日頃話し合う。又、地域の防災訓練に参加、ハザードマップを確認、防災情報を常に確認できる仕組みを準備する。(男性, 70～74 歳)
- 町内会への不加入所帯が多くなっており、ネットワーク(災害時の安心安全の確保・普段の見守り等)としての機能が低下していると思う。緊急時に町内会不加入で町内会費も払っていないことを理由にその所帯を排除・見放すわけにもいかず、いざという時の対応に苦慮するのではと考える。(男性, 80～84 歳)

ウ 防犯の強化

- 高齢者をねらった詐欺にひっかからないように近所の高齢者の方々とのコミュニケーションが最も大切だと思います。健康にも気をつけて話し合う機会をもとうと思っています。(男性, 70~74 歳)
- 高齢者の 1 人住まいの安全・安心の確保はとても難しい。地域の民生委員の方は, 数年前に 1 度来られましたが, その後何の連絡もない。どういう働きをされているのでしょうか。せっかく地域の方なのでもっと身近に接して欲しい。(女性, 85 歳以上)

3つの取組以外で気になっていること

ア 生活環境

- 商業施設が駅周辺に集中しています。高齢者には自転車での移動も難しくなったり, バスの乗り降りが大変になる方もいます。コンビニでの生活食品のバラエティは限られ徒歩圏内ミニスーパーやドラックストアがあると便利です。朝食や昼食喫茶を設置(有料で)してくれる場も併設されていると友人とのおしゃべりの場になると思います。(女性, 75~79 歳)
- 高齢になると, 部屋を借りづらくなる(持ち家ではないので)。(女性, 75~79 歳)

イ 市の施策

- 災害に強い町づくりの一環として私道の市道への変更手続き支援をお願いしたい(上下水道等のインフラの強化, 道路の補強等が進まない)。(男性, 65~69 歳)
- 加齢とともに外出が困難になるが学びの場が欲しい。公民館や図書館で行われているようなものが自宅で出来れば良いと思う(思いつくのはパソコンのようもので双方向で話が出来るもの。他に色々あるのではと)。(女性, 85 歳以上)
- ずっと元気で澁刺とした人として生きていきたいと皆願っていると思う。病気になってからではなく, 元気な内から体力作りや食事に気を付け, 健康な身体で生きていきたい。その為の参加型健康作りの催し, 企画を進めて欲しい。(女性, 70~74 歳)

ウ 医療, 福祉, 子育て, 防災

- 年を取ると外出する機会がなく運動不足になるので近くに気軽に行ける広場がほしいです(そこに行けば必ず, 誰かいておしゃべり出来るところ)。(女性, 80~84 歳)
- ケアマネージャーのスキルアップ。認知症について詳しく説明。(男性, 80~84 歳)
- 介護士さんの給与及び待遇改善。(男性, 70~74 歳)

エ 交通の利便性

- 通院のためにタクシーを利用しているが, 混んでいてタクシーが来てくれないことがある。介護度合いに関係なく高齢者が優先的に利用できるタクシーがあるとよいと思います。(女性, 85 歳以上)
- 巡回バスの増便希望, 切望!(男性, 65~69 歳)

オ アンケート

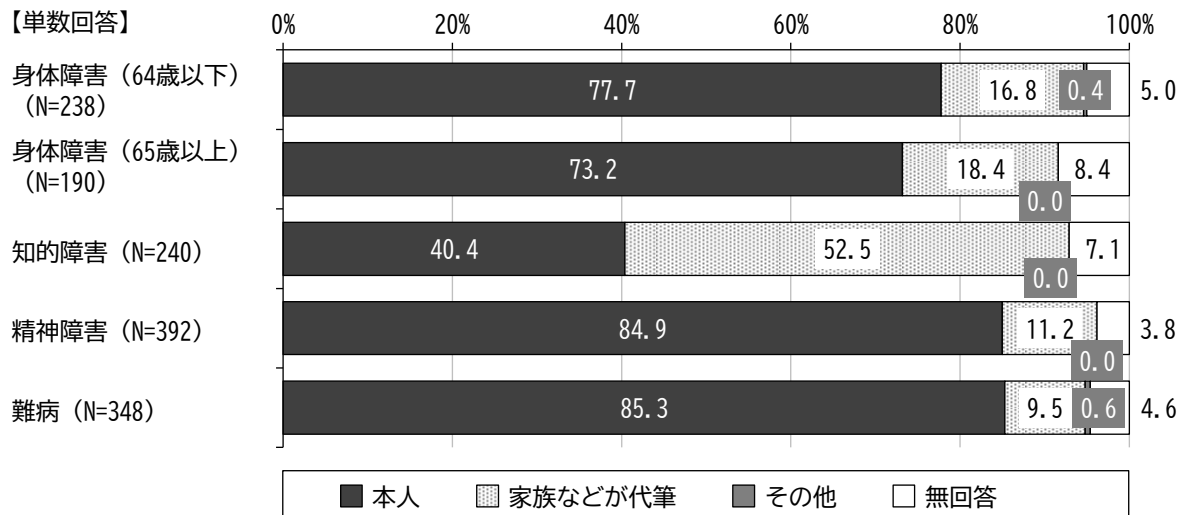
- アンケートの量が多すぎて記入に苦労した。簡単に整理すべき。(男性, 75~79 歳)

第4章 障害者（18歳以上）調査結果

【調査名】障害のある人が暮らしやすいまちづくりのための福祉に関するアンケート

問1 この調査に回答していただく人を教えてください。（1つに○）

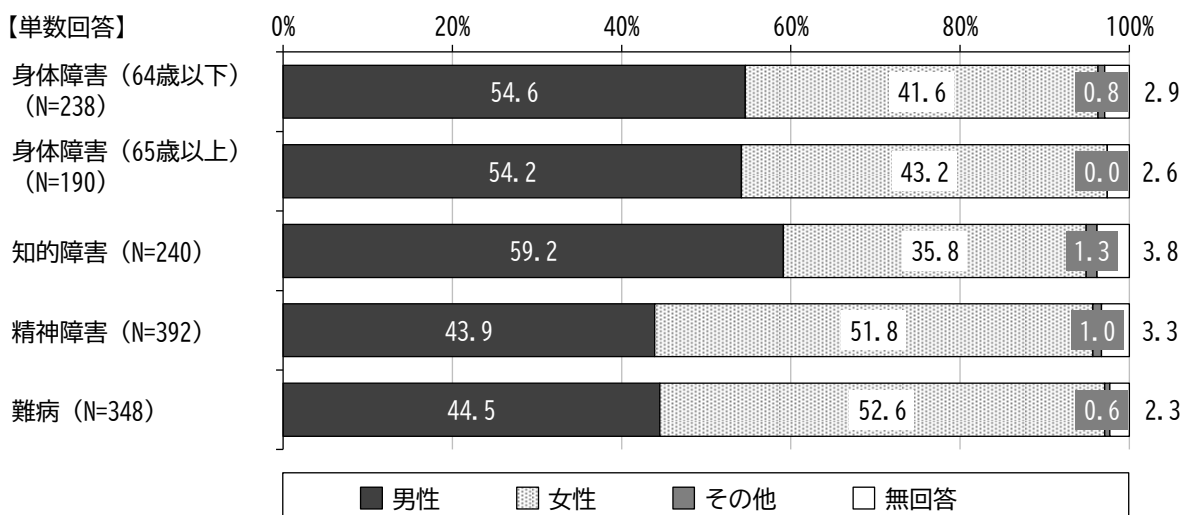
- 回答者は、身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、精神障害、難病は「本人」が最も多く、それぞれの割合は77.7%、73.2%、84.9%、85.3%となっている。
- 知的障害は「家族などが代筆（52.5%）」が最も多くなっている。



1 あなた（ご本人）についておたずねします

問2 性別を教えてください。（1つに○）

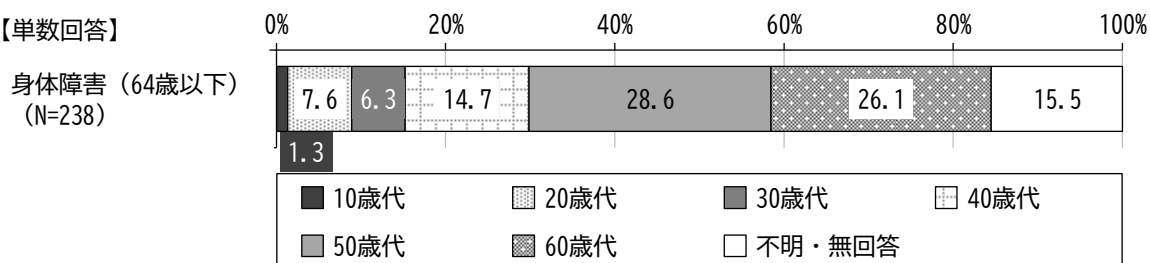
- 性別は、身体障害（64歳以下）は「男性（54.6%）」、「女性（41.6%）」である。
- 身体障害（65歳以上）は「男性（54.2%）」、「女性（43.2%）」である。
- 知的障害は「男性（59.2%）」、「女性（35.8%）」である。
- 精神障害は「男性（43.9%）」、「女性（51.8%）」である。
- 難病は「男性（44.5%）」、「女性（52.6%）」である。



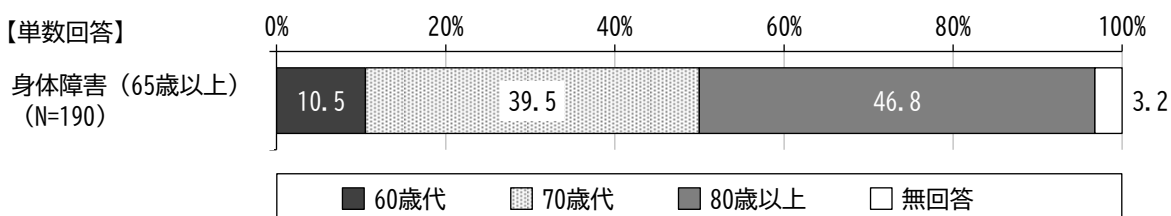
問3 年齢を教えてください。(1つに○)(令和7年10月1日現在)

- 年齢は、身体障害(64歳以下)は「50歳代(28.6%)」が最も多くなっている。
- 身体障害(65歳以上)は「80歳以上(46.8%)」が最も多くなっている。
- 知的障害は「20歳代(37.5%)」, 精神障害は「50歳代(26.0%)」, 難病は「70歳代(24.4%)」が最も多くなっている。

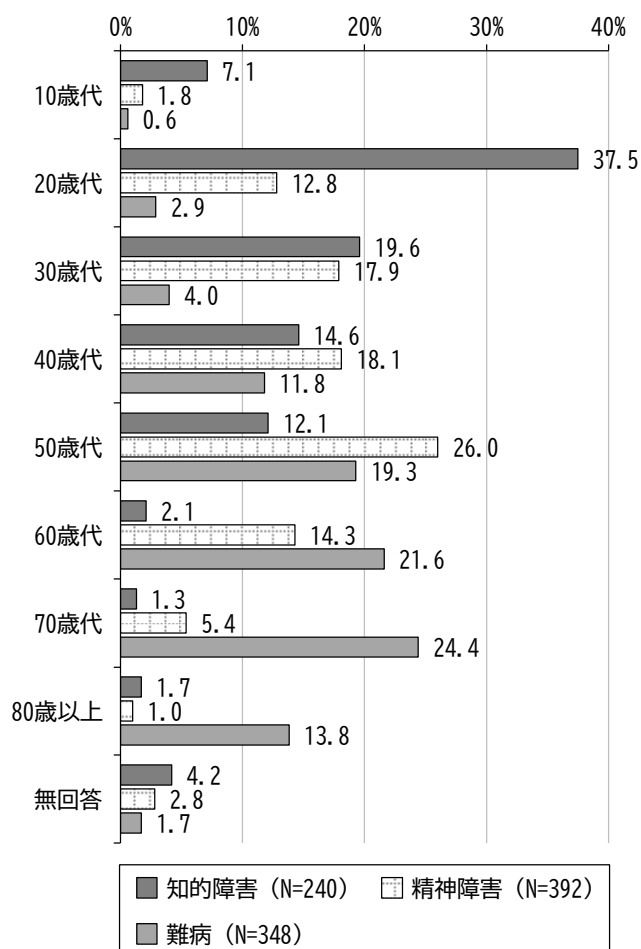
【単数回答】



【単数回答】

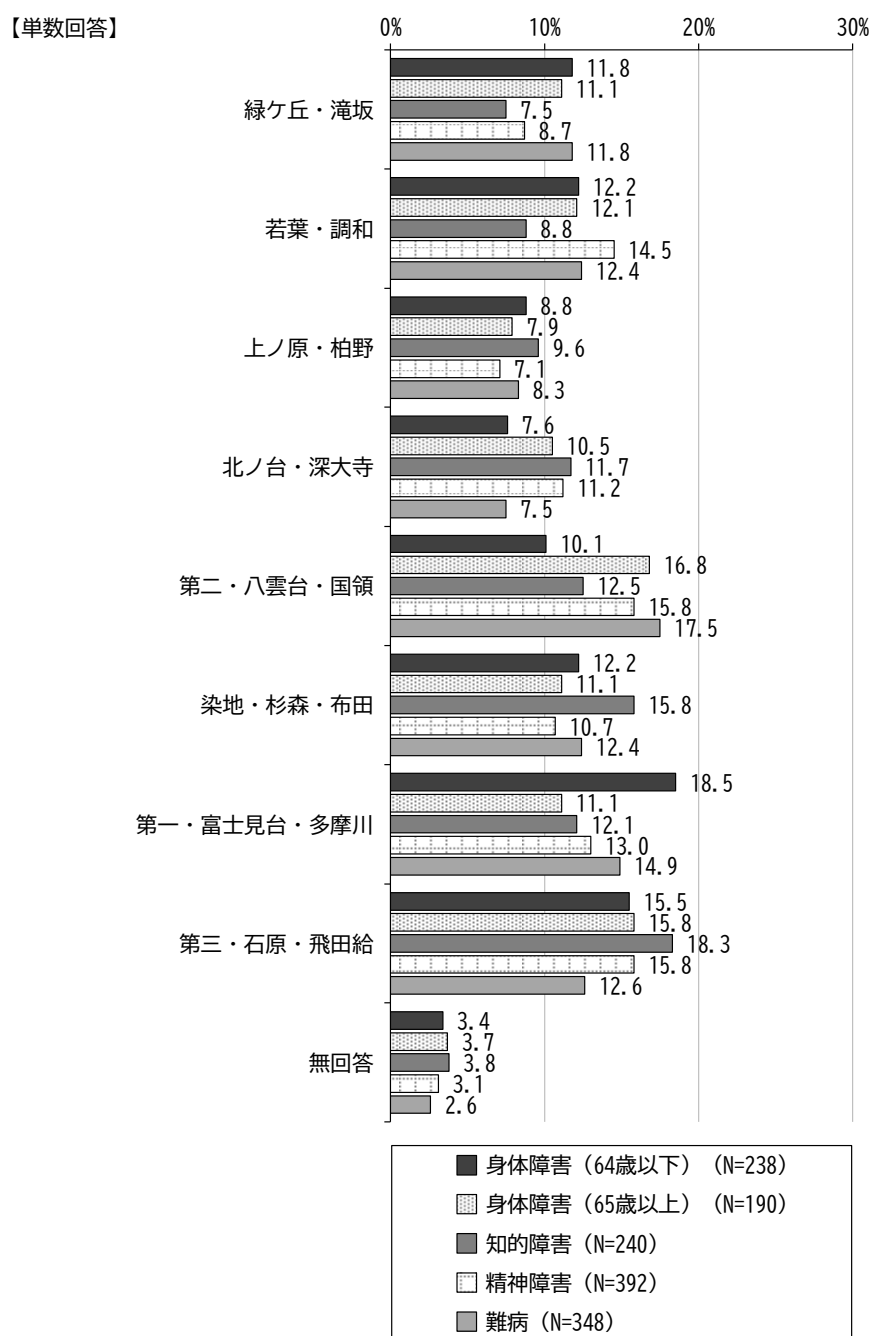


【単数回答】



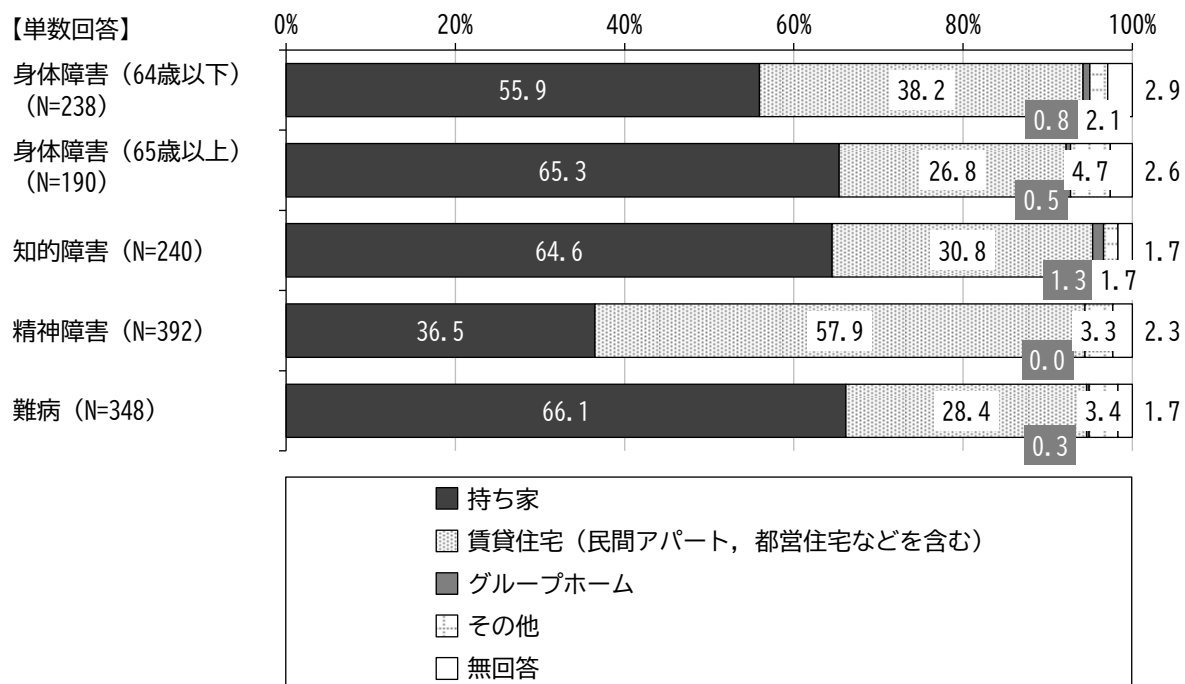
問4 お住いの地域を教えてください。(1つに○)

- 居住地域（福祉圏域）は、身体障害（64歳以下）は「第一・富士見台・多摩川（18.5%）」が最も多くなっている。
- 身体障害（65歳以上）、難病は「第二・八雲台・国領」が最も多く、それぞれの割合は16.8%、17.5%となっている。
- 知的障害は「第三・石原・飛田給（18.3%）」が最も多くなっている。
- 精神障害は「第二・八雲台・国領」「第三・石原・飛田給」（15.8%）が同率となっている。



問5 住居形態を教えてください。(1つに○)

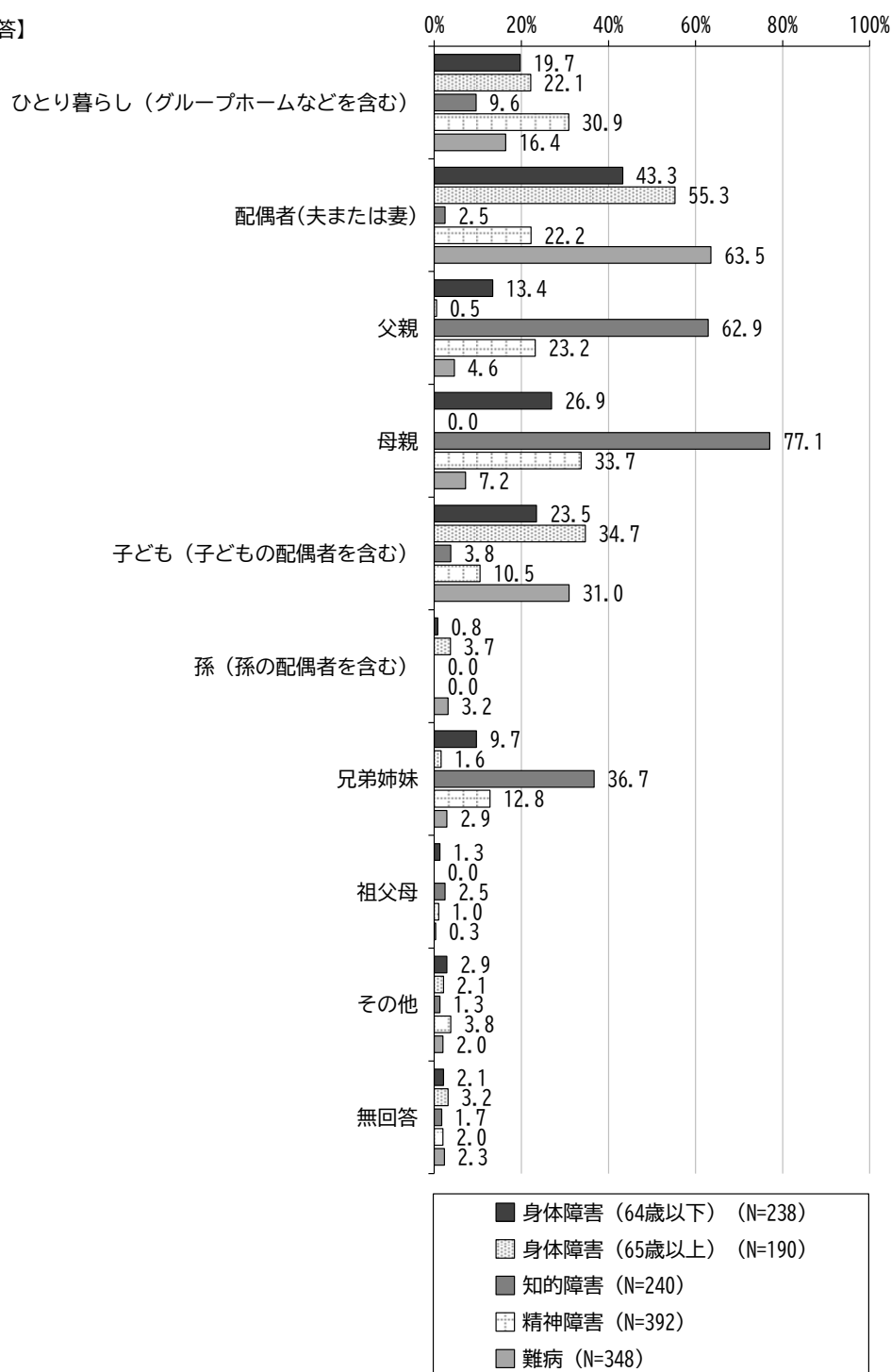
- 住居形態は、身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、知的障害、難病は「持ち家」が最も多く、それぞれの割合は55.9%、65.3%、64.6%、66.1%となっている。
- 精神障害は「賃貸住宅（民間アパート、都営住宅などを含む）（57.9%）」が最も多くなっている。



問6 同居している家族を教えてください。(いくつでも○)

- 同居家族は、身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、難病は「配偶者（夫または妻）」が最も多く、それぞれの割合は43.3%，55.3%，63.5%となっている。
- 知的障害、精神障害は「母親」が最も多く、それぞれの割合は77.1%，33.7%となっている。
- また、知的障害では「父親」と「母親」との同居割合が多くなっている。

【複数回答】

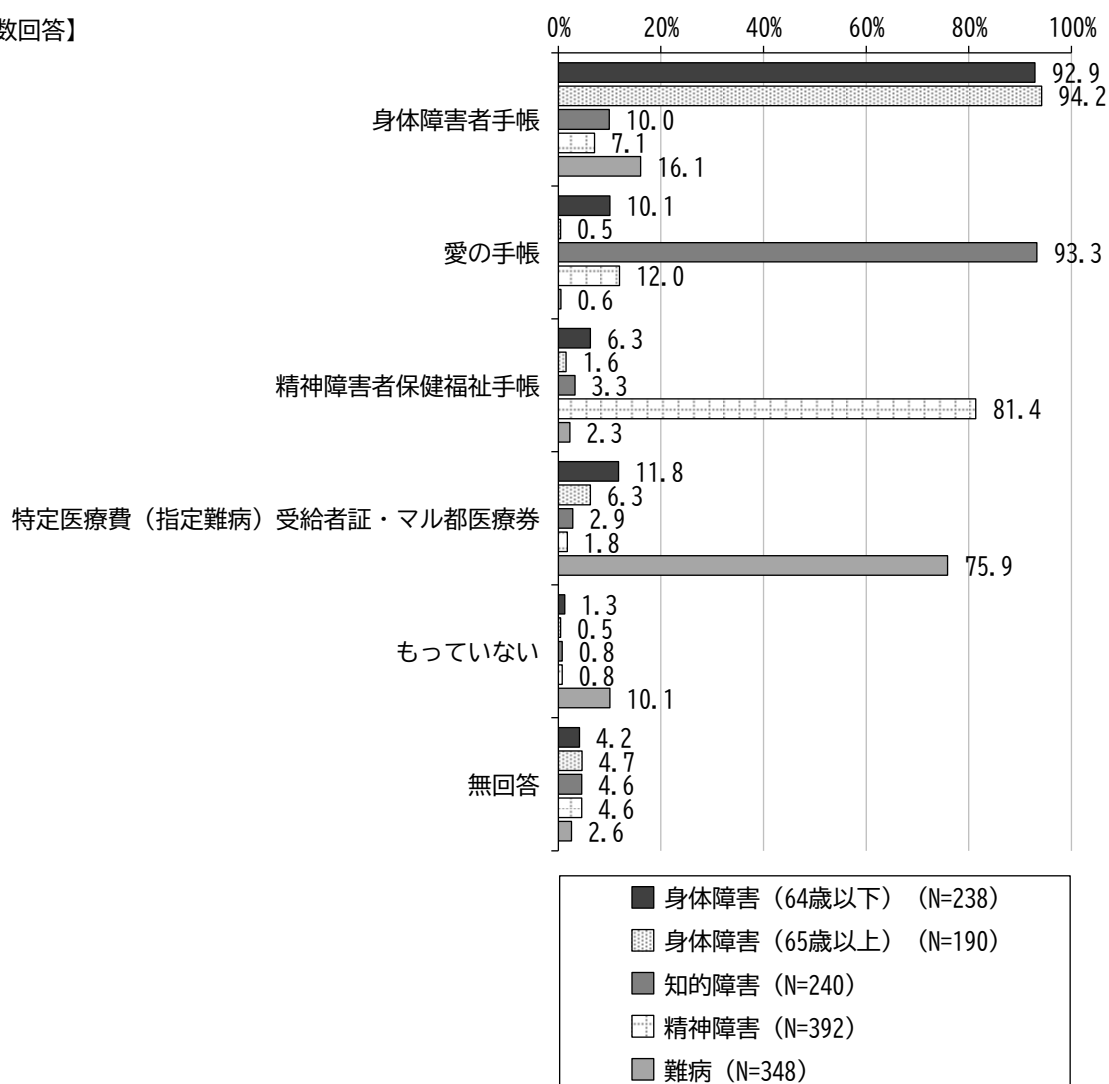


問7 おもちの手帳等とその等級を教えてください。(いくつでも○)

①もっている手帳の種類

- もっている手帳の状況は、身体障害（64歳以下）では「愛の手帳」を10.1%、「精神障害者保健福祉手帳」を6.3%、「特定医療費（指定難病）受給者証・マル都医療券」を11.8%が重複して所持している。身体障害（65歳以上）では、「特定医療費（指定難病）受給者証・マル都医療券」を6.3%が重複して所持している。知的障害では、「身体障害者手帳」を10.0%、「精神障害者保健福祉手帳」を3.3%が重複して所持している。精神障害では、「身体障害者手帳」を7.1%、「愛の手帳」を12.0%が重複して所持している。難病では、「身体障害者手帳」を16.1%が重複して所持している。

【複数回答】

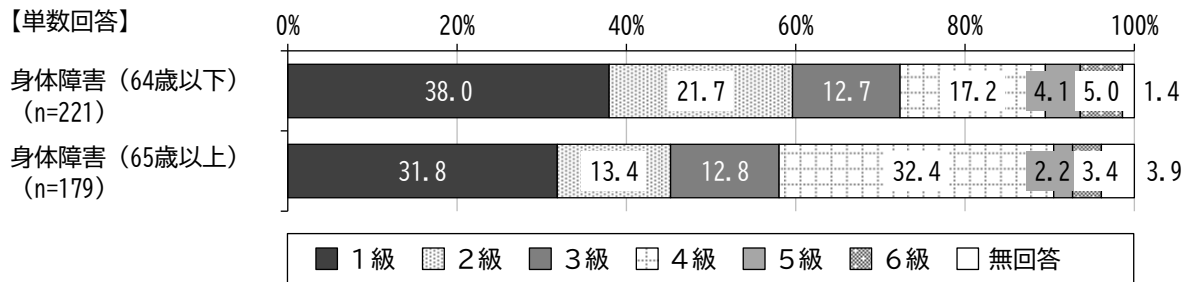


②もっている手帳の等級

- もっている手帳の等級は、身体障害（64 歳以下）は身体障害者手帳の「1 級（38.0%）」、身体障害（65 歳以上）は身体障害者手帳の「4 級（32.4%）」が最も多くなっている。
- 知的障害は、愛の手帳の「4 度（51.3%）」が最も多くなっている。
- 精神障害は、精神障害者保健福祉手帳の「2 級（50.8%）」が最も多くなっている。

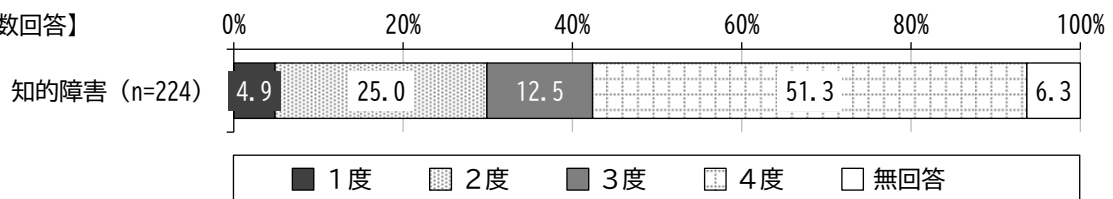
・身体障害者手帳

【単数回答】



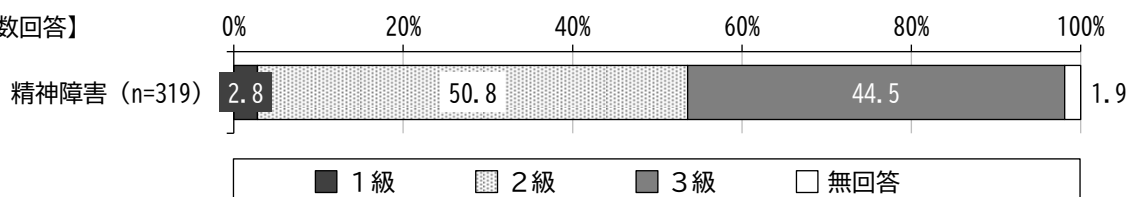
・愛の手帳

【単数回答】



・精神障害者保健福祉手帳

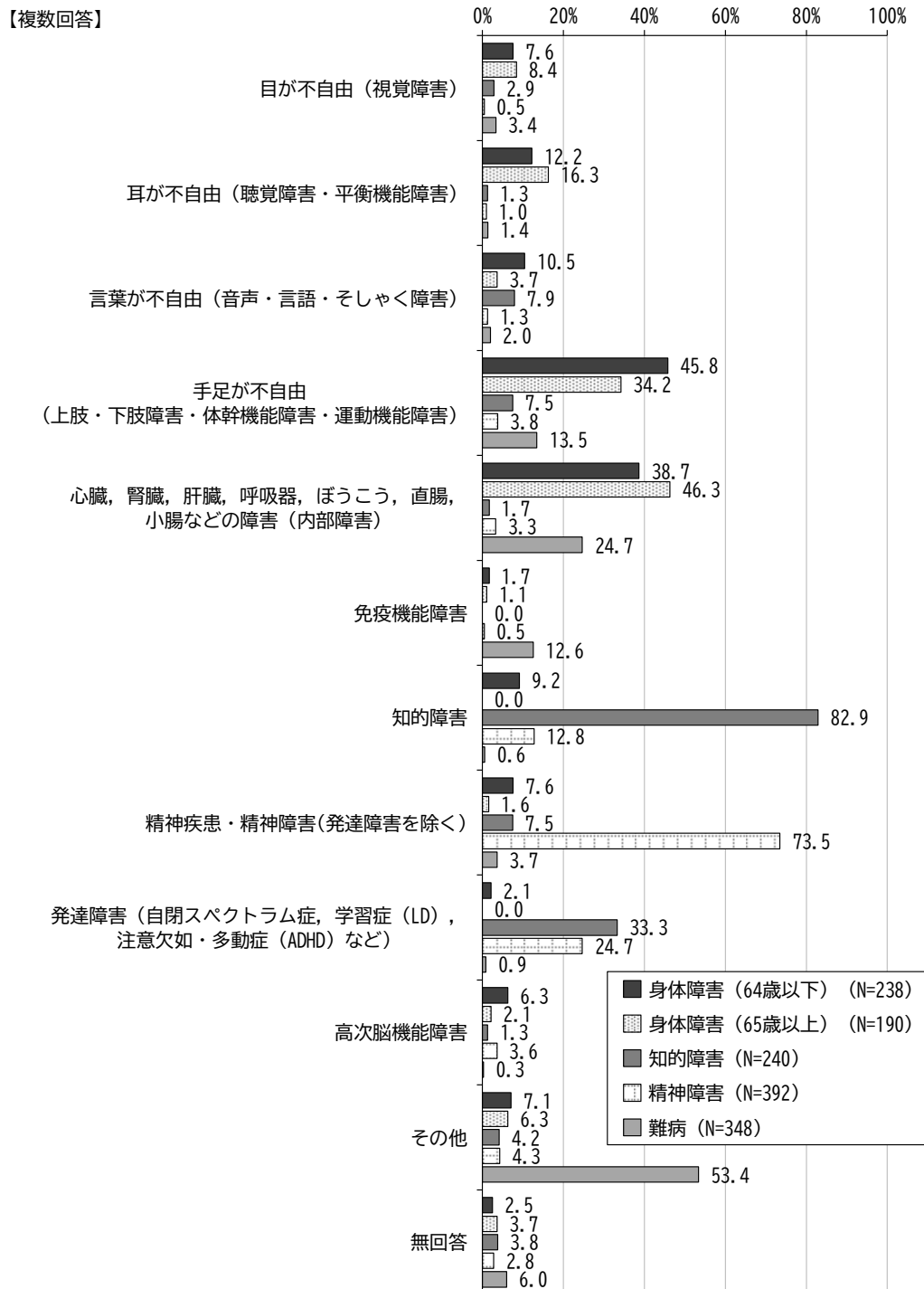
【単数回答】



問8 どのような病気や障害がありますか。(いくつでも○)

※特定医療費（指定難病）受給者証をもつ人は、「11 その他」の欄に病名をご記入ください。

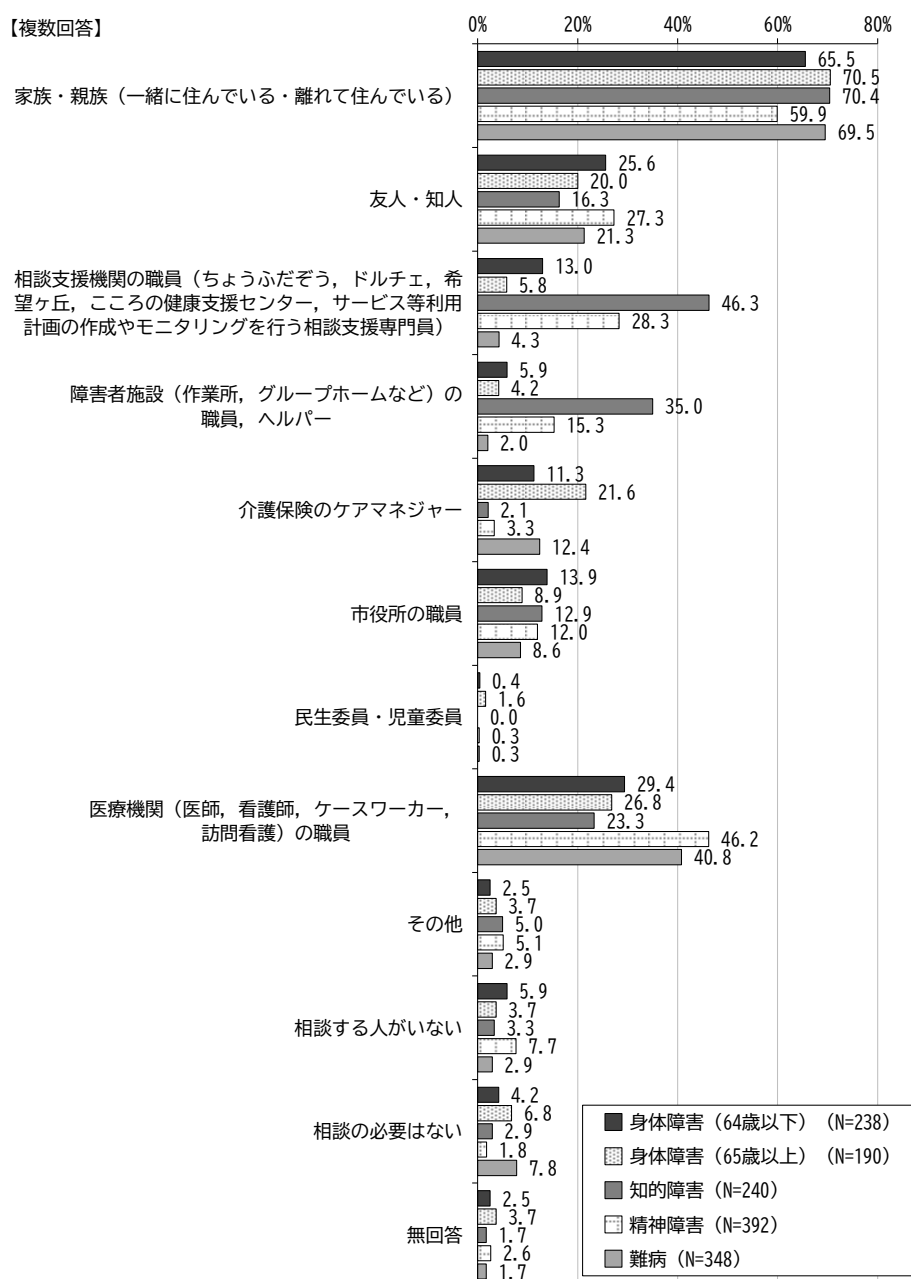
- 病気や障害の種類は、身体障害（64歳以下）は「手足が不自由（上肢・下肢障害・体幹機能障害・運動機能障害）（45.8%）」，身体障害（65歳以上）は「心臓，腎臓，肝臓，呼吸器，ぼうこう，直腸，小腸などの障害（内部障害）（46.3%）」，知的障害は「知的障害（82.9%）」，精神障害は「精神疾患・精神障害（発達障害を除く）（73.5%）」，難病は「その他（53.4%）」が最も多くなっている。



2 相談支援についておたずねします

問9 悩みや困りごとがある場合、主にどこに相談しますか。(いくつでも○)

- 悩みや困りごとがある場合の相談相手は、身体障害（64 歳以下）、身体障害（65 歳以上）、知的障害、精神障害、難病ともに「家族・親族（一緒に住んでいる・離れて住んでいる）」が最も多く、それぞれの割合は 65.5%，70.5%，70.4%，59.9%，69.5%となっている。
- また、知的障害は「相談支援機関の職員（ちょうふだぞう，ドルチェ，希望ヶ丘，こころの健康支援センター，サービス等利用計画の作成やモニタリングを行う相談支援専門員）（46.3%）」も多くなっている。精神障害，難病は「医療機関（医師，看護師，ケースワーカー，訪問看護）の職員」も多く、それぞれの割合は 46.2%，40.8%となっている。



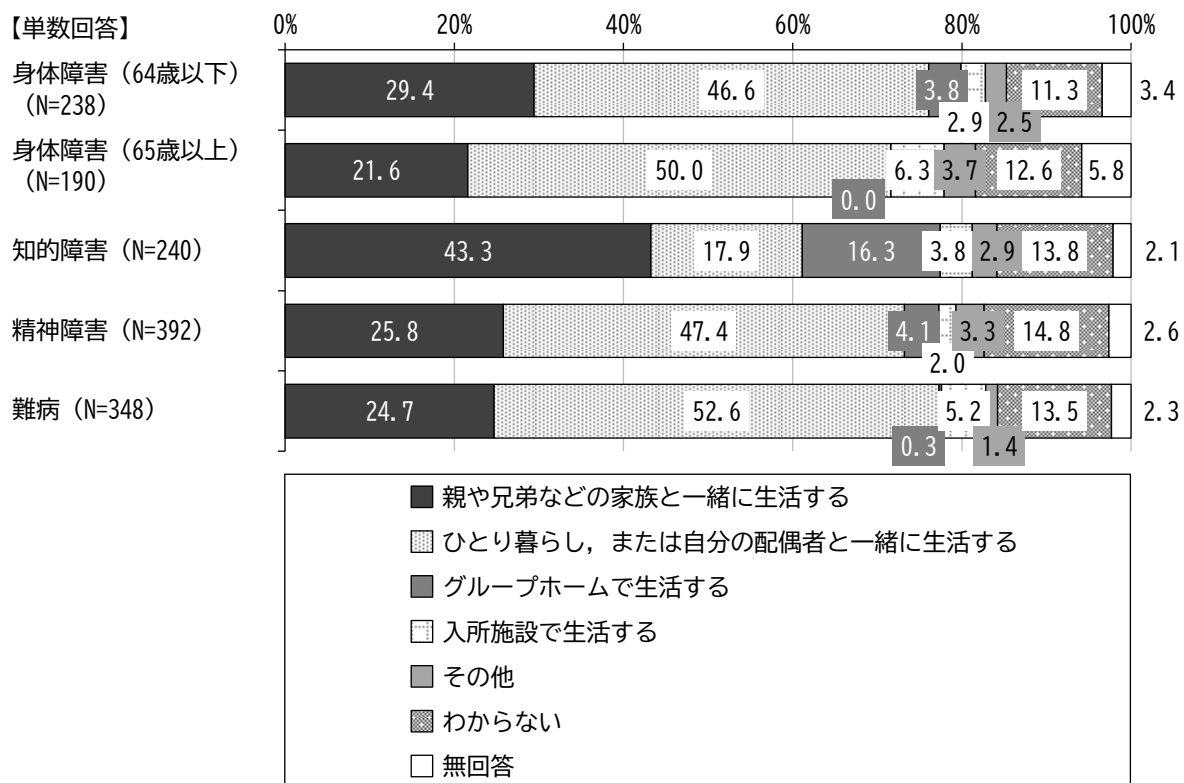
問 10 あなたは、医療機関（歯科を含む）の受診で困ることはありますか。
（いくつでも○）

- 医療機関（歯科を含む）の受診で困ることは、身体障害（64 歳以下）、身体障害（65 歳以上）、知的障害、精神障害、難病ともに「特にない」が最も多く、それぞれの割合は 47.1%，62.6%，52.9%，51.0%，57.8%となっている。
- また、「特にない」を除くと、身体障害（64 歳以下）、身体障害（65 歳以上）、精神障害、難病は「医療費や交通費の負担が大きい」が多く、それぞれの割合は 19.7%，11.6%，21.4%，21.0%となっている。知的障害は「医師・歯科医師とコミュニケーションがとりづらい（14.6%）」が多くなっている。



問 11 今後、どのように生活したいですか。(1つに○)

- 希望する暮らし方は、身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、精神障害、難病は「ひとり暮らし、または自分の配偶者と一緒に生活する」が最も多く、それぞれの割合は46.6%，50.0%，47.4%，52.6%となっている。
- 知的障害は「親や兄弟などの家族と一緒に生活する（43.3%）」が最も多くなっている。
- また、知的障害では「グループホームで生活する」が1割を超えている。

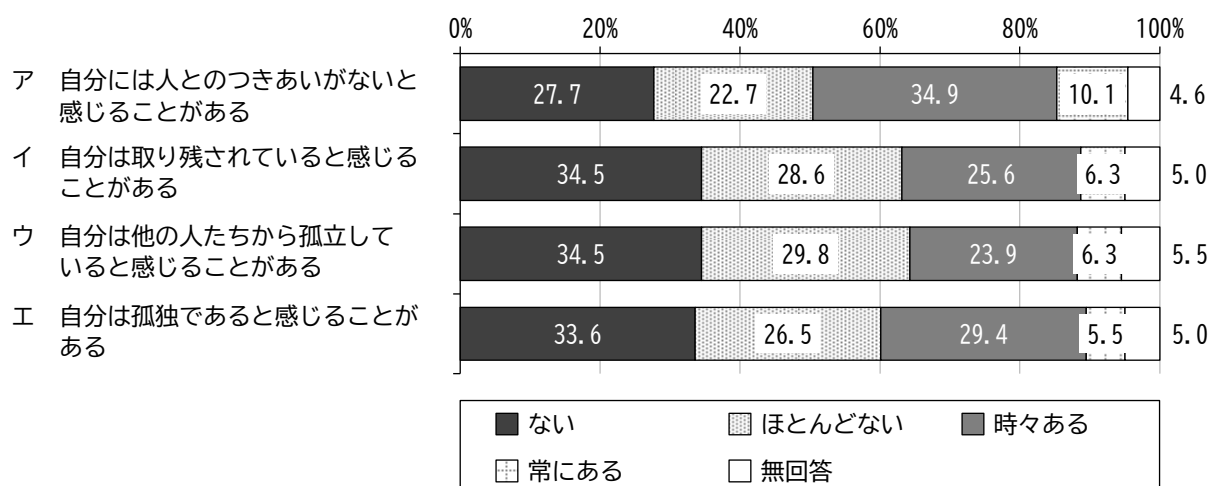


3 日頃のコミュニケーションについておたずねします

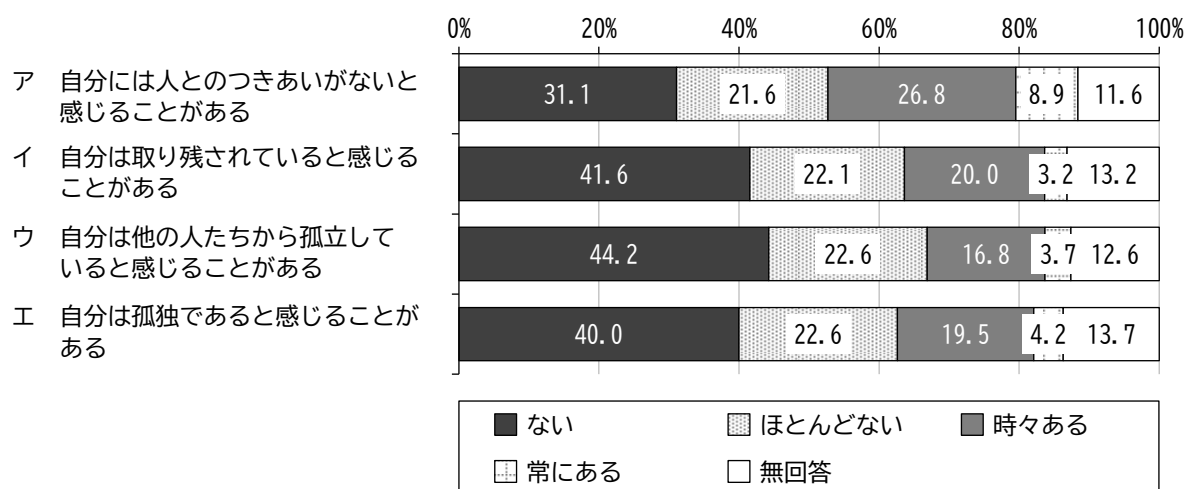
問 12 次の項目についてあなたはどれくらいの頻度で感じていますか。
(それぞれ1つに○)

- 孤独・孤立の状況について、「時々ある」と「常にある」を合わせた『ある』の割合は、身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、知的障害、難病は「ア 自分には人とのつきあいが無いと感じることがある」が最も多く、それぞれの割合は45.0%、35.7%、43.7%、34.8%となっている。
- 精神障害は「イ 自分は取り残されていると感じることがある（60.8%）」が最も多く、「ア 自分には人とのつきあいが無いと感じることがある」，「ウ 自分は他の人たちから孤立していると感じることがある」，「エ 自分は孤独であると感じることがある」も5割を超えている。

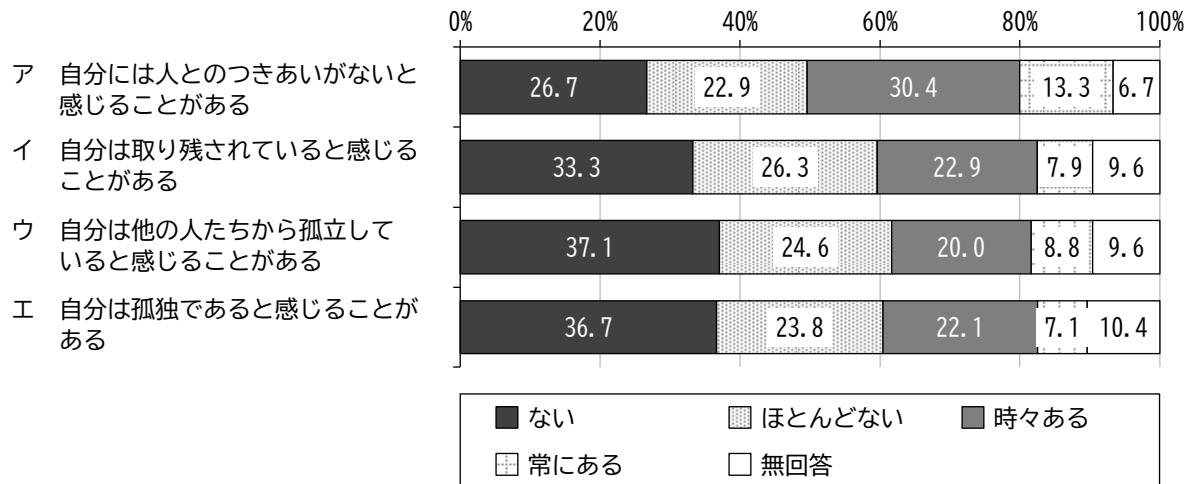
【単数回答】身体障害（64歳以下）（N=238）



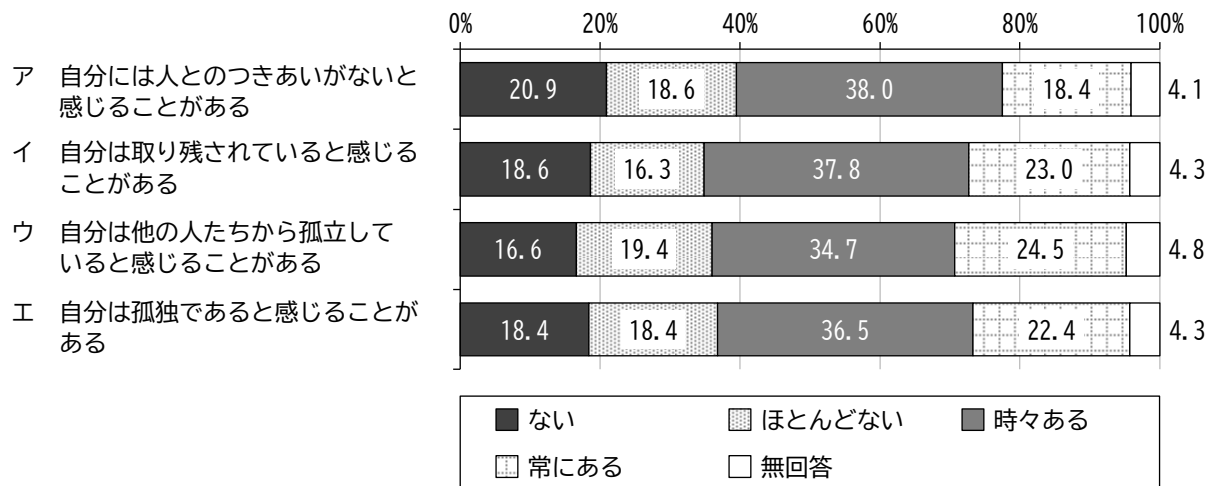
【単数回答】身体障害（65歳以上）（N=190）



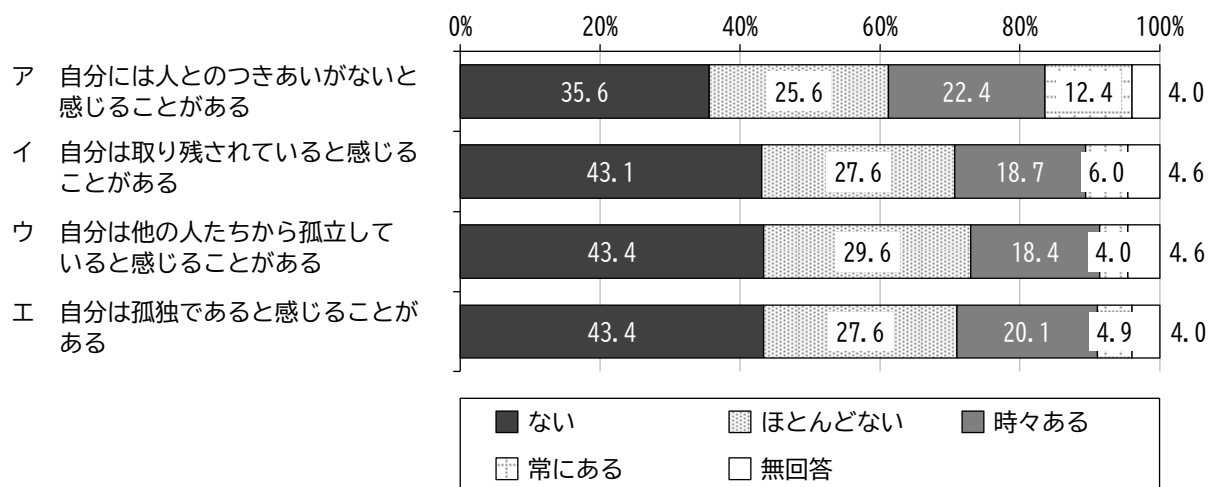
【単数回答】知的障害（N=240）



【単数回答】精神障害（N=392）

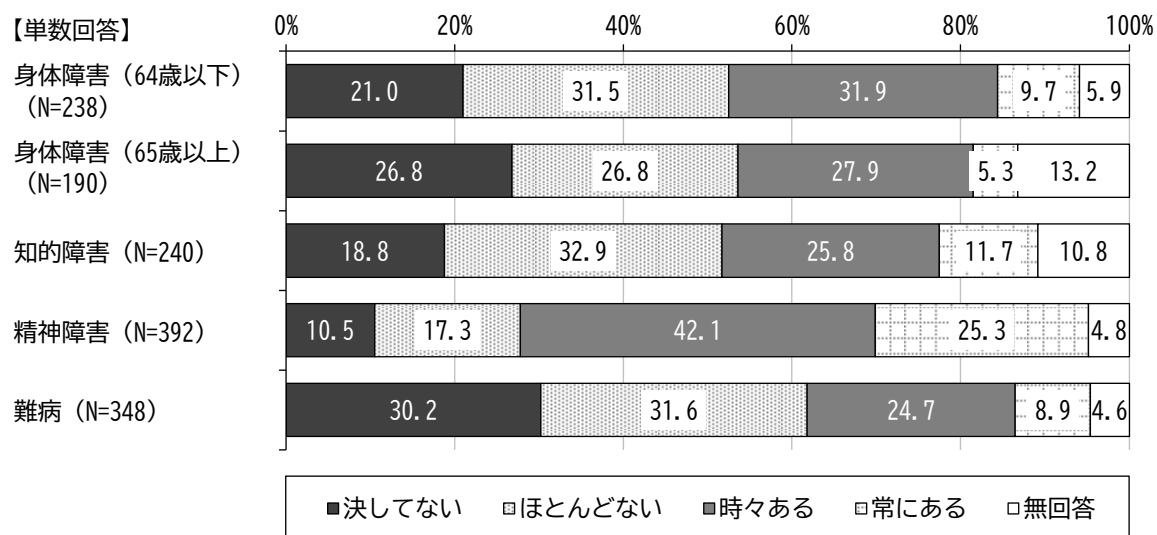


【単数回答】難病（N=348）



－ 孤独感尺度 －

- 「UCLA孤独感尺度（日本語版の3項目短縮版）」（本編 25 ページ参照）による間接質問のスコア化の結果を障害種別にみると，身体障害（64歳以下），身体障害（65歳以上），精神障害で「時々ある」，知的障害，難病で「ほとんどない」が最も多くなっている。

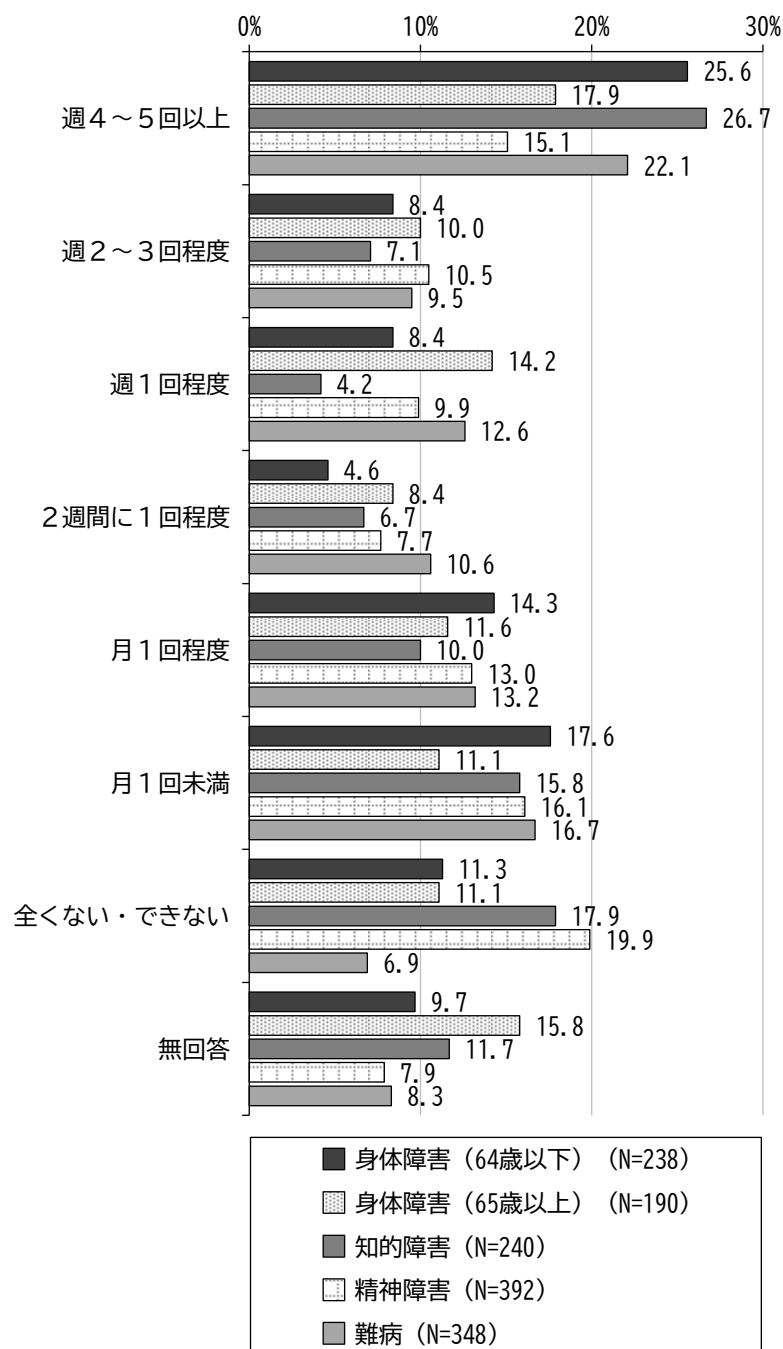


問 13 家族や友人たちとのコミュニケーション頻度についておたずねします。あなたと同居していない家族や友人たちとのコミュニケーション頻度について、お答えください。(それぞれ1つに○)

ア 直接会って話す（手話等を含む）

- 直接会って話す（手話等を含む）頻度は、身体障害（64 歳以下）、身体障害（65 歳以上）、知的障害、難病は「週 4～5 回以上」が最も多く、それぞれの割合は 25.6%、17.9%、26.7%、22.1%となっている。
- 精神障害は「全くない・できない（19.9%）」が最も多くなっている。

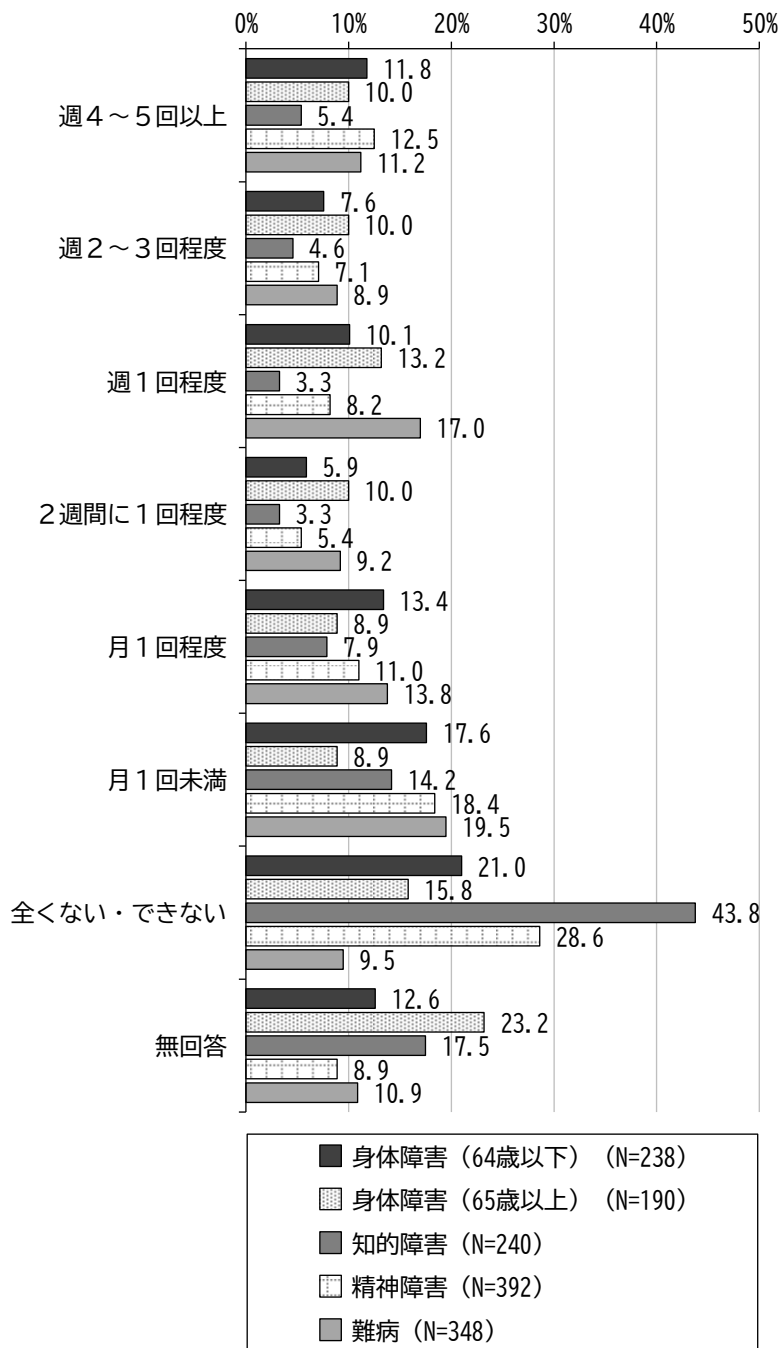
【単数回答】



イ 電話（ビデオ通話含む）

- 電話（ビデオ通話含む）の頻度は、身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、知的障害、精神障害は「全くない・できない」が最も多く、それぞれの割合は 21.0%、15.8%、43.8%、28.6%となっている。
- 難病は「月1回未満（19.5%）」が最も多くなっている。

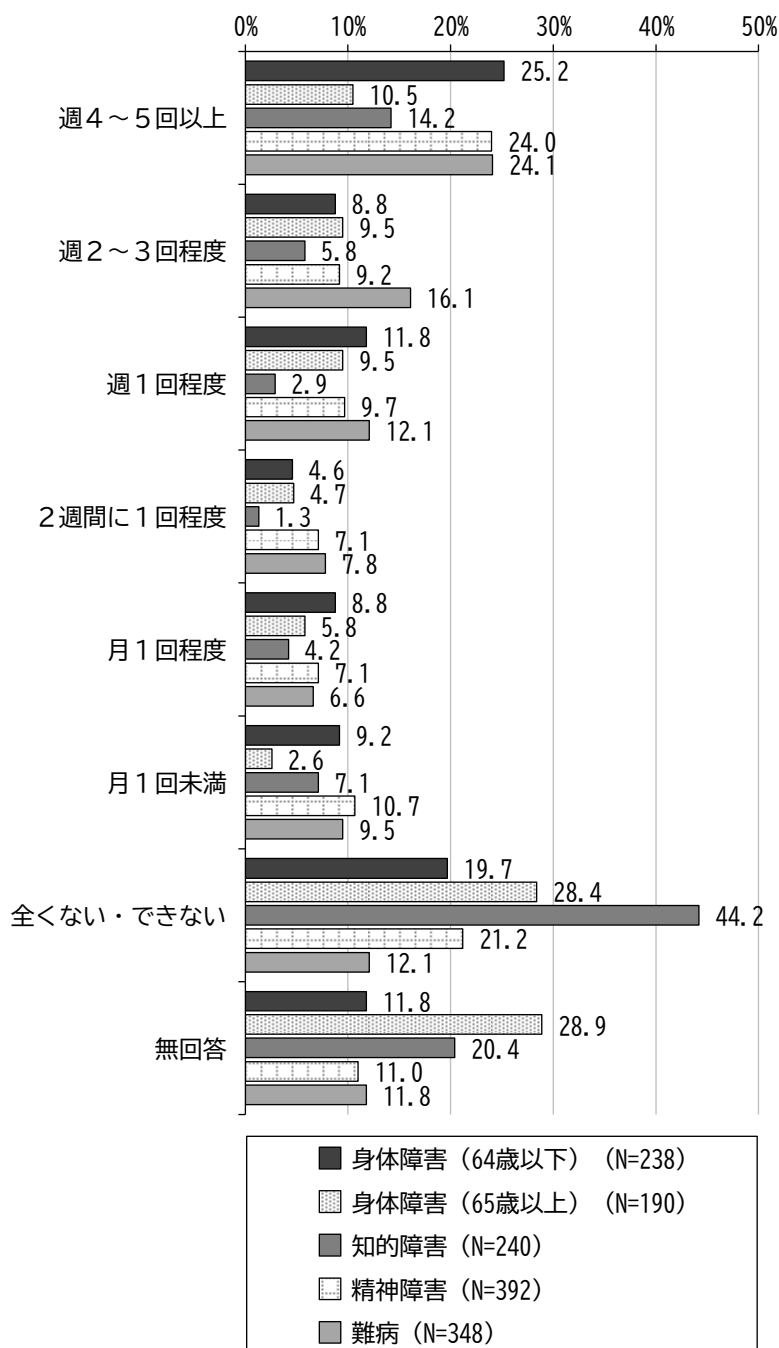
【単数回答】



ウ SNSや電子メールなど

- SNSや電子メールなどの頻度は、身体障害（64歳以下）、精神障害、難病は「週4～5回以上」が最も多く、それぞれの割合は25.2%、24.0%、24.1%となっている。
- 身体障害（65歳以上）、知的障害は「全くない・できない」が最も多く、それぞれの割合は28.4%、44.2%となっている。

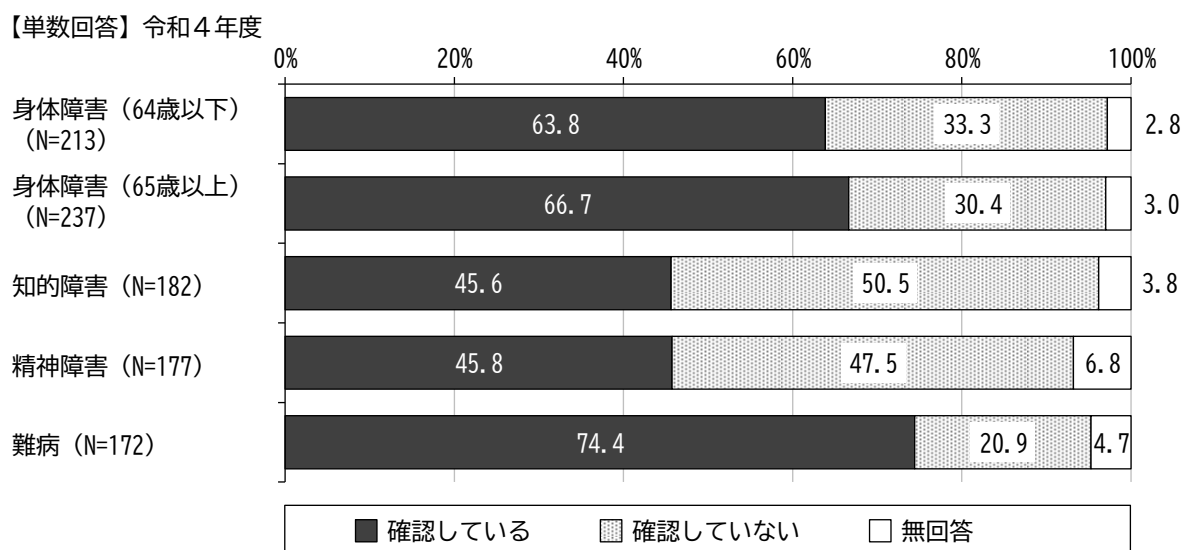
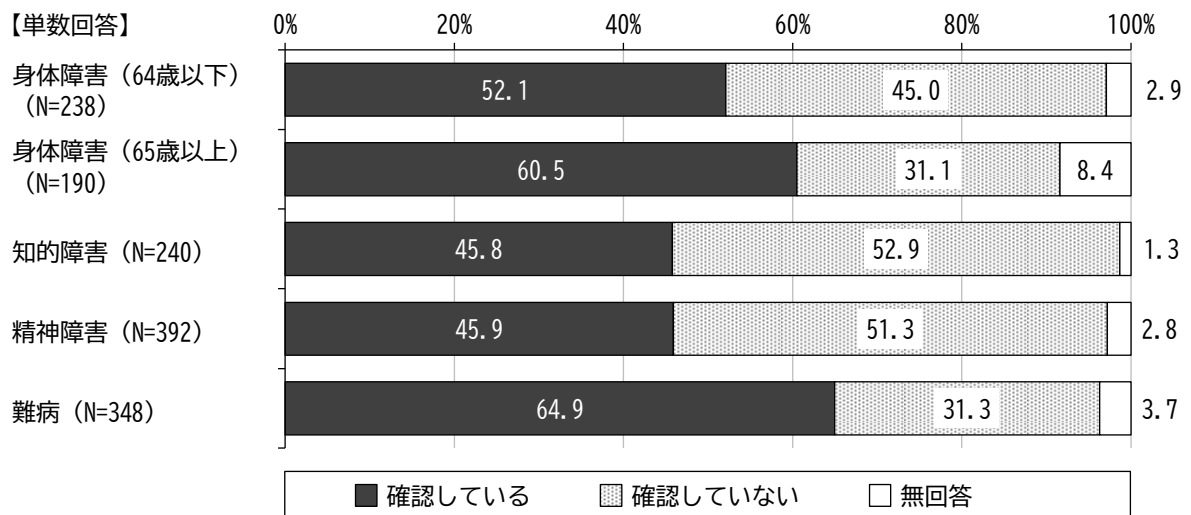
【単数回答】



4 災害時の対策についておたずねします

問 14 防災マップや洪水ハザードマップなどで避難場所・避難経路・警戒区域などを確認していますか。(1つに○)

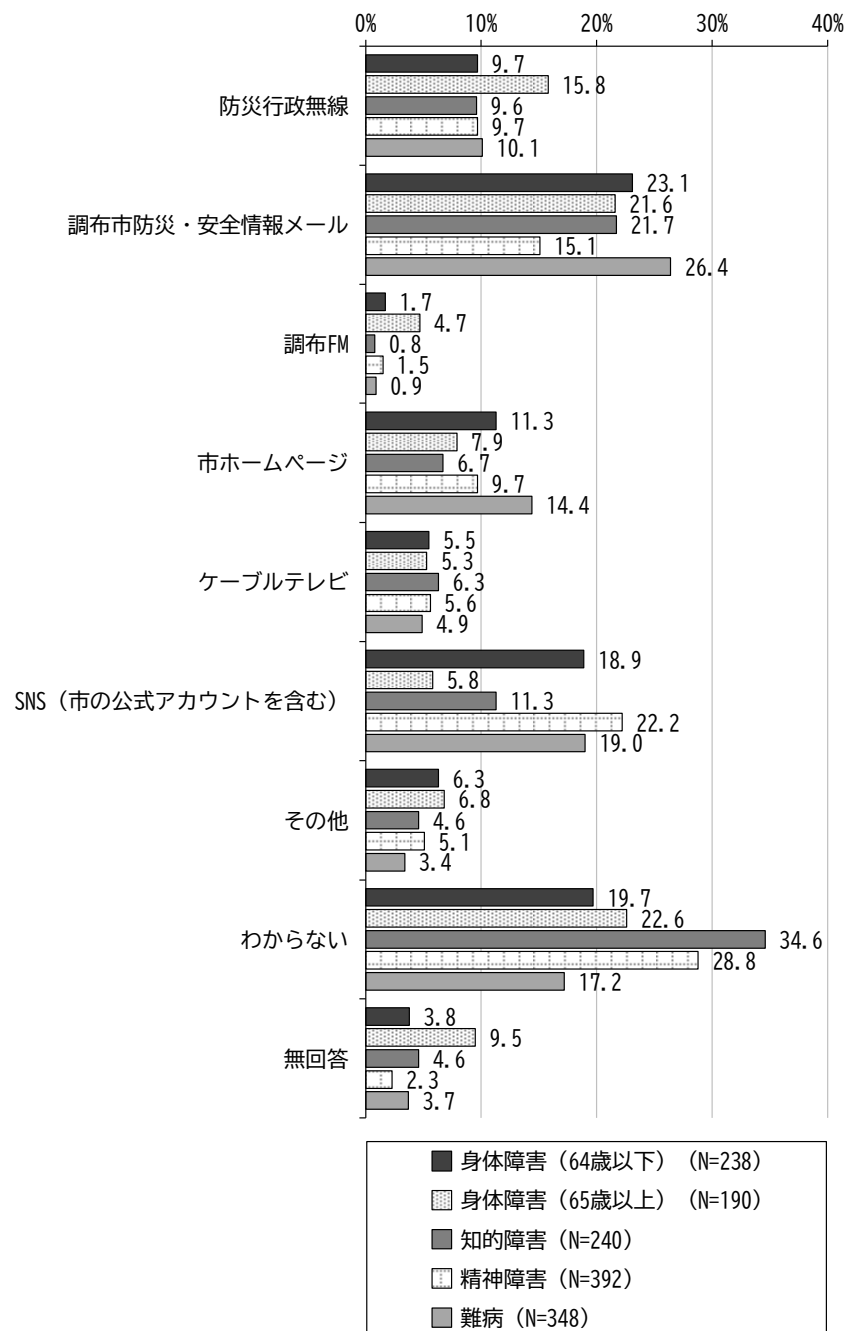
- 避難場所・避難経路・警戒区域などの確認状況は、身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、難病は「確認している」が多く、それぞれの割合は52.1%，60.5%，64.9%となっている。
- 知的障害、精神障害は「確認していない」が多く、それぞれの割合は52.9%，51.3%となっている。
- 令和4年度の調査結果と比較すると、「確認している」が身体障害（64歳以下）で11.7ポイント、身体障害（65歳以上）で6.2ポイント、難病で9.5ポイント低くなっている。



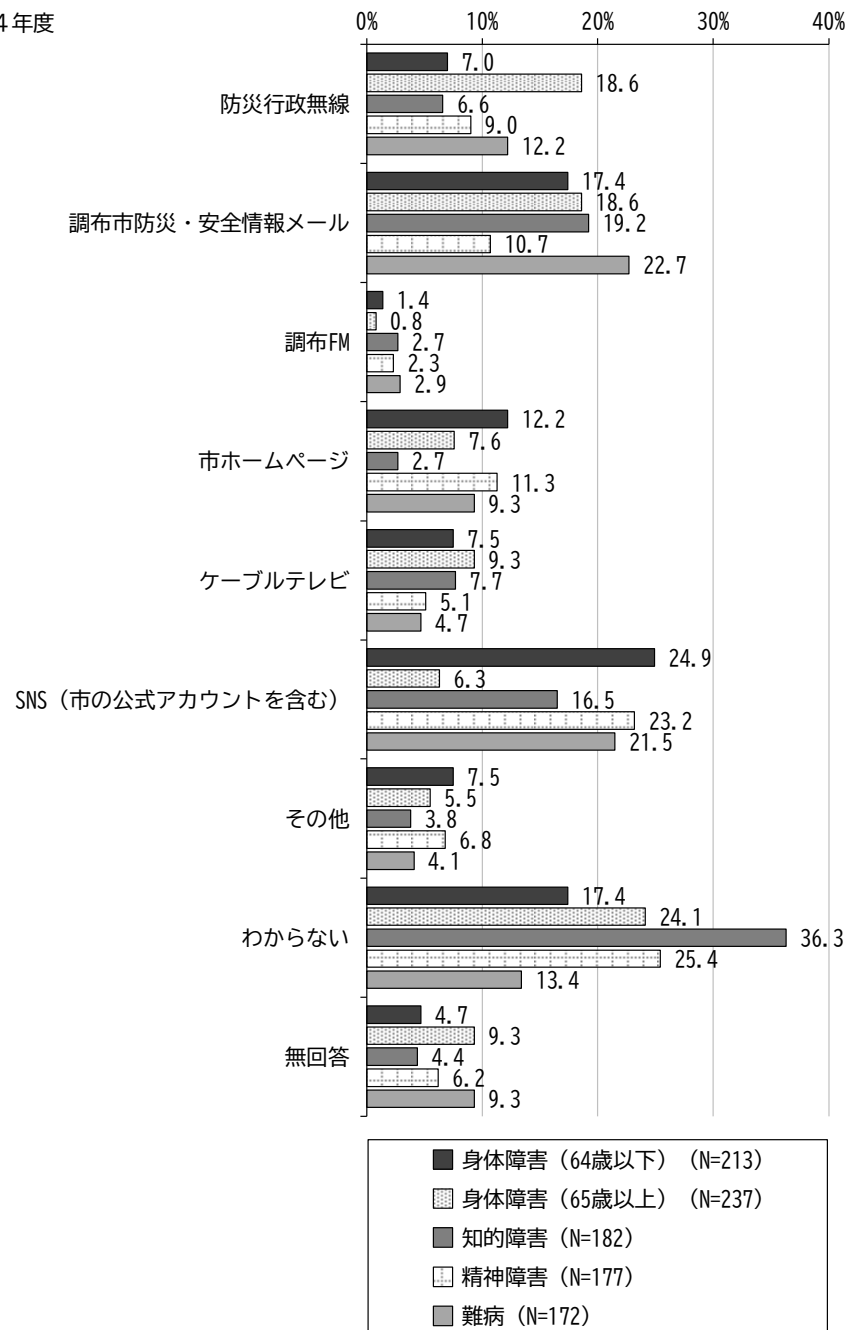
問 15 災害や火災などの緊急の際、避難情報を主にどこからとりますか。(1つに○)

- 緊急時の避難情報の入手先は、身体障害（64 歳以下）、難病は「調布市防災・安全情報メール」が最も多く、それぞれの割合は 23.1%，26.4%となっている。
- 身体障害（65 歳以上）、知的障害、精神障害は「わからない」が最も多く、それぞれの割合は 22.6%，34.6%，28.8%となっている。
- 令和 4 年度の調査結果と比較すると、身体障害（64 歳以下）で「調布市防災・安全情報メール」が 5.7 ポイント高く、「SNS（市の公式アカウントを含む）」が 6.0 ポイント低くなっている。知的障害で「SNS（市の公式アカウントを含む）」が 5.2 ポイント低くなっている。難病で「市ホームページ」が 5.1 ポイント高くなっている。

【単数回答】



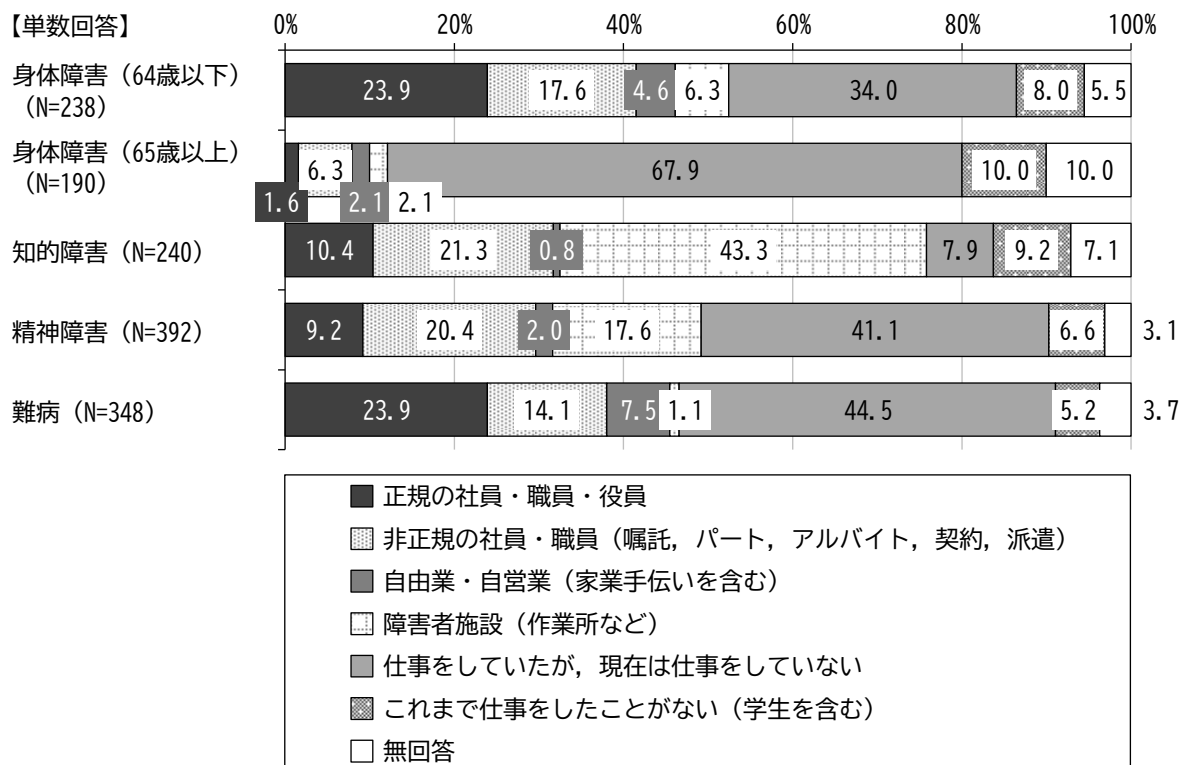
【単数回答】令和4年度



5 暮らしについておたずねします

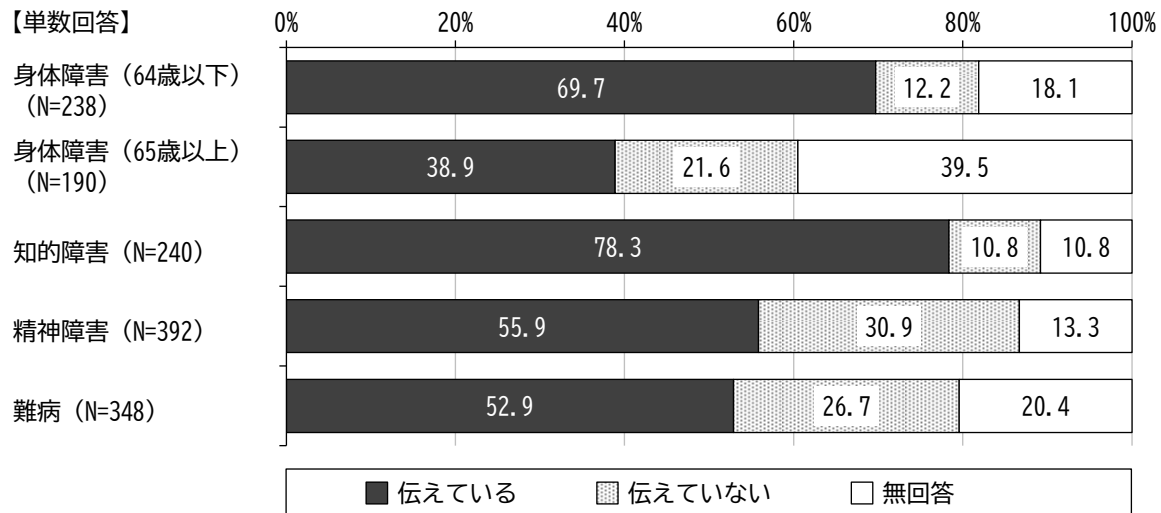
問 16 現在、給料や工賃を伴う仕事をしていますか。(1つに○)

- 現在の就労状況は、身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、精神障害、難病は「仕事をしていたが、現在は仕事をしていない」が最も多く、それぞれの割合は34.0%、67.9%、41.1%、44.5%となっている。
- 知的障害は「障害者施設（作業所など）（43.3%）」が最も多くなっている。
- また、「仕事をしていたが、現在は仕事をしていない」を除いた就労状況をみると、身体障害（64歳以下）、難病は「正規の社員・職員・役員」が多く、それぞれの割合はともに23.9%となっている。身体障害（65歳以上）は「これまで仕事をしたことがない（学生を含む）（10.0%）」、精神障害は「非正規の社員・職員（嘱託、パート、アルバイト、契約、派遣）（20.4%）」が多くなっている。



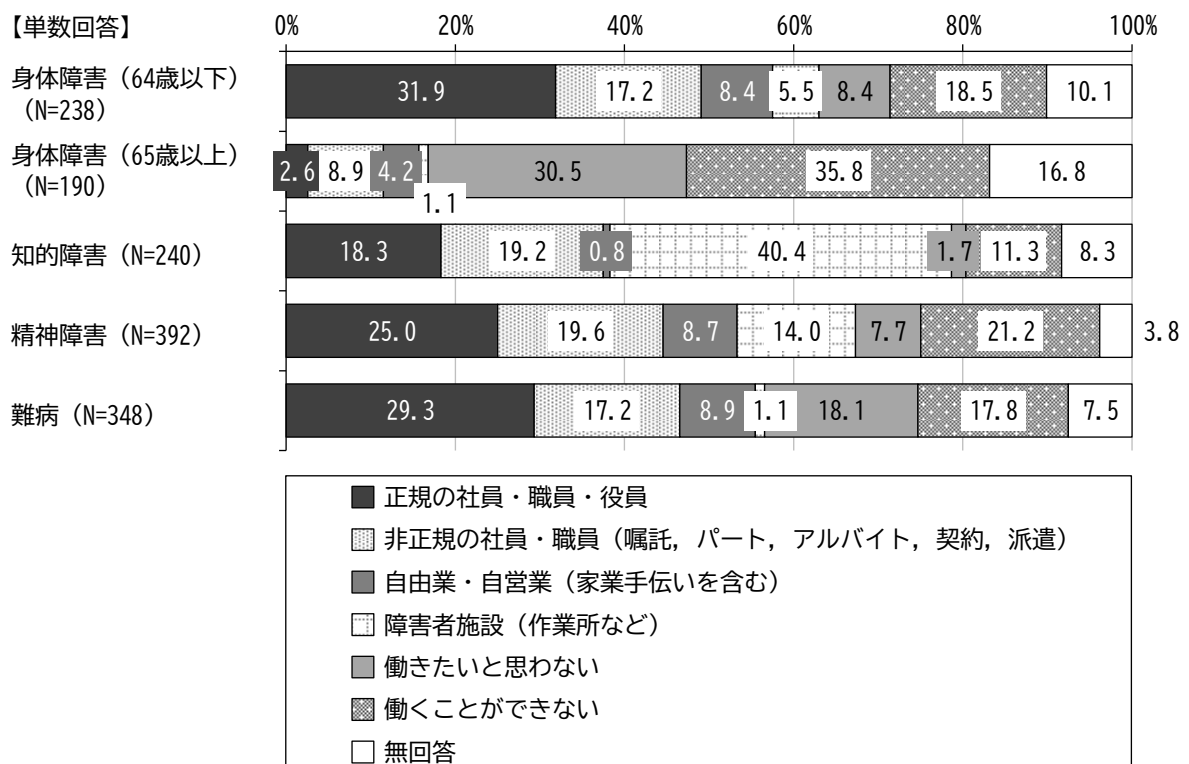
問 17 職場や学校の人に、あなたの障害や病気のことを伝えていますか。(1つに○)

- 職場や学校の人に障害や病気のことを伝えているかは、身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、知的障害、精神障害、難病ともに「伝えている」が多く、それぞれの割合は69.7%、38.9%、78.3%、55.9%、52.9%となっている。



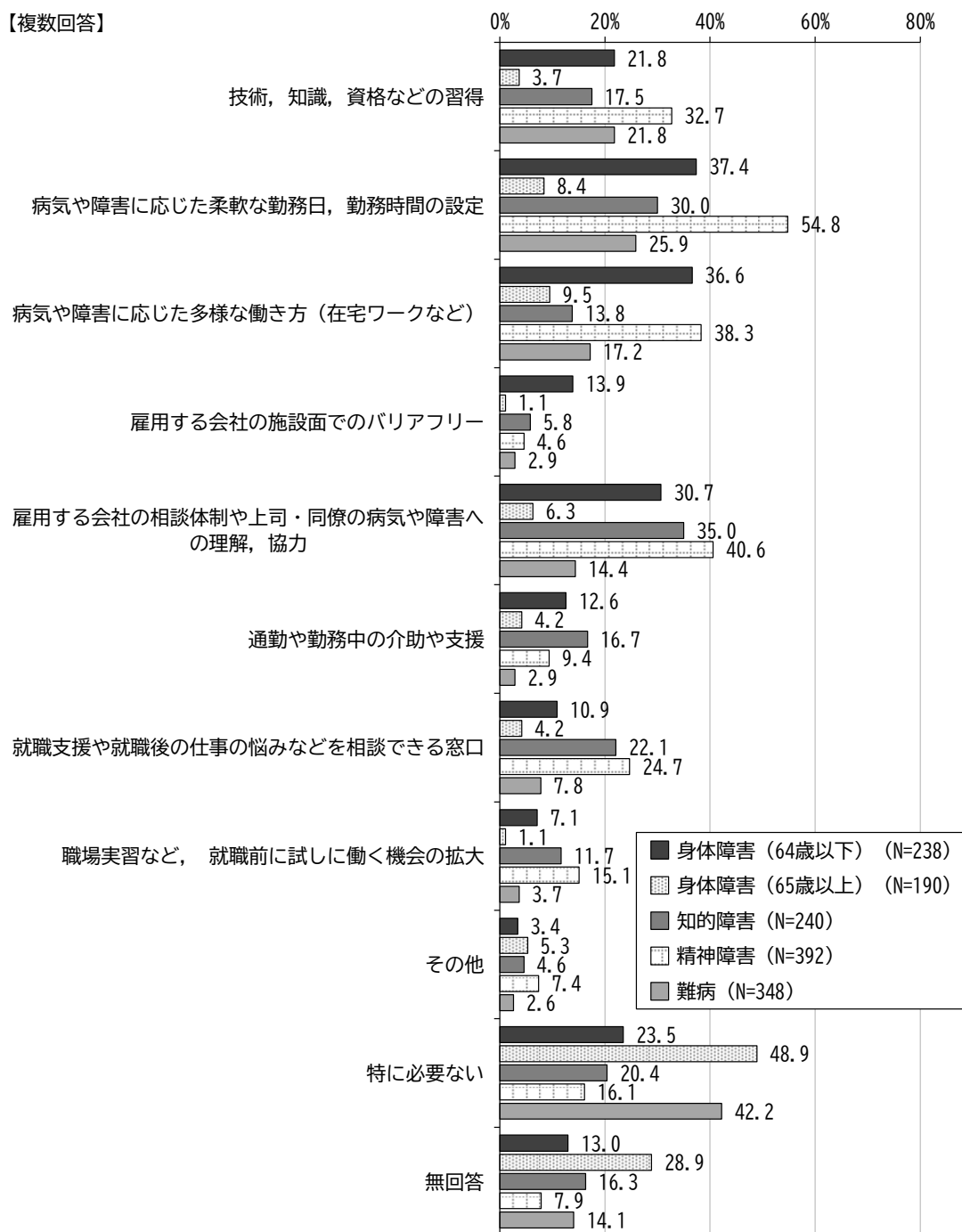
問 18 あなたは、どのような形で働きたい（続けたい）ですか。(1つに○)

- 就労の希望は、身体障害（64歳以下）、精神障害、難病は「正規の社員・職員・役員」が最も多く、それぞれの割合は31.9%、25.0%、29.3%となっている。
- 身体障害（65歳以上）は「働くことができない（35.8%）」、知的障害は「障害者施設（作業所など）（40.4%）」が最も多くなっている。



問 19 あなたが仕事をするために、必要なことはありますか。(いくつでも○)

- 仕事をするために必要なことは、身体障害（64 歳以下）、精神障害は「病気や障害に応じた柔軟な勤務日、勤務時間の設定」が最も多く、それぞれの割合は 37.4%，54.8% となっている。
- 身体障害（65 歳以上）、難病は「特に必要ない」が最も多く、それぞれの割合は 48.9%，42.2% となっている。
- 知的障害は「雇用する会社の相談体制や上司・同僚の病気や障害への理解，協力（35.0%）」が最も多くなっている。

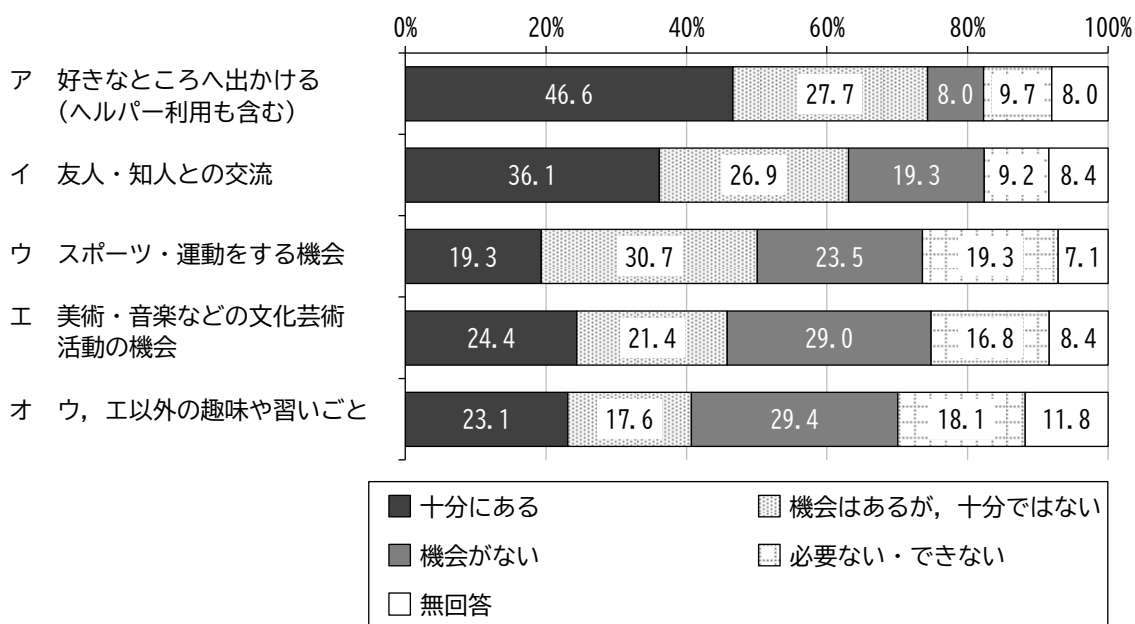


問 20 普段の生活の中で、次のような機会がありますか。(それぞれ1つに○)

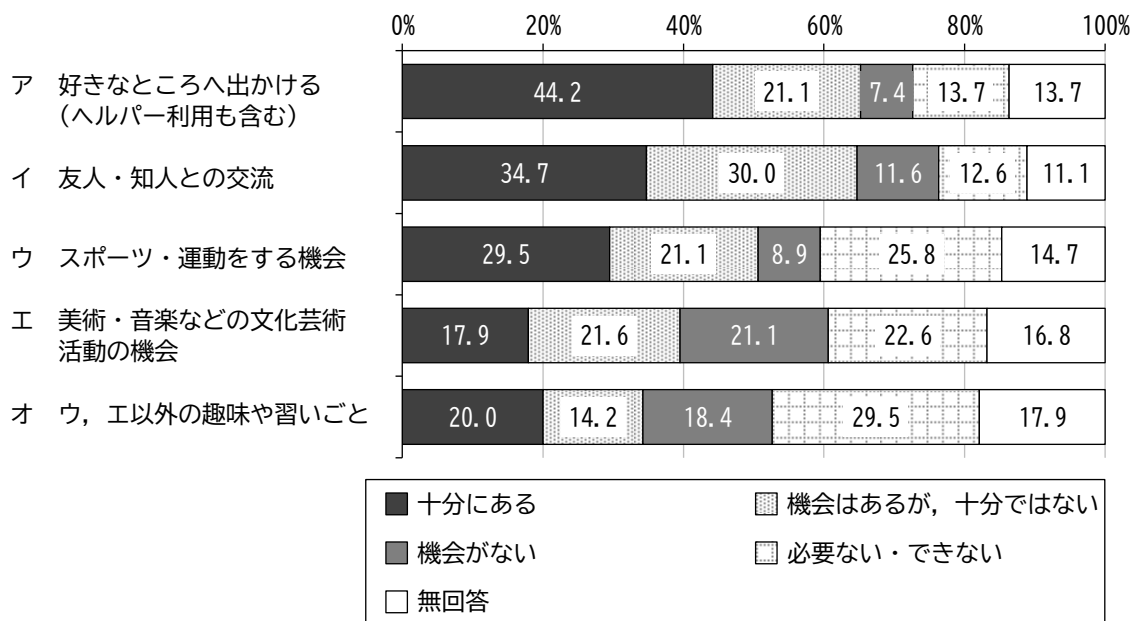
- 生活の中の活動機会について、「十分にある」の割合は、身体障害（64 歳以下）、身体障害（65 歳以上）、知的障害、精神障害、難病ともに「ア 好きなところへ出かける（ヘルパー利用も含む）」が最も多く、それぞれの割合は 46.6%，44.2%，44.6%，45.7%，54.0%となっている。
- 一方、「機会はあるが、十分ではない」と「機会がない」の割合の合計が「十分にある」を上回る活動は、身体障害（64 歳以下）、身体障害（65 歳以上）、知的障害、精神障害は「イ 友人・知人との交流」「ウ スポーツ・運動※をする機会」「エ 美術・音楽などの文化芸術活動※の機会」「オ ウ、エ以外の趣味や習いごと」、難病は「ウ スポーツ・運動をする機会」「エ 美術・音楽などの文化芸術活動の機会」「オ ウ、エ以外の趣味や習いごと」となっている。

※本調査における「スポーツ・運動」とは、ウォーキング、体操、ヨガなど、競技だけでなく健康づくりのための活動も含む。「文化芸術活動」とは、絵を描くこと、美術館・博物館などに行くこと、歌を歌ったり、演奏したりすることを含む。

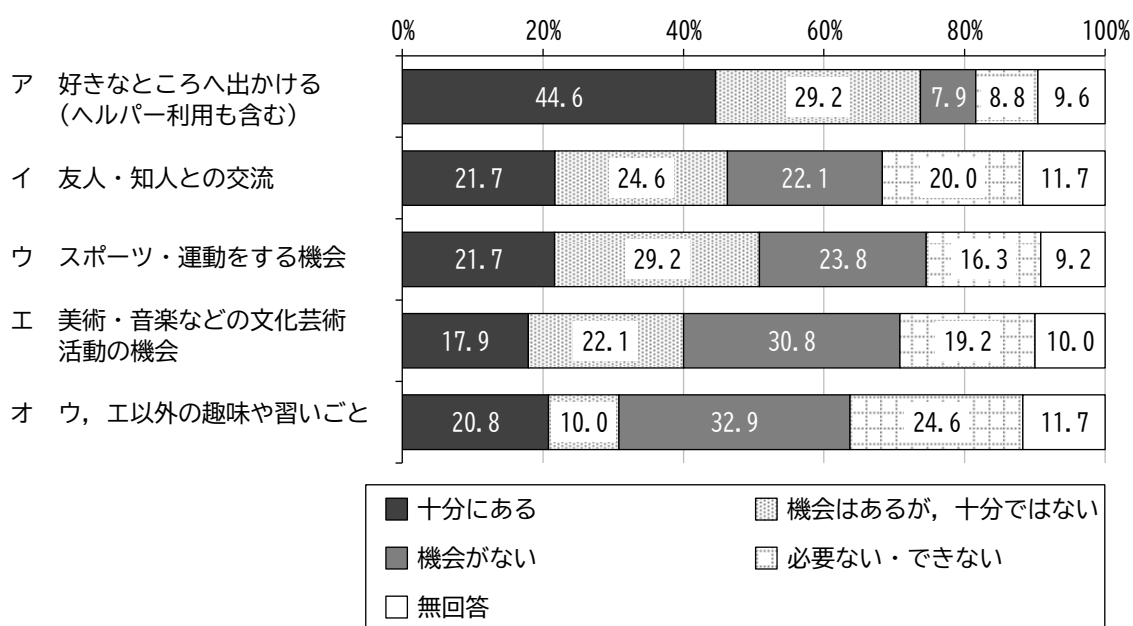
【単数回答】身体障害（64歳以下）（N=238）



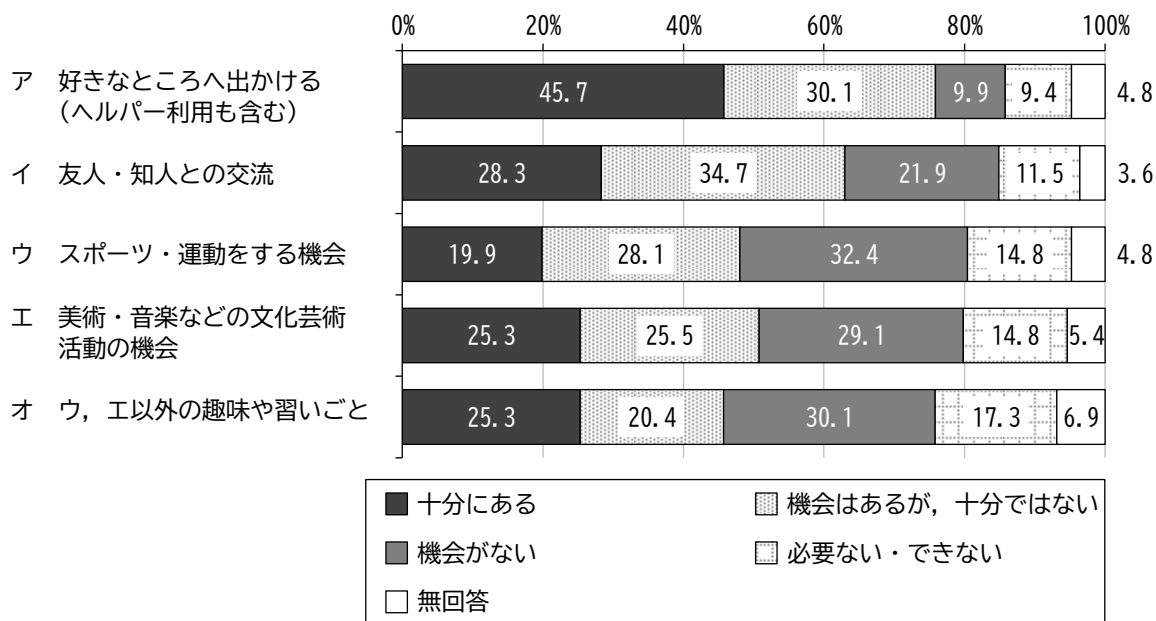
【単数回答】身体障害（65歳以上）（N=190）



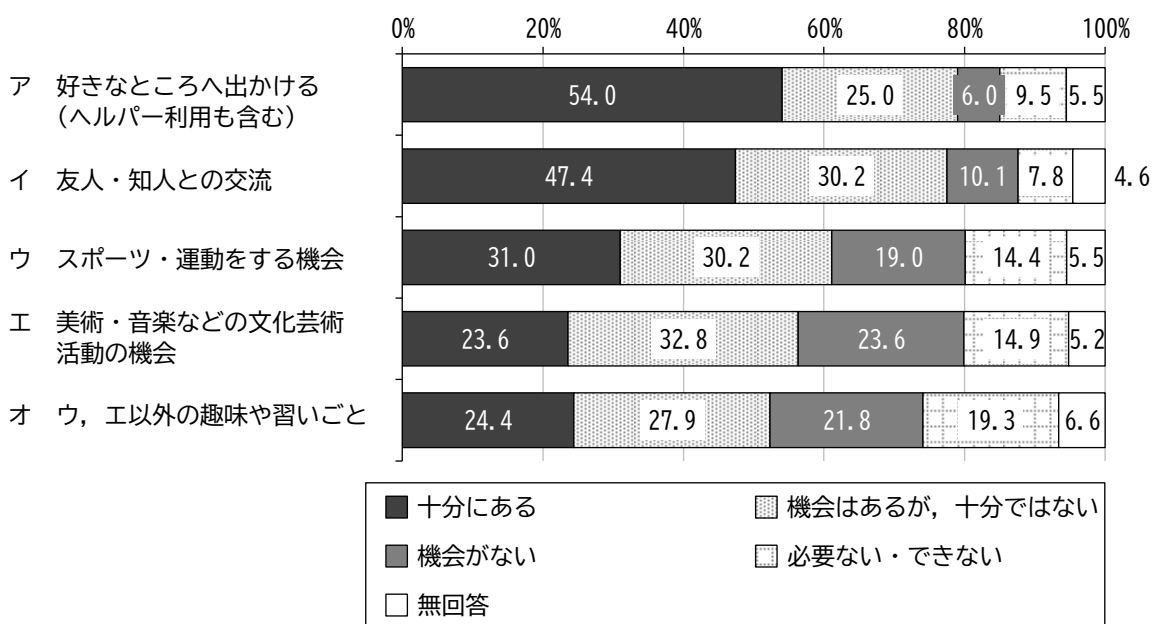
【単数回答】知的障害（N=240）



【単数回答】精神障害（N=392）

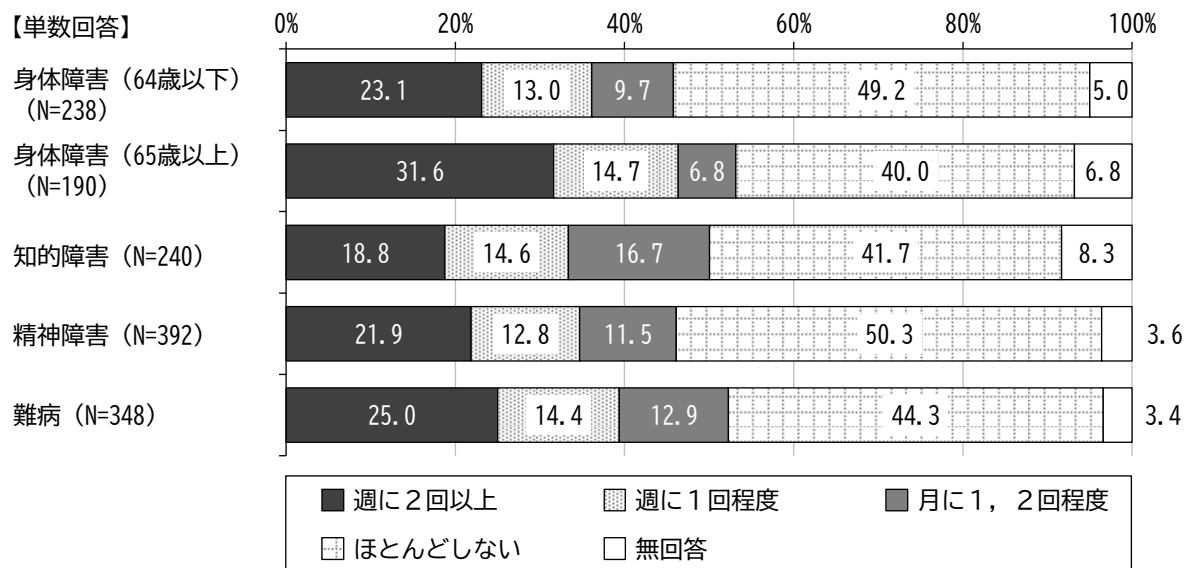


【単数回答】難病（N=348）



問 21 スポーツ・運動をする機会はどのくらいありますか。(1つに○)

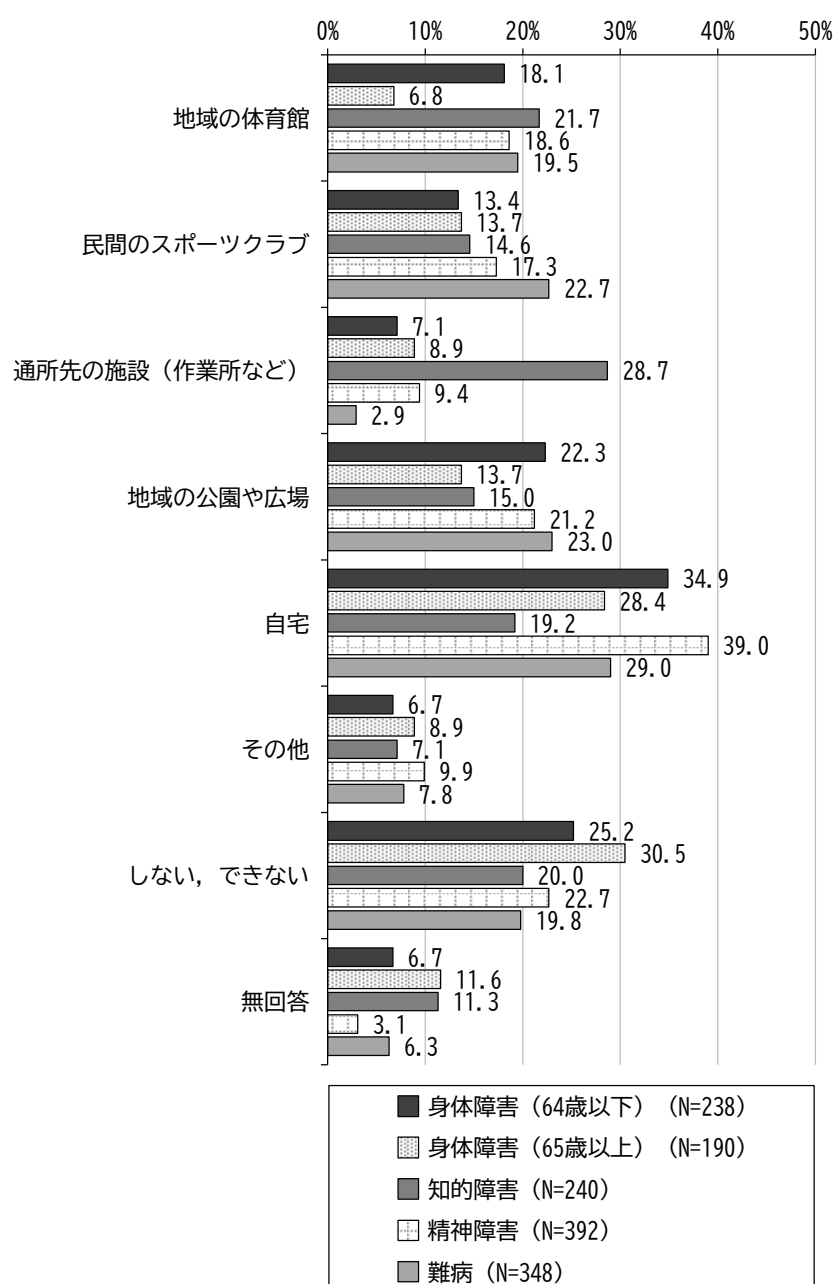
- スポーツ・運動をする頻度は、身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、知的障害、精神障害、難病ともに「ほとんどしない」が最も多く、それぞれの割合は 49.2%，40.0%，41.7%，50.3%，44.3%となっている。
- また、「ほとんどしない」を除くと、身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、知的障害、精神障害、難病ともに「週に2回以上」が多く、それぞれの割合は 23.1%，31.6%，18.8%，21.9%，25.0%となっている。



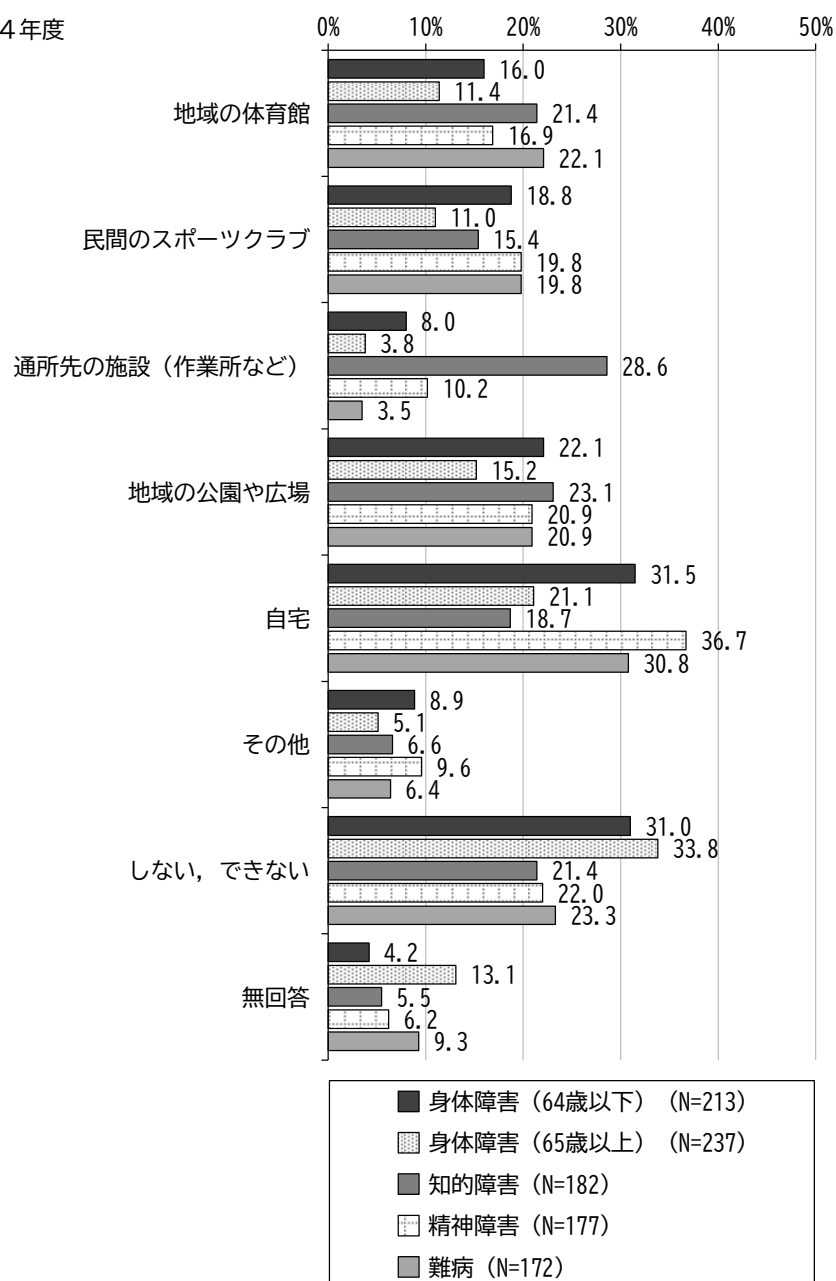
問 22 スポーツ・運動をどこでしたいですか。(いくつでも○)

- スポーツ・運動をどこでしたいかは、身体障害（64 歳以下）、精神障害、難病は「自宅」が最も多く、それぞれの割合は 34.9%，39.0%，29.0%となっている。
- 身体障害（65 歳以上）は「しない，できない（30.5%）」，知的障害は「通所先の施設（作業所など）（28.7%）」が最も多くなっている。
- 令和 4 年度の調査結果と比較すると、身体障害（64 歳以下）で「しない，できない」が 5.8 ポイント，「民間のスポーツクラブ」が 5.4 ポイント低くなっている。身体障害（65 歳以上）で「自宅」が 7.3 ポイント，「通所先の施設（作業所など）」が 5.1 ポイント高くなっている。知的障害で「地域の公園や広場」が 8.1 ポイント低くなっている。

【複数回答】



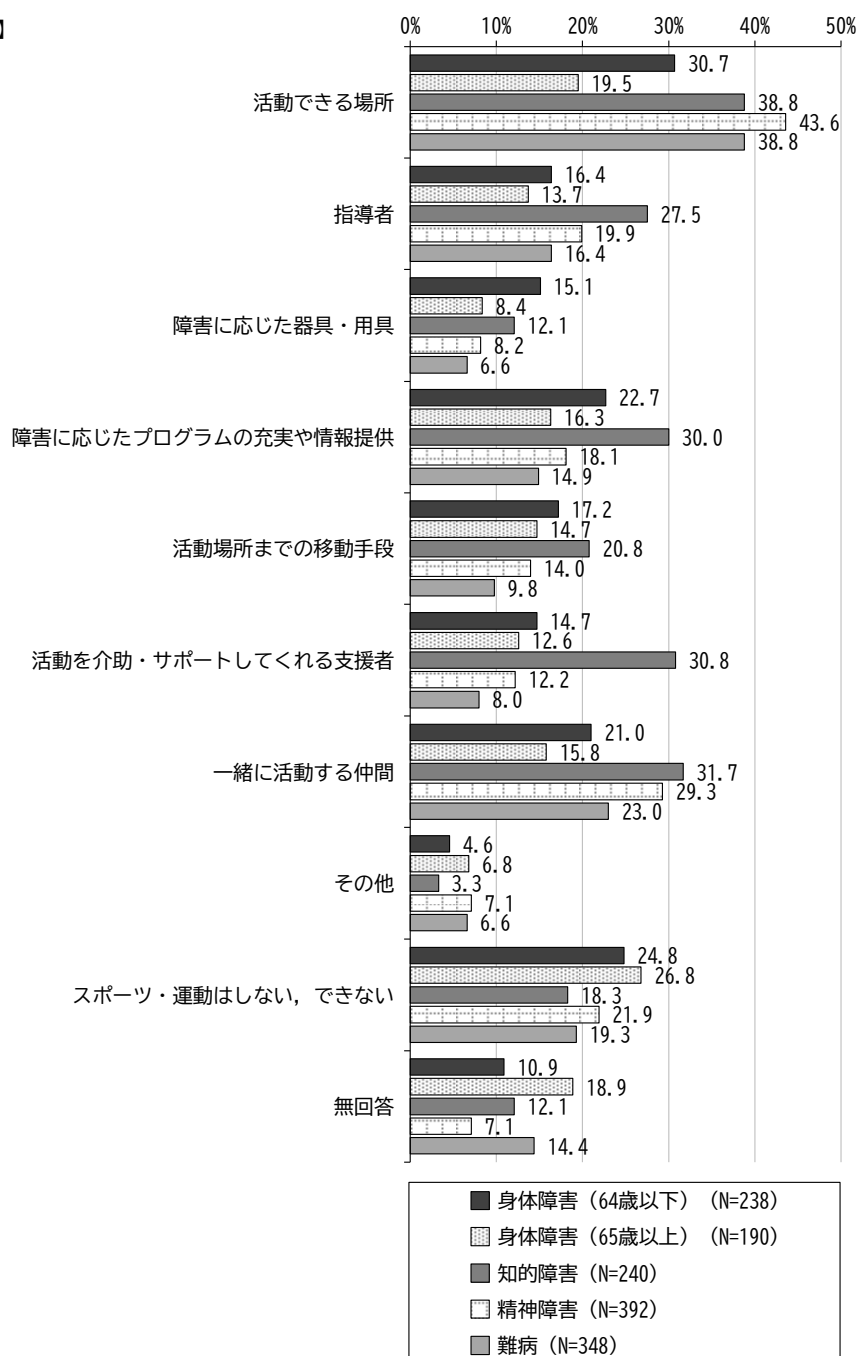
【複数回答】令和4年度



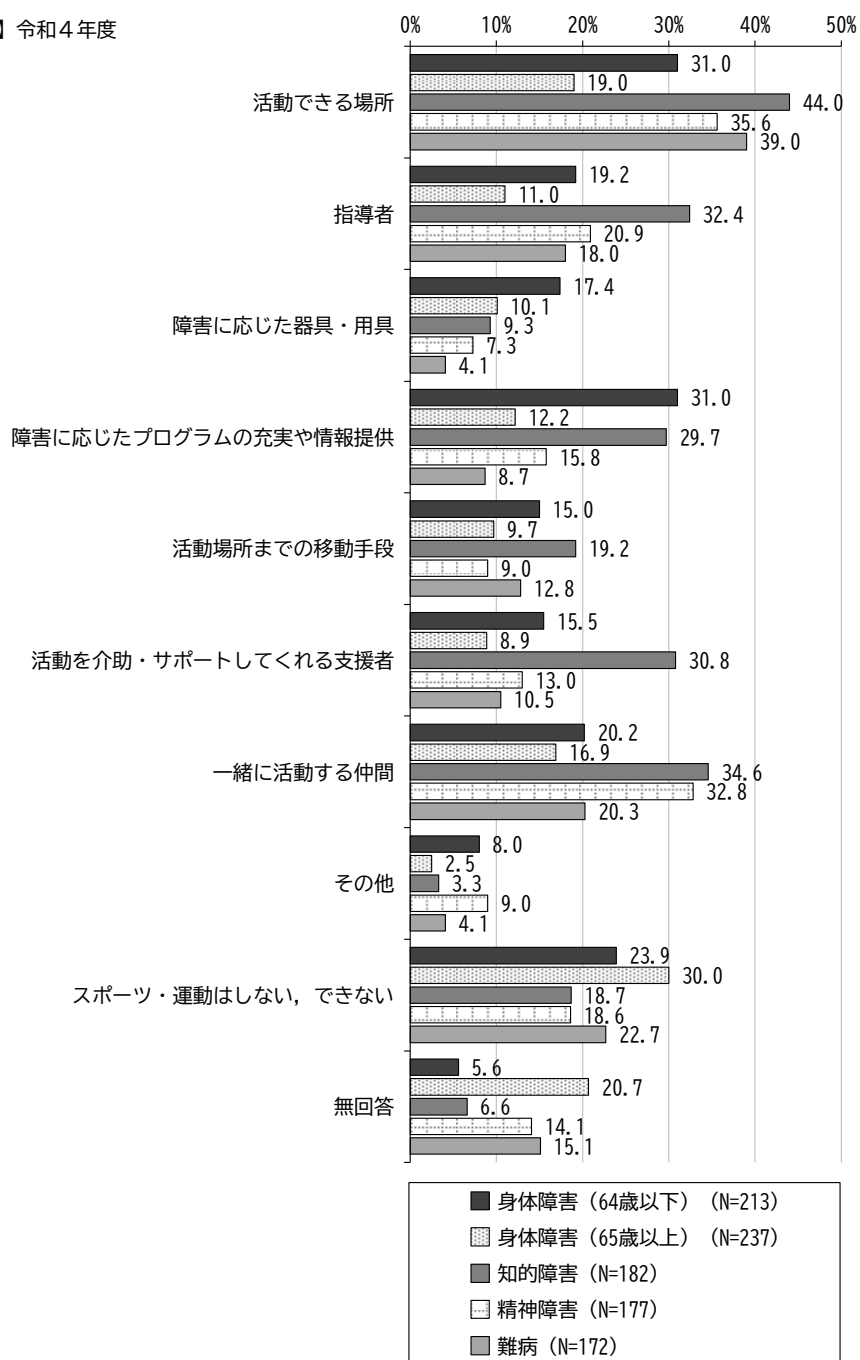
問 23 スポーツ・運動をするために必要な支援は何ですか。(いくつでも○)

- スポーツ・運動をするために必要な支援は、身体障害（64 歳以下）、知的障害、精神障害、難病は「活動できる場所」が最も多く、それぞれの割合は 30.7%, 38.8%, 43.6%, 38.8%となっている。
- 身体障害（65 歳以上）は「スポーツ・運動はしない、できない（26.8%）」が最も多くなっている。
- 令和 4 年度の調査結果と比較すると、身体障害（64 歳以下）で「障害に応じたプログラムの充実や情報提供」が 8.3 ポイント、知的障害で「活動できる場所」が 5.2 ポイント低くなっている。精神障害で「活動できる場所」が 8.0 ポイント、難病で「障害に応じたプログラムの充実や情報提供」が 6.2 ポイント高くなっている。

【複数回答】

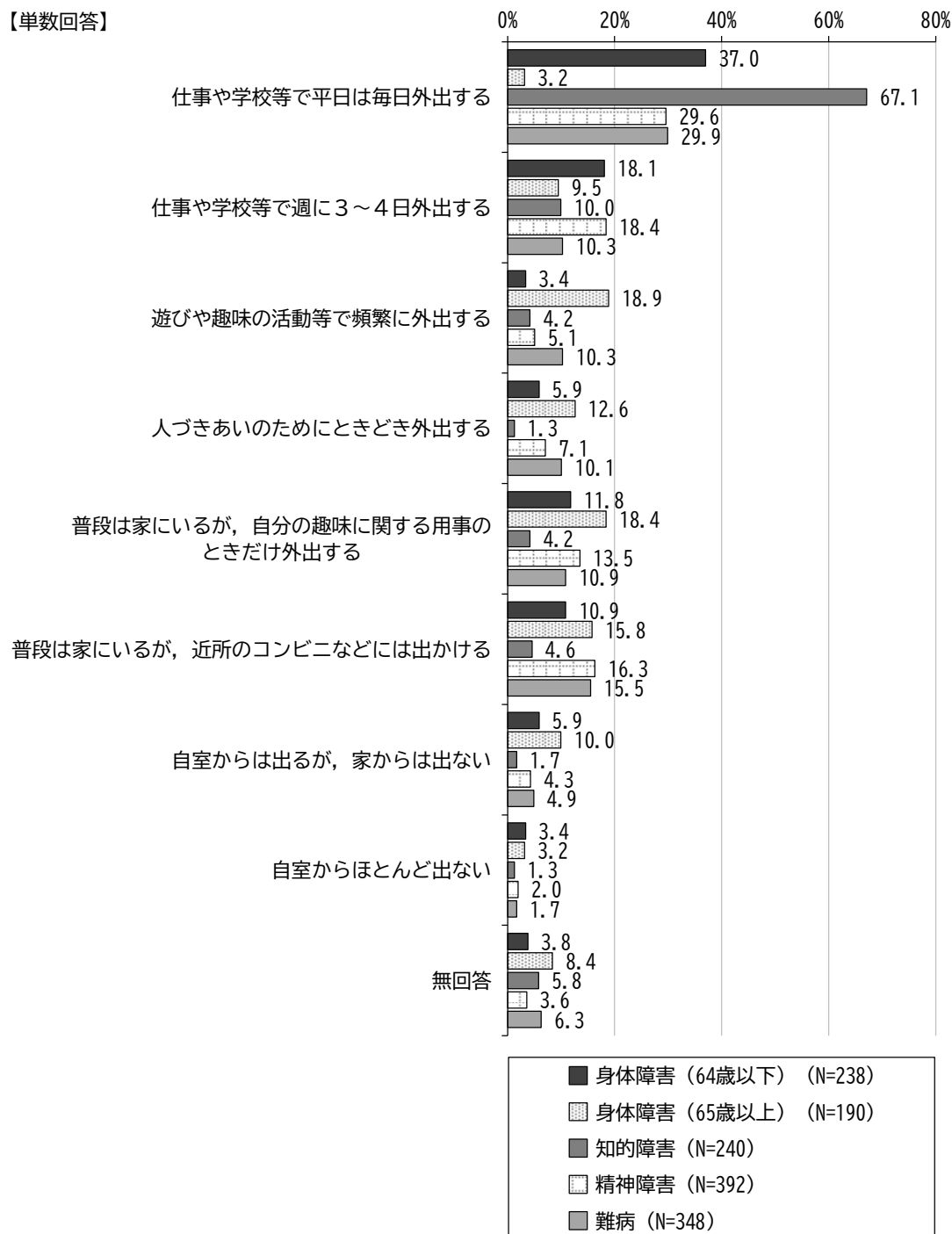


【複数回答】令和4年度



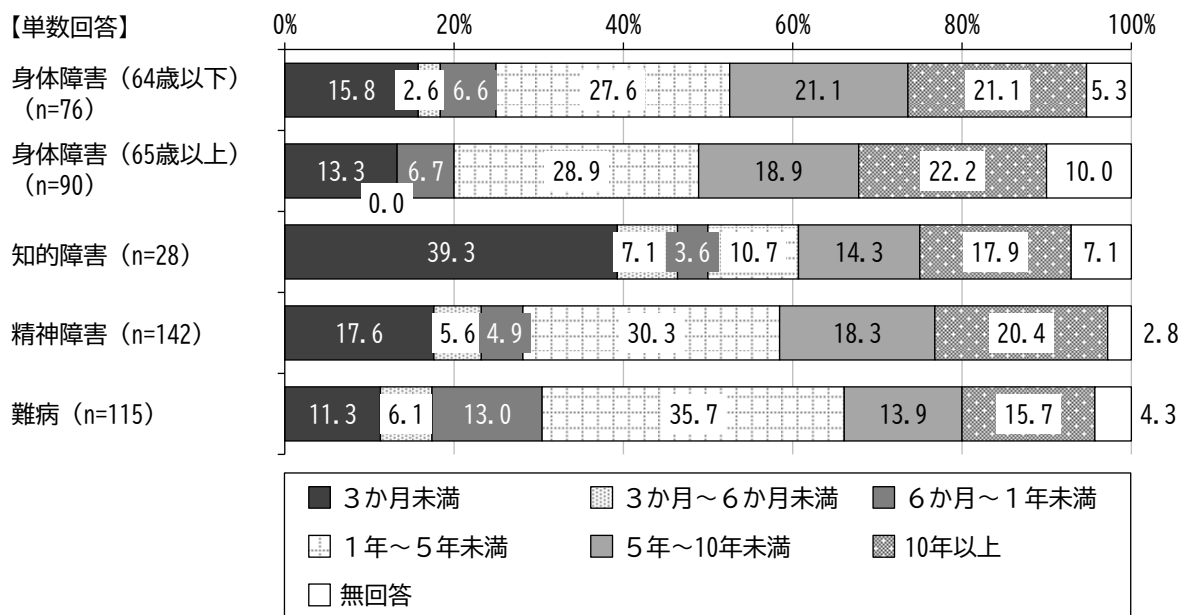
問 24 あなたは普段、どのくらい外出しますか。現在のことについてお答えください。
(1つに○)

- 外出の状況は、身体障害（64 歳以下）、知的障害、精神障害、難病は「仕事や学校等で平日は毎日外出する」が最も多く、それぞれの割合は 37.0%，67.1%，29.6%，29.9% となっている。
- 身体障害（65 歳以上）は「遊びや趣味の活動等で頻繁に外出する（18.9%）」が最も多くなっている。



付問1 問24で「5～8（外出頻度が低い）」のいずれかに答えた方にうかがいます。
あなたの外出状況が現在の状態となって、どのくらい経ちますか。（1つに○）

- 外出状況が現在の状態となって、どのくらい経つかは、身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、精神障害、難病は「1年～5年未満」が最も多く、それぞれの割合は27.6%、28.9%、30.3%、35.7%となっている。
- 知的障害は「3か月未満（39.3%）」が最も多くなっている。

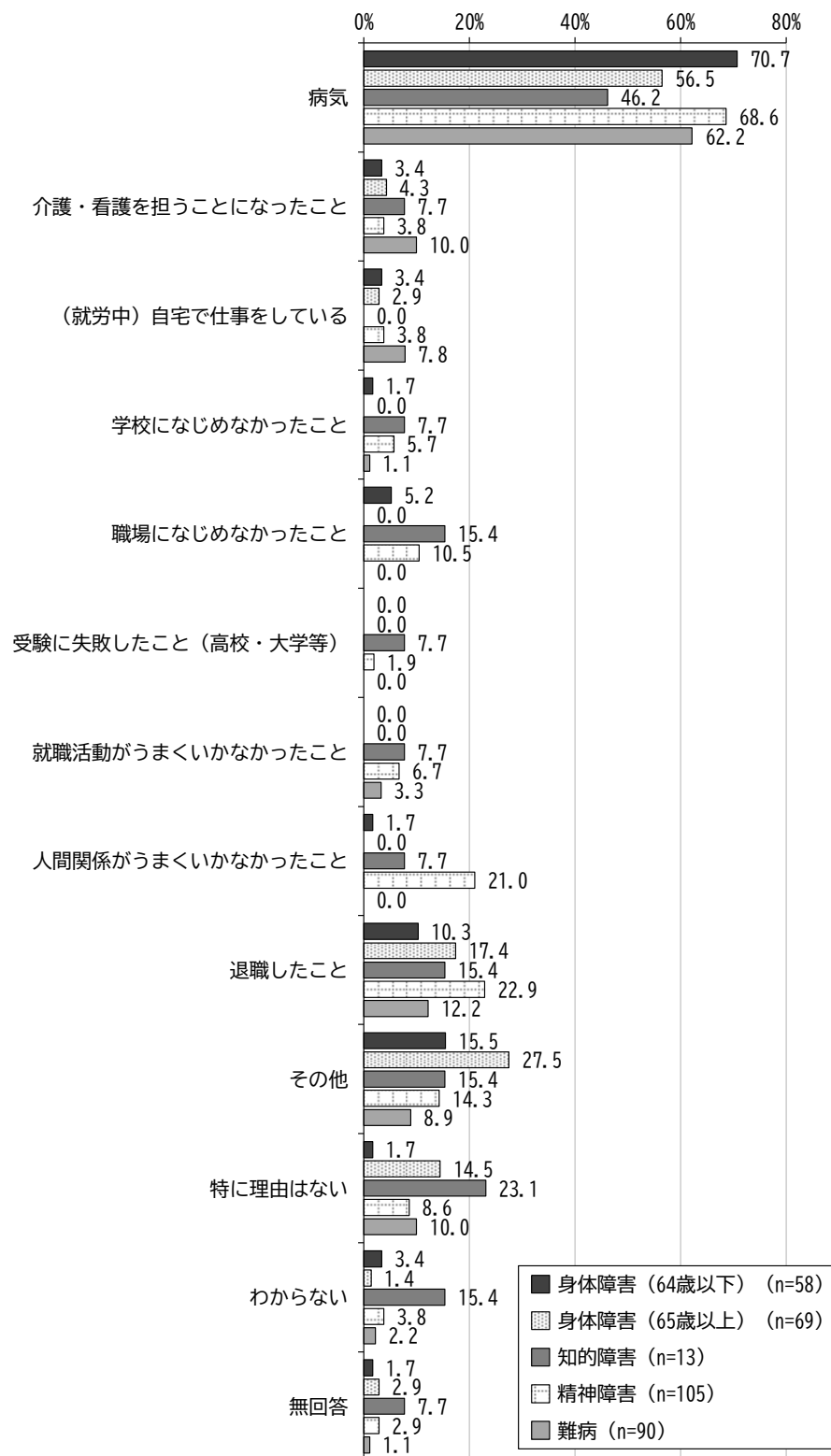


付問2 付問1で「3～6（外出状況が現在の状態となって6か月以上）」のいずれかに答えた方にうかがいます。

あなたの外出状況が現在の状態になった主な理由は何ですか。（いくつでも○）

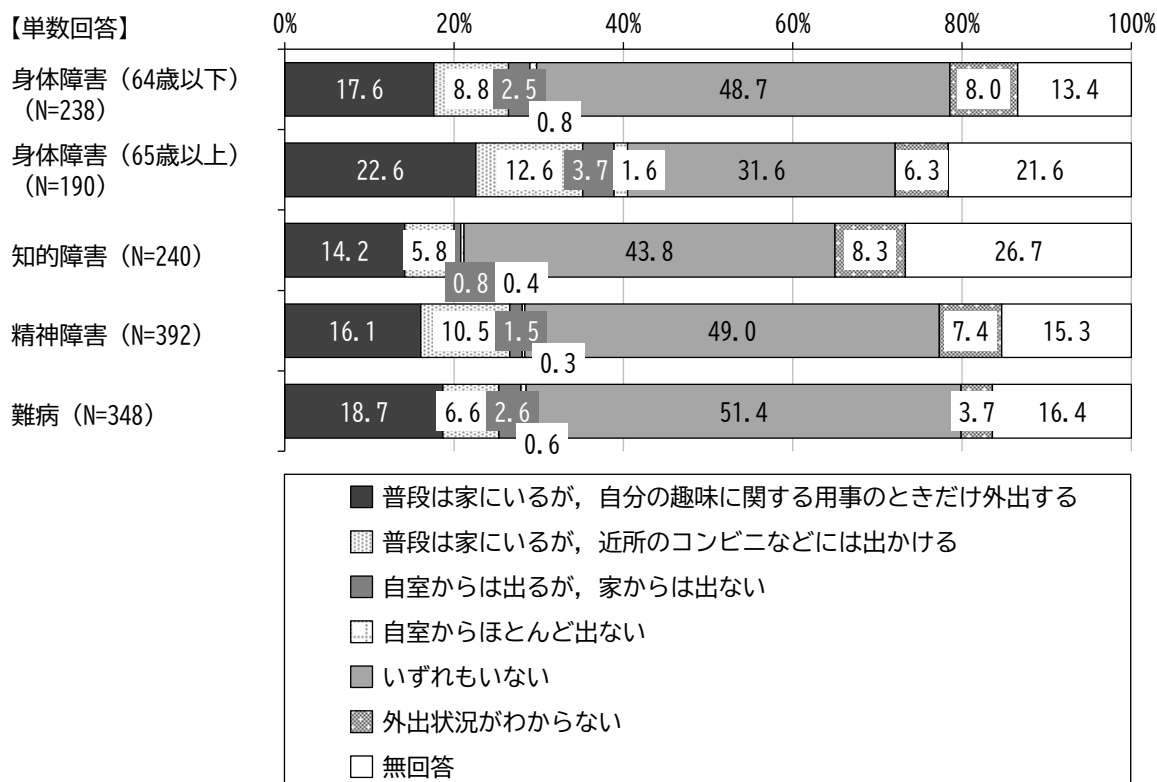
- 外出状況が現在の状態になった主な理由は、身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、知的障害、精神障害、難病ともに「病気」が最も多く、それぞれの割合は70.7%、56.5%、46.2%、68.6%、62.2%となっている。

【複数回答】



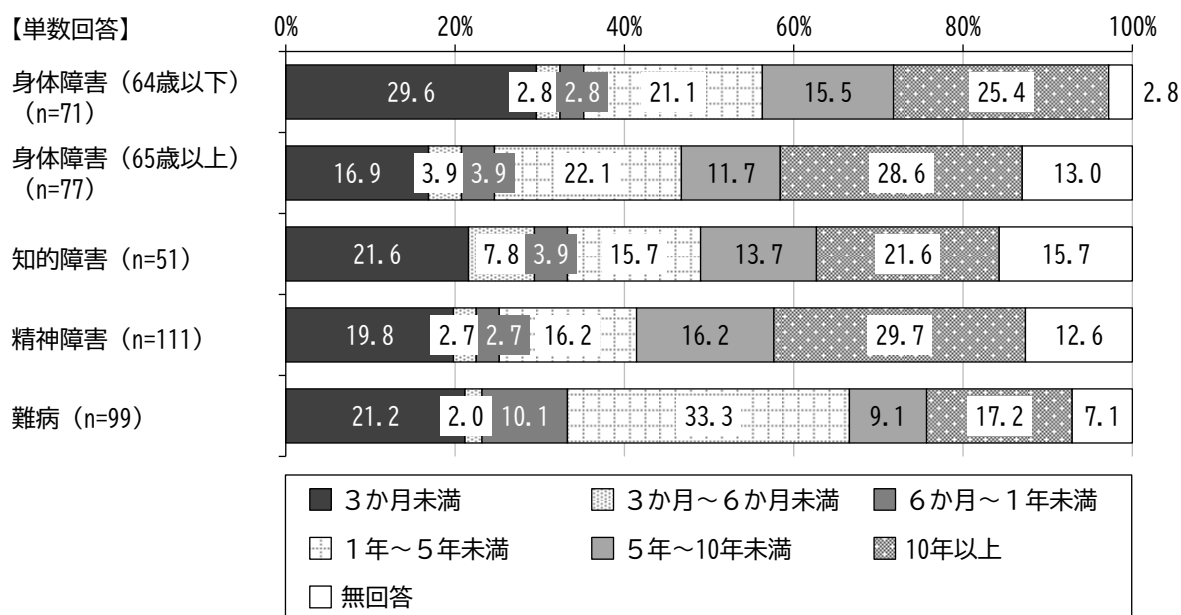
問 25 あなた以外で、市内にお住まいのご家族（同居・別居問わず）に下記の外出状況が当てはまる人はいますか。（1つに○）

- 市内に住む家族の外出状況は、身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、知的障害、精神障害、難病ともに「いずれもない」が最も多く、それぞれの割合は48.7%，31.6%，43.8%，49.0%，51.4%となっている。
- また、「いずれもない」を除くと、身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、知的障害、精神障害、難病ともに「普段は家にいるが、自分の趣味に関する用事するときだけ外出する」が多く、それぞれの割合は17.6%，22.6%，14.2%，16.1%，18.7%となっている。



付問1 問25で「1～4（外出頻度が低い）」のいずれかに答えた方にうかがいます。
ご家族の外出状況が現在の状態となって、どのくらい経ちますか。（1つに○）

- 家族の外出状況が現在の状態となって、どのくらい経つかは、身体障害（64歳以下）は「3か月未満（29.6%）」、難病は「1年～5年未満（33.3%）」が最も多くなっている。
- 身体障害（65歳以上）、精神障害は「10年以上」が最も多く、それぞれの割合は28.6%、29.7%となっている。
- 知的障害は「3か月未満」「10年以上」（21.6%）が同率となっている。

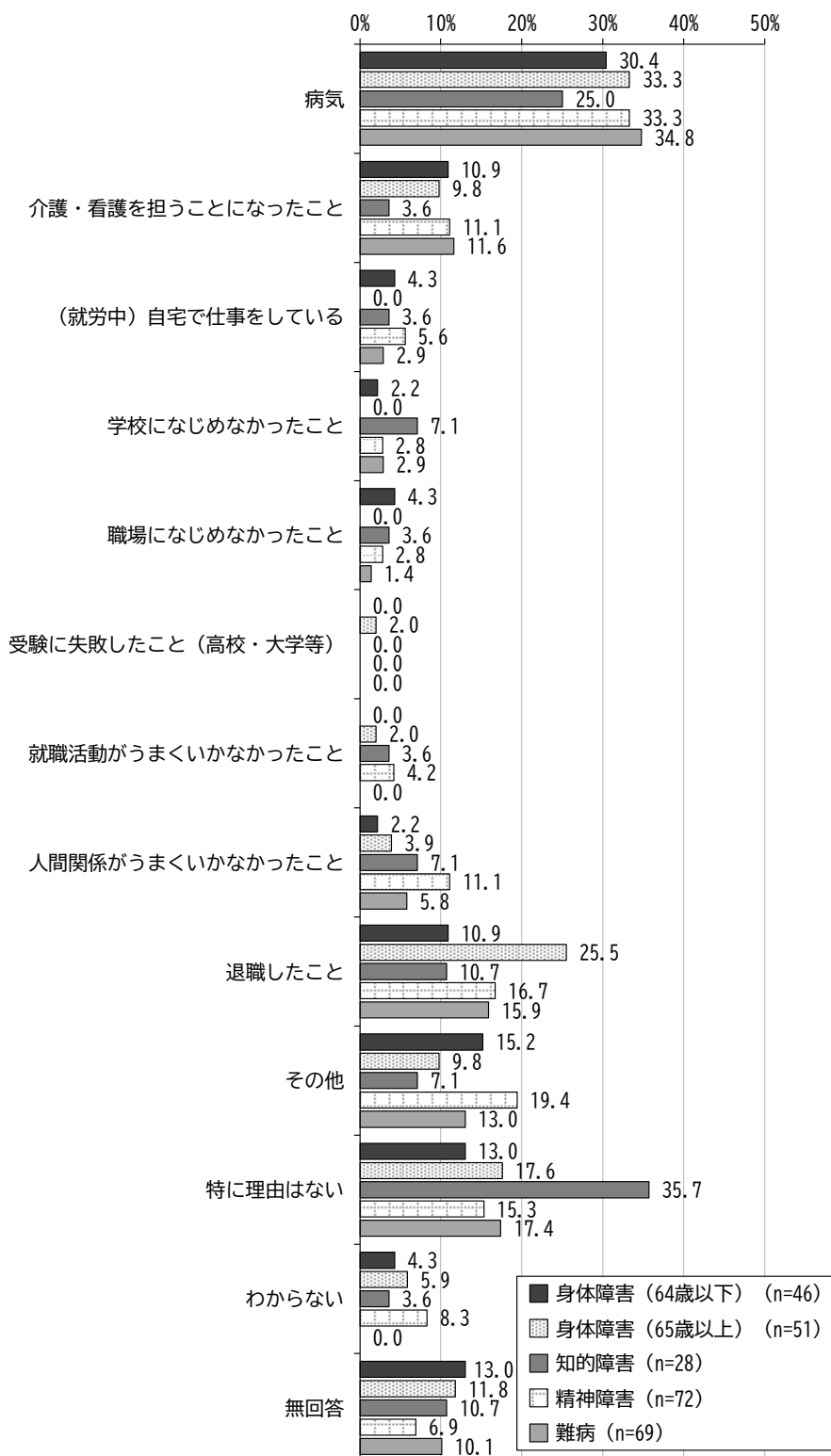


付問2 付問1で「3～6（外出状況が現在の状態となって6か月以上）」のいずれかに答えた方にうかがいます。

ご家族の外出状況が現在の状態になった主な理由は何ですか。（いくつでも○）

- 家族の外出状況が現在の状態になった主な理由は、身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、精神障害、難病は「病気」が最も多く、それぞれの割合は30.4%、33.3%、33.3%、34.8%となっている。
- 知的障害は「特に理由はない（35.7%）」が最も多くなっている。

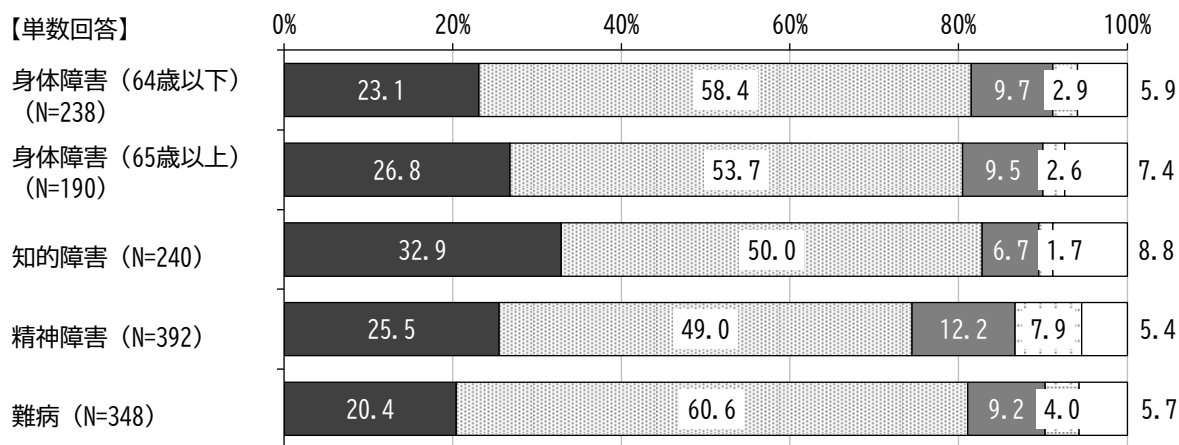
【複数回答】



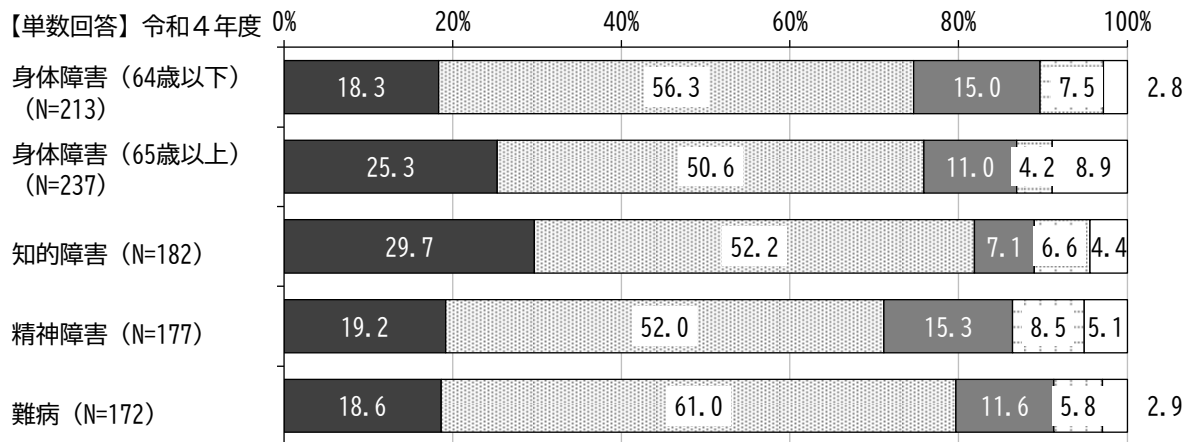
6 誰もが暮らしやすいまちづくりについておたずねします

問 26 調布のまちは、障害（身体障害、知的障害、精神障害、難病など）のある人にとって、福祉サービス、バリアフリー、市民意識などを総合的に考え、住みやすいまちであると感じますか。（1つに○）

- 調布のまちは障害のある人にとって住みやすいまちであると感じるかについて、身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、知的障害、精神障害、難病ともに「住みやすいと思う」と「どちらかといえば、住みやすいと思う」を合わせた『住みやすいと思う』の割合が多く、それぞれの割合は81.5%、80.5%、82.9%、74.5%、81.0%となっている。
- 令和4年度調査の調査結果と比較すると、いずれの障害でも『住みやすいと思う』の割合が高くなっており、特に身体障害（64歳以下）で6.9ポイント高くなっている。



☒ 住みやすいと思う
 ☐ どちらかといえば、住みやすいと思う
☒ どちらかといえば、住みやすいと思わない
 ☐ 住みやすいと思わない
☐ 無回答

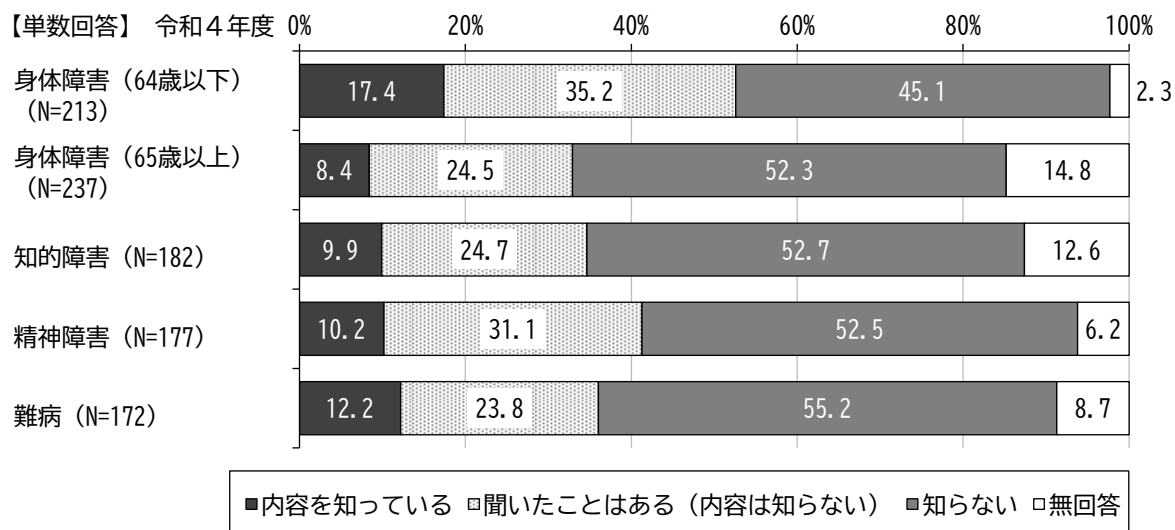
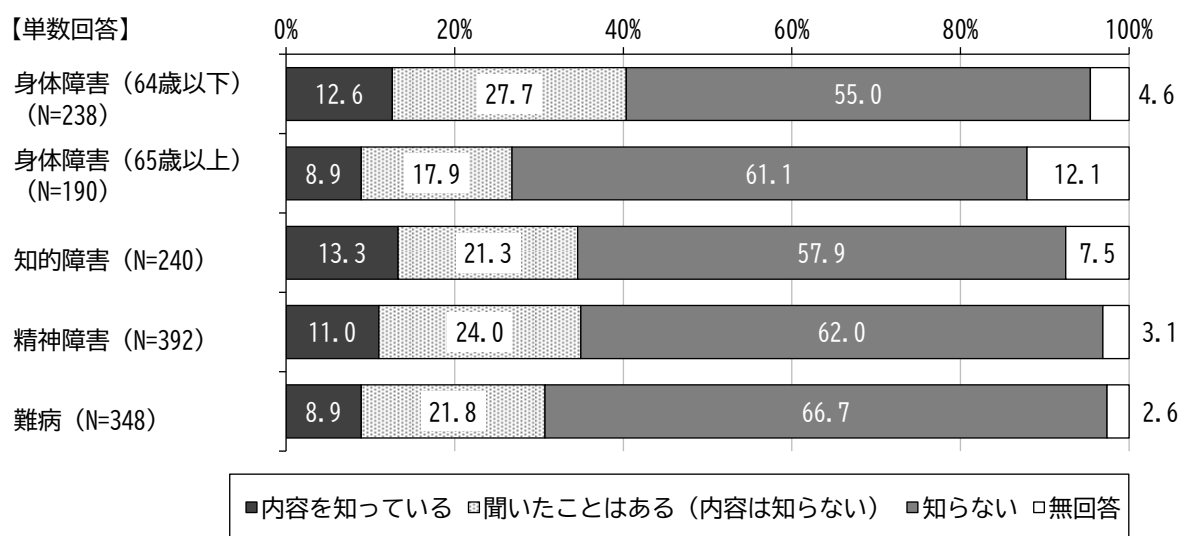


☒ 住みやすいと思う
 ☐ どちらかといえば、住みやすいと思う
☒ どちらかといえば、住みやすいと思わない
 ☐ 住みやすいと思わない
☐ 無回答

問 27 共生社会の充実のための法律や考え方，調布市が令和 6 年度に制定した 2 つの条例
を知っていますか。（それぞれ 1 つに○）

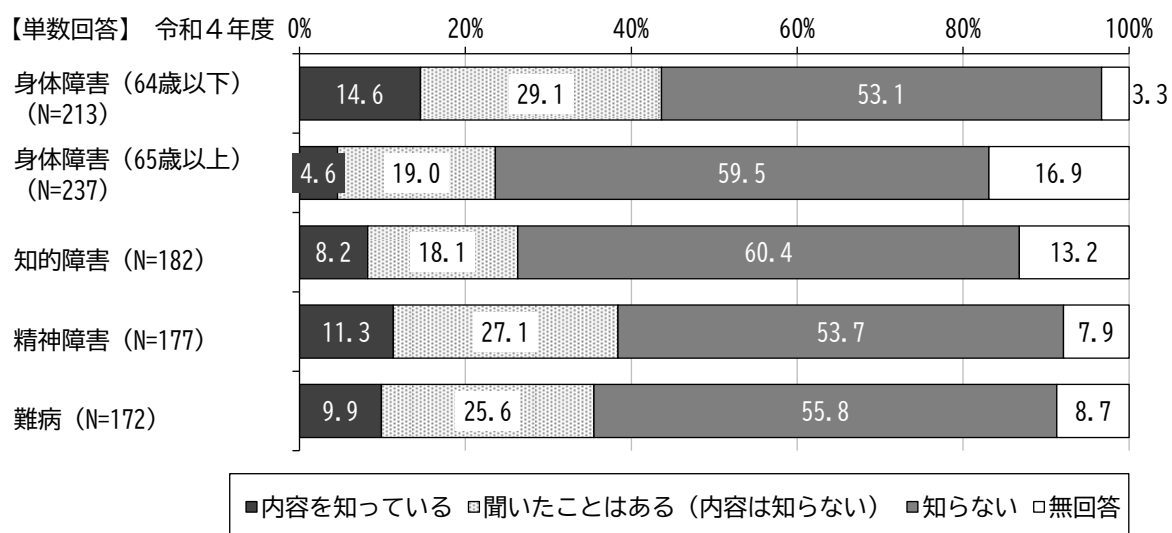
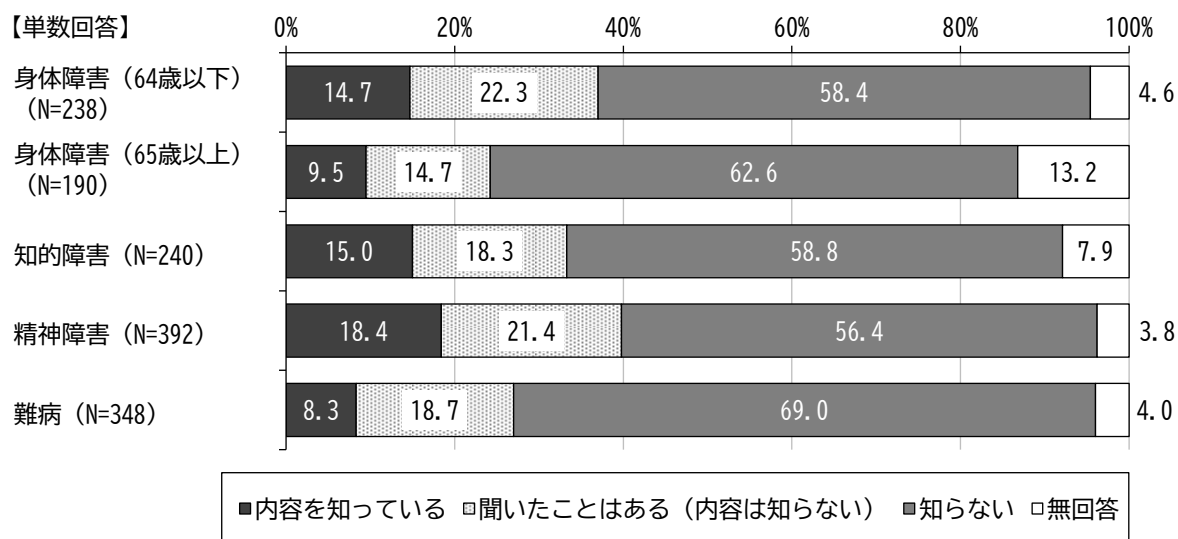
ア 障害者差別解消法

- 障害者差別解消法の認知度は，身体障害（64 歳以下），身体障害（65 歳以上），知的障害，精神障害，難病ともに「知らない」が最も多くなっている。「内容を知っている」について，それぞれの割合は 12.6%，8.9%，13.3%，11.0%，8.9%となっている。
- 令和 4 年度の調査結果と比較すると，いずれの障害でも「知らない」の割合が高くなっており，知的障害を除いて 10 ポイント近く高くなっている。



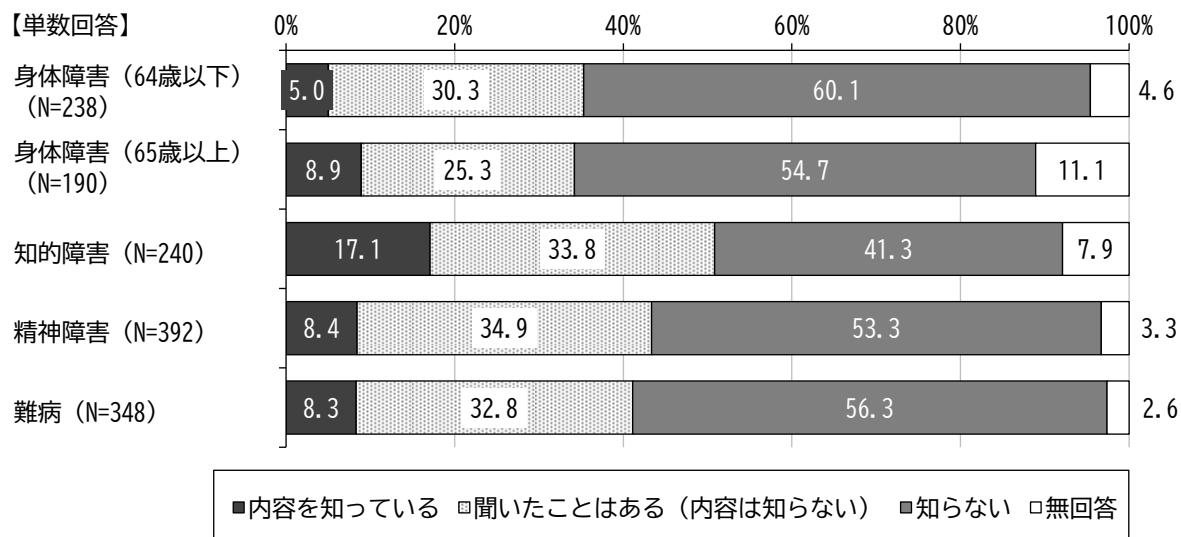
イ 合理的配慮

- 合理的配慮の認知度は、身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、知的障害、精神障害、難病ともに「知らない」が最も多くなっている。「内容を知っている」について、それぞれの割合は14.7%、9.5%、15.0%、18.4%、8.3%となっている。
- 令和4年度の調査結果と比較すると、身体障害（65歳以上）、知的障害、精神障害において「内容を知っている」の割合が高くなっており、特に知的障害と精神障害で7.0ポイント近く高くなってきている。



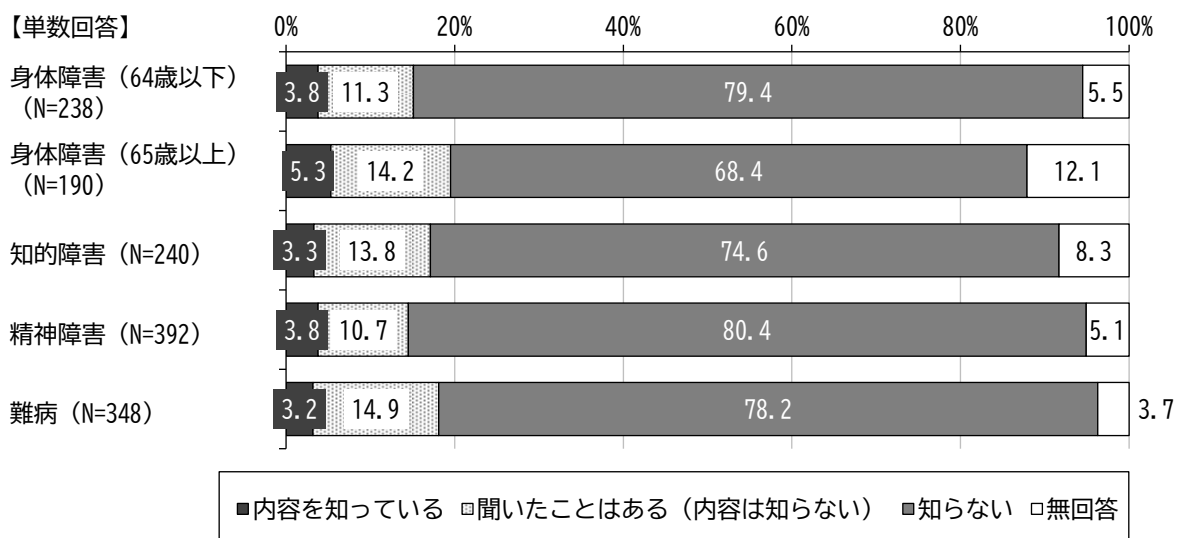
ウ パラハートちょうふ

- パラハートちょうふの認知度は、身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、知的障害、精神障害、難病ともに「知らない」が最も多くなっている。「内容を知っている」について、それぞれの割合は5.0％、8.9％、17.1％、8.4％、8.3％となっている。



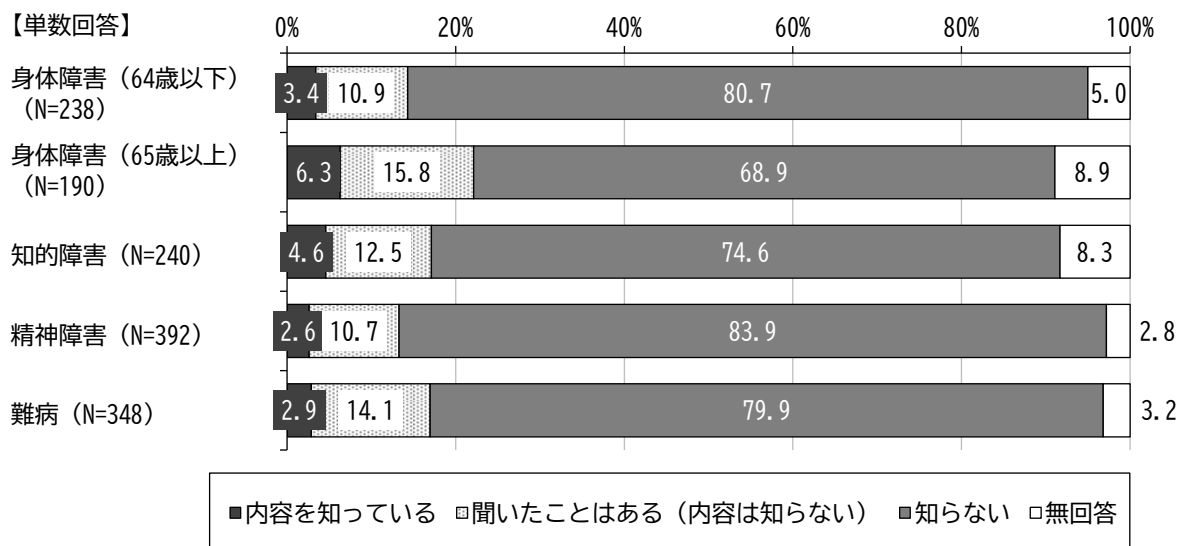
エ 調布市手話言語条例

- 調布市手話言語条例の認知度は、身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、知的障害、精神障害、難病ともに「知らない」が最も多くなっている。「内容を知っている」について、それぞれの割合は3.8％、5.3％、3.3％、3.8％、3.2％となっている。



オ 調布市障害者の多様な意思疎通に関する条例

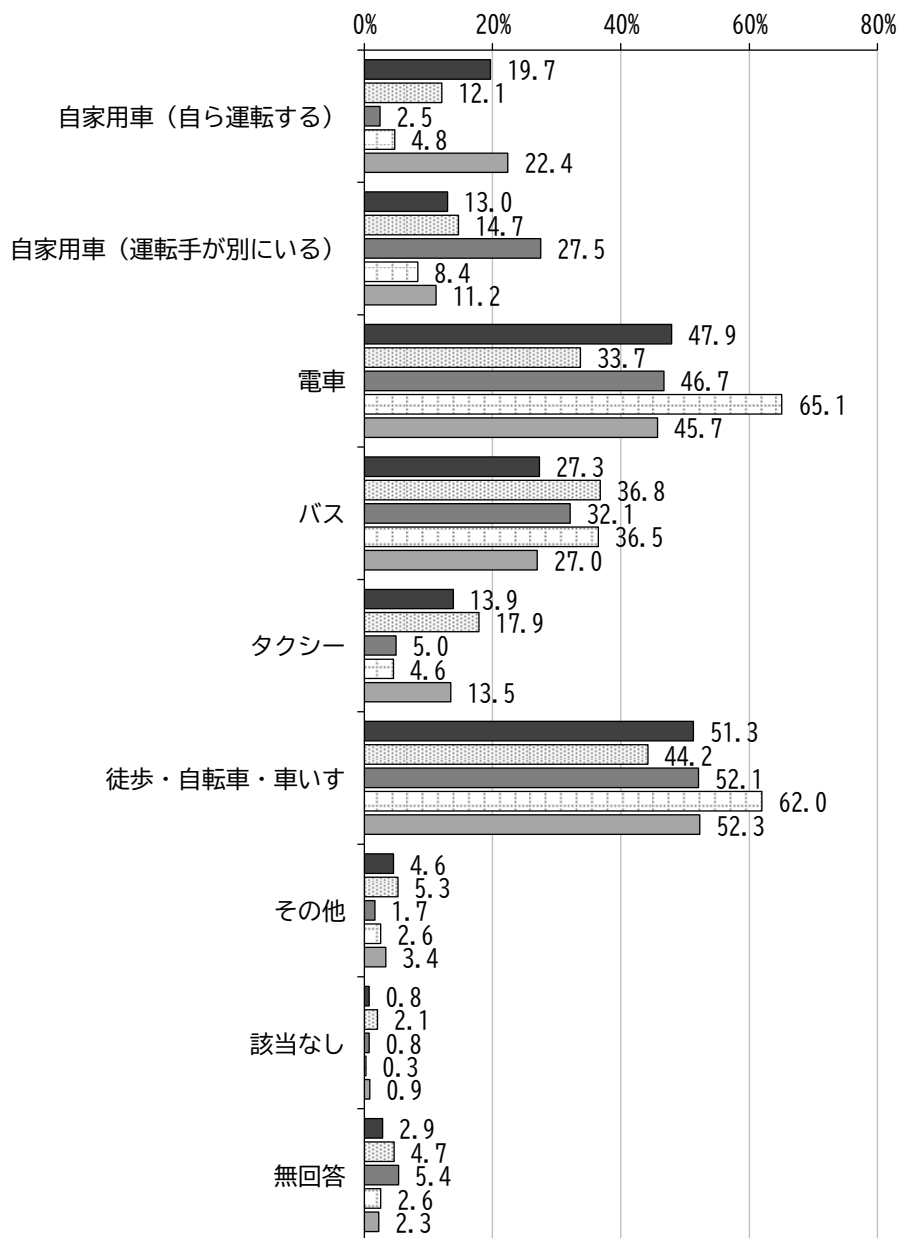
- 調布市障害者の多様な意思疎通に関する条例の認知度は、身体障害（64 歳以下），身体障害（65 歳以上），知的障害，精神障害，難病ともに「知らない」が最も多くなっている。「内容を知っている」について，それぞれの割合は 3.4%，6.3%，4.6%，2.6%，2.9%となっている。



問 28 外出時に使用している主な移動手段は何ですか。(2つまで○)

- 外出時に使用している主な移動手段は、身体障害(64歳以下), 身体障害(65歳以上), 知的障害, 難病は「徒歩・自転車・車いす」が最も多く, それぞれの割合は 51.3%, 44.2%, 52.1%, 52.3%となっている。
- 精神障害は「電車(65.1%)」が最も多くなっている。

【複数回答】

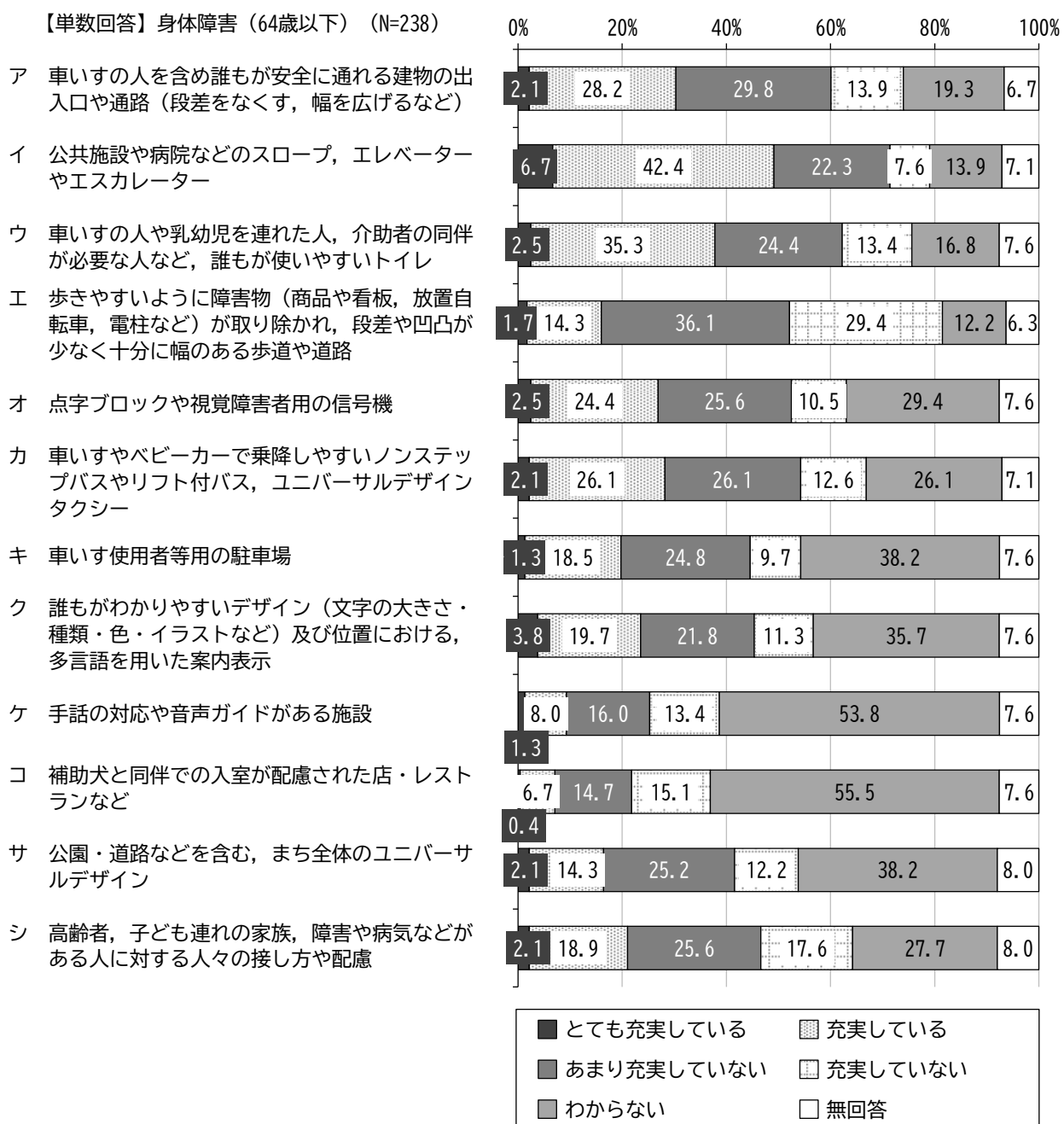


■ 身体障害 (64歳以下) (N=238)
 ▨ 身体障害 (65歳以上) (N=190)
 ■ 知的障害 (N=240)
 ▨ 精神障害 (N=392)
 ■ 難病 (N=348)

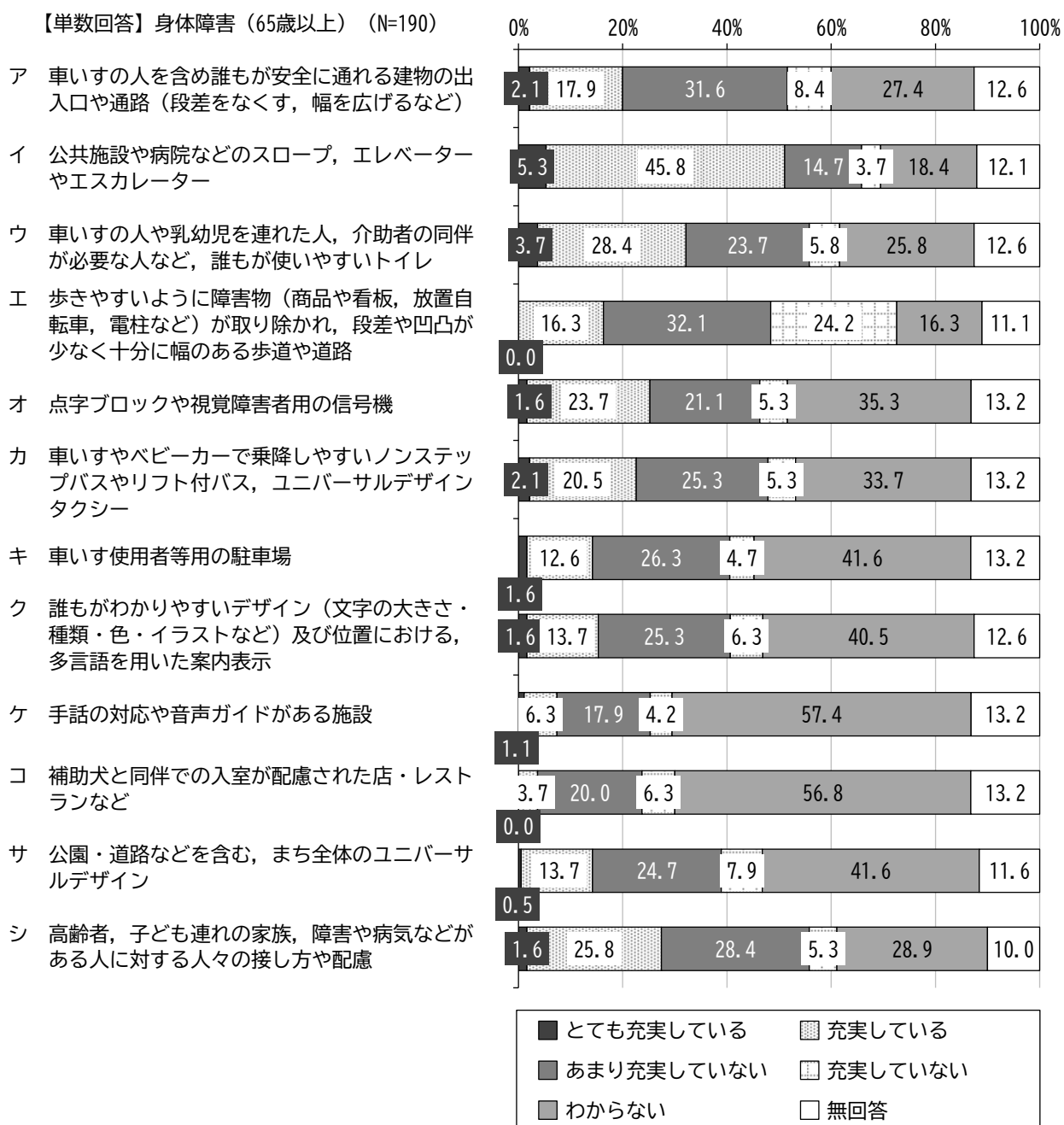
問 29 市内のバリアフリー・ユニバーサルデザインについて、どのように感じていますか。
(それぞれ1つに○)

- 市内のバリアフリー・ユニバーサルデザインの状況について、「とても充実している」と「充実している」を合わせた『充実している』の割合、「あまり充実していない」と「充実していない」を合わせた『充実していない』の割合をみる。
- 身体障害（64 歳以下）で『充実している』の割合は、[イ 公共施設や病院などのスロープ、エレベーターやエスカレーター（49.1%）]、[ウ 車いすの人や乳幼児を連れた人、介助者の同伴が必要な人など、誰もが使いやすいトイレ（37.8%）]が多くなっている。一方、『充実していない』は[エ 歩きやすいように障害物（商品や看板、放置自転車、電柱など）が取り除かれ、段差や凹凸が少なく十分に幅のある歩道や道路（65.5%）]、[ア 車いすの人を含め誰もが安全に通れる建物の出入口や通路（段差をなくす、幅を広げるなど）（43.7%）]が多くなっている。
- 身体障害（65 歳以上）で『充実している』の割合は、[イ 公共施設や病院などのスロープ、エレベーターやエスカレーター（51.1%）]、[ウ 車いすの人や乳幼児を連れた人、介助者の同伴が必要な人など、誰もが使いやすいトイレ（32.1%）]が多くなっている。一方、『充実していない』は[エ 歩きやすいように障害物（商品や看板、放置自転車、電柱など）が取り除かれ、段差や凹凸が少なく十分に幅のある歩道や道路（56.3%）]、[ア 車いすの人を含め誰もが安全に通れる建物の出入口や通路（段差をなくす、幅を広げるなど）（40.0%）]が多くなっている。
- 知的障害で『充実している』の割合は、[イ 公共施設や病院などのスロープ、エレベーターやエスカレーター（47.5%）]、[ウ 車いすの人や乳幼児を連れた人、介助者の同伴が必要な人など、誰もが使いやすいトイレ（38.0%）]が多くなっている。一方、『充実していない』は[エ 歩きやすいように障害物（商品や看板、放置自転車、電柱など）が取り除かれ、段差や凹凸が少なく十分に幅のある歩道や道路（45.0%）]、[シ 高齢者、子ども連れの家族、障害や病気などがある人に対する人々の接し方や配慮（30.1%）]が多くなっている。
- 精神障害で『充実している』の割合は、[イ 公共施設や病院などのスロープ、エレベーターやエスカレーター（46.9%）]、[ウ 車いすの人や乳幼児を連れた人、介助者の同伴が必要な人など、誰もが使いやすいトイレ（38.0%）]が多くなっている。一方、『充実していない』は[エ 歩きやすいように障害物（商品や看板、放置自転車、電柱など）が取り除かれ、段差や凹凸が少なく十分に幅のある歩道や道路（44.7%）]、[シ 高齢者、子ども連れの家族、障害や病気などがある人に対する人々の接し方や配慮（37.0%）]が多くなっている。
- 難病で『充実している』の割合は、[イ 公共施設や病院などのスロープ、エレベーターやエスカレーター（50.5%）]、[ウ 車いすの人や乳幼児を連れた人、介助者の同伴が必要な人など、誰もが使いやすいトイレ（34.2%）]が多くなっている。一方、『充実していない』は[エ 歩きやすいように障害物（商品や看板、放置自転車、電柱など）が取り除かれ、段差や凹凸が少なく十分に幅のある歩道や道路（62.1%）]、[ア 車いすの人を含め誰もが安全に通れる建物の出入口や通路（段差をなくす、幅を広げるなど）（44.8%）]が多くなっている。

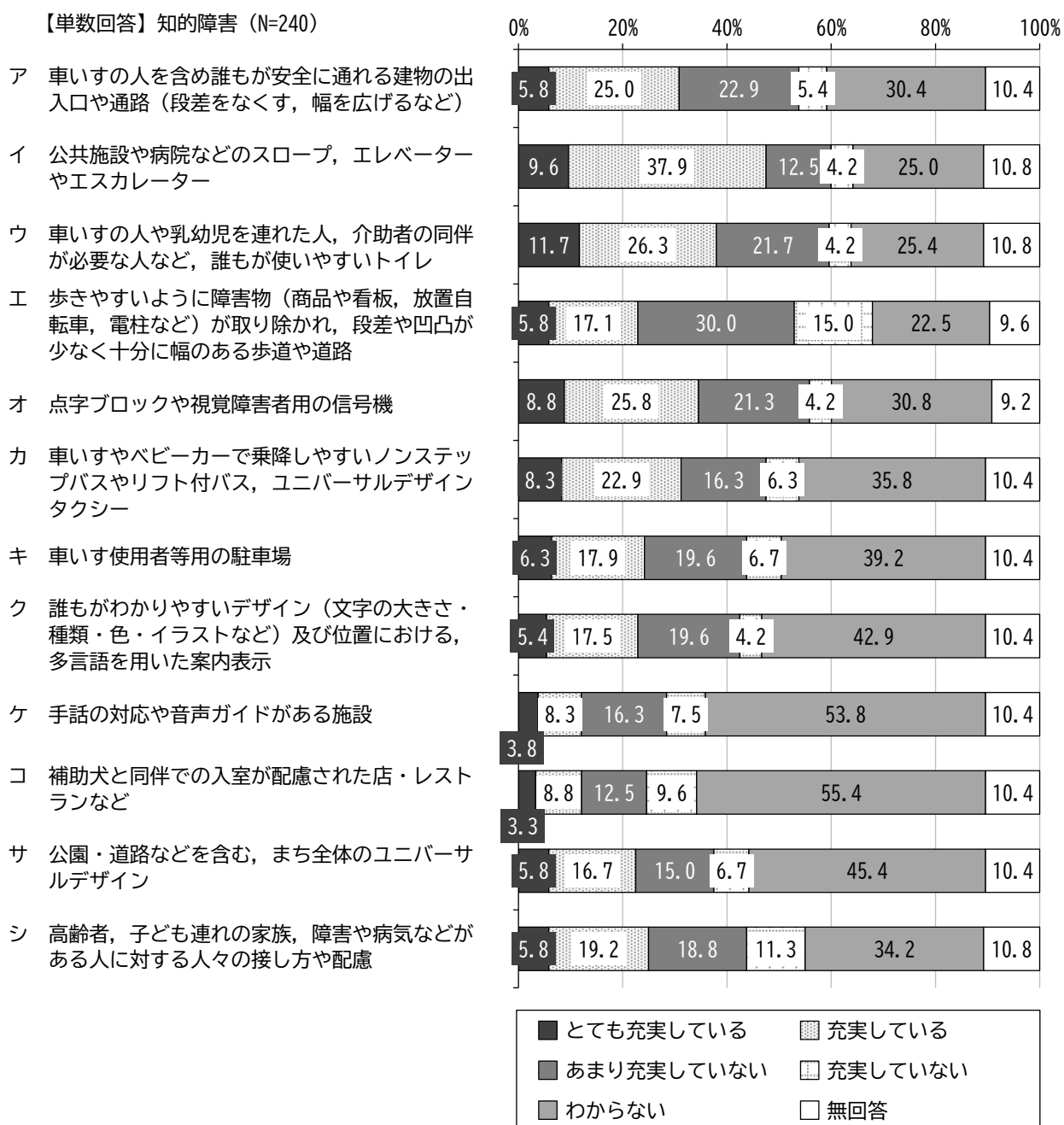
【単数回答】身体障害（64歳以下）（N=238）



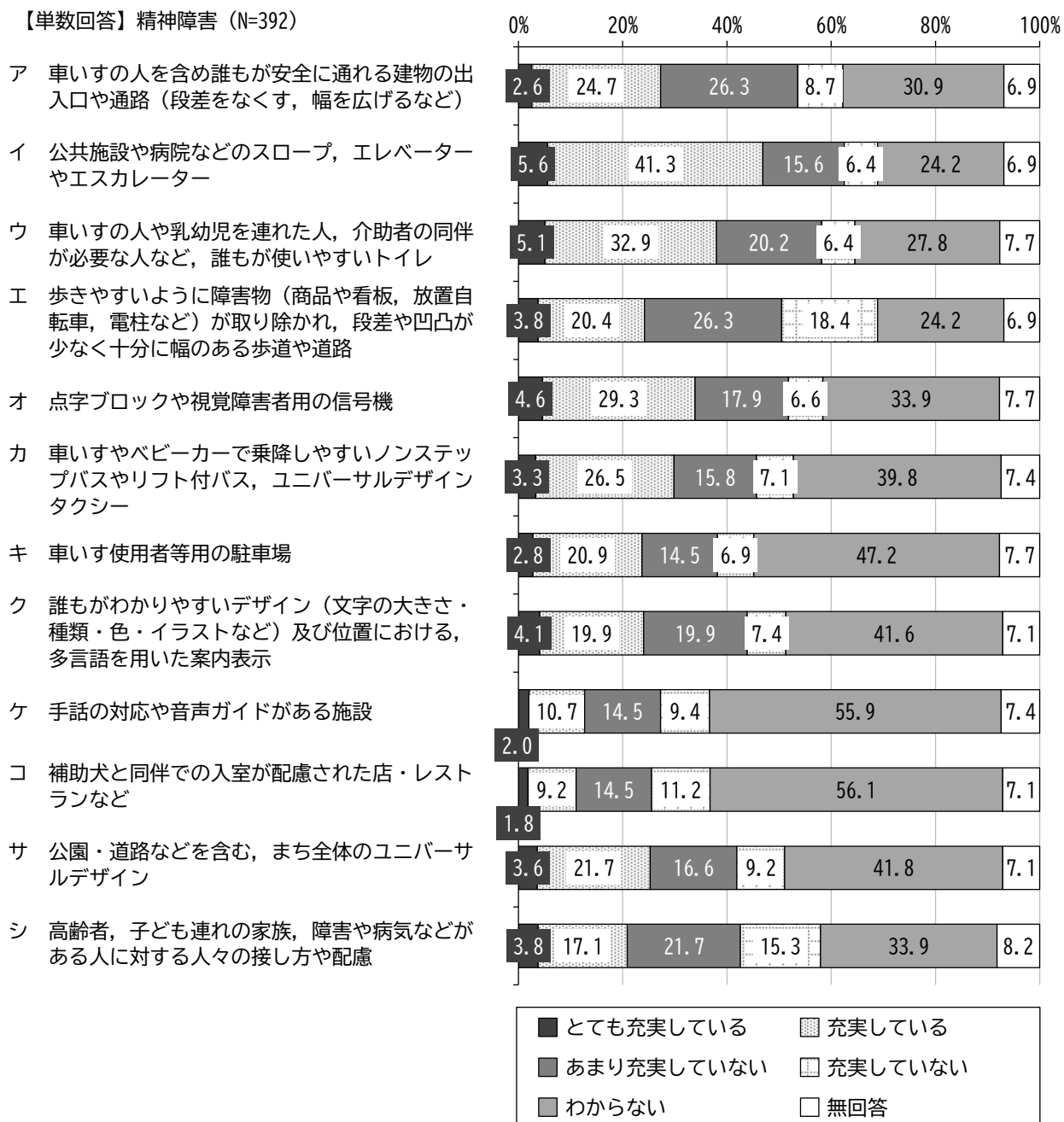
【単数回答】身体障害（65歳以上）（N=190）



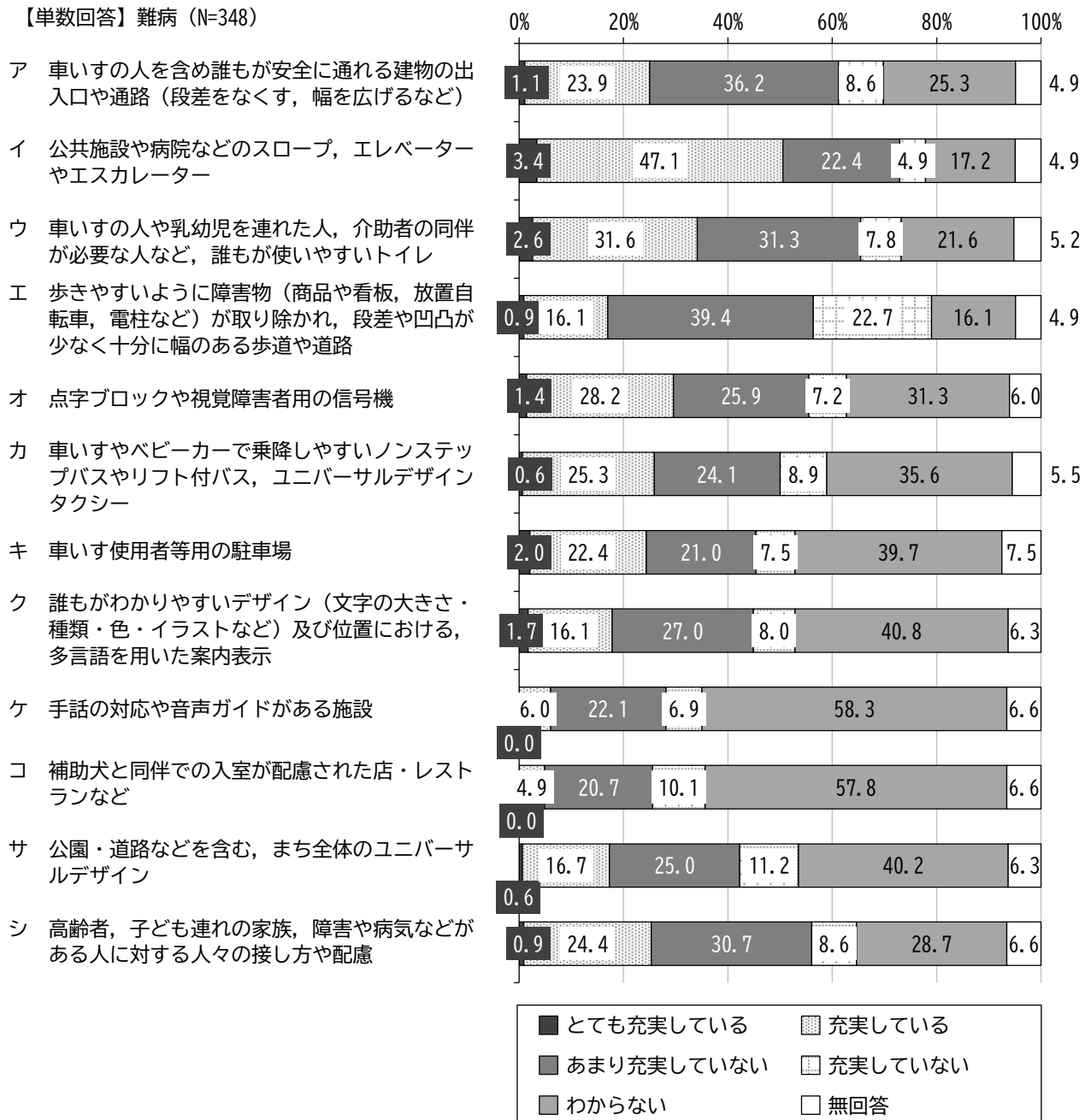
【単数回答】知的障害（N=240）



【単数回答】精神障害（N=392）



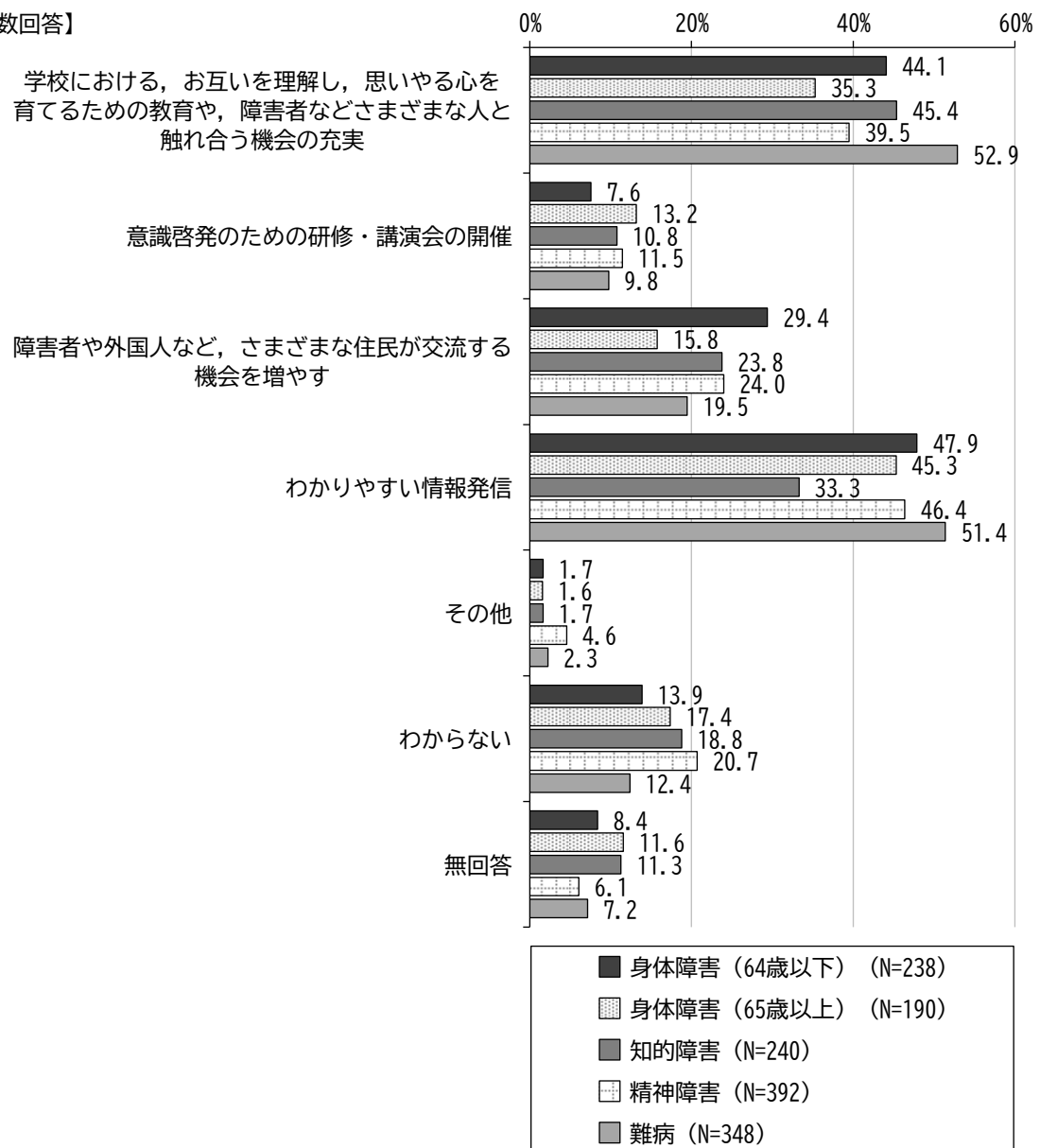
【単数回答】難病（N=348）



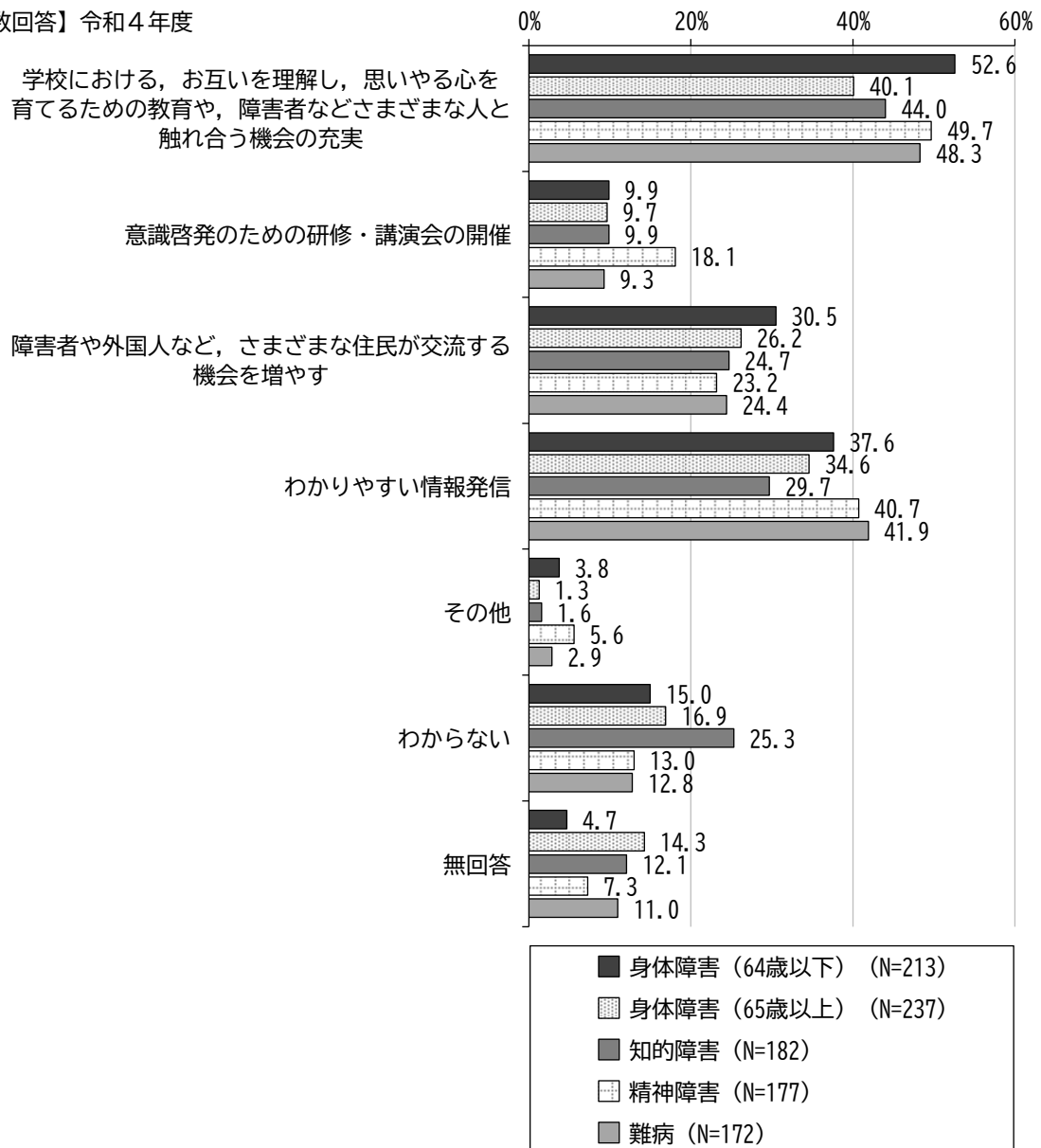
問 30 誰もが暮らしやすいまちづくりに向けて、病気・障害・国籍・生活習慣などの違いによる心理的な障壁を取り除く（心のバリアフリー）ために、特に必要な取組は何だと思いますか。（2つまで○）

- 心のバリアフリーのために特に必要な取組は、身体障害（64 歳以下）、身体障害（65 歳以上）、精神障害は「わかりやすい情報発信」が最も多く、それぞれの割合は 47.9%、45.3%、46.4%となっている。
- 知的障害、難病は「学校における、お互いを理解し、思いやる心を育てるための教育や、障害者などさまざまな人と触れ合う機会の充実」が最も多く、それぞれの割合は 45.4%、52.9%となっている。
- 令和 4 年度の調査結果と比較すると、身体障害（64 歳以下）で「わかりやすい情報発信」が 10.3 ポイント高く、「学校における、お互いを理解し、思いやる心を育てるための教育や、障害者などさまざまな人と触れ合う機会の充実」が 8.5 ポイント低くなっている。身体障害（65 歳以上）で「わかりやすい情報発信」が 10.7 ポイント高く、「障害者や外国人など、さまざまな住民が交流する機会を増やす」が 10.4 ポイント低くなっている。知的障害で「わからない」が 6.5 ポイント低くなっている。精神障害で「わからない」が 7.7 ポイント、「わかりやすい情報発信」が 5.7 ポイント高く、「学校における、お互いを理解し、思いやる心を育てるための教育や、障害者などさまざまな人と触れ合う機会の充実」が 10.2 ポイント、「意識啓発のための研修・講演会の開催」が 6.6 ポイント低くなっている。難病で「わかりやすい情報発信」が 9.5 ポイント高くなっている。

【複数回答】



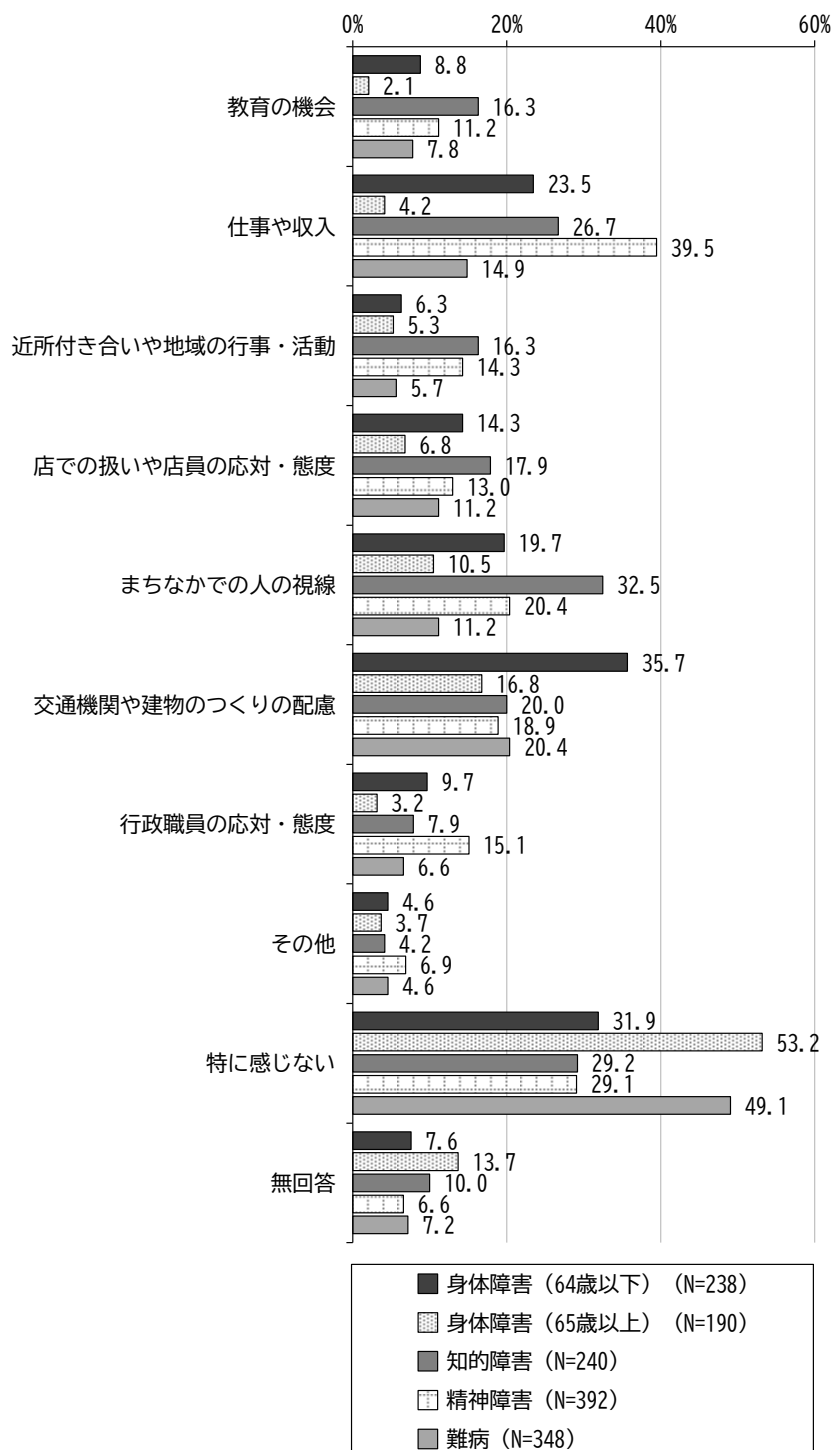
【複数回答】令和4年度



問 31 普段の暮らしや外出のとき，障害や病気への差別や偏見，配慮のなさを感じる場面はありますか。（いくつでも○）

- 障害や病気への差別や偏見，配慮のなさを感じる場面は，身体障害（64 歳以下）は「交通機関や建物のつくりの配慮（35.7%）」，知的障害は「まちなかでの人の視線（32.5%）」，精神障害は「仕事や収入（39.5%）」が最も多くなっている。
- 身体障害（65 歳以上），難病は「特に感じない」が最も多く，それぞれの割合は 53.2%，49.1%となっている。

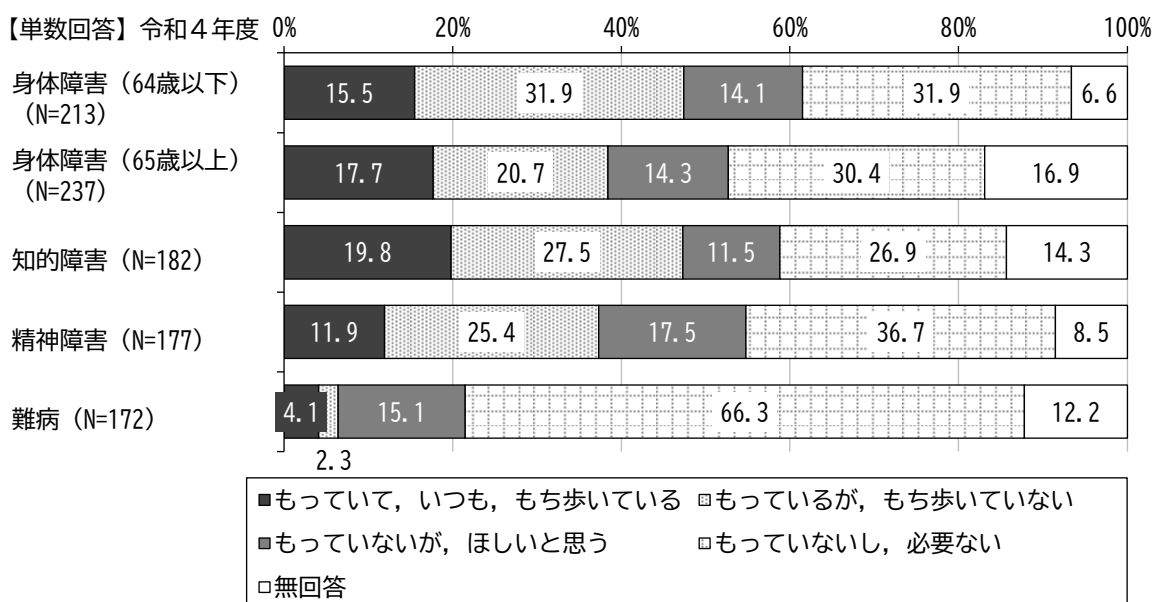
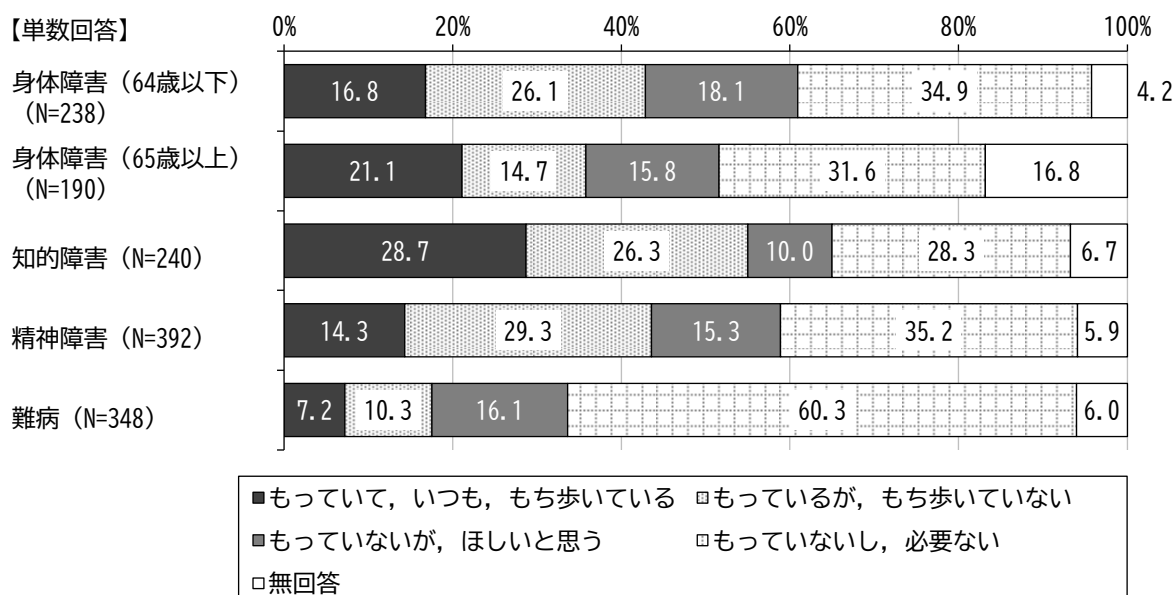
【複数回答】



問 32 あなたは、調布市が配布しているヘルプカード、ヘルプマークを持っていますか。
(それぞれ1つに○)

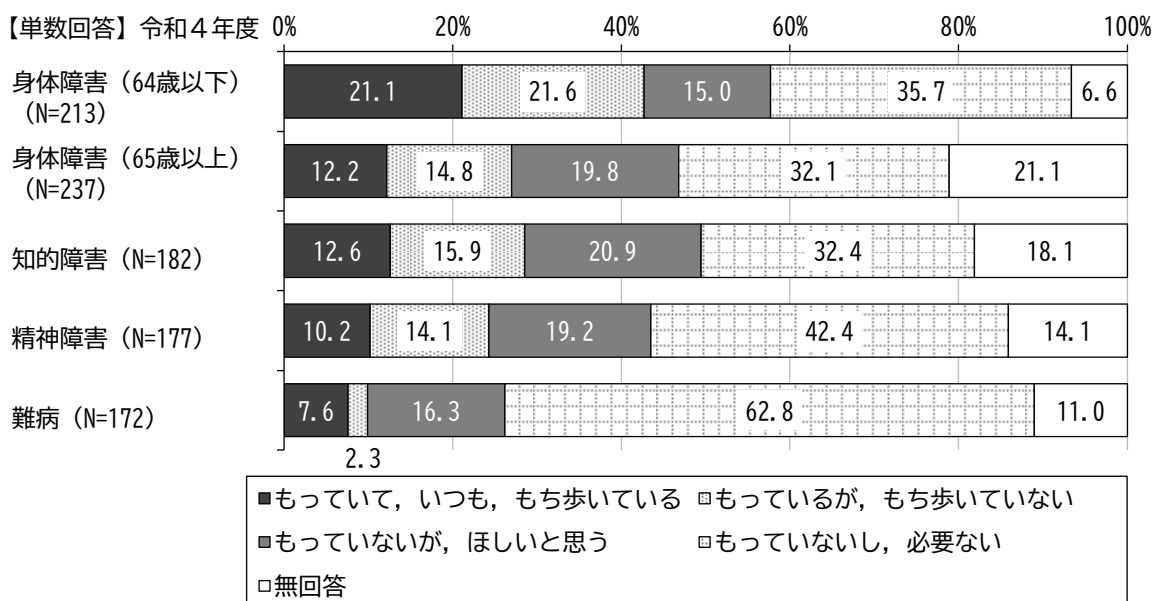
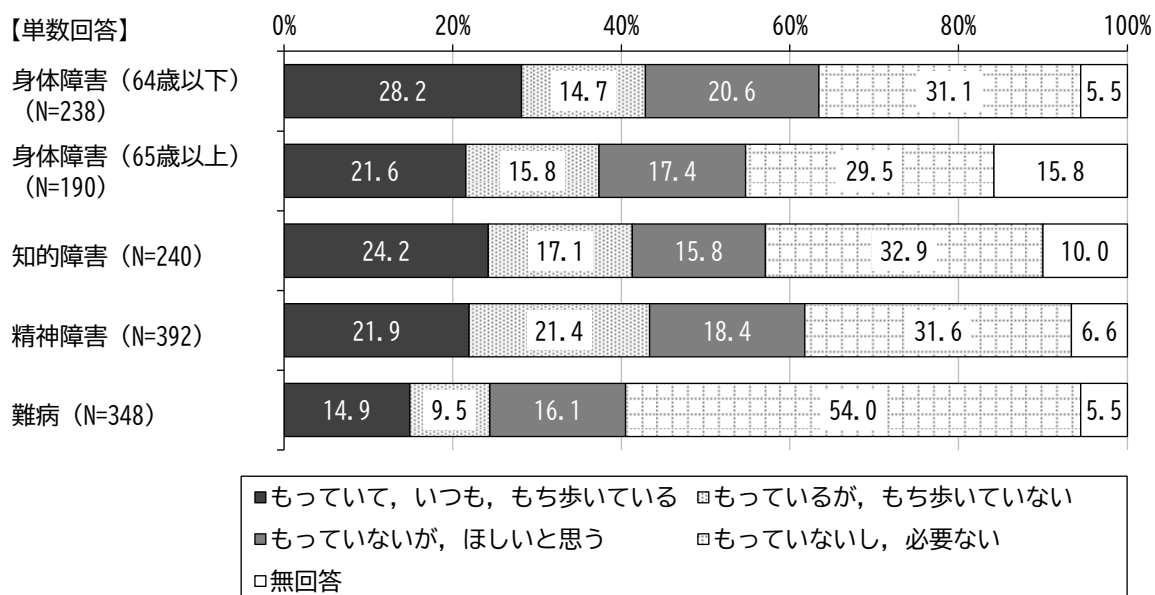
①ヘルプカード

- ヘルプカードの所持状況は、身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、精神障害、難病は「もっていないし、必要ない」が最も多く、難病では6割を超えている。
- 知的障害は「もっていて、いつも、もち歩いている（28.7%）」が最も多くなっている。
- 「もっていて、いつも、もち歩いている」と「もっているが、もち歩いていない」と「もっていないが、ほしいと思う」を合わせた『もつ意向がある』のそれぞれの割合は、61.0%、51.6%、65.0%、58.9%、33.6%となっている。
- 令和4年度の調査結果と比較すると、いずれの障害も「もっていて、いつも、もち歩いている」の割合が高くなっており、特に知的障害で8.9ポイント高くなっている。



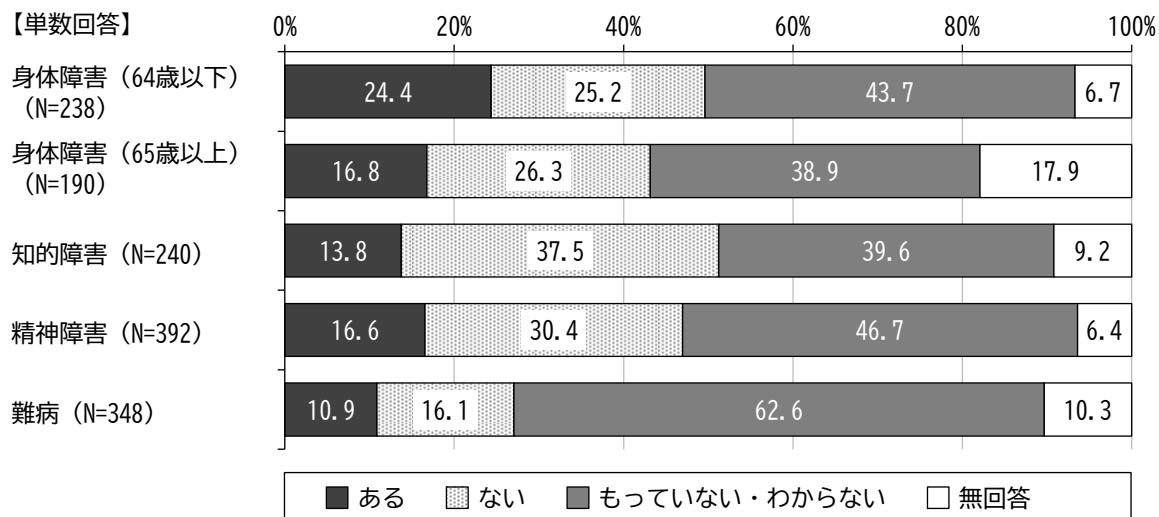
②ヘルプマーク

- ヘルプマークの所持状況は、身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、知的障害、精神障害、難病ともに「もっていないし、必要ない」が最も多く、難病では5割を超えている。
- 「もっていて、いつも、もち歩いている」と「もっているが、もち歩いていない」と「もっていないが、ほしいと思う」を合わせた『もつ意向がある』のそれぞれの割合は、63.5%、54.8%、57.1%、61.7%、40.5%となっている。
- 令和4年度の調査結果と比較すると、いずれの障害も「もっていて、いつも、もち歩いている」の割合が高くなっており、特に知的障害と精神障害では12ポイント近く高くなっている。



問 33 ヘルプカードやヘルプマークをもっていることで、周囲の人に配慮してもらったり、手助けをしてもらったりしたことがありますか。(1つに○)

- ヘルプカードやヘルプマークをもっていることで、周囲の人に配慮してもらったり、手助けをしてもらったりした経験は、身体障害（64 歳以下）、身体障害（65 歳以上）、知的障害、精神障害、難病ともに「もっていない・わからない」が最も多くなっている。「ある」について、それぞれの割合は 24.4%，16.8%，13.8%，16.6%，10.9%となっている。

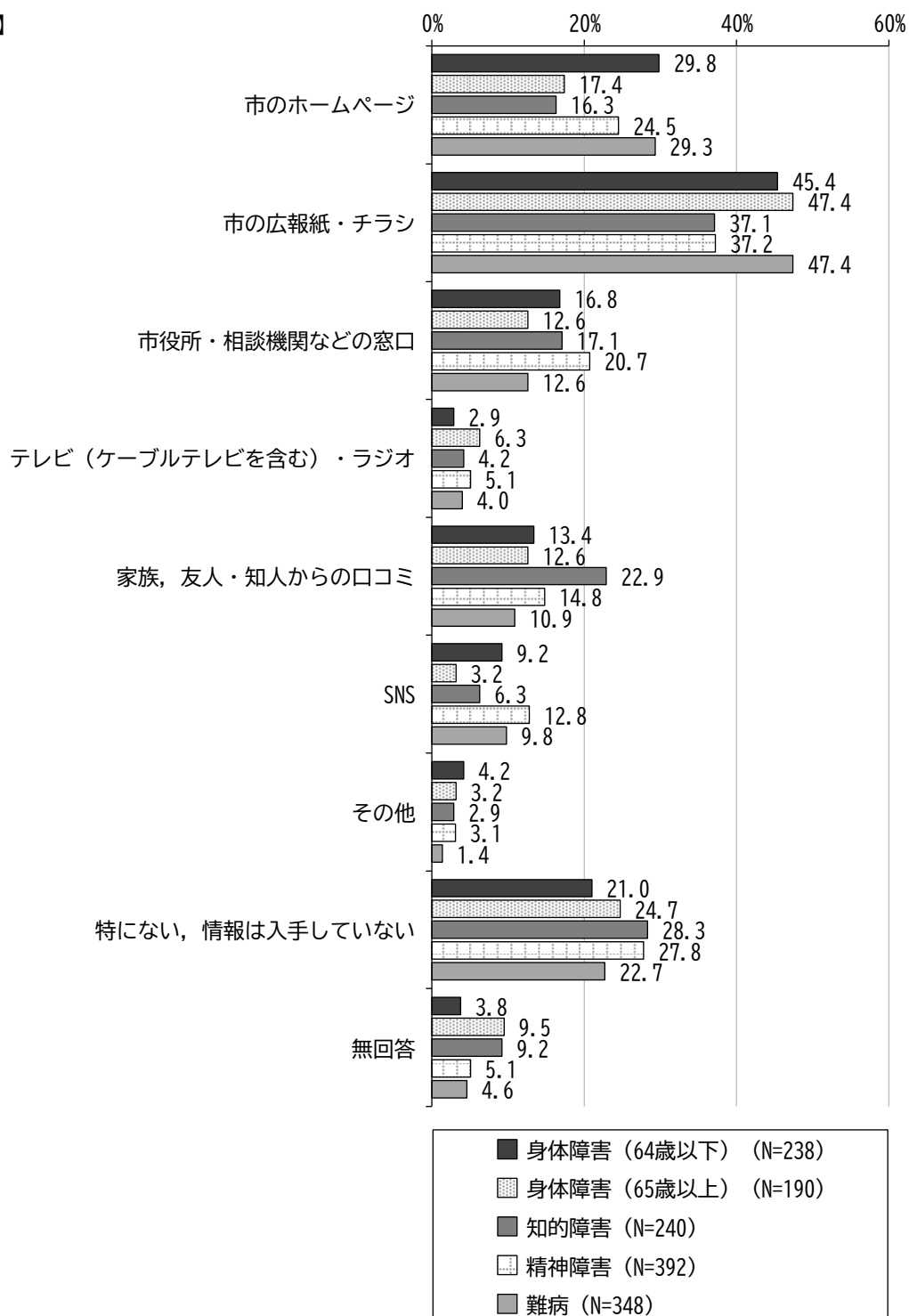


7 デジタルの活用についておたずねします

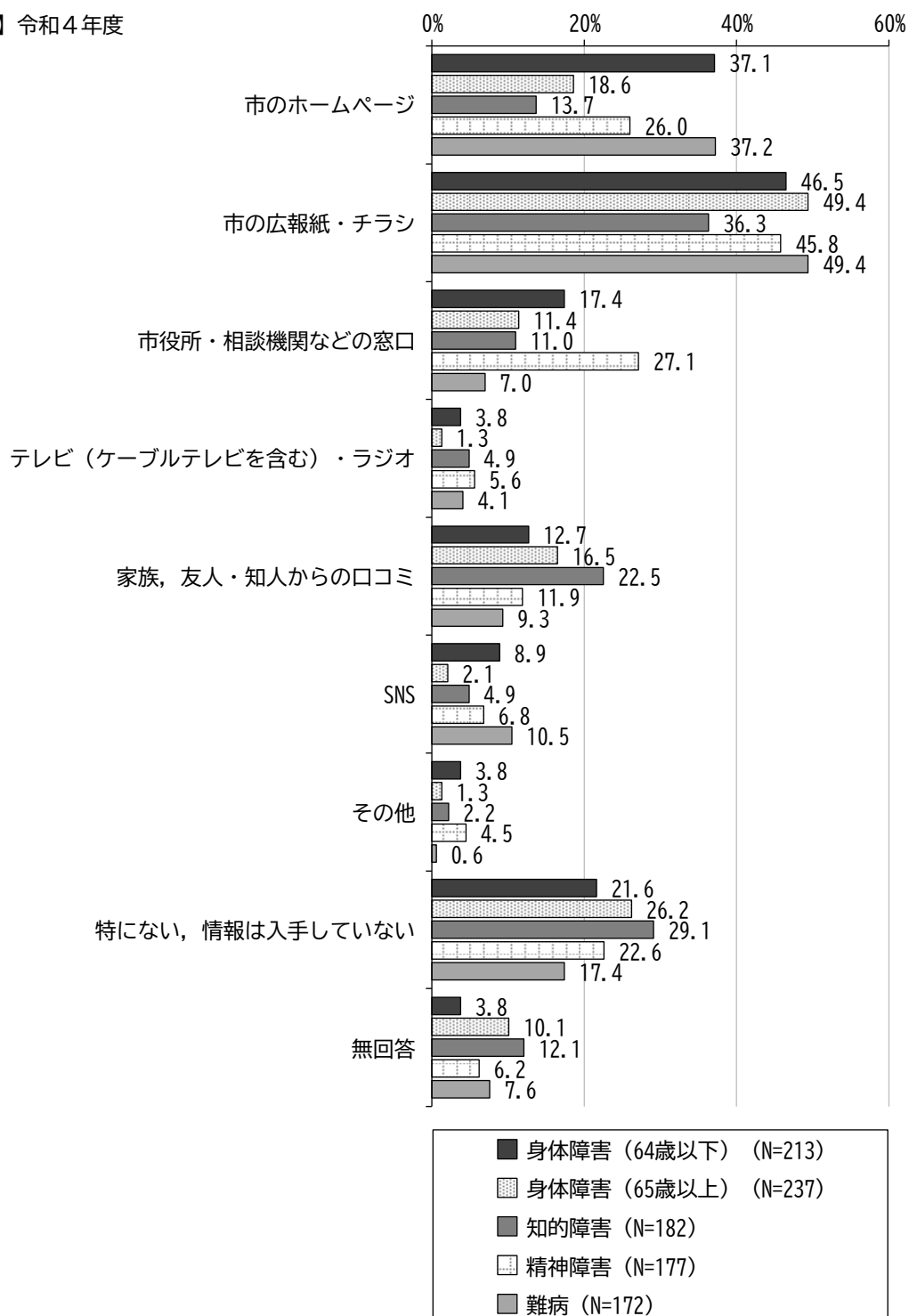
問 34 調布市の保健福祉施策（サービス）に関する情報をどこから入手していますか。
（いくつでも○）

- 市の保健福祉施策（サービス）に関する情報の入手先は，身体障害（64 歳以下），身体障害（65 歳以上），知的障害，精神障害，難病ともに「市の広報紙・チラシ」が最も多く，それぞれの割合は 45.4%，47.4%，37.1%，37.2%，47.4%となっている。
- 令和 4 年度の調査結果と比較すると，身体障害（64 歳以下）で「市のホームページ」が 7.3 ポイント低くなっている。知的障害で「市役所・相談機関などの窓口」が 6.1 ポイント高くなっている。精神障害で「SNS」が 6.0 ポイント，「特にない，情報は入手していない」が 5.2 ポイント高く，「市の広報紙・チラシ」が 8.6 ポイント，「市役所・相談機関などの窓口」が 6.4 ポイント低くなっている。難病で「市役所・相談機関などの窓口」が 5.6 ポイント，「特にない，情報は入手していない」が 5.3 ポイント高く，「市のホームページ」が 7.9 ポイント低くなっている。

【複数回答】

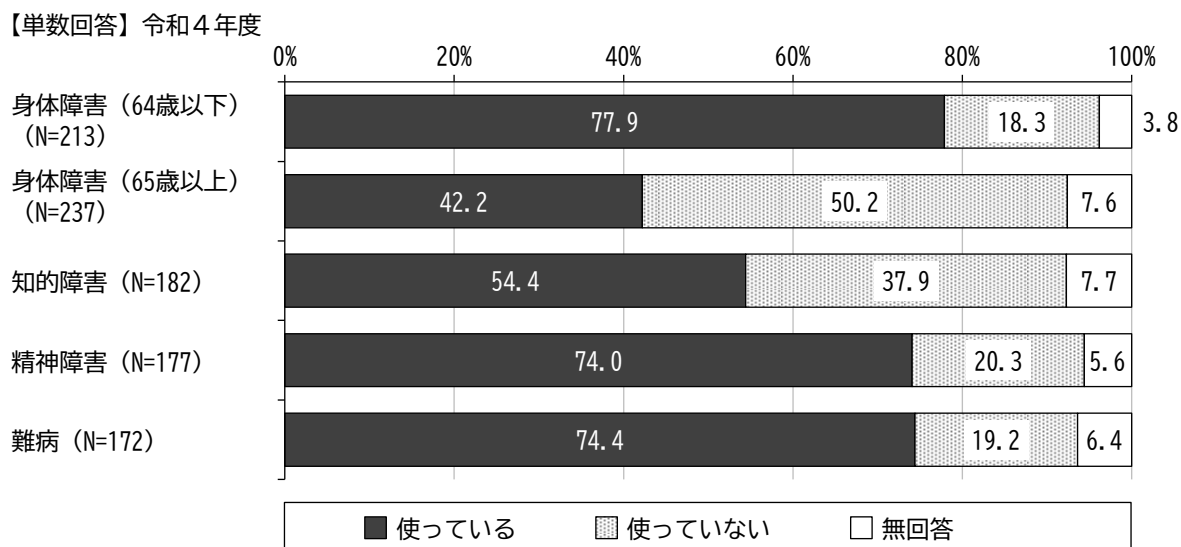
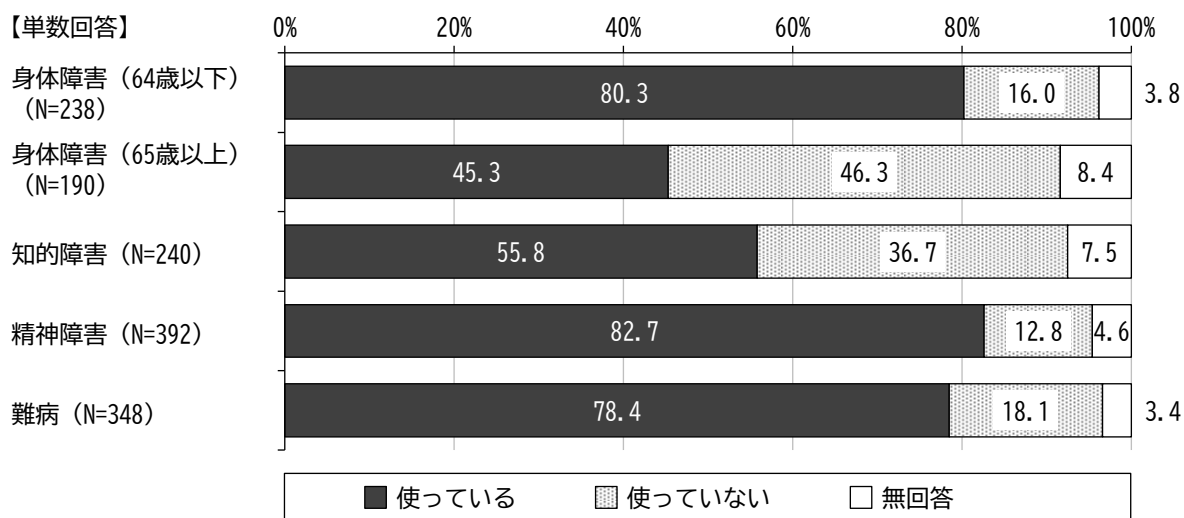


【複数回答】令和4年度



問 35 普段、スマートフォンなどの情報端末やパソコンなどを使っていますか。
(1つに○)

- スマートフォンなどの情報端末やパソコンなどの使用状況は、身体障害（64 歳以下）、知的障害、精神障害、難病は「使っている」が多く、それぞれの割合は 80.3%，55.8%，82.7%，78.4%となっている。
- 身体障害（65 歳以上）は「使っていない（46.3%）」が多くなっている。
- 令和 4 年度の調査結果と比較すると、精神障害で「使っている」が 8.7 ポイント高くなっている。



問 36 あなたがスマートフォンなどの情報端末やパソコンなどを使ってしたいこと、暮らしの利便性を高めるアイデアがございましたら、教えてください。(自由記述)

- スマートフォンなどの情報端末やパソコンなどを使ってしたいこと、暮らしの利便性を高めるアイデアについてのご意見、ご提案を自由記述形式でたずねたところ、155 件の回答があった。以下に項目別の意見数を掲載する。

項目	意見区分	意見数
ア デジタルの活用	①イベント、講演等のオンライン化 ②デジタル化への対応 ③障害者同士の交流、働き方 ④情報収集 ⑤アプリの活用	70
イ 市のデジタル化	①申請などのデジタル化 ②市の情報提供の充実 ③防犯・防災情報の充実	58
ウ その他	①デジタル化の懸念	27
合計		155

- 項目別に意見を抜粋して掲載する（原文通り）。

ア デジタルの活用

①イベント、講演等のオンライン化

- LINEの機能で障害者、子育て、などそれぞれの属性登録ができるならそれを使って各人にあった情報を発信してもらえたらわかりやすくいい。図書館の読書記録帳みたいなのがあるといいなと思っています。(他自治体であるらしい)図書館のスタンプラリーのような催しに楽しく参加しているので、もう少し予算を回してほしいです。土日ワンオペ民にはおはなし会や児童館のオープンパークなどとてもありがたいです。(女性、30 歳代)
- たとえば、Web上で俳句や川柳や和歌、小説、絵画、音楽、プログラミングなどのコンテストなどを開いて、障害者が誰でも応募できるようにする。それにより、障害者の生活の充実やモチベーションを高めることにつなげる。それが病気や障害の克服へとつながり、生きる意欲も湧くのではないかと思います。(男性、50 歳代)

②デジタル化への対応

- 口頭では伝えづらいこともスマートフォンなら伝えやすいかなと思ったりはする。ただスマートフォンが使えなくなった時の対処法も知りたいです。(故障したり、WiFiファイが使えないときなど。)(女性、50 歳代)
- 利便性を高める前の前提で使いこなせる勉強会みたいな機会をもっと増やしてほしい。(女性、60 歳代)
- スマートフォンやパソコンなど使用が(デジタル社会が)必然的になった。個々の状況に合わせた利用方法の講習、必要であれば出張講習なども必要かと思う。介助や介

護支援や種々サポートと合わせて行う事で効率化出来るのではと考える。(女性, 70 歳代)

③障害者同士の交流, 働き方

- 調布市内や多摩地域などで, 障害持っている方用の SNS を作る。ライングループや質問, スポーツなど全体的に色々な事が話せたり情報発信できる SNS。(女性, 30 歳代)
- 在宅ワークの種類が増えたら活用して仕事をしたい。(女性, 50 歳代)
- このアンケートのようにネット上でできる手続きが増えると, 対面や電話, 書類の郵送などを負担に感じる人の選択肢が増えていいと思った。また, 私は人とのコミュニケーションが苦手なので, 市内で共通の趣味をもつ人でつながれるなど, ネットでのやりとりから人とのつながりをつくることができればよいと思った。(男性, 20 歳代)

④情報収集

- 市政やサービスの確認に使いたいと思います。(女性, 80 歳以上)
- 障がいがある人に有益な情報を調べる。(女性, 40 歳代)

⑤アプリの活用

- スマホで障害手帳所有者と提示できる画面表示が欲しい。(男性, 60 歳代)
- 医療機関の受診などのサービスをスマートフォンやパソコンで受けたい。そのための安全なアプリ, プラットフォームを作って欲しい。(男性, 30 歳代)
- ・玄関ドアの開閉/施錠がスマホでできる(賃貸物件)・介護事業所(障害福祉)の空き, 受け入れ状況がウェブで見える・訪問系事業所のサービスの質やスタッフの評判が事前にウェブで見れる(民間の店舗の口コミがウェブで見れるのと同じように)
(女性, 40 歳代)
- スマートフォンにヘルプカード的な機能があればありがたい。(男性, 50 歳代)
- 障害者本人が簡単に福祉相談窓口にアクセスできたり, 医療機関の予約や診察などができるような機能があると嬉しいです。親亡き後も軽度知的障害者が地域で安心して暮らしていけるような分かりやすいもの。(女性, 20 歳代)

イ 市のデジタル化

①申請などのデジタル化

- 行政の手続き。(男性, 40 歳代)
- 住民票や課税証明書の取得をネットで出来るようになれば良いと思います。料金やクレジット, ペイペイなどで払えるようにして書類は郵送など(もしくはペーパーレス)。指定のメールアドレスにデータ送信など。難病の医療証の更新などもネットで手続きが出来るとなると助かります(写真を撮ってデータ送信など)。(女性, 40 歳代)
- 手帳のアプリ化(女性, 20 歳代)
- 福祉関連手続きのデジタル化。マイナンバーカードを活用するなどしてオンラインで完結できる手続きが増えると良い。(男性, 50 歳代)

②市の情報提供の充実

- 調布市の子育て、福祉で必要な情報をLINE等のSNSで届ける。お店のバリアフリー、子連れOKな所、子供の療育も民間でどんな所が有るか知りたい。療育はセンターに行っているが民間に有る事を知らなかった。(女性, 30 歳代)
- 歯科, 眼科, 耳鼻科, 皮膚科, 床屋など知的障害に理解のあるところを調べられるホームページ。(男性, 20 歳代)
- 施設のエレベーターなどの設置がわかるといいですね。(男性, 40 歳代)
- 少なくとも調布市のHPは昔から見づらい。過去のアーカイブが残っているのはいいことだと思うが検索性が低すぎる故に欲しい最新の情報が取捨しにくい。(女性, 50 歳代)

③防犯・防災情報の充実

- 緊急時にすぐ通知がくるようにしてほしい。(男性, 10 歳代)
- わかりやすい言葉で書かれた(小学生低学年～中学年)案内, 災害時の避難経路, どこに行けば良いのか, 誰に連絡を取れば良いのか, 電話が繋がらない時どうすれば良いのか, 困った時にどうしたら良いか(ここへ行って下さいなど)の発信を市民に向けにしてほしい。(男性, 20 歳代)

ウ その他

①デジタル化の懸念

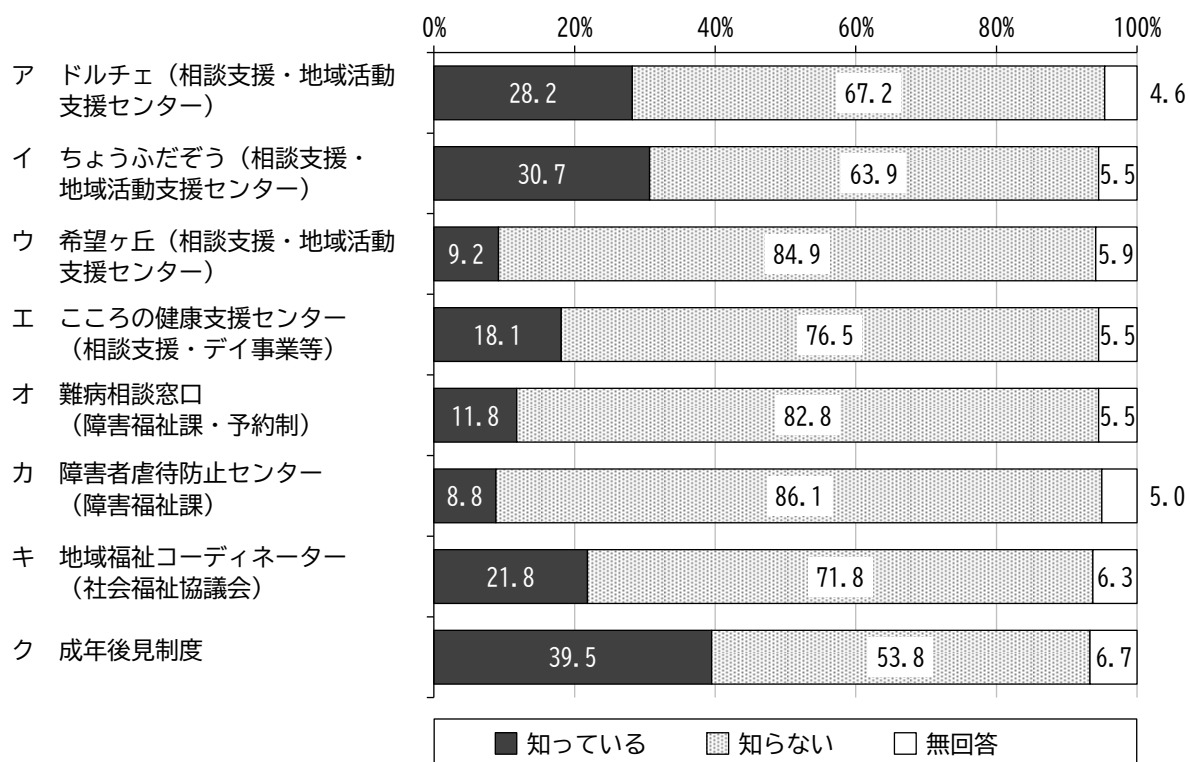
- 高齢になってくると, スマートフォンなどが難しくなってくる。やはりペーパーなど, 冊子なども必要だと思う。(女性, 60 歳代)
- スマートフォン, パソコンの使い方がよくわからない。冊子での情報提供を続けてほしい。(女性, 60 歳代)

8 調布市の障害者福祉施策についておたずねします

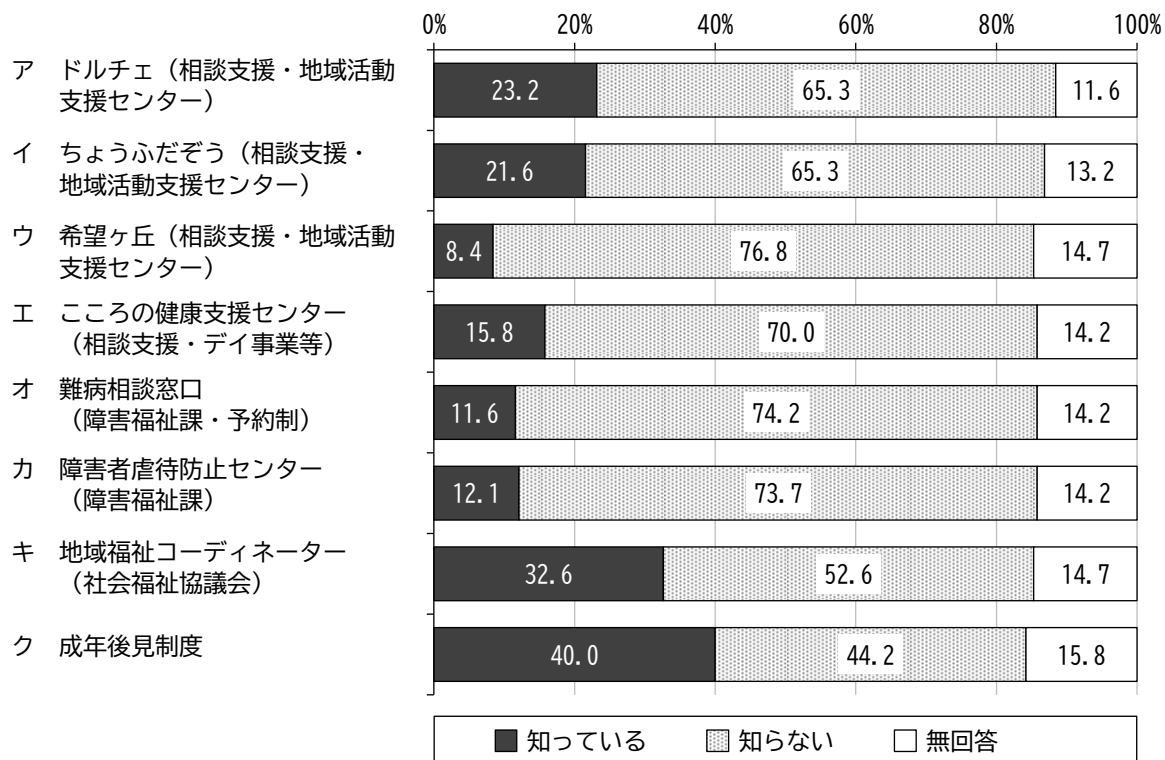
問 37 あなたは次の調布市の相談窓口や制度を知っていますか。(それぞれ1つに○)

- 市の相談窓口や制度の認知度について、身体障害（64 歳以下）で「知っている」の割合は〔ク 成年後見制度（39.5%）〕が最も多く、〔イ ちょうふだぞう（相談支援・地域活動支援センター）（30.7%）〕,〔ア ドルチェ（相談支援・地域活動支援センター）（28.2%）〕が続いている。それ以外の窓口や制度については「知らない」が7割を超えている。
- 身体障害（65 歳以上）で「知っている」の割合は〔ク 成年後見制度（40.0%）〕が最も多く、〔キ 地域福祉コーディネーター（社会福祉協議会）（32.6%）〕が続いている。それ以外の窓口や制度については「知らない」が6割を超えている。
- 知的障害で「知っている」の割合は〔イ ちょうふだぞう（相談支援・地域活動支援センター）（83.8%）〕が最も多く、〔ク 成年後見制度（35.4%）〕が続いている。それ以外の窓口や制度については「知らない」が6割を超えている。
- 精神障害で「知っている」の割合は〔エ こころの健康支援センター（相談支援・デイ事業等）（48.0%）〕が最も多く、〔ク 成年後見制度（39.5%）〕が続いている。それ以外の窓口や制度については「知らない」が6割を超えている。
- 難病で「知っている」の割合は〔ク 成年後見制度（47.7%）〕が最も多く、〔オ 難病相談窓口（障害福祉課・予約制）（40.8%）〕が続いている。それ以外の窓口や制度については「知らない」が6割を超えている。
- 令和4年度の調査結果と比較すると、知的障害において〔ア ドルチェ（相談支援・地域活動支援センター）〕,〔キ 地域福祉コーディネーター（社会福祉協議会）〕,精神障害において〔キ 地域福祉コーディネーター（社会福祉協議会）〕,難病において〔ク 成年後見制度〕がいずれも10ポイント以上高くなっている。また、〔キ 地域福祉コーディネーター（社会福祉協議会）〕はいずれの障害でも割合が高くなっている。

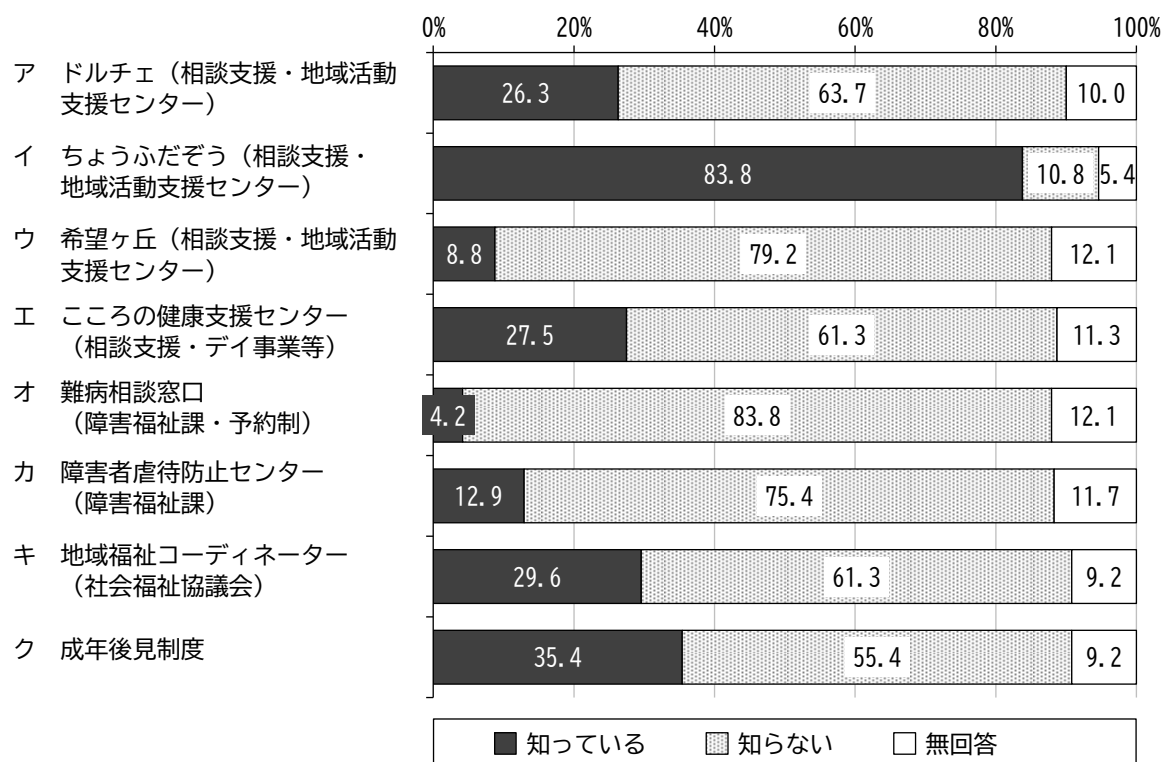
【単数回答】身体障害（64歳以下）（N=238）



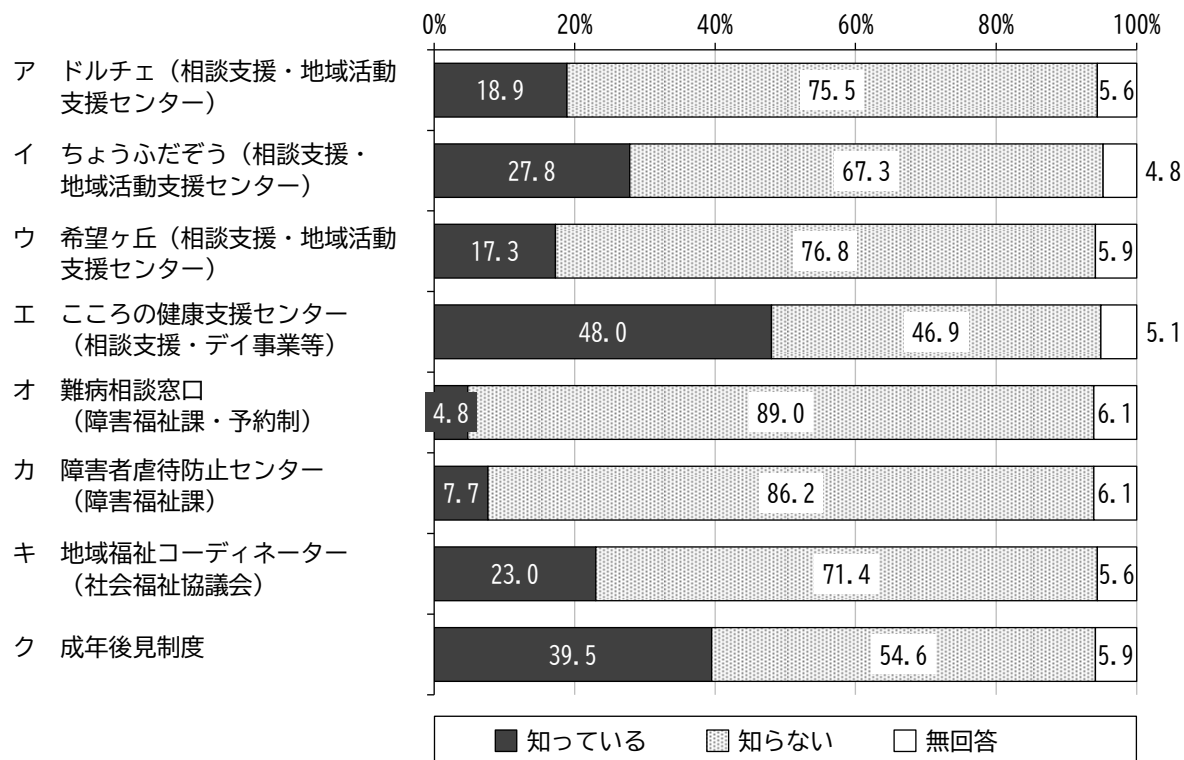
【単数回答】身体障害（65歳以上）（N=190）



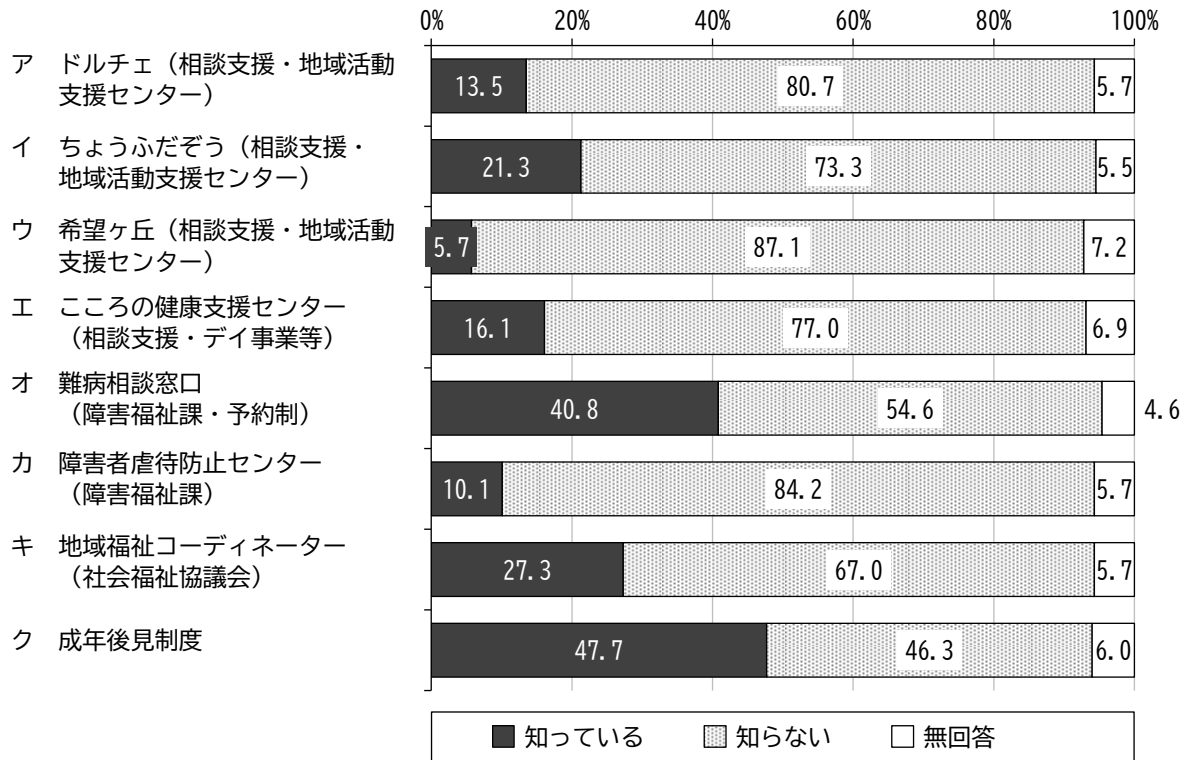
【単数回答】知的障害（N=240）



【単数回答】精神障害（N=392）



【単数回答】難病（N=348）

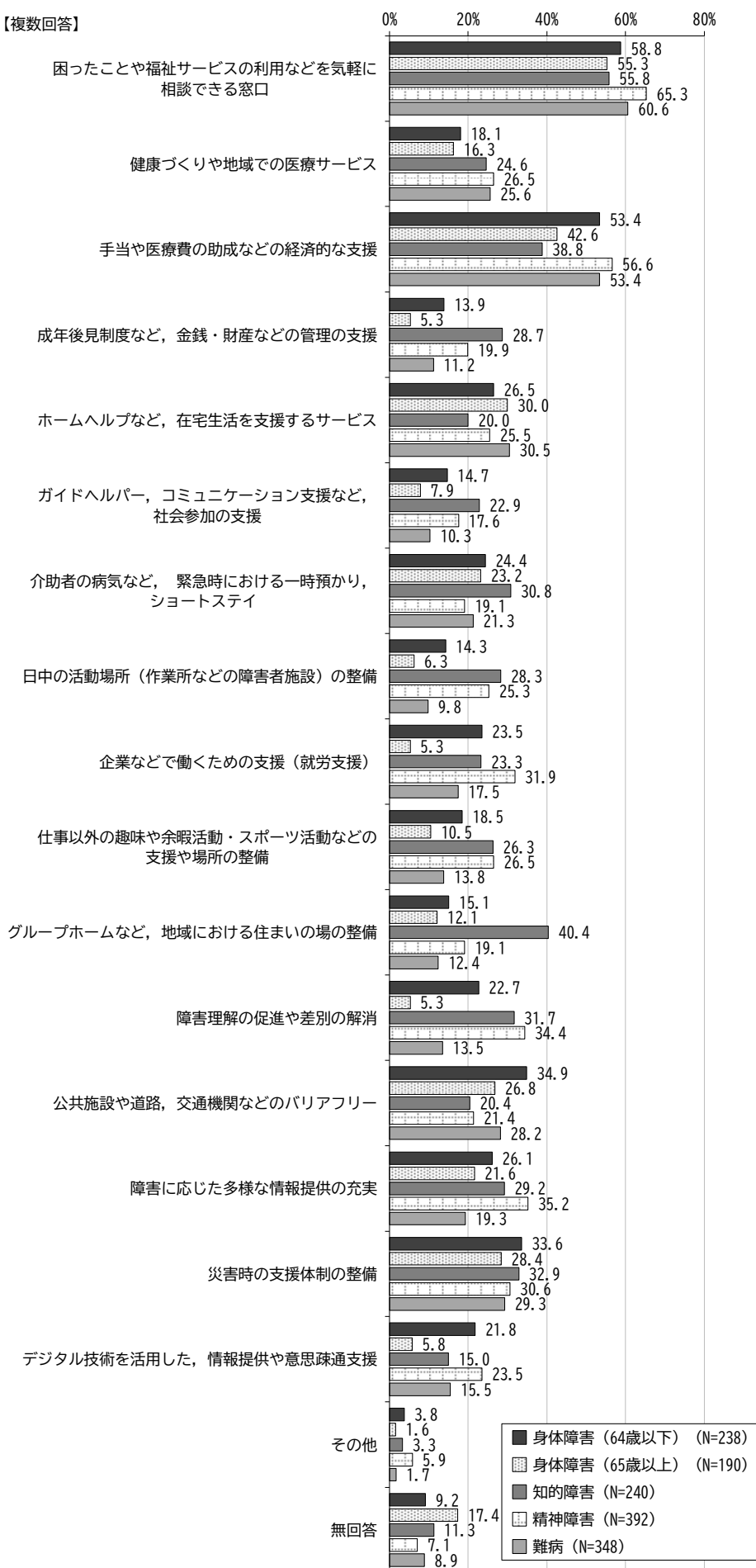


上段：「知っている」割合 下段：今回と令和4年度の差 単位：％，ポイント	身体障害（64歳以下）		身体障害（65歳以上）		知的障害		精神障害		難病	
	今回 (N=238)	令和4年度 (N=213)	今回 (N=190)	令和4年度 (N=237)	今回 (N=240)	令和4年度 (N=182)	今回 (N=392)	令和4年度 (N=177)	今回 (N=348)	令和4年度 (N=172)
ア ドルチェ（相談支援・地域活動支援センター）	28.2	31.9	23.2	15.2	26.3	11.5	18.9	11.9	13.5	7.0
	△ 3.7		8.0		14.8		7.0		6.5	
イ ちょうふだぞう（相談支援・地域活動支援センター）	30.7	35.7	21.6	13.9	83.8	83.5	27.8	24.3	21.3	16.9
	△ 5.0		7.7		0.3		3.5		4.4	
ウ 希望ヶ丘（相談支援・地域活動支援センター）	9.2	9.9	8.4	7.6	8.8	10.4	17.3	11.9	5.7	4.7
	△ 0.7		0.8		△ 1.6		5.4		1.0	
エ こころの健康支援センター（相談支援・デイ事業等）	18.1	16.0	15.8	16.9	27.5	32.4	48.0	42.4	16.1	18.6
	2.1		△ 1.1		△ 4.9		5.6		△ 2.5	
オ 難病相談窓口（障害福祉課・予約制）	11.8	16.4	11.6	13.5	4.2	6.6	4.8	5.1	40.8	44.2
	△ 4.6		△ 1.9		△ 2.4		△ 0.3		△ 3.4	
カ 障害者虐待防止センター（障害福祉課）	8.8	11.7	12.1	15.2	12.9	17.0	7.7	8.5	10.1	13.4
	△ 2.9		△ 3.1		△ 4.1		△ 0.8		△ 3.3	
キ 地域福祉コーディネーター（社会福祉協議会）	21.8	18.3	32.6	22.8	29.6	17.0	23.0	10.7	27.3	20.9
	3.5		9.8		12.6		12.3		6.4	
ク 成年後見制度	39.5	43.2	40.0	40.1	35.4	33.5	39.5	34.5	47.7	36.0
	△ 3.7		△ 0.1		1.9		5.0		11.7	

問 38 調布市の障害者福祉施策（サービス）をより充実していくために、特に重要と考える取組は何ですか。（いくつでも○）

- 市の障害者福祉施策（サービス）の充実のために重要な取組は、身体障害（64 歳以下）、身体障害（65 歳以上）、知的障害、精神障害、難病ともに「困ったことや福祉サービスの利用などを気軽に相談できる窓口」が最も多く、それぞれの割合は 58.8%，55.3%，55.8%，65.3%，60.6%となっている。また、「手当や医療費の助成などの経済的な支援」が身体障害（64 歳以下）、精神障害、難病で 5 割を超えている。

【複数回答】



問 39 市民同士がお互いに支え合い、住み慣れたまちで誰もが安心して暮らすことのできるまちづくりを進めるためには、以下の①～③の取組が重要です。これらの取組について、ご意見、ご提案をお聞かせください。（自由記述）

○ 市民同士がお互いに支え合い、住み慣れたまちで誰もが安心して暮らすまちづくりの取組についてのご意見、ご提案を自由記述形式でたずねたところ、429 件の回答があった。以下に項目別の意見数を掲載する。

項目	意見区分	意見数
①地域活動の活性化・市民同士の支え合いの仕組みづくり	ア 自治会、地域活動の活性化 イ 近所付き合い、支え合い ウ 障害への理解 エ イベント・交流	68
②相談・サービスの充実	ア 市のサービス イ サービス等の情報提供 ウ 相談体制の充実 エ 就労等への支援	140
③安全・安心の確保等	ア 交通安全 イ バリアフリー化 ウ 防災・防犯の強化	73
取組番号の選択なし		32
3つの取組以外で気になっていること	ア 生活環境・環境美化 イ 市の施策 ウ 共生社会の推進	116
合計		429

○ 項目別に意見を抜粋して掲載する（原文通り）。

①地域活動の活性化・市民同士の支え合いの仕組みづくり

ア 自治会、地域活動の活性化

- 高齢の為に自治会役員が出来ないので自治会を脱退しました。もう少し自治会に入り易い方法を考えれば入会する人も多くなり各町内の自治会も活発化していくのではと思います。（女性，80 歳以上）
- 例えば町内会のイベントに参加したら α ポイント，企画側に参加すれば 3α ポイント付与される。知人をイベントに紹介したら $+\alpha$ ポイント付与されるなどの動機づけが良いかも。近隣との交流を求めていると思いますがそのきっかけがなく“他人”のままになっている。田舎では近所とのつながりがないと生活していけないが，やや都会ではそれが必須ではないから交流しない。（男性，60 歳代）
- 自治会役員が固定化しており，民主的な運営がなされていないため，自治会活動が活性化しない。（男性，40 歳代）

イ 近所付き合い、支え合い

- このような地域での支え合いが実現できるのなら大変嬉しいことです。普段から顔を知り、かけつけてくれるような仕組みを作るのにどうしたらいいか、密に話し合っていくような場が必要だと思います。ボランティアでなく、報酬が受け取れるようにしないと続かないです。(男性、20 歳代)
- 「支え合い」は、助ける側と助けられる側を固定化しがちです。そうではなく、誰もが「助けることも助けられることもある」関係性を前提とした地域づくりが大切だと思います。たとえば、スマートフォンやLINEなどを使って、「ちょっとした困りごとを地域で共有・頼み合える仕組み」(ミニマッチングアプリなど)を市がサポートすれば、孤立防止にもなります。(男性、40 歳代)
- 障害の有無だけではなく、今後、高齢者が増えていく中で、家族だけで介護の問題を抱え込むのではなく、地域でうまく支え合う何かが必要になるように感じます。うまい提案が思いつきませんが、漠然と将来への不安を感じます。(女性、40 歳代)

ウ 障害への理解

- 幼少期からの境界のない社会とのつながりが大切だと思います。学齢期のインクルーシブ教育に人的、物的な支援に力を入れてほしいです。健常、障がい問わず全ての人々(教職員、保護者)にも初めからいろいろな子どもがいることが当然という環境が重要だと思います。実際、我が家では、かなり無理を言って交渉し、通常級の小学校へ行きました。行政側の心配をよそに、いじめられることもなく、危険な目にも合わず過ごすことができました。大人が率先して理解し、子どもたちを大事にする姿を児童・生徒たちは見て育ちます。(女性、20 歳代)
- 障がい者関係のイベント等に活気などが見られない。市民への講演会や学習会などが必要ではないか。(男性、40 歳代)
- 障害者が参加できる場を増やし、社会活動を通して、自然と障害理解が深まるような社会が望ましいと思います。教育によって障害を理解するなどのやり方では、障害者を特別な種類の人間として扱うことになりがちです。そうではなく、多様性を当たり前とする社会の方が自然でバリアフリーな社会だと感じます。(女性、30 歳代)

エ イベント・交流

- 誰でも参加しやすいイベント。(女性、10 歳代)
- 誰でも相談できない。独立になりがち。同じ病気の人達のコミュニティーがあるなら紹介して欲しい。同じ状況にいる人達の情報があれば、様々な情報交換をしてみたい。(男性、50 歳代)
- 障害者の問題にとどまらず、調布市は、一般の市民サークル等をさらに充実させてほしい。また、精神障害者が交流できる機会を増やしてほしい。(男性、50 歳代)

②相談・サービスの充実

ア 市のサービス

- オンライン窓口を充実させてください。(男性、30 歳代)
- 申請の仕方が毎年変わって分かりづらい。色々の方をパターン化して必要書類を明確にしてほしいです。(女性、70 歳代)

- 目に見える障害の支援ばかりが充実している。(男性, 20 歳代)
- 親が元気なうちは何とかなっているが, 一人になった時に仕事や生活面で立ち行かなくなることが予想できます。特に軽度知的障害の女性を取り巻く環境はとても厳しいです。そのような時に安心して相談, 支援できるようなサービスを充実させて欲しいです。(女性, 20 歳代)
- 精神障害者にももっと配慮(タクシー券配布など)してほしい。(女性, 50 歳代)

イ サービス等の情報提供

- もっと気軽に相談出来る場所や判りやすいサービスがあると良いと思う。予約や時間の確保が大変。知らないサービスとかもあると思う。知る機会もない。(女性, 40 歳代)
- 市報の内容に, 福祉サービスの事をもう少し情報を詳しく早く伝えてほしい。問い合わせ初めて知るサービスが多いです。事前に知る方法を考えてほしいです。よろしくお願いします。(男性, 60 歳代)
- 市内のサービスだけでなく, 都や国の補助やサービスをわかりやすく一覧表にしてもらえば, 障害者自らそのサービスにアクセスすることもできることがあるかもしれない。経済的負担も減るかもしれない。自分に使えるサービスがあっても知らないことは結構あった。(女性, 50 歳代)

ウ 相談体制の充実

- LINEなどで気軽に文字入力で相談できるようになれば相談する人も増えそうだと思います。(女性, 30 歳代)
- 相談がしにくい状態なので, もっと人手をふやしてほしい。(女性, 80 歳以上)
- 障害者の相談に親身になってくれる窓口, 相談員が必要だと思います。社会福祉法人, 障害福祉課など多々ありますが相談内容によっては聞いているだけで, 問題解決にはならないのが現実です。(男性, 40 歳代)
- 障害福祉課の窓口がいつも混んでいてかなり待つ。長くなりそうな「相談」と書類関係の提出のみの窓口を別にして欲しい。(女性, 20 歳代)
- ワンストップで相談ができる所が欲しい。全てまるっとまとめて相談できたらいいのに。何が困っているのか自分ですらわかっていない事もある。障害がある事を特別な事として扱わないで, 困ってる事を普通に聞いて欲しい。(女性, 50 歳代)

エ 就労等への支援

- 障害者として働くと, 賃金の安さに不安がとてもあります。一人で生活するとなるとかなり苦しいのではないかと? 物価は上昇している現在, 障害者の賃金は低いままでは不安しかありません。(男性, 10 歳代)
- 障がいのために以前のように働けなくて困っている人の相談や具体的な支援をお願いしたい。(女性, 40 歳代)
- こころの健康支援センターを利用したことはあるが, 面談が主であり長期離職から復職をしようとしたときに再就職支援機関としての役割としては心もとない感じを受けている。民間の就職支援サービスを利用しようとするとならず就労移行支援所への通所を確認される故, 調布市内に支援所が少ない点を改善してほしい。(男性, 40 歳代)

③安全・安心の確保等

ア 交通安全

- 狹隘道路の拡幅を含め、市内のインフラを強化して欲しい。(男性, 30 歳代)
- 歩道の幅が狭く、車椅子の移動が難しい場所があり、やむなく車道を使うことがあり、危険を感じる。駅前に介護タクシーの駐車(駐車場)が無く乗り降りが難しく、不便。(女性, 60 歳代)
- 歩道幅員の拡張(男性, 60 歳代)

イ バリアフリー化

- 一般に歩道の幅員が十分ではない。基本的には道路全体の幅を拡げるべきであろうが時間と費用が掛かる。車道を一方通行化して用地を生み出し歩道を拡げる事も考えて良いのでは？特に旧甲州街道の改善を望む。但し歩道が広くなった場合は自転車の暴走対策が重要。グリーンホールをしばしば利用するがバリアフリーが考慮されていない。特に2階席へのアクセス。建て替えるしかないのかと思うが計画を具体化して欲しい。(男性, 70 歳代)
- 駅のホームにホームドアをつけていただければ、目が見えない人も安心して通勤できると思います。(女性, 30 歳代)
- 駅前などの乗り継ぎ拠点のバリアフリー化は進んでいると思うが、市街地や居住地のユニバーサルサービスはまだ途上。幹線道路の整備を急ぎ、ネットワークとして移動のしやすい空間づくりを進めてほしい。都市防災上も重要なので、急ぐべき。(男性, 60 歳代)

ウ 防災・防犯の強化

- 問 38 で 15 を選択しましたが、災害時避難所の障害者用のスペース、部屋の確保や配慮をして欲しいです。(女性, 50 歳代)
- 災害時の避難場所が不安である。車いすでそこまでたどりつけるか、支援物資があったところで必要なものが手に入るのか(介護食・オムツ等)。心にバリアがある人もない人も同じ空間で同様に避難するのは精神的にきついと思う。(男性, 30 歳代)
- 災害時の対応方法がよくわからない。(障害者向けの案内資料。) 障害者向けの案内冊子を充実してほしい。(女性, 60 歳代)

3つの取組以外で気になっていること

ア 生活環境・環境美化

- だれでもトイレの増設希望。(男性, 60 歳代)
- バスで主に行動しているが、本数が減ったこと。(女性, 80 歳以上)
- 市内の道路工事の進行が遅過ぎる。(男性, 10 歳代)

イ 市の施策

- 作業所の数が少ないと思ってます。工賃も少ないのでこのようなサービスだけを利用しているのは不安です。当事者同士の交流も有って無いようなものなので孤立する人は多いと思います。楽しく自信が持てる場というのはハードルが高いのかもしれないが一人一人が生きていて良いと思えるような場が入り易い所に有れば救いになる人もいるかもしれないと思います。(女性, 20 歳代)

- 障害者手帳カードタイプを更新する際、申請は3か月前からの受付にも関わらずカードの発行に4か月も掛かってます。手帳の空白期間が出来る事で不利益を受けてます。常識的に考えて申請を前倒しするかカード発行を早めるべきだと思いますが窓口でその旨を伝えても障害者は不利益を受けて当然という対応をされますので是正願います。(女性, 40 歳代)
- 病気により就労できない為に常に経済不安があります。お互いに支え合う事や安心して暮らす為に精神的余裕を持てるように経済的支援をお願い致します。生活に困っている状況では人に優しくする事も他の人を考えて支える余裕が持てません。病気になってから本当に生きて行く事が大変です。(男性, 40 歳代)
- 住み慣れた家でできるだけ長く快適に暮らすために、介助者の負担を減らすための用具等の補助やサービスを充実してほしい。障害者が安全安心に暮らすためには、それを支える周囲の人や環境を整えなければ無理である。(男性, 30 歳代)
- 手続等がスマホやPCに代わり、少し取り残された様感じます。丁寧なやり方を教えてほしいと思います。(女性, 60 歳代)

ウ 共生社会の推進

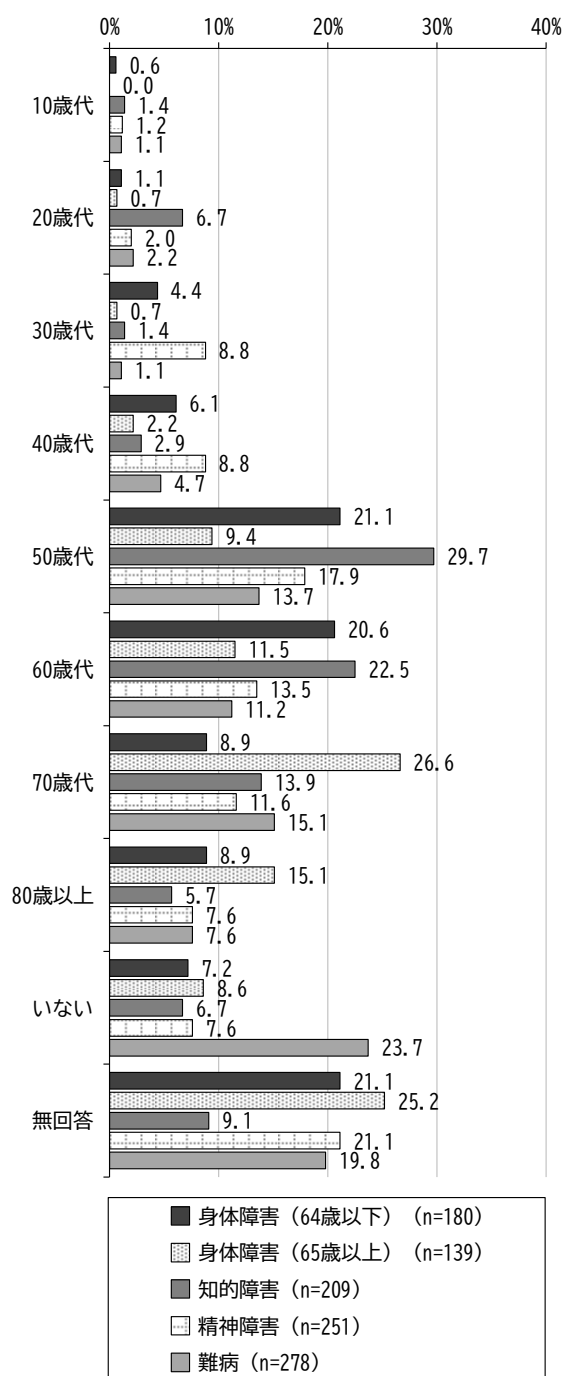
- 親亡き後の住まい、暮らしに重点を置いて欲しいです。既存のグループホームでは限界があります。プライバシーが守られ、尚且つ暮らしや健康が守られる新しい仕組みが必要です。サテライト型のグループホームをもう少し変化させながら、グループホームを出ていなくてすむように障害者個人個人に合わせた住まいが必要です。(男性, 20 歳代)
- 作業所の製品を調布パルコ、「ふくしの窓」で見たりふれたりする機会がありますが、もっと作業所の存在を市民の方々に知っていただけたらと思います。(女性, 20 歳代)
- もっと心のバリアフリー、ユニバーサルデザインが世の中に広がってどんな立場の人でも生きやすい社会になってほしいです。(女性, 40 歳代)

9 ご家族におたずねします

問 40 ご家族におたずねします（ご家族以外は回答不要）。主に介助や支援をしている人の年齢を教えてください。（1つに○）

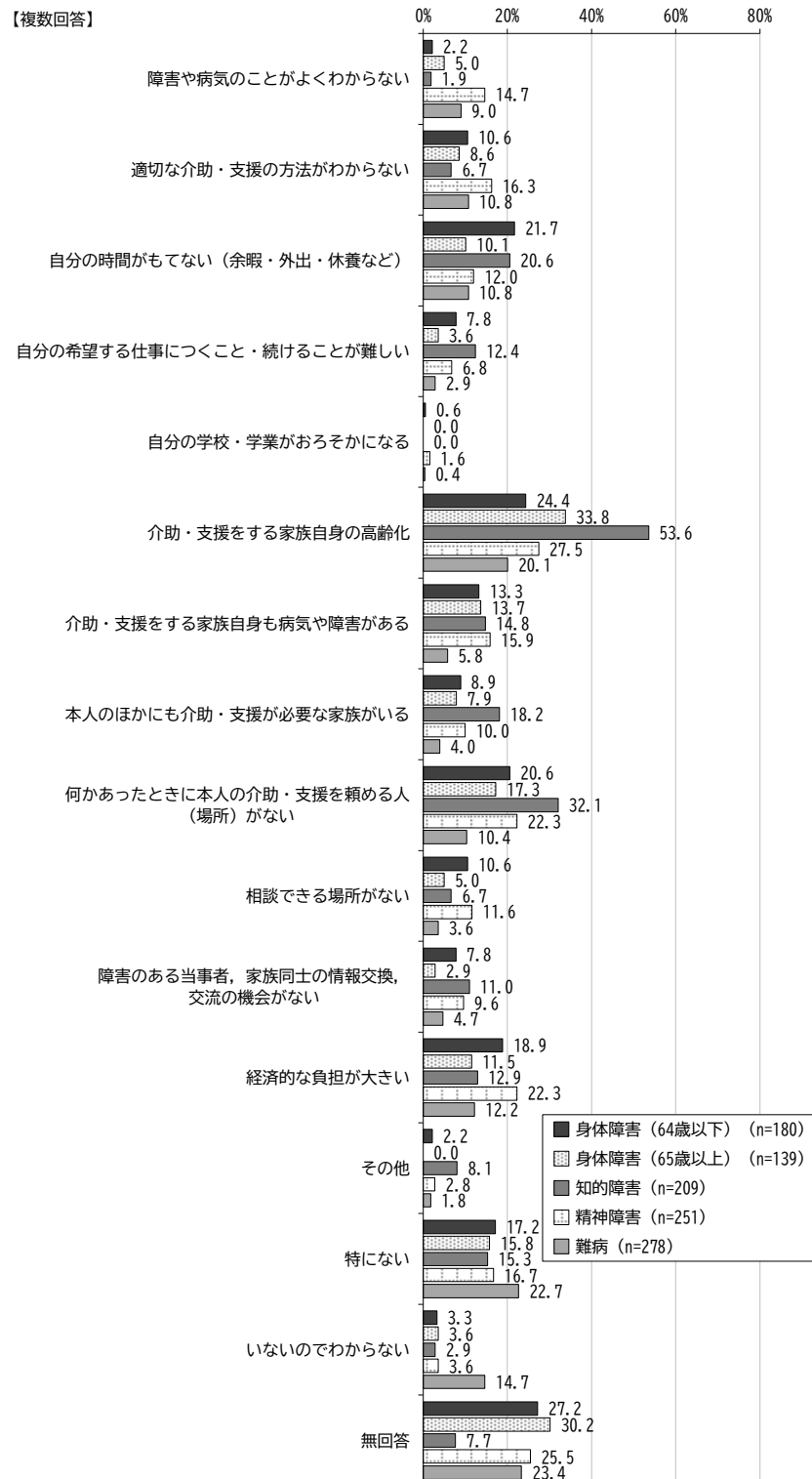
- 主に介助や支援をしている人の年齢は、身体障害（64歳以下）、知的障害、精神障害は「50歳代」が最も多く、それぞれの割合は21.1%，29.7%，17.9%となっている。
- 身体障害（65歳以上）は「70歳代（26.6%）」，難病は「いない（23.7%）」が最も多くなっている。

【単数回答】



問 41 ご家族におたずねします（ご家族以外は回答不要）。介助や支援にあたってどのような不安や困りごとがありますか。（いくつでも○）

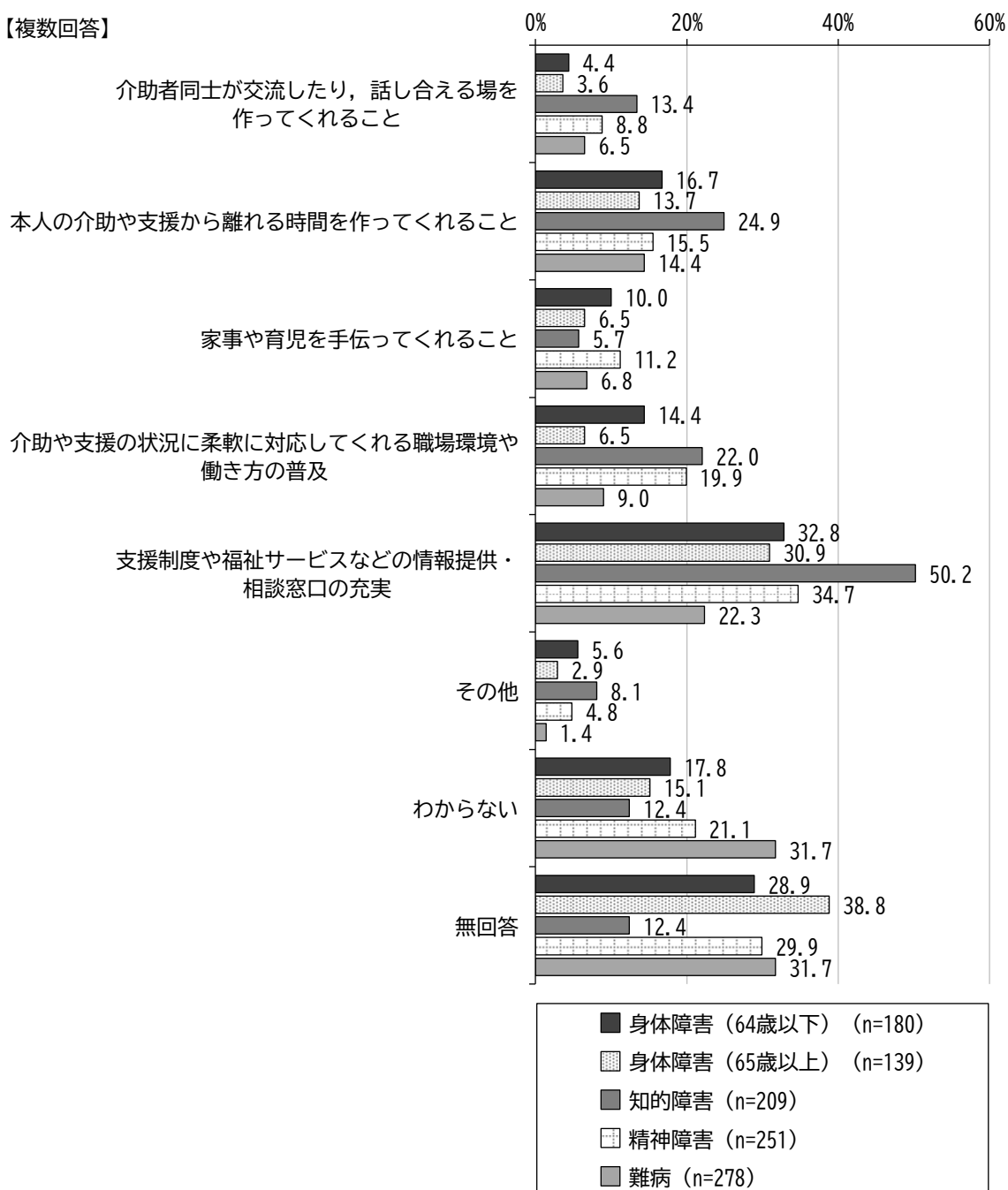
- 介助や支援にあたっての不安や困りごとは、身体障害（64 歳以下）、身体障害（65 歳以上）、知的障害、精神障害は「介助・支援をする家族自身の高齢化」が最も多く、それぞれの割合は 24.4%，33.8%，53.6%，27.5%となっている。
- 難病は「特にない（22.7%）」が最も多くなっている。
- また、知的障害では「何かあったときに本人の介助・支援を頼める人（場所）がない」が3割を超えている。



問 42 ご家族におたずねします（ご家族以外は回答不要）。介助する人への支援として力を入れてほしいことは何ですか。（いくつでも○）

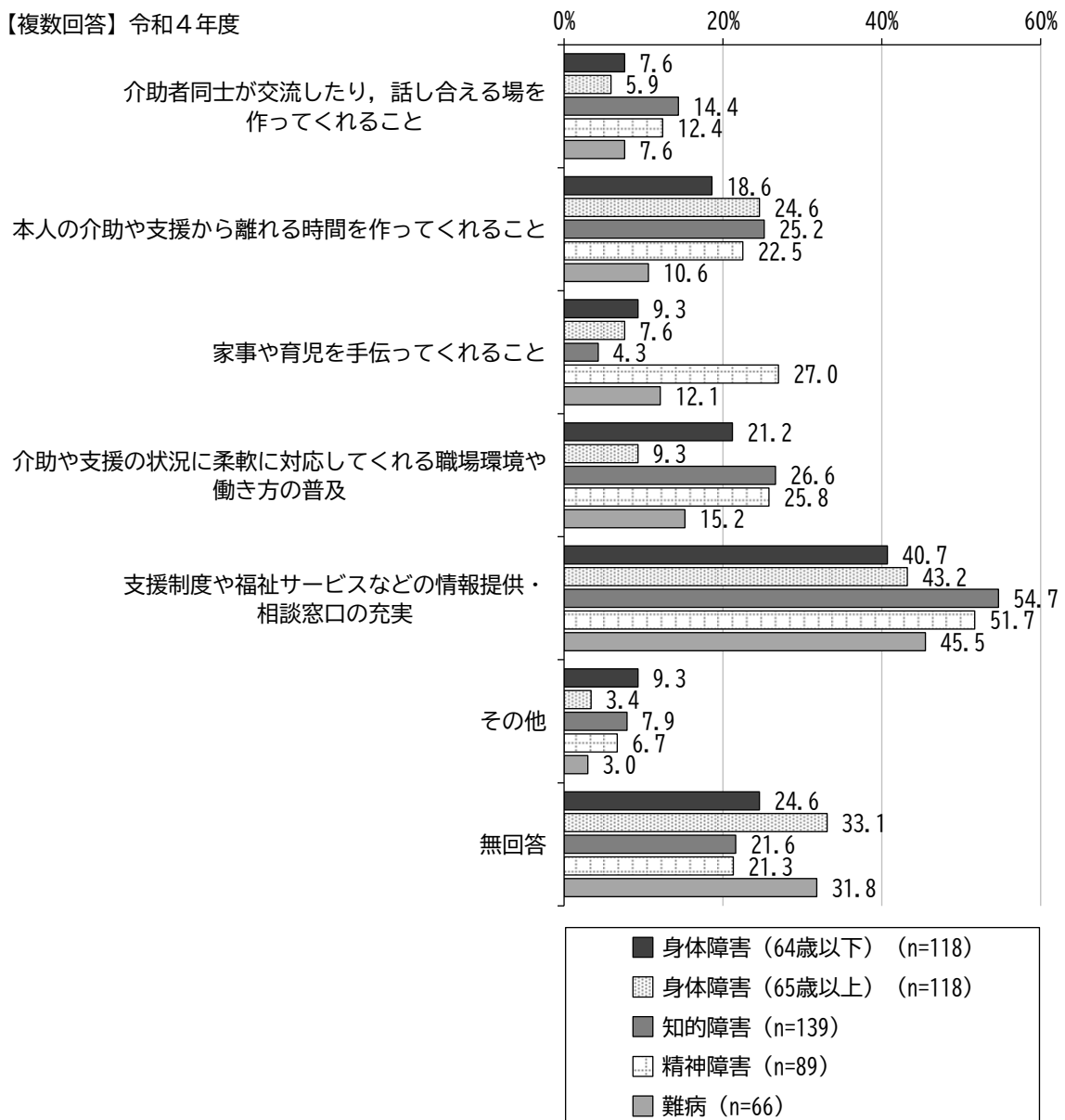
- 介助する人への支援として力を入れてほしいことは、身体障害（64 歳以下）、身体障害（65 歳以上）、知的障害、精神障害は「支援制度や福祉サービスなどの情報提供・相談窓口の充実」が最も多く、それぞれの割合は 32.8%、30.9%、50.2%、34.7%となっている。
- 難病は「わからない（31.7%）」が最も多くなっている。

【複数回答】



※「わからない」は今回調査のみの選択肢

【複数回答】 令和4年度



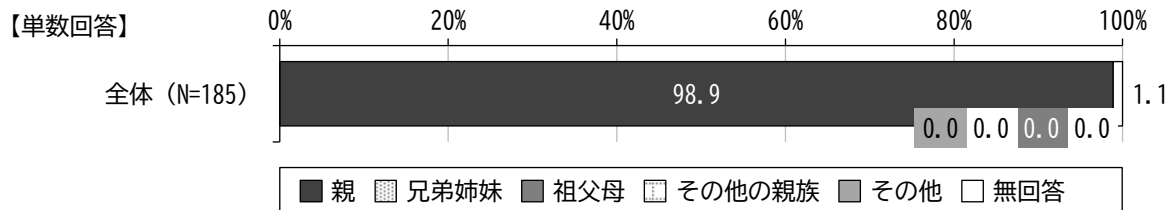
第5章 障害児（18歳未満）の保護者調査結果

【調査名】子どもと保護者が暮らしやすいまちづくりのための福祉に関するアンケート

1 保護者（調査に回答していただく人）についておたずねします

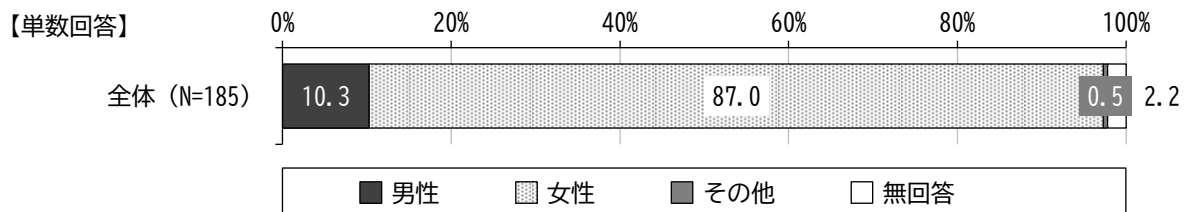
問1 あて名のお子さんからみて、保護者（回答者）はどなたですか。（1つに○）

○ 回答者は、「親（98.9%）」が最も多くなっている。



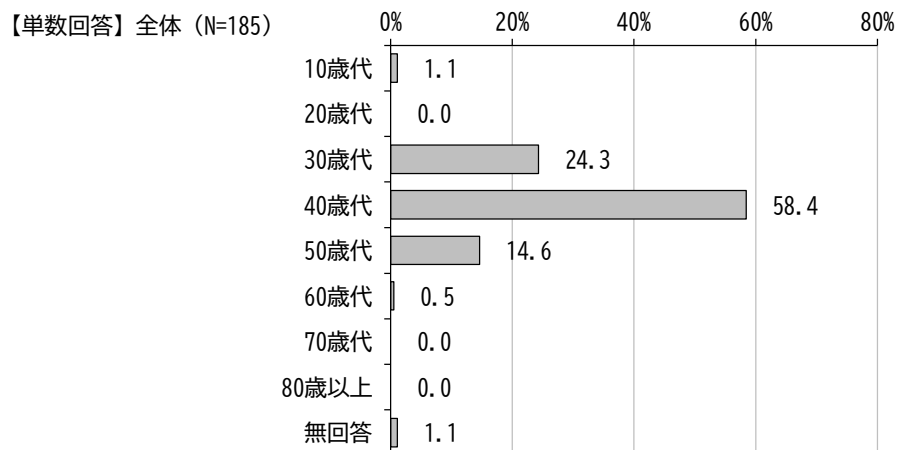
問2 保護者の性別を教えてください。（1つに○）

○ 保護者の性別は、「男性（10.3%）」、「女性（87.0%）」、「その他（0.5%）」である。



問3 保護者の年齢を教えてください。（1つに○）（令和7年10月1日現在）

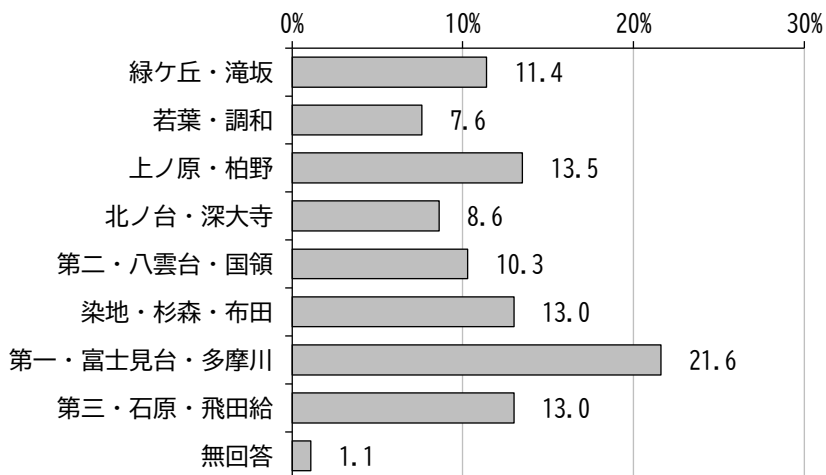
○ 保護者の年齢は、「40歳代（58.4%）」が最も多く、「30歳代（24.3%）」、「50歳代（14.6%）」が続いている。



問4 お住いの地域を教えてください。(1つに○)

- 居住地域（福祉圏域）は、「第一・富士見台・多摩川（21.6%）」が最も多く、「上ノ原・柏野（13.5%）」、「染地・杉森・布田（13.0%）」「第三・石原・飛田給（13.0%）」が続いている。

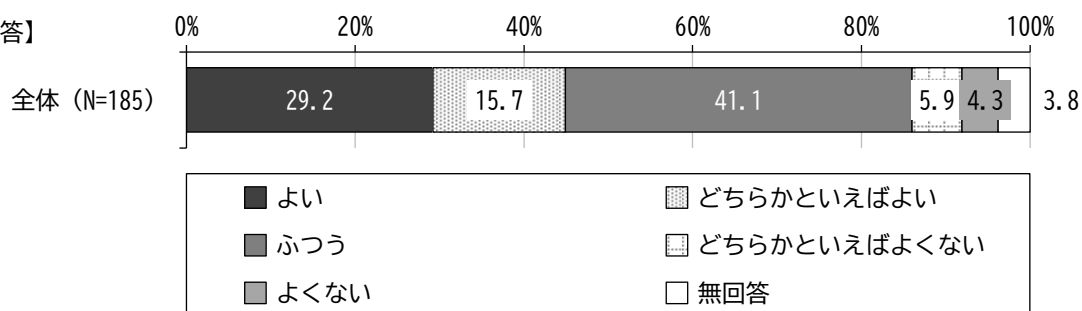
【単数回答】全体（N=185）



問5 あなた（保護者）は、ご自分の健康状態をどのように感じていますか。(1つに○)

- 保護者の健康状況は、「ふつう（41.1%）」が最も多く、「よい（29.2%）」、「どちらかといえばよい（15.7%）」が続いている。

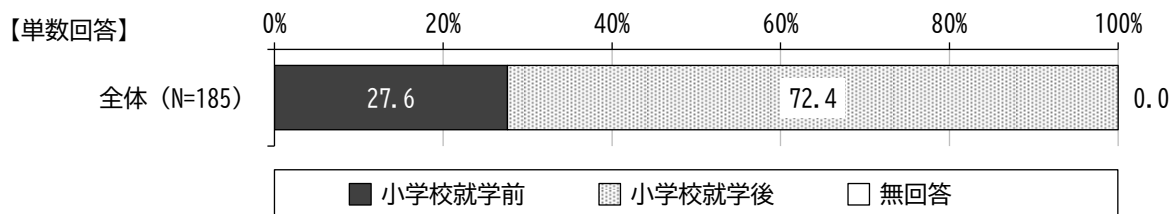
【単数回答】



2 保護者の方に、あて名のお子さんについておたずねします

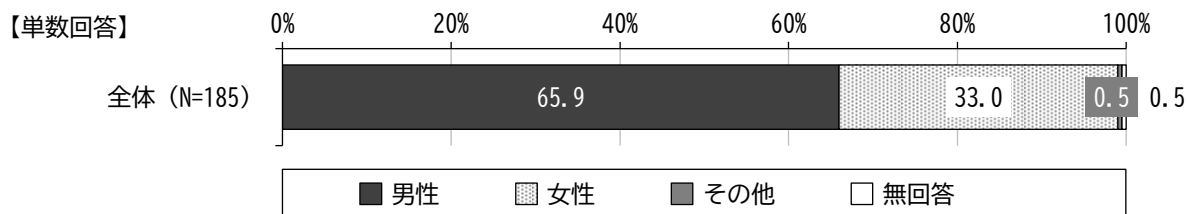
問6 あて名のお子さんの就学状況を教えてください。(1つに○)

○ お子さんの就学状況は、「小学校就学前 (27.6%)」、「小学校就学後 (72.4%)」である。



問7 あて名のお子さんの性別を教えてください。(1つに○)

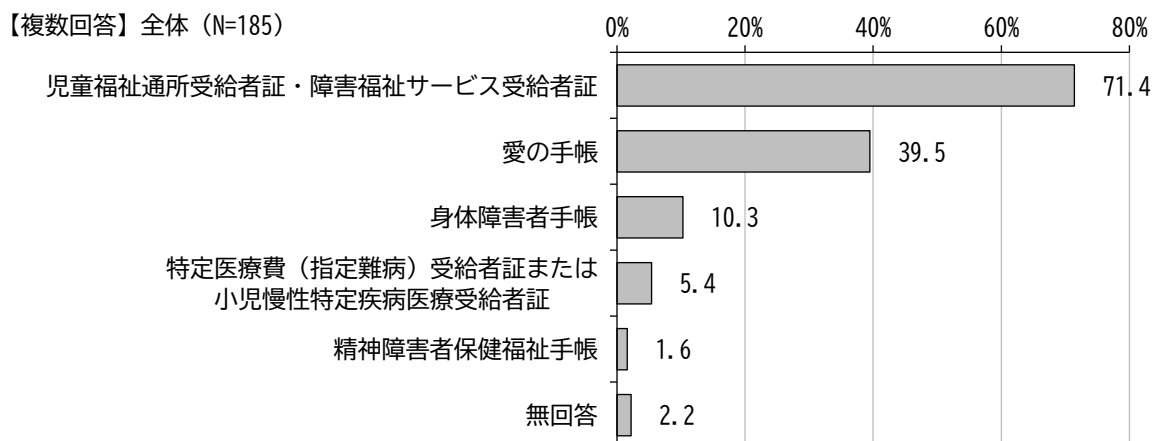
○ お子さんの性別は、「男性 (65.9%)」、「女性 (33.0%)」、「その他 (0.5%)」である。



問8 あて名のお子さんがおもちの手帳等とその等級を教えてください。(いくつでも○)

①持っている手帳の種類

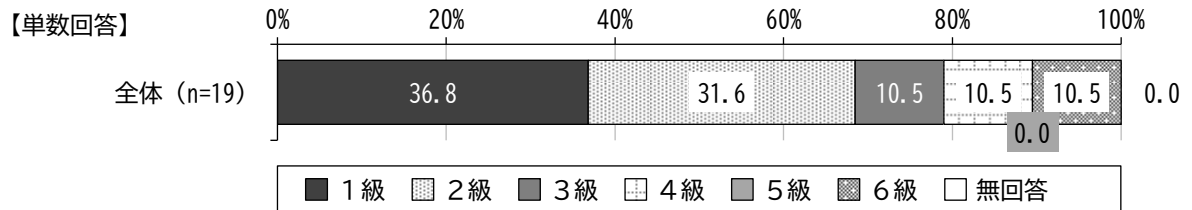
○ お子さんの持っている手帳の種類は、「児童福祉通所受給者証・障害福祉サービス受給者証 (71.4%)」が最も多く、「愛の手帳 (39.5%)」、「身体障害者手帳 (10.3%)」が続いている。



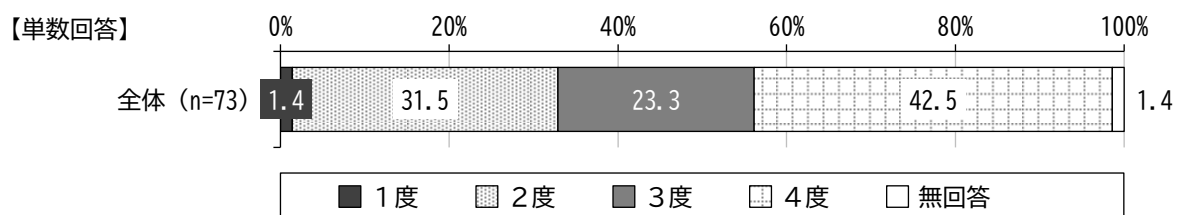
②持っている手帳の等級

○ お子さんの手帳の等級は，身体障害者手帳で「1級（36.8%）」，愛の手帳で「4度（42.5%）」，精神障害者保健福祉手帳で「3級（66.7%）」が最も多くなっている。

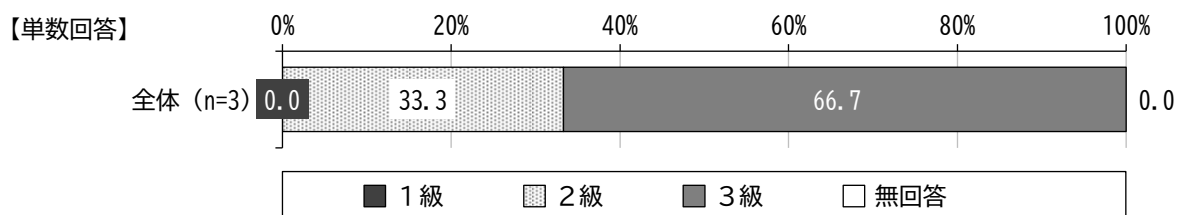
・身体障害者手帳



・愛の手帳

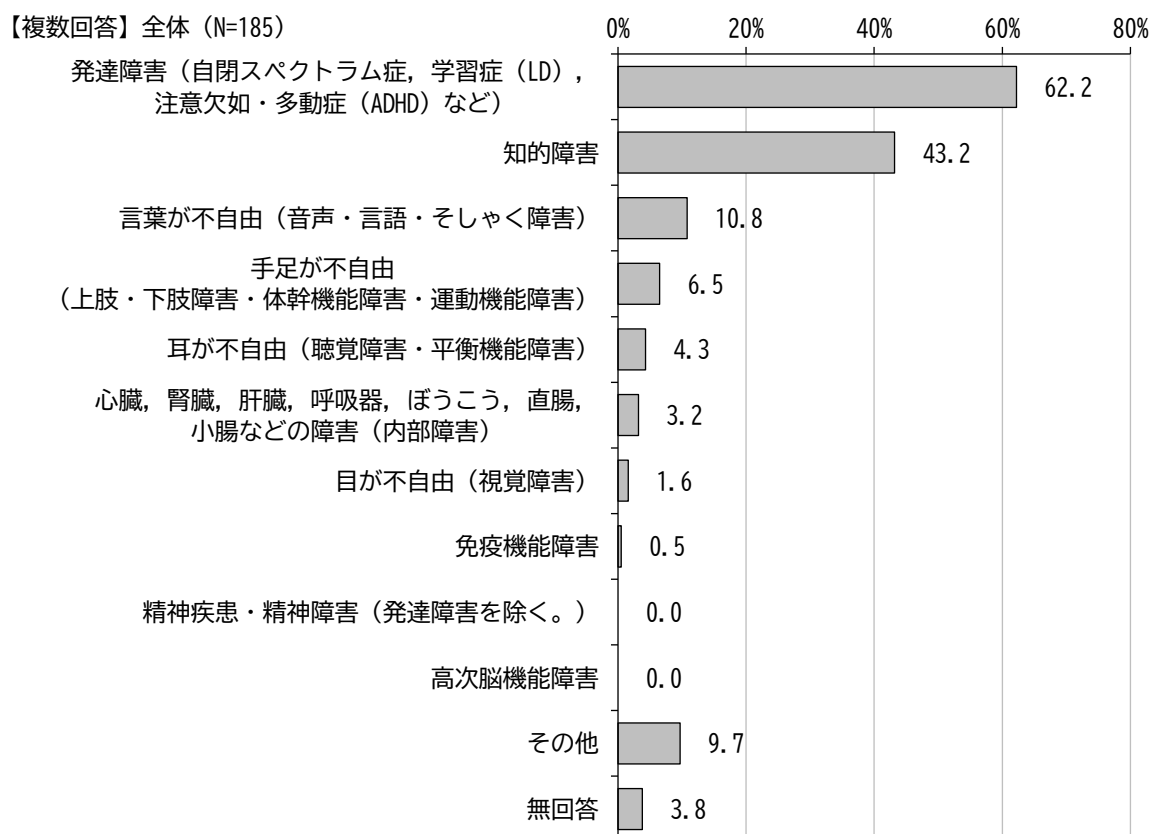


・精神障害者保健福祉手帳



問9 あて名のお子さんは、どのような病気や障害がありますか。(いくつでも○)
 ※特定医療費（指定難病）受給者証，小児慢性特定疾病医療受給者証をもつ人は，
 「11 その他」の欄に病名をご記入ください。

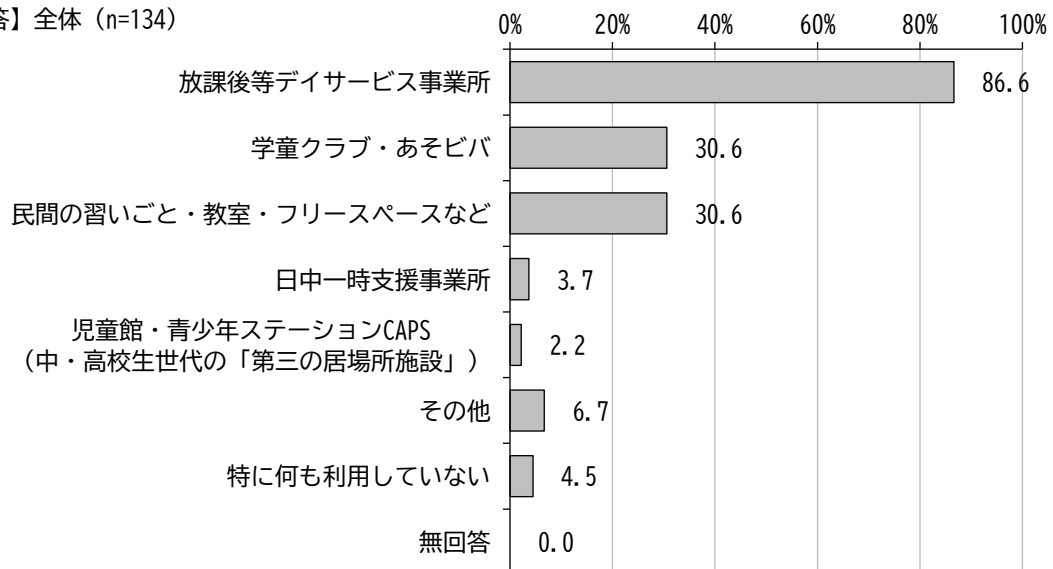
- お子さんの病気や障害の種類は、「発達障害（自閉スペクトラム症，学習症（LD），注意欠如・多動症（ADHD）など）（62.2%）」が最も多く，「知的障害（43.2%）」，「言葉が不自由（音声・言語・そしゃく障害）（10.8%）」が続いている。



問 10 あて名のお子さんが小学校就学後の保護者の方におたずねします。あて名のお子さんは、現在、学校以外の時間でどのようなサービスや施設などを利用して過ごしていますか。(いくつでも○)

- 学校以外のサービス、施設等の利用状況は、「放課後等デイサービス事業所 (86.6%)」が最も多く、「学童クラブ・あそびバ (30.6%)」「民間の習いごと・教室・フリースペースなど (30.6%)」が続いている。

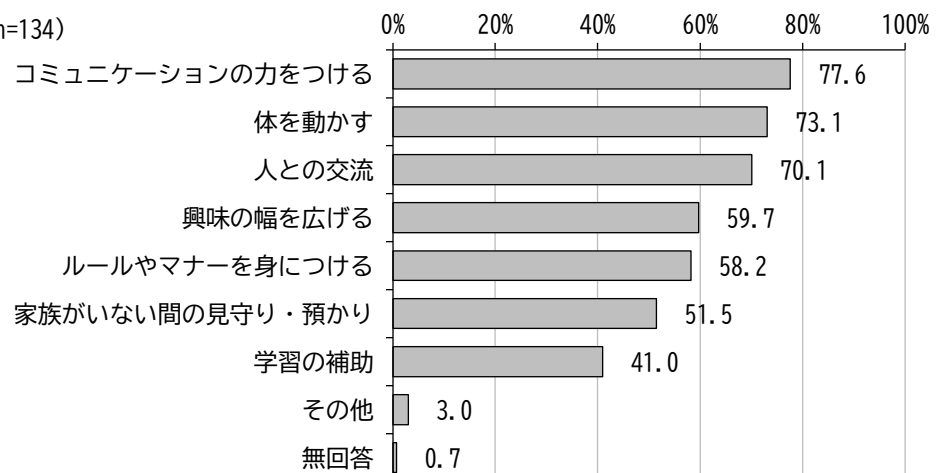
【複数回答】全体 (n=134)



問 11 あて名のお子さんが小学校就学後の保護者の方におたずねします。あて名のお子さんの放課後活動に求めていることはありますか。(いくつでも○)

- 保護者がお子さんの放課後活動に求めていることは、「コミュニケーションの力をつける (77.6%)」が最も多く、「体を動かす (73.1%)」, 「人との交流 (70.1%)」が続いている。

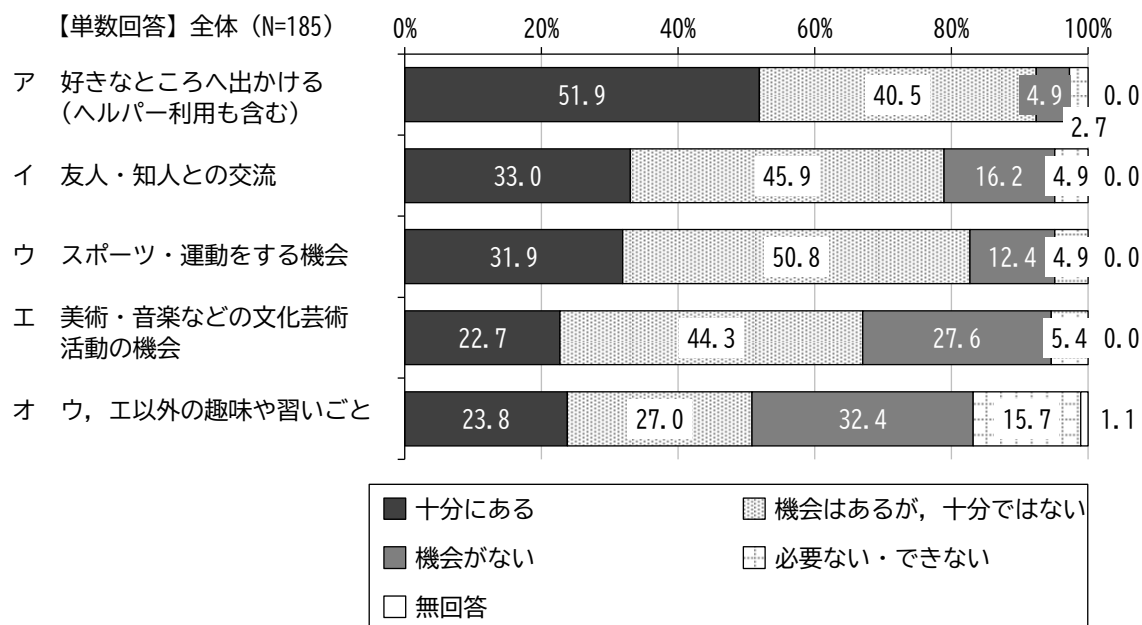
【複数回答】全体 (n=134)



問 12 あて名のお子さんは、普段の生活の中で、次のような機会がありますか。
(それぞれ1つに○)

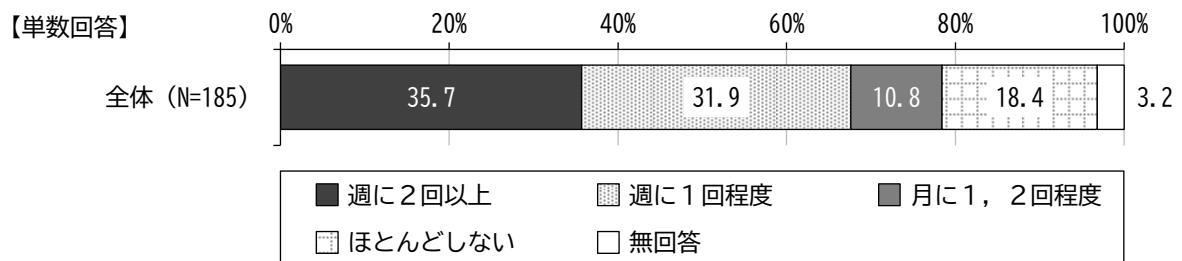
- お子さんの普段の生活の中の活動機会について、「十分にある」の割合は、[ア 好きなところへ出かける（ヘルパー利用も含む）（51.9%）] が最も多くなっている。
- 一方、「機会はあるが、十分ではない」と「機会がない」の割合の合計が「十分にある」を上回る活動は、[イ 友人・知人との交流] [ウ スポーツ・運動※をする機会] [エ 美術・音楽などの文化芸術活動※の機会] [オ ウ、エ以外の趣味や習いごと] となっている。

※本調査における「スポーツ・運動」とは、ウォーキング、体操、ヨガなど、競技だけでなく健康づくりのための活動も含む。「文化芸術活動」とは、絵を描くこと、美術館・博物館などに行くこと、歌を歌ったり、演奏したりすることを含む。



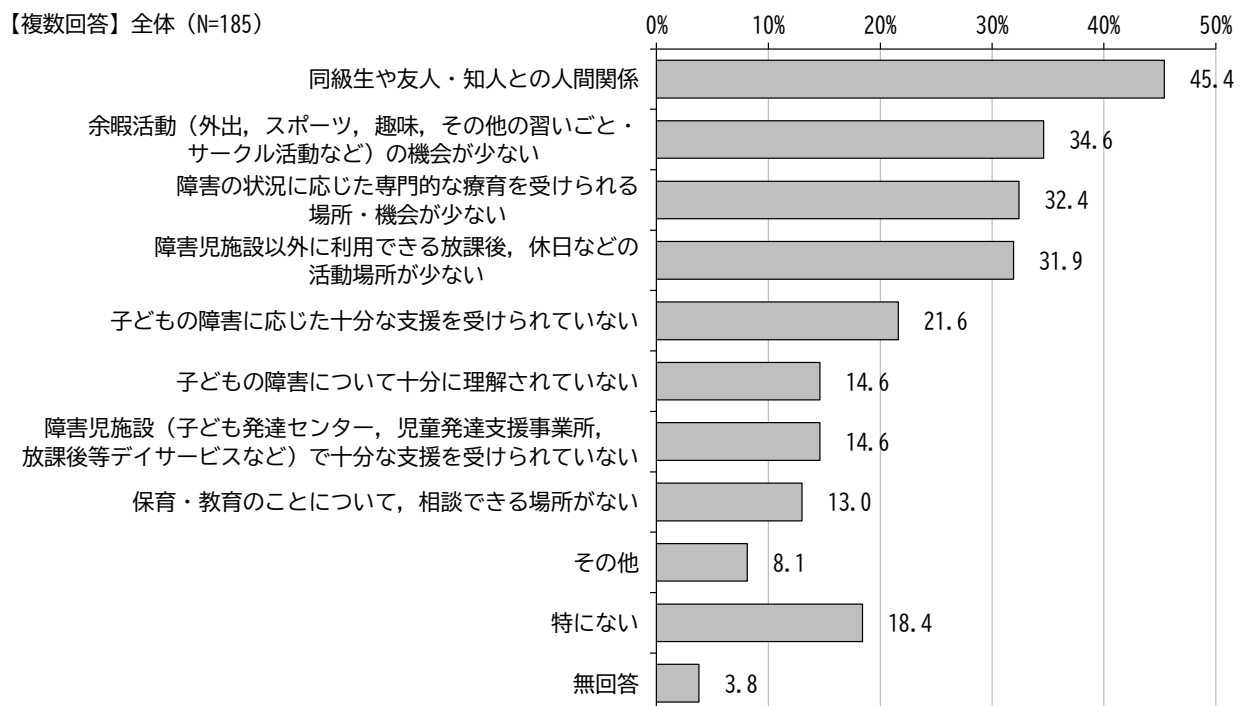
問 13 あて名のお子さんは、スポーツ・運動をする機会はどのくらいありますか。
(1つに○)

- お子さんのスポーツ・運動をする頻度は、「週に2回以上 (35.7%)」が最も多く、「週に1回程度 (31.9%)」、「ほとんどしない (18.4%)」が続いている。



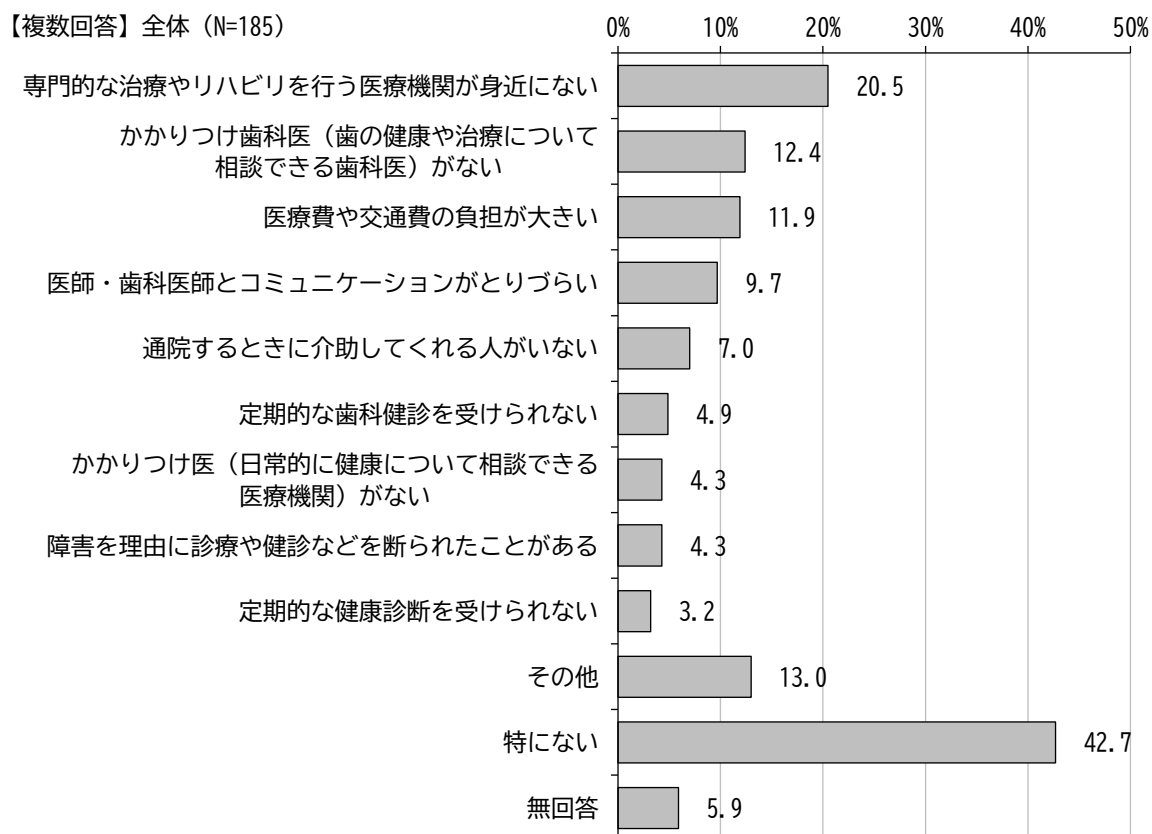
問 14 あて名のお子さんの日常生活で不安や課題と感じていることはありますか。
(いくつでも○)

- お子さんの日常生活で不安や課題と感じていることは、「同級生や友人・知人との人間関係 (45.4%)」が最も多く、「余暇活動 (外出, スポーツ, 趣味, その他の習いごと・サークル活動など) の機会が少ない (34.6%)」、「障害の状況に応じた専門的な療育を受けられる場所・機会が少ない (32.4%)」が続いている。



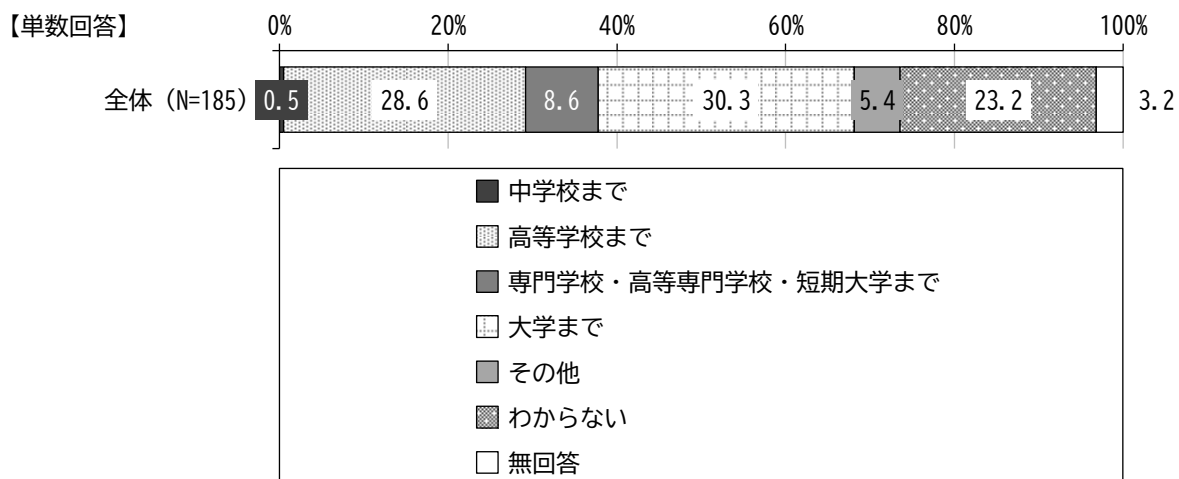
問 15 あて名のお子さんについて、医療機関（歯科を含む）の受診で困ることはありますか。（いくつでも○）

- お子さんの医療機関（歯科を含む）の受診で困ることは、「特にない（42.7%）」が最も多く、「専門的な治療やリハビリを行う医療機関が身近にない（20.5%）」が続いている。



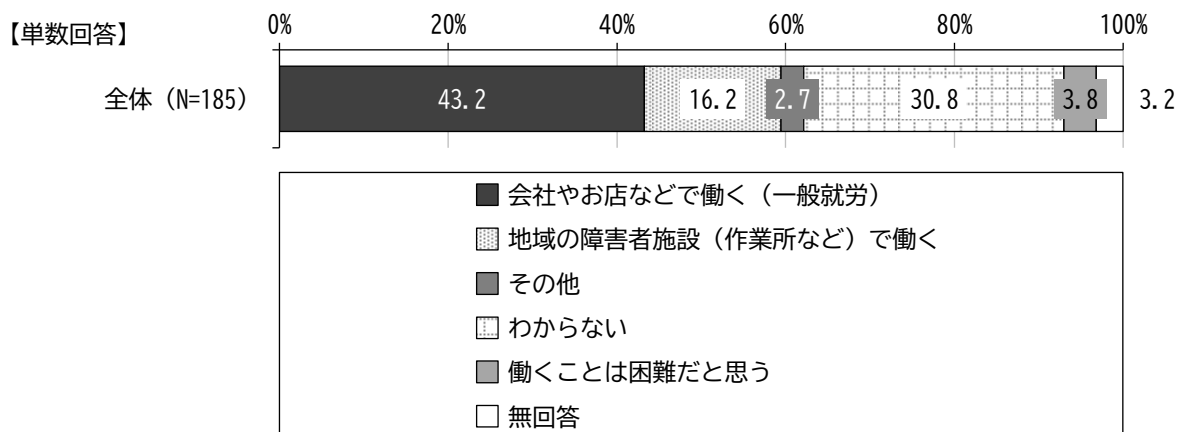
問 16 将来、あて名のお子さんに、どのような進学先を希望していますか。(1つに○)

- 希望するお子さんの進学先は、「大学まで (30.3%)」が最も多く、「高等学校まで (28.6%)」,「わからない (23.2%)」が続いている。



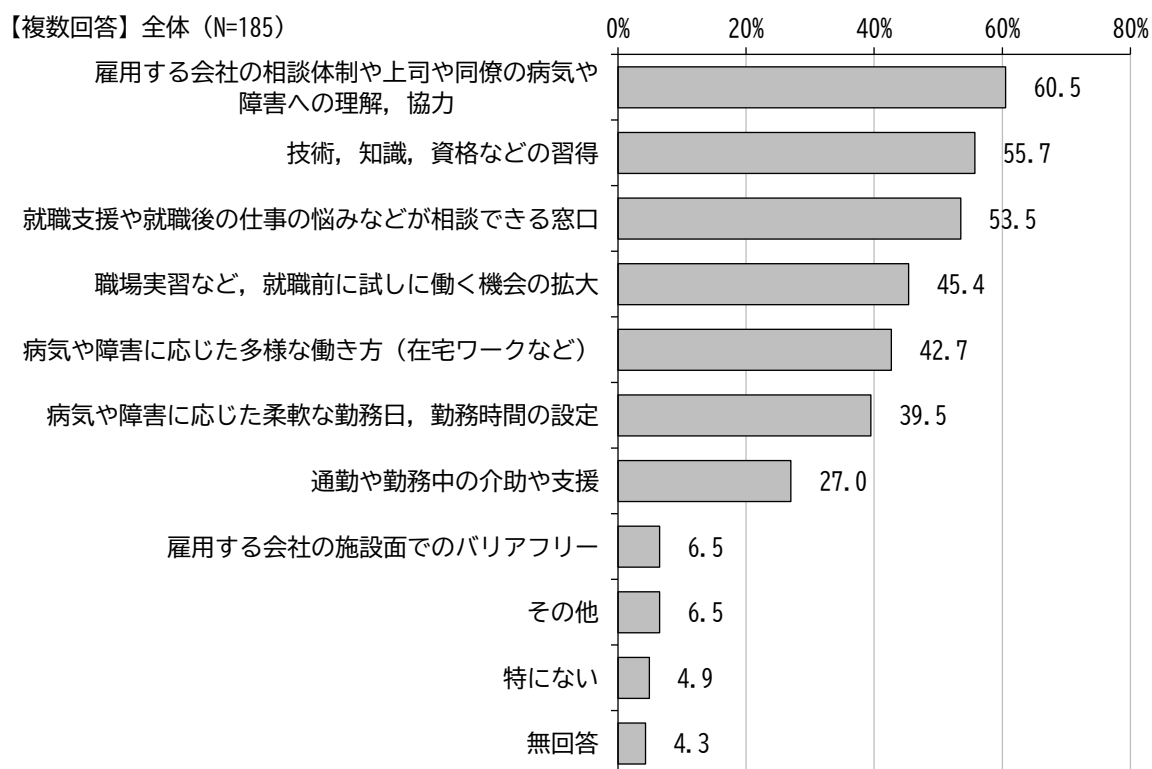
問 17 将来、あて名のお子さんに、どのような働き方を希望していますか。(1つに○)

- 希望するお子さんの働き方は、「会社やお店などで働く (一般就労) (43.2%)」が最も多く、「わからない (30.8%)」,「地域の障害者施設 (作業所など) で働く (16.2%)」が続いている。



問 18 あて名のお子さんが仕事をするために、必要と思うことは何ですか。
(いくつでも○)

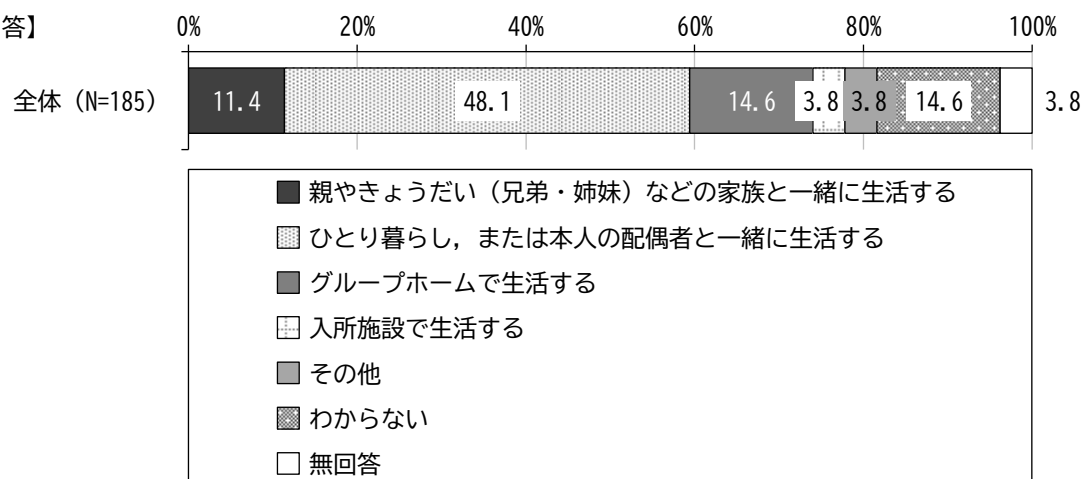
- お子さんが仕事をするために必要なことは、「雇用する会社の相談体制や上司や同僚の病気や障害への理解，協力（60.5%）」が最も多く，「技術，知識，資格などの習得（55.7%）」，「就職支援や就職後の仕事の悩みなどが相談できる窓口（53.5%）」が続いている。



問 19 将来、あて名のお子さんに、どのような生活を希望しますか。(1つに○)

- 希望するお子さんの暮らし方は、「ひとり暮らし、または本人の配偶者と一緒に生活する(48.1%)」が最も多く、「グループホームで生活する(14.6%)」「わからない(14.6%)」が続いている。

【単数回答】

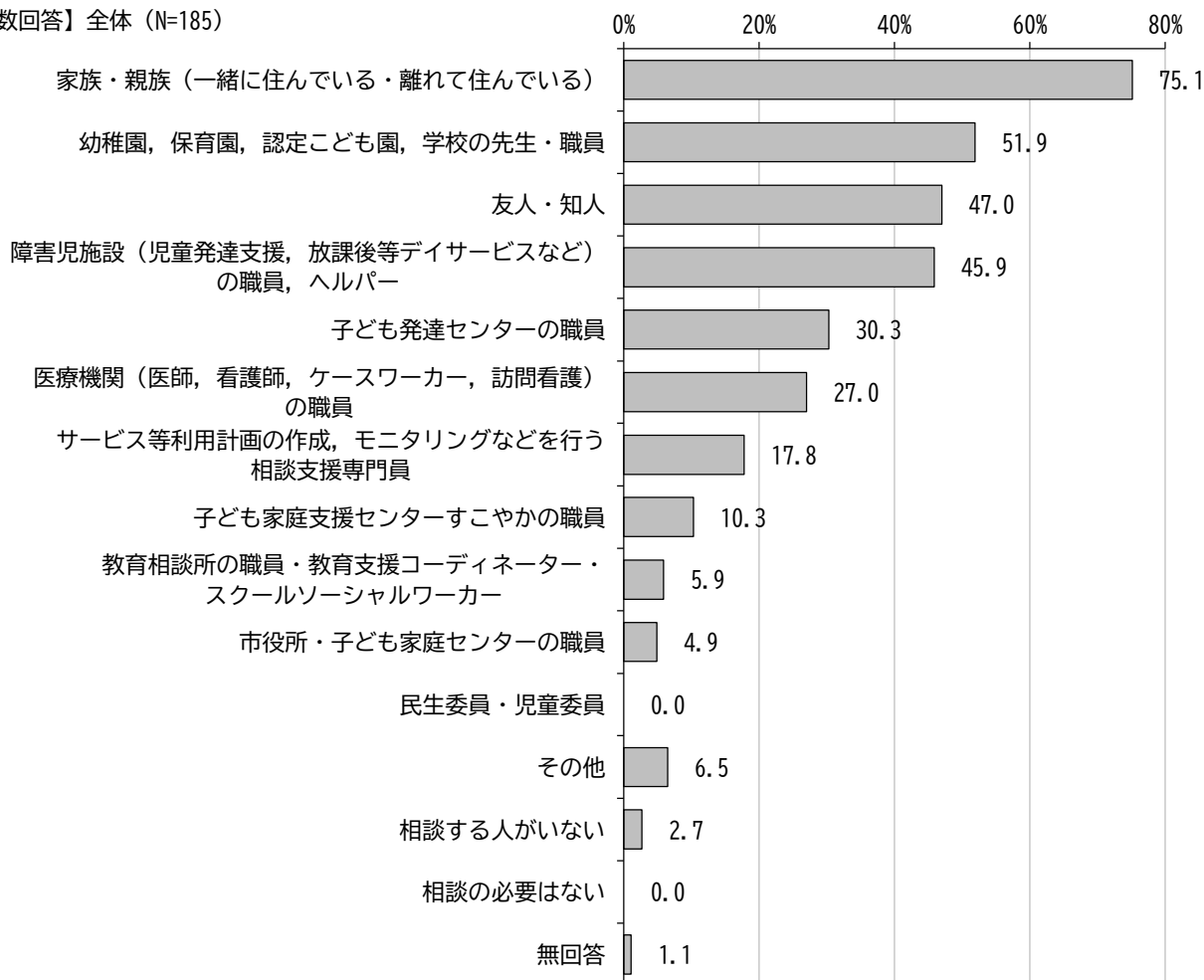


3 保護者の方に、相談支援についておたずねします

問 20 あなた（保護者）が悩みや困りごとを相談できる人や機関はありますか。
（いくつでも○）

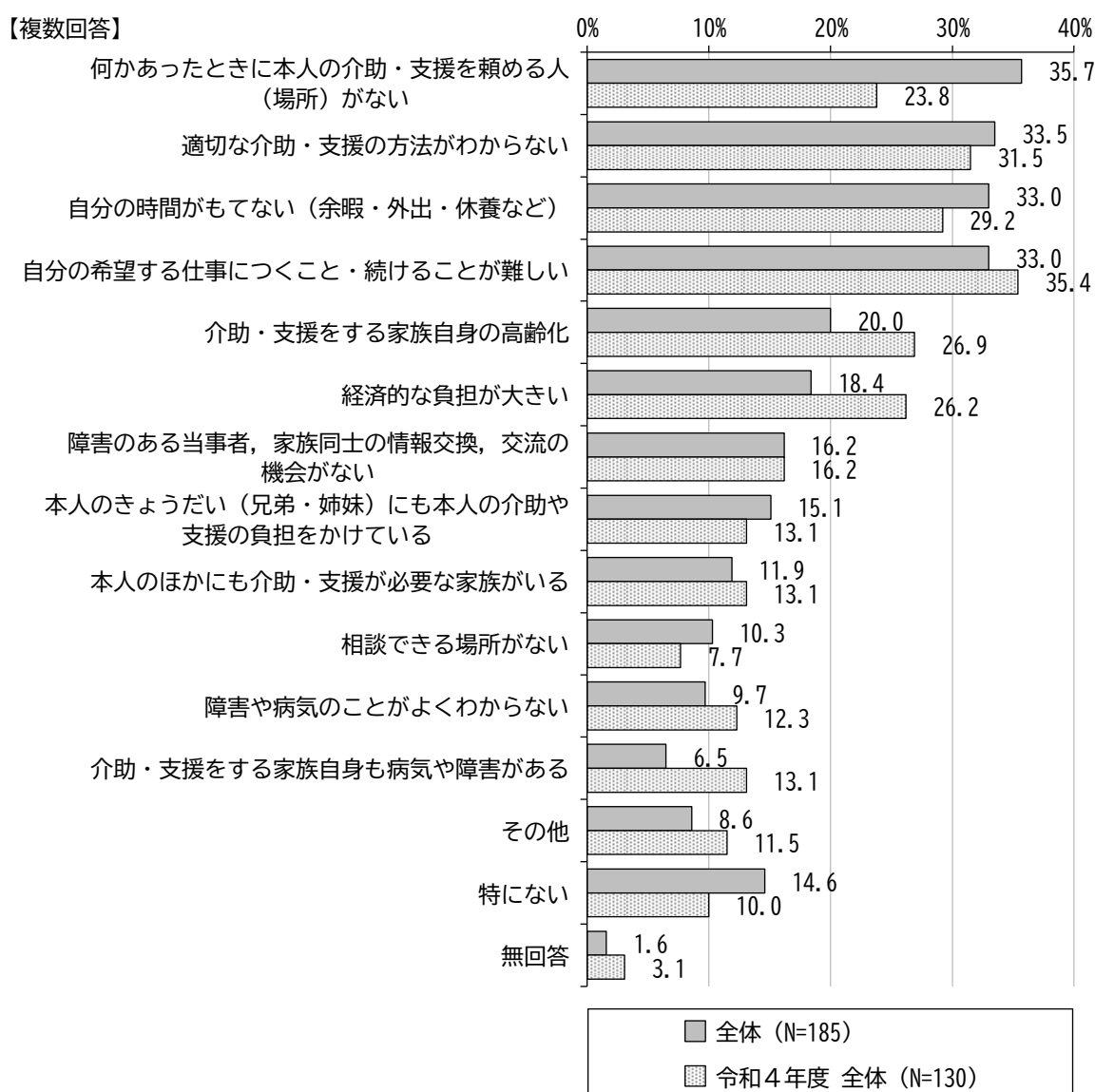
- 保護者が悩みや困りごとを相談できる人や機関は、「家族・親族（一緒に住んでいる・離れて住んでいる）（75.1%）」が最も多く、「幼稚園，保育園，認定こども園，学校の先生・職員（51.9%）」、「友人・知人（47.0%）」が続いている。

【複数回答】全体（N=185）



問 21 あなた（保護者）は、介助や支援にあたってどのような不安や困りごとがありますか。（いくつでも○）

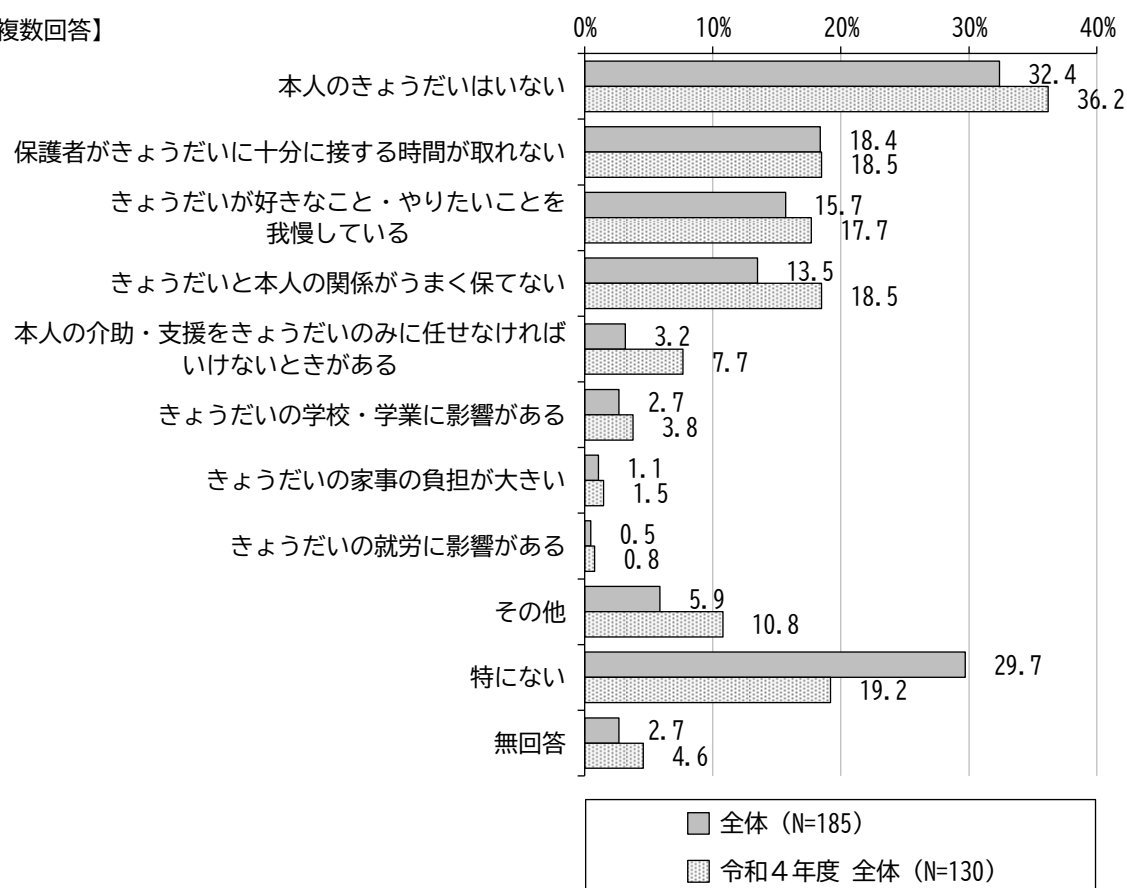
- 介助や支援にあたっての不安や困りごとは、「何かあったときに本人の介助・支援を頼める人（場所）がない（35.7%）」が最も多く、「適切な介助・支援の方法がわからない（33.5%）」、「自分の時間がもてない（余暇・外出・休養など）（33.0%）」「自分の希望する仕事につくこと・続けることが難しい（33.0%）」が続いている。
- 令和4年度の調査結果と比較すると、「何かあったときに本人の介助・支援を頼める人（場所）がない」が11.9ポイント高く、「経済的な負担が大きい」が7.8ポイント、「介助・支援をする家族自身の高齢化」が6.9ポイント、「介助・支援をする家族自身も病気や障害がある」が6.6ポイント低くなっている。



問 22 本人の介助・支援に関連し、本人のきょうだい（兄弟・姉妹）についてどのような不安や困りごとがありますか。（いくつでも○）

- お子さんのきょうだい（兄弟・姉妹）についての不安や困りごとは、「本人のきょうだいはいない（32.4%）」が最も多く、「特にない（29.7%）」、「保護者がきょうだいに十分に接する時間が取れない（18.4%）」が続いている。
- 令和4年度の調査結果と比較すると、「特にない」が10.5ポイント高くなっている。

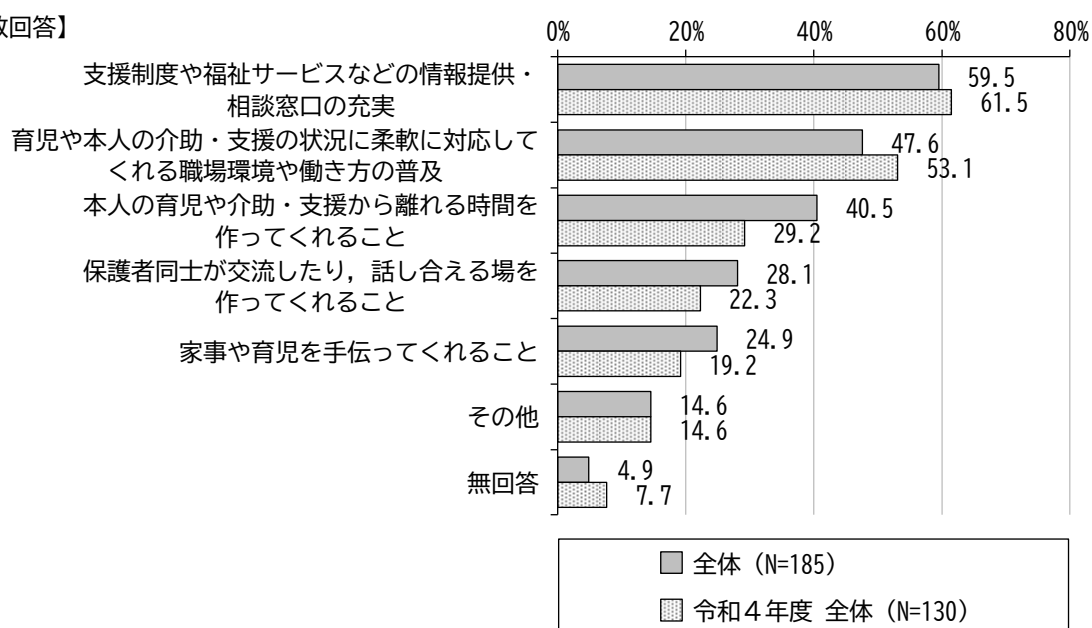
【複数回答】



問 23 保護者への支援として力を入れてほしいことは何ですか。(いくつでも○)

- 保護者への支援として力を入れてほしいことは、「支援制度や福祉サービスなどの情報提供・相談窓口の充実 (59.5%)」が最も多く、「育児や本人の介助・支援の状況に柔軟に対応してくれる職場環境や働き方の普及 (47.6%)」、「本人の育児や介助・支援から離れる時間を作ってくれること (40.5%)」が続いている。
- 令和4年度の調査結果と比較すると、「本人の育児や介助・支援から離れる時間を作ってくれること」が 11.3 ポイント、「保護者同士が交流したり，話し合える場を作ってくれること」が 5.8 ポイント，「家事や育児を手伝ってくれること」が 5.7 ポイント高く，「育児や本人の介助・支援の状況に柔軟に対応してくれる職場環境や働き方の普及」が 5.5 ポイント低くなっている。

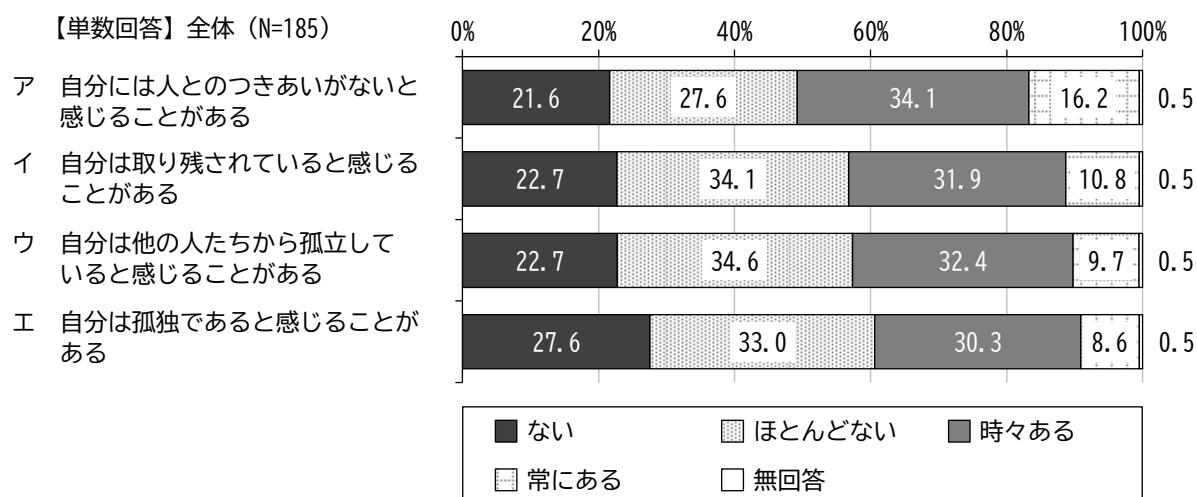
【複数回答】



4 保護者の方に、日頃のコミュニケーションについておたずねします

問 24 次の項目についてあなたはどれくらいの頻度で感じていますか。
(それぞれ1つに○)

- 孤独・孤立の状況について、「時々ある」と「常にある」を合わせた『ある』の割合は、
[ア 自分には人とのつきあいが無いと感ずることがある (50.3%)] が最も多く、[イ 自分は取り残されていると感ずることがある (42.7%)], [ウ 自分は他の人たちから孤立していると感ずることがある (42.1%)] が続いている。



－ 孤独感尺度 －

- 「UCLA孤独感尺度（日本語版の3項目短縮版）」（本編 25 ページ参照）による間接質問のスコア化の結果は以下の表のとおりである（サンプル（n）数が少ないため、コメントは割愛）。

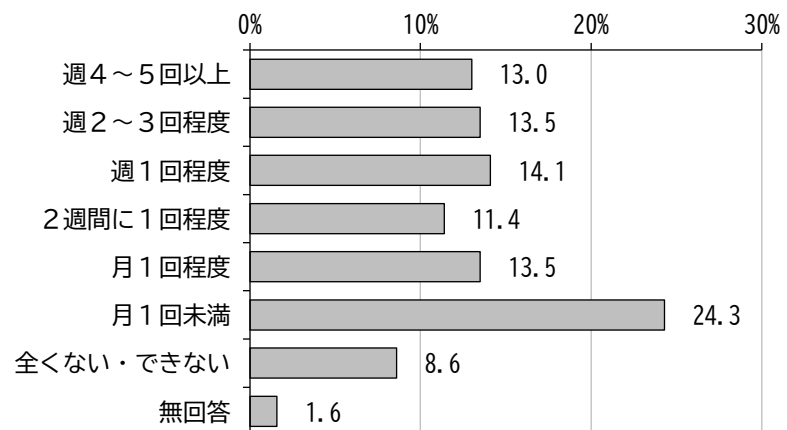
単位：％		決してない	ほとんどない	時々ある	常にある	無回答
全体 (N=185)		15.1	25.9	41.1	17.3	0.5
年代別	10歳代 (n=2)	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	30歳代 (n=45)	15.6	26.7	42.2	15.6	0.0
	40歳代 (n=108)	16.7	23.1	41.7	18.5	0.0
	50歳代 (n=27)	11.1	25.9	40.7	18.5	3.7
	60歳代 (n=1)	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0

問 25 家族や友人たちとのコミュニケーション頻度についておたずねします。あなたと同じ
居していない家族や友人たちとのコミュニケーション頻度について、お答えください。
(それぞれ1つに○)

ア 直接会って話す（手話等を含む）

- 直接会って話す（手話等を含む）頻度は、「月1回未満（24.3%）」が最も多く、「週1
回程度（14.1%）」、「週2～3回程度（13.5%）」「月1回程度（13.5%）」が続いている。

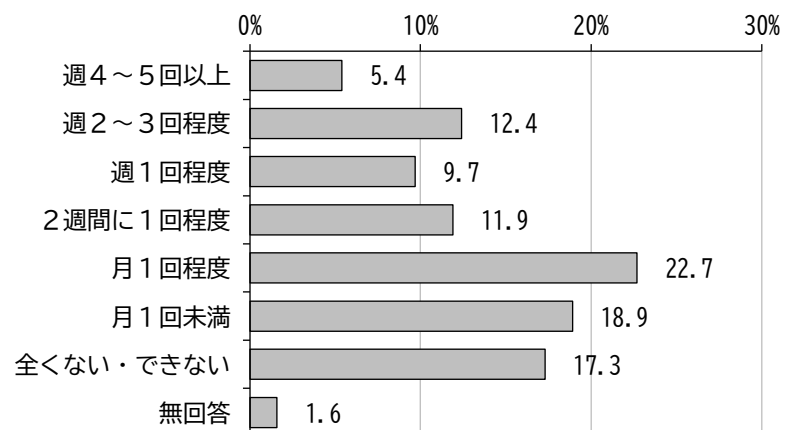
【単数回答】全体（N=185）



イ 電話（ビデオ通話含む）

- 電話（ビデオ通話含む）の頻度は、「月1回程度（22.7%）」が最も多く、「月1回未満
（18.9%）」、「全くない・できない（17.3%）」が続いている。

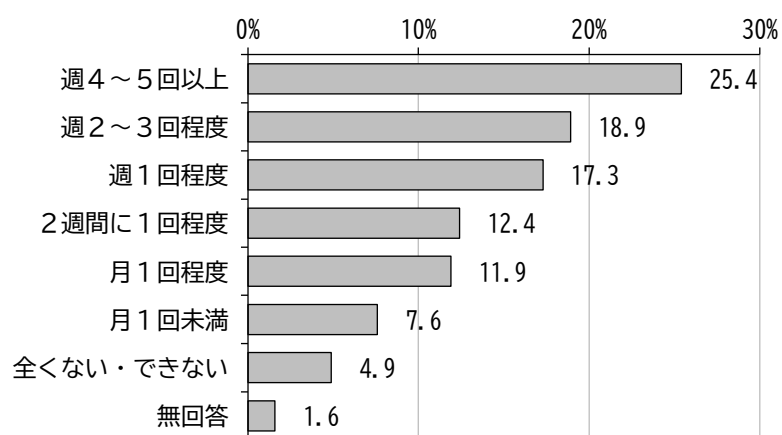
【単数回答】全体（N=185）



ウ SNSや電子メールなど

- SNSや電子メールなどの頻度は、「週4～5回以上（25.4%）」が最も多く、「週2～3回程度（18.9%）」、「週1回程度（17.3%）」が続いている。

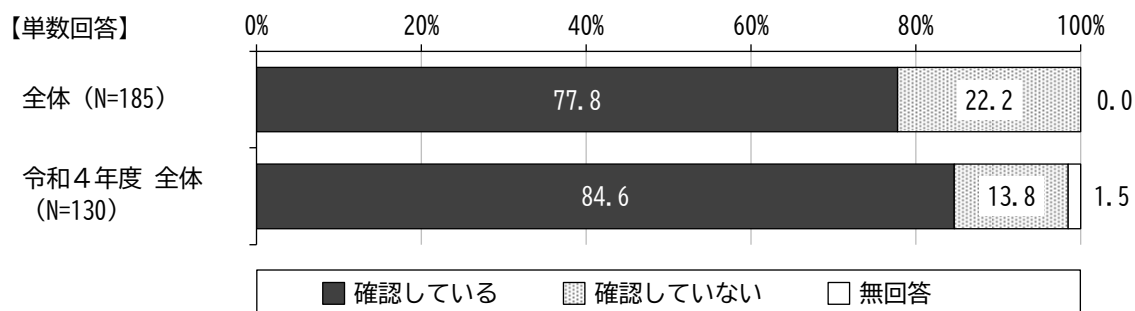
【単数回答】全体（N=185）



5 保護者の方に、災害時の対策についておたずねします

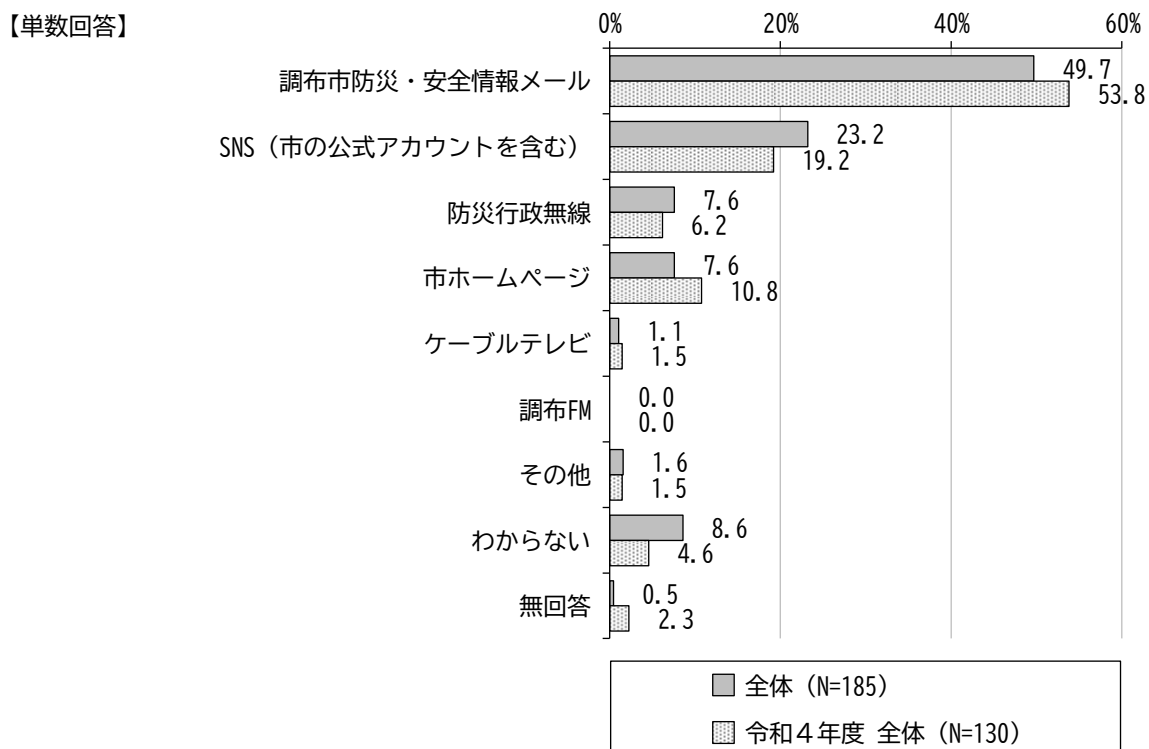
問 26 あなた（保護者）は、防災マップや洪水ハザードマップなどで避難場所・避難経路・警戒区域などを確認していますか。（1つに○）

- 避難場所・避難経路・警戒区域などの確認状況は、「確認している（77.8%）」、「確認していない（22.2%）」である。
- 令和4年度の調査結果と比較すると、「確認していない」が8.4ポイント高くなっている。



問 27 あなた（保護者）は、災害や火災などの緊急の際、避難情報を主にどこからとりますか。（1つに○）

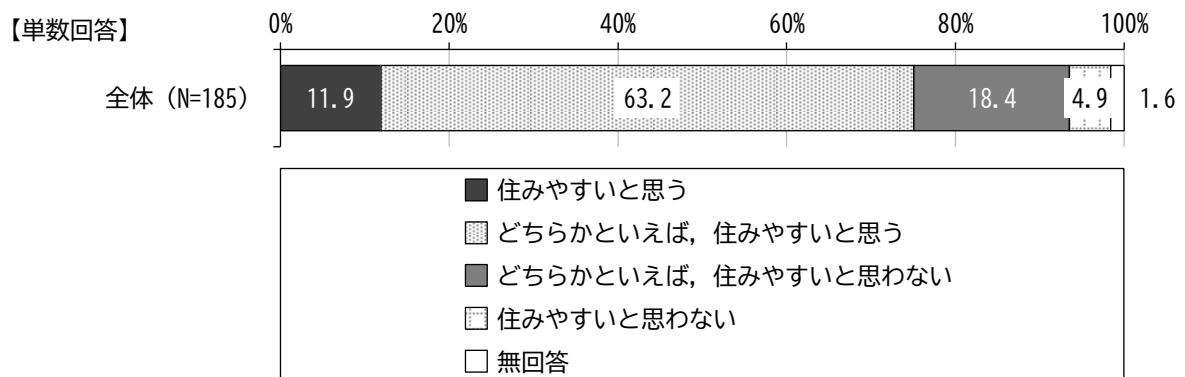
- 緊急時の避難情報の入手先は、「調布市防災・安全情報メール（49.7%）」が最も多く、「SNS（市の公式アカウントを含む）（23.2%）」、「わからない（8.6%）」が続いている。
- 令和4年度の調査結果と比較すると、大きな変化はみられない。



6 保護者の方に、誰もが暮らしやすいまちづくりについておたずねします

問 28 調布のまちは、障害（身体障害、知的障害、精神障害、難病など）のある人にとって、福祉サービス、バリアフリー、市民意識などを総合的に考え、住みやすいまちであると感じますか。（1つに○）

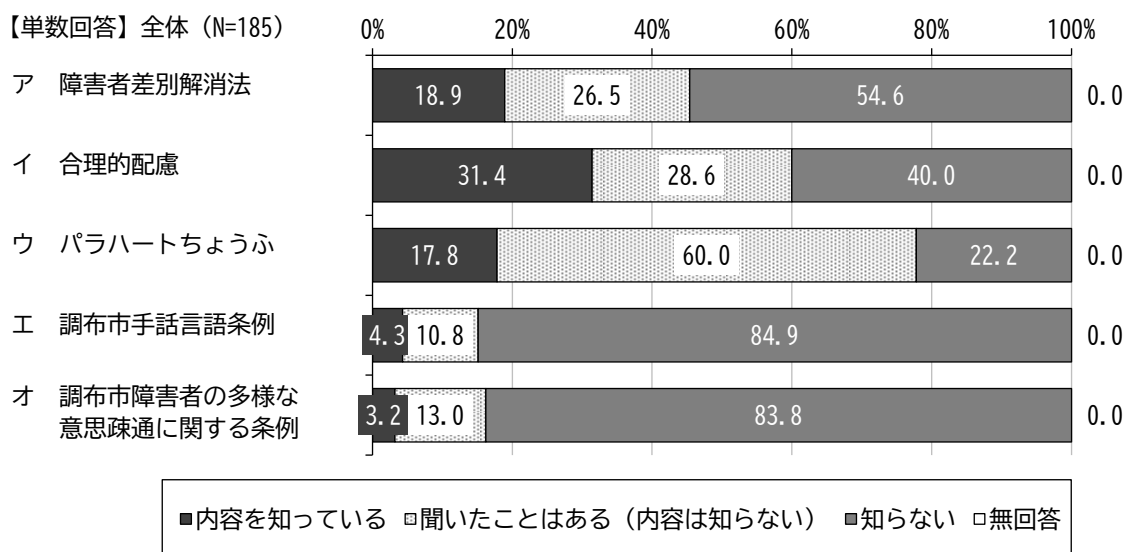
- 調布のまちは障害のある人にとって住みやすいまちであると感じるかについて、「住みやすいと思う」と「どちらかといえば、住みやすいと思う」を合わせた『住みやすいと思う』の割合は75.1%となっている。



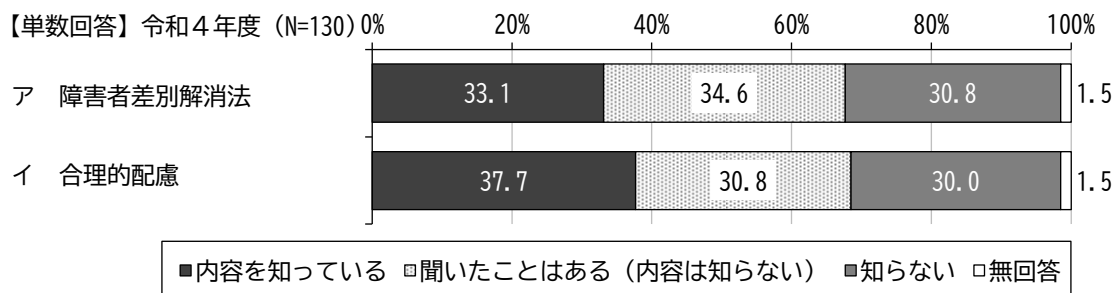
問 29 共生社会の充実のための法律や考え方，調布市が令和6年度に制定した2つの条例を知っていますか。（それぞれ1つに○）

- 共生社会の充実のための法律や考え方について、「内容を知っている」の割合は，[イ 合理的配慮（31.4%）] が最も多く，[ア 障害者差別解消法（18.9%）]，[ウ パラハートちょうふ（17.8%）] が続いている。市が令和6年度に制定した2つの条例について，「内容を知っている」の割合は，[エ 調布市手話言語条例（4.3%）]，[オ 調布市障害者の多様な意思疎通に関する条例（3.2%）] が続いている。
- 令和4年度の調査結果と比較すると，[ア 障害者差別解消法] の「知らない」の割合は23.8ポイント高く，[イ 合理的配慮] の「知らない」も10ポイント高くなっている。

【単数回答】全体（N=185）



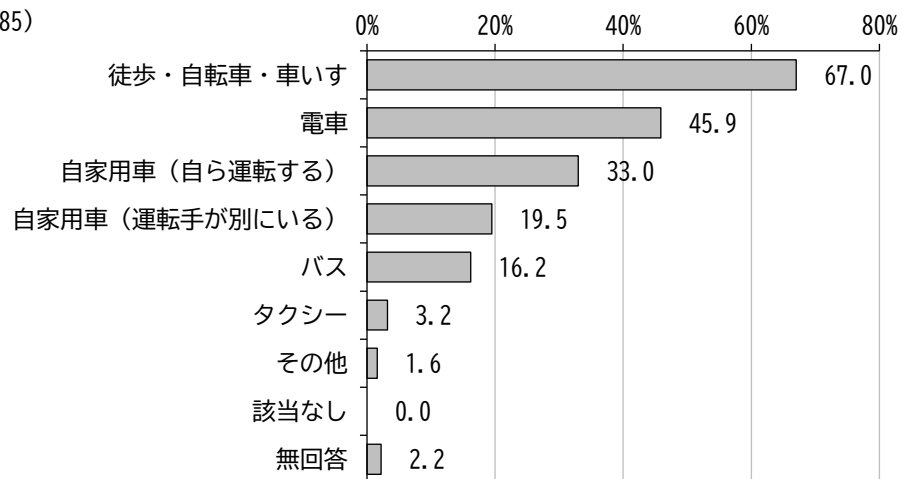
【単数回答】令和4年度（N=130）



問 30 外出時に使用している主な移動手段は何ですか。(2つまで○)

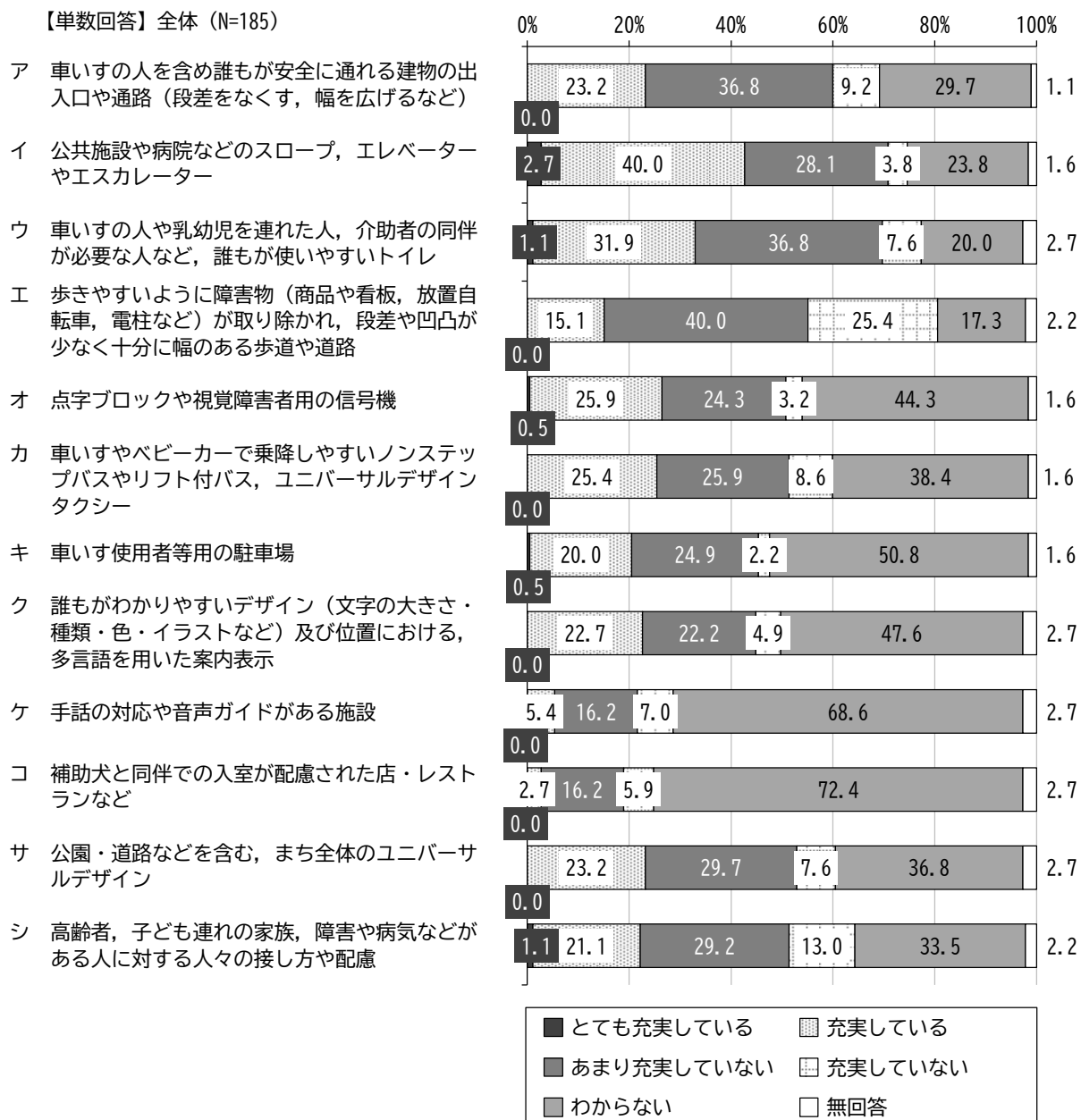
- 外出時に使用している主な移動手段は、「徒歩・自転車・車いす(67.0%)」が最も多く、「電車(45.9%)」、「自家用車(自ら運転する)(33.0%)」が続いている。

【複数回答】全体(N=185)



問 31 市内のバリアフリー・ユニバーサルデザインについて、どのように感じていますか。
(それぞれ1つに○)

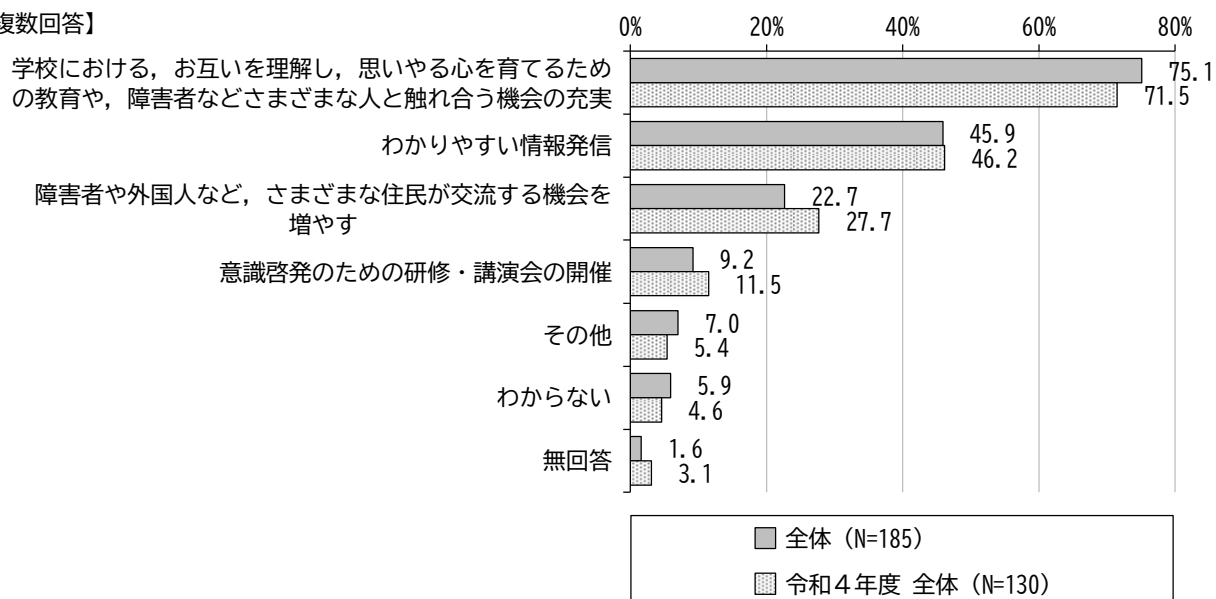
- 市内のバリアフリー・ユニバーサルデザインの状況について、「とても充実している」と「充実している」を合わせた『充実している』の割合は、[イ 公共施設や病院などのスロープ、エレベーターやエスカレーター (42.7%)] が最も多く、[ウ 車いすの人や乳幼児を連れた人、介助者の同伴が必要な人など、誰もが使いやすいトイレ (33.0%)] が続いている。
- 一方、「あまり充実していない」と「充実していない」を合わせた『充実していない』の割合は、[エ 歩きやすいように障害物（商品や看板、放置自転車、電柱など）が取り除かれ、段差や凹凸が少なく十分に幅のある歩道や道路 (65.4%)] が最も多く、[ア 車いすの人を含め誰もが安全に通れる建物の出入口や通路（段差をなくす、幅を広げるなど） (46.0%)] が続いている。



問 32 誰もが暮らしやすいまちづくりに向けて、病気・障害・国籍・生活習慣などの違いによる心理的な障壁を取り除く（心のバリアフリー）ために、特に必要な取組は何だと思いますか。（2つまで○）

- 心のバリアフリーのために特に必要な取組は、「学校における、お互いを理解し、思いやる心を育てるための教育や、障害者などさまざまな人と触れ合う機会の充実（75.1%）」が最も多く、「わかりやすい情報発信（45.9%）」、「障害者や外国人など、さまざまな住民が交流する機会を増やす（22.7%）」が続いている。
- 令和4年度の調査結果と比較すると、大きな変化はみられない。

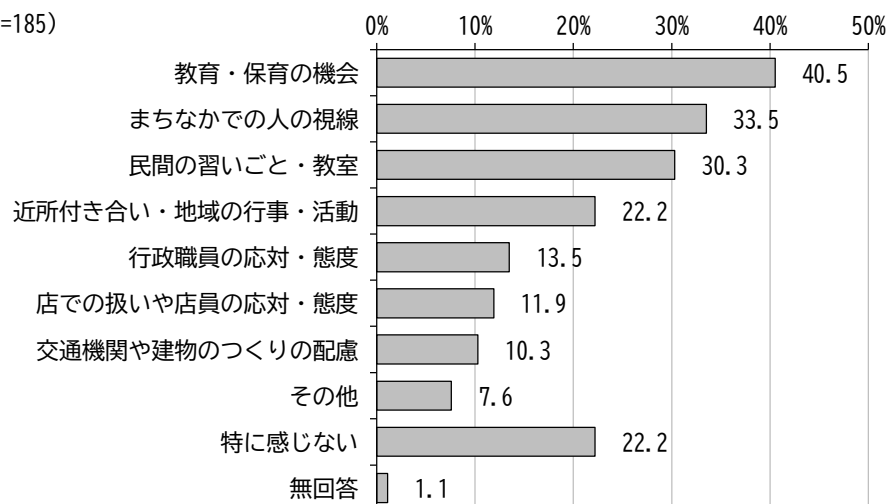
【複数回答】



問 33 あなた（保護者）は、お子さんが生活する中で、障害や病気への差別や偏見、配慮のなさを感じることはありませんか。（いくつでも○）

- お子さんの障害や病気への差別や偏見、配慮のなさを感じる場面は、「教育・保育の機会（40.5%）」が最も多く、「まちなかでの人の視線（33.5%）」、「民間の習いごと・教室（30.3%）」が続いている。

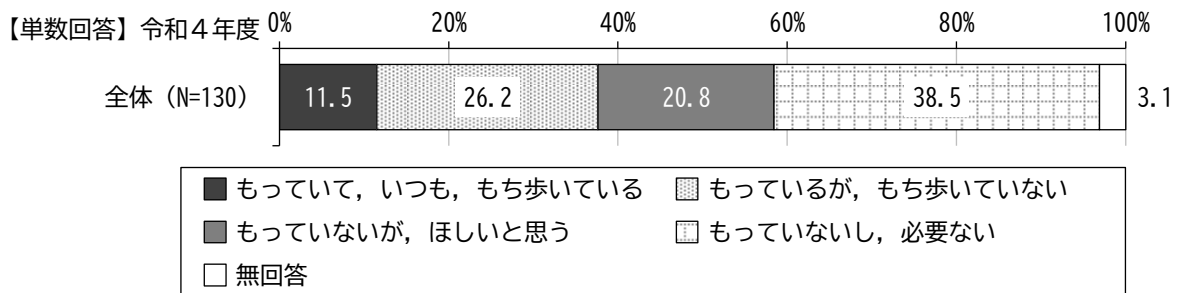
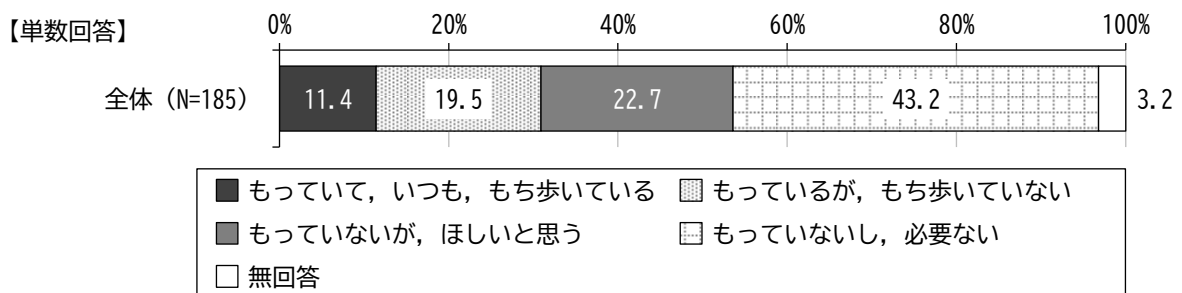
【複数回答】全体 (N=185)



問 34 お子さんは、調布市が配布しているヘルプカード、ヘルプマークを持っていますか。
(それぞれ1つに○)

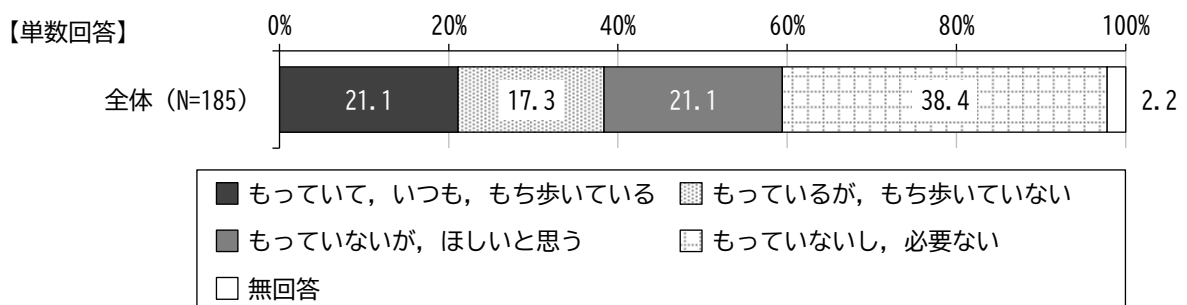
①ヘルプカード

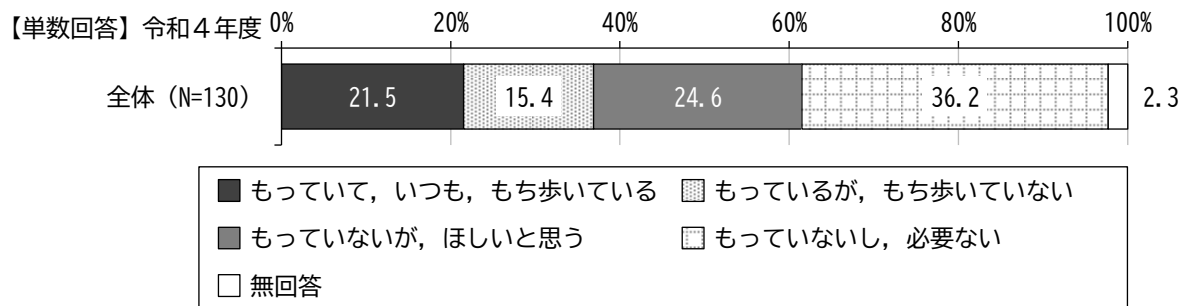
- ヘルプカードの所持状況は、「もっていないし、必要ない (43.2%)」が最も多く、「もっていないが、ほしいと思う (22.7%)」、「もっているが、もち歩いていない (19.5%)」が続いている。
- 令和4年度の調査結果と比較すると、「もっているが、もち歩いていない」が6.7ポイント低く、「もっていないが、ほしいと思う」と「もっていないし、必要ない」を合わせた『もっていない』が6.6ポイント高くなっている。



②ヘルプマーク

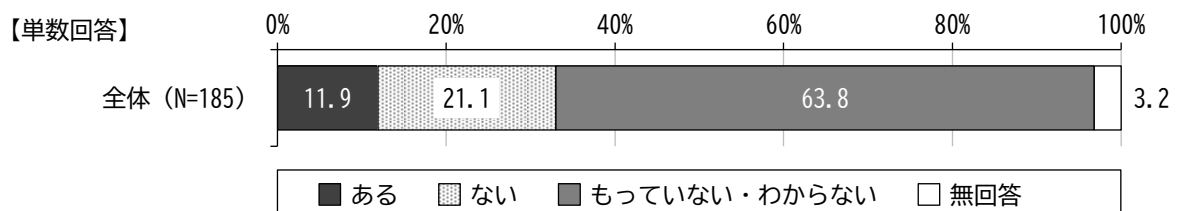
- ヘルプマークの所持状況は、「もっていないし、必要ない (38.4%)」が最も多く、「もっているが、もち歩いていない (17.3%)」、「もっていないが、ほしいと思う (21.1%)」が続いている。
- 令和4年度の調査結果と比較すると、大きな変化はみられない。





問 35 お子さんは、ヘルプカードやヘルプマークをもっていることで、周囲の人に配慮してもらったり、手助けをしてもらったりしたことがありますか。(1つに○)

- ヘルプカードやヘルプマークをもっていることで、周囲の人に配慮してもらったり、手助けをしてもらったりした経験は、「もっていない・わからない (63.8%)」が最も多く、「ない (21.1%)」, 「ある (11.9%)」が続いている。

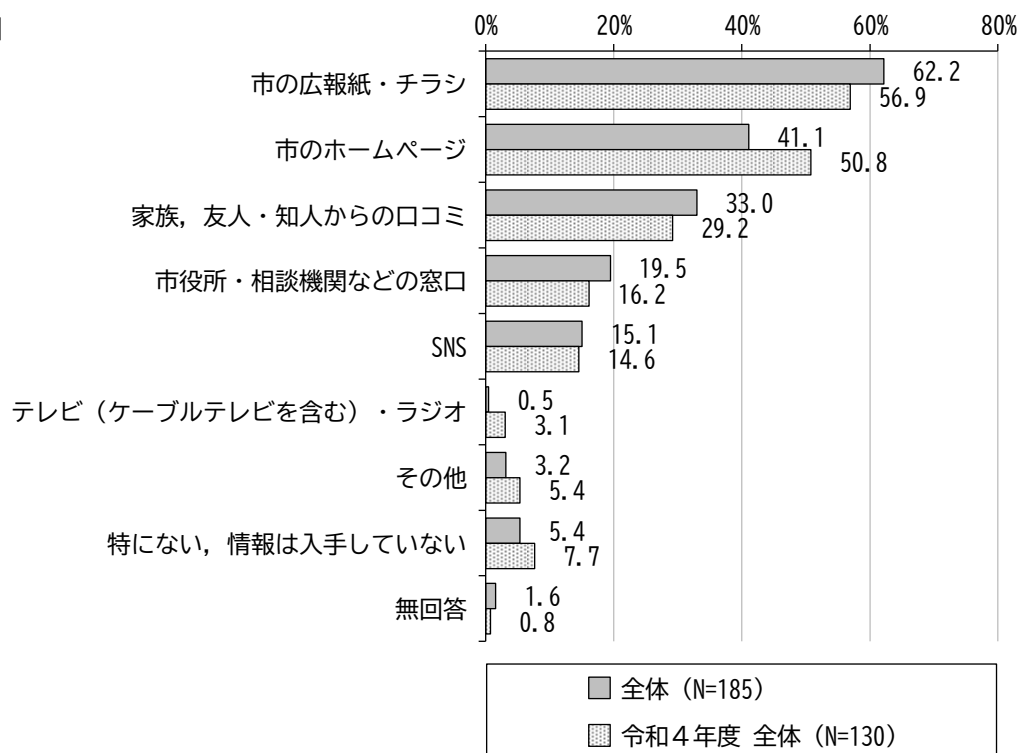


7 保護者の方に、デジタルの活用についておたずねします

問 36 あなた（保護者）は、調布市の保健福祉施策（サービス）に関する情報をどこから入手していますか。（いくつでも○）

- 市の保健福祉施策（サービス）に関する情報の入手先は、「市の広報紙・チラシ（62.2%）」が最も多く、「市のホームページ（41.1%）」、「家族、友人・知人からの口コミ（33.0%）」が続いている。
- 令和4年度の調査結果と比較すると、「市の広報紙・チラシ」が5.3ポイント高く、「市のホームページ」が9.7ポイント低くなっている。

【複数回答】



問 37 お子さんやあなた（保護者）がスマートフォンなどの情報端末やパソコンなどを使ってほしいこと、暮らしの利便性を高めるアイデアがございましたら、教えてください。（自由記述）

○ スマートフォンなどの情報端末やパソコンなどを使ってほしいこと、暮らしの利便性を高めるアイデアについてのご意見、ご提案を自由記述形式でたずねたところ、31 件の回答があった。以下に項目別の意見数を掲載する。

項目	意見区分	意見数
ア 教育のデジタル化		8
イ 市のデジタル化	①申請などのデジタル化 ②情報提供の充実	21
ウ その他		2
合計		31

○ 項目別に意見を抜粋して掲載する（原文通り）。 ※性別はお子さん

ア 教育のデジタル化

- 生活の中で使える絵，そういうカードがあるのは知っているのですが，使ったことはなく，スマホで見せることができれば便利だと思う。（男性，小学校就学前）
- 就業施設の募集人数，空き一覧の提示や，空きが出た際に登録をしていれば通知が来るアプリがあれば良い。とにかく高校入学後はずっと進学先があるのかと不安に思う日々なので。口コミもあると良い。「みんなの高校」みたいな…。（男性，小学校就学後）
- 障害がある子どもの利用できる学習支援機関（塾・教室・習い事・放課後デイなどで）が少ないと感じる。日常生活におけるルール（横断歩道の渡り方などの交通ルール，困ったときにどうすればよいか，買い物の仕方など）や特性のあることもが理解できるような学習支援教材などを配信してほしい。調布市の小学校特別支援学級では，理科・社会の授業がない。英語の授業も少ない。何かに興味を持つ可能性があるため，例えば都道府県，生物や動物，宇宙や歴史，ローマ字など，一般的な知識について学習動画などを配信してほしい。（女性，小学校就学後）
- 情報端末を使って，障害を持つ本人の情報を，本人の日常生活を支援してくれる人々が共有できるとよいと思う。本人の体調，最近の健康状態，配慮事項，これまでの経緯はもちろん，支援する上での意思疎通の方法を共有することで，本人も混乱せずさらに表出手段やコミュニケーション能力を伸ばしていけると思う。一定の踏み込んだ情報に関してはパスワード等でしっかり情報開示の管理をしつつ，本人をサポートする人々の認識を揃えるための情報共有ツールとできればよいと思う。（女性，小学校就学後）

イ 市のデジタル化

①申請などのデジタル化

- 子供の手帳・等級・年齢を登録すると行政上実施する申請や手帳更新のスケジュールや申請書がメール・LINEなどで送られてくるサービス。(男性, 小学校就学前)
- ヘルパーさんが利用できるとしたら定期利用に加えてスマホなどで臨時利用の希望が出せて、ヘルパーさんとのマッチングができたら便利だと思う。介護タクシーなども同じく。1件1件予約ができるか電話していかなければならない。(男性, 小学校就学後)

②情報提供の充実

- SNSを使って、障害者の方はどんな支援をしてもらえたら嬉しいのか、そして、生きやすく、住みやすくなるのかを視覚的に伝えていく。障害のある方の職場や作業内容を映像で伝える。決して不幸ではなく、幸せである状態を見せる。仕事情報なども発信して地域を活性化させる。見える化しないため、勝手な憶測が進み、不合理に態度をされることに繋がる可能性もあるので、どんどん情報発信していき、同時にファン化へ繋げられたらいいと思う。(男性, 小学校就学後)
- 愛の手帳(またはミライロID)を活用した割引情報の共有(男性, 小学校就学前)
- 療育や放課後デイに関しては市内で不足があるのであれば、周辺区市の情報もまとめて欲しい。支援やイベントの一覧にアクセスできるアプリ等があったら助かる。(女性, 小学校就学前)
- 受給者証や愛の手帳で受けられるサービスの一覧が欲しい。発達への悩みに対しての攻略チャートのような支援や進路の全体がわかりやすい物が欲しい。(男性, 小学校就学前)

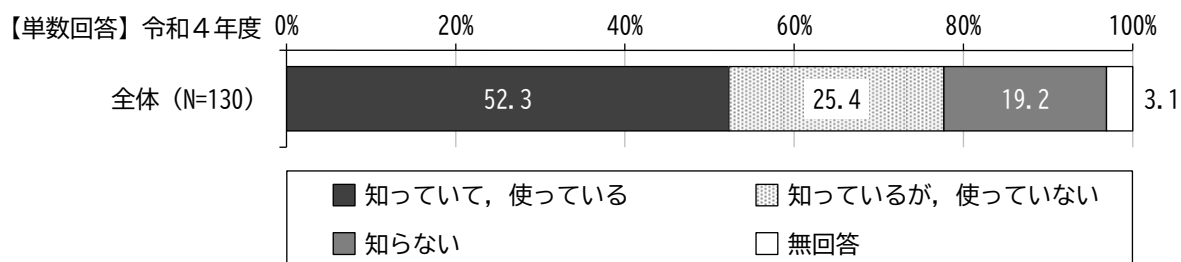
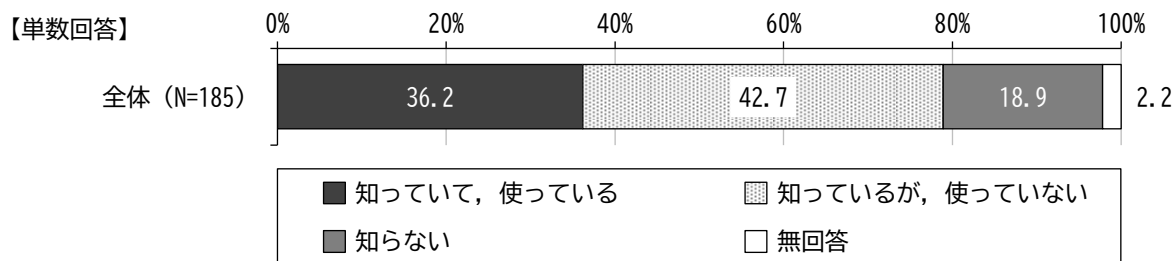
ウ その他

- 同じような悩みを持つ親同士のオンラインコミュニティサイトなどがあったら嬉しい。(男性, 小学校就学後)

8 保護者の方に、調布市の障害者福祉施策についておたずねします

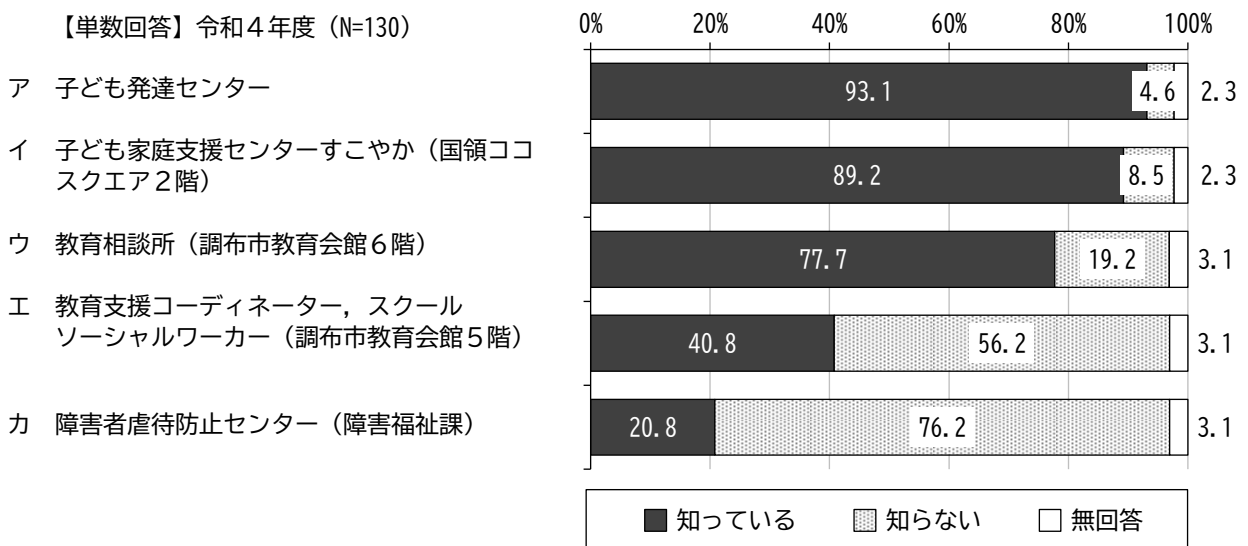
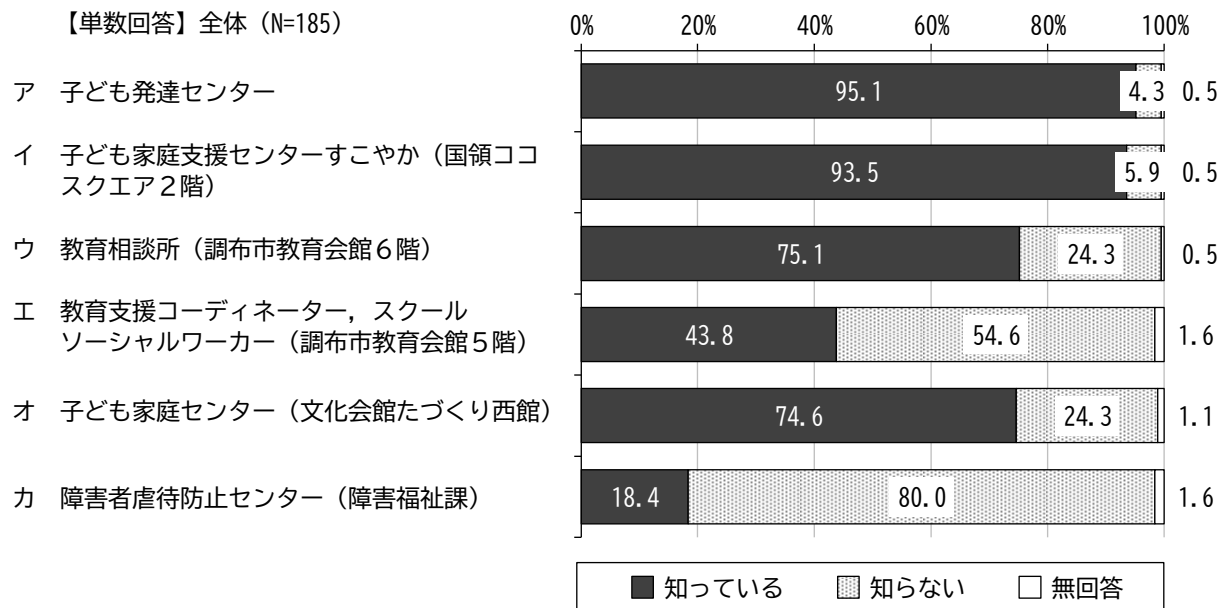
問 38 あなた（保護者）は、調布市が個別配布している「i（あい）-ファイル」をご存知ですか。（1つに○）

- i（あい）-ファイルについて、「知っていて、使っている」と「知っているが、使っていない」を合わせた『知っている』の割合は78.9%となっている。
- 令和4年度の調査結果と比較すると、「知っていて、使っている」の割合は16.1ポイント低く、「知っているが、使っていない」の割合は17.3ポイント高くなっている。



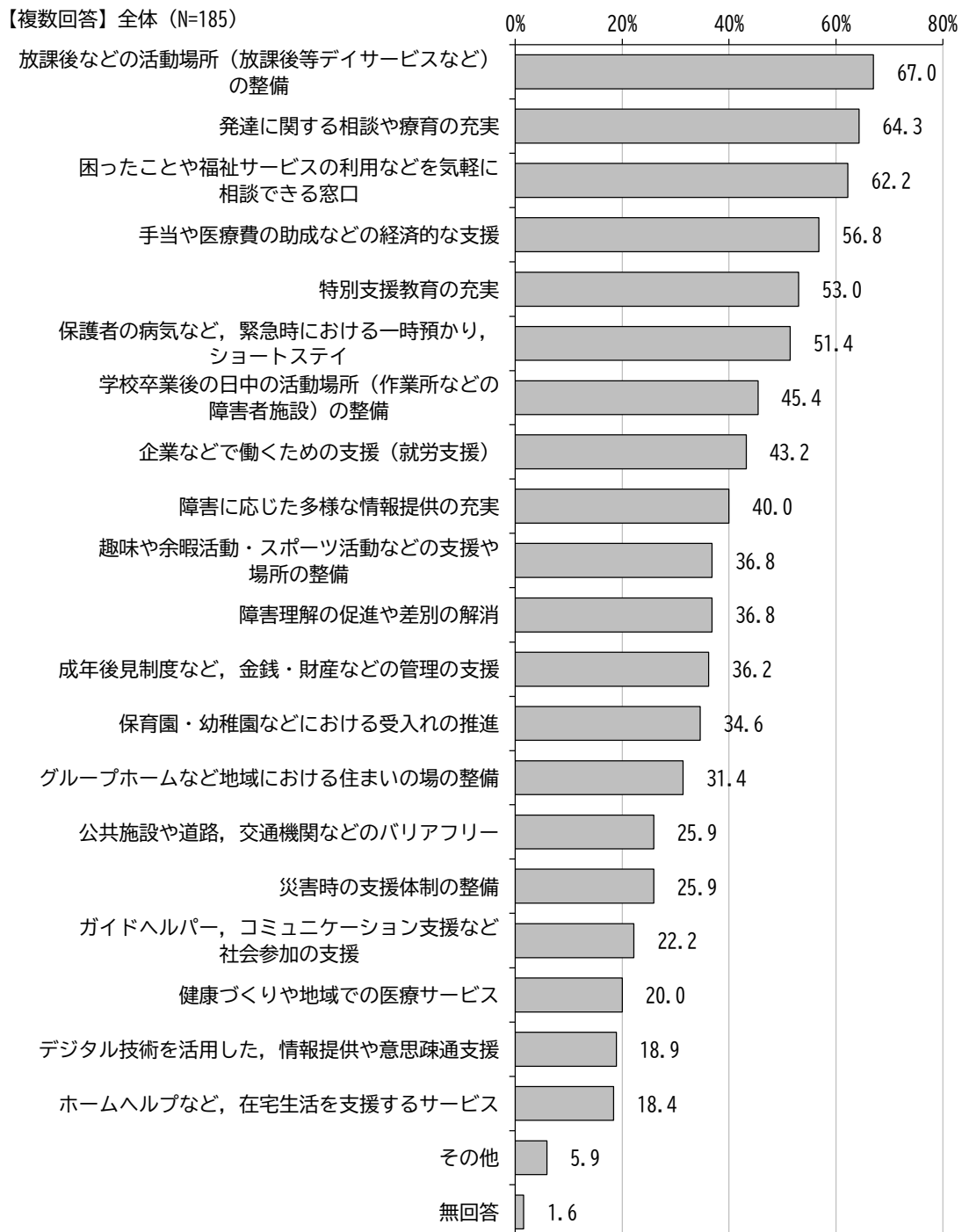
問 39 あなたは次の調布市の相談窓口や制度を知っていますか。(それぞれ1つに○)

- 市の相談窓口について、「知っている」の割合は、[ア 子ども発達センター (95.1%)] が最も多く、[イ 子ども家庭支援センターすこやか (国領ココスクエア 2 階) (93.5%)], [ウ 教育相談所 (調布市教育会館 6 階) (75.1%)] が続いている。
- 令和 4 年度の調査結果と比較すると、[ウ 教育相談所 (調布市教育会館 6 階)] で「知らない」の割合が 5.1 ポイント高くなっている。



問 40 調布市の障害児福祉施策（サービス）をより充実していくために、あなた（保護者）が特に重要と考える取組は何ですか。（いくつでも○）

- 市の障害児福祉施策（サービス）の充実のために重要な取組は、「放課後などの活動場所（放課後等デイサービスなど）の整備（67.0%）」が最も多く、「発達に関する相談や療育の充実（64.3%）」、「困ったことや福祉サービスの利用などを気軽に相談できる窓口（62.2%）」が続いている。



問 41 市民同士がお互いに支え合い、住み慣れたまちで誰もが安心して暮らすことのできるまちづくりを進めるためには、以下の①～③の取組が重要です。これらの取組について、ご意見、ご提案をお聞かせください。（自由記述）

- 市民同士がお互いに支え合い、住み慣れたまちで誰もが安心して暮らすまちづくりの取組についてのご意見、ご提案を自由記述形式でたずねたところ、105 件の回答があった。以下に項目別の意見数を掲載する。

項目	意見区分	意見数
①地域活動の活性化・市民同士の支え合いの仕組みづくり	ア 障害への理解 イ 交流 ウ 行政・その他	14
②相談・サービスの充実	ア 市のサービス イ 相談体制の充実 ウ サービス等の情報提供	42
③安全・安心の確保等	ア 交通安全 イ 防犯・防災の強化 ウ 暮らし	18
取組番号の選択なし		5
3つの取組以外で気になっていること	ア 教育・保育の充実 イ 障害者支援 ウ 共生社会の推進	26
合計		105

- 項目別に意見を抜粋して掲載する（原文通り）。 ※性別はお子さん

①地域活動の活性化・市民同士の支え合いの仕組みづくり

ア 障害への理解

- 親の会はとても重要な役割を果たしていると思います。PTAと親の会がもっと連携していけると良いと思います。（男性、小学校就学後）
- 様々な人が同じまちで一緒に暮らしていくためには、お互いを知ることが何よりも重要だと思う。そしてお互いを知るためには、多様な人々の接点が日常生活の中に当たり前にうまれるまちづくりという視点が欠かせないのでは、という思いも強い。人々の多く集まる場所に福祉サービスの拠点を構えることで、お互いを支え合い、誰にとっても安心・安全に暮らせるまちづくりを目指すという調布市の姿勢が体现されるのではないだろうか。支援を必要とする人々が暮らしやすいということは、誰にとっても暮らしやすい環境であるということを根底に置いたまちづくりを進めていただけるよう心から願っている。（女性、小学校就学後）

イ 交流

- せっかく調布ヶ丘に地域福祉センターがあるのに選挙の時と特定の集団のイベント（赤ちゃんと母のすこやかなイベント、ヨガ、シニアの集まり）でしか行くことが無

い。年1回のわくわく広場だけでなく、普段から「第3の居場所」的な使い方や、多世代交流，異文化交流，インクルーシブな居場所，誰でもカフェ，みたいな試みがあったら面白いと思うし，同じ地域住民同士が顔見知りになれる場所になると思います。（女性，小学校就学後）

- 市民同士の支え合いを否定するものではないが，当事者でないと理解できないことが多いため，まずは，直接的な支援の充実（療育先の拡充や，学童の障害児枠の増加）を希望する。子どもが生活していく場としては，長期的には，子どもが成長するにしたがって学校に適応し自分の居場所を見つけて周りに頼りながらもそれなりに快適に過ごせるよう，支援級や支援学校に閉じた枠組みだけでなく日常的な交流機会が必要だと感じる。行事のみの参加ではお客様扱いになってしまい特別扱いという概念がなくなる。（女性，小学校就学後）

ウ 行政・その他

- 調布市への年齢層の若い転入者が増えていき，市全体で自治会参加率や地域活動への参加率等が低下しているのではないかと危惧しています。これらの地域活動が，支え合いの土台になっていると思うので，継続的に自治会や地域活動の呼びかけを続けていたり，それぞれの活動，団体の課題を吸い上げて解決していく仕組みづくりを市役所の方々も巻き込みながらしていただければと思います。（男性，小学校就学後）

②相談・サービスの充実

ア 市のサービス

- グループホーム(知的など障害者向け)がとても少なく，子供の将来が心配。A型事務所(就労支援)が調布市内になく，入所したい要望は沢山あるのに困っている。B型事務所(就労支援)も少ない。希望の職に就けない。この3つの施設が増えるよう，何か対策をしてほしい。（男性，小学校就学後）
- 療育をもっと充実してほしい。3歳児検診で療育が必要となっても，なかなかすぐに開始できなかつたり，開始できても月1回など数が少なかった。療育はなるべく早く開始して定期的に行えると効果的だと思うので，そういった場所をもっと充実してほしいです。よろしくお願いします。（男性，小学校就学前）
- 言語聴覚士や作業療法士をもっと増やしてサービスの充実をお願いしたいです。調布市は他の市や区と比べると少ないそうです。発達障害児は多いと思うので，より多くの人が発達支援を受けられるように言語聴覚士や作業療法士，あと心理士も増やしてほしいです。（男性，小学校就学前）
- 親が働き続けるためには，少なくとも8～19時で預かってもらえる場が必要です。子供が大きくなればなるほどその場はなくなります。収入がなくては子供を育てられませんし，施設利用が高額だと家計を圧迫します。ひとり親の家庭などはなおさらです。親の就労支援のサービスを充実させてほしいです。（男性，小学校就学後）

イ 相談体制の充実

- 未就学児までは調布子供発達センターで色々な相談や療育を受けられる機会があるが，小学生になったらもうゼロになってしまう。通級教室など学校にはあるが療育専

門の先生ではないのでどうなのかなと思う。通級教室とことばの教室、両方通えない今のシステムにも疑問がある。発達特性がある子でことば発音についても不明瞭な子は多いと思うので片方しか通えないのは不便。知的能力に問題が無く、発達特性がある子(グレー)については特に公的支援もなく、見た目が普通なので困りごともしっかりにくく、理解されにくいのでやはり専門の先生を学校に配置してもらえたら嬉しいなと思います。(男性、小学校就学後)

- 子供発達センターを利用していますが就労している親にとっては平日の通所が厳しいです。最初の面談のみでなく、土日も対応していただけると助かります。グレーゾーンと呼ばれる子供も近年増加。働く親も増え続ける今、そのような取り組みをしていただければより充実した支援が受けられると感じます。(男性、小学校就学前)
- 相談や問い合わせ等をした際にはきちんとご対応していただける窓口等がありますが、個々に対しての提案(市報やチラシ、SNSで発信される福祉系のイベントや講義等ではなく)があっても良いかと思う。なかなか忙しい生活の中で、気付かない、知らないことも沢山あるかと思うので、市が1人1人の障害児に対応するのは困難かとは思いますが、それに近い取り組みをして頂けると助かることもあるかと思います。(男性、小学校就学後)

ウ サービス等の情報提供

- 発達障害グレーの子がいますが、最初の子で放課後デイサービス等の施設もよくわからず、途方に暮れました。また、発達センターを利用するにもかなりの待ち時間を要しました。市役所の方でも情報(民間療育や発達専門病院等も)あったら教えて欲しかったです。(女性、小学校就学後)

③安全・安心の確保等

ア 交通安全

- 歩行者道路の狭い所が多々ある。自転車用の道路も整備してほしい。車道を走っていると車との距離が近いので怖い。息子には言葉がまだ通じないので車道側に身を乗り出したり、手を出したりするので毎回ヒヤヒヤしています。(男性、小学校就学前)
- 通学路など、普段子供達がよく利用する箇所において、安全対策を徹底してほしいと思います。道路にはみ出してきている木々などは、所有者に対して積極的に行政から働きかけを行って欲しいです。(男性、小学校就学後)

イ 防犯・防災の強化

- 障害によっては自宅から失踪・行方不明になる方もいます。我が家も2回程自宅から出ていってしまい、とても慌てました。交番で聞き取りをしていただいている間にどんどん遠くに行ってしまうのではと不安でした。ヘルプマークを手に入れた時点で予め市内の交番や駅に(希望する場合は)情報提供しておいて、いざという時に間髪入れず搜索してもらえると安心です(一度でも行方不明になるとそのような情報共有は市内の警察間であるのでしょうか?知らないので書きました)。避難所において、障害のある方が居づらいという報道をよく見ます。障害のある方、配慮の必要な方のブース(というかフロアや部屋)を予め区分しておくと思えば安心して居続けられると思

ます。お互いさま、と思えるもの同士なら厳しい状況でも気配りできると思うからです。周りに「申し訳ない」と思うことがとても負担なので。(男性、小学校就学後)

- 昨今、支援者による虐待や性的虐待のニュースが目立ち親としても簡単に預け先を決めることができません。人手不足は、どの業界でも共通問題ではありますが、教師のように過去の犯罪履歴等を確認いただける機能があると有り難いです。(女性、小学校就学後)
- 災害時に薬を含む医療の受け方がどうなるのか調べてもわからない。子供の粉薬など、普段から近くの薬局では手に入らないものもあり、不安に思っている。(男性、小学校就学前)

ウ 暮らし

- 重度知的障害者に対応できる入所施設やグループホーム、そして行動援護サービスが不足していると感じています。グループホームの数は増加傾向にあると認識していますが、重度知的障害者(特に強度行動障害を伴う方)を受け入れられる施設は依然として少なく、利用が困難です。実際に、私の息子は重度知的障害ですが、過去に小規模ショートステイの利用さえ断られた経験があり、グループホームが増えても「行き先がない」という切実な問題に直面しています。また、行動援護の提供事業者や対応できる人材も不足しており、必要な支援を受けられていません。【要望事項】
1. 重度知的障害者を安全かつ安心に受け入れられる施設(入所施設、グループホーム、短期入所施設を含む)の整備拡充をお願いします。「住み慣れた地域での生活」を実現するため、居住地域内でサービスを利用できるよう、地域偏りのない施設整備を推進していただきたいです。
2. 行動援護サービスの提供体制の強化。(男性、小学校就学後)

3つの取組以外で気になっていること

ア 教育・保育の充実

- 保育関連になりますが障害児も含め健常児も受け入れしてもらえる年末(年始)の保育を再開してもらいたいです(保育園)。近隣の市では受け入れがありますが、調布市ではここ数年とりやめているので周りからも不便という声をよく聞きます。(男性、小学校就学前)
- 調布市の小学校に子どもを通わせているが、インクルーシブ教育が遅れていると感じる。通常級と支援級には隔たりがある。隣の川崎市では、インクルーシブ教育が進んでいると聞く。通常級支援級と隔たりがなく、当該児童は特性に合わせて授業を行き来しており、それが子ども達にとって通常であり、当たり前のように捉えているとのこと。このように子どもの時から、色んな人がいるということを感じること。このように子どもの時から、色んな人がいるということを感じること。調布市もインクルーシブ教育が進んで欲しいと思う。(女性、小学校就学後)
- 調布市の小学校の支援級はなぜ知的級しかないのでしょうか。発達障害があると通常級では生活が難しい児童もたくさんいます。情緒級の設置をお願いします。(女性、小学校就学前)

イ 障害者支援

- 発達について受診できる病院が少ない。他の市に行くしかないのが現状です。(男性, 小学校就学後)
- 就労後の生活です。現在両親ともフルタイム勤務ですが(公務員の為時差利用)作業所就労となると時間が短く, それ以外の時間は家庭にいるため, フルタイムは諦めなければならないかと残念な気持ちです(専門職でもある為…)。ヘルパーさんも慢性的に不足しているとのことで, 夕方の時間の過ごし方が課題です。(男性, 小学校就学後)
- A型B型の拡張や補助金, 障害者年金などの保障を充実させて経済的安定できるようになればと思います。(男性, 小学校就学後)

ウ 共生社会の推進

- このようなアンケートの実施に感謝します。ありがとうございます。年々インクルーシブ, 多様化が世の中の的に進み, 素晴らしいと思いますが, まず障害児の子育て中の親世代は, 毎日を生きるのに精一杯です。私は特別支援学校, 放課後デイ, ショートステイと多くの福祉サービスを利用できており, 恵まれている方ですが, 人手不足や新規の受付取りやめ中とか, 利用できない方も多く, 私もこれらのサービスがなくなると, 途端に全ての負担が自分に来ることが不安です。まずは福祉サービスに就いてくださる人材確保, 雇用促進, 給料アップ, そして誰でもできることではないので, 研修や育成など, このあたりもお願い致します。(男性, 小学校就学後)

第6章 調査間での共通質問

1 日頃のコミュニケーション

①近所付き合いの程度【市民，高齢者】

ご近所付き合いは、どの程度していますか。（主なもの1つに○）

- 「家を行き来するなど、親しくしている」と「立ち話をする程度」を合わせた『親密な近所付き合いをしている』の割合は、市民 28.2%，高齢者 46.9%となっている。

単位：％	親しく 家を行き来する など、	立ち 話をする 程度	あいさ つをする 程度	い ない 近所 付き 合 い を し て	無 回 答
市民（N=924）	5.7	22.5	55.3	14.2	2.3
高齢者（N=633）	12.5	34.4	43.6	7.1	2.4

②近所付き合いの必要性【市民，高齢者】

どのような時にご近所付き合いの必要性を感じますか。（それぞれ1つに○）

- 近所付き合いの必要性について、「とても感じる」と「感じる」を合わせた『感じる』の割合は、市民，高齢者ともに〔ア 緊急時や災害時の助け合いが必要なとき〕が最も多く，〔エ 高齢者やひとり暮らしの人への支援・見守り〕が続いている。

<『感じる』の割合>

単位：％	ア 合 緊 急 が 必 要 な 時 の 助 け	イ た 日 常 生 活 で あ る つ と し	ウ 安 子 全 ど 確 も た ち の 見 守 り ・	エ の 高 人 齢 者 の や 支 援 ・ 見 守 り し	オ 必 話 し な 相 手 や 相 談 相 手 が
市民（N=924）	79.0	38.9	58.4	63.2	35.2
高齢者（N=633）	79.6	44.9	50.0	65.2	44.6

③孤独・孤立の状況【市民，高齢者，障害者（18歳以上），障害児保護者】

次の項目についてあなたはどれくらいの頻度で感じていますか。（それぞれ1つに○）

- 孤独・孤立の状況について，「時々ある」と「常にある」を合わせた『ある』の割合は，市民，高齢者，身体障害（64歳以下），身体障害（65歳以上），知的障害，難病，障害児保護者は「ア 自分には人とのつきあいが無いと感じることがある」，精神障害は「イ 自分は取り残されていると感じることがある」が最も多くなっている。

<『ある』の割合>『ある』の割合は，ア～エそれぞれで「時々ある」と「常にある」の回答合計

単位：％		ア 自分 には 人との つきあ いがな いこと を感じ ることが ある	イ 自分 は取り 残され ていて いると 感じる ことが ある	ウ 自分 は他の 人たち から孤 立して いると 感じる ことが ある	エ 自分 は孤独 であると 感じる ことが ある	(参考) 「国」※ 「孤独 である と感じ ること がある」
市民（N=924）		41.1	16.4	15.2	17.6	19.7
高齢者（N=633）		31.7	10.1	10.8	12.7	
障害者 （18歳以上）	身体障害（64歳以下）（N=238）	45.0	31.9	30.2	34.9	
	身体障害（65歳以上）（N=190）	35.7	23.2	20.5	23.7	
	知的障害（N=240）	43.7	30.8	28.8	29.2	
	精神障害（N=392）	56.4	60.8	59.2	58.9	
	難病（N=348）	34.8	24.7	22.4	25.0	
障害児保護者（N=185）		50.3	42.7	42.1	38.9	

※「令和6年人々のつながりに関する基礎調査」（内閣府）において，記載の問に「しばしばある・常にある」，「時々ある」と回答した人の割合

④コミュニケーションの頻度【市民，高齢者，障害者（18歳以上），障害児保護者】

家族や友人たちとのコミュニケーション頻度についておたずねします。あなたと同居していない家族や友人たちとのコミュニケーション頻度について，お答えください。
(それぞれ1つに○)

ア 直接会って話す（手話等を含む）

○ 直接会って話す（手話等を含む）頻度は，市民，障害児保護者は「月1回未満」，高齢者は「月1回程度」，身体障害（64歳以下），身体障害（65歳以上），知的障害，難病は「週4～5回以上」，精神障害は「全くない・できない」が最も多くなっている。

単位：％		週4～5回以上	週2～3回程度	週1回程度	2週間に1回程度	月1回程度	月1回未満	全くない・できない	無回答
市民（N=924）		16.6	13.9	12.7	10.8	17.2	18.3	6.6	4.0
高齢者（N=633）		11.7	17.9	17.9	7.7	19.7	11.2	7.6	6.3
障害者（18歳以上）	身体障害（64歳以下）（N=238）	25.6	8.4	8.4	4.6	14.3	17.6	11.3	9.7
	身体障害（65歳以上）（N=190）	17.9	10.0	14.2	8.4	11.6	11.1	11.1	15.8
	知的障害（N=240）	26.7	7.1	4.2	6.7	10.0	15.8	17.9	11.7
	精神障害（N=392）	15.1	10.5	9.9	7.7	13.0	16.1	19.9	7.9
	難病（N=348）	22.1	9.5	12.6	10.6	13.2	16.7	6.9	8.3
障害児保護者（N=185）		13.0	13.5	14.1	11.4	13.5	24.3	8.6	1.6

イ 電話（ビデオ通話含む）

○ 電話（ビデオ通話含む）の頻度は，市民，難病は「月1回未満」，高齢者，障害児保護者は「月1回程度」，身体障害（64歳以下），身体障害（65歳以上），知的障害，精神障害は「全くない・できない」が最も多くなっている。

単位：％		週4～5回以上	週2～3回程度	週1回程度	2週間に1回程度	月1回程度	月1回未満	全くない・できない	無回答
市民（N=924）		7.8	11.0	12.3	10.9	17.9	20.7	14.7	4.7
高齢者（N=633）		8.4	11.8	16.3	10.4	16.9	14.7	10.6	10.9
障害者（18歳以上）	身体障害（64歳以下）（N=238）	11.8	7.6	10.1	5.9	13.4	17.6	21.0	12.6
	身体障害（65歳以上）（N=190）	10.0	10.0	13.2	10.0	8.9	8.9	15.8	23.2
	知的障害（N=240）	5.4	4.6	3.3	3.3	7.9	14.2	43.8	17.5
	精神障害（N=392）	12.5	7.1	8.2	5.4	11.0	18.4	28.6	8.9
	難病（N=348）	11.2	8.9	17.0	9.2	13.8	19.5	9.5	10.9
障害児保護者（N=185）		5.4	12.4	9.7	11.9	22.7	18.9	17.3	1.6

ウ SNSや電子メールなど

- SNSや電子メールなどの頻度は、市民、身体障害（64歳以下）、精神障害、難病、障害児保護者は「週4～5回以上」、高齢者、身体障害（65歳以上）、知的障害は「全くない・できない」が最も多くなっている。

単位：％		週4～5回以上	週2～3回程度	週1回程度	2週間に1回程度	月1回程度	月1回未満	全くない・できない	無回答
市民（N=924）		27.8	14.8	12.7	9.7	9.7	8.2	11.4	5.6
高齢者（N=633）		14.8	13.1	11.7	7.6	9.5	8.2	22.1	13.0
障害者 （18歳以上）	身体障害（64歳以下）（N=238）	25.2	8.8	11.8	4.6	8.8	9.2	19.7	11.8
	身体障害（65歳以上）（N=190）	10.5	9.5	9.5	4.7	5.8	2.6	28.4	28.9
	知的障害（N=240）	14.2	5.8	2.9	1.3	4.2	7.1	44.2	20.4
	精神障害（N=392）	24.0	9.2	9.7	7.1	7.1	10.7	21.2	11.0
	難病（N=348）	24.1	16.1	12.1	7.8	6.6	9.5	12.1	11.8
障害児保護者（N=185）		25.4	18.9	17.3	12.4	11.9	7.6	4.9	1.6

2 市民同士の支え合い、地域活動

①手助けを「してほしい」事柄，手助けを「できる・してもいい」事柄【市民，高齢者】

あなたは次の事柄について、家族以外のまわりの人から手助けをしてほしいと思いますか。また、まわりの人に手助けできること（してもいいこと）はありますか。①手助けしてほしいか、②手助けできるかについて、それぞれ1つに○を付けてください。

- 家族以外のまわりの人から手助けを「してほしい」事柄の上位は、市民で〔キ 災害時避難の手助け〕，〔ア 安否確認の声かけ〕，〔ク 具合がよくない時に病院などに連絡する〕，高齢者で〔キ 災害時避難の手助け〕，〔ア 安否確認の声かけ〕，〔ク 具合がよくない時に病院などに連絡する〕となっている。
- また、手助けを「できる・してもいい」事柄の上位は、市民で〔ア 安否確認の声かけ〕，〔キ 災害時避難の手助け〕，〔ク 具合がよくない時に病院などに連絡する〕，高齢者で〔ア 安否確認の声かけ〕，〔ク 具合がよくない時に病院などに連絡する〕，〔キ 災害時避難の手助け〕となっている。

<「してほしい」の割合>

単位：％	ア 安 否 確 認 の 声 か け	イ ち よ つ と し た 買 い 物	ウ 食 事 や 掃 除 ・ 洗 濯 の 手 伝 い	エ 通 院 の 送 迎 や 外 出 の 手 助 け	オ 子 ど も の 預 か り	カ 話 し 相 手 や 相 談 相 手	キ 災 害 時 避 難 の 手 助 け	ク 病 院 な ど に よ く 連 絡 し る に 困 る
市民（N=924）	53.2	13.2	9.2	15.2	13.4	23.2	69.7	47.9
高齢者（N=633）	44.7	14.8	10.1	16.4	6.3	24.8	60.2	44.4

<「できる・してもいい」の割合>

市民（N=924）	73.3	49.4	25.6	27.2	23.6	47.7	72.6	66.5
高齢者（N=633）	61.9	42.2	19.9	22.1	16.4	44.2	56.9	58.8

②家族以外のまわりの人に手伝いや手助けをする（してもらう）ために必要な取組
【市民，高齢者】

家族以外のまわりの人に、手伝いや手助けをする（してもらう）にあたり、どのような取組があるとよいと思いますか。（いくつでも○）

- 家族以外のまわりの人に手伝いや手助けをする（してもらう）ために必要な取組は、市民、高齢者ともに「手助けしてほしい人と手助けできる人をコーディネート（紹介）する仕組み」が最も多く、「手助けしてほしい人や事柄を知ることのできる仕組み」が続いている。

単位：%	手助けしてほしい人との手助けができる人（紹介）	手助けしてほしい人や事柄を知ることのできる仕組	手助けできる人の人柄やスキルを知ることのできる仕組み	その他	取組は必要ない（できる時はする）	わからない	無回答
市民（N=924）	48.3	44.5	33.8	2.1	13.0	14.5	5.4
高齢者（N=633）	39.0	33.5	26.1	2.2	17.2	22.3	5.8

③地域活動・ボランティア活動の取組状況と今後の取組意向【市民，高齢者】

あなたは地域での活動に参加したり，地域のために日頃から心掛けていますか。①現在の状況，②今後の意向をお答えください。（それぞれ1つに○）

- 地域での活動等で「取り組んでいる」活動をみると，市民は〔ケ 趣味・習いごと・健康づくり（運動・スポーツ）などの活動〕が最も多く，〔キ 道路等のごみ拾い，自宅周辺の清掃，環境美化，環境保全・自然保護などの活動〕が続いている。高齢者は〔ケ 趣味・習いごと・健康づくり（運動・スポーツ）などの活動〕が最も多く，〔キ 道路等のごみ拾い，自宅周辺の清掃，環境美化，環境保全・自然保護などの活動〕が続いている。
- 関心のある（「取り組みたい」，「興味がある」）活動をみると，市民は〔カ 防災訓練や災害時に救援・支援をする活動〕が最も多く，〔イ 高齢者を支える行動や活動〕が続いている。高齢者は〔ケ 趣味・習いごと・健康づくり（運動・スポーツ）などの活動〕が最も多く，〔キ 道路等のごみ拾い，自宅周辺の清掃，環境美化，環境保全・自然保護などの活動〕が続いている。

<「取り組んでいる（心掛けている状態を含む）※1」の割合>

単位：％	ア P T A の や 世 帯 活 動 ※ 2	イ 高 齢 者 を 支 え る 行 動 や 活 動	ウ や 障 害 の あ る 人 を 支 え る 行 動	エ 伝 り お 祭 り や シ ン ク レ イ ス な ど の 活 動	オ 地 域 交 通 の 安 全 を 犯 す 防 止 な ど の 活 動	カ 支 援 を 訓 練 す や 活 動 に 救 援 ・	キ 保 全 の 路 等 の 自 然 ， ご み 保 護 な ど の 活 動	ク 自 治 会 な ど の 区 協 議 会 ・ 老 人	ケ の 活 動 （ 趣 味 ・ 運 動 ・ 習 い ご と ・ ス ポ ー ツ ） な ど の 活 動
市民（N=924）	8.7	10.3	8.0	11.3	9.8	10.9	17.4	12.1	31.4
高齢者（N=633）	5.7	13.3	9.3	12.5	8.2	11.4	26.7	20.0	38.2

<「取り組みたい」と「興味がある」の合計割合>

市民（N=924）	28.7	62.4	37.6	61.8	38.1	68.5	33.0	58.6	55.4
高齢者（N=633）	19.0	26.2	21.6	22.6	24.8	33.2	38.3	26.8	48.5

※1 高齢者アンケートでは「週1回以上取り組んでいる（心掛けている状態を含む）」と「月1回以上取り組んでいる（心掛けている状態を含む）」と「年数回程度取り組んでいる（心掛けている状態を含む）」の合計割合

※2 高齢者アンケートの項目は〔ア 子育て世帯・青少年を支える行動や活動〕

④地域活動・ボランティア活動に参加・活動しやすい条件【市民，高齢者】

どのような条件であれば，地域活動・ボランティア活動に参加・活動しやすいですか。
(いくつでも○)

- 地域活動・ボランティア活動に参加・活動しやすい条件は，市民，高齢者ともに「時間や期間にあまりしばられない」が最も多く，「身近なところに活動できる場がある」が続いている。

単位：％	子ども世話や介護を代	活動や団体に関する情報	友人・知人と一緒に参加できる	時間や期間にあまりしばられない	身近なところに活動できる場がある	世話人やリーダーがいる	参加することでのメリットがある（報酬など）	活動資金の補助や援助がある	その他	わからない	条件によらず，参加したくない	無回答
市民（N=924）	8.4	22.9	25.1	56.7	43.5	15.8	18.7	13.2	3.5	11.3	8.1	5.3
高齢者（N=633）	2.1	17.7	16.1	43.4	38.2	15.5	5.2	6.5	5.1	21.3	9.5	6.8

3 相談支援

①困ったときの相談相手（人・機関）

【市民、高齢者、障害者（18歳以上）、障害児保護者】

日常生活での困りごとを相談できる人や機関はありますか。（いくつでも○）※1

- 困ったときの相談相手（人・機関）の1位は、市民、高齢者は「同居の家族」、身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、知的障害、精神障害、難病、障害児保護者は「家族・親族（一緒に住んでいる・離れて住んでいる）」となっている。
- 一方、「身近に相談できる人や機関はない」または「相談する人がいない」は、精神障害で7.7%と最も多くなっている。

単位：％

		1位	特定項目
市民（N=924）		同居の家族（62.4）	身近に相談できる人や機関はない（5.0）
高齢者（N=633）		同居の家族（58.1）	身近に相談できる人や機関はない（3.8）
障害者 （18歳以上）	身体障害（64歳以下）（N=238）	家族・親族（一緒に住んでいる・離れて住んでいる）（65.5）	相談する人がいない（5.9）
	身体障害（65歳以上）（N=190）	家族・親族（一緒に住んでいる・離れて住んでいる）（70.5）	相談する人がいない（3.7）
	知的障害（N=240）	家族・親族（一緒に住んでいる・離れて住んでいる）（70.4）	相談する人がいない（3.3）
	精神障害（N=392）	家族・親族（一緒に住んでいる・離れて住んでいる）（59.9）	相談する人がいない（7.7）
	難病（N=348）	家族・親族（一緒に住んでいる・離れて住んでいる）（69.5）	相談する人がいない（2.9）
障害児保護者（N=185）		家族・親族（一緒に住んでいる・離れて住んでいる）（75.1）	相談する人がいない（2.7）

※1 障害者（18歳以上）アンケートの設問は「悩みや困りごとがある場合、主にどこに相談しますか。（いくつでも○）」
障害児保護者アンケートの設問は「あなた（保護者）が悩みや困りごとを相談できる人や機関はありますか。（いくつでも○）」

②医療機関（歯科を含む）の受診で困ること【障害者（18歳以上）、障害児保護者】

あなたは、医療機関（歯科を含む）の受診で困ることはありますか。（いくつでも○）

- 医療機関（歯科を含む）の受診で困ることは、身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、知的障害、精神障害、難病、障害児保護者ともに「特にない」が最も多くなっている。
- 「特にない」を除くと、身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、精神障害、難病は「医療費や交通費の負担が大きい」、知的障害は「医師・歯科医師とコミュニケーションがとりづらい」、障害児保護者は「専門的な治療やリハビリを行う医療機関が身近にない」が多くなっている。

単位：％		医療機関（歯科を含む）の受診で困ることはない	かかりつけの医療機関（歯科）がない	かかりつけの医療機関（歯科）がない	定期的な健康診断を受けられない	定期的な歯科健診を受けられない	専門的な治療やリハビリを行う医療機関が身近にない	障害を断られたこと診療や健診などを断られたことがある	通院するときに介助してくれる人がいない	医療費や交通費の負担が大きい	医師・歯科医師とコミュニケーションがとりづらい	その他	特にない	無回答
障害者 (18歳以上)	身体障害（64歳以下）（N=238）	8.4	8.4	3.8	2.9	5.5	4.6	2.9	19.7	7.6	8.0	47.1	9.7	
	身体障害（65歳以上）（N=190）	6.8	2.6	2.6	2.6	2.1	0.5	5.8	11.6	4.2	4.7	62.6	8.9	
	知的障害（N=240）	9.6	9.2	5.8	4.2	2.9	6.7	1.7	3.8	14.6	5.8	52.9	5.4	
	精神障害（N=392）	8.4	6.9	7.1	6.6	4.1	3.3	4.3	21.4	9.9	7.7	51.0	5.6	
	難病（N=348）	8.6	4.6	2.3	3.2	4.6	1.1	3.2	21.0	2.9	7.2	57.8	6.0	
障害児保護者（N=185）		4.3	12.4	3.2	4.9	20.5	4.3	7.0	11.9	9.7	13.0	42.7	5.9	

③今後の居住形態の意向【障害者（18歳以上）、障害児保護者】

今後、どのように生活したいですか。（1つに○）※1

- 今後の居住形態の意向は、身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、精神障害、難病は「ひとり暮らし、または自分の配偶者と一緒に生活する」、知的障害は「親や兄弟などの家族と一緒に生活する」が最も多くなっている。
- 障害児保護者が希望するお子さんの暮らし方は「ひとり暮らし、または本人の配偶者と一緒に生活する」が最も多くなっている。

単位：％		に親や生活するなどの家族と一緒に	※3のひとり暮らし、または生活する自分	グループホームで生活する	入所施設で生活する	その他	わからない	無回答
障害者 (18歳以上)	身体障害（64歳以下）（N=238）	29.4	46.6	3.8	2.9	2.5	11.3	3.4
	身体障害（65歳以上）（N=190）	21.6	50.0	0.0	6.3	3.7	12.6	5.8
	知的障害（N=240）	43.3	17.9	16.3	3.8	2.9	13.8	2.1
	精神障害（N=392）	25.8	47.4	4.1	2.0	3.3	14.8	2.6
	難病（N=348）	24.7	52.6	0.3	5.2	1.4	13.5	2.3
障害児保護者（N=185）		11.4	48.1	14.6	3.8	3.8	14.6	3.8

※1 障害児保護者アンケートの設問は「将来、あて名のお子さんに、どのような生活を希望しますか。（1つに○）」

※2 障害児保護者アンケートの選択肢は「親やきょうだい（兄弟・姉妹）などの家族と一緒に生活する」

※3 障害児保護者アンケートの選択肢は「ひとり暮らし、または本人の配偶者と一緒に生活する」

4 活動機会、スポーツ

①障害者、障害児の活動機会【障害者（18歳以上）、障害児保護者】

普段の生活の中で、次のような機会がありますか。（それぞれ1つに○）

- 生活の中の活動機会について、「十分にある」の割合は、身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、知的障害、精神障害、難病、障害児保護者ともに「ア 好きなところへ出かける（ヘルパー利用も含む）」が最も多くなっている。

<「十分にある」の割合>

単位：％

		1位	2位
障害者 (18歳以上)	身体障害（64歳以下）（N=238）	「ア 好きなところへ出かける（ヘルパー利用も含む）」 (46.6)	「イ 友人・知人との交流」 (36.1)
	身体障害（65歳以上）（N=190）	「ア 好きなところへ出かける（ヘルパー利用も含む）」 (44.2)	「イ 友人・知人との交流」 (34.7)
	知的障害（N=240）	「ア 好きなところへ出かける（ヘルパー利用も含む）」 (44.6)	「イ 友人・知人との交流」 (21.7) 「ウ スポーツ・運動をする機会」 (21.7)
	精神障害（N=392）	「ア 好きなところへ出かける（ヘルパー利用も含む）」 (45.7)	「イ 友人・知人との交流」 (28.3)
	難病（N=348）	「ア 好きなところへ出かける（ヘルパー利用も含む）」 (54.0)	「イ 友人・知人との交流」 (47.4)
障害児保護者（N=185）		「ア 好きなところへ出かける（ヘルパー利用も含む）」 (51.9)	「イ 友人・知人との交流」 (33.0)

- 生活の中の活動機会について、「機会はあるが、十分ではない」と「機会がない」の合計割合は、身体障害（64歳以下）、知的障害、精神障害は「ウ スポーツ・運動をする機会」、身体障害（65歳以上）、難病、障害児保護者は「エ 美術・音楽などの文化芸術活動の機会」が最も多くなっている。

<「機会はあるが、十分ではない」と「機会がない」の合計割合>

単位：％

		1位	2位
障害者 (18歳以上)	身体障害（64歳以下）（N=238）	「ウ スポーツ・運動をする機会」（54.2）	「エ 美術・音楽などの文化芸術活動の機会」（50.4）
	身体障害（65歳以上）（N=190）	「エ 美術・音楽などの文化芸術活動の機会」（42.7）	「イ 友人・知人との交流」（41.6）
	知的障害（N=240）	「ウ スポーツ・運動をする機会」（53.0）	「エ 美術・音楽などの文化芸術活動の機会」（52.9）
	精神障害（N=392）	「ウ スポーツ・運動をする機会」（60.5）	「イ 友人・知人との交流」（56.6）
	難病（N=348）	「エ 美術・音楽などの文化芸術活動の機会」（56.4）	「オ ウ、エ以外の趣味や遊びごと」（49.7）
障害児保護者（N=185）		「エ 美術・音楽などの文化芸術活動の機会」（71.9）	「ウ スポーツ・運動をする機会」（63.2）

②スポーツ・運動をする頻度【障害者（18歳以上）、障害児保護者】

スポーツ・運動をする機会はどのくらいありますか。（1つに○）

- スポーツ・運動をする頻度は、身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、知的障害、精神障害、難病は「ほとんどしない」、障害児保護者は「週に2回以上」が最も多くなっている。

単位：％		週に2回以上	週に1回程度	月に1,2回程度	ほとんどしない	無回答
障害者 (18歳以上)	身体障害（64歳以下）（N=238）	23.1	13.0	9.7	49.2	5.0
	身体障害（65歳以上）（N=190）	31.6	14.7	6.8	40.0	6.8
	知的障害（N=240）	18.8	14.6	16.7	41.7	8.3
	精神障害（N=392）	21.9	12.8	11.5	50.3	3.6
	難病（N=348）	25.0	14.4	12.9	44.3	3.4
障害児保護者（N=185）		35.7	31.9	10.8	18.4	3.2

5 外出、ひきこもりの状況

①外出の移動手段【高齢者、障害者（18歳以上）、障害児保護者】

利用している移動手段は何ですか。（いくつでも○）※1

- 利用している移動手段は、高齢者は「徒歩」、身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、知的障害、難病、障害児保護者は「徒歩・自転車・車いす」、精神障害は「電車」が最も多くなっている。

単位：％	徒歩	自転車	分 自家用車等（自 分で運転）	分 自家用車等（自 以外が運転）	送 迎 介 護 事 業 所 等 の	施 病 院 の 送 迎 リ ハ ビ リ	バ ス	タ ク シ ー	福 祉 タ ク シ ー	電 車	そ の 他	無 回 答
高齢者（n=621）	77.6	38.5	23.3	12.6	5.5	3.2	54.9	15.6	0.8	53.9	1.6	0.3

単位：％		運 自 家 用 車 （ 自 ら	手 自 家 用 車 （ 運 転	電 車	バ ス	タ ク シ ー	車 徒 歩 ・ 自 転 車 ・ 車 い す	そ の 他	該 当 な し	無 回 答
障害者 (18歳以上)	身体障害（64歳以下）（N=238）	19.7	13.0	47.9	27.3	13.9	51.3	4.6	0.8	2.9
	身体障害（65歳以上）（N=190）	12.1	14.7	33.7	36.8	17.9	44.2	5.3	2.1	4.7
	知的障害（N=240）	2.5	27.5	46.7	32.1	5.0	52.1	1.7	0.8	5.4
	精神障害（N=392）	4.8	8.4	65.1	36.5	4.6	62.0	2.6	0.3	2.6
	難病（N=348）	22.4	11.2	45.7	27.0	13.5	52.3	3.4	0.9	2.3
障害児保護者（N=185）		33.0	19.5	45.9	16.2	3.2	67.0	1.6	0.0	2.2

※1 高齢者アンケートの設問対象者は外出をする方のみ。

障害者（18歳以上）アンケート、障害児保護者アンケートの設問は〔外出時に使用している主な移動手段は何ですか。（2つまで○）〕

②外出の状況とひきこもりの期間・理由【市民、高齢者、障害者（18歳以上）】

あなたは普段、どのくらい外出しますか。現在のことについてお答えください。
(1つに○)

- 外出の状況は、市民、高齢者、身体障害（64歳以下）、知的障害、精神障害、難病は「仕事や学校等で週に5日以上外出する」、身体障害（65歳以上）は「遊びや趣味の活動等で頻繁に外出する」が最も多くなっている。

単位：％		外仕事や学校等で週に5日以上	外仕事や学校等で週に3～4日	外遊びや趣味の活動等で頻繁に	外出する人づきあいのためにときどき	味に関する用事のため、自分の外	普段は家にいるが、近所のコンビニなどには出かける	自室からは出るが、家からは	自室からほとんど出ない	無回答
市民（N=924）		46.6	13.4	10.8	7.3	7.9	7.5	0.9	0.4	5.2
高齢者（N=633）		21.0	13.3	19.7	10.0	11.8	14.5	3.2	1.1	5.4
障害者（18歳以上）	身体障害（64歳以下）（N=238）	37.0	18.1	3.4	5.9	11.8	10.9	5.9	3.4	3.8
	身体障害（65歳以上）（N=190）	3.2	9.5	18.9	12.6	18.4	15.8	10.0	3.2	8.4
	知的障害（N=240）	67.1	10.0	4.2	1.3	4.2	4.6	1.7	1.3	5.8
	精神障害（N=392）	29.6	18.4	5.1	7.1	13.5	16.3	4.3	2.0	3.6
	難病（N=348）	29.9	10.3	10.3	10.1	10.9	15.5	4.9	1.7	6.3
【国】15～39歳（N=7,035） ※2		69.3	12.1	3.8	4.3	5.2	3.6	0.7	0.2	0.7
【国】40～64歳（N=5,214） ※2		59.0	15.1	3.7	7.7	6.8	5.8	0.6	0.2	1.2

※1 障害者（18歳以上）アンケートの選択肢は「仕事や学校等で平日は毎日外出する」

※2 「こども・若者の意識と生活に関する調査（令和4年度）」（内閣府）より

あなたの外出状況が現在の状態となって、どのくらい経ちますか。（1つに○）

- 外出状況が現在の状態となって、どのくらい経つかは、市民、高齢者、身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、精神障害、難病は「1年～5年未満」、知的障害は「3か月未満」が最も多くなっている。

単位：％		3か月未満	3か月～6か月未満	6か月～1年未満	1年～5年未満	5年～10年未満	10年以上	無回答
市民（n=154）		11.0	8.4	7.8	37.7	13.6	17.5	3.9
高齢者（n=194）		11.9	2.6	7.7	39.2	12.9	22.2	3.6
障害者（18歳以上）	身体障害（64歳以下）（n=76）	15.8	2.6	6.6	27.6	21.1	21.1	5.3
	身体障害（65歳以上）（n=90）	13.3	0.0	6.7	28.9	18.9	22.2	10.0
	知的障害（n=28）	39.3	7.1	3.6	10.7	14.3	17.9	7.1
	精神障害（n=142）	17.6	5.6	4.9	30.3	18.3	20.4	2.8
	難病（n=115）	11.3	6.1	13.0	35.7	13.9	15.7	4.3

あなたの外出状況が現在の状態になった主な理由は何ですか。(いくつでも○)

- 外出状況が現在の状態になった主な理由は、市民は「退職したこと」、高齢者、身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、知的障害、精神障害、難病は「病気」が最も多くなっている。

単位：％		病気	介護・看護を担ったこと	（就労中）自宅仕事をしていない	学校になじめなかったこと	職場になじめなかったこと	受験に失敗したこと（高校・大学等）	就職活動がうまくいかなかったこと	人間関係がうまくいかなかったこと	退職したこと	その他	特に理由はない	わからない	無回答
市民（n=118）		22.0	5.9	12.7	0.0	1.7	0.8	3.4	3.4	27.1	13.6	20.3	0.0	5.9
高齢者（n=159）		32.7	12.6	2.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	21.4	20.1	20.8	3.1	3.8
障害者（18歳以上）	身体障害（64歳以下）（n=58）	70.7	3.4	3.4	1.7	5.2	0.0	0.0	1.7	10.3	15.5	1.7	3.4	1.7
	身体障害（65歳以上）（n=69）	56.5	4.3	2.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	17.4	27.5	14.5	1.4	2.9
	知的障害（n=13）	46.2	7.7	0.0	7.7	15.4	7.7	7.7	7.7	15.4	15.4	23.1	15.4	7.7
	精神障害（n=105）	68.6	3.8	3.8	5.7	10.5	1.9	6.7	21.0	22.9	14.3	8.6	3.8	2.9
	難病（n=90）	62.2	10.0	7.8	1.1	0.0	0.0	3.3	0.0	12.2	8.9	10.0	2.2	1.1

③市内に住む家族の外出状況とひきこもりの期間・理由【市民、高齢者、障害者（18歳以上）】

あなた以外で、市内にお住まいのご家族（同居・別居問わず）に下記の外出状況が当てはまる人はいますか。（1つに○）

- 市内に住む家族の外出状況は、「いずれもいない」を除くと、市民、高齢者、身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、知的障害、精神障害、難病ともに「普段は家にいるが、自分の趣味に関する用事のときだけ外出する」が最も多くなっている。

単位：％		出味普 すに段 る関は すは す家 るに 用事 のが と、 き自 だ分 けの 外趣	ン普 ビ段 二は な家 にに は出 が、 近所 のこ	出自 ない 室か らは 出る が、 家か らは	自室 から ほと んど 出な い	い ず れ も い な い	外 出 状 況 が わ か ら な い	無 回 答
市民（N=924）		11.1	6.5	1.3	0.5	58.4	7.3	14.8
高齢者（N=633）		12.6	11.4	3.0	0.3	42.5	8.2	22.0
障害者（18歳以上）	身体障害（64歳以下）（N=238）	17.6	8.8	2.5	0.8	48.7	8.0	13.4
	身体障害（65歳以上）（N=190）	22.6	12.6	3.7	1.6	31.6	6.3	21.6
	知的障害（N=240）	14.2	5.8	0.8	0.4	43.8	8.3	26.7
	精神障害（N=392）	16.1	10.5	1.5	0.3	49.0	7.4	15.3
	難病（N=348）	18.7	6.6	2.6	0.6	51.4	3.7	16.4

ご家族の外出状況が現在の状態となって、どのくらい経ちますか。(1つに○)

- 家族の外出状況が現在の状態となって、どのくらい経つかは、市民、高齢者、難病は「1年～5年未満」、身体障害(64歳以下)は「3か月未満」、身体障害(65歳以上)、精神障害は「10年以上」が最も多く、知的障害は「3か月未満」と「10年以上」が同率となっている。

単位：％		3 か 月 未 満	3 か 月 ～ 6 か 月 未 満	6 か 月 ～ 1 年 未 満	1 年 ～ 5 年 未 満	5 年 ～ 1 0 年 未 満	1 0 年 以 上	無 回 答
市民 (n=180)		12.2	3.3	8.3	31.1	10.0	29.4	5.6
高齢者 (n=173)		12.7	4.6	4.6	28.9	12.7	28.3	8.1
障害者 (18歳以上)	身体障害 (64歳以下) (n=71)	29.6	2.8	2.8	21.1	15.5	25.4	2.8
	身体障害 (65歳以上) (n=77)	16.9	3.9	3.9	22.1	11.7	28.6	13.0
	知的障害 (n=51)	21.6	7.8	3.9	15.7	13.7	21.6	15.7
	精神障害 (n=111)	19.8	2.7	2.7	16.2	16.2	29.7	12.6
	難病 (n=99)	21.2	2.0	10.1	33.3	9.1	17.2	7.1

ご家族の外出状況が現在の状態になった主な理由は何ですか。(いくつでも○)

- 家族の外出状況が現在の状態になった主な理由は、市民は「退職したこと」、高齢者、身体障害(64歳以下)、身体障害(65歳以上)、精神障害、難病は「病気」、知的障害は「特に理由はない」が最も多くなっている。

単位：％		病 気	介 護 ・ 看 護 を 担 う こ と	を し て い る (就 労 中) 自 宅 で 仕 事	こ 学 校 に な じ め な か つ た	こ 職 場 に な じ め な か つ た	受 験 に 失 敗 し た こ と (高 校 ・ 大 学 等)	な 就 職 活 動 が う ま く い か な か つ た こ と	な 人 間 関 係 が う ま く い か な か つ た こ と	退 職 し た こ と	そ 他	特 に 理 由 は な い	わ か ら な い	無 回 答
市民 (n=142)		21.1	7.0	5.6	0.7	1.4	0.0	3.5	0.7	23.2	16.2	19.7	6.3	8.5
高齢者 (n=129)		26.4	12.4	2.3	0.0	0.8	0.0	0.8	2.3	24.0	7.0	23.3	4.7	10.1
障害者 (18歳以上)	身体障害 (64歳以下) (n=46)	30.4	10.9	4.3	2.2	4.3	0.0	0.0	2.2	10.9	15.2	13.0	4.3	13.0
	身体障害 (65歳以上) (n=51)	33.3	9.8	0.0	0.0	0.0	2.0	2.0	3.9	25.5	9.8	17.6	5.9	11.8
	知的障害 (n=28)	25.0	3.6	3.6	7.1	3.6	0.0	3.6	7.1	10.7	7.1	35.7	3.6	10.7
	精神障害 (n=72)	33.3	11.1	5.6	2.8	2.8	0.0	4.2	11.1	16.7	19.4	15.3	8.3	6.9
	難病 (n=69)	34.8	11.6	2.9	2.9	1.4	0.0	0.0	5.8	15.9	13.0	17.4	0.0	10.1

6 市民の権利を守る取組

①市民の権利を守る制度や事業の認知度【市民，高齢者】

市や社会福祉協議会等で行っている下記の制度や事業をご存知ですか。
(それぞれ1つに○)

- 市や社会福祉協議会等で行っている市民の権利を守る制度や事業について、「知っている」の割合は、市民，高齢者ともに〔ア 成年後見制度〕が最も多く，〔イ 法定後見制度〕が続いている。

<「知っている」の割合>

単位：％	ア 成年 後見 制度	イ 法定 後見 制度	ウ 任意 後見 制度	エ 市民 後見 人	オ 専門 職紹 介制 度	カ 事地 業域 福祉 権利 擁護	キ 事あ 業ん しん 未来 支援
市民（N=924）	39.3	25.9	19.4	6.3	4.0	5.3	1.8
高齢者（N=633）	42.0	21.6	20.1	6.0	4.3	3.9	3.0

②市民の権利を守る制度や事業の利用意向と利用しない理由【市民，高齢者】

あなたやご家族のどなたかが認知症などによって判断が十分にできなくなる場合に備えて、あるいは既にできない場合、いずれかの制度や事業を利用したいと思いますか。
(1つに○)

- 市民の権利を守る制度や事業の利用意向は、市民，高齢者ともに「利用を検討する」が最も多くなっている。

単位：％	既 に 利 用 し て い る	利 用 を 検 討 す る	利 用 し な い	わ か ら な い	無 回 答
市民（N=924）	1.8	61.4	5.8	26.1	4.9
高齢者（N=633）	1.3	47.1	10.3	29.5	11.8

制度を利用しない、または、わからないと答えた主な理由は何ですか。(いくつでも○)

- 制度を利用しない、または、わからないと答えた主な理由は、市民は「制度の内容や利用方法がわからない」、高齢者は「家族などに支援してもらいたい」が最も多くなっている。

単位：％	ない制度の内容や利用方法がわからない	事務手続きが難しい	後見人などの第三者に財産管理や契約手続きを任せるのは不安	経済的な理由や身寄りがなかったために、申立てが難しい	家族などに支援してもらいたい	その他	無回答
市民（n=295）	53.6	14.9	21.7	4.7	36.9	7.8	5.1
高齢者（n=252）	41.7	14.7	26.6	4.4	59.1	7.1	3.2

7 誰もが暮らしやすいまちづくり

①住みやすさの評価【障害者（18歳以上）、障害児保護者】

調布のまちは、障害（身体障害、知的障害、精神障害、難病など）のある人にとって、福祉サービス、バリアフリー、市民意識などを総合的に考え、住みやすいまちであると感じますか。（1つに○）

- 調布のまちは障害のある人にとって住みやすいまちであると感じるかについて、身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、知的障害、精神障害、難病、障害児保護者ともに「どちらかといえば、住みやすいと思う」が最も多くなっている。

単位：％		住みやすいと思う	やどすちらかと思えば、住み	やどすちらかと思わなば、住み	住みやすいと思わない	無回答
障害者 (18歳以上)	身体障害（64歳以下）（N=238）	23.1	58.4	9.7	2.9	5.9
	身体障害（65歳以上）（N=190）	26.8	53.7	9.5	2.6	7.4
	知的障害（N=240）	32.9	50.0	6.7	1.7	8.8
	精神障害（N=392）	25.5	49.0	12.2	7.9	5.4
	難病（N=348）	20.4	60.6	9.2	4.0	5.7
障害児保護者（N=185）		11.9	63.2	18.4	4.9	1.6

②市内のバリアフリー・ユニバーサルデザインの状況

【市民、高齢者、障害者（18歳以上）、障害児保護者】

市内のバリアフリー・ユニバーサルデザインについて、どのように感じていますか。
(それぞれ1つに○)

- 市内のバリアフリー・ユニバーサルデザインの状況について、「とても充実している」と「充実している」を合わせた『充実している』の割合は、市民、高齢者、身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、知的障害、精神障害、難病、障害児保護者ともに「イ 公共施設や病院などのスロープ、エレベーターやエスカレーター」が最も多くなっている。

<『充実している』の割合>

単位：％

		1 位	2 位
市民（N=924）		【イ 公共施設や病院などのスロープ、エレベーターやエスカレーター】 (48.9)	【ウ 車いすの人や乳幼児を連れた人など、誰もが使いやすいトイレ】 (35.0)
高齢者（N=633）		【イ 公共施設や病院などのスロープ、エレベーターやエスカレーター】 (40.6)	【ウ 車いすの人や乳幼児を連れた人など、誰もが使いやすいトイレ】 (28.7)
障害者 (18歳以上)	身体障害（64歳以下）（N=238）	【イ 公共施設や病院などのスロープ、エレベーターやエスカレーター】 (49.1)	【ウ 車いすの人や乳幼児を連れた人、介助者の同伴が必要な人など、誰もが使いやすいトイレ】 (37.8)
	身体障害（65歳以上）（N=190）	【イ 公共施設や病院などのスロープ、エレベーターやエスカレーター】 (51.1)	【ウ 車いすの人や乳幼児を連れた人、介助者の同伴が必要な人など、誰もが使いやすいトイレ】 (32.1)
	知的障害（N=240）	【イ 公共施設や病院などのスロープ、エレベーターやエスカレーター】 (47.5)	【ウ 車いすの人や乳幼児を連れた人、介助者の同伴が必要な人など、誰もが使いやすいトイレ】 (38.0)
	精神障害（N=392）	【イ 公共施設や病院などのスロープ、エレベーターやエスカレーター】 (46.9)	【ウ 車いすの人や乳幼児を連れた人、介助者の同伴が必要な人など、誰もが使いやすいトイレ】 (38.0)
	難病（N=348）	【イ 公共施設や病院などのスロープ、エレベーターやエスカレーター】 (50.5)	【ウ 車いすの人や乳幼児を連れた人、介助者の同伴が必要な人など、誰もが使いやすいトイレ】 (34.2)
障害児保護者（N=185）		【イ 公共施設や病院などのスロープ、エレベーターやエスカレーター】 (42.7)	【ウ 車いすの人や乳幼児を連れた人、介助者の同伴が必要な人など、誰もが使いやすいトイレ】 (33.0)

- 市内のバリアフリー・ユニバーサルデザインの状況について、「あまり充実していない」と「充実していない」を合わせた『充実していない』の割合は、市民、高齢者、身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、知的障害、精神障害、難病、障害児保護者ともに「エ 歩きやすいように障害物（商品や看板、放置自転車、電柱など）が取り除かれ、段差や凹凸が少なく十分に幅のある歩道や道路」が最も多くなっている。

<『充実していない』の割合>

単位：％

		1位	2位
市民（N=924）		「エ 歩きやすいように障害物（商品や看板、放置自転車、電柱など）が取り除かれ、段差や凹凸が少なく十分に幅のある歩道や道路」（64.3）	「ア 車いすの人を含め誰もが安全に通れる建物の出入口や通路（段差をなくす、幅を広げるなど）」（49.5）
高齢者（N=633）		「エ 歩きやすいように障害物（商品や看板、放置自転車、電柱など）が取り除かれ、段差や凹凸が少なく十分に幅のある歩道や道路」（57.7）	「ア 車いすの人を含め誰もが安全に通れる建物の出入口や通路（段差をなくす、幅を広げるなど）」（43.0）
障害者 （18歳以上）	身体障害（64歳以下）（N=238）	「エ 歩きやすいように障害物（商品や看板、放置自転車、電柱など）が取り除かれ、段差や凹凸が少なく十分に幅のある歩道や道路」（65.5）	「ア 車いすの人を含め誰もが安全に通れる建物の出入口や通路（段差をなくす、幅を広げるなど）」（43.7）
	身体障害（65歳以上）（N=190）	「エ 歩きやすいように障害物（商品や看板、放置自転車、電柱など）が取り除かれ、段差や凹凸が少なく十分に幅のある歩道や道路」（56.3）	「ア 車いすの人を含め誰もが安全に通れる建物の出入口や通路（段差をなくす、幅を広げるなど）」（40.0）
	知的障害（N=240）	「エ 歩きやすいように障害物（商品や看板、放置自転車、電柱など）が取り除かれ、段差や凹凸が少なく十分に幅のある歩道や道路」（45.0）	「シ 高齢者、子ども連れの家族、障害や病気などがある人に対する人々の接し方や配慮」（30.1）
	精神障害（N=392）	「エ 歩きやすいように障害物（商品や看板、放置自転車、電柱など）が取り除かれ、段差や凹凸が少なく十分に幅のある歩道や道路」（44.7）	「シ 高齢者、子ども連れの家族、障害や病気などがある人に対する人々の接し方や配慮」（37.0）
	難病（N=348）	「エ 歩きやすいように障害物（商品や看板、放置自転車、電柱など）が取り除かれ、段差や凹凸が少なく十分に幅のある歩道や道路」（62.1）	「ア 車いすの人を含め誰もが安全に通れる建物の出入口や通路（段差をなくす、幅を広げるなど）」（44.8）
障害児保護者（N=185）		「エ 歩きやすいように障害物（商品や看板、放置自転車、電柱など）が取り除かれ、段差や凹凸が少なく十分に幅のある歩道や道路」（65.4）	「ア 車いすの人を含め誰もが安全に通れる建物の出入口や通路（段差をなくす、幅を広げるなど）」（46.0）

③心のバリアフリーの普及に必要な取組【市民，障害者（18歳以上），障害児保護者】

誰もが暮らしやすいまちづくりに向けて，病気・障害・国籍・生活習慣などの違いによる心理的な障壁を取り除く（心のバリアフリー）ために，特に必要な取組は何だと思いますか。（2つまで○）

- 心のバリアフリーのために特に必要な取組は，市民は「わかりやすい，使いやすい情報の提供」，身体障害（64歳以下），身体障害（65歳以上），精神障害は「わかりやすい情報発信」，知的障害，難病，障害児保護者は「学校における，お互いを理解し，思いやる心を育てるための教育や，障害者などさまざまな人と触れ合う機会の充実」が最も多くなっている。

単位：％

		1 位	2 位
市民（N=924）		わかりやすい，使いやすい情報の提供（56.5）	学校において，お互いを理解し，思いやる心を醸成するための教育（50.0）
障害者 （18歳以上）	身体障害（64歳以下）（N=238）	わかりやすい情報発信（47.9）	学校における，お互いを理解し，思いやる心を育てるための教育や，障害者などさまざまな人と触れ合う機会の充実（44.1）
	身体障害（65歳以上）（N=190）	わかりやすい情報発信（45.3）	学校における，お互いを理解し，思いやる心を育てるための教育や，障害者などさまざまな人と触れ合う機会の充実（35.3）
	知的障害（N=240）	学校における，お互いを理解し，思いやる心を育てるための教育や，障害者などさまざまな人と触れ合う機会の充実（45.4）	わかりやすい情報発信（33.3）
	精神障害（N=392）	わかりやすい情報発信（46.4）	学校における，お互いを理解し，思いやる心を育てるための教育や，障害者などさまざまな人と触れ合う機会の充実（39.5）
	難病（N=348）	学校における，お互いを理解し，思いやる心を育てるための教育や，障害者などさまざまな人と触れ合う機会の充実（52.9）	わかりやすい情報発信（51.4）
障害児保護者（N=185）		学校における，お互いを理解し，思いやる心を育てるための教育や，障害者などさまざまな人と触れ合う機会の充実（75.1）	わかりやすい情報発信（45.9）

④障害や病気への差別や偏見，配慮のなさを感じる場面

【障害者（18歳以上），障害児保護者】

普段の暮らしや外出のとき，障害や病気への差別や偏見，配慮のなさを感じる場面はありますか。（いくつでも○）※1

- 障害や病気への差別や偏見，配慮のなさを感じる場面は，身体障害（64歳以下）は「交通機関や建物のつくりの配慮」，身体障害（65歳以上），難病は「特に感じない」，知的障害は「まちなかでの人の視線」，精神障害は「仕事や収入」，障害児保護者は「教育・保育の機会」が最も多くなっている。

単位：％		教育の機会※2	仕事や収入	民間の習いごと・教室	近所・付き合いや地域の行事・活動	店での扱いや店員の対応・態度	まちなかでの人の視線	交通機関や建物のつくりの配慮	行政職員の対応・態度	その他	特に感じない	無回答
障害者 (18歳以上)	身体障害（64歳以下）（N=238）	8.8	23.5	-	6.3	14.3	19.7	35.7	9.7	4.6	31.9	7.6
	身体障害（65歳以上）（N=190）	2.1	4.2	-	5.3	6.8	10.5	16.8	3.2	3.7	53.2	13.7
	知的障害（N=240）	16.3	26.7	-	16.3	17.9	32.5	20.0	7.9	4.2	29.2	10.0
	精神障害（N=392）	11.2	39.5	-	14.3	13.0	20.4	18.9	15.1	6.9	29.1	6.6
	難病（N=348）	7.8	14.9	-	5.7	11.2	11.2	20.4	6.6	4.6	49.1	7.2
障害児保護者（N=185）		40.5	-	30.3	22.2	11.9	33.5	10.3	13.5	7.6	22.2	1.1

※1 障害児保護者アンケートの設問は「あなた（保護者）は，お子さんが生活する中で，障害や病気への差別や偏見，配慮のなさを感じることはありますか。（いくつでも○）」

※2 障害児保護者アンケートの選択肢は「教育・保育の機会」

⑤ヘルプカード，ヘルプマーク【障害者（18歳以上），障害児保護者】

あなたは，調布市が配布しているヘルプカード，ヘルプマークを持っていますか。
（それぞれ1つに○）

ヘルプカード

- ヘルプカードの所持について，「もっていて，いつも，もち歩いている」の割合をみると，身体障害（64歳以下），精神障害，障害児保護者は1割台，身体障害（65歳以上），知的障害は2割台，難病は1割未満となっている。

単位：％		ももち歩 ていて いる いつも	も て て い ない が ， も ち 歩	も と つ て い ない が ， ほ し	な も つ て い ない し ， 必 要	無 回 答
障害者 (18歳以上)	身体障害（64歳以下）（N=238）	16.8	26.1	18.1	34.9	4.2
	身体障害（65歳以上）（N=190）	21.1	14.7	15.8	31.6	16.8
	知的障害（N=240）	28.7	26.3	10.0	28.3	6.7
	精神障害（N=392）	14.3	29.3	15.3	35.2	5.9
	難病（N=348）	7.2	10.3	16.1	60.3	6.0
障害児保護者（N=185）		11.4	19.5	22.7	43.2	3.2

ヘルプマーク

- ヘルプマークの所持について，「もっていて，いつも，もち歩いている」の割合をみると，身体障害（64歳以下），身体障害（65歳以上），知的障害，精神障害，障害児保護者は2割台，難病は1割台となっている。

単位：％		ももち歩 ていて いる いつも	も て て い ない が ， も ち 歩	も と つ て い ない が ， ほ し	な も つ て い ない し ， 必 要	無 回 答
障害者 (18歳以上)	身体障害（64歳以下）（N=238）	28.2	14.7	20.6	31.1	5.5
	身体障害（65歳以上）（N=190）	21.6	15.8	17.4	29.5	15.8
	知的障害（N=240）	24.2	17.1	15.8	32.9	10.0
	精神障害（N=392）	21.9	21.4	18.4	31.6	6.6
	難病（N=348）	14.9	9.5	16.1	54.0	5.5
障害児保護者（N=185）		21.1	17.3	21.1	38.4	2.2

ヘルプカードやヘルプマークをもっていることで、周囲の人に配慮してもらったり、手助けをしてもらったりしたことがありますか。(1つに○)

- ヘルプカードやヘルプマークをもっていることで、周囲の人に配慮してもらったり、手助けをしてもらったりした経験について、「ある」の割合をみると、身体障害（64歳以下）は2割台、身体障害（65歳以上）、知的障害、精神障害、難病、障害児保護者は1割台となっている。

単位：％		ある	ない	わも かつ て ない ない	無 回 答
障害者 (18歳以上)	身体障害（64歳以下）（N=238）	24.4	25.2	43.7	6.7
	身体障害（65歳以上）（N=190）	16.8	26.3	38.9	17.9
	知的障害（N=240）	13.8	37.5	39.6	9.2
	精神障害（N=392）	16.6	30.4	46.7	6.4
	難病（N=348）	10.9	16.1	62.6	10.3
障害児保護者（N=185）		11.9	21.1	63.8	3.2

⑥共生社会の充実のための法律や考え方、条例の認知度

【市民、高齢者、障害者（18歳以上）、障害児保護者】

共生社会の充実のための法律や考え方、調布市が令和6年度に制定した2つの条例を知っていますか。(それぞれ1つに○)

ア 障害者差別解消法

- 障害者差別解消法の認知度は、市民、高齢者、身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、知的障害、精神障害、難病、障害児保護者ともに「知らない」が最も多くなっている。

単位：％		内容を知っている	（聞いたことはある）	知らない	無回答
市民（N=924）		8.1	18.8	70.1	2.9
高齢者（N=633）		5.4	23.1	64.1	7.4
障害者 (18歳以上)	身体障害（64歳以下）（N=238）	12.6	27.7	55.0	4.6
	身体障害（65歳以上）（N=190）	8.9	17.9	61.1	12.1
	知的障害（N=240）	13.3	21.3	57.9	7.5
	精神障害（N=392）	11.0	24.0	62.0	3.1
	難病（N=348）	8.9	21.8	66.7	2.6
障害児保護者（N=185）		18.9	26.5	54.6	0.0

イ 合理的配慮

- 合理的配慮の認知度は、市民、高齢者、身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、知的障害、精神障害、難病、障害児保護者ともに「知らない」が最も多くなっている。
- 障害児保護者は「内容を知っている」が3割を超えている。

単位：％		内容を知っている	（聞いたことはある）	知らない	無回答
市民（N=924）		9.3	18.2	69.5	3.0
高齢者（N=633）		3.8	13.3	75.0	7.9
障害者 （18歳以上）	身体障害（64歳以下）（N=238）	14.7	22.3	58.4	4.6
	身体障害（65歳以上）（N=190）	9.5	14.7	62.6	13.2
	知的障害（N=240）	15.0	18.3	58.8	7.9
	精神障害（N=392）	18.4	21.4	56.4	3.8
	難病（N=348）	8.3	18.7	69.0	4.0
障害児保護者（N=185）		31.4	28.6	40.0	0.0

ウ パラハートちょうふ

- パラハートちょうふの認知度は、市民、高齢者、身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、知的障害、精神障害、難病は「知らない」、障害児保護者は「聞いたことはある（内容は知らない）」が最も多くなっている。

単位：％		内容を知っている	（聞いたことはある）	知らない	無回答
市民（N=924）		5.6	26.8	64.5	3.0
高齢者（N=633）		5.1	24.5	63.3	7.1
障害者 （18歳以上）	身体障害（64歳以下）（N=238）	5.0	30.3	60.1	4.6
	身体障害（65歳以上）（N=190）	8.9	25.3	54.7	11.1
	知的障害（N=240）	17.1	33.8	41.3	7.9
	精神障害（N=392）	8.4	34.9	53.3	3.3
	難病（N=348）	8.3	32.8	56.3	2.6
障害児保護者（N=185）		17.8	60.0	22.2	0.0

エ 調布市手話言語条例

- 調布市手話言語条例の認知度は、市民、高齢者、身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、知的障害、精神障害、難病、障害児保護者ともに「知らない」が最も多くなっている。

単位：％		内容を 知っている	（聞いた ことは 知らない）	知らない	無 回 答
市民（N=924）		1.5	7.7	87.7	3.1
高齢者（N=633）		2.1	8.4	82.3	7.3
障害者 （18歳以上）	身体障害（64歳以下）（N=238）	3.8	11.3	79.4	5.5
	身体障害（65歳以上）（N=190）	5.3	14.2	68.4	12.1
	知的障害（N=240）	3.3	13.8	74.6	8.3
	精神障害（N=392）	3.8	10.7	80.4	5.1
	難病（N=348）	3.2	14.9	78.2	3.7
障害児保護者（N=185）		4.3	10.8	84.9	0.0

オ 調布市障害者の多様な意思疎通に関する条例

- 調布市障害者の多様な意思疎通に関する条例の認知度は、市民、高齢者、身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、知的障害、精神障害、難病、障害児保護者ともに「知らない」が最も多くなっている。

単位：％		内容を 知っている	（聞いた ことは 知らない）	知らない	無 回 答
市民（N=924）		0.9	7.6	88.3	3.2
高齢者（N=633）		1.3	7.7	83.6	7.4
障害者 （18歳以上）	身体障害（64歳以下）（N=238）	3.4	10.9	80.7	5.0
	身体障害（65歳以上）（N=190）	6.3	15.8	68.9	8.9
	知的障害（N=240）	4.6	12.5	74.6	8.3
	精神障害（N=392）	2.6	10.7	83.9	2.8
	難病（N=348）	2.9	14.1	79.9	3.2
障害児保護者（N=185）		3.2	13.0	83.8	0.0

8 災害時の対策

①避難場所・避難経路・警戒区域などの確認状況【障害者（18歳以上）、障害児保護者】

防災マップや洪水ハザードマップなどで避難場所・避難経路・警戒区域などを確認していますか。（1つに○）

- 避難場所・避難経路・警戒区域などの確認状況は、身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、難病、障害児保護者は「確認している」、知的障害、精神障害は「確認していない」が多くなっている。

単位：％		確認している	確認していない	無回答
障害者 (18歳以上)	身体障害（64歳以下）（N=238）	52.1	45.0	2.9
	身体障害（65歳以上）（N=190）	60.5	31.1	8.4
	知的障害（N=240）	45.8	52.9	1.3
	精神障害（N=392）	45.9	51.3	2.8
	難病（N=348）	64.9	31.3	3.7
障害児保護者（N=185）		77.8	22.2	0.0

②緊急時の避難情報の入手先【障害者（18歳以上）、障害児保護者】

災害や火災などの緊急の際、避難情報を主にどこからとりますか。（1つに○）

- 緊急時の避難情報の入手先は、身体障害（64歳以下）、難病、障害児保護者は「調布市防災・安全情報メール」、身体障害（65歳以上）、知的障害、精神障害は「わからない」が最も多くなっている。

単位：％		防災行政無線	調布市防災・安全情報メール	調布FM	市ホームページ	ケーブルテレビ	SNS（市の公式アカウントを含む）	その他	わからない	無回答
障害者 (18歳以上)	身体障害（64歳以下）（N=238）	9.7	23.1	1.7	11.3	5.5	18.9	6.3	19.7	3.8
	身体障害（65歳以上）（N=190）	15.8	21.6	4.7	7.9	5.3	5.8	6.8	22.6	9.5
	知的障害（N=240）	9.6	21.7	0.8	6.7	6.3	11.3	4.6	34.6	4.6
	精神障害（N=392）	9.7	15.1	1.5	9.7	5.6	22.2	5.1	28.8	2.3
	難病（N=348）	10.1	26.4	0.9	14.4	4.9	19.0	3.4	17.2	3.7
障害児保護者（N=185）		7.6	49.7	0.0	7.6	1.1	23.2	1.6	8.6	0.5

9 デジタルの活用

①市の保健福祉施策（サービス）に関する情報の入手先

【障害者（18歳以上）、障害児保護者】

調布市の保健福祉施策（サービス）に関する情報をどこから入手していますか。

（いくつでも○）

- 市の保健福祉施策（サービス）に関する情報の入手先は、身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、知的障害、精神障害、難病、障害児保護者ともに「市の広報紙・チラシ」が最も多くなっている。

単位：％		市のホームページ	市の広報紙・チラシ	市役所・相談機関など の窓口	テレビ（ケーブルテレビを含む） ・ラジオ	家族、友人・知人からの 口コミ	S N S	その他	特 に い な い 、 情 報 は 入 手 し て い な い	無 回 答
障害者 (18歳以上)	身体障害（64歳以下）（N=238）	29.8	45.4	16.8	2.9	13.4	9.2	4.2	21.0	3.8
	身体障害（65歳以上）（N=190）	17.4	47.4	12.6	6.3	12.6	3.2	3.2	24.7	9.5
	知的障害（N=240）	16.3	37.1	17.1	4.2	22.9	6.3	2.9	28.3	9.2
	精神障害（N=392）	24.5	37.2	20.7	5.1	14.8	12.8	3.1	27.8	5.1
	難病（N=348）	29.3	47.4	12.6	4.0	10.9	9.8	1.4	22.7	4.6
障害児保護者（N=185）		41.1	62.2	19.5	0.5	33.0	15.1	3.2	5.4	1.6

10 市の障害者福祉施策

①市の相談窓口や制度の認知度【障害者（18歳以上）、障害児保護者】

あなたは次の調布市の相談窓口や制度を知っていますか。（それぞれ1つに○）

- 市の相談窓口や制度の認知度について、「知っている」の割合をみると、身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、難病は〔ク 成年後見制度〕、知的障害は〔イ ちょうふだぞう（相談支援・地域活動支援センター）〕、精神障害は〔エ こころの健康支援センター（相談支援・デイ事業等）〕が最も多くなっている。
- 障害児保護者の「知っている」の割合は〔ア 子ども発達センター〕、〔イ 子ども家庭支援センターすこやか（国領ココスクエア2階）〕で9割を超えている。

<「知っている」の割合>

単位：％		ア 動 支 援 セ ン タ ー （ 相 談 支 援 ・ 地 域 活 動 支 援 セ ン タ ー ）	イ 地 域 活 動 支 援 セ ン タ ー （ 相 談 支 援 ・ 地 域 活 動 支 援 セ ン タ ー ）	ウ 希 望 ヶ 丘 （ 相 談 支 援 ・ 地 域 活 動 支 援 セ ン タ ー ）	エ こ こ ろ の 健 康 支 援 セ ン タ ー （ 相 談 支 援 ・ デ イ 事 業 等 ）	オ 予 約 制 （ 難 病 相 談 窓 口 （ 障 害 福 祉 課 ・ 予 約 制 ）	カ 障 害 者 虐 待 防 止 セ ン タ ー （ 障 害 福 祉 課 ）	キ 地 域 福 祉 コ ー デ ィ ネ ー タ ー （ 社 会 福 祉 協 議 会 ）	ク 成 年 後 見 制 度
障害者 (18歳以上)	身体障害（64歳以下）（N=238）	28.2	30.7	9.2	18.1	11.8	8.8	21.8	39.5
	身体障害（65歳以上）（N=190）	23.2	21.6	8.4	15.8	11.6	12.1	32.6	40.0
	知的障害（N=240）	26.3	83.8	8.8	27.5	4.2	12.9	29.6	35.4
	精神障害（N=392）	18.9	27.8	17.3	48.0	4.8	7.7	23.0	39.5
	難病（N=348）	13.5	21.3	5.7	16.1	40.8	10.1	27.3	47.7

<「知っている」の割合>

単位：％		ア 子 ど も 発 達 セ ン タ ー	イ か 子 ど も 家 庭 支 援 セ ン タ ー す こ や か （ 国 領 コ コ ス ク エ ア 2 階 ）	ウ 教 育 相 談 所 （ 調 布 市 教 育 会 館 6 階 ）	エ 教 育 支 援 コ ー デ ィ ネ ー タ ー （ 調 布 市 教 育 会 館 5 階 ）	オ 子 ど も 家 庭 セ ン タ ー （ 文 化 会 館 西 館 ）	カ 障 害 者 虐 待 防 止 セ ン タ ー （ 障 害 福 祉 課 ）
障害児保護者（N=185）		95.1	93.5	75.1	43.8	74.6	18.4

②市の障害者福祉施策（サービス）の充実のために重要な取組

【障害者（18歳以上）、障害児保護者】

調布市の障害者福祉施策（サービス）をより充実していくために、特に重要と考える取組は何ですか。（いくつでも○）

- 市の障害者福祉施策（サービス）の充実のために重要な取組は、身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、知的障害、精神障害、難病は「困ったことや福祉サービスの利用などを気軽に相談できる窓口」、障害児保護者は「放課後などの活動場所（放課後等デイサービスなど）の整備」が最も多くなっている。

単位：％		困ったことや福祉サービスの利用などを気軽に相談できる窓口	健康づくりや地域での医療サービス	手当や医療費の助成などの経済的な支援	成年後見制度など、金銭・財産などの管理の支援	ホームヘルプなど、在宅生活を支援するサービス	ガイドヘルパー参加の支援	介助者の病気など、緊急時における一時預かり、ショートステイ※1	発達に関する相談や療育の充実	保育園・幼稚園などにおける受入れの推進	特別支援教育の充実	放課後などの活動場所（放課後等デイサービスなど）の整備
障害者 (18歳以上)	身体障害（64歳以下）（N=238）	58.8	18.1	53.4	13.9	26.5	14.7	24.4	-	-	-	-
	身体障害（65歳以上）（N=190）	55.3	16.3	42.6	5.3	30.0	7.9	23.2	-	-	-	-
	知的障害（N=240）	55.8	24.6	38.8	28.7	20.0	22.9	30.8	-	-	-	-
	精神障害（N=392）	65.3	26.5	56.6	19.9	25.5	17.6	19.1	-	-	-	-
	難病（N=348）	60.6	25.6	53.4	11.2	30.5	10.3	21.3	-	-	-	-
障害児保護者（N=185）		62.2	20.0	56.8	36.2	18.4	22.2	51.4	64.3	34.6	53.0	67.0
単位：％		日中の活動場所（作業所などの障害者施設）の整備※2	企業などで働くための支援（就業支援）	仕事以外の趣味や余暇活動・スポーツ活動などの支援や場所の整備※3	グループホームなど地域における住まいの場の整備	障害理解の促進や差別の解消	公共施設や道路、交通機関などのバリアフリー	障害者に応じた多様な情報提供の充実	災害時の支援体制の整備	デジタル技術を活用した、情報提供や意思疎通支援	その他	無回答
障害者 (18歳以上)	身体障害（64歳以下）（N=238）	14.3	23.5	18.5	15.1	22.7	34.9	26.1	33.6	21.8	3.8	9.2
	身体障害（65歳以上）（N=190）	6.3	5.3	10.5	12.1	5.3	26.8	21.6	28.4	5.8	1.6	17.4
	知的障害（N=240）	28.3	23.3	26.3	40.4	31.7	20.4	29.2	32.9	15.0	3.3	11.3
	精神障害（N=392）	25.3	31.9	26.5	19.1	34.4	21.4	35.2	30.6	23.5	5.9	7.1
	難病（N=348）	9.8	17.5	13.8	12.4	13.5	28.2	19.3	29.3	15.5	1.7	8.9
障害児保護者（N=185）		45.4	43.2	36.8	31.4	36.8	25.9	40.0	25.9	18.9	5.9	1.6

※1 障害児保護者アンケートの選択肢は「保護者の病気など、緊急時における一時預かり、ショートステイ」

※2 障害児保護者アンケートの選択肢は「学校卒業後の日中の活動場所（作業所などの障害者施設）の整備」

※3 障害児保護者アンケートの選択肢は「趣味や余暇活動・スポーツ活動などの支援や場所の整備」

11 介助者のこと

①介助や支援の不安や困りごと【障害者（18歳以上）、障害児保護者】

介助や支援にあたってどのような不安や困りごとがありますか。（いくつでも○）

- 介助や支援にあたっての不安や困りごとは、身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、知的障害、精神障害は「介助・支援をする家族自身の高齢化」、難病は「特にない」、障害児保護者は「何かあったときに本人の介助・支援を頼める人（場所）がない」が最も多くなっている。

単位：％		か障害や病気のことがよくわかる	適切な介助・支援の方法がわからない	自分の外出・休養など（余暇）の時間がもてない	自分の希望する仕事に就くことが難しい	自分の学校・学業がよろしくない	介助・支援をする家族自身の高齢化	介助・支援をする家族自身も病気や障害がある	本人のほかに介助・支援が必要な家族がいる	本人のきょうだい（兄弟・姉妹）にも本人の介助や支援の負担をかけている
障害者 (18歳以上)	身体障害（64歳以下）（n=180）	2.2	10.6	21.7	7.8	0.6	24.4	13.3	8.9	-
	身体障害（65歳以上）（n=139）	5.0	8.6	10.1	3.6	0.0	33.8	13.7	7.9	-
	知的障害（n=209）	1.9	6.7	20.6	12.4	0.0	53.6	14.8	18.2	-
	精神障害（n=251）	14.7	16.3	12.0	6.8	1.6	27.5	15.9	10.0	-
	難病（n=278）	9.0	10.8	10.8	2.9	0.4	20.1	5.8	4.0	-
障害児保護者（N=185）		9.7	33.5	33.0	33.0	-	20.0	6.5	11.9	15.1
単位：％		（場所）介助・支援を頼める人（場所）がない	何かあったときに頼める人（場所）がない	相談できる場所がない	機会がない情報交換、交流、家族の士気	障害のある当事者、家族の経済的な負担が大きい	その他	特にない	いないのでわからない	無回答
障害者 (18歳以上)	身体障害（64歳以下）（n=180）	20.6	10.6	7.8	18.9	2.2	17.2	3.3	27.2	
	身体障害（65歳以上）（n=139）	17.3	5.0	2.9	11.5	0.0	15.8	3.6	30.2	
	知的障害（n=209）	32.1	6.7	11.0	12.9	8.1	15.3	2.9	7.7	
	精神障害（n=251）	22.3	11.6	9.6	22.3	2.8	16.7	3.6	25.5	
	難病（n=278）	10.4	3.6	4.7	12.2	1.8	22.7	14.7	23.4	
障害児保護者（N=185）		35.7	10.3	16.2	18.4	8.6	14.6	-	1.6	

②介護者支援策への意向【高齢者，障害者（18歳以上），障害児保護者】

介護者支援策として，あなたが必要だと思うことは次のどれですか。（いくつでも○）※1

- 必要だと思う介護者支援策は，高齢者は「介護者が気軽に休息がとれる機会づくり」，身体障害（64歳以下），身体障害（65歳以上），知的障害，精神障害は「支援制度や福祉サービスなどの情報提供・相談窓口の充実」，難病は「わからない」，障害児保護者は「支援制度や福祉サービスなどの情報提供・相談窓口の充実」が最も多くなっている。

単位：％		介護者に対する定期的な情報提供	介護者が気軽に休息がとれる機会づくり	電話や訪問による相談サービス	本人や介護者が集まって話せる場づくり	仕事と介護の両立支援	介護者の経験をいかした発言の場づくり	その他	特にない	無回答
高齢者（N=633）		47.2	49.0	38.7	30.0	37.4	17.5	1.1	11.8	6.8

単位：％		作り，話し合える場を作ったこと	介護者同士が交流した	離れる時間を作ったこと	本人の介護や支援から	家事や育児を手伝って	柔軟な対応や状況に合わせた支援	相談窓口の充実	支援制度や福祉サービスなどの情報提供・相談窓口の充実	その他	わからない	無回答
障害者 （18歳以上）	身体障害（64歳以下）（n=180）	4.4	16.7	10.0	14.4	32.8	5.6	17.8	28.9			
	身体障害（65歳以上）（n=139）	3.6	13.7	6.5	6.5	30.9	2.9	15.1	38.8			
	知的障害（n=209）	13.4	24.9	5.7	22.0	50.2	8.1	12.4	12.4			
	精神障害（n=251）	8.8	15.5	11.2	19.9	34.7	4.8	21.1	29.9			
	難病（n=278）	6.5	14.4	6.8	9.0	22.3	1.4	31.7	31.7			

単位：％		話し合える場を作ったこと	保護者同士が交流した	離れる時間を作ったこと	本人の育児や介護・支援から	家事や育児を手伝って	状況や本人の介護・支援の場環境や働き方の普及	充実した情報提供・相談窓口の充実	支援制度や福祉サービスなどの情報提供・相談窓口の充実	その他	無回答
障害児保護者（N=185）		28.1	40.5	24.9	47.6	59.5	14.6	4.9			

※1 障害者（18歳以上）アンケートの設問は「ご家族におたずねします（ご家族以外は回答不要）。介助する人への支援として力を入れてほしいことは何ですか。（いくつでも○）」
 障害児保護者アンケートの設問は「保護者への支援として力を入れてほしいことは何ですか。（いくつでも○）」

Ⅲ 住民懇談会の結果

1 緑ヶ丘・滝坂／若葉・調和小学校地域

■意見区分タイトル（個別意見をグループ化した名前）（原文通り）

テーマ グループ	テーブルワーク 1 「つながりがあってよかったことは？」	テーブルワーク 2 「“地域とつながりがない状況”を考えてみよう」	テーブルワーク 3 「ワーク 2 の“地域とつながりがない状況”をなくすために、どんなきっかけや取組ができそう？」
グループ A	●安心感 ●見守り ●顔の見える関係	●疑心暗鬼 ●世帯の縮小 ●多忙 ●閉鎖性の助長 ●困る人の増加	●メリットを知る ●支える人 ●連絡先を知る ●空家対策 ●システム構築
グループ B	●自治会 ●イベント・サークル等 ●効果	●後継者不足組織の弱体化 ●プライバシー個人情報 ●相談先がわからない	●あいさつ情報提供 ●行政、企業との連携役割を頼む ●イベント・まつり
グループ C	●子ども ●活発な地域のつながり ●ゆるやかなつながり	●見えづらさ ●プライバシー ●つながりいらない?? ●情報 ●タイミング	●楽しむ！ ●場所づくり ●あいさつが大事！！（きっかけ） ●情報の届け方
グループ D	●情報 ●仲間／気持ち ●共通のわだい	●居住区によるへだたり／情報が届かない届いていない ●災害 ●知らないことによる不安 ●気持ち ●つながらなくても OK	●災害 ●情報発信のツール ●情報／行政への要望 ●すぐ取りかけられること そうなこと

■個別意見（原文通り）

【グループA】

テーブルワーク 1	テーブルワーク 2	テーブルワーク 3
「つながりがあってよかったことは？」	「“地域とつながりがいない状況”を考えてみよう」	「ワーク2の“地域とつながりがいない状況”をなくすために、どんなきっかけや取組ができそう？」
安心感	疑心暗鬼	システム構築
・ひとり暮らしになられた方が困った時に、昔からのつながりで助けられたこと。 ・苦しくても解決しなくても、だれかがみていてくれる ・専門家から専門家を紹介していただけた！！ ・分からないこときける！！ ・近所を犬をつれての散歩 ・犬の散歩している方みるとうれしい ・日々生きる理由ができる ・困っていて自分で解決できないこと。相談できる ・色々な方がいることでほっとする ・まだまだ制度知らない方多いことに気付かされるもったいない ・子育ての大変さ。（働く世代） ・子どもたちが安全に暮らせる未来にしたいと思える ・中学生と朝のゴミ拾いをする事で年代をこえた顔みしりが増えたこと ・高齢者会食に参加，設立 ・高齢者配慮への意識↑	・年金受給への引け目 ・生活保護受給への引け目。 ・病人扱いされたくない ・世代による価値観がマイナスになる。→辛さ，苦しさを表出させてはならない。恥とを感じる ・好奇の目にさらされたくない ・相談先が分からない ・誰とも話したくない ・周囲の視線がこわい ・偏見にさらされて生きてきた ・他者の介入を嫌う。介護に疲れて誰にも助けを求められない例 ・誰かにたよることが自分自身ゆるせない ・他者に自分のことを伝えたくない。 ・周囲への不信感が大きくなっている ・噂話の種にされるのではない ・不審者だと思われたくない ・誰も信用できない	・ヤングケアラーと公共ネットワーク等のシステム構築 ・生活保護者とつながるネットワークシステムの構築 ・IT 世代他(福祉)アプリを通じてダイレクトにつながるシステムの構築 ・行政への不信感↓ ・情報発信の工夫 ・同じ不安をもっている人がどうやって解決，ふんとうしてるか知る ・市の広報紙での宣伝⇒こんなイベントあるよ！アナログなのでアクセスしやすい ・ケアマネ，好事例共有 ・大人版子ども食堂もうやってる？ ・学校をつかってイベント⇒懐かしさもあって参加者増？ ・どこかが介入。どこかへつながったことで良くなった例を！！ ・自治会の入り方を知る！！（若い世代）
見守り	困る人の増加	支える人
・震災の時に情報交換ができたこと ex:お店開いている電気いつから復旧… ・大雪の時，車を駐車場から出す時助けてくれた ・東京都消防庁の災害ボランティアを 20 年以上やり，地域の方と接点を持つ ・地域のおまつりに参加できた⇒自分も楽しめたし，大人や子どもたちもたのしそだった	・災害時に連携できない⇒情報交換，相互救助… ・社会的貧困⇒必要な情報，支援が得られない ・地域の非活性⇒イベントやおまつりが無くなる。経済的，文化的活動の減少，衰退 ・高齢化してつながりがいない ・外国籍の方で言葉が通じない，通じにくい。文化，風習がわからない	・IT になじまない方々への対応（人とのつながりが1番か？） ・ネグレクトを察する人材の強化。（思いやり，やさしさ，経験者）

顔の見える関係	多忙	連絡先を知る
・地区協や色々な団体に属することで多くの学びをえられたこと ・自治会の設立近所の顔が良く知れた。 ・自治会 75 才以上(1人)の会員にみまもりに加入 ・大型マンションの理事になって、多くの住民と知り合いになれた。 ・子どもたちの通学見守り運動⇒この町なら安心して子育てできるという安心感が生まれた ・子ども食堂を通し、多くの子ども達の成長をみることができたくさんのスタッフと仲間になれた。	・今の生活を守りたい大事にしたい ・仕事が忙しい ・余裕がない ・パートでいそがしい。 ・忙しくて家には寝にかえるだけ	・医療関係者と民生委員さん、ボランティア、自治会等とのつながり。 ・本人申請以外の連絡が生きるネットワーク作り ・通報 ・東京ウィメンズプラザ連絡 ・こころの健康センターへつなげる。 ・地域包括支援センターへつなげる ・若ナビα連絡
(枠外・テーマなし)	閉鎖性の助長	メリットを知る
・うつ状態を発症⇒病院、医療関係者との連携・善意のある方々とのつながり ・長期ネグレクトによる自殺未遂・多くの方々が間に入り連携を取って下さった。・孤立しない様して下さった。 ・提案を出す事で物事を改善するきっかけとなった事 ・年賀状や贈りものを通じて、つながり続ける楽しみ。(年を重ねる程)	・ネグレクト⇒親:逃げ場がない、子:抵抗する意志が存在しない ・治安悪化⇒見守りが無くなる。条件は目に付きにくい所で発生 ・ネグレクト他・大人の ADHD が影響を及ぼす。 ・閉ざされた家庭になかなかはいっていけない	・1人で抱えこまず複数人で対応 ・嫌／苦手な話題のかわし方も周囲と相談し持続可能な繋がり ・数年単位解決に要すること覚悟する ・つながりをもつメリットを知る。 ・ペットを飼っている高齢者と、保護犬保護猫団体とのつながり。(飼いたい方々も含む)
	世帯の縮小	空家対策
	・空家がふえた。 ・1人ずまいが多い	・空家対策 ・空き家の活用を市が援助 ・高齢者の名前、住所が判る様に書いてあっても昔の様に住所表示されていない所が多く、つながりや、どこのだれか判らない。

【グループB】

テーブルワーク 1	テーブルワーク 2	テーブルワーク 3
「つながりがあってよかったことは？」	「“地域とつながりがない状況”を考えてみよう」	「ワーク2の“地域とつながりがない状況”をなくすために、どんなきっかけや取組ができそう？」
自治会	後継者不足組織の弱体化	行政、企業との連携 役割を頼む
・自治会の班長になり近隣だけでなく顔見知り、あいさつちょとした話をする人ふえた ・老人会の副会長会計をしていること大変です。 ・自治会の防災訓練に参加することで、近所の人の顔が分かった。	・老人会で毎月会報を配りサークル活動がわかるようにしているが参加者は同じ人たち ・男性のサークル参加が少ない。 ・後継者不足 ・イベントの縮小・中止(コロナの時期から)	・企業や商店との連携 ・防災訓練を地域の防災倉庫の用具を使ってみんなでためしてみる。大人も子供も参加する。 ・(行政)活動の費用(簡単なもの) ・一人ぐらしで身よりない人でこまり事をかかえている人については専門職とも連絡して近隣も役割はたす ・自治会と行政がつながり、一緒に考える。
イベント・サークル等	プライバシー個人情報	あいさつ情報提供
・夏まつりにボランティアとして参加 ・仙川オレンジカフェのスタッフ参加したこと。 ・地域センターでの10の筋力トレーニング代表者になったこと ・夏まつり(小学校)を手伝ったことで、つながりできた人増えた ・市で行っている10筋体操に参加することで、地域住民とつながった。 ・マンションに住んでいる高齢夫婦、趣味(麻雀)を通して地域のサークルに参加 ・「ふれあい給食」のスタッフ参加をして高齢者の方といろいろお話しが出来たこと。	・ひっこして来た人はゴミ出しの情報がなくて困っていた ・プライバシー重視お互い干渉しない ・個人情報との関係でつながりづくりにくい ・定期的な集会がない。(集合住宅) ・誰が住んでいるかわからない ・あいさつがない	・あいさつ簡単な会話 ・あいさつの声かけから話しをしてゆく ・調剤などお店から通っている所で情報を知ってもらう。 ・地域住民の困り事を考える ・口コミからの情報を流す。 ・あきらめないで何度かアプローチし、きっかけを作る。 ・ちょっとした+αの親切
効果	相談先がわからない	イベント・まつり
・つながりがどんどん広がる→困った時に相談できる人が増える ・社会復帰につながる ・家の前の道デコボコがでいた自治会の役員が写真とり市に申し入れた結果すぐになおしてくれた。 ・地域で知っている人に会うと安心する ・防犯につながる	・相談しづらいどこに相談したらいいかわからない ・人と関わるのがおっくう ・困り事があっても誰に相談したらいいかわからない ・電話でのお話しが難しい。 ・地域の情報を知らない。自治会って何？	・敬老や入学のお祝い ・地域の中の小さい公園に集まり(近くが大切)楽しくすごす会を ・イベントでの出会いから ・地域のイベントおまつりは若い世代も参加しやすい

【グループC】

テーブルワーク 1	テーブルワーク 2	テーブルワーク 3
「つながりがあってよかったことは？」	「“地域とつながりがない状況”を考えてみよう」	「ワーク2の“地域とつながりがない状況”をなくすために、どんなきっかけや取組ができそう？」
子ども	見えづらさ	あいさつが大事！！（きっかけ）
・子供会活動で地域の子どもとつながった ・孫のお友だちの母親と LINE でつながりできた	・手入れがなく空家みたいだけど住んでいるかも？ ・孤立は見えづらくかわりがむずかしい ・住人の様子が外から見えない	・あいさつ運動 ・給食など食を通じて、本ねが出る
活発な地域のつながり	プライバシー	場所づくり
・地域行事の手伝いをして多くの人と出会った ・地域の清掃活動を通じ、街をきれいにできた。 ・スポーツジムで自然とあいさつや笑い話などでスポーツの継続になり体調が良くなった ・おすすめし楽しまれて活動に参加されている様子 ・長年の活動の中で知り合いが増え自分が楽しい	・近所の人に家の中まで知られたくないプライバシー ・プライバシーのむずかしさ ・守秘義務が多すぎて助けられない	・活動の場所作り ・ブラッと立ちよれる場所があるといい ・センターの利用の仕方が問題
ゆるやかなつながり	つながりいらない??	楽しむ！
・民生委員としてお年よりとのこうりゅうがふえた ・自治会であいさつをした事と、近所の方の困難を知る事になった ・月に1度1人のお年よりと電話	・人間関係を必要としない。 ・他人と口をきくことがおっくう ・外出しない ・話し相手がいない	・天の岩戸が開くような、楽しい行事をする ・家から出てたのしいと思える取組がたくさんあるといい
	情報	情報の届け方
	・相談事など出むかないと情報を取れない ・そもそもに情報を取り行く事をしない ・地域の活動について、よくわからない	・学校などトイレに色々な情報をはる
	タイミング	
	・相談する、時間タイミング合わない ・自分にあった活動時間のものがない	

【グループD】

テーブルワーク 1	テーブルワーク 2	テーブルワーク 3
「つながりがあってよかったことは？」	「“地域とつながりがない状況”を考えてみよう」	「ワーク2の“地域とつながりがない状況”をなくすために、どんなきっかけや取組ができそう？」
情報 ・近所の方とつながる事により情報を得るあるいは情報を教えることが出来た。 ・新しい情報にふれることができる。	災害 ・災害の時支援すべき人が分からない。 ・災害時の助け合いができない	災害 ・大災害が起きたならば地域住民が協働することができる ・大きな災害がないと自分ごとにならない。その時がつながるきっかけに。 ・こまった事がおきた時に社協、市役所がこんな事が出来るというアナウンスをもっと集知するべきだ。 ・困った時に頼る先として”私たち〇〇できます！”としっかり広報してほしい。
仲間／気持ち ・同じ悩みを共有した上で心おきなく話せる安心できる。 ・仲間と悩み等相談できる。 ・寄り添ってもらえると落ち着ける。 ・知り合いが増えた楽しい！ ・感謝してもらえる ・またやろう！！のモチベーション ・みんなと仲良くなれる。相談できる環境	つながらなくても OK ・心が変わった時、余裕があるその時に ・地域とつながる事がいやな人もいる(対人関係)なんか、気分的に地域につながりたくないなんかめんどくさい。 ・つながらなくてもいい！！OK！自分のことで精一杯	すぐ取りかかれることそうなこと ・見回り、声がけ ・近所の人へあいさつ ・時間を掛けて、話しかける。相手の興味がある話しをもちかける ・就労支援等、一緒に探してあげる ・回覧板話さなくてはいけない状況がある。 ・体調悪い？とまったら、気になる。回覧板でつながる！！ ・自治会活動の活動 ・自治会では、会員の方々が集まってくれる様な企画をする。(防犯、防災) ・お祭り・地域の住民・行政・企業
共通のわだい ・花壇の手入れをすることにより(体を使う)気分がスッキリ(仲間達) ・共通の話題で盛り上がると知り合いになりやすい ・つながりの連鎖スマホ教室→お祭り→防災訓練	気持ち ・離れていくムリにつながろうとすると ・関わりがなくなる ・信頼関係がきづきにくい ・否定的で(拒絶)話しができない時心が折れる ・親切心がいやだ	情報／行政への要望 ・心のわだかまりをほぐす！ひきこもり(家族)について、心理師さんに相談できる(個別に)システムをつくり、市全体に公報する。行政 ・公認心理士の専門相談窓口を作してほしい。つながりたくてもつながれない人家族のために ・専門の窓口知らない、分からない広報が必要、口コミ

	知らないことによる不安	情報発信のツール
	・ どのような人かわからない怖い ・ 防犯がしにくい	
	居住区によるへだたり／情報が届かない届いていない	
	・ A と B の地域近いのに何をやっているか分からない・作品展など・花の好きな人がいる	・ LINEのオープンチャット・相談先・地域のおまつり

■話し合いの結果の特徴

- ・ テーブルワーク 1 「つながりがあってよかったことは？」

趣味の活動や自治会活動，子どもに関係した地域活動などを通じて人とのつながりが広がることで，情報共有の機会や顔の見える関係が生まれ，そこから得られる安心感が日々の生活をより豊かなものにするという，つながりが持つ重要性が共有された。

- ・ テーブルワーク 2 「“地域とつながりがいない状況” を考えてみよう」

不安や不信感などにより，会話や相談が困難になることや，孤立が周囲からは見えづらいこと，災害時には支援が必要な人を把握できず助け合いが機能しなくなる恐れがあることなど，つながりの欠如によって生じる孤立や孤独などの懸念が共有された。

- ・ テーブルワーク 3 「“地域とつながりがいない状況” をなくすために，どんなきっかけや取組ができそう？」

支え合いの仕組づくりや，地域などとの連携による参加しやすい居場所の充実，災害対応や困りごとを支援する仕組みを「見える化」することなどにより，つながりを生み出す取組について共有された。

2 第一・富士見台・多摩川／第三・石原・飛田給小学校地域

■意見区分タイトル（個別意見をグループ化した名前）（原文通り）

テーマ グループ	テーブルワーク 1 「つながりがあってよかったことは？」	テーブルワーク 2 「“地域とつながりがない状況”を考えてみよう」	テーブルワーク 3 「ワーク 2 の“地域とつながりがない状況”をなくすために、どんなきっかけや取組ができそう？」
グループ A	●場所 ●情報 ●人 ●出会い	●居場所 ●顔が見えない ●災害 ●近所付き合い	●イベント ●情報誌 ●その他
グループ B	●具体的多世代 ●人々同志のつながり活動よい事いけなかった事。ボランティア ●地域のつながり知り合い。新しい故郷ふるさと	●個人的 ●地域的	●個人 ●地域イベント ●企業・行政
グループ C	●イベントを通じての出会い ●障がいの理解 ●団体活動 ●あいさつ	●子そだて世代 ●病気、障がい ●防犯、関係が希薄に…	●情報について（行政・地域住民） ●（行政） ●あいさつができるようになるには…（課題）（個人）

■個別意見（原文通り）

【グループA】

テーブルワーク 1	テーブルワーク 2	テーブルワーク 3
「つながりがあったよかったことは？」	「“地域とつながりがいない状況”を考えてみよう」	「ワーク2の“地域とつながりがいない状況”をなくすために、どんなきっかけや取組ができそう？」
場所	居場所	イベント
・本 絵本の好きなつながり ・”ぬりえ”をはじめています。昔のぬりえと違いすごく色あいなど考えながらぬってみんなで語り合います。 ・コンサート音楽好きのつながり ・地区協議会いっしょうひだまりサロンのつながり ・誰かと会うために外に出る→健康になる ・どのような考えがあるか新しい発見がある。 ・子どもの学校、保育園のつながり ・自治会のつながり ・ひきこもりがちだが外に出るきっかけになる ・地域にこんな人がいると知れる ・福祉センターひだまりサロンのつながり ・新しい活動につながる生まれる	・個人情報だからと表札に名前を出てない ・自治会不要論が出たり役員になりたがらなくなつてつながりかきれい ・学校の連絡網もつくらなくなりどこに住んでいるかも知らせない ・たまり場が必要。年令には関係なく ・相談できる人がいない ・自治会の活動に無関心	・市報に自分の参加できるお知らせを見る ・手伝いたいけど何をすれば良いかわからない→何が必要か教えてほしい。 ・地域イベントに参加して出会う福祉まつり商業まつり等 ・性別、年齢、問わずに、だれでも行けるという場 ・地区協議会に参加する。地区協の活動を活発にする ・地区協議会に参加して活動づくりをする ・ひだまりサロンを増やす。(出会う機会を増やす)
情報	顔が見えない	情報誌
・知らない事を教えてもらえる。 ・地域のちょっとした情報が入る。 ・地域に住んでいる人の顔が思い浮かぶと地域愛になる ・ちょっとしたことを話せる相手がいる ・新しい情報が入る ・地域の子どもを気にかけるようになった。 ・みんなが見守られていると思える ・防犯になる。地域にいろんな目があると伝わる。	・地域の情報がくわしくわからない。 ・どんな人が住んでいるか見えない。 ・じっくりと語りかけることが少なくなった ・地域の情報が入っても、参加のハードルが高く感じる。 ・誰が住んでいるかわからない何となく不安。 ・信頼関係が生まれない ・地域の活動の内容がわからない ・活動の情報がはいらないから外出の機会もへる。	・自分の興味あるところだけを選べるようにする。(情報) ・分野別に情報があるとわかりやすい。 ・地域単位の情報誌。 ・広報誌(市)を見やすくする。 ・自分に関する(エリア)情報だけがほしい多いと困る。

人	災害	その他
・多摩川が近いのでウォーキング仲間とのつながりができた。 ・〇〇さんに誘われたから行ってみようかな, 参加につながる ・体を動かす出かける事が増える ・一人で抱えなくて良い安心感 ・信頼が生まれるあいさつから ・顔がわかる人が増える ・近所の方数名とあいさつしていますができる点。	・災害があったとき, 助け合えるのか不安。 ・自治会として, 避難のときに必要な情報。(お子さんが何人いる)。がわからない。 ・避難訓練にも参加しない参加しづらい。 ・災害等の時が心配。	・「この指とまれ」を言ってくれる人。がいる ・目的・性別・年れいなどの区別なく, 自由に(気軽に)出入りできる場所があるとよいかな ・こういうものが必要と, 周りに投げかける。 ・住民をつなげるため行政の役割とは住民のつながり ・趣味や興味のあるものでつながる。
出会い	近所付き合い	
・人と会うとエネルギーをもらえる。 ・ちがう年代の方と出会える ・出会いが連鎖する ・若い人と出会える ・顔見知りが出来て“おはよう”“元気ですネ”からおしゃべりがはずみます	・家族が少なく, (独居など)出かける機会が少ない ・家にこもりがちで外に出ない。 ・共働きで昼間に顔を合わさない。 ・ご近所に無関心。自分の生活にだけ関心が向いている。 ・働いているとつながりたくてもつながれない ・世代間でつながりがない若い人とつながれない ・考え方がちがうとつながりがなくなる。	

【グループB】

テーブルワーク 1	テーブルワーク 2	テーブルワーク 3
「つながりがあってよかったことは？」	「“地域とつながりがない状況”を考えてみよう」	「ワーク2の“地域とつながりがない状況”をなくすために、どんなきっかけや取組ができそう？」
具体的多世代	個人的	個人
・子どもの見守り ・子ども会 ・防犯の情報共有 ・健全育成のとりくみ ・情報誌シニア編がいろいろなところにおいてくれておりありがたい ・地区協議会でイベントにとりくみ地域全体で参加できてよいです ・地域の民生委員の方が中心になって、自治会でいろいろなイベントを取組み、他の自治会にも参加を呼びかけてくれており、助かっています。 ・ひだまりサロンで自治会の枠を超えて集まり楽しんでいる。 ・一つの居場所がきっかけで様々な交流が生まれた ・地域での認知症の理解が深まった	・単身で地域活動に参加していない ・生きがいの創出が難しい ・情報判断がしにくい(さぎに合いやすい) ・家族に小学生がいない。孤立世帯 ・引きこもり(健康でなくなる) ・情報格差が生まれる(高齢者) ・新築マンションの住人 ・気軽に話せる人がいない ・ひきこもり(病気による)精神・身体的理由	・単身者への訪問(民生委) ・民生委員の負担をへらしながら地域のボランティアとの連携をできるようにしてほしい ・(個人)あいさつをする
人々同志のつながり活動よい事いけなかった事。ボランティア	地域的	地域イベント
・楽しい時間を共有できる ・つながりをまたつなげてやりがい生きがいが増えた ・ボランティア運営のつながり	・自分も高齢化になり、ボランティアができなくなってきているコウケイ者づくりがむずかしい。 ・家(屋敷)の外見からではわからない ・お祭りがなくなる ・PTA が活動しなくなっている ・高齢化が進みボランティア活動ができない人が多い ・子供会がなくなっている ・地域に関する不満がコミュニティの悪いきっかけ ・男性も女性がずっと働いているのでボランティアをできない	・おまつりやイベントは大事。よいきっかけ ・自治会の資金不足を改善してほしい ・地域包括支援センターがもっと地域と情報共有できるようにしてほしい ・新しいコミュニティの(今の時代に合った仕組み) ・若い世代の輝ける場所づくり(地域) ・災害時要支援制度が少し進展しましたがもっと進めてほしい

地域のつながり知り合い。新しい故郷ふるさと		企業・行政
・飛小で地域の方が、あいさつ運動や、交通せいりを毎朝やっている ・新しい友達ができた。 ・最近越して来られたお家。 ・倒れた方への対応。声かけができたこと ・困った時に助けを求められる ・知っている人に会うと安心する ・近所の顔見知り ・お店のお客様例自転車屋		・CSWをもっと人員を増やしてほしい ・地域参加のきっかけ作り(行政, 企業地域) ・(行政)連携の舵取りのうまさ ・新しい(企業・行政)地域活動の取り組み(ふるさと納税的な)仕組み

【グループC】

テーブルワーク 1	テーブルワーク 2	テーブルワーク 3
「つながりがあってよかったことは？」	「“地域とつながりがない状況”を考えてみよう」	「ワーク2の“地域とつながりがない状況”をなくすために、どんなきっかけや取組ができそう？」
イベントを通じての出会い	子そだて世代	情報について（行政・地域住民）
・西部地域センターで「ふれあいのつどい」を手伝いました ・学校イベントサークルに参加して楽しく生活 ・地域のイベントニテいろんな方と知り合う事ができた ・イベント後も声をかけあう関係性に。 ・まんまる(富士見町)で手づくり教室を始めた。小学生(低学年)	・PTAや子ども会がない小学校にいきたい ・両親働いているとボランティアとかをするよゆうがない	・市報にのせて発信しつづける ・市報に「つながりコーナー」をもうけてほしい。 ・イベントのチラシ→ポスティング(マンション) ・情報が多すぎると見る気になれない→すこししぼる ・掲示板の活用・自治会・学校など ・身近な地域福祉センターで、他の地域の情報もらえると良い。
障がいの理解	病気、障がい	(行政)
・フラットカフェ(青木病院)に参加して二年位。(認知症の勉強会) ・→軽度の認知症があっても、まちで声をかけ合える関係性ができた	・高齢のご夫婦でお奥様が認知症らしいが接点がない ・病気や障がいはかくしたい	・学校の福祉教育 ・子そだて充実させる
団体活動	防犯、関係が希薄に…	あいさつができるようになるには…(課題)(個人)
・ボランティア活動にて仲間がふえた。 ・PTA後つながり大 ・民生委員としていろんなつなが	・学校では知らない人にあいさつすると言われる ・女性の◎ひとりぐらし→防犯 ・1人ぐらしとみんなに知られたら	・ワンワンパトロール ・あいさつをする。とにかく知らない人でもする！

- りができた。(相談) ・地区協や民生のグループでの情報大切 ・つながりが太くなっていく	- あぶない ・ひょうさつのない部屋, 家が多い ・コロナで話さないようになった→今もつづいている ・年代はいっしょだけど, きっかけがない ・隣近所との顔合わせ! ・マンションでもあいさつをしない人が増えた ・おとなりさんほっとしてくれるのが良い面になってる。	
あいさつ	(枠外・テーマなし)	(枠外・テーマなし)
・朝のあいさつ ・朝夕の登下校の見守り。わんちゃんがいると親しみやすい。	・自治会がへっている ・趣味してると, 他のつながり不必要。 ・情報えらべない(多すぎ, スキル) ・親兄弟や友達のいない人→どうやったらつながれるか分からない ・活動に男性が1人。どうしていいかわからない。	・自分が楽しくないとつづかない! ・防災関係→興味をもってもらいやすい ・京王多摩川駅の活用→飲食店などふやす ・小地域交流事業など, ターゲットがかたよらないように多世代交流できるように工夫する ・スポーツをきっかけにつながる ・フラットカフェなどにごあんない
(枠外・テーマなし)		
・LINEや年賀状 ・まわりの人の状況が不明		

■話し合いの結果の特徴

- ・テーブルワーク1「つながりがあってよかったことは？」

サロンや交流活動の「場」が外出や健康づくりのきっかけになること, 子どもの見守りや防犯活動を通じた多世代の交流が地域の安心を支えること, イベントや団体活動によって人間関係が広がることなど, 多様なつながりが心身の健康や充実した生活を支える大きな価値となっていることが共有された。

- ・テーブルワーク2「“地域とつながりがない状況”を考えてみよう」

顔の見える関係性が構築されないことによる不安や孤立, 地域の活動や行事が衰退することにより, つながりがない状態が生まれやすくなること, 子育て世代の多忙さや, 病気・障害への配慮の問題などについて共有された。

- ・テーブルワーク 3 「“地域とつながりがない状況”をなくすために、どんなきっかけや取組ができそう？」

伝わりやすい情報の提供，個人・地域・行政・企業がそれぞれの役割を持って関わる仕組みの構築など，多様な主体の連携と情報共有・情報発信，交流等によりつながりを生み出す取組について共有された。

3 上ノ原・柏野／北ノ台・深大寺小学校地域

■意見区分タイトル（個別意見をグループ化した名前）（原文通り）

テーマ グループ	テーブルワーク 1 「つながりがあってよかったことは？」	テーブルワーク 2 「“地域とつながりが ない状況”を考えてみよう」	テーブルワーク 3 「ワーク 2 の“地域と つながりがない状況”を なくすために、どんなき っかけや取組ができそ う？」
グループ A	●あいさつ・見守り ●ポジティブになる ●サークル ●知りあいできる ●情報が入る	●コロナ ●つながり薄くなる ●情報入らない ●心配な人	●サービス ●地域活動 ●個人でできること
グループ B	●きっかけ ●地域活動 ●気持ち・安心	●孤独「地域とつなが りがない状況」 ●無関心，偏見閉鎖的 ●ギャップで分断 ●⇒結果起きること	●ツール ●学校教育 ●おせっかい，声かけ ●伝える・相手の立場・状 況もふまえて ●ハード面
グループ C	●困った時に助け合う ●防犯	●つながりたいけど難し い状況環境 ●困ってない ●頼るのが苦手 ●学校	（意見区分タイトルなし）

■個別意見（原文通り）

【グループA】

テーブルワーク1	テーブルワーク2	テーブルワーク3
「つながりがあってよかったことは？」	「“地域とつながりがいない状況”を考えてみよう」	「ワーク2の“地域とつながりがいない状況”をなくすために、どんなきっかけや取組ができそう？」
あいさつ・見守り	コロナ	サービス
・あいさつ運動であいさつをする人がふえた ・朝のあいさつ運動(はたふり) ・朝の見守りで、地域の子供と顔合う	・コロナで、集まるリスクさげている ・コロナ禍でママ友ができない	・ちいきほうかつしえんせんたーみまもっと ・ヤクルトふっかつ ・みまもっとかつようする ・市などの何でも相談窓口の充実
ポジティブになる	つながり薄くなる	地域活動
・元気をもらえる頑張ろうと思える。 ・朝起きるのがつらいときもがんばっていこうと思える ・同じ立場の人に自分の気持ちを話すことで、気持ちが楽になった。	・同じマンションでも、ほとんど顔合わせない。 ・でがみかかなくなりました	・子供食堂等誰でも参加しやすい様に ・こみゅにていーすペースだれかがいるばしょ ・どんなサークルでも、毎回生存確認になる ・情報共有・さそいあい
サークル	情報入らない	個人でできること
・サークル仲間でひまになる事ない ・ドルチェサロン	・くちこみじょうほうがはいらない ・悪天候などで休校になった時学校にきてしまう子供がいる	・あいさつやはたふりをつづける ・LINEでも通報できるとよい
知りあいできる	心配な人	
・よみきかせで現役保護者とつながれた ・こども食堂で知りあいがふえた ・不登校の保護者の会でひとりでないと思えた ・〇〇さん(個人名)を知っている。	・せんたくものほしっぱなし ・さいがいがおおきたときがしんぱい	
情報が入る		
・同じサークルの人に心配な人がいるとご相談があり関係機関と共有して支援することができた ・地域会ギでイベントの情報入る		

【グループB】

テーブルワーク 1	テーブルワーク 2	テーブルワーク 3
「つながりがあってよかったことは？」	「“地域とつながりがない状況”を考えてみよう」	「ワーク2の“地域とつながりがない状況”をなくすために、どんなきっかけや取組ができそう？」
地域活動	孤独「地域とつながりがない状況」	伝える・相手の立場・状況もふまえて
・ご飯屋でサービスしてくれた。 ・地域の良さ共有できる(愛着) ・休みが充実した。 ・地域でのいろいろな事業に参加してもらって防災訓練等 ・自治会で実施しているじゃがいも掘り ・おち葉雪かき手伝う ・知ってもらえる人が増えた ・ふれあいサロンによる交流 ・地域で実施する交流福祉まつり ・行事に参加しやすくなる ・子ども食堂で子どもたちやパパママ参加, 笑顔がいっぱいつながりをみられてうれしい ・人と人とがつながっていくのを見て, 喜びを感じる ・ふれあい朝市に子育てに悩みを抱える親子参加→笑顔がみられた ・コロナで家族みんな倒れているときに, 食べ物届けてくれたり, Lineで励ましてくれた ・自治会で実施夜間パトロール	・寂しい。 ・孤立したままだったかも ・子のケアや孤立で, 親も体調を崩していたかも ・同じ状況の方とも出会えなかったかも ・SOS出せる出したいと安心して思える人がいない。 ・人と話せない, 会えない, ネットでもつながれない。 ・孤独孤立つらい共助しない ・世界中の中でこんなこと悩んでいるのは自分だけだと感じてしまう ・親自身も社会とのつながりがなくなってしまうかも ・お互いを知らない→あいさつできないしてもいいのか… ・大変そうな人がいても声をかけられない ・何か地域でやること, 関わること→めんどくさい…時間がない… ・SOSが出せない。 ・コロナ禍以降食事会飲みがなくなった。 ・とにかくさみしくてつらい状況 ・自分は孤独孤立無価値だと感じてしまう ・日常会っても挨拶がない・おはよう・こんばんは	・学校やPTA・地域の協力で, 茶話会など情報の発信。 ・知ってほしいだけではなく, 自分も相手を知ること大事 ・学校・地域福祉・医療のネットワークゆるやかな ・意識付 ・つながりたい時, タイミングでつながっていいことを伝えていく。 ・活動への参加呼びかける情報提供する ・つながりがないデメリット伝える。 ・地域のおまつり学校関係, PTAイベント→すごく楽しいよ!!と子どもの友だちとかママ友に伝える。 ・使い方を利用方法を(共有する) ・地域活動や地域情報を各支援機関や地域住民にCSWとして伝える ・悩んでいる人の声をキャッチしたら合いそうな情報をさりげなく伝える ・今あるものを(伝える) ・様々な場, 環境(知らせる)
きっかけ	無関心, 偏見閉鎖的	学校教育
・地域の楽しいイベントなどママ友からの情報!! ・防犯危険に気づく ・学校や学童の係をやってみることで, 今まで関わったことない地域の人とつながることができた。 ・防災意識テーマについて話せ	・誤った情報で周囲に伝わっていたかも ・無知無関心から傷つける ・おせっかいがない ・偏見でうわさを広める ・地域活動の情報提供不足 ・個人プライバシーを意識しすぎで話しかけない	・人権教育・多文化共生 ・自分ごとにしない。⇒その意識をもつために学校教育 ・小さい頃から教育 ・SOS出してよいと学校教育で教える

・ 近所のことを教えてくれた。 ・ 普段の生活では知ることができない情報をキャッチできた。	・ 対人への心づかいがない。 ・ 良い情報を得られない。 ・ どうして学校に行けていないのかも誰も知らなかったかも ・ 他人に厳しい(年齢とれず)	
気持ち・安心	ギャップで分断	おせっかい, 声かけ
・ 同じ状況の方と出会えた ・ 困っていること気づく ・ 視野が広がった。 ・ 一緒に考えてくれる人にも出会えた。 ・ 大変な時に支援ができた。 ・ 毎日の通勤や休日のお散歩で挨拶をすることで、最近の近況や今、困っていることをお互いに話せる関係の人が増えた。 ・ 他の困り事のある方が、相談しやすくなった ・ 体調くずしたあとに(肺炎)いろんな人からのありがたい、やさしい声かけ ・ 知り合い顔見知りが増えた ・ 話してみることで、「自分だけじゃなかった」「大丈夫かもしれない」と気持ちをきりかえることができるようになった。 ・ 顔見しりになることで地域の親子が安心になる	・ 世代間で分断してしまう ・ 子どもの成長とともににはなれていく。 ・ 年齢層で分断 ・ お互いに理解がない	・ 積極的な声かけ行動を行う ・ おせっかい。 ・ 地域で行う事業への参加をさそう ・ 誰かとつながる, いっしょに何かをやる楽しさを大人が子どもたちに見せる ・ 柔軟な対応(相手にあわせた) ・ 地域のおまつりイベントをまず自分が楽しむ！！ ・ まず自分からさわやかにあいさつ ・ 相手の相談に応じてやる
	⇒結果起きること	ハード面
	・ 元気な時はそれでも良いかもしれないけど, しんどい時は, 生きづまる。 ・ 今, 笑うことが出来ていなかったかも ・ 汚れた街 ・ 関心なし→犯罪→ゴミ ・ 子ども若者の生きづらさ増えてしまう ・ 活気なし ・ 余裕がない時間的経済的精神的	・ 誰でも道わきで座れるベンチ設置 ・ 子ども食堂大人食堂誰でも来てOK食堂を地域につくる ・ 知っていただくために自主上映会を開催 ・ 知っていただくために講師をよんでの学ぶ場
		ツール
		・ SNSから広げる ・ つながりやすいツールを使う。

【グループC】

テーブルワーク 1	テーブルワーク 2	テーブルワーク 3
「つながりがあってよかったことは？」	「“地域とつながりがない状況”を考えてみよう」	「ワーク2の“地域とつながりがない状況”をなくすために、どんなきっかけや取組ができそう？」
困った時に助け合う	つながりたいけど難しい状況環境	(枠外・テーマなし)
・幼稚園のママ友と今でも交流があり困った時に助けあう ・中学校の部活指導をしていて、地域の行事に人手が足りない時手伝ってもらっている ・暑い日にカギを忘れた子を保護してもらった ・PTAで一緒に役員をやっていた人と今で交流がある ・住民の方の力があることを知った	・つながりたいと思う状況にない(精神的・身体的になど) ・ケアラー介護で忙しい ・相談するところがない。わからない ・災害時にとりのこされるかも。 ・結果情報が少なくだまされやすい ・外に出る手段がない外に出れない ・サポートしてくれる人がいない	・相談できる場所を明確に ・幻聴で困られた隣の人が相談に来られた ・共働き世帯が多い ・みまもりした人が口コミで他の人に宣伝してくれる ・調理ができる人(子)を増やす ・IT化 ・ボランティアを増やす ・学校が状況をはあくしているの、学校に支援できる人を配置したらどうか
防犯	困ってない	
・あやしい事業者の情報をもらった。 ・「押し買」業者撤退させた ・防犯にもなる	・高齢2人住い or 家族だとサロンに入られない ・1人で困っていない	
(枠外・テーマなし)	頼るのが苦手	
・民生委員となり地域の方々と知り合うことができた ・亡くなられた方のご遺体の皆で見送り ・高齢一人住い女性の古い家電製品の更新手続き ・顔を知ってもらい、ちょっとした相談をしあえる ・キツイのは、自分だけじゃないことがわかった ・孤独をかかえていた人に気づく ・不登校の子どもが多いことがわかった ・助成金の手続きがきびしい ・関係機関とつながった ・さまざまな困難があることがわかった。 ・買物通院の交通手段に悩んでいることがわかった	・人好きあいが好きじゃない ・アイサツに無回答言い続けたら小声で「おはよう」 ・外に出る人と話すのが苦手 ・高齢男性にサロン参加願しても「オレはいいよ」 ・人に助けを求めるのが苦手 ・他人の言うことをきき入れたくない。	

	学校
	・学校が手いっぱいでは不登校児に対応できてない ・卒業していなくなれば、問題がなくなったと思っている。 ・たぶん10年以上すれば自立の道を見つけられる。
	(粹外・テーマなし)
	・生ゴミをあちこちに置き放し ・家の樹の枝がのびていても切って欲しいと言えない ・金銭的な余裕がない ・サポートの手をのばせない ・個人情報のかべ

■話し合いの結果の特徴

- ・テーブルワーク1「つながりがあってよかったことは？」

あいさつ運動や見守り活動を通じた顔の見える関係づくり、地域イベントへの参加による交流の広がりなど、多世代にわたる関わりが地域の安全と安心を支えていることが共有された。

- ・テーブルワーク2「“地域とつながりがない状況”を考えてみよう」

地域とのつながりがない状況は、SOSを出せない深刻な孤独に陥りやすい危険性があることや情報弱者になりやすいこと、自らつながりのない状況に身を置いてしまう危険性があることなどが共有された。

- ・テーブルワーク3「“地域とつながりがない状況”をなくすために、どんなきっかけや取組ができそう？」

見守りサービスや相談窓口の活用、参加しやすい地域の居場所づくり、相手に配慮した情報の提供など、つながりを構築する取組について共有された。

4 第二・八雲台・国領／染地・杉森・布田小学校地域

■意見区分タイトル（個別意見をグループ化した名前）（原文通り）

テーマ グループ	テーブルワーク 1 「つながりがあってよかったことは？」	テーブルワーク 2 「“地域とつながりが ない状況”を考えてみよう」	テーブルワーク 3 「ワーク 2 の“地域と つながりがない状況”を なくすために、どんなき っかけや取組ができそ う？」
グループ A	●きっかけ ●安心 ●広がり	●孤立 ●ひま ●出かけない ●会話 ●心配 ●情報	●おせっかい・声かけ ●手段 ●情報相談 ●発信
グループ B	●日常と非日常 ●活動＆そこからの広がり ●地域 ●行政，社協 ●趣味・境遇	●拒否 ●危機感ない ●情報 ●孤立	●情報・知る ●生きる基本（食・からだ・コミュニケーション） ●地域・コミュニティ ●施策・行政 ●一時的な困りごと ●リスク
グループ C	●趣味余暇 ●情報共有 ●相談支援 ●交流	●心の栄養不足 ●SNS ●孤独・孤立	●意識啓発 ●居場所づくり ●情報発信・きっかけづくり
グループ D	●出会い ●助け合い ●情報 ●気持ち ●お土産	●情報 ●気持ち ●モチベーション低下 ●助け合い ●災害編 ●お土産 ●ポジ ●機能低下	●情報 ●助け合い ●地域イベント ●ピンチをチャンスに！ ●出会い ●あいさつ ●居場所（お土産）

■個別意見（原文通り）

【グループA】

テーブルワーク 1	テーブルワーク 2	テーブルワーク 3
「つながりがあってよかったことは？」	「“地域とつながりがいない状況”を考えてみよう」	「ワーク2の“地域とつながりがいない状況”をなくすために、どんなきっかけや取組ができそう？」
きっかけ	孤立	手段
・ 小学校のPTAから地域のおまつりに参加したり人脈が広がった ・ 子供食堂を 2 ヶ月に1回することで、地域の方たちの知っている顔が増えた ・ 高齢者会食で各地域に住んでいる方と話す、キッカケができた ・ 友人を通じて趣味が更に広がった ・ 友人が増えた ・ 自分の地域外の方と交流が持てた。 ・ 小学校の登校の見守りをしてることによって、児童たちとの交流が持てた ・ 趣味が生きがいになった ・ あいさつされてうれしかった ・ 知りあいが増えた。 ・ 柿をもらえた ・ 学校区内でも自分のまわりの方以外と交流が増えた。 ・ 家族も参加する、きっかけができた(PTA, おまつり, 防災くんれん) ・ 趣味が深掘りできる様になった	・ 孤立感 ・ 話し相手がいらない ・ しゅみをやめてしまった！！何でも自分でできると人を寄せつけない人をよせつけない ・ 気持ちが落ち込む ・ 男性：退職すると活動の場、友人が周囲にいない。	・ スマホ教室に参加年令関係なし ・ 会食をするだけでも(昼)参加OK ・ ごみひろいをスポーツ化する(他地域で行っている) ・ eスポーツの場の種類を増やす ・ 参加しやすい場を作る。(地域, 行政) ・ 防災活動等意義を感じられる活動への参加をうながす。 ・ 子供たちとの交流会を行う昔遊びや手作り(万げ鏡) ・ ゲーム(遊びを通じた交流) ・ 日帰り旅行会, 散歩会。 ・ 散歩のようなもの ・ バーベキュー
安心	情報	おせっかい・声かけ
・ あぶない工事業者について教えてくれた ・ 近所の目に見守られて。 ・ 自分の住んでいるマンションでは”あいさつ”をすることで仲良くおしゃべりができて、顔がわかる ・ 子どもを助けてもらった(カギを失くし暑い外にいたところ) ・ 心配な人の安否確認が自然にできる ・ 災害のとき心強かった	・ 情報が入ってこない。 ・ 地域に(男性)溶けこめない ・ 情報が入ってこない ・ 地域の活動を全く知らない。しろとうしない！！ ・ 災害時にとりのこされるかも？ ・ 地域にとけこまない, 顔をあわさない	・ まず挨拶声をかけて顔見知り ・ 顔を合わす機会にはあいさつ等声をかける ・ 知りあいの知りあいは知りあい！？ ・ 声かけの声かけ運動 ・ 意識を変える(家族のススメ) ・ 返事がなくてもめげずにあいさつ。

・プチ家出をした保育園児を保護してくれた		
広がり	出かけない	情報相談
・年齢層が色々な人達と出会えた友達になった ・自分から好きなサークルに参加できるようになった。 ・災害があった時に社協とのつながりがあって、手伝ったり、安心した ・地域活動に参加することで必要とされる意識が持てた	・出かける用が無くなり、フレイルになりそう。 ・高齢になるにつれて、外に出ないため交流がへる	・気になる人がいたら、知り合いの民生委員に伝える ・近所の気付きほんの少し感心を持つ新聞がたまってるけど～ ・地域包括を頼りにしている。
	会話	発信
	・会話の機会が減ると認知症になりそう ・だんだん会ったり、話しをする人がへってきた ・会社時代の友人は離れていく。	・回覧板やめずに続ける ・活動のチラシを入れる掲示する ・広報イベント等出かけて行くきっかけになる。
	心配	
	・洋服がよごれていた、本人気がつかない周りからいってもらえない ・変化にきづいてもらえない ・本人は独りがよい(人もいる)	
	ひま	
	・暇自分の生活以外何も無い。 ・暇を潰せない寂しい	

【グループB】

<u>テーブルワーク 1</u>	<u>テーブルワーク 2</u>	<u>テーブルワーク 3</u>
「つながりがあってよかったことは？」	「“地域とつながりがない状況”を考えてみよう」	「ワーク2の“地域とつながりがない状況”をなくすために、どんなきっかけや取組ができそう？」
日常と非日常	拒否	生きる基本(食・からだ・コミュニケーション)
・ご近所同士の気づかい合い、支え合いが生活を支えている特に多摩川住宅 ・子どもの習い事保育園保護者の人 ・防災への意識を自治会などが啓発したり防災訓練を実施することで持ち続ける ・災害時の声かけ ・家から出られない方と電話でコミュニケーション年の違う友人	・近所付き合いを嫌う人がいる ・顔を会わせても挨拶つしない人 ・近所づきあいわずらわしい ・1人ぐらしの人の見守りを好まない人 ・自治会の役をやりたくない ・自治会に入っていない人が増加(孤立)自治会だけがもりあがっているのでは？ ・プライバシー	・食は大事に関するイベント ・まずあいさつからコミュニケーションのとり方方法 ・お茶会にきそう(食べること大事) ・高齢者を10の筋肉体操にきそう(動くこと大事) ・近所づきあい ・シルバーパスは外出を後押し

・近所の人との挨拶 ・買い物特に知り合いに出会う(バス, 電車 etc) ・名前は知らないけど挨拶する近所の人 ・近所の方との情報交換(防犯など) ・緊急時の安否確認(命を救う)ことにもつながる		
活動&そこからの広がり	危機感ない	施策・行政
・ひだまりサロン長い間会食サービスはかかわってきて会員が高齢になり認知症ぽくなった時社協支援センターとつなり助かった ・サロンなど人と会うことを楽しみにしている活力にしている高齢者が多い ・ボランティア活動をしている仲間と他の活動にも連けいして他の活動にも広がっている	・地域のこと災害のこと自分事にならないといけない ・訪問者のサギ? 近所につなぐ方法	・高齢者対策を具体的に示す ・支援機関が世代の枠をこえて働きかける。縦割りをなくす
地域	孤立	地域・コミュニティ
・開放活動での(少年サッカー)夏祭り参加 ・地域行事への参加(防災訓練) ・染地, すきもり, 布田それぞれの地区協議会がつながりの大きな軸になっている ・自治会活動 ・染地マルシェ, 布田わくわくひろばまつりなど地域のおまつりを通じ様々な団体の横のつながりがある ・今日の様な会への参加 ・地区協活動への参加 ・市主催の行事への参加	・1人暮らしの人のお風呂での死。何日も風呂場の電気がついたまま。気がついて誰も動かず。連絡先は? ・子育てのこと介護のこと(孤立)相談できる人がいない相談先がわからない ・地震や台風が来ても孤立する助けられない(孤立) ・悩みごと・状況がかなり悪化してからようやくつながる(先手が打てない)(孤立) ・自宅にひきこもる 8050 問題多問題(孤立) ・引越しをして近所に知りあいがない状況 ・自治会からの声かけ待ちになってしまう	・他の人の見習うところ学ぶ ・多世代交流の居場所やイベントおまつり染地・布田・国領 ・子供を介しての行事開催 ・祭, 運動会などの地域の行事を行なう ・空き家・店舗を使った居場所 ・施設, 学校のスペースを開放した場
行政, 社協	情報	情報・知る
・日々の活動で知り合い夫が介護状況になった時すぐ支援センターにつながり助かった ・困っている(困っていそうな)高齢者等を包括など支援機関につなげてもらう ・一人暮らしの方引越して来た方をあたたかく受け入れてくれるボランティアコーディネーターがいる	・情報過多で本当? 信用ある情報 ・オンライン情報の発信が面倒 ・オンライン情報一方通行	・若い世代に地域活動をPRできるSNSの活用

趣味・境遇		一時的な困りごと
・つながり多摩川土手散歩での友達になって時々食事会する ・校友会活動 ・同じ境遇のつながり子育て、ひきこもり退職後シニア ・趣味を通じての出会い・会話 ・毎日散歩の途中で寄るカフェでの常連さんとの出会い ・同じ趣味関心の人たちライオンズファン… ・登校の見守りボランティア子ども・保護者・シニア		・エレベーターの箱から全部取り替え工事の予定、高齢者への助け合いなどに期待感あり。(10日間) ・急に認知症認めたくない人へつながる
		リスク
		・身体に手をかけてのヘルプに不安。転んだり、ケガさせたり、怖い面あり。 ・ボランティアのリスクケガさせる食中毒…

【グループC】

テーブルワーク 1	テーブルワーク 2	テーブルワーク 3
「つながりがあってよかったことは？」	「“地域とつながりがない状況”を考えてみよう」	「ワーク2の“地域とつながりがない状況”をなくすために、どんなきっかけや取組ができそう？」
趣味余暇	心の栄養不足	意識啓発
・近所のことを教えてもらえた。 ・ひだまりサロンで、同じ趣味の仲間ができて嬉しかった ・共通の趣味を楽しめた。 ・近所のウクレレカフェでウクレレを習って同じ趣味の人と楽しめて良かった	・喜びとかのプラス感情が湧きにくくなる ・前向きな考え方ができなくなりそう ・行動半径がせまくなる(外出が減る) ・孤独を感じる(会話が少なくなる) ・不健康につながる。	・行事に参加してみる。 ・つながりはなんかの会に参加してみる ・意欲を持つきっかけを作る。 ・知り合いができたらいい。 ・興味を示すような声かけ、情報チャリン
情報共有	SNS	居場所づくり
・近所のご飯屋でサービスしてもらえた。 ・インスタ自分の欲しい情報が入ってくる。 ・子どもの忘れ物が減った。 ・スグに会えない人でも、SNSでつながることができて、交流できてうれしい。	・困らない、SNSがあるから。特に現役時代は。	・年代を超えた居場所 ・悩み相談の窓口をもうける同じ悩みの人が集まって語り合う機会・場をもうける ・不登校の居場所づくり ・子ども、外国の方障害者、高齢者といった多様な世代と一緒に取り組める娯楽をしたい

相談支援	孤独・孤立	情報発信・きっかけづくり
・夫がいて、妻が入院した時に手続きや家庭の事などやってもらえた ・地域包括や社協の人達と顔見しりになれたこと ・心センターに通っているの、身近に同じ悩みを持った人がいて、話をきいてもらえる。 ・入院の時色々とお世話になった。 ・中学校時代の親友とLINEでつながってることで、人生の悩みごとを聞いてもらえ支えてもらえること ・大変な時に支援ができた。	・寂しい。 ・悩みをひとりでかかえてしまう。ひとりで苦しい。 ・話し相手がいないさみしい孤独 ・相談がでにくい ・困った時に相談できない支援してもらえない ・家族以外のつながりが無い。 ・地域のことが何もわからない。情報が入ってこない。 ・SOSが出せない。 ・人とのつながりがへった。 ・引っ越して友人がいない。	・回らん板の復活 ・相談窓口を知る。 ・仕事をしてる人でも参加できる場や同世代で集まれる機会を増やす。 ・学校関係以外のつながりを増やすために、勉強会やこんだん会をもうける。 ・町ごとのSNS発信 ・バス停にけい示板 ・調布市の情報をもっとInstagramなど、SNSで発信してもらう(紙じゃなくて) ・仕事がお休みの日でも、趣味のサロンなどがあるときかけになる ・児童館や若者サポートステーションがあるのに、昔のような敬老館がないので高齢者の居場所が充実してない
交流		
・たまに会ってたのしい。 ・顔と名前が覚えられる。 ・安心できる。 ・寂しくない。支え合える。 ・PTA活動→卒業してもつづいてる健康増進 ・平日だけじゃなくて、仕事をしていても、お休みの日に、お話をしたり、一緒に楽しめる人が身近に欲しい ・長く付き合える友達ができた。		

【グループD】

テーブルワーク 1	テーブルワーク 2	テーブルワーク 3
「つながりがあってよかったことは？」	「“地域とつながりがない状況”を考えてみよう」	「ワーク2の“地域とつながりがない状況”をなくすために、どんなきっかけや取組ができそう？」
出会い	モチベーション低下	あいさつ
・孤独が軽減される ・知り合いが増えた ・道端で会ったときにあいさつできる→安心 ・仲間を集められる ・紹介をしてもらえる。 ・今まで出会えなかったことない人と会えると視野が広がる	・たいくつかも。 ・ひまずがる。 ・出かける用事がなくなるシニアの教育＝今日行く ・出かけない	・あいさつからの会話 ・特に1人世帯の人に話しかける ・ふだんからあいさつや会話を心掛ける ・災害の時のために、ご近所さんとはあいさつする
助け合い	助け合い	助け合い
・水害(多摩川)があった時、声をかけ合って避難した。 ・安心・安全になかの時に助けてもらえる ・急に体調を悪くして、救急車を呼んでもらった。 ・協力を得られる ・編物でお世話になって助かった ・コロナに感染した時に買物をしてもらい助かった。	・困りごとでいきづまる ・助けを求めるのが遅くなる。 ・困った事があっても気軽に話せない頼めない。 ・SOS出しても助けてもらえない ・家のトラブルをかくしたくなる(助けを求めない) ・スマホがわからない時	・自分ができる事をお手伝いする ・ヘルプを求める。 ・自分からきっかけをつくって友達に声掛けする ・SOS出して良いことを伝えていく
情報	情報	情報
・地域の情報がキャッチできる ・情報が入る介護など	・地域のことが分からない	・つぶやきやすいツール ・身近な施設に情報掲示(スーパー、コンビニ、病院、銀行、学校、保育園)
気持ち	気持ち	ピンチをチャンスに！
・気晴らしができる ・自分の気持ちを聞いてもらえた ・楽しい ・10 筋体操のメンバーが減らないこと ・家族の入院の時知り合って今もお友達でいます。年令も違いなので	・人に会うのがイヤ ・気持ちが沈んでくる ・知らなかったことで引けめを感じる ・顔を合わせても会話がでない ・地域にどんな人が住んでいるかわからないとあいさつもできない。 ・まわりの様子がわからない不安。 ・孤独感・疎外感	・ちょっとした事件。(救急車を呼ぶ)(水もれ)(排水つまり)
お土産	お土産	居場所(お土産)
・お土産を渡せる ・お土産を選べる。買える。	・お土産を買えない	・公共施設の柔軟な解放(利用条件緩和)

		・お土産でお茶会をする ・エンガワ的な居場所
	災害編	地域イベント
	・災害時孤立無援 ・災害時等助け合いがむずかしい。 ・災害の時に困る助け合えない ・火事の時 ・急病の時	・防災訓練などの地域イベント ・美化活動参加しなきゃ的な ・地域の行事に参加するよう声をかける
	ポジ	出会い
	・わずらわしくない	・つながりを沢山もっている人とつながる
	機能低下 ・話す人がいないと、声が出なくなるかも？	

■話し合いの結果の特徴

- ・テーブルワーク1「つながりがあってよかったことは？」

地域行事、見守り活動等が交流のきっかけになるとともに、つながりが広がることによる孤独の解消など、多様なつながりが地域の安心を支える大きな力となっていることが共有された。

- ・テーブルワーク2「“地域とつながりがない状況”を考えてみよう」

地域とつながりがないことで孤立感や不安感が高まることや、人付き合いを避けた心理、情報化の進展により、つながりを必要としない状況が生まれていることなどが共有された。

- ・テーブルワーク3「“地域とつながりがない状況”をなくすために、どんなきっかけや取組ができそう？」

誰もが参加しやすい居場所づくりや多世代が交流する居場所づくり、情報発信や意識啓発、日常の挨拶や声かけの積み重ねなど、多様な機会を通じてつながりを構築する取組が共有された。

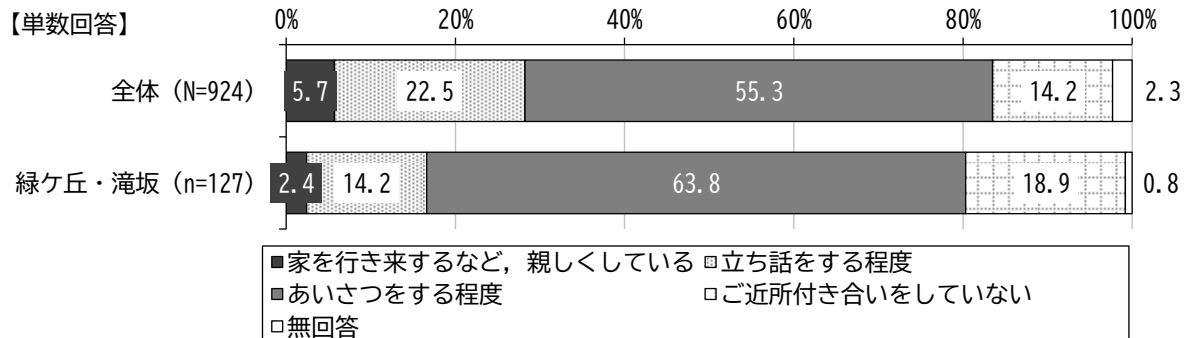
IV 調査のまとめ

第1章 地域別のまとめ

1 緑ヶ丘・滝坂小学校地域

(1) 市全体と福祉圏域の比較

■市民（18歳以上）：近所付き合いの状況



■市民（18歳以上）：ご近所付き合いの必要性を感じる時（「とても感じる」と「感じる」の合計）

表示：％ 各項目1位に網掛け	緊急時や災害 の助け合い が必要とき	日常生活で よつとした困 りごとがある とき	子どもたちの 見守り・安全 確保	高齢者やひと り暮らしの人 への支援・見 守り	話し相手や相 談相手が必要 なとき
全体 (N=924)	79.0	38.9	58.4	63.2	35.2
緑ヶ丘・滝坂 (n=127)	79.5	37.8	54.4	61.4	29.1

■市民（18歳以上）：地域活動の取組状況（「取り組んでいる」の割合）と今後の取組意向（「取り組みたい」と「興味がある」の合計）

表示：％ 各項目1位に網掛け	子育て世帯・青少年を支える行動や活動	高齢者を支える行動や活動	障害のある人を支える行動や活動	お祭りや運動会などのレクリエーション活動、地域の伝統や文化を伝える活動	交通安全や犯罪防止など、地域の安全を守る活動	防災訓練や災害時に救援・支援をする活動	道路等のごみ拾い、自宅周辺の清掃、環境美化、環境保全・自然保護などの活動	自治会・地区協議会・老人クラブなどの活動	趣味・習いごと・健康づくり（運動・スポーツ）などの活動
①取り組み状況（「取り組んでいる」の割合）									
全体 (N=924)	8.7	10.3	8.0	11.3	9.8	10.9	17.4	12.1	31.4
緑ヶ丘・滝坂 (n=127)	5.5	8.7	5.5	7.1	8.7	6.3	14.2	7.9	26.0
②今後の取り組み意向（「取り組みたい」と「興味がある」の合計）									
全体 (N=924)	28.7	62.4	37.6	61.8	38.1	68.5	33.0	58.6	55.4
緑ヶ丘・滝坂 (n=127)	33.0	66.9	43.3	63.0	40.2	75.6	28.4	65.4	63.0

■市民（18 歳以上）：身近な地域での不安や課題

表示：％ 各項目 1 位に網掛け	子育て、子どもの教育のこと	健康のこと	介護のこと	老後の生活のこと	住まいや住宅のこと	仕事のこと	経済的なこと	「近所付き合い、友だち付き合いのこと	防犯、地域の安全のこと	災害時のこと	気軽に相談できる人（機関）が少ないこと	その他	特にない	無回答
全体（N=924）	13.7	24.9	16.8	33.8	18.2	14.2	17.0	5.6	21.5	31.9	6.5	2.6	25.0	5.6
緑ヶ丘・滝坂（n=127）	15.7	26.8	16.5	40.2	18.1	21.3	20.5	7.1	22.0	33.1	7.1	1.6	22.0	6.3

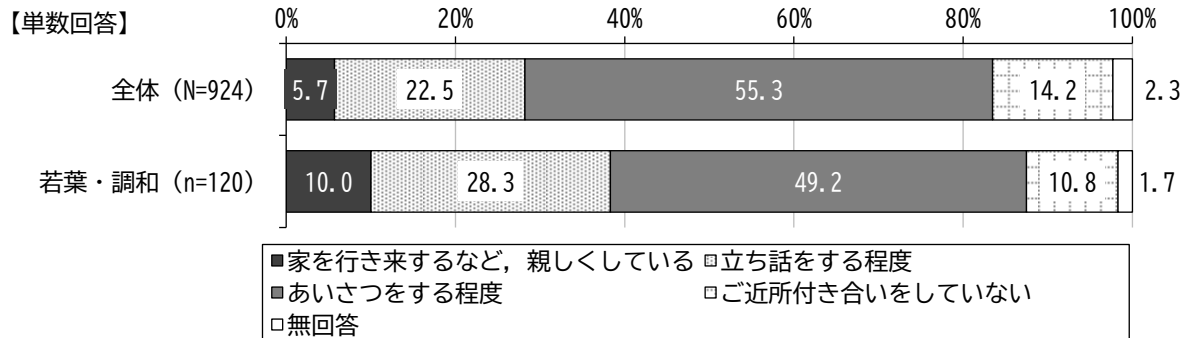
（2）アンケート調査結果の特徴

市民（18 歳以上）調査結果	高齢者（65 歳以上）調査結果
■地域の人に手助けしてほしいことは、「災害時避難の手助け」（78.0%）が全体（69.7%）よりも多くなっている。〔問 12〕 ■身近な地域での不安や課題は、「老後の生活のこと」（40.2%）が全体（33.8%）よりも多く、最も多くなっている。〔問 22〕	■今後取り組みたい・興味がある地域活動は、「自治会・地区協議会・老人クラブなどの活動」（36.1%）が全体（26.8%）よりも多くなっている。〔問 15〕 ■高齢者保健福祉施策で特に重要と考える取組は、「自立生活のための家事についての指導」（18.1%）が全体（8.8%）よりも多くなっている。〔問 37〕
障害者（18 歳以上）調査結果	障害児（18 歳未満）の保護者調査結果
■避難場所等の確認は、「確認している」（61.3%）が全体（53.6%）よりも多くなっている。〔問 14〕 ■介助者への支援として力を入れてほしいことは、「支援制度や福祉サービスなどの情報提供・相談窓口の充実」（42.9%）が全体（33.7%）よりも多くなっている。〔問 42〕	■学校以外の過ごし方は、「民間の習いごと・教室・フリースペースなど」（60.0%）が全体（30.6%）よりも多くなっている。〔問 10〕 ■障害児福祉施策の充実のために特に重要な取組は、「発達に関する相談や療育の充実」と「放課後などの活動場所の整備」が最も多くなっている（いずれも 76.2%）。〔問 40〕

2 若葉・調和小学校地域

(1) 市全体と福祉圏域の比較

■市民（18歳以上）：近所付き合いの状況



■市民（18歳以上）：ご近所付き合いの必要性を感じる時（「とても感じる」と「感じる」の合計）

表示：％ 各項目1位に網掛け	緊急時や災害 の助け合い が必要とき	日常生活で よつとした困 りごとがある とき	子どもたちの 見守り・安全 確保	高齢者やひと り暮らしの人 への支援・見 守り	話し相手や相 談相手が必要 なとき
全体 (N=924)	79.0	38.9	58.4	63.2	35.2
若葉・調和 (n=120)	80.0	47.5	55.0	60.8	33.4

■市民（18歳以上）：地域活動の取組状況（「取り組んでいる」の割合）と今後の取組意向（「取り組みたい」と「興味がある」の合計）

表示：％ 各項目1位に網掛け	子育て世帯・青少年を支える行動 や活動、子ども会やPTAの活動	高齢者を支える行動や活動	障害のある人を支える行動や活動	お祭りや運動会などのレクリエー ション活動、地域の伝統や文化を 伝える活動	交通安全や犯罪防止など、地域の 安全を守る活動	防災訓練や災害時に救援・支援を する活動	道路等のごみ拾い、自宅周辺の清 掃・環境美化、環境保全・自然保護 などの活動	自治会・地区協議会・老人クラブな どの活動	趣味・習いごと・健康づくり（運動・ スポーツ）などの活動
①取り組み状況（「取り組んでいる」の割合）									
全体 (N=924)	8.7	10.3	8.0	11.3	9.8	10.9	17.4	12.1	31.4
若葉・調和 (n=120)	11.7	12.5	6.7	10.0	11.7	14.2	23.3	16.7	31.7
②今後の取り組み意向（「取り組みたい」と「興味がある」の合計）									
全体 (N=924)	28.7	62.4	37.6	61.8	38.1	68.5	33.0	58.6	55.4
若葉・調和 (n=120)	23.3	62.5	35.0	55.8	34.2	64.2	32.5	55.0	46.7

■市民（18 歳以上）：身近な地域での不安や課題

表示：％ 各項目 1 位に網掛け	子育て、子どもの教育のこと	健康のこと	介護のこと	老後の生活のこと	住まいや住宅のこと	仕事のこと	経済的なこと	「ご近所付き合い、友だち付き合いのこと	防犯、地域の安全のこと	災害時のこと	気軽に相談できる人（機関）が少ないこと	その他	特にない	無回答
全体（N=924）	13.7	24.9	16.8	33.8	18.2	14.2	17.0	5.6	21.5	31.9	6.5	2.6	25.0	5.6
若葉・調和（n=120）	14.2	20.8	15.8	30.8	18.3	10.8	20.0	4.2	20.8	27.5	8.3	0.8	29.2	4.2

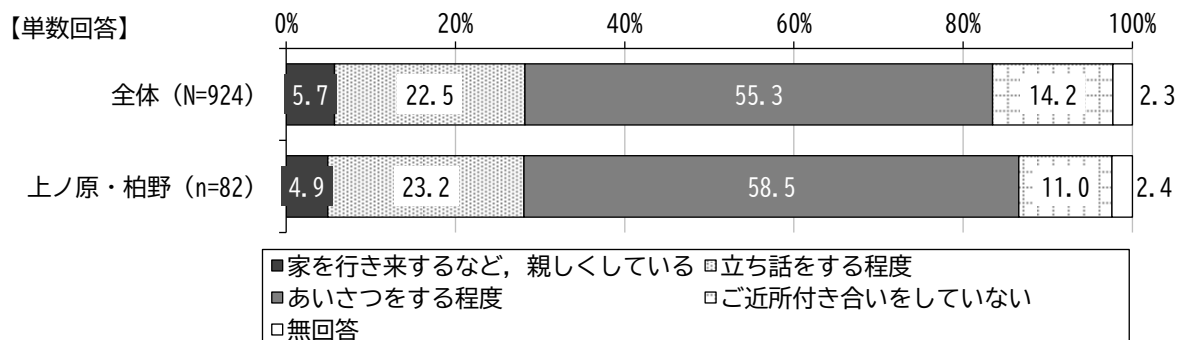
（2）アンケート調査結果の特徴

市民（18 歳以上）調査結果	高齢者（65 歳以上）調査結果
■ご近所付き合いは、『親密な近所付き合いをしている』割合（38.3%）が全体（28.2%）に比べて多くなっている。〔問 8〕 ■福祉施策の充実に向けて特に重要なことは、「市民への福祉意識の啓発」（20.8%）が全体（13.6%）よりも多くなっている。〔問 32〕	■地域活動の取り組み状況は、「趣味、習いごと、健康づくりなどの活動」（44.8%）が全体（38.2%）よりも多くなっている。〔問 15〕 ■困りごとを相談できる人や機関は、「友人・知人」（51.7%）が全体（44.7%）よりも多くなっている。〔問 29〕
障害者（18 歳以上）調査結果	障害児（18 歳未満）の保護者調査結果
■スポーツ・運動をするために必要な支援は、「活動できる場所」（42.2%）が最も多く、全体（36.2%）よりも多くなっている。〔問 23〕	■障害児福祉施策の充実のために特に重要な取組は、「困ったことや福祉サービスの利用などを気軽に相談できる窓口」と「手当や医療費の助成などの経済的な支援」が最も多くなっている（いずれも 71.4%）。〔問 40〕

3 上ノ原・柏野小学校地域

(1) 市全体と福祉圏域の比較

■市民（18歳以上）：近所付き合いの状況



■市民（18歳以上）：ご近所付き合いの必要性を感じる時（「とても感じる」と「感じる」の合計）

表示：％ 各項目1位に網掛け	緊急時や災害 の助け合い が必要とき	日常生活で よつとした困 りごとがある とき	子どもたちの 見守り・安全 確保	高齢者やひと り暮らしの人 への支援・見 守り	話し相手や相 談相手が必要 なとき
全体 (N=924)	79.0	38.9	58.4	63.2	35.2
上ノ原・柏野 (n=82)	73.1	26.9	52.4	56.1	28.1

■市民（18歳以上）：地域活動の取組状況（「取り組んでいる」の割合）と今後の取組意向（「取り組みたい」と「興味がある」の合計）

表示：％ 各項目1位に網掛け	子育て世帯・青少年を支える行動 や活動、子ども会やPTAの活動	高齢者を支える行動や活動	障害のある人を支える行動や活動	お祭りや運動会などのレクリエー ション活動、地域の伝統や文化を 伝える活動	交通安全や犯罪防止など、地域の 安全を守る活動	防災訓練や災害時に救援・支援を する活動	道路等のごみ拾い、自宅周辺の清 掃・環境美化、環境保全・自然保護 などの活動	自治会・地区協議会・老人クラブな どの活動	趣味・習いごと・健康づくり（運動・ スポーツ）などの活動
①取り組み状況（「取り組んでいる」の割合）									
全体 (N=924)	8.7	10.3	8.0	11.3	9.8	10.9	17.4	12.1	31.4
上ノ原・柏野 (n=82)	4.9	8.5	12.2	6.1	7.3	4.9	15.9	6.1	29.3
②今後の取り組み意向（「取り組みたい」と「興味がある」の合計）									
全体 (N=924)	28.7	62.4	37.6	61.8	38.1	68.5	33.0	58.6	55.4
上ノ原・柏野 (n=82)	23.2	61.0	36.6	60.9	32.9	65.9	31.7	56.1	53.7

■市民（18 歳以上）：身近な地域での不安や課題

表示：％ 各項目 1 位に網掛け	子育て、子どもの教育のこと	健康のこと	介護のこと	老後の生活のこと	住まいや住宅のこと	仕事のこと	経済的なこと	「近所付き合い、友だち付き合いのこと	防犯、地域の安全のこと	災害時のこと	気軽に相談できる人（機関）が少ないこと	その他	特にない	無回答
全体（N=924）	13.7	24.9	16.8	33.8	18.2	14.2	17.0	5.6	21.5	31.9	6.5	2.6	25.0	5.6
上ノ原・柏野（n=82）	7.3	26.8	17.1	30.5	11.0	9.8	7.3	4.9	15.9	29.3	1.2	2.4	28.0	4.9

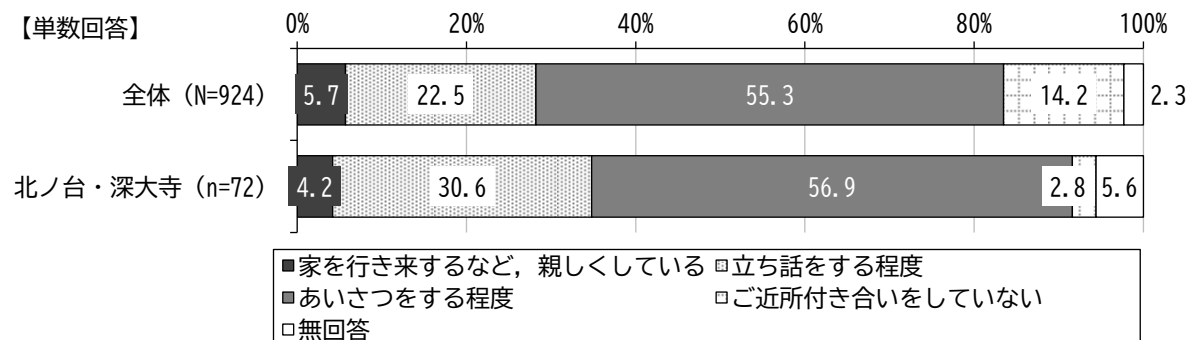
（2）アンケート調査結果の特徴

市民（18 歳以上）調査結果	高齢者（65 歳以上）調査結果
■福祉施策の充実に向けて特に重要なことは、「在宅サービスの質と量の確保」（34.1%）が全体（25.0%）よりも多くなっている。〔問 32〕	■今後取り組みたい・興味がある地域活動は、「防災訓練や災害時に救援・支援をする活動」（40.9%）が全体（33.2%）よりも多くなっている。〔問 15〕
障害者（18 歳以上）調査結果	障害児（18 歳未満）の保護者調査結果
■スポーツ・運動をするために必要な支援は、「指導者」（28.4%）が全体（18.9%）よりも多くなっている。〔問 23〕 ■歩きやすいように障害物が取り除かれ、段差や凹凸が少なく十分に幅のある歩道や道路であるかは、「充実していない」（31.0%）が全体（21.5%）よりも多くなっている。〔問 29 エ〕 ■心のバリアフリーのために特に必要な取組は、「わかりやすい情報発信」（53.4%）が全体（45.5%）よりも多くなっている。〔問 30〕	■障害児福祉施策の充実のために特に重要な取組は、「困ったことや福祉サービスの利用などを気軽に相談できる窓口」（68.0%）が最も多くなっている。〔問 40〕

4 北ノ台・深大寺小学校地域

(1) 市全体と福祉圏域の比較

■市民（18歳以上）：近所付き合いの状況



■市民（18歳以上）：ご近所付き合いの必要性を感じる時（「とても感じる」と「感じる」の合計）

表示：％ 各項目1位に網掛け	緊急時や災害 の助け合い が必要とき	日常生活で よつとした困 りごとがある とき	子どもたちの 見守り・安全 確保	高齢者やひと り暮らしの人 への支援・見 守り	話し相手や相 談相手が必要 なとき
全体 (N=924)	79.0	38.9	58.4	63.2	35.2
北ノ台・深大寺 (n=72)	80.6	40.3	59.7	66.7	31.9

■市民（18歳以上）：地域活動の取組状況（「取り組んでいる」の割合）と今後の取組意向（「取り組みたい」と「興味がある」の合計）

表示：％ 各項目1位に網掛け	子育て・世帯・青少年を支える行動や活動	高齢者を支える行動や活動	障害のある人を支える行動や活動	お祭りや運動会などのレクリエーション活動、地域の伝統や文化を伝える活動	交通安全や犯罪防止など、地域の安全を守る活動	防災訓練や災害時に救援・支援をする活動	道路等のごみ拾い、自宅周辺の清掃・環境美化、環境保全・自然保護などの活動	自治会・地区協議会・老人クラブなどの活動	趣味・習いごと・健康づくり（運動・スポーツ）などの活動
①取り組み状況（「取り組んでいる」の割合）									
全体 (N=924)	8.7	10.3	8.0	11.3	9.8	10.9	17.4	12.1	31.4
北ノ台・深大寺 (n=72)	6.9	13.9	9.7	18.1	13.9	8.3	22.2	18.1	43.1
②今後の取り組み意向（「取り組みたい」と「興味がある」の合計）									
全体 (N=924)	28.7	62.4	37.6	61.8	38.1	68.5	33.0	58.6	55.4
北ノ台・深大寺 (n=72)	36.1	61.2	33.3	63.9	44.4	66.7	37.5	61.1	65.3

■市民（18歳以上）：身近な地域での不安や課題

表示：％ 各項目1位に網掛け	子育て、子どもの教育のこと	健康のこと	介護のこと	老後の生活のこと	住まいや住宅のこと	仕事のこと	経済的なこと	「近所付き合い、友だち付き合いのこと	防犯、地域の安全のこと	災害時のこと	気軽に相談できる人（機関）が少ないこと	その他	特にない	無回答
全体（N=924）	13.7	24.9	16.8	33.8	18.2	14.2	17.0	5.6	21.5	31.9	6.5	2.6	25.0	5.6
北ノ台・深大寺（n=72）	8.3	22.2	13.9	29.2	13.9	6.9	11.1	2.8	30.6	33.3	5.6	4.2	27.8	2.8

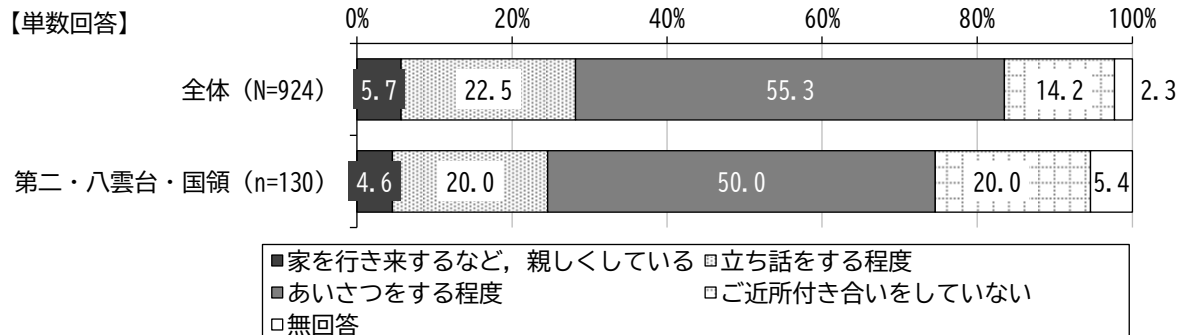
（2）アンケート調査結果の特徴

市民（18歳以上）調査結果	高齢者（65歳以上）調査結果
■住居形態は、「持ち家（一戸建て）」が8割を超えている。〔問5〕 ■地域の人に手助けしてほしいことは、「災害時避難の手助け」（76.4%）が全体（69.7%）よりも多くなっている。〔問12〕 ■身近な地域での不安や課題は、「防犯、地域の安全のこと」（30.6%）が全体（21.5%）よりも多くなっている。〔問22〕	■地域活動の取り組み状況は、「道路等のごみ拾い、自宅周辺の清掃、環境美化、環境保全・自然保護などの活動」（36.3%）が全体（26.7%）よりも多くなっている。〔問15〕 ■高齢者保健福祉施策で特に重要と考える取組は、「趣味や生きがいがづくり・社会参加への支援」（48.5%）が全体（33.5%）よりも多く、また、「介護が必要にならないための健康づくりなどの支援」（50.0%）が全体（42.0%）よりも多く、最も多くなっている。〔問37〕
障害者（18歳以上）調査結果	障害児（18歳未満）の保護者調査結果
■悩みや困りごとの相談先は、「相談支援機関の職員」（27.2%）が全体（19.8%）よりも多くなっている。〔問9〕 ■友人・知人との交流機会は、「機会がない」（27.2%）が全体（17.2%）よりも多くなっている。〔問20イ〕	■障害児福祉施策の充実のために特に重要な取組は、「学校卒業後の日中の活動場所の整備」（75.0%）が最も多くなっている。〔問40〕

5 第二・八雲台・国領小学校地域

(1) 市全体と福祉圏域の比較

■市民（18歳以上）：近所付き合いの状況



■市民（18歳以上）：ご近所付き合いの必要性を感じる時（「とても感じる」と「感じる」の合計）

表示：％ 各項目1位に網掛け	緊急時や災害 の助け合い が必要とき	日常生活で よつとした困 りごとがある とき	子どもたちの 見守り・安全 確保	高齢者やひと り暮らしの人 への支援・見 守り	話し相手や相 談相手が必要 なとき
全体 (N=924)	79.0	38.9	58.4	63.2	35.2
第二・八雲台・国領 (n=130)	75.4	31.5	59.2	66.9	30.8

■市民（18歳以上）：地域活動の取組状況（「取り組んでいる」の割合）と今後の取組意向（「取り組みたい」と「興味がある」の合計）

表示：％ 各項目1位に網掛け	子育て世帯・青少年を支える行動 や活動、子ども会やPTAの活動	高齢者を支える行動や活動	障害のある人を支える行動や活動	お祭りや運動会などのレクリエー ション活動、地域の伝統や文化を 伝える活動	交通安全や犯罪防止など、地域の 安全を守る活動	防災訓練や災害時に救援・支援を する活動	道路等のごみ拾い、自宅周辺の清 掃・環境美化、環境保全・自然保護 などの活動	自治会・地区協議会・老人クラブな どの活動	趣味・習いごと・健康づくり（運動・ スポーツ）などの活動
①取り組み状況（「取り組んでいる」の割合）									
全体 (N=924)	8.7	10.3	8.0	11.3	9.8	10.9	17.4	12.1	31.4
第二・八雲台・国領 (n=130)	8.5	9.2	7.7	12.3	10.0	12.3	17.7	10.0	29.2
②今後の取り組み意向（「取り組みたい」と「興味がある」の合計）									
全体 (N=924)	28.7	62.4	37.6	61.8	38.1	68.5	33.0	58.6	55.4
第二・八雲台・国領 (n=130)	26.1	54.6	35.4	59.3	40.0	64.6	33.8	50.0	53.8

■市民（18歳以上）：身近な地域での不安や課題

表示：％ 各項目1位に網掛け	子育て、子どもの教育のこと	健康のこと	介護のこと	老後の生活のこと	住まいや住宅のこと	仕事のこと	経済的なこと	「近所付き合い、友だち付き合いのこと	防犯、地域の安全のこと	災害時のこと	気軽に相談できる人（機関）が少ないこと	その他	特にない	無回答
全体（N=924）	13.7	24.9	16.8	33.8	18.2	14.2	17.0	5.6	21.5	31.9	6.5	2.6	25.0	5.6
第二・八雲台・国領（n=130）	13.8	24.6	21.5	28.5	13.8	10.8	13.1	6.2	21.5	31.5	6.2	2.3	26.2	8.5

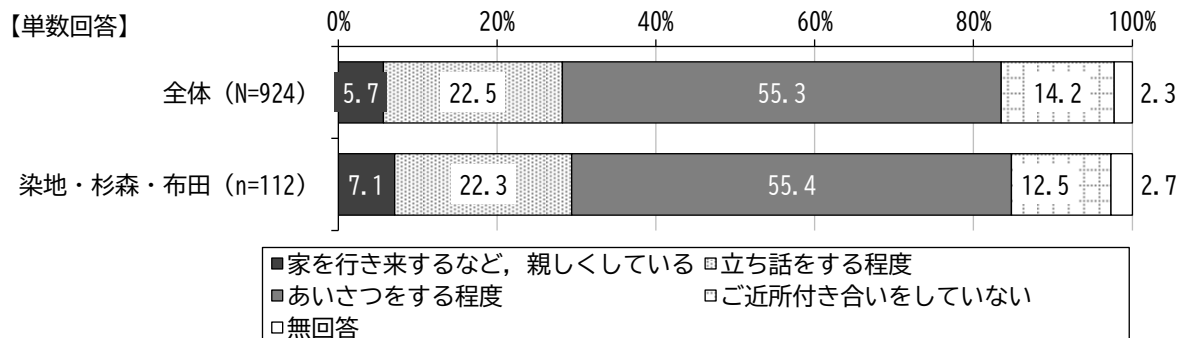
（2）アンケート調査結果の特徴

市民（18歳以上）調査結果	高齢者（65歳以上）調査結果
■住居形態は、「民間賃貸（集合住宅）」が3割近くで最も多く、「公営住宅」の割合が1割を超える。〔問5〕 ■経済的に困った経験は、『困った事がある』（38.5%）が全体（29.2%）よりも多くなっている。〔問16〕	■困りごとを相談できる人や機関は、「かかりつけ医や保健師などの医療関係者」（25.5%）が全体（17.7%）よりも多くなっている。〔問29〕
障害者（18歳以上）調査結果	障害児（18歳未満）の保護者調査結果
■住居形態は、「賃貸住宅」（55.0%）で最も多く、全体（38.5%）よりも多くなっている。〔問5〕 ■スポーツ・運動をする機会は、「ほとんどしない」（53.1%）が全体（45.7%）よりも多くなっている。〔問21〕	■障害児福祉施策の充実のために特に重要な取組は、「困ったことや福祉サービスの利用などを気軽に相談できる窓口」と「放課後などの活動場所の整備」が最も多くなっている（いずれも73.7%）。〔問40〕

6 染地・杉森・布田小学校地域

(1) 市全体と福祉圏域の比較

■市民（18歳以上）：近所付き合いの状況



■市民（18歳以上）：ご近所付き合いの必要性を感じる時（「とても感じる」と「感じる」の合計）

表示：％ 各項目1位に網掛け	緊急時や災害 の助け合い が必要とき	日常生活で よつとした困 りごとがある とき	子どもたちの 見守り・安全 確保	高齢者やひと り暮らしの人 への支援・見 守り	話し相手や相 談相手が必要 なとき
全体 (N=924)	79.0	38.9	58.4	63.2	35.2
染地・杉森・布田 (n=112)	81.2	41.1	66.1	67.8	39.2

■市民（18歳以上）：地域活動の取組状況（「取り組んでいる」の割合）と今後の取組意向（「取り組みたい」と「興味がある」の合計）

表示：％ 各項目1位に網掛け	子育て世帯・青少年を支える行動 や活動、子ども会やPTAの活動	高齢者を支える行動や活動	障害のある人を支える行動や活動	お祭りや運動会などのレクリエー ション活動、地域の伝統や文化を 伝える活動	交通安全や犯罪防止など、地域の 安全を守る活動	防災訓練や災害時に救援・支援を する活動	道路等のごみ拾い、自宅周辺の清 掃・環境美化、環境保全・自然保護 などの活動	自治会・地区協議会・老人クラブな どの活動	趣味・習いごと・健康づくり（運動・ スポーツ）などの活動
①取り組み状況（「取り組んでいる」の割合）									
全体 (N=924)	8.7	10.3	8.0	11.3	9.8	10.9	17.4	12.1	31.4
染地・杉森・布田 (n=112)	7.1	7.1	7.1	12.5	8.0	12.5	17.0	11.6	41.1
②今後の取り組み意向（「取り組みたい」と「興味がある」の合計）									
全体 (N=924)	28.7	62.4	37.6	61.8	38.1	68.5	33.0	58.6	55.4
染地・杉森・布田 (n=112)	29.5	63.4	37.5	66.1	35.7	67.9	34.8	62.5	59.8

■市民（18 歳以上）：身近な地域での不安や課題

表示：％ 各項目 1 位に網掛け	子育て、子どもの教育のこと	健康のこと	介護のこと	老後の生活のこと	住まいや住宅のこと	仕事のこと	経済的なこと	「近所付き合い、友だち付き合いのこと」	防犯、地域の安全のこと	災害時のこと	気軽に相談できる人（機関）が少ないこと	その他	特にない	無回答
全体（N=924）	13.7	24.9	16.8	33.8	18.2	14.2	17.0	5.6	21.5	31.9	6.5	2.6	25.0	5.6
染地・杉森・布田（n=112）	15.2	24.1	16.1	31.3	21.4	16.1	25.0	8.0	20.5	28.6	8.9	3.6	27.7	5.4

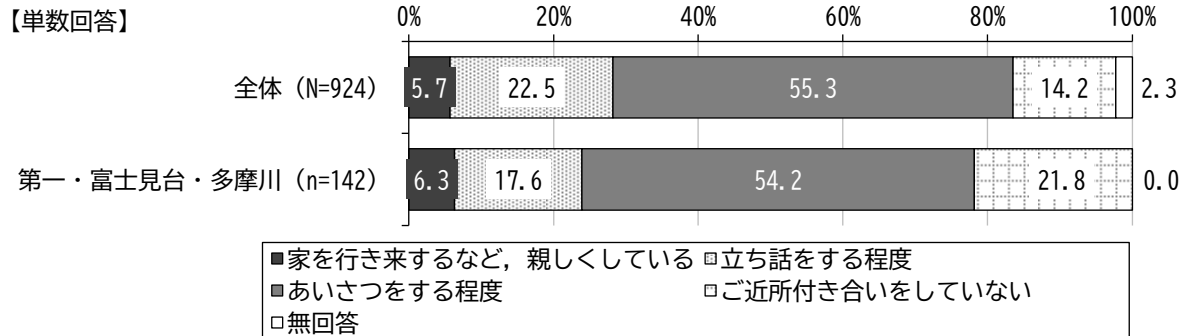
（2）アンケート調査結果の特徴

市民（18 歳以上）調査結果	高齢者（65 歳以上）調査結果
■近所付き合いの必要性を感じる時は、「子どもたちの見守り・安全確保」（66.1%）が全体（58.4%）よりも多くなっている。〔問 9〕 ■現在取り組んでいる地域活動は、「趣味・習いごと・健康づくりなどの活動」（41.1%）が全体（31.4%）よりも多くなっている。〔問 14〕 ■身近な地域での不安や課題は、「経済的なこと」（25.0%）が全体（17.0%）よりも多くなっている。〔問 22〕	■近所付き合いは、『親密な近所付き合いをしている』（57.0%）が全体（46.9%）よりも多くなっている。〔問 8〕 ■困りごとを相談できる人や機関は、「友人・知人」（53.2%）が全体（44.7%）よりも多くなっている。〔問 29〕
障害者（18 歳以上）調査結果	障害児（18 歳未満）の保護者調査結果
■歩きやすいように障害物が取り除かれ、段差や凹凸が少なく十分に幅のある歩道や道路であるかは、「あまり充実していない」（40.5%）が全体（32.6%）よりも多くなっている。〔問 29 エ〕 ■点字ブロックや視覚障害者用の信号機の充実具合は、「充実している」（34.1%）が全体（26.8%）よりも多くなっている。〔問 29 オ〕	■学校以外の過ごし方は、「学童クラブ・あそびバ」（44.4%）が全体（30.6%）よりも多くなっている。〔問 10〕 ■障害児福祉施策の充実のために特に重要な取組は、「発達に関する相談や療育の充実」と「放課後などの活動場所の整備」が最も多くなっている（いずれも 75.0%）。〔問 40〕

7 第一・富士見台・多摩川小学校地域

(1) 市全体と福祉圏域の比較

■市民（18歳以上）：近所付き合いの状況



■市民（18歳以上）：ご近所付き合いの必要性を感じる時（「とても感じる」と「感じる」の合計）

表示：％ 各項目1位に網掛け	緊急時や災害 の助け合い が必要とき	日常生活で よつと困 りごとがある とき	子どもたちの 見守り・安全 確保	高齢者やひと り暮らしの人 への支援・見 守り	話し相手や相 談相手が必要 なとき
全体 (N=924)	79.0	38.9	58.4	63.2	35.2
第一・富士見台・多摩川 (n=142)	81.0	42.3	54.9	62.0	39.4

■市民（18歳以上）：地域活動の取組状況（「取り組んでいる」の割合）と今後の取組意向（「取り組みたい」と「興味がある」の合計）

表示：％ 各項目1位に網掛け	子育て・世帯・青少年を支える行動や活動	高齢者を支える行動や活動	障害のある人を支える行動や活動	お祭りや運動会などのレクリエーション活動、地域の伝統や文化を伝える活動	交通安全や犯罪防止など、地域の安全を守る活動	防災訓練や災害時に救援・支援をする活動	道路等のごみ拾い、自宅周辺の清掃・環境美化、環境保全・自然保護などの活動	自治会・地区協議会・老人クラブなどの活動	趣味・習いごと・健康づくり（運動・スポーツ）などの活動
①取り組み状況（「取り組んでいる」の割合）									
全体 (N=924)	8.7	10.3	8.0	11.3	9.8	10.9	17.4	12.1	31.4
第一・富士見台・多摩川 (n=142)	13.4	13.4	9.2	11.3	10.6	13.4	12.7	13.4	31.0
②今後の取り組み意向（「取り組みたい」と「興味がある」の合計）									
全体 (N=924)	28.7	62.4	37.6	61.8	38.1	68.5	33.0	58.6	55.4
第一・富士見台・多摩川 (n=142)	30.3	71.9	43.7	70.5	39.4	76.8	30.3	65.5	55.7

■市民（18歳以上）：身近な地域での不安や課題

表示：％ 各項目1位に網掛け	子育て、子どもの教育のこと	健康のこと	介護のこと	老後の生活のこと	住まいや住宅のこと	仕事のこと	経済的なこと	「近所付き合い、友だち付き合いのこと	防犯、地域の安全のこと	災害時のこと	気軽に相談できる人（機関）が少ないこと	その他	特にない	無回答
全体（N=924）	13.7	24.9	16.8	33.8	18.2	14.2	17.0	5.6	21.5	31.9	6.5	2.6	25.0	5.6
第一・富士見台・多摩川（n=142）	16.2	28.9	16.9	43.7	22.5	18.3	18.3	6.3	20.4	36.6	9.9	2.1	16.9	4.2

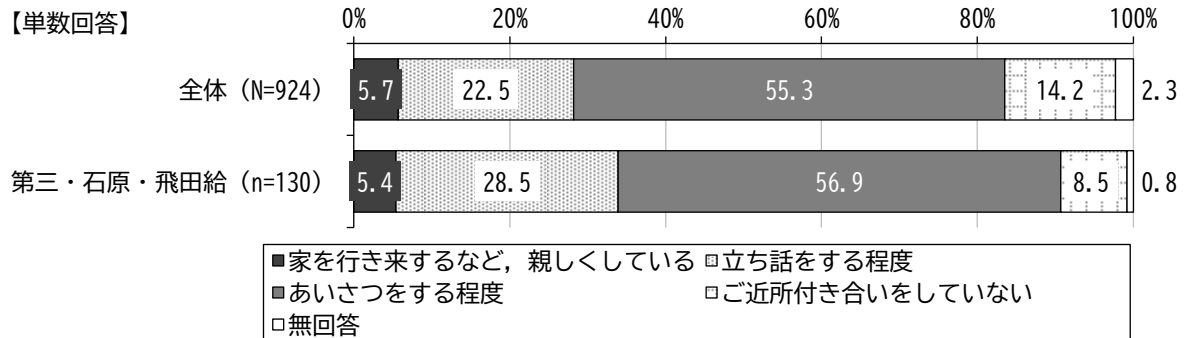
（2）アンケート調査結果の特徴

市民（18歳以上）調査結果	高齢者（65歳以上）調査結果
■困りごとを相談できる人・機関は、「友人・知人」（63.4%）が全体（56.2%）よりも多く、最も多くなっている。〔問 20〕 ■身近な地域での不安や課題は、「老後の生活のこと」（43.7%）が全体（33.8%）よりも多く、最も多くなっている。〔問 22〕	■今後取り組みたい・興味がある地域活動は、「道路等のごみ拾い、自宅周辺の清掃、環境美化、環境保全・自然保護などの活動」（45.1%）が全体（38.3%）よりも多くなっている。〔問 15〕
障害者（18歳以上）調査結果	障害児（18歳未満）の保護者調査結果
■医療機関の受診で困ることは、「医療費や交通費の負担が大きい」（21.8%）が全体（16.7%）よりも多くなっている。〔問 10〕 ■仕事をするために必要なことは、「病気や障害に応じた多様な働き方」（33.5%）が全体（24.7%）よりも多くなっている。〔問 19〕 ■外出時の主な移動手段は、「電車」と「徒歩・自転車・車いす」がいずれも6割を超えて多くなっている。〔問 28〕	■障害児福祉施策の充実のために特に重要な取組は、「発達に関する相談や療育の充実」（75.0%）が最も多くなっている。〔問 40〕

8 第三・石原・飛田給小学校地域

(1) 市全体と福祉圏域の比較

■市民（18歳以上）：近所付き合いの状況



■市民（18歳以上）：ご近所付き合いの必要性を感じる時（「とても感じる」と「感じる」の合計）

表示：％ 各項目1位に網掛け	緊急時や災害 の助け合い が必要とき	日常生活で よつとした困 りごとがある とき	子どもたちの 見守り・安全 確保	高齢者やひと り暮らしの人 への支援・見 守り	話し相手や相 談相手が必要 なとき
全体 (N=924)	79.0	38.9	58.4	63.2	35.2
第三・石原・飛田給 (n=130)	80.0	41.5	66.9	65.4	46.9

■市民（18歳以上）：地域活動の取組状況（「取り組んでいる」の割合）と今後の取組意向（「取り組みたい」と「興味がある」の合計）

表示：％ 各項目1位に網掛け	子育て世帯・青少年を支える行動 や活動、子ども会やPTAの活動	高齢者を支える行動や活動	障害のある人を支える行動や活動	お祭りや運動会などのレクリエー ション活動、地域の伝統や文化を 伝える活動	交通安全や犯罪防止など、地域の 安全を守る活動	防災訓練や災害時に救援・支援を する活動	道路等のごみ拾い、自宅周辺の清 掃・環境美化、環境保全・自然保護 などの活動	自治会・地区協議会・老人クラブな どの活動	趣味・習いごと・健康づくり（運動・ スポーツ）などの活動
①取り組み状況（「取り組んでいる」の割合）									
全体 (N=924)	8.7	10.3	8.0	11.3	9.8	10.9	17.4	12.1	31.4
第三・石原・飛田給 (n=130)	9.2	10.0	8.5	14.6	10.0	13.1	20.0	14.6	26.9
②今後の取り組み意向（「取り組みたい」と「興味がある」の合計）									
全体 (N=924)	28.7	62.4	37.6	61.8	38.1	68.5	33.0	58.6	55.4
第三・石原・飛田給 (n=130)	30.8	60.0	36.1	59.3	40.8	66.9	37.7	57.7	51.5

■市民（18 歳以上）：身近な地域での不安や課題

表示：％ 各項目 1 位に網掛け	子育て、子どもの教育のこと	健康のこと	介護のこと	老後の生活のこと	住まいや住宅のこと	仕事のこと	経済的なこと	「近所付き合い、友だち付き合いのこと	防犯、地域の安全のこと	災害時のこと	気軽に相談できる人（機関）が少ないこと	その他	特にない	無回答
全体（N=924）	13.7	24.9	16.8	33.8	18.2	14.2	17.0	5.6	21.5	31.9	6.5	2.6	25.0	5.6
第三・石原・飛田給（n=130）	14.6	24.6	16.2	32.3	21.5	14.6	16.2	4.6	23.8	35.4	3.1	4.6	25.4	4.6

（2）アンケート調査結果の特徴

市民（18 歳以上）調査結果	高齢者（65 歳以上）調査結果
■近所付き合いの必要性を感じる時は、「子どもたちの見守り・安全確保」（66.9%）が全体（58.4%）よりも多くなっている。〔問 9〕 ■身近な地域での不安や課題は、「災害時のこと」（35.4%）が最も多くなっている。〔問 22〕	■困りごとを相談できる人や機関は、「自治会や近所の人」（17.0%）が全体（10.7%）よりも多いほか、「ケアマネジャー・ヘルパーなどの事業者」（22.3%）も全体（12.2%）よりも多くなっている。〔問 29〕 ■高齢者保健福祉施策で特に重要と考える取組は、「ひとり暮らしなどの高齢者に対する見守りや支え合うまちづくりへの支援」と「特別養護老人ホームなどの入所施設の整備」が最も多くなっている（47.9%）。〔問 37〕
障害者（18 歳以上）調査結果	障害児（18 歳未満）の保護者調査結果
■点字ブロックや視覚障害者用の信号機の充実具合は、「充実している」（33.2%）が全体（26.8%）よりも多くなっている。〔問 29 オ〕 ■心のバリアフリーのために特に必要な取組は、「障害者や外国人など、さまざまな住民が交流する機会を増やす」（29.0%）が全体（22.7%）よりも多くなっている。〔問 30〕	■障害児福祉施策の充実のために特に重要な取組は、「発達に関する相談や療育の充実」と「放課後などの活動場所の整備」が最も多くなっている（いずれも 58.3%）。〔問 40〕

第2章 アンケート調査から見えた課題

1 市民の地域参加と暮らしを支える取組について／市民

(1) 多世代・多様な主体の参加による地域における支え合いの仕組みづくりを推進する必要がある

- 近所付き合いの状況については、『親密な近所付き合いをしている』が3割を下回り、近年で最も低い水準となっている。（問8）
- これまで地域を支えてきた持ち家世帯や高年層などの属性においても令和4年度調査からの低下がみられる（問8）。
- 災害時の避難や安否確認などに対する支え合いを必要と考える意識は高い水準を保っている（問9，問12）。しかし、地域活動やボランティア活動に「取り組んでいない」の割合は依然として多く、意識が行動に結びついていない状況がある（問14）。
- 支え合いを進める仕組みとして、「手助けを必要とする人と支援できる人をつなぐ仕組み」や、「支援ニーズを知ることができる仕組み」への期待が示されている。また、地域活動等への参加条件としては、「時間や期間にしばられないこと」や「身近な場所で活動できること」が重視されている（問13，問15）。

日常的なつながりが希薄化していることを踏まえ、従来の支援の担い手のみならず、多世代・多様な主体が幅広く参加できるような仕組みを整えることが重要である。今後に向けては、地域福祉コーディネーター等による地域づくりに向けた支援を通じて、地域活動やボランティア活動などへの参加を促進する取組を進めるとともに、新たな担い手の発掘・参加につながる取組を進めていく必要がある。

(2) 複雑化・複合化した支援ニーズに対応する包括的な支援体制の充実を図る必要がある

- 市民調査では、経済的な理由で困ったことが「ある」と回答した人が3割弱となっている（問16）。
- 現在、生活上の困りごとを抱えている人も一定割合存在し、その主な理由には経済的な問題が挙げられている（問21，問21付問）。
- 身近な地域において、老老介護の世帯やごみ屋敷、地域との関わりをもたない世帯など、複雑な課題を抱えていると思われる世帯や個人を「見たり、聞いたりしたことがある」と回答した人は、一定割合存在している（問19）。
- 困りごとや不安を感じた際の相談先としては、家族や知人が中心となっており、公的な相談窓口や支援機関を相談先に挙げる割合は限定的である（問20）。

経済的な問題をはじめとする生活課題は、就労や健康、家族関係、住まいなどのさまざまな要素が複雑化・複合化し、困難な状況となることがあることから、分野を横断して包括的に相談を受け止める体制の充実が重要である。今後に向けては、支援を必要とする人が適切な支援につながるよう、多機関協働による包括的な支援体制の充実を一層進めていく必要がある。

(3) 社会的孤立や生きづらさを抱える方の支援の充実を図る必要がある

- 市民調査では、「自分は孤独であると感じることがある」（主観的な孤独感）に「常にある」と回答した割合は2.7%であり、国の令和6年調査（4.3%*）より低い水準となっている（問10エ）。

%	全体	回答
市民調査	2.7	常にある
国R6調査	4.3	しばしばある・常にある

*国の令和6年調査は「孤独・孤立の実態把握に関する全国調査（令和6年人々のつながりに関する基礎調査）」

https://www.cao.go.jp/kodoku_koritsu/torikumi/zenkokuchousa/r6.html

- 「UCLA孤独感尺度」（主観的な孤独感を間接的に測定する数値）においては、合計スコア「10～12点（常にある）」の割合は市民全体で2.6%であり、国の令和6年調査（6.5%）より低い水準となっている。年齢別で合計スコア「10～12点（常にある）」の割合をみると、市民も国調査も若年層から中高年層にかけて幅広くみられている（問10ア～ウ）。

%	全体	10・20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上
市民調査	2.6	3.3	0.8	3.4	6.5	2.1	0.0	0.9
国R6調査	6.5	7.8	9.5	7.2	7.6	6.7	3.9	4.1

*国の10・20代割合はそれぞれの年齢別回答者数と該当割合を用いて算出した数値

- 同居していない家族や友人との社会的交流（コミュニケーションの頻度）について、「全くない・できない」と回答した割合は、「直接会って話す（手話等を含む）」6.6%、「電話（ビデオ通話含む）」14.7%、「SNS等」11.4%となっており、国の令和6年調査と同程度、もしくは、やや低い水準となっている（問11）。

	ア 直接会って話す	イ 電話 (ビデオ通話含む)	ウ SNSや電子メールなど
市民調査	6.6	14.7	11.4
国R6調査	9.3	14.9	12.4

- 市民調査では、国の令和4年度調査（＊）の設問を簡略化（生活条件等を除外）して、ひきこもりに該当する可能性のある群の割合を把握した。この結果として、広義のひきこもりに該当する可能性のある群は 3.03％，狭義のひきこもりに該当する可能性のある群は 1.52％となっている。国の令和4年度調査とは対象年齢が異なるため、参考として掲載している（問17）。

市民調査 (回答者本人)	区分		広義のひきこもり	狭義のひきこもり
	該当者数		28 人	14 人
	有効回答数に占める割合		3.03％	1.52％
国 R4 調査 (回答者本人)	有効回答数に 占める割合	15～39 歳	2.05％	1.10％
		40～69 歳	2.97％	1.75％

＊国の令和4年度調査は「こども・若者の意識と生活に関する調査（令和4年度）」

<https://www.cfa.go.jp/resources/research/children-attitudes>

- 市内居住の家族（同居・別居問わず）について、本人と同じ設問を行った結果、広義のひきこもりに該当する可能性のある群は 8.12％，狭義のひきこもりに該当する可能性のある群は 3.03％となっている。なお、国の令和4年度調査では家族の状況は把握していない（問18）。

市民調査 (市内居住家族)	区分		広義のひきこもり	狭義のひきこもり
	該当者数		75 人	28 人
	有効回答数に占める割合		8.12％	3.03％

※参考：ひきこもりの定義（市，高齢者，障害者の各調査共通）

様々な要因の結果として社会的参加（就学，就労，家庭外での交遊など）を回避し，原則的には6ヵ月以上にわたって概ね家庭にとどまり続けている状態を指す現象概念（他者と交わらない形での外出をしてもよい）。

（出典：「ひきこもりの評価・支援に関するガイドライン」（平成22年5月）（厚生労働科学研究でとりまとめ））

※参考：本調査におけるひきこもりの抽出条件

市民，高齢者，障害者の各調査において，下記の間で，選択肢5～8を選択（選択肢5～8を広義，選択肢6～8を狭義）し，付問1で期間「6ヵ月以上」を選択し，かつ付問2で「病気」，「介護・看護を担うこと」，「自宅で仕事をしている」以外を選択した回答サンプルをひきこもり対象者とした。

なお，市民（18歳以上）では問7の現在の職業で就業と回答したサンプルや「専業主婦・主夫」と回答したサンプル，高齢者では問17で就業・活動参加をしているサンプル，障害者（18歳以上）では問16で就業をしているサンプル及び「これまで仕事をしたことがない（学生を含む）」を回答したサンプルは対象から除外している。

問 あなたは普段，どのくらい外出しますか。現在のことについてお答えください。（1つに○）

1 仕事や学校等で週に5日以上外出する	
2 仕事や学校等で週に3～4日外出する	
3 遊びや趣味の活動等で頻繁に外出する	
4 人づきあいのためにときどき外出する	
5 普段は家にいるが，自分の趣味に関する用事のときだけ外出する	広義のひきこもり群
6 普段は家にいるが，近所のコンビニなどには出かける	
7 自室からは出るが，家からは出ない	狭義のひきこもり群
8 自室からほとんど出ない	

市民の孤独感は全体として国より低い水準にあるものの、孤独・孤立は特定の年齢や属性に限らず、誰もが直面する可能性のある身近な課題であることを十分に踏まえることが重要となる。また、回答者本人、市内居住の家族ともに、ひきこもりに該当する可能性が一定割合存在していることが明らかとなった。今後に向けては、孤独・孤立やひきこもりの問題に対する地域や社会全体の理解の促進を図るとともに、人とのつながりを感じられる機会の創出や居場所づくりを進めることにより、孤立化を防ぐ地域づくりが必要である。また、地域住民や関係機関等が早期に本人との関係性を構築し、家族を含めた一人ひとりの状況に応じて多機関協働により参加支援の取組を推進する必要がある。

(4) 誰もが自分らしく暮らせるよう権利擁護支援の取組を推進する必要がある

- 「成年後見制度」「法定後見制度」「任意後見制度」の認知度は令和4年度調査から若干増加したものの、その他の制度や事業の認知度に変化はみられない。市や社会福祉協議会等で行う市民の権利を守る制度や事業の認知度は、全体として十分に浸透しているとはいえない状況である（問23）。
- 制度や事業の将来的な利用意向は6割を超え、一定のニーズが認められる。一方、「わからない」は26.1%、「利用しない」は5.8%であり、約3分の1に上る（問24）。
- 制度を利用しない、またはわからない理由として、「制度の内容や利用方法がわからない」が最も多く半数を占める。次いで「家族などに支援してもらいたい」、「第三者に財産管理等を任せることへの不安」も挙げられている（問24付問）。

権利擁護支援に関する制度への利用意向はみられる一方で、制度の認知や理解の浸透はいまだ十分ではなく、また、親族以外に任せる仕組みに対する不安感も存在している。今後に向けては、制度・事業の意義や仕組み、利用方法の理解を浸透させる継続的な取組とともに、利用に関して相談しやすい体制の充実、関係機関の連携強化などを通じて、本人の意向に沿った制度・事業を適切なタイミングで選択できるよう、権利擁護支援の取組を推進する環境を整える必要がある。

(5) 困難を抱える人を支える包摂的な地域づくりを推進する必要がある

- 困難を抱える人や家庭を地域で支えることを重要と感じる割合は全項目で高い水準にあり、地域のつながりで支え合う意識が広く共有されていることがうかがえる。一方で、「ひきこもりやニートの問題」については、他の困難事例と比べてその割合が低く、さまざまな地域課題に対する意識に差がみられる（問 26）。
- 更生支援（再犯防止）に関する民間協力者や活動の取組に係る認知度は、「保護司」については一定の認知度がある一方で、その他は「知らない」と回答した割合が半数以上を占めている（問 30）。
- 更生支援に対する理解や関心を広げるためには、学校や職場での学び、さまざまな媒体を活用した情報発信など、多様な方法による取組が挙げられている（問 31）。

さまざまな困難を抱える人が生きづらさを抱えたまま地域で孤立することなく、暮らしていけるよう、地域や社会全体で支える意識の広がりも重要である。また、その中で更生支援においても地域で孤立させない取組に対する意識の醸成が重要である。そのため、今後に向けては、こうしたさまざまな困難を抱える人が地域の中で孤立することなく生活できるよう、市民一人ひとりが包摂的な地域づくりに対する理解を深める取組を着実に進めていく必要がある。

(6) ハード・ソフト両面からユニバーサルデザイン・バリアフリーの取組を推進する必要がある

- 市内のバリアフリー化について、『充実している』と感じている割合が各項目でみられる一方で、『充実していない』と感じている人も一定割合存在している（問 27）。
- 心のバリアフリーの普及に必要な取組としては、「わかりやすく使いやすい情報の提供」や「学校における理解と配慮を育む教育」が上位に挙げられている（問 28）。
- 共生社会の充実に関する法律や考え方の認知度は十分とはいえず、市が令和 6 年度に制定した 2 つの条例についても、「内容を知っている」割合は 1 割に満たない（問 29）。

市内のユニバーサルデザイン化・バリアフリー化のさらなる推進を図る必要があり、共生社会の充実に向けた制度や理念の浸透に一層の取組が求められる。今後に向けては、ハード・ソフトの両面からユニバーサルデザイン化・バリアフリー化の取組を継続的に進めるとともに、年齢や障害の有無、性別、国籍などにかかわらず、誰もが安心して暮らせる共生社会の充実に向けた取組を関係機関等と連携して推進していく必要がある。

2 高齢者の健康と暮らしを支える取組について／高齢者

(1) 支え合う意識を実際の行動や地域での活動につなげる取組が必要である

- 高齢者の近所付き合いについては、「家を行き来するなど親しくしている」「立ち話をする程度」を合わせた割合が 46.9%となり、令和4年度調査（53.4%）からやや低下している。属性別では女性や一部の福祉圏域で低下がみられる（問8）。
- 近所付き合いの必要性については、「緊急時や災害時の助け合い」や「高齢者・ひとり暮らしの人への支援・見守り」の場面で強く感じている人が多くなっている（問9）。
- 家族以外の人との支え合いについては、「災害時の避難の手助け」や「安否確認の声かけ」などを「してほしい」「できる・してもよい」と考える人が多く、高い水準が保たれている。一方で、実際に手助けを「した」「してもらった」経験がある人はいずれも1割半ばにとどまっている（問12、問13）。
- 地域での活動状況については、「趣味・習いごと・健康づくり（運動・スポーツ）」が中心となっている。今後の取組意向はすべての活動で実施率を上回っている。また、参加条件としては、「時間や期間にしばられないこと」「身近な場所で活動できること」が重視されている（問15、問16）。

支え合いの必要性に対する意識や地域活動への関心はみられる。一方、高齢者においても日常的な関係性の希薄化が懸念される。今後に向けては、高い意識が実際の行動につながりにくい状況を踏まえ、高齢者が無理なく関われる地域活動や見守りの仕組みを整えていくことが必要である。また、ひとり暮らし高齢者や高齢者のみ世帯の将来の増加を見据え、生きがいや健康につながる活動を通じて、人と人とのつながりを日常的に育てていく取組を地域住民と一緒に進めていく必要がある。

(2) 高齢期のウェルビーイング※を支える多様な就労環境が必要である

- 高齢者の就労状況については、働いている人の割合が 34.8%となり、令和4年度調査（28.8%）から増加している。働き方は正規・非正規就労が中心であるが、シルバー人材センターや有償ボランティアなど、多様な就労形態がみられる（問17）。
- 就労の経緯は、定年後の継続雇用や再就職・再雇用が中心となっている（問17 付問）。
- 仕事をする（したい）理由としては、収入の確保に加え、健康維持や生きがいの形成、社会とのつながりの維持が上位に挙げられている（問18）。
- 高齢者が就労を続けるために必要なこととしては、健康状態や体力、年齢等に応じた働き方が重視されており、柔軟な就労環境や条件整備へのニーズが高い（問19）。

高齢期においても就労を希望する人が一定程度存在することに加えて、高齢者の就労は、生活の安定、心身の充実、社会参加の機会をもたらす、高齢期のウェルビーイング向上（身体的・精神的・社会的に満たされた良好な状態）に寄与すると考えられる。こうした観点も踏まえ、今後に向けては、関係機関や事業者等と連携し、一人ひとりの希望や状況に応じた多様な働き方を選択できる環境を整えていくことが必要である。

※ウェルビーイングとは、WHOが健康の定義として示した「身体的・精神的・社会的に満たされた良好な状態」を表す言葉。健康が単なる“病気でない”状態ではなく、人生の質や幸福感までを含んでいるという考え方。国の「経済財政運営の基本方針（骨太方針）」や「（仮称）調布市スマートシティビジョン」（令和8年度策定予定）において、ウェルビーイングが位置付けられている。日本語では「幸せ」や「満たされた状態」といった意味で使われている（調布市ホームページ <https://chofu-sc.jp/news/wellbeing-questionnaire2025/>）。

（3）介護予防の普及と将来不安に寄り添う支援の推進が必要である

- 認知症予防及びフレイル予防については、「今、取り組んでいる」「今後取り組む」を合わせた割合がいずれも6割前後となっている（問20）。
- 人生のエンディングに向けた活動については、「終活（エンディング）ノート」の認知度は7割台と高い一方、「ACP（アドバンス・ケア・プランニング）」の認知度は2割強にとどまっている。これらの利用意向は3割台～4割台となっている（問21）。
- 認知症の人やその家族を支える施策としては、相談窓口・支援体制の充実、介護施設の整備、家族支援に対するニーズが高い状況にある（問22）。
- 権利擁護に関する制度については、成年後見制度の認知度は4割強である一方、その他の制度は2割台以下にとどまっている。将来の利用については「検討する」とする人が半数近くに上るものの、制度のわかりにくさや不安感が利用の妨げとなっている（問23、問24、問24付問）。

今後に向けては、認知症やフレイル予防への高い意欲を継続的な取組につなげる支援とともに、人生の最終段階や権利擁護に関する備えについて、わかりやすい情報提供が必要である。高齢者本人や家族が将来への不安を感じた際に、早期に必要な支援や制度につながる相談支援の一層の充実を図る必要がある。

(4) 高齢者の外出・交流・相談を支える地域づくりの推進が必要である

- 高齢者の外出目的としては、買い物に加え、通院・リハビリや散歩が上位に挙げられている。移動手段は徒歩やバス、電車などの公共交通機関が中心となっている（問 25，問 25 付問）。
- 新型コロナウイルス感染症流行後の暮らしへの影響については、「変化なし」とする人が多い一方で、「体力・筋力が減った」と感じている人が4割強に上っており、体力・筋力を維持する機会が十分に確保されていない状況が続いていることもうかがえる（問 26）。
- 日常生活の困りごとについて、相談できる人や機関が「ない」と回答した人は一定割合存在しており、特に男性でみられる。現在どこに相談すればよいかわからない困りごとを抱えている人は2割台となっている（問 29，問 30）。
- 自宅以外でひとり、または友人・知人と過ごす場所については、「ない」と回答した人が3割強に上っている。友人・知人と過ごす場としては、飲食店や公園など、気軽に立ち寄れる場所が望まれている（問 31，問 32）。

困りごとを相談できない潜在的な相談ニーズがうかがえる。今後に向けては、困りごとが生じた際に相談につながりやすい体制を整えると同時に、外出・交流・相談が一体となる地域の居場所づくり（サードプレイス）を進めていく必要がある。

(5) 身近なテーマを起点とする情報周知や交流につなげる取組を積み重ねる必要がある

- 地域の環境に対する満足度については、買い物や医療機関、道路・交通機関などの生活基盤では一定の満足感がみられる。一方、町内会や地域交流、相談や防災・防犯体制など、安心やつながりに関する分野では満足度が低い状況が続いている（問 33）。
- 高齢者の生活を支える取組や相談窓口の認知度については、シルバー人材センターや地域包括支援センターが6～7割台と比較的高い一方、その他の制度・取組は認知が十分に広がっていない状況がうかがえる（問 34）。
- 市内のバリアフリー化については、『充実している』と感じる割合が1割台～4割台であり、項目によって差がみられる（問 35）。
- 共生社会に関する法律や考え方の認知度は低く、市が令和6年度に制定した2つの条例については、「内容を知っている」割合が1割に届いていない（問 36）。
- 市が力を入れるべき高齢者施策としては、介護サービスや健康づくり、見守りが上位に挙げられており、高齢者が安心して暮らし続けるための支援へのニーズが示されている（問 37）。

今後に向けては、安心やつながりに関する分野の満足度や制度認知が低い状況を踏まえ、多くの住民にとって関心があるテーマ（例 地域防災）を起点に、情報提供や世代間交流、相談につながる取組を重ね、高齢者が地域の中で安心して暮らせる環境づくりを進めていく必要がある。

(6) 高齢者の孤立やひきこもりを防ぎ、地域での見守りとつながりを強化する必要がある

- 高齢者では、「自分は孤独であると感じることがある」に「常にある」と回答した割合は 0.9%であり、国の令和 6 年調査より低い水準であることが考えられる（問 10 エ）。

%	全体	60～69歳	70～79歳	80歳以上
高齢者調査	0.9			
国R6調査		4.4	2.5	2.8

- 「UCLA孤独感尺度」（主観的な孤独感を間接的に測定する数値）においては、合計スコア「10～12 点（常にある）」の割合は高齢者全体で 1.6%であり、国の令和 6 年調査とは年齢区分が異なるが、国調査より低い傾向であると考えられる（問 10 ア～ウ）。

%	全体	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85歳以上
高齢者調査	1.6	1.5	1.8	1.4	1.0	2.7
国R6調査		6.7	3.9		4.1	

※国の年齢区分は 60～69 歳、70～79 歳、80 歳以上

- 同居していない家族や友人との社会的交流（コミュニケーションの頻度）について、「全くない・できない」と回答した高齢者の割合は、「直接会って話す（手話等を含む）」7.6%、「電話（ビデオ通話含む）」10.6%、「SNS 等」22.1%となっている。国の令和 6 年調査とは年齢区分が異なるが、国調査と同程度であると考えられる（問 11）。

%			ア 直接会って話す	イ 電話 (ビデオ通話含む)	ウ SNSや電子メールなど
高齢者調査			7.6	10.6	22.1
国R6調査	男性	60～69歳	9.3	15.1	16.0
		70～79歳	9.4	11.3	17.6
		80歳以上	7.3	10.6	23.9
	女性	60～69歳	5.9	10.7	8.8
		70～79歳	4.2	5.4	13.9
		80歳以上	6.1	8.6	24.7

- ひきこもりに該当する可能性のある群は、広義のひきこもりに該当する可能性のある群が高齢者本人 11.06%、市内居住の家族（同居・別居問わず）10.11%、狭義のひきこもりに該当する可能性のある群が高齢者本人 6.48%、市内居住の家族（同居・別居問わず）4.74%となっている。なお、国の令和 4 年度調査では家族の状況は把握していない（問 27、問 28）。

高齢者調査	区分	広義のひきこもり	狭義のひきこもり
(回答者本人)	該当者数	70 人	41 人
	有効回答数に占める割合	11.06%	6.48%
(市内居住家族)	該当者数	64 人	30 人
	有効回答数に占める割合	10.11%	4.74%

高齢者調査では、主観的な孤独感は低い水準にあるものの、社会的交流が活発でない状況や、ひきこもりに該当する可能性が一定割合存在していることが明らかになった。今後に向けては、高齢期における外出機会の減少や生活環境の変化を踏まえ、日常的な見守りや声かけを通じて、高齢者の変化に家族や周囲が気づきやすい体制を整えとともに、地域活動や交流の場への参加を促す取組を進めていくことが必要である。また、本人からの相談につながりにくいケースについても、家族や地域、関係機関が連携し、高齢者の生活実態に即した支援につなげていく必要がある。

3 障害のある方の自立と暮らしを支える取組について／障害者・障害児保護者

(1) 多様な生活希望を支える相談・情報・支援の充実が必要である

- 今後の生活の希望については、知的障害では家族との同居やグループホームを希望する割合が多い一方、その他の障害者や障害児では、ひとり暮らしや配偶者との同居など自立した生活を希望する割合が多く、障害種別にかかわらず住み慣れた地域で暮らしたい意向が示されている（障害者問 11，障害児保護者問 19）。
- 悩みや困りごとの相談先は、家族・親族や友人・知人など身近な人が中心であるが、相談先がない人も少数ながら存在する。障害児では、通園・通学先の先生や職員も重要な相談先となっている（障害者問 9，障害児保護者問 20）。
- 医療機関の受診では、費用負担や医療従事者とのコミュニケーション、専門的な医療機関の不足などの困りごとが、障害者、障害児ともに一定割合みられる（障害者問 10，障害児保護者問 15）。
- 市の保健福祉施策に関する情報は、広報紙や市ホームページから入手している人が多い一方、情報を入手していない人も一定割合存在している（障害者問 34，障害児保護者問 36）。
- 情報端末の利用については、身体障害（65 歳以上）を除き、多くの障害者が利用しており、利便性向上への期待がある一方、利用できないことへの不安もうかがえる（障害者問 35・36，障害児保護者問 37）。

今後に向けては、多様な生活希望に応じて必要な支援や制度につながりやすい相談支援体制を整えるとともに、デジタル化の推進と併せて、デジタル・デバイドに配慮し、誰もが必要な情報や支援にアクセスできる環境づくりを進める必要がある。

※参考：デジタル・デバイド：インターネットやパソコン等の情報通信技術を利用できる者と利用できない者との間に生じる格差のこと。社会でデジタル化が進むことに伴い、さまざまな格差や不利益につながる可能性が指摘されている。

(2) 障害児の生活と将来の自立を見据えた支援と環境の充実が必要である

- 障害児の学校以外の時間の過ごし方については、放課後等デイサービスを利用している子どもが8割半ばに上っているほか、学童クラブや民間の習いごとを利用しているケースもみられ、日中の過ごし方は多様である（障害児保護者問 10）。
- 放課後活動に求めることとしては、交流や運動の機会への希望が多く挙げられている（障害児保護者問 11）。
- 外出、人との交流、スポーツ・運動などの体験機会について、「十分にある」と感じている割合は3～5割にとどまり、十分ではないと感じている保護者も一定割合存在している（障害児保護者問 12）。

- スポーツ・運動の頻度については、月に1回以上行っている子どもが7割半ばに上る一方、ほとんど行っていない子どもも一定割合みられる（障害児保護者問13）。
- 日常生活における不安や課題としては、対人関係、専門的な療育環境、余暇活動の機会、施設以外の日中の活動場所などが挙げられており、子どもの発達や将来の自立を見据えたニーズが示されている（障害児保護者問14）。
- 将来の進学先については大学、希望する働き方については一般就労がそれぞれ最も多く挙げられている。仕事をするために必要なこととしては、職場の理解・協力や技能の習得、相談支援体制などが重視されている（障害児保護者問16～18）。

今後に向けては、障害児の成長段階に応じて、体験機会の確保と相談支援を早期から切れ目なく行い、学校・福祉サービス・地域が連携しながら、将来の就労や自立につながる支援体制を充実させていく必要がある。

（3）防災意識の差を踏まえた平常時からの備えと情報提供の強化が必要である

- 避難場所や避難経路等の事前確認については、防災マップや洪水ハザードマップ等で確認している割合が4～6割台となっている。一方、身体障害（64歳以下）では確認している割合が令和4年調査から10ポイント以上低下している（障害者問14）。
- 障害児保護者では、避難場所や避難経路等を事前に確認している割合が7割半ばと高く、防災意識の高さが表れている（障害児保護者問26）。
- 災害や火災などの緊急時における避難情報の入手方法としては、「調布市防災・安全情報メール」や「SNS（市の公式アカウントを含む）」が上位に挙げられている。一方で、「わからない」と回答した人も一定割合存在している（障害者問15）。
- 障害児保護者では、避難情報の入手方法が「わからない」の割合は1割未満にとどまっており、緊急時に備える意識の高さがうかがえる（障害児保護者問27）。

今後に向けては、障害種別や立場によって防災意識や情報把握に差がみられることを踏まえ、福祉サービス事業者や地域活動等と連携しながら、平常時から避難場所・避難経路の確認とわかりやすい情報提供を継続していくことが重要である。あわせて、避難が困難な状況にある障害者を地域で支援できる体制の一層の充実が必要である。

（4）障害特性を考慮した就労と社会参加を支える環境整備が必要である

- 障害者の就労状況について、給料や工賃を伴う仕事をしている人は、身体障害（65歳以上）を除き4割台～7割台に上っており、知的障害は障害者施設での就労が主となっている。一方、仕事をしていない人も一定割合存在している（障害者問16）。
- 職場や学校で障害や病気のことを伝えている人は5割台～7割台となっている。一方で、伝えていない人も一定割合存在している（障害者問17）。

- 働き方の希望については、身体障害（65 歳以上）を除き、正規の社員・職員等を希望する人が多くなっている。また、仕事をするために必要なことは、職場の理解や協力、柔軟な働き方が上位に挙げられている（障害者問 18, 19）。
- 日常生活における体験機会については、活動内容や障害種別によって状況に差がみられる。身体障害（65 歳以上）では外出、精神障害ではすべての活動において、「十分にある」と感じている割合が令和 4 年度調査から増加している。一方、「十分ではない」も引き続き一定割合存在している（障害者問 20）。
- スポーツ・運動については、月に 1 回以上行っている人が 4 割台～5 割台に上る一方、ほとんど行っていない人も 4 割台～5 割台となっている。運動場所の希望は、身近で安心できる「自宅」や通所先の施設などが挙げられている。また、活動場所の確保や障害特性に応じたプログラム、支援者確保等のニーズもうかがえる（障害者問 21～23）。

障害種別によって就労の状況、職場での障害特性の周知には個人差がみられることから、今後に向けては、障害特性に応じた多様な働き方を可能とする職場環境づくりと、周囲の理解・協力を広げていくことが必要である。社会参加では、地域の中で安心して参加できる身近な活動の場を確保し、人と関わる機会をさらに広げる取組を進めていく必要がある。

(5) バリアフリー化と共生社会の気運醸成が必要である

- 本市の住みやすさの評価については、障害種別にかかわらず、『住みやすい』割合が 8 割前後と高い水準を維持している（障害者問 26, 障害児保護者問 28）。
- 共生社会の充実に関する法律や考え方の認知度は十分とはいえず、市が令和 6 年度に制定した 2 つの条例の認知度はいずれも 1 割に届いていない（障害者問 27, 障害児保護者問 29）。
- 外出時の移動手段は、「徒歩・自転車・車いす」や「電車」の利用が主である（障害者問 28, 障害児保護者問 30）。
- 市内のバリアフリー化については、『充実している』が一定割合みられるものの、それが半数を超える項目はなく、全体として大きな変化はみられない。その中で、建物の出入口や通路、公共施設等の設備について、一部の障害種別で『充実している』割合が 10 ポイント以上増加している（障害者問 29, 障害児保護者問 31）。
- 心のバリアフリーに必要な取組としては、学校教育を通じた取組やわかりやすい情報提供が多く挙げられている。障害児保護者は学校教育への期待が特に高い（障害者問 30, 障害児保護者問 32）。
- 日常生活や外出時に、差別や配慮のなさを感じた経験がある人は、社会生活や教育・保育をはじめ、一定割合存在している。ヘルプカードやヘルプマークについては、所持意向は 6 割前後と高いものの（難病を除く）、実際の効果の感じ方には個人差がみられる（障害者問 31～33, 障害児保護者問 33～35）。

今後に向けては、事業者等と連携したバリアフリー・ユニバーサルデザインによる生活基盤整備を継続するとともに、学校教育や意識啓発を通じた心のバリアフリーの取組を積み重ねることが重要である。こうした取組を通じて、障害の有無にかかわらず相互理解と配慮が広がる、共に生きる社会の実現に向けた気運を高めていく必要がある。

(6) 本人と家族の孤立やひきこもり防止に障害特性を踏まえた支援が必要である

- 障害者では、「自分は孤独であると感じることがある」に「常にある」と回答した割合は精神障害で22.4%と高くなっている。障害児保護者では、保護者自身が「常にある」と回答した割合は8.6%となっている（障害者問12エ、障害児保護者問24エ）。

%	全体	身体障害 (64歳以下)	身体障害 (65歳以上)	知的障害	精神障害	難病
障害者調査		5.5	4.2	7.1	22.4	4.9
障害児保護者調査	8.6					

- 「UCLA孤独感尺度」（主観的な孤独感を間接的に測定する数値）においては、合計スコア「10～12点（常にある）」の割合は、精神障害で25.3%と高く、その他の障害種別では5%台～11%台となっている。障害児保護者では17.3%となっている。（障害者問12ア～ウ、障害児保護者問24ア～ウ）。

%	全体	身体障害 (64歳以下)	身体障害 (65歳以上)	知的障害	精神障害	難病
障害者調査		9.7	5.3	11.7	25.3	8.9
障害児保護者調査	17.3					

- 同居していない家族や友人との社会的交流（コミュニケーションの頻度）について、「全くない・できない」と回答した割合をみると、知的障害で「電話（ビデオ通話含む）」43.8%、「SNS等」44.2%と高く、人とつながる方法に制約が生じやすい状況もうかがえる。障害児保護者では、保護者自身の社会的交流について、「全くない・できない」と回答した割合は、「直接会って話す（手話等を含む）」8.6%、「電話（ビデオ通話含む）」17.3%、「SNS等」4.9%となっている（障害者問13、障害児保護者問25）。

%		ア 直接会って話す	イ 電話 (ビデオ通話含む)	ウ SNSや電子メールなど
障害者調査	身体障害（64歳以下）	11.3	21.0	19.7
	身体障害（65歳以上）	11.1	15.8	28.4
	知的障害	17.9	43.8	44.2
	精神障害	19.9	28.6	21.2
	難病	6.9	9.5	12.1
障害児保護者調査		8.6	17.3	4.9

- 「ひきこもり」に該当する可能性のある群は、広義のひきこもりに該当する可能性のある群が障害者本人 4.90%，市内居住の家族（同居・別居問わず）7.88%，狭義のひきこもりに該当する可能性のある群が障害者本人 3.05%，市内居住の家族（同居・別居問わず）2.77%となっている。なお、国の令和4年度調査では家族の状況は把握していない（障害者問 24，問 25）。

障害者調査 (回答者本人)	区分	広義のひきこもり	狭義のひきこもり
	該当者数	69 人	43 人
	有効回答数に占める割合	4.90%	3.05%
(市内居住家族)	該当者数	111 人	39 人
	有効回答数に占める割合	7.88%	2.77%

障害者及び障害児保護者調査では、市民調査や高齢者調査と比べて孤独感や社会的孤立の該当率が高く、特に精神障害のある人や障害児保護者で顕著であること、知的障害では社会的交流が限定的なことを踏まえた対応が必要である。今後に向けては、障害特性や家族状況に応じて、本人の負担にならない形でつながりを保ちながら、福祉・医療・教育・地域が連携した重層的支援体制のもと、孤立やひきこもりの長期化を防ぐ取組を継続的に進めていく必要がある。

第3章 住民懇談会から見えた課題

(1) 「つながり」を広げることで地域における支え合いの基盤の整備を推進する必要がある

- 「つながりがあってよかったこと」については、自治会活動や地域イベント、子ども食堂、高齢者会食、サロン、ボランティア、趣味活動などの「集まれる場」が人と人を結びつけ、顔の見える関係を広げているとの意見が多く挙げられた。
- あいさつや見守り、日常の声かけを通じて信頼関係が育まれ、防犯や災害時の助け合い、困りごとの早期相談につながっている状況も確認された。
- 「話してみることで『自分だけじゃなかった』と思えた」「元気をもらえた」など、同じ悩みや立場を共有できることが心の支えとなり、生きがいや前向きな気持ちを生み出しているとの意見も多く示された。
- さらに、民生委員や社会福祉協議会、関係機関との連携により、孤立を防ぎ、必要な支援につながる環境が形成されている点も成果として挙げられた。

「つながり」は単なる交流にとどまらず、安心感や支え合いの力を生み出し、地域における支え合いの基盤である。人と人が出会い、関係を築ける「場」や機会の充実により、地域における顔の見える関係づくりや、関係機関との連携が推進されるよう環境の整備に取り組んでいく必要がある。

(2) 地域と連携して「つながり」がない状況を生まない取組が必要である

- 「地域とつながりがない状況」については、人との関係が切れていることに加え、病気や障害を知られたくない思い、介護や仕事による余裕のなさ、つながりを必要としない価値観など、体験や見聞に基づく多様な事例が挙げられた。
- プライバシー意識の高まりや人付き合いへの負担感、忙しさや心身の不調により、交流が減少し、住民同士の顔が見えづらくなっている状況が広がっている。
- その結果、相談先がわからず支援や情報が届かないまま困窮や悩みが深刻化するケースや、災害時の助け合いについて不安も強まりつつある。また、地域活動の担い手不足や後継者不足により、祭りやサークル、子ども会などの活動が減少し、出会いの機会そのものが減少しているとの懸念も示された。
- さらに、コロナ禍をきっかけとした会話の減少などが、あいさつや声かけを控える風潮を生み、孤立を一層加速させているとの指摘もあった。

「つながり」の希薄化により、孤独・孤立が進展し、支援につながりにくい状況が生じている。「つながり」の喪失は、地域の活力低下や生活環境の悪化にも影響を及ぼすため、地域住民と連携して孤立を未然に防ぐ地域づくりを進めていく必要がある。

(3) 多様な手段により「つながり」が継続するような取組が必要である

- 「地域とつながりがいない状況」をなくすための取組として、まず相談先や支援内容をわかりやすく「見える化」し、市報、回覧板、掲示板、ポスティング、SNSなど多様な手段を活用して、必要な人に確実に届く情報発信を工夫することが重視されている。
- あいさつや声かけ、見回り、口コミといった日常の小さな接点を積み重ね、SOSを出してよい地域の雰囲気育てることが提案された。
- 食事会、体操、防災訓練、祭り、清掃活動、スポーツ、eスポーツ、散歩会など、楽しさや意義を感じられる活動や居場所を充実させ、多世代が自然に交流できる環境づくりを進めることが提案されている。また、空き家や公共施設など地域資源を活用していく提案もあった。
- 学校、PTA、福祉、医療、民生委員、地域包括支援センター、社会福祉協議会、地域福祉コーディネーター等の連携を強化し、ヤングケアラーやひきこもり、生活困窮などにより支援が必要な人を早期に把握し、適切につなぐ体制づくりが求められている。

「つながり」を再構築するためには、「つながり」を「特別なもの」ではなく「日常の中にあるもの」として位置付け、つながりを広げるための意識醸成や活動、機会などが必要である。あわせて、情報発信、居場所づくりなどにより支援の取組を一体的・横断的に行う、社会への参加を支える仕組みづくりが必要となる。

V 資料編 調査票及び単純集計結果

1 市民（18 歳以上）

調布市民福祉ニーズ調査【市民(18 歳以上)】

誰もが暮らしやすいまちづくりのための 福祉に関するアンケート

～ご協力をお願いします～

市民の皆さまには、日頃から調布市の福祉行政の推進にご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

市は、「地域福祉計画」「高齢者総合計画」「障害者総合計画」の福祉3計画を連携させて、子どもから高齢者まで、誰もが安心して暮らしやすいまちづくりを進めています。

このアンケートは、暮らしやすいまちづくりを確実に進めることに市民の皆さまの意見をいやすため、18 歳以上の中から 2,000 人を無作為抽出したところ、あなたにアンケートをお願いすることになりました。

このアンケートは無記名です。回答は統計的に処理いたしますので、個人が特定されることはありません。また、回答を調査目的以外に使用することはありません。

お忙しいところ誠に恐縮に存じますが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力をお願い申し上げます。

令和 7 年 10 月 調布市長 長友 貴樹

皆さまの回答は、誰もが暮らしやすい、支え合うまちづくりに役立てます。

調布市の福祉は市民が主役です。例えば、地域の活動に参加したり、誰かが困っている時に声をかけたりすることも、支え合うまちづくりのひとつです。



市民の皆さまをはじめ、地域の団体や商店、学校や企業などの皆さまが一緒になって、みんなで支え合うことがとても大切になります。



回答者は、封筒のあて名ご本人です。
ただし、ご本人が回答することが難しい場合、ご家族や代理の人がご本人の意見を聞いて記入しても差し支えありません。

ぱらぱらちようふ
つなげよう、ひろげよう、共に進めるまち

調布市民福祉ニーズ調査【市民(18 歳以上)】

～記入についてのお願い～

【回答期限】 令和7年11月4日(火) 【回答所要時間】 30分(目安)

【回答方法】 郵送 または インターネット

※あなたが回答しやすいどちらかの方法で、投函もしくは送信してください。

《郵送》 調査票による回答の方法

①回答は、あてはまる番号を○で囲んでください。「その他」を選択する場合は番号を○で囲み、() に具体的な内容を記入してください。

②質問によっては、回答数や回答者が限られる場合があります。

③回答終了後、同封の返信用封筒に入れて封かんし、回答期限までにポストに投函してください。

《インターネット》 回答の方法

①以下のURL、または二次元コードから専用ウェブサイトにアクセスしてください。

②調査票と同じ質問が画面に表示されます。

③回答の途中で保存することができます。

<専用ウェブサイトURL>

<https://smilesurvey.co/s/5508e80/o>



【調査についてのお問い合わせ先】

調布市 福祉健康部 福祉総務課

電話 042-481-7101(直通)

Fax 042-481-7058

E-mail fukusou@city.chofu.lg.jp



1 あなた(ご本人)についておたずねします

問1 性別を教えてください。(1つに○)

1 男性	39.6%	2 女性	58.7%	3 その他	0.4%	無回答	1.3%
------	-------	------	-------	-------	------	-----	------

問2 年齢を教えてください。(1つに○) (令和7年10月1日現在)

1 10歳代	1.3%	3 30歳代	12.9%	5 50歳代	18.2%	7 70歳代	14.5%
2 20歳代	8.5%	4 40歳代	15.9%	6 60歳代	15.5%	8 80歳以上	12.2%
							無回答
							1.0%

問3 お住まいの地域を教えてください。(1つに○)

番号に○	(参考)地域に属する地区(○は不要)		
1	東つじヶ丘1丁目, 2丁目	緑ヶ丘	仙川町
13.7%	西つじヶ丘1丁目, 2丁目, 3丁目	若葉町1丁目	
2	東つじヶ丘3丁目	菊野台	入間町
13.0%	西つじヶ丘4丁目	若葉町2丁目, 3丁目	
3	佐須町1丁目, 2丁目, 4丁目, 5丁目	調布ヶ丘3丁目	柴崎
8.9%	深大寺南町1丁目, 2丁目, 3丁目	深大寺東町3丁目, 4丁目	
4	深大寺東町1丁目, 2丁目, 5丁目, 6丁目, 7丁目, 8丁目	深大寺北町	
7.8%	深大寺元町2丁目, 3丁目, 4丁目, 5丁目	深大寺南町4丁目, 5丁目	
5	国領町1丁目, 2丁目, 3丁目, 4丁目, 5丁目, 8丁目	佐須町3丁目	
14.1%	布田2丁目, 3丁目	調布ヶ丘2丁目	八雲台
6	国領町6丁目, 7丁目	布田5丁目, 6丁目	
12.1%	多摩川6丁目, 7丁目	染地	
7	多摩川1丁目, 2丁目, 3丁目, 4丁目, 5丁目	調布ヶ丘1丁目, 4丁目	
15.4%	布田1丁目, 4丁目	深大寺元町1丁目	下石原1丁目 小島町
8	上石原	富士見町	西町
14.1%	下石原2丁目, 3丁目	飛田給	野水
無回答	1.0%		

問4 市内での居住年数(市外への転居期間を除く通算年数)を教えてください。(1つに○)

1 1年未満	3.4%	4 5年以上10年	11.9%	7 30年以上	32.1%
2 1年以上3年未満	6.2%	5 10年以上20年未満	21.1%	無回答	1.6%
3 3年以上5年未満	6.3%	6 20年以上30年未満	17.4%		

問5 住居形態を教えてください。(1つに○)

1 持ち家(一戸建て)	40.8%	5 公営住宅(市営・都営住宅等)	4.5%
2 持ち家(集合住宅)	23.7%	6 社宅・公務員住宅等	1.1%
3 民間賃貸(一戸建て)	1.2%	7 上記以外	1.6%
4 民間賃貸(集合住宅)	25.0%	無回答	2.1%

問6 同居している家族構成を教えてください。(1つに○)

1 ひとり暮らし	18.0%	5 ひより親と子ども(一番下の子どもが18歳以上)	5.6%
2 夫婦のみ	25.1%	6 ひより親と子ども(一番下の子どもが18歳未満)	1.2%
3 夫婦と親(二世帯同居)	1.7%	7 三世帯同居	3.4%
4 夫婦と子ども(二世帯同居)	35.3%	8 上記以外	7.8%
			無回答
			1.9%

問7 現在の職業を教えてください。(1つに○)

1 正職の社員・職員・役員	36.7%	5 学生	2.8%
2 非正職の社員・職員(嘱託・パート・アルバイト・契約・派遣)	19.7%	6 無職	18.8%
3 自由業・自営業(家業手伝いを含む)	5.5%	7 上記以外	1.7%
4 専業主婦・主夫	12.7%	無回答	2.1%

2 日頃のコミュニケーションについておたずねします

問8 ご近所付き合いは、どの程度していますか。(主なもの1つに○)

1 家を行き来するなど、親しくしている	5.7%	3 あいさつをする程度	55.3%
2 立ち話をする程度	22.5%	4 ご近所付き合いをしていない	14.2%
			無回答
			2.3%

問9 どのような時にご近所付き合いの必要性を感じますか。(それぞれ1つに○)

	とても感じる	感じる	あまり感じない	わからない	無回答
ア 緊急時や災害時の助け合いが必要なとき	34.5%	44.5%	10.1%	3.4%	2.8%
イ 日常生活でちょっとした困りごとがあるとき	7.3%	31.6%	37.6%	16.7%	3.5%
ウ 子どもたちの見守り・安全確保	15.4%	43.0%	17.5%	10.1%	5.3%
エ 高齢者やひとり暮らしの高齢者の支援・見守り	18.3%	44.9%	17.6%	7.8%	3.9%
オ 話し相手や相談相手が必要なとき	7.0%	28.2%	34.4%	22.4%	3.1%

問10 次の項目についてあなたはどれくらいの頻度で感じていますか。(それぞれ1つに○)

	ない	ほとんどない	時々ある	常にある	無回答
ア 自分には人とのつきあいが無いと感じることがある	28.6%	27.9%	32.7%	8.4%	2.4%
イ 自分は取り残されていると感じることがある	42.4%	38.0%	14.6%	1.8%	3.1%
ウ 自分は他の人たちから孤立していると感じることがある	44.3%	37.3%	13.6%	1.6%	3.1%
エ 自分は孤独であると感じることがある	45.5%	34.0%	14.9%	2.7%	2.9%

問11 家族や友人たちとのコミュニケーション頻度についてお答えください。

あなたはどのくらい家族や友人たちとのコミュニケーション頻度について、お答えください。
(それぞれ1つに○)

同居していない相手のコミュニケーション方法	週4～5回以上	週2～3回程度	週1回程度	2週間以上1回程度	月1回程度	月1回未満	全くない/できない	無回答
ア 直接会って話す(電話等を含む)	16.6%	13.9%	12.7%	10.8%	17.2%	18.3%	6.6%	4.0%
イ 電話(ビデオ通話含む)	7.8%	11.0%	12.3%	10.9%	17.9%	20.7%	14.7%	4.7%
ウ SNSや電子メールなど	27.8%	14.8%	12.7%	9.7%	9.7%	8.2%	11.4%	5.6%

※ SNS (ソーシャル・ネットワーキング・サービス) とは、X(旧 Twitter)、LINE、Facebook 等の登録された利用者同士が交流できる、コンピュータやスマートフォンなどを使用したインターネット上のサービス。



3 市民同士の支え合い、地域活動についておたずねします

問12 あなたは次の事柄について、家族以外のまわりの人から手助けをしてほしいと思いますか。また、まわりの人に手助けできること(していいこと)はありますか。①手助けしてほしいか、②手助けできるかについて、それぞれ1つに○を付けてください。

	①手助けしてほしいか			②手助けできるか		
	とてもいい	してほしくない	無回答	できる・しなくてもいい	できない・しない	無回答
ア 安否確認の声かけ	53.2%	38.7%	8.0%	73.3%	18.4%	8.3%
イ ちょっとした買い物やごみ出し	13.2%	78.4%	8.4%	49.4%	42.9%	7.8%
ウ 食事や掃除・洗濯の手伝い	9.2%	82.5%	8.3%	25.6%	66.1%	8.2%
エ 通院の送迎や外出の手助け	15.2%	76.5%	8.3%	27.2%	64.2%	8.7%
オ 子どもの預かり	13.4%	73.7%	12.9%	23.6%	68.3%	8.1%
カ 話し相手や相談相手	23.2%	67.5%	9.3%	47.7%	44.3%	8.0%
キ 災害時避難の手助け	69.7%	22.3%	8.0%	72.6%	19.4%	8.0%
ク 具合がよくない際、病院などに連絡する	47.9%	43.8%	8.2%	66.5%	26.1%	7.5%

問13 家族以外のまわりの人に、問12 A～クのような手伝いや手助けをする(してもらう)にあたり、どのような取組があるとよいと思いますか。(いくつでも○)

1 手助けしてほしい人と手助けできる人をコーディネート(紹介)する仕組み	48.3%
2 手助けしてほしい人や事例を知ることのできる仕組み	44.5%
3 手助けできる人の人柄やスキルを知ることのできる仕組み	33.8%
4 その他	2.1%
5 取組は必要ない(できる時はする)	13.0%
6 わからない	14.5%
無回答	5.4%

問14 あなたは地域での活動に参加したり、地域のために日頃から心掛けていることはありませんか。
①現在の状況、②今後の意向をお答えください。(それぞれ1つに○)

	①現在の状況			②今後の意向					
	取り組んでいる活動を含む	取り組んでいない	無回答	取り組みたい	興味がある	取り組みまない、興味が無い	わからない	無回答	
ア	子育て世帯・青少年を支える行動や活動、子ども会やPTAの活動	8.7%	85.2%	5.2%	6.2%	22.5%	29.3%	35.2%	8.8%
イ	高齢者を支える行動や活動	10.3%	83.2%	5.5%	8.5%	53.9%	10.5%	18.5%	8.5%
ウ	障害のある人を支える行動や活動	8.0%	85.2%	5.8%	8.2%	29.4%	20.1%	35.7%	8.5%
エ	お祭りや運動会などのレクリエーション活動、地域の伝統や文化を伝える活動	11.3%	82.5%	5.3%	10.5%	50.9%	15.4%	14.4%	8.4%
オ	交通安全や犯罪防止など、地域の安全を守る活動	9.8%	84.1%	6.1%	10.1%	28.0%	23.8%	25.3%	8.8%
カ	防災訓練や災害時に救援・支援をする活動	10.9%	82.7%	5.4%	10.4%	58.1%	9.2%	13.9%	8.4%
キ	道徳等のごみ拾い、自宅周辺の清掃、環境美化、環境保全・自然保護などの活動	17.4%	76.7%	5.8%	9.5%	23.5%	31.5%	27.3%	8.2%
ク	自治会・地区協議会・老人クラブなどの活動	12.1%	81.7%	5.2%	18.5%	39.7%	17.3%	16.0%	8.0%
ケ	趣味・習いごと・健康づくり(運動・スポーツ)などの活動	31.4%	62.9%	5.7%	25.3%	30.1%	17.1%	19.2%	8.3%

問15 どのような条件であれば、地域活動・ボランティア活動に参加・活動しやすいですか。
(いくつでも○)

1	子どもの世話や介護で忙しくて	8.4%	7	参加することでメリットがある(報酬など)	18.7%
2	活動や団体に所属する情報を紹介してくれる	22.9%	8	活動資金の補助や補助がある	13.2%
3	友人・知人と一緒に参加できる	25.1%	9	その他	3.5%
4	時間や期間にあまりしられない	56.7%	10	わからない	11.3%
5	身近なところに活動できる場所がある	43.5%	11	条件によらず、参加したくない	8.1%
6	世話人やリーダーがいる	15.8%		無回答	5.3%

4 暮らしのことについておたずねします

問16 これまでに経済的に困った経験がありますか。(1つに○)

1	現在困っている	10.4%	3	困ったことはない	65.4%
2	現在は困っていないが、困ったことがある	18.8%		無回答	5.4%

付問 問16で「1～2(困っている、困ったことがある)」と答えた人におたずねします。困っている(困った)原因は何ですか。(いくつでも○)

1	仕事をしない・できない	20.0%
2	収入が少ない(年金含む)	57.4%
3	頼れる家族や友人がいない	10.7%
4	病気があり・家族の介護	20.0%
5	障害がある	5.9%
6	支出が多い(収入はあるが、使いすぎしてしまう)	20.0%
7	ギャンブルやアルコールへの出費	2.2%
8	食料品や生活必需品などの物価の高騰	46.7%
9	その他	10.7%
	無回答	1.1%

問17 あなたは普段、どのくらい外出しますか。現在のことにしてお答えください。(1つに○)

1	仕事や学校等で週に5日以上外出する	46.6%
2	仕事や学校等で週に3～4日外出する	13.4%
3	遊びや趣味の活動等で頻繁に外出する	10.8%
4	人づきあいのためにときどき外出する	7.3%
5	普段は家にいるが、自分の趣味に関する用事のときだけ外出する	7.9%
6	普段は家にいるが、近所のコンビニなどには出かける	7.5%
7	自宅からは出るが、家からは出ない	0.9%
8	自宅からはほとんど出ない	0.4%
	無回答	5.2%

付問1 問17で「5～8」のいずれかに答えた方にうかがいます。

あなたの外出状況が現在の状態となって、どのくらい経ちますか。(1つに○)

1	3か月未満	11.0%	3	6か月～1年未満	7.8%
2	3か月～6か月未満	8.4%	4	1年～5年未満	37.7%
			5	5年～10年未満	13.6%
			6	10年以上	17.5%
				無回答	3.9%

付問2 付問1で「3～6」のいずれかに答えた方にうかがいます。

あなただけの外出状況が現在の状態になった主な理由は何ですか。(いくつでも○)

1 病気	22.0%	7 就職活動がうまくいかなかったこと	3.4%
2 介護・看護を担うことになったこと	5.9%	8 人間関係がうまくいかなかったこと	3.4%
3 (就労中) 自宅で仕事をしている	12.7%	9 退職したこと	27.1%
4 学校になじめなかったこと	0.0%	10 その他	13.6%
5 職場になじめなかったこと	1.7%	11 特に理由はない	20.3%
6 受験に失敗したこと(高校・大学等)	0.8%	12 わからない	0.0%
無回答			5.9%

問18 あなただけ以外で、市内にお住まいのご家族(同居・別居問わず)に下記の外出状況が当てはまる人はいますか。(1つに○)

1 普段は家にいるが、自分の趣味に関する用事のときだけ外出する	11.1%
2 普段は家にいるが、近所のコンビニなどには出かける	6.5%
3 自宅からは出るが、家からは出ない	1.3%
4 自宅からはほとんど出ない	0.5%
5 いずれもない	58.4%
6 外出状況がわからない	7.3%
無回答	14.8%

付問1 問18で「1～4」のいずれかに答えた方にうかがいます。

ご家族の外出状況が現在の状態となった、どのくらい続きますか。(1つに○)

1 3か月未満	12.2%	3 6か月～1年未満	8.3%
2 3か月～6か月未満	3.3%	4 1年～5年未満	31.1%
		5 5年～10年未満	10.0%
		6 10年以上	29.4%
無回答			5.6%

付問2 付問1で「3～6」のいずれかに答えた方にうかがいます。

ご家族の外出状況が現在の状態になった主な理由は何ですか。(いくつでも○)

1 病気	21.1%	6 受験に失敗したこと(高校・大学等)	0.0%
2 介護・看護を担うことになった	7.0%	7 就職活動がうまくいかなかったこと	3.5%
3 (就労中) 自宅で仕事をしている	5.6%	8 人間関係がうまくいかなかったこと	0.7%
4 学校になじめなかったこと	0.7%	9 退職したこと	23.2%
5 職場になじめなかったこと	1.4%	10 その他	16.2%
		11 特に理由はない	19.7%
		12 わからない	6.3%
無回答			8.5%

問19 あなただけの地域で次のような世帯を見たり、聞いたことがありますか。(いくつでも○)

1 大量のごみが自宅や周辺に放置されている世帯(ごみ屋敷)	7.5%
2 高齢者のみで構成され、主に世帯員同士が介護している世帯(老老介護)	11.5%
3 近隣や地域と関わりをもたない世帯(孤立世帯)	7.7%
4 自宅にひきこもっている人がいると思われる世帯(ひきこもり ^{※1})	5.4%
5 高齢の親がひきこもり状態にある中高年の子どもの生活を支えている世帯(8050問題)	2.5%
6 子育てと親の介護をむりやり同時に行っている世帯(ダブルケア)	1.0%
7 未成年の子どもが家族の介護などによって、自分の時間をとれない世帯(ヤングケアラー ^{※2})	0.5%
8 家族の間で虐待が疑われる世帯(虐待)	1.9%
9 上記以外で、深刻な課題を抱えていると思われる世帯	1.3%
10 見たり、聞いたことはいい	68.7%
無回答	6.3%

※1 ひきこもりとは、様々な要因の結果として社会的参加(就学、就労、家庭外での交流など)を回避し、原則的には6ヶ月以上にわたって概ね家庭にとどまり続けている状態(地帯と交わらない形での外出をしないでよい)

※2 ヤングケアラーとは、本来、大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを子どもが日常的に行っていることにより、子ども自身がやりたいことをできないなど、子ども自身の権利が守られていないと思われる子どものこと。

問20 日常生活での困りごとを相談できる人や機関はありますか。(いくつでも○)

1 同居の家族	62.4%	11 調布ライフサポート ^{※2} (社会福祉協議会)	0.6%
2 別居の家族や親戚	56.3%	12 子ども・若者総合支援事業こあ	
3 自治会や近所の人	6.3%	(社会福祉協議会)	0.2%
4 友人・知人	56.2%	13 こころの健康支援センター	
5 仕事・学校関係者		(社会福祉協議会)	0.9%
6 民生委員・児童委員	23.1%	14 社会福祉協議会(その他の相談窓口)	1.3%
7 ケアマネジャー(介護支援専門員)	1.4%	15 地域包括支援センター	3.9%
ヘルパー(介護員)などの事業者	6.2%	16 ちようふ若者サポートステーション ^{※3}	0.3%
8 かかりつけ医や保健師などの医療関係者	13.1%	17 子ども家庭支援センターすこやか	1.6%
9 市役所	6.1%	18 その他	1.4%
10 地域福祉コーディネーター ^{※4}		19 身近に相談できる人や機関はない	5.0%
(社会福祉協議会)	1.4%	無回答	2.7%

※1 地域福祉コーディネーター(コミュニティソーシャルワーカー=CSW)は、生活上の悩みや困りごとを抱える人に対し、さまざまな機関・団体と連携しながら課題の解決を図るとともに、住民主体の活動の促進や地域でのネットワーク構築といった取組を進める役割を担う。

※2 調布ライフサポートは、経済的な理由などで困っている人に対するトータルな相談窓口。

※3 ちようふ若者サポートステーションは、15～49歳対象の職業的自立のための総合相談窓口。

コラム ■ 調布市におけるひきこもりの相談窓口について

調布市には、ひきこもりで悩んでいるときに気軽に相談できる窓口があります。
窓口ではご家族からの相談にも応じています。

- 子ども・若者総合支援事業「こあ」(主に中学生以上の子ども・若者)
子ども・若者とご家族を対象として、学校・仕事・家庭生活に関することなど、様々な
困りごとの相談をお受けしています。電話やメール、面談などによる相談が可能です。
- 調布市こころの健康支援センター (主に高校生世代以上の方)
日常生活の困りごと、対人関係の悩み、作業所や就職、福祉サービスの利用、ひきこもり
などについてご相談をお受けします。
相談は予約制です。お電話にてご予約いただいた後、面接日を設定します。



ひきこもりに関する相談窓口の詳細はこちら ⇒

問21 現在、あなた自身やご家族は、どこに相談すればいいかわからない生活上の困りごとを抱えていますか。(1つに○)

1 はい	7.3%	→付問へ	2 いいえ	88.4%	無回答	4.3%
------	------	------	-------	-------	-----	------

付問 問21で「はい」と答えた方におたずねします。

差し支えなければ、お困りの内容をお聞かせください。(いくつでも○)

1 自分・配偶者の健康・病気	22.4%	7 住まい	19.4%
2 自分・配偶者の学業・仕事	9.0%	8 お金(財産管理・相続含む)	40.3%
3 親の健康・病気・介護	23.9%	9 人間関係、人との付き合い方	20.9%
4 兄弟姉妹の健康・病気・介護	9.0%	10 その他	14.9%
5 子ども、孫の学業・仕事	10.4%	無回答	1.5%
6 子ども・孫の健康・病気	7.5%		

問22 あなたは、身近な地域の中で不安や課題と感じていることはありますか。(いくつでも○)

1 子育て、子どもの教育のこと	13.7%	8 ご近所付き合い、友だち付き合いのこと	5.6%
2 健康のこと	24.9%	9 防犯、地域の安全のこと	21.5%
3 介護のこと	16.8%	10 災害時のこと	31.9%
4 老後の生活のこと	33.8%	11 気軽に相談できる人(相談)が少ないこと	6.5%
5 住まいや住宅のこと	18.2%	12 その他	2.6%
6 仕事のこと	14.2%	13 特になし	25.0%
7 経済的なこと	17.0%	無回答	5.6%

5市民の権利を守る取組についておたずねします

問23 市や社会福祉協議会等で行っている下記の制度や事業をご存知ですか。(それぞれ1つに○)

	知っている	(内、聞いたことはある)	知らない	無回答	説明
ア 成年後見制度	39.3%	31.9%	25.9%	2.9%	認知症・知的障害・精神障害・発達障害などによって物事を判断する能力が十分でない人について、本人の権利を守る後見者(成年後見人など)を選ぶことで、本人を法的的に支援する制度。
イ 法定後見制度	25.9%	29.9%	40.7%	3.6%	本人の判断能力が不十分になった後、家庭裁判所によって成年後見人などが選ばれる制度。本人の判断能力の状態などに応じて「後見」「後見」(後見)補助の3つの制度がある。
ウ 任意後見制度	19.4%	25.5%	51.2%	3.9%	本人に十分な判断能力があるうちに、将来、判断能力が低下した場合には、あらかじめ本人自らが選んだ人(任意後見人)に代わり、任意にしたいことを契約(任意後見契約)で法で定める。
エ 市民後見人	6.3%	16.1%	73.4%	4.2%	社会貢献的な精神に基づき、成年後見人などとしての必要な知識と技量を身に付け、家庭裁判所が選任した一般市民の成年後見人などのこと。
オ 専門職紹介制度	4.0%				親族でもなく、弁護士などの専門職でもない、第三者の立場で、判断能力が十分でない人の金銭管理や福祉サービス利用契約などを本人に代わって行い、本人の暮らしを支援する。
カ 地域福祉権利擁護事業	5.3%	11.9%	79.2%	3.6%	高齢者や障害のある方に対して、福祉サービス利用の援助、郵便物の確認や書類手続き、預貯金の入出金や支払い手続き等を支援する。
キ あんしん未来支援事業	1.8%	8.0%	86.0%	4.1%	急な入院時等に頼れる親族がいなくても、安心して地域で暮らし続けることができるよう、事前に支援内容を契約し、必要な時に金銭の管理や保証機能を行うサービス。



問24 あなたやご家族のどんなかかり認知症などによって判断が十分にできなくなってしまう場合、あるいは既にできない場合、前問(問23)のいずれかの制度や事業を利用したいと思いますか。

(1つに○)

1 既に利用している	1.8%	2 利用を検討する	61.4%	3 利用しない	5.8%	4 わからない	26.1%
無回答	4.9%						

付問 問24で「3利用しない」「4わからない」と答えた方におたずねします。

制度を利用しない、または、わからないと答えた主な理由は何か。(いくつでも○)

1 制度の内容や利用方法がわからない	53.6%
2 事務手続きが難しい	14.9%
3 後見人などの第三者に財産管理や契約手続きを任せるのは不安	21.7%
4 経済的な理由や身寄りがないために、申立てが難しい	4.7%
5 家族などに支援してもらいたい	36.9%
6 その他	7.8%
無回答	5.1%

6誰もが暮らしやすいまちづくりについておたずねします

問25 災害時についての不安や心配ごとはありますか。(いくつでも○)

1 老朽化など、お住まい(家屋)のこと	25.5%	5 ご自身の歩行に不安があること	8.4%
2 家具や家電の転倒対策が不十分なこと	21.4%	6 同居のご家族の歩行に不安があること	9.0%
3 食糧や日用品の備蓄が不十分なこと	47.4%	7 その他	7.1%
4 避難所がはつきりわからないこと	20.0%	8 特に不安や心配ごとはない	19.8%
		無回答	3.8%



コラム■地域共生社会の充実に向けて

地域共生社会とは、あらゆる地域住民が排除されず地域社会に参画し、お互いの人格と個性を尊重し合いながら、支え手側と受け手側に分けられるのではなく、皆が役割を持ち、支え合いながら自分らしく活躍できる地域社会です。

市は、地域共生社会の充実に向けて様々な取組を行っています。

『調布市地域福祉計画』についてはこちら⇒



『調布市高齢者総合計画』についてはこちら⇒



『調布市障害者総合計画』についてはこちら⇒

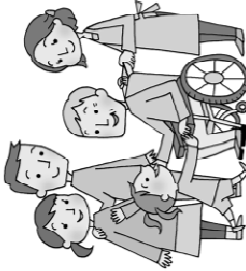


問26 地域のつながりに対する考え方について、あなたはどのように思いますか。(それぞれ1つに○)

	とてもそう思う	そう思う	あまり思わない	そうは思わない	無回答
ア ひきこもりやニート ^{※1} の問題は、本人や家族だけでなく、地域のつながりが重要となる	13.0%	46.8%	28.7%	9.1%	2.5%
イ 認知症や老老介護の問題は、本人や家族だけでなく、地域のつながりが重要となる	22.7%	60.1%	12.4%	3.0%	1.7%
ウ 障害や病気があって自分らしく暮らすためには、地域のつながりが重要となる	21.5%	60.0%	13.2%	3.0%	2.3%
エ ひとり親家庭の自立を支援するためには、本人や家族だけでなく、地域のつながりが重要となる	23.3%	58.9%	12.4%	3.0%	2.4%
オ 家庭内の虐待を防ぐことは、本人や家族だけでなく、地域のつながりが重要となる	26.9%	56.1%	10.7%	3.2%	3.0%
カ DV ^{※2} 被害を防ぐことは、本人や家族だけでなく、地域のつながりが重要となる	22.5%	54.8%	15.0%	4.5%	3.1%
キ 生活保護を受けている人に対する差別や雇用の問題は、社会全体の問題である	22.1%	50.6%	18.9%	5.5%	2.8%

※1 ニートとは、若者のうち、学校や仕事に行かず、求職活動や職業訓練などをしていない人。

※2DV(ドメスティック・バイオレンス)とは、配偶者や恋人など親密な関係にある(またはあった)者から振られる暴力。身体的な暴力だけでなく、精神的・経済的・性的な暴力など、あらゆる暴力を含む。



問27 市内のバリアフリー・ユニバーサルデザイン※について、どのように感じていますか。
(それぞれ1つに○)

	とても素晴らしい	充実している	あまり充実していない	充実していない	わからない	無回答
ア 車いすの人を含め誰もが安全に通れる建物の出入りや通路(段差をなくす、幅を広げるなど)	1.6%	24.9%	39.1%	10.4%	21.4%	2.6%
イ 公共施設や病院などのスロープ、エレベーターやエスカレーター	3.2%	45.7%	24.5%	6.4%	17.4%	2.8%
ウ 車いすの人や乳幼児を運べた人など、誰もが使いやすい、トイレ	2.4%	32.6%	32.7%	7.3%	22.3%	2.8%
エ 歩きやすいように障害物(商品や看板、放置自転車、電柱など)を取り除かれ、段差や凹凸が少なく、十分に幅のある歩道や道路	1.4%	16.5%	41.9%	22.4%	15.2%	2.7%
オ 点字ブロッカーや視覚障害者用の信号機	2.3%	30.0%	26.8%	7.8%	29.7%	3.5%
カ スイッチやベビーカーで乗降しやすいノンステップバスやリフト付バス、ユニバーサルデザインタクシー	2.5%	24.2%	26.7%	10.0%	33.4%	3.1%
キ 障害者の駐車場	2.1%	24.1%	22.8%	7.5%	40.5%	3.0%
ク 大きな文字・絵・複数の言語を用いた、誰もがわかりやすい案内標示	1.4%	17.4%	31.6%	10.8%	35.4%	3.4%
ケ 手話の対応や音声ガイドがある施設	0.9%	7.0%	26.0%	12.2%	50.6%	3.2%
コ 補助犬と同伴での入室が配慮された古・レストランなど	0.6%	5.7%	22.9%	14.6%	52.5%	3.6%
サ 公園、道路などを含む、まち全体のユニバーサルデザイン	1.5%	18.6%	29.5%	11.6%	35.7%	3.0%
シ 高齢者、子ども連れの家族、障害や病気などがある人に対する人々の接し方や配慮	1.4%	15.3%	29.2%	10.8%	40.6%	2.7%

※ユニバーサルデザインとは、障害の有無・年齢・性別・人種などに問わず、多様な人が利用しやすいよう、事前に環境などをデザインすること。

問28 誰もが暮らしやすいまちづくりに向けて、病気・障害・国籍・国籍・生活習慣などの違いによる心理的な障壁を取り除く(心のバリアフリー)ために、特に必要と取組は有だと思いますか。(2つまで○)

1 学校において、お互いを理解し、思いやる心を醸成するための教育	50.0%
2 意識啓発のための研修・講演会の開催	8.2%
3 多様な背景をもつ人々が交流する機会の増加	30.5%
4 わかりやすい、使いやすい情報の提供	56.5%
5 その他	2.9%
6 わからない	10.0%
無回答	2.9%

問29 共生社会の実現のための法律や考え方、調布市が令和6年度に制定した2つの条例を知っていますか。(それぞれ1つに○)

	内容を知っている	(内容を知らない) 聞いたり見たりはしている	知らない	無回答	説明
ア 障害者差別解消法	8.1%	18.8%	70.1%	2.9%	障害を理由とする差別の解消を推進することを目的とする法律
イ 合理的配慮	9.3%	18.2%	69.5%	3.0%	役所や事業者に対し、障害者から社会の中にあるバリア(生活がしづらい点)を取り除くために何らかの対応を必要としているとの意思が伝えられた時に、負担が重すぎない範囲で対応すること
ウ パラハートちようふ	5.6%	26.8%	64.5%	3.0%	「様々な障害に対する理解を深め、一人ひとりが寄り添う心を持ち、手を取って合せて暮らせる社会に」という想いを込めて作成した調布市のキャッチフレーズ
エ 調布市手話言語条例	1.5%	7.7%	87.7%	3.1%	独自の言語である手話に対する理解促進と普及を推進するための条例
オ 調布市障害者の多様な意思疎通に関する条例	0.9%	7.6%	88.3%	3.2%	障害者の特性に応じた多様な意思疎通(コミュニケーション)のための手段、配慮、支援等に対する理解促進と普及を推進するための条例

「調布市手話言語条例」

「調布市障害者の多様な意思疎通に関する条例」についてはこちら⇒



「パラハートちようふ」についてはこちら⇒



i

コラム

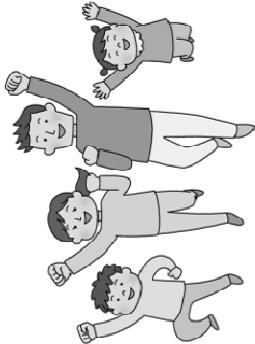
■東京2025デフリンピックが調布にやってくる！

デフリンピックとは、デフ+オリンピックのこと。デフ(Deaf)とは、英語で「耳が聞こえない」という意味です。

デフリンピックは国際的な「聞こえない人のためのオリンピック」で、11月15日から26日まで、日本で初めて開催されます。調布市では京王アリーナ TOKYO でバドミントン競技が実施されます。予約不要、入場無料で観戦できます。



▶デフリンピックについて詳しくはこちら



問30 犯罪や非行の防止、犯罪や非行をした人たちの更生(立ち直り)に協力する下記の民間協力者や活動などを知っていますか。(それぞれ1つに○)

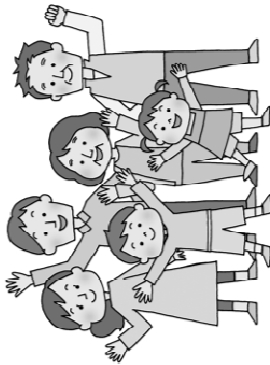
	内容を知っている	聞いたことはある(内容は知らない)	知らない	無回答	説明
ア 保護官	29.2%	35.0%	31.0%	4.9%	犯罪や非行をした人の立ち直りを地域で支える民間ボランティア。保護観察対象者となった人へ保護観察を行う、法務省から委嘱。
イ 更生保護女性会	3.1%	12.0%	79.3%	5.5%	犯罪・非行の未然防止のための啓発活動を行い、青少年の健全な育成を助け、犯罪をした人や非行少年の改善更生に協力する女性ボランティア。
ウ 協力雇用主	9.6%	26.0%	59.1%	5.3%	犯罪をした人等の自立及び社会復帰に協力することを目的として、犯罪をした人等を雇用し、または雇用しようとする民間の事業主。
エ BBS会	0.9%	4.3%	89.4%	5.4%	問題を抱える少年が自分自身で問題を解決したり、健全に成長していくことを支援し、犯罪や非行のない地域社会を目指す青年ボランティア団体。
オ 再犯防止推進法	3.4%	23.2%	68.3%	5.2%	平成28年12月に、再犯の防止等に関する施策に関する基本理念等を定めた「再犯の防止等の推進に関する法律(再犯防止推進法)」が施行、毎年7月を再犯防止啓発月と定めた。
カ 社会を明るくする運動	5.0%	18.1%	71.3%	5.6%	犯罪や非行の防止と、立ち直り支援への正しい理解を深めるための全国的な運動。毎年7月の強調月間に広報活動を展開している。

問31 更生支援(再犯防止)に関して広く市民の理解や関心を深めるためには、どのような取組が必要だと思いますか。(3つまで○)

1 テレビや新聞などの広報	36.5%	5 地域や社会教育の場で話し合う機会を持つ	20.5%
2 ホームページやSNSでの情報発信	32.9%	6 学校の授業や職場の研修で取り上げる	42.6%
3 パンフレットやポスターでの広報	24.9%	7 その他	2.3%
4 誰もが参加できるイベントの開催	20.9%	8 わからない	15.6%
		無回答	5.8%

問32 調布市の福祉施策(サービス)をより充実していくために、特に重要と考える取組は何ですか。(3つまで○)

1 相談体制や情報提供の充実	50.5%
2 利用者の立場や権利を保護・擁護する制度の充実	21.3%
3 子どもから高齢者までの健康や介護予防を支援する保健事業の充実	32.3%
4 在宅サービスの質と量の確保	25.0%
5 施設サービス(保育園や入所施設など)の質と量の確保	34.3%
6 ボランティア団体やNPOなどの育成・活動支援	8.8%
7 市民同士が支え合う仕組みの充実	12.3%
8 民間活力の導入による福祉サービスの確保と活性化	17.4%
9 市民・関連団体・行政の連携と協働の推進	12.7%
10 市民への福祉意識の啓発	13.6%
11 その他	2.2%
無回答	7.0%



問33 市民同士が互いに支え合い、住み慣れたまちで誰もが安心して暮らすことのできるまちづくりを進めるためには、以下の①～③の取組が重要です。これらの取組について、ご意見、ご提案をお聞かせください。(自由記述)

- 取組番号
- ①地域活動の活性化・市民同士の支え合いの仕組みづくり
 - ②相談・サービスの充実
 - ③安全・安心の確保等

取組番号:①・②・③(いずれかに○、複数選択可) ご意見、ご提案
3つの取組以外で気になっていること

アンケートは以上です。たくさんのお返事いただき、誠にありがとうございました。
調査結果は市ホームページで公表し、図書館などで閲覧できます(令和8年4月頃の予定)。

2 高齢者（65歳以上）

調布市民福祉ニーズ調査【高齢者（65歳以上）】

高齢者が暮らしやすいまちづくりのための 福祉に関するアンケート

～ご協力をお願い～

市民の皆さまには、日頃から調布市の福祉行政の推進にご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

市は、「地域福祉計画」「高齢者総合計画」「障害者総合計画」の福祉3計画を連携させて、子どもから高齢者まで、誰もが安心して暮らしやすいまちづくりを進めています。

このアンケートは、暮らしやすいまちづくりを確実に進めることに市民の皆さまの意見をいかに活かすため、65歳以上の中から1,000人を無作為抽出したところ、あなたにアンケートをお願いすることになりました。

このアンケートは無記名です。回答は統計的に処理いたしますので、個人が特定されることはありません。また、回答を調査目的以外に使用することはありません。

お忙しいところ誠に恐縮に存じますが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力ををお願い申し上げます。

令和7年10月 調布市長 長友 貴樹

皆さまの回答は、誰もが暮らしやすい、支え合うまちづくりに役立っています。

調布市の福祉は市民が主役です。例えば、地域の活動に参加したり、誰かが困っている時に声をかけたりすることも、支え合うまちづくりのひとつです。



市民の皆さまをはじめ、地域の団体や商店、学校や企業などの皆さまと一緒に、みんなで支え合うことがとても大切になります。

i

回答者は、封筒のあて名ご本人です。
ただし、ご本人が回答することが難しい場合、ご家族や代理の人がご本人の意見を聞いて記入しても差し支えありません。

ハハハトちよっぴ
つなげよう、ひらげよう、共に生きよう

調布市民福祉ニーズ調査【高齢者（65歳以上）】

～記入についてのおお願い～

【回答期限】 令和7年11月4日（火） 【回答所要時間】 30分（目安）

【回答方法】 郵送 または インターネット

※あなたが回答しやすいどちらかの方法で、投函もしくは送信してください。

《郵送》 調査票による回答の方法

- ①回答は、あてはまる番号を○で囲んでください。「その他」を選択する場合は番号を○で囲み、（ ）に具体的な内容を記入してください。
- ②質問によっては、回答数や回答者が限られる場合があります。
- ③回答終了後、同封の返信用封筒に入れて封かんし、回答期限までにポストに投函してください。

《インターネット》 回答の方法

- ①以下のURL、または二次元コードから専用ウェブサイトにアクセスしてください。
- ②調査票と同じ質問が画面に表示されます。
- ③回答の途中で保存することができます。

<専用ウェブサイトのURL>

<https://smilesurvey.co/s/eh386976/o>



【調査についてのお問い合わせ先】

調布市 福祉健康部 高齢者支援室
電話 042-481-7149（直通）
Fax 042-481-4288
E-mail koure@citychofu.lg.jp



1 あなた(ご本人)についておたずねします

問1 性別を教えてください。(1つに○)

1 男性	40.0%	2 女性	56.2%	3 その他	0.3%	無回答	3.5%
------	-------	------	-------	-------	------	-----	------

問2 年齢を教えてください。(1つに○) (令和7年10月1日現在)

1 65～69歳	21.3%	3 75～79歳	23.4%	5 85歳以上	17.9%
2 70～74歳	17.7%	4 80～84歳	16.5%	無回答	3.2%

問3 お住まいの地域を教えてください。(1つに○)

番号に○	(参考)地域に属する地区(○は不要)
1	東つつじヶ丘1丁目, 2丁目 緑ヶ丘 仙川町
11.4%	西つつじヶ丘1丁目, 2丁目, 3丁目 若葉町1丁目
2	東つつじヶ丘3丁目 菊野台 入間町
9.2%	西つつじヶ丘4丁目 若葉町2丁目, 3丁目
3	佐須町1丁目, 2丁目, 4丁目, 5丁目 調布ヶ丘3丁目 柴崎
10.4%	深大寺南町1丁目, 2丁目, 3丁目 深大寺東町3丁目, 4丁目
4	深大寺東町1丁目, 2丁目, 5丁目, 6丁目, 7丁目, 8丁目 深大寺北町
10.4%	深大寺元町2丁目, 3丁目, 4丁目, 5丁目 深大寺南町4丁目, 5丁目
5	国領町1丁目, 2丁目, 3丁目, 4丁目, 5丁目, 8丁目 佐須町3丁目
16.1%	布田2丁目, 3丁目 調布ヶ丘2丁目 八雲台
6	国領町6丁目, 7丁目 布田5丁目, 6丁目
12.5%	多摩川6丁目, 7丁目 染地
7	多摩川11丁目, 2丁目, 3丁目, 4丁目, 5丁目 調布ヶ丘1丁目, 4丁目
11.2%	布田1丁目, 4丁目 深大寺元町1丁目 下石原1丁目 小島町
8	上石原 富士見町 西町
14.8%	下石原2丁目, 3丁目 飛田給 野水
無回答	3.9%

問4 市内での居住年数(市外への転居期間を除く通算年数)を教えてください。(1つに○)

1 1年未満	1.3%	4 5年以上10年未満	3.3%	7 30年以上	59.6%
2 1年以上3年未満	2.8%	5 10年以上20年未満	9.6%	無回答	4.3%
3 3年以上5年未満	3.0%	6 20年以上30年未満	16.1%		

問5 住居形態を教えてください。(1つに○)

1 自宅(持ち家)で生活している	72.5%	3 病院に入院している, 施設を利用している	1.4%
2 自宅(賃貸)で生活している	20.5%	4 上記以外	2.5%
無回答			3.0%

問6 同居している家族構成を教えてください。(1つに○)

1 ひとり暮らし	22.3%	4 上記(1～3)以外で世帯全員が65歳以上	3.9%
2 夫婦のみ(配偶者は65歳以上)	36.5%	5 上記(1～4)以外	28.9%
3 夫婦のみ(配偶者は65歳未満)	5.4%	無回答	3.0%

問7 あなたは現在, 介護を受けていますか。(いくつでも○)

1 家族や親族から介護を受けている	3.2%
2 介護保険制度を利用して介護を受けている	9.8%
3 その他の人から介護を受けている(具体的に:)	0.6%
4 介護を受けていない	85.6%
無回答	2.8%

2 日頃のコミュニケーションについておたずねします

問8 ご近所付き合いは, どの程度していますか。(主なもの1つに○)

1 家を行き来するなど, 親しくしている	12.5%	3 あいづつをする程度	43.6%
2 立ち話をする程度	34.4%	4 ご近所付き合いをしていない	7.1%
無回答			2.4%

問9 どのような時にご近所付き合いの必要性を感じますか。(それぞれ1つに○)

	とても感じる	感じる	あまり感じない	感じない	わからない	無回答
ア 緊急時や災害時の助け合いが必要などとき	33.0%	46.6%	8.5%	3.2%	2.7%	6.0%
イ 日常生活でちょっとした困りごとがあるとき	5.4%	39.5%	31.9%	12.0%	3.2%	8.1%
ウ 子どもたちの見守り・安全確保	10.0%	40.0%	16.0%	10.6%	13.6%	10.0%
エ 高齢者やひとり暮らしの人への支援・見守り	16.9%	48.3%	14.4%	5.5%	7.4%	7.4%
オ 話し相手や相談相手が必要などとき	6.8%	37.8%	30.2%	12.6%	5.5%	7.1%

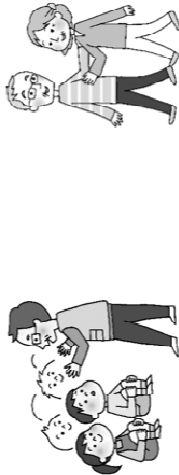
問10 次の項目についてあなたはどれくらいの頻度で感じていますか。(それぞれ1つに○)

	ない	ほとんどない	時々ある	常にある	無回答
ア 自分には人とのつきあいがないと感じることもある	34.1%	30.3%	24.6%	7.1%	3.8%
イ 自分ばかり残されていると感じることがある	48.8%	35.9%	9.5%	0.6%	5.2%
ウ 自分是他のひとたちから孤立していると感じることがある	48.3%	35.7%	10.0%	0.8%	5.2%
エ 自分は孤独であると感じることがある	47.7%	34.9%	11.8%	0.9%	4.6%

問11 家族や友人たちとのコミュニケーション頻度についておたずねします。
あなたと同居していない家族や友人たちとのコミュニケーション頻度について、お答えください。
(それぞれ1つに○)

	週4回以上	週2～3回程度	週1回程度	2週間に1回程度	月1回程度	月1回未満	全くできない	無回答
同居していない相手とのコミュニケーション方法								
ア 直接会って話す(手話等を含む)	11.7%	17.9%	17.9%	7.7%	19.7%	11.2%	7.6%	6.3%
イ 電話(ビデオ通話含む)	8.4%	11.8%	16.3%	10.4%	15.9%	14.7%	10.6%	10.9%
ウ SNS*や電子メールなど	14.8%	13.1%	11.7%	7.6%	9.5%	8.2%	22.1%	13.0%

※ SNS (ソーシャル・ネットワーキング・サービス) とは、X(旧 Twitter)、LINE、Facebook 等の登録された利用者同士が交流できる、コンピュータやスマートフォンなどを使用したインターネット上のサービス。



3 市民同士の支え合い、地域活動についておたずねします

問12 あなたは次の事例について、家族以外の人から手助けをしてほしいと思いますか。また、まわりの人に手助けできること(してよいこと)はありますか。①手助けしてほしいか、②手助けできるかについて、それぞれ1つに○を付けてください。

	①手助けしてほしいか			②手助けできるか		
	してほしい	なし	無回答	できる	できない	無回答
ア 安否確認の声かけ	44.7%	42.7%	12.6%	61.9%	25.1%	13.0%
イ ちよっとした買い物やゴミ出し	14.8%	70.8%	14.4%	42.2%	45.3%	12.5%
ウ 食事や掃除・洗濯の手伝い	10.1%	76.3%	13.6%	19.9%	66.2%	13.9%
エ 通院の送迎や外出の手助け	16.4%	69.7%	13.9%	22.1%	64.6%	13.3%
オ 子どもの預かり	6.3%	65.6%	28.1%	16.4%	70.3%	13.3%
カ 話し相手や相談相手	24.8%	58.1%	17.1%	44.2%	42.8%	13.0%
キ 災害時避難の手助け	60.2%	27.2%	12.6%	56.9%	30.8%	12.3%
ク 具合がよくない時、病院などに連絡する	44.4%	40.6%	15.0%	58.8%	28.3%	13.0%

問13 この1年で、家族以外の人から、問12ア～クのような手伝いや手助けをしましたか。また、手伝いや手助けをしてもらいましたか。(それぞれ1つに○)

	1 した	2 しなかった(そういう場面はあった)	3 そういう場面がなかった	無回答
① 手伝いや手助けをしたか				
	14.2%	3.8%	77.9%	4.1%
② 手伝いや手助けをしてもらったか				
	13.1%	6.3%	76.8%	3.8%

問14 家族以外の人から、問12ア～クのような手伝いや手助けをする(してもらう)にあたり、どのような取組があるとよいと思いますか。(いくつでも○)

1 手助けしてほしい人と手助けできる人をコーディネート(紹介)する仕組み	39.0%
2 手助けしてほしい人や事柄を知ることのできる仕組み	33.5%
3 手助けできる人の人柄やスキルを知ることのできる仕組み	26.1%
4 その他(具体的に:)	2.2%
5 取組は必要ない(できる時はする)	17.2%
6 わからない	22.3%
無回答	5.8%

問15 あなたは地域での活動に参加したり、地域のために日頃から心掛けていらっしゃることはありますか。①
現在の状況、②今後の意向をお答えください。(それぞれ1つに○)

	①現在の状況				②今後の意向	
	週1回以上 参加している 状況(含む)	月1回以上 参加している 状況(含む)	年1回程度 参加している 状況(含む)	取組まない 無回答	取組まない、 興味がある	取組まない、 興味がない 無回答
ア 子育て世帯・青少年を支える 行動や活動	2.2%	2.1%	1.4%	82.9%	11.4%	3.8%
イ 高齢者を支える行動や活動	3.8%	4.1%	5.4%	76.5%	10.3%	6.5%
ウ 障害のある人を支える行動 や活動	2.2%	2.5%	4.6%	80.7%	10.0%	4.7%
エ お祭りや運動会などのレクリ エーション活動、地域の伝統 や文化を伝える活動	1.9%	1.3%	9.0%	78.0%	9.5%	4.7%
オ 交通安全や犯罪防止など、 地域の安全を守る活動	0.9%	1.9%	5.4%	82.3%	9.5%	4.9%
カ 防災訓練や災害時に救護・ 支援をする活動	1.3%	1.3%	8.8%	79.1%	9.5%	7.3%
キ 道路等のごみ拾い、自宅周 辺の清掃、環境美化、環境 保全・自然保護などの活動	8.2%	6.3%	12.2%	64.3%	9.0%	13.0%
ク 自治会・地区協議会・老人ク ラブなどの活動	3.3%	6.0%	10.7%	70.3%	9.6%	7.1%
ケ 趣味・習いごと・健康づくり (運動・スポーツ)などの活動	24.8%	8.2%	5.2%	53.2%	8.5%	23.5%

問16 どのような条件であれば、地域活動・ボランティア活動に参加・活動しやすいですか。(いくつでも○)

1 子どもの世話や介護を代わってもらう	2.1%	7 参加することでメリットがある(報酬など)	5.2%
2 活動や仕事に関する情報を紹介してくれる	17.7%	8 活動資金の補助や援助がある	6.5%
3 友人・知人と一緒に参加できる	16.1%	9 その他(具体的に：)	5.1%
4 時間や期間にあまりしほられない	43.4%	10 わからない	21.3%
5 身近なところに活動できる場がある	38.2%	11 条件によらず、参加したくない	9.5%
6 世話人やリーダーがいる	15.5%	無回答	6.8%

4 就労についておたずねします

問17 現在の職業を教えてください。(1つに○)

1 正規の社員・職員・役員	7.4%
2 非正規の社員・職員(嘱託、パート、アルバイト、契約、派遣)	16.7%
3 自由業・自営業(営業手伝いを含む)	7.9%
4 シルバー人材センターの会員	1.4%
5 有償ボランティア	1.4%
6 仕事はしていない	57.8%
無回答	7.3%

付問 問17で1～3(会社などで働いている)と答えた方におたずねします。

現在の職業に就いている経験を教えてください。(いくつでも○)

1 継続雇用	42.4%	3 独立して開業	14.8%
2 再就職(ハローワーク、友人・知人、民間(情報誌・登録など))	27.6%	4 その他(具体的に：)	9.9%
		無回答	5.9%

問18 あなたが仕事をすることを(したいと思う)主な理由は何ですか。(いくつでも○)

1 生活費をまかなうため	28.4%	6 技術や経験をいかしたいから	12.8%
2 健康によいから	21.0%	7 地域に貢献したいから	4.7%
3 働くことに生きがいを感じること	17.4%	8 その他(具体的に：)	2.8%
4 社会参画の手段として	14.5%	9 働くつもりはない	24.6%
5 時間に余裕があるから	10.4%	無回答	28.8%

問19 高齢者が就労する(続ける)ために特に必要なことは何ですか。(3つまで○)

1 健康・体力	64.9%	6 仕事に合わせる柔軟性	14.8%
2 専門知識・技能	14.8%	7 人脈・知り合い	6.5%
3 協調性・真摯な態度	23.7%	8 定年からの準備	4.9%
4 意欲・情熱	21.0%	9 その他(具体的に：)	0.6%
5 高齢者にあった職場・就労環境	33.3%	10 わからない	7.9%
		無回答	22.7%

5 健康増進、権利擁護の取組についておたずねします

問20 あなたは、健やかに暮らすために、次のことに取り組んでいますか。(それぞれ1つに○)

	今、 取り組 んでいる	今 取 組 む が、	今 取 組 んで い ない が、	今 取 組 んで い ない し、 わ か ら な い	無 回 答
ア 認知症予防	27.0%	34.3%	8.8%	20.4%	9.5%
イ フレイル※予防	32.5%	26.5%	5.7%	23.5%	11.7%

※ 加齢とともに心身の活力(運動機能や認知機能など)が低下し、複数の慢性疾患の併存などの影響もあり、生活機能が障害され、心身の脆弱性が出現した状態。

問21 近年、人生のエンディングに向けて、元気なうちからさまざまな準備をする活動が広がっています。
①あなたは、次のような事項をご存知ですか。②今後、次のような事項を活用したいと思いませんか。(それぞれ1つに○)

	①認知状況			②今後の意向			説明	
	知っている	知らない	無回答	活用したい	活用しない	わからない		無回答
ア 終活(エンディング)ノート	74.4%	16.1%	9.5%	48.3%	8.7%	31.0%	12.0%	銀行口座などの財産や介護や医療に関する希望、葬儀の内容など、自分の思いや希望を家族など親族に伝えるために書き記すノートのこと。
イ ACP(アドバンス・ケア・プランニング)	21.5%	64.0%	14.5%	32.9%	5.7%	49.4%	12.0%	自らが望む人生の最終段階における医療・ケアについて、前もって考え、医療・ケアチームなどと繰り返し話し合い、共有する取組のこと。

問22 認知症の人やその家族を支えるため、どのような取組に力を入れる必要があると思いますか。(いくつでも○)

1 市民に認知症への正しい知識と理解をもってもらうための啓発・情報提供	37.1%
2 認知症のことを相談できる窓口・体制の充実	60.3%
3 できるだけ早い段階から、医療・介護などのサポートを利用できる仕組みづくり	53.7%
4 家族の身体的・精神的負担を減らす取組	54.8%
5 家族の仕事と介護の両立支援を含めた、経済的負担を減らす取組	40.9%
6 認知症の人と地域で見守る体制の充実	35.9%
7 日常生活の中で必要となる財産管理などへの支援の充実	17.4%
8 悪質商法や詐欺的な勧誘による被害を防止するための取組	36.7%
9 認知症の人が利用できる被害防止体制の整備	56.7%
10 認知症になっても地域で役割をもって暮らし続けられる体制の整備	32.2%
11 認知症にも対応している保険の充実	21.6%
12 その他(具体的に:)	1.1%
13 特になし	5.2%
無回答	6.0%

問23 市や社会福祉協議会等で行っている下記の制度や事業をご存知ですか。(それぞれ1つに○)

	知 て い る	問 合 い た い 事 は 知 ら な い (あ る か ら な い)	知 ら な い	無 回 答	説明
ア 成年後見制度	42.0%	28.3%	24.0%	5.1%	認知症・知的障害・精神障害・発達障害などによって物事を判断する能力が十分ではない人について、本人の権利を守る援助者(成年後見人など)を選ぶことで、本人を法的に支援する制度。
イ 法定後見制度	21.6%	33.3%	38.7%	5.8%	本人の判断能力が不十分になった後、家庭裁判所によって成年後見人などが選ばれる制度。本人の判断能力の状態などに応じて「後見」「保佐」「補助」の3つの制度がある。
ウ 任意後見制度	20.1%	28.3%	44.3%	6.5%	本人に十分な判断能力があるうちに、将来、判断能力が低下した場合には、あらかじめ本人自らが選んだ人(任意後見人)に代わりに行ってもらいたいことを契約(任意後見契約)で決めておく制度。

	知っている	間(内容)は知らない	知らない	無回答	説明
エ 市民後見人	6.0%	18.0%	70.5%	5.5%	社会貢献的な精神に基づき、成年後見人などとして必要な知識と技量を身に付け、家庭裁判所が選任した一般市民の成年後見人などのこと。親族でもなく、弁護士などの専門職でもない、第三者の立場で、判断能力が十分でない人の金銭管理や福祉サービス利用契約などを本人に代わって行い、本人の暮らしを支援する。
オ 専門職紹介制度	4.3%	11.4%	78.2%	6.2%	第三者後見人による支援を必要としている市民に、多摩南部成年後見センターに登録している弁護士・司法書士・社会福祉士を紹介する制度。
カ 地域福祉権利擁護事業	3.9%	13.9%	76.3%	5.8%	高齢者や障害のある方に対して、福祉サービス利用の援助、郵便物の確認や書類手続き、預貯金の入出金や支払い手続き等を支援する。
キ あんしん未来支援事業	3.0%	8.1%	83.1%	5.8%	急な入院時等に頼れる親族がいなくても、安心して地域で暮らして、けるよう、事前に支援内容を契約し、必要な時に金銭の管理や保証機能を行うサービス。

問24 あなたやご家族のどなたかが認知症などによって判断が十分にできなくなってしまう場合、あるいは既にできない場合、前問(問23)のいずれかの制度を利用したいと思いませんか。(1つに○)

1 既に利用している	1.3%	2 利用を検討する	47.1%	3 利用しない	0.3%	4 知らない	29.5%
無回答	11.8%						

付問 問24で「3 利用しない」、「4 わからない」と答えた方におたずねします。

制度を利用しない、または、わからないと答えた主な理由は何ですか。(いくつでも○)

1 制度の内容や利用方法がわからない	41.7%
2 事務手続きが難しい	14.7%
3 後見人などの第三者に財産管理や契約手続きを任せるのは不安	26.6%
4 経済的な理由や身寄りが少ないために、申立てが難しい	4.4%
5 家族などに支援してもらいたい	59.1%
6 その他(具体的に:)	7.1%
無回答	3.2%

6 暮らしのことについておたずねします

問25 あなたは主にどのような目的で外出をしますか。(3つまで○)

1 食料品や日用品等の買い物	79.6%	7 仕事	30.8%
2 散歩	34.9%	8 地域活動・ボランティア	7.1%
3 健康づくり(運動・スポーツ)	24.8%	9 通院・リハビリ	42.2%
4 趣味活動・習い事	23.2%	10 通所介護サービスの利用	5.7%
5 家族や友人・知人と会う	31.8%	11 その他(具体的に:)	1.9%
6 介護や子ども・孫の世話	4.7%	12 外出しない	0.9%
		無回答	0.9%

付問 前問(問25)で1～11(様々な目的で外出をする)のいずれかに答えた方におたずねします。

利用している移動手段は何ですか。(いくつでも○)

1 徒歩	77.6%	7 バス	54.9%
2 自転車	38.5%	8 タクシー	15.6%
3 自家用車等(自分で運転)	23.3%	9 福祉タクシー	0.8%
4 自家用車等(自分以外が運転)	12.6%	10 電車	53.9%
5 介護事業所等の送迎	5.5%	11 その他(具体的に:)	1.6%
6 病院・リハビリ施設の送迎	3.2%	無回答	0.3%

問26 新型コロナウイルス感染症の流行後、現在のあなたの暮らしにどのような影響がありますか。

(それぞれ1つに○)

	増えた	変化なし	減った	わからない	無回答
ア 家族との会話や連絡の頻度(電話などを含む)	10.3%	75.4%	6.2%	3.8%	4.4%
イ 友人・知人との会話や連絡の頻度(電話などを含む)	7.1%	65.9%	19.1%	2.8%	5.1%
ウ 生活に必要な外出の頻度(買い物・食事・医療機関の受診など)	6.6%	70.5%	16.9%	1.7%	4.3%
エ 趣味活動や社会参加の外出の頻度(スポーツ・ボランティア・通いの場など)	4.4%	52.8%	20.9%	15.5%	6.5%
オ 体力・筋力	1.7%	47.2%	40.8%	4.9%	5.4%
カ 認知機能の低下や物忘れを自覚する・指摘される頻度	15.0%	63.8%	3.5%	11.7%	6.0%

問27 あなたは普段、どのくらい外出しますか。現在のことにしてお答えください。(1つに○)

1 仕事や学校等で週に5日以上外出する	21.0%
2 仕事や学校等で週に3～4日外出する	13.3%
3 遊びや趣味の活動等で頻繁に外出する	19.7%
4 人づきあいのためにときどき外出する	10.0%
5 普段は家にいるが、自分の趣味に関する用事のときだけ外出する	11.8%
6 普段は家にいるが、近所のコンビニなどには出かける	14.5%
7 自宅からは出るが、家からは出ない	3.2%
8 自宅からはほとんど出ない	1.1%
無回答	5.4%

付問1 問27で「5～8」のいずれかに答えた方にうかがいます。

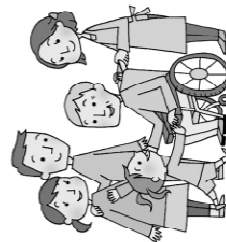
あなたの外出状況が現在の状態となって、どのくらい続きますか。(1つに○)

1 3か月未満	11.9%	3 6か月～1年未満	7.7%
2 3か月～6か月未満	2.6%	4 1年～5年未満	39.2%
		5 5年～10年未満	12.9%
		6 10年以上	22.2%
		無回答	3.6%

付問2 付問1で「3～6」のいずれかに答えた方にうかがいます。

あなたの外出状況が現在の状態になった主な理由は何ですか。(いくつでも○)

1 病気	32.7%	6 受難に失敗したこと(高校・大学等)	0.0%
2 介護・看護を担うことになったこと	12.6%	7 就職活動がうまくいかなかったこと	0.0%
3 (就労中)自宅の仕事をしている	2.5%	8 人間関係がうまくいかなかったこと	0.6%
4 学校になじめなかったこと	0.0%	9 退職したこと	21.4%
5 職場になじめなかったこと	0.0%	10 その他(具体的に)	20.1%
		11 特に理由はない	20.8%
		12 わからない	3.1%
		無回答	3.8%



問28 あなたは以外で、市内にお住まいのご家族(同居・別居問わず)に下記の外出状況が当てはまる人はいますか。(1つに○)

1 普段は家にいるが、自分の趣味に関する用事のときだけ外出する	12.6%
2 普段は家にいるが、近所のコンビニなどには出かける	11.4%
3 自宅からは出るが、家からは出ない	3.0%
4 自宅からはほとんど出ない	0.3%
5 いずれもない	42.5%
6 外出状況がわからない	8.2%
無回答	22.0%

付問1 問28で「1～4」のいずれかに答えた方にうかがいます。

ご家族の外出状況が現在の状態となって、どのくらい続きますか。(1つに○)

1 3か月未満	12.7%	3 6か月～1年未満	4.6%
2 3か月～6か月未満	4.6%	4 1年～5年未満	28.9%
		5 5年～10年未満	12.7%
		6 10年以上	28.3%
		無回答	8.1%

付問2 付問1で「3～6」のいずれかに答えた方にうかがいます。

ご家族の外出状況が現在の状態になった主な理由は何ですか。(いくつでも○)

1 病気	26.4%	7 就職活動がうまくいかなかったこと	0.8%
2 介護・看護を担うことになったこと	12.4%	8 人間関係がうまくいかなかったこと	2.3%
3 (就労中)自宅の仕事をしている	2.3%	9 退職したこと	24.0%
4 学校になじめなかったこと	0.0%	10 その他(具体的に)	7.0%
5 職場になじめなかったこと	0.8%	11 特に理由はない	23.3%
6 受難に失敗したこと(高校・大学等)	0.0%	12 わからない	4.7%
		無回答	10.1%

1 コラム ■ 調布市におけるひきこもりの相談窓口について

調布市には、ひきこもりで悩んでいるときに気軽に相談できる窓口があります。窓口ではご家族からの相談にも応じています。

- ▶ 子ども・若者総合支援事業「こあ」(主に中学生以上の子ども・若者)
- ▶ 子ども・若者とそのご家族を対象として、学校・仕事・家庭生活に関することなど、様々な困りごとの相談をお受けしています。電話やメール、面談などによる相談が可能です。
- ▶ 調布市こころの健康支援センター(主に高校生世代以上の方)
- ▶ 日常生活の困りごと、対人関係の悩み、作業所や就職、福祉サービスの利用、ひきこもりなどについてご相談をお受けします。

相談は予約制です。お電話にてご予約いただいた後、面接日を設定します。



ひきこもりに関する相談窓口の詳細はこちら ⇒

調布市民福祉ニーズ調査【高齢者（65歳以上）】

問29 日常生活での困りごとを相談できる人や機関はありますか、いくつでも○

1 同居の家族	58.1%	11 調布ライオンサポート ^{※1} （社会福祉協議会）	0.3%
2 別居の家族や親戚	53.7%	12 子ども・若者総合支援事業ここあ（社会福祉協議会）	0.5%
3 自治会や近所の人	10.7%	13 こころの健康支援センター（社会福祉協議会）	1.1%
4 友人・知人	44.7%	14 社会福祉協議会（その他の相談窓口）	1.4%
5 仕事・学校関係者（職場の同僚・学校の先生等）	5.8%	15 地域包括支援センター	6.5%
6 民生委員・児童委員	0.6%	16 ちょうふ若者サポートステーション ^{※3}	0.0%
7 ケアマネジャー（介護支援専門員）・ヘルパー（介護員）などの事業者	12.2%	17 子ども家庭支援センターすこやか	0.0%
8 かかりつけ医や保健師などの医療関係者	17.7%	18 その他（具体的に： ）	1.4%
9 市役所	7.1%	19 身近に相談できる人や機関はない	3.8%
10 地域福祉コーディネーター ^{※2} （社会福祉協議会）	0.8%	無回答	7.4%

※1 地域福祉コーディネーター（コミュニティソーシャルワーカー＝CSW）は、生活上の悩みや困りごとを抱える人に対し、さまざまな機関・団体と連携しながら課題の解決を図るとともに、住民主体の活動の促進や地域でのネットワーク構築といった取組を進める役割を担う。

※2 調布ライオンサポートは、経済的な理由などで困っている人に対するトータルな相談窓口。

※3 ちょうふ若者サポートステーションは、15～49歳対象の職業的自立のための総合相談窓口。

問30 現在、あなた自身やご家族は、どこに相談すればいいかわからない生活上的困りごとを抱えていますか。差し支えなければ、お困りの内容をお聞かせください。（いくつでも○）

1 自分・配偶者の健康・病気	9.5%	7 子ども・孫の健康・病気・介護・将来	4.7%
2 自分・配偶者の運動機能・体力の変化	6.0%	8 住まい	4.3%
3 自分・配偶者の認知機能の変化	4.3%	9 お金（財産管理・相続含む）	5.1%
4 自分・配偶者の介護	4.7%	10 仕事	2.5%
5 親の健康・病気・介護	1.9%	11 人間関係、人との付き合い方	2.2%
6 兄弟姉妹の健康・病気・介護	2.4%	12 その他（具体的に： ）	1.9%
		13 どこに相談すればいいかわからない困りごとはない	45.0%
		無回答	27.6%

問31 自宅以外にひとりで、あるいは友人・知人と過ごす場所はありますか。（1つに○）

1 ある	60.7%	2 ない	30.8%	無回答	8.5%
------	-------	------	-------	-----	------

13

調布市民福祉ニーズ調査【高齢者（65歳以上）】

問32 自宅以外にひとりで、あるいは友人・知人と過ごす場合、どのような場所を望みますか。（いくつでも○）

1 友人・知人家	26.7%	7 商業施設（飲食店除く）	9.3%
2 文化施設（図書館・資料館など）	17.9%	8 公園・自然	35.7%
3 集会施設（公民館・自治会館・交流スペースなど）	17.9%	9 インターネット・SNS	7.7%
4 福祉施設	4.9%	10 その他（具体的に： ）	3.9%
5 運動施設	17.1%	11 必要ない	8.4%
6 飲食店	54.0%	無回答	7.1%

7 誰もが暮らしやすいまちづくりについておたずねします

問33 お住まいの地域の暮らしやすさについて、どのように感じていますか。（それぞれ1つに○）

	とても満足している	満足している	あまり満足していない	満足していない	わからない	無回答
ア 隣近所などの付き合い	5.4%	54.0%	11.7%	4.9%	19.6%	4.4%
イ 町内会・地区協議会の活動	1.4%	26.4%	10.6%	5.4%	49.6%	6.6%
ウ 地域の交流	1.7%	23.1%	9.5%	6.2%	52.3%	7.3%
エ サークルやボランティアの活動	4.3%	14.8%	6.5%	4.4%	63.3%	6.6%
オ 地域の防災・防犯対策	1.3%	22.3%	11.1%	6.0%	52.3%	7.1%
カ 相談できる体制	0.8%	17.9%	11.1%	6.5%	55.9%	7.9%
キ 買い物などの利便性	19.9%	54.2%	11.8%	5.8%	3.9%	4.3%
ク 道路や交通機関などの使いやすさ	14.4%	55.9%	14.5%	6.2%	4.3%	4.7%
ケ 公的な手続きの利便性	3.9%	43.8%	22.1%	5.1%	19.0%	6.2%
コ 医療機関への通いやすさ	11.8%	59.1%	13.6%	4.4%	6.3%	4.7%
サ 地域での就労の機会	0.9%	8.5%	7.7%	2.2%	70.9%	9.6%

14

調布市民福祉ニーズ調査【高齢者（65歳以上）】

問34 高齢者の生活を守る取組や相談窓口などがあります。下記のことをご存知ですか。

（それぞれ1つに○）

	知 て い る	無 回 答	説 明
ア 易守りネットワーク（みまもっと）	42.3%	52.1%	地域住民・協力団体などが、地域の高齢者などの異変や生活上の支援などに気付いたら、その情報を地域包括支援センターに連絡する活動。
イ 高齢者虐待防止法	26.7%	66.7%	高齢者を虐待から守ることを目的として平成18年4月に施行されている。高齢者虐待とは、身体的暴行のほか、心理的外傷を与える言動、世話の放棄、財産の不当な処理なども含む。
ウ 調布市消費生活相談室	41.2%	52.4%	買物相談をはじめ、悪質商法の被害など、市民の消費生活に関するさまざまなトラブルや相談に対応している。
エ 地域包括支援センター	63.5%	31.3%	高齢者やその家族が地域で安心して暮らせるよう、福祉や介護に関するさまざまな相談ができる総合相談窓口。
オ 「くらしの案内～シルバー編～」	23.1%	70.8%	高齢者向けに行っている各種事業を市民にお知らせするため、毎年、発行している冊子。
カ 調布ライフサポート	10.4%	83.1%	経済的な理由などで生活にお困りの人に対する「ターナ」な相談窓口。
キ 住まいぬくもり相談室	5.5%	87.4%	適切な民間賃貸住宅の情報の提供や福祉サービス、行政支援などを紹介している。
ク シルバー人材センター	79.0%	15.3%	60歳以上の会員に対する雇用によらない「臨時・短期的な就業や、軽易な業務に係る就業の機会を提供している公益社団法人。

問35 市内のバリアフリー・ユニバーサルデザイン[※]について、どのように感じていますか。

（それぞれ1つに○）

	し ど こ も の 人 が 使 い やすい	充 分 な 支 援 が あ る	あ い ま は 支 援 が あ る	な い と い う 支 援 が あ る	わ か ら な い	無 回 答
ア 車いすの人を含め誰もが安全に通れる建物の出入口や通路（段差をなくす、幅を広げるなど）	0.9%	19.3%	31.9%	11.1%	31.3%	5.5%
イ 公共施設や病院などのスロープ、エレベーターやエスカレーター	1.7%	38.9%	22.9%	4.9%	27.2%	4.4%
ウ 車いすの人や乳幼児を連れた人など、誰もが使いやすいトイレ	1.4%	27.3%	28.6%	5.1%	32.7%	4.9%
エ 歩きやすいように障害物（商品や看板、放置自転車、電柱など）が取り除かれ、段差や凹凸が少なく、十分に幅のある歩道や道路	1.1%	13.4%	40.0%	17.7%	23.1%	4.7%
オ 点字ブロッカーや視覚障害者の信号機	1.1%	27.2%	26.5%	5.5%	34.4%	5.2%

15

調布市民福祉ニーズ調査【高齢者（65歳以上）】

	し ど こ も の 人 が 使 い やすい	充 分 な 支 援 が あ る	あ い ま は 支 援 が あ る	な い と い う 支 援 が あ る	わ か ら な い	無 回 答
カ 車いすやベビーカーで乗降しやすいノンステップバスやリフト付バス、ユニバーサルデザインタクシー	0.8%	21.0%	25.0%	4.9%	40.3%	8.1%
キ 障害者用の駐車場	0.3%	17.4%	20.2%	4.1%	49.9%	8.1%
ク 大きな文字・絵・複数の言語を用いた、誰もがわかりやすい案内表示	0.6%	13.4%	27.5%	7.4%	42.5%	8.5%
ケ 手話の対応や音声ガイドがある施設	0.0%	3.9%	18.5%	6.3%	62.7%	8.5%
コ 補助犬と同伴での入室が配慮された店・レストランなど	0.0%	3.2%	17.1%	9.0%	62.6%	8.2%
サ 公園・道路などを含み、まち全体のユニバーサルデザイン	0.2%	10.7%	22.3%	7.1%	51.3%	8.4%
シ 高齢者、子ども連れの家族、障害や病気などがある人に対する人々の接し方や配慮	0.8%	11.5%	24.5%	8.7%	46.6%	7.9%

※ ユニバーサルデザインとは、障害の有無・年齢・性別・人種などに関わらず、多様な人が利用しやすいよう、事前に環境などをデザインすること。

問36 共生社会の充実のための法律や考え方、調布市が令和5年度に制定した2つの条例を知っていますか。（それぞれ1つに○）

	内容を知っている	内容を知っているが知らない	知らない	無回答	説明
ア 障害者差別解消法	5.4%	23.1%	64.1%	7.4%	障害を理由とする差別の解消を推進することを目的とする法律
イ 合理的配慮	3.8%	13.3%	75.0%	7.9%	役所や事業者に対し、障害者から社会の中にあるバリア（生活がしづらくなる社会的障壁）を取り除くために何らかの対応を必要としているとの意思が伝えられた時に、負担が重すぎない範囲で対応すること
ウ パラハートらうふ	5.1%	24.5%	63.3%	7.1%	「様々な障害に対する理解を深め、一人ひとりが寄り添う心を持ち、手を取り合って暮らせる社会に」という想いを込めて作成した調布市のキャッチフレーズ
エ 調布市手話言語条例	2.1%	8.4%	82.3%	7.3%	独自の言語である手話に対する理解促進と普及を推進するための条例
オ 調布市障害者の多様な意思疎通に関する条例	1.3%	7.7%	83.6%	7.4%	障害の特性に応じた多様な意思疎通（コミュニケーション）のための手段、配慮、支援等に対する理解促進と普及を推進するための条例

16

「調布市手話言語条例」

「調布市障害者の多様な意思疎通に関する条例」についてはこちら⇒



「バラハートちょうふ」についてはこちら⇒



コラム ■ 東京 2025 デフリンピックが調布にやってくる！

デフリンピックとは、デフ・オリンピックのこと。デフ(Deaf)とは、英語で「耳が聞こえない」という意味です。

デフリンピックは国際的な「聞こえない人のためのオリンピック」で、11月15日から26日まで、日本で初めて開催されます。調布では国王アリーナ TOKYO でバドミントン競技が実施されます。予約不要、入場無料で観戦できます。



▶デフリンピックについて詳しくはこちら

問37 調布市の高齢者保健福祉施策(サービス)をより充実していくために、特に重要と考える取組は何か。5つまで○

1 趣味や生きがいづくり・社会参加への支援	33.5%
2 働く機会や場所づくり	18.8%
3 介護が必要にならないための健康づくりなどの支援	42.0%
4 自立生活のための家事(炊事・洗濯・掃除など)についての指導	8.8%
5 介護保険サービスの充実(ホームヘルプサービス、デイサービス、ショートステイなど)	44.5%
6 介護保険以外の保健福祉サービスの充実(配食サービス、紙おむつの給付など)	28.0%
7 ボランティアや地域活動の充実	10.0%
8 ひとり暮らしなどの高齢者に対する見守りや支え合うまちづくりへの支援	41.2%
9 低所得者などへの経済的支援	22.7%
10 既存住宅の改修支援	14.4%
11 安価な賃貸住宅の供給	17.1%
12 税差などがなく利用しやすい公共施設・交通機関の整備	25.0%
13 特別養護老人ホームなどの入所施設の整備	38.9%
14 利用しやすい成年後見制度	7.9%
15 介護者に対する支援	29.1%
16 その他(具体的に：)	1.3%
17 わからない	3.8%
無回答	7.3%

問38 介護者支援策として、おなまが必要だと思うことは次のどれですか。(いづつでも○)

1 介護者に対する定期的な情報提供	47.2%
2 介護者が気軽に休息をとれる機会づくり	49.0%
3 電話や訪問による相談サービス	38.7%
4 本人や介護者が集まって話せる場づくり	30.0%
5 仕事と介護の両立支援	37.4%
6 介護者の経験をいかした発言の場づくり	17.5%
7 その他(具体的に：)	1.1%
8 特になし	11.8%
無回答	6.8%

問39 市民同士が互いに支え合い、住み慣れたまちで誰もが安心して暮らすことのできるまちづくりを進めるためには、以下の①～③の取組が重要です。これらの取組について、ご意見、ご提案をお聞かせください。(自由記述)

取組番号

- ①地域活動の活性化・市民同士の支え合いの仕組みづくり
- ②相談・サービスの充実
- ③安全・安心の確保等

取組番号： ① ・ ② ・ ③ (いづれか○。複数選択可)
ご意見・ご提案
3つの取組以外で気になっていること

アンケートは以上です。たくさんの方の質問にお答えいただき、誠にありがとうございます。
調査結果は市ホームページで公表し、図書館などで閲覧できます(令和8年4月頃の予定)。

3 障害者（18歳以上・身体障害）

調布市民福祉ニーズ調査【障害者アンケート（18歳以上）】

障害のある人が暮らしやすいまちづくりのための 福祉に関するアンケート ～ご協力をお願いします～

市民の皆さまには、日頃から調布市の福祉行政の推進にご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

市は、「地域福祉計画」「高齢者総合計画」「障害者総合計画」の福祉3計画を連携させて、子どもから高齢者まで、誰もが安心して暮らしやすいまちづくりを進めています。

このアンケートは、暮らしやすいまちづくりを確実に進めることに市民の皆さまの意見をいかにため、障害者手帳や特定医療費（指定難病）受給者証をお持ちの方の中から2,700人を無作為抽出したところ、あなたにアンケートをお願いすることになりました。

このアンケートは無記名です。回答は統計的に処理いたしますので、個人が特定されることはありません。また、回答を調査目的以外に使用することはありません。

お忙しいところ誠に恐縮に存じますが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力をお願い申し上げます。

令和7年10月 調布市長 長友 貴樹

皆さまの回答は、障害のある人が暮らしやすい、見え合うまちづくりに役立っています。調布市の福祉は市長が主役です。例えば、地域の活動に参加したり、誰かが困っている時に声をかけたりすることも、見え合うまちづくりのひとつです。

市民の皆さまをはじめ、地域の団体や商店、学校や企業などの皆さまが一緒に、みんなで支え合うことがとても大切になります。

i 回答者は、封筒のあて名が本人です。（問40～42のみ、ご家族が回答してください）ただし、ご本人が回答することが難しい場合、ご家族や代理の人がご本人の意思を聞いて記入しても差し支えありません。

パラハートちゅうふ
つなげよう、つながるまち

※調査票の各ページには、「音声コード(Uni-Voice)」を付しています。「音声コード」とは、1.8センチメートル角のコードを専用の読取機やスマートフォンアプリが音声に変換し、文章内容を読み上げるものです。

調布市民福祉ニーズ調査【障害者アンケート（18歳以上）】

～記入について～

【回答期限】令和7年11月4日（火）【回答所要時間】30分から1時間程度（目安）

【回答方法】郵送 または インターネット

※どちらか一つの方法で、投函もしくは送信してください

《郵送》調査票による回答の方法

- ①回答は、あてはまる番号を○で囲んでください。「その他」を選択する場合は番号を○で囲み、（ ）に具体的な内容を記入してください。
- ②質問によっては、回答数や回答者が限られる場合があります。
- ③回答しづらい、わからない場合は無理をせず、次の問に進んでください。全ての質問に回答できなくても大丈夫です。
- ④回答終了後、回答の返信用封筒に入れて封かんし、回答期限までにポストに投函してください。

《インターネット》回答の方法

- ①以下のURL、または二次元コードから専用ウェブサイトにアクセスしてください。
- ②調査票と同じ質問が画面に提示されます。
- ③回答の途中で保存することができます。

＜専用ウェブサイトのURL＞

<https://smilesurvey.co/s/b0771adb/o>



【調査についてのお問い合わせ先】

調布市 福祉健康部 障害福祉課
電話 042-481-7135・7094（直通）

Fax 042-481-4288

E-mail syougai@city.chofu.lg.jp



問1 この調査に回答していただく人を教えてください。(1つに○)

	身体 (64歳以下)	身体 (65歳以上)	身体 (64歳以下)	身体 (65歳以上)
1 本人	77.7%	73.2%	3 その他	0.4%
2 家族などが代筆	16.8%	18.4%	無回答	5.0%
				8.4%

1 あなた(ご本人)についておたずねします

	身体 (64歳以下)	身体 (65歳以上)	身体 (64歳以下)	身体 (65歳以上)
1 男性	54.6%	54.2%	3 その他	0.8%
2 女性	41.6%	43.2%	無回答	2.9%
				2.6%

問3 年齢を教えてください。(1つに○) (令和7年10月1日現在)

	身体 (64歳以下)	身体 (65歳以上)	身体 (64歳以下)	身体 (65歳以上)
1 10歳代	1.3%	—	5 50歳代	28.6%
2 20歳代	7.6%	—	6 60歳代	26.1%
3 30歳代	6.3%	—	7 70歳代	—
4 40歳代	14.7%	—	8 80歳以上	—
			無回答	15.5%
				3.2%

問4 お住いの地域を教えてください。(1つに○)

	身体 (64歳以下)	身体 (65歳以上)	身体 (64歳以下)	身体 (65歳以上)
緑ヶ丘・堀五小学校地域	11.8%	11.1%	第二八雲台・国領小学校地域	10.1%
若葉・調和小学校地域	12.2%	12.1%	染地・杉森・布田小学校地域	12.2%
上ノ原・相野小学校地域	8.8%	7.9%	第一富士台・多摩川八学校地域	18.5%
北ノ台・深大寺小学校地域	7.6%	10.5%	第三・石原・井田小学校地域	15.5%
			無回答	3.4%
				3.7%

問5 住居形態を教えてください。(1つに○)

	身体 (64歳以下)	身体 (65歳以上)	身体 (64歳以下)	身体 (65歳以上)
1 持ち家	55.9%	65.3%	3 グループホーム	0.8%
2 賃貸住宅 (民間アパート、都営住宅などを含む)	38.2%	26.8%	4 その他 (具体的に：)	2.1%
			無回答	2.9%
				2.6%

問6 同居している家族を教えてください。(いくつでも○)

	身体 (64歳以下)	身体 (65歳以上)	身体 (64歳以下)	身体 (65歳以上)
1 ひとり暮らし(グループホームなどを含む)	—	—	19.7%	22.1%
2 配偶者(夫または妻)	—	—	43.3%	55.3%
3 父親	—	—	13.4%	0.5%
4 母親	—	—	25.9%	0.0%
5 子ども(子どもの配偶者を含む)	—	—	23.5%	34.7%
6 孫(孫の配偶者を含む)	—	—	0.8%	3.7%
7 兄弟姉妹	—	—	9.7%	1.6%
8 祖父母	—	—	1.3%	0.0%
9 その他(具体的に：)	—	—	2.9%	2.1%
無回答	—	—	2.1%	3.2%

問7 おも手の手帳等とその等級を教えてください。(いくつでも○)

	身体 (64歳以下)	身体 (65歳以上)	身体 (64歳以下)	身体 (65歳以上)
1 身体障害者手帳	—	—	92.9%	94.2%
2 養の手帳	—	—	10.1%	0.5%
3 精神障害者保健福祉手帳	—	—	6.3%	1.6%
4 特定医療費(指定難病)受給者証・マルポ医療券	—	—	11.8%	6.3%
5 もっていない	—	—	1.3%	0.5%
無回答	—	—	4.2%	4.7%

身体障害者手帳

	身体 (64歳以下)	身体 (65歳以上)	身体 (64歳以下)	身体 (65歳以上)
1級	38.0%	31.8%	4級	17.2%
2級	21.7%	13.4%	5級	4.1%
3級	12.7%	12.8%	6級	5.0%
			無回答	1.4%
				3.9%

	身体 (64歳以下)	身体 (65歳以上)	身体 (64歳以下)	身体 (65歳以上)
1度	25.0%	0.0%	3度	16.7%
2度	12.5%	100.0%	4度	41.7%
			無回答	4.2%
				0.0%

精神障害者保健福祉手帳

	身体 (64歳以下)	身体 (65歳以上)	身体 (64歳以下)	身体 (65歳以上)
1級	13.3%	0.0%	3級	40.0%
2級	40.0%	66.7%	無回答	6.7%
				0.0%

問8 どのような病気や障害がありますか。(いくつでも○)
※特定医療費(指定難病)支給者を
もつ人は、「11 その他(具体的に)」

	身体 (64歳以下)	身体 (65歳以上)
1 目が不自由(視覚障害)	7.6%	8.4%
2 耳が不自由(聴覚障害・平衡機能障害)	12.2%	16.3%
3 言葉が不自由(音声・言語・そしゃく障害)	10.5%	3.7%
4 手足が不自由(上肢・下肢障害・脳幹機能障害・運動機能障害)	45.8%	34.2%
5 心臓、腎臓、肝臓、呼吸器、ぼうこう、直腸、小腸などの障害(内臓障害)	38.7%	46.3%
6 免疫機能障害	1.7%	1.1%
7 知的障害	9.2%	0.0%
8 精神疾患、精神障害(発達障害を除く)	7.6%	1.6%
9 発達障害(自閉スペクトラム症、学習症(AD)、注意欠如・多動症(ADHD)など)	2.1%	0.0%
10 高次脳機能障害	6.3%	2.1%
11 その他(具体的に：)	7.1%	6.3%
無回答	2.5%	3.7%

2 相談支援についておたずねします

問9 悩みや困りごとがある場合、主にどこに相談しますか。(いくつでも○)

	身体 (64歳以下)	身体 (65歳以上)
1 家族・親族(一緒に生んでいて、離れて住んでいる)	65.5%	70.5%
2 友人・知人	25.6%	20.0%
3 相談支援機関の職員(ちゅうだぞう、ドルチェ、希望ヶ丘、こころの健康支援センター、サービス等利用計画の作成やモニタリングを行う相談支援専門員)	13.0%	5.8%
4 障害者施設(作業所、グループホームなど)の職員、ヘルパー	5.9%	4.2%
5 介護保険のケアマネジャー	11.3%	21.6%
6 市役所の職員	13.9%	8.9%
7 民生委員・児童委員	0.4%	1.6%
8 医療機関(医師、看護師、ケースワーカー、訪問看護の職員)	23.4%	26.8%
9 その他(具体的に：)	2.5%	3.7%
10 相談する人はいない	5.9%	3.7%
11 相談の必要はない	4.2%	6.8%
無回答	2.5%	3.7%

問10 あなたは、医療機関(歯科を含む)の受診を受けることはありますか。(いくつでも○)
身体(64歳以下)(N=238) 身体(65歳以上)(N=190)

	身体 (64歳以下)	身体 (65歳以上)
1 かかりつけ医(日常的に健康について相談できる医療機関)がない	8.4%	6.8%
2 かかりつけ医療科(歯の健康や治療について相談できる歯科医)がない	8.4%	2.6%
3 定期的な健康診断を受けられない	3.8%	2.6%
4 定期的な歯科健診を受けられない	2.9%	2.6%
5 専門的な治療やリハビリを行う医療機関が身近にない	5.5%	2.1%
6 障害を理由に診療や健診などを断られたことがある	4.6%	0.5%
7 通院するときに介助してくれる人がいない	2.9%	5.8%
8 医療費や交通費の負担が大きい	19.7%	11.6%
9 医師・歯科医師とコミュニケーションがとりづらい	7.6%	4.2%
10 その他(具体的に：)	8.0%	4.7%
11 特になし	47.1%	62.6%
無回答	9.7%	8.9%

調布市民福祉ニーズ調査【読書者アンケート(18歳以上)】

問11 今後、どのような生活したいですか。(1つに○)

	身体 (64歳以下)	身体 (65歳以上)
1 親や兄弟などの家族と一緒に生活する	29.4%	21.6%
2 ひとり暮らし、または自分の配偶者と一軒に生活する	46.6%	50.0%
3 グループホームで生活する	3.8%	0.0%
4 入所施設で生活する	2.9%	6.3%
5 その他(具体的に:)	2.5%	3.7%
6 わからない	11.3%	12.6%
無回答	3.4%	5.8%

3 日頃のコミュニケーションについておたずねします

問12 次の項目についてあなたはどれくらいの頻度で感じていますか。(それぞれ1つに○)

	ない	ほとんど ない	時々ある	常に ある	無回答
ア 自分には人とのつきあいがないと感じることもある	27.7%	22.7%	34.9%	10.1%	4.6%
イ 自分は取り残されていると感じることがある	34.5%	28.6%	25.6%	6.3%	5.0%
ウ 自分は他の人たちから孤立していると感じることがある	34.5%	29.8%	23.9%	6.3%	5.5%
エ 自分は孤独であると感じることもある	33.6%	26.5%	29.4%	5.5%	5.0%

調布市民福祉ニーズ調査【読書者アンケート(18歳以上)】

問13 家族や友人たちとのコミュニケーション頻度についておたずねします。
あなたと同じ居していない家族や友人たちのコミュニケーション頻度について、お答えください。
(それぞれ1つに○)

	週 4 回 以上	週 2 回 程度	週 1 回 程度	2 週 間 に 1 回 程度	月 3 回 程度	月 1 回 程度	月 1 回 未満	全 く な い で き な い
身体(64歳以下)(N=238)								
ア 直接会って話す(手話等を含む)	25.6%	8.4%	8.4%	4.6%	14.3%	17.6%	11.3%	9.7%
イ 電話(ビデオ通話含む)	11.8%	7.6%	10.1%	5.9%	13.4%	17.6%	21.0%	12.6%
ウ SNS(※)や電子メールなど	25.2%	8.8%	11.8%	4.6%	8.8%	9.2%	11.8%	

	週 4 回 以上	週 2 回 程度	週 1 回 程度	2 週 間 に 1 回 程度	月 3 回 程度	月 1 回 程度	月 1 回 未満	全 く な い で き な い
身体(65歳以上)(N=190)								
ア 直接会って話す(手話等を含む)	17.9%	10.0%	14.2%	8.4%	11.6%	11.1%	15.8%	
イ 電話(ビデオ通話含む)	10.0%	10.0%	13.2%	10.0%	8.9%	8.9%	23.2%	
ウ SNS(※)や電子メールなど	10.5%	9.5%	9.5%	4.7%	5.8%	2.6%	28.9%	

※ SNS (ソーシャル・ネットワーキング・サービス) とは、登録された利用者が交流できる、コンピュータやスマートフォンなどを使用したインターネット上のサービス(例: ライン・エックス(旧ツイッター)・フェイスブックなど)。

4 災害時の対策についておたずねします

問14 防災マップや洪水ハザードマップなどで避難場所・避難経路・警戒区域などを確認していますか。
(1つに○)

	身体 (64歳以下)	身体 (65歳以上)	身体 (64歳以下)	身体 (65歳以上)
1 確認している	52.1%	60.5%	2 確認していない	45.0%
			無回答	2.9%
				8.4%

問15 災害や火災などの緊急の際、避難情報を主にどこからとりますか。(1つに○)
身体(64歳以下)(N=238) 身体(65歳以上)(N=190)

	身体 (64歳以下)	身体 (65歳以上)
1 防災行政無線	9.7%	15.8%
2 調布市防災・安全情報メール	23.1%	21.6%
3 調布FM	1.7%	4.7%
4 市ホームページ	11.3%	7.9%
5 ケーブルテレビ	5.5%	5.3%
6 SNS(市の公式アカウントを含む)	18.9%	5.8%
7 その他(具体的に：)	6.3%	6.8%
8 わからない	19.7%	22.6%
無回答	3.8%	9.5%

5 暮らしについておたずねします

問16 現在、給料や工資を伴う仕事をしていますか。(1つに○)
身体(64歳以下)(N=238) 身体(65歳以上)(N=190)

	身体 (64歳以下)	身体 (65歳以上)
1 正職の社員・職員・役員	23.9%	1.6%
2 非正職の社員・職員(嘱託、パート、アルバイト、契約、派遣)	17.6%	6.3%
3 自由業・自営業(営業手伝いを含む)	4.6%	2.1%
4 障害者施設(作業所など)	6.3%	2.1%
5 仕事をしていないが、現在は仕事をしたい	34.0%	67.9%
6 これまで仕事をしたことがない(学生を含む)	8.0%	10.0%
無回答	5.5%	10.0%

問17 職場や学校の人に、あなたの障害や病気のことを伝えていただきますか。(1つに○)
身体(64歳以下)(N=238) 身体(65歳以上)(N=190)

	身体 (64歳以下)	身体 (65歳以上)
1 伝えている	69.7%	38.9%
2 伝えていない	12.2%	21.6%
無回答	18.1%	39.5%

問18 あなたは、どのような形で働きたい(願)たいですか。(1つに○)
身体(64歳以下)(N=238) 身体(65歳以上)(N=190)

	身体 (64歳以下)	身体 (65歳以上)
1 正職の社員・職員・役員	31.9%	2.6%
2 非正職の社員・職員(嘱託、パート、アルバイト、契約、派遣)	17.2%	8.9%
3 自由業・自営業(営業手伝いを含む)	8.4%	4.2%
4 障害者施設(作業所など)	5.5%	1.1%
5 働きたいと思わない	8.4%	30.5%
6 働くことができない	18.5%	35.8%
無回答	10.1%	16.8%

問19 あなたが仕事をするために、必要なことはありますか。(いくつでも○)
身体(64歳以下)(N=238) 身体(65歳以上)(N=190)

	身体 (64歳以下)	身体 (65歳以上)
1 技術、知識、資格などの習得	21.8%	3.7%
2 病後や障害に応じた柔軟な勤務日・勤務時間の設定	37.4%	8.4%
3 病後や障害に応じた多様な働き方(在宅ワークなど)	35.6%	9.5%
4 雇用する会社の施設面でのバリアフリー	13.9%	1.1%
5 雇用する会社の相談体制や上司・同僚の病後や障害への理解、協力	30.7%	6.3%
6 通勤や勤務中の介助や支援	12.6%	4.2%
7 就職支援や就職後の仕事の悩みなどを相談できる窓口	10.9%	4.2%
8 職場実習など、就職前に試みに働く機会の拡大	7.1%	1.1%
9 その他(具体的に：)	3.4%	5.3%
10 特に必要ない	23.5%	48.9%
無回答	13.0%	28.9%

問20 普段の生活の中で、次のような機会がありますか。(それぞれ1つに○)

	十分に ある	十分 ではない が ある	機会 はない	必要 でない	無 回 答
身体(64歳以下)(N=238)					
ア 好きなところへ出かける(ヘルパー利用も含む)	46.6%	27.7%	8.0%	9.7%	8.0%
イ 友人・知人との交流	36.1%	26.9%	19.3%	9.2%	8.4%
ウ スポーツ・運動(※1)をする機会	19.3%	30.7%	23.5%	19.3%	7.1%

調布市民福祉ニーズ調査【読書者アンケート(18歳以上)】

エ 美術・音楽などの文化芸術活動(※2)の機会	24.4%	21.4%	29.0%	16.8%	8.4%
オ ウ、ニ以外の趣味や習いごと	23.1%	17.6%	29.4%	18.1%	11.8%

	身体 (64歳以下)	身体 (65歳以上)	身体 (64歳以下)	身体 (65歳以上)	身体 (64歳以下)	身体 (65歳以上)
ア 好きなところへ出かけ(ヘルパー利用も含む)	44.2%	21.1%	7.4%	13.7%	13.7%	
イ 友人・知人との交流	34.7%	30.0%	11.6%	12.5%	11.1%	
ウ スポーツ・運動(※1)をする機会	29.5%	21.1%	8.9%	25.8%	14.7%	
エ 美術・音楽などの文化芸術活動(※2)の機会	17.9%	21.6%	21.1%	22.6%	16.8%	
オ ウ、ニ以外の趣味や習いごと	20.0%	14.2%	18.4%	29.5%	17.9%	

※1 この「スポーツ・運動」とは、ウォーキング、体操、ヨガなど、競技だけでなく健康づくりのための活動を含みます。これ以降の質問についても同じです。

※2 この「文化芸術活動」とは、絵を描くこと、美術鑑賞・博物館などに行くこと、歌を聴いたり、演奏したりすることを含みます。

問21 スポーツ・運動をする機会はどのくらいありますか。(1つに○)

	身体 (64歳以下)	身体 (65歳以上)	身体 (64歳以下)	身体 (65歳以上)
1 週に2回以上	23.1%	31.6%	3 月に1、2回程度	9.7%
2 週に1回程度	13.0%	14.7%	4 ほとんどしない	49.2%
			無回答	5.0%
				6.8%

調布市民福祉ニーズ調査【読書者アンケート(18歳以上)】

問22 スポーツ・運動をどこでしたいですか。(いくつでも○)
身体(64歳以下) (N=238) 身体(65歳以上) (N=190)

	身体 (64歳以下)	身体 (65歳以上)
1 地域の体育館	13.1%	6.8%
2 民間のスポーツクラブ	13.4%	13.7%
3 通所先の施設(作業所など)	7.1%	8.9%
4 地域の公園や広場	22.3%	13.7%
5 自宅	34.9%	28.4%
6 その他(具体的に：)	6.7%	8.9%
7 しなし、できない	25.2%	30.5%
無回答	6.7%	11.6%

問23 スポーツ・運動をするために必要な支援は何ですか。(いくつでも○)

	身体 (64歳以下)	身体 (65歳以上)
1 活動できる場所	30.7%	19.5%
2 指導者	16.4%	13.7%
3 障害に応じた器具・用具	15.1%	8.4%
4 障害に応じたプログラムの充実や情報提供	22.7%	16.3%
5 活動場所までの移動手段	17.2%	14.7%
6 活動を介助・サポートしてくれる支援者	14.7%	12.6%
7 一緒に活動する仲間	21.0%	15.8%
8 その他(具体的に：)	4.6%	6.8%
9 スポーツ・運動はしない、できない	24.8%	26.8%
無回答	10.9%	18.9%

問24 あなたは普段、どのくらい外出しますか、現在のことにについてお答えください。(1つに○)

	身体 (64歳以下)	身体 (65歳以上)
1 仕事や学校等で平日は毎日外出する	37.0%	3.2%
2 仕事や学校等で週に3～4日外出する	18.1%	9.5%
3 遊びや趣味の活動等で頻繁に外出する	3.4%	18.9%
4 入つぎあいのためにときどき外出する	5.9%	12.6%
5 普段は家にいるが、自分の趣味に関する用事のときだけ外出する	11.8%	18.4%
6 普段は家にいるが、近所のコンビニなどには出かける	10.9%	15.8%
7 自宅からは出るが、家からは出ない	5.9%	10.0%
8 自宅からほとんど出ない	3.4%	3.2%
無回答	3.8%	8.4%

付簡1 問24で「5～8」のいずれかに答えた方にうかがいます。

あなたの外出状況が現在の状態となつて、どのくらい続きますか。(1つに○)

	身体 (64歳以下)	身体 (65歳以上)
1 3か月未満	15.8%	
2 3か月～6か月未満	2.6%	
3 6か月～1年未満	6.6%	
4 1年～5年未満	27.6%	28.9%
5 5年～10年未満	21.1%	18.9%
6 10年以上	21.1%	22.2%
無回答	5.3%	10.0%

付簡2 付簡1で「3～6」のいずれかに答えた方にうかがいます。

あなたの外出状況が現在の状態となった主な理由は何か。(いくつでも○)

	身体 (64歳以下)	身体 (65歳以上)
1 病気	70.7%	56.5%
2 介護・看護を担うことになったこと	3.4%	4.3%
3 (就労中)自宅で仕事をしている	3.4%	2.9%
4 学校になじめなかったこと	1.7%	0.0%
5 職場になじめなかったこと	5.2%	0.0%
6 交際にあきらめたこと(高校・大学等)	0.0%	0.0%
7 就職活動がうまくいかなかったこと	0.0%	0.0%
8 人間関係がうまくいかなかったこと	1.7%	0.0%
9 退職したこと	10.3%	17.4%
10 その他(真体時に：)	15.5%	27.5%
11 時に理由はない	1.7%	14.5%
12 わからない	3.4%	1.4%
無回答	1.7%	2.9%

問25 あなたは、市内にお住まいのご家族(同居・別居問わず)に下記の外出状況が当てはまる人はいいますか。(1つに○)

	身体 (64歳以下)	身体 (65歳以上)
1 普段は家にいるが、自分の趣味に関する用事のときだけ外出する	17.6%	22.6%
2 普段は家にいるが、近所のコンビニなどには出かける	8.8%	12.6%
3 自宅からは出るが、家からは出ない	2.5%	3.7%
4 自宅からほとんど出ない	0.8%	1.6%
5 いずれもない	43.7%	31.6%
6 外出状況がわからない	8.0%	6.3%
無回答	13.4%	21.6%

付前1 問25で「1～4」のいずれかに答えた方にかかれます。

ご家族の外出状況が現在の状態となつて、どのくらい続きますか。(1つに○)

	身体 (64歳以下)	身体 (65歳以上)	身体 (64歳以下)	身体 (65歳以上)
1 3か月未満	29.6%	16.9%	4 1年～5年未満	21.1%
2 3か月～6か月未満	2.8%	3.9%	5 5年～10年未満	11.7%
3 6か月～1年未満	2.8%	3.9%	6 10年以上	28.6%
			無回答	13.0%

付前2 付前1で「3～6」のいずれかに答えた方にかかれます。

ご家族の外出状況が現在の状態になつた主な理由は何ですか。(いくつでも○)

	身体 (64歳以下)	身体 (65歳以上)
1 病気	30.4%	33.3%
2 介護・看護を担うことになつたこと	10.9%	9.8%
3 (就労中)自宅で仕事をしている	4.3%	0.0%
4 学校になじめなかつたこと	2.2%	0.0%
5 職場になじめなかつたこと	4.3%	0.0%
6 変職・変職したこと(高校・大学等)	0.0%	2.0%
7 就労活動がうまくいかなかつたこと	0.0%	2.0%
8 人間関係がうまくいかなかつたこと	2.2%	3.9%
9 退職したこと	10.9%	25.5%
10 その他(具体的に:)	15.2%	9.8%
11 特に理由はない	13.0%	17.6%
12 わからない	4.3%	5.9%
無回答	13.0%	11.8%

6 誰もが暮らしやすいまちづくりについておたずねします

問26 調布のまちは、障害(身体障害、知的障害、精神障害、難病など)のある人にとって、福祉サービス、バリアフリー、市民意識などを総合的に考え、住みやすいまちであると感じますが、(1つに○)
身体(64歳以下)(N=238) 身体(65歳以上)(N=190)

	身体 (64歳以下)	身体 (65歳以上)
1 住みやすいと思う	23.1%	26.8%
2 どちらかといえ、住みやすいと思う	53.4%	53.7%
3 どちらかといえ、住みやすいと思わない	9.7%	9.5%
4 住みやすいと思わない	2.9%	2.6%
無回答	5.9%	7.4%

問27 共生社会の実現のための法律や考え、調布市が令和6年度に制定した2つの条例を知っていますか。(それぞれ1つに○)

	内容を知っている	聞いたことはある(内容は知らない)	知らない	無回答	説明
身体(64歳以下)(N=238)					
ア 障害者差別解消法	12.6%	27.7%	55.0%	4.6%	障害を理由とする差別の解消を推進することを目的とする法律
イ 合理的配慮	14.7%	22.3%	58.4%	4.6%	役所や事業者に対し、障害者から社会の中にあるバリア(生活がしづらくなる社会的障壁)を取り除くための何らかの対応を必要としているとの意思が伝えられた時に、負担が重すぎない範囲で対応すること
ウ パラハートちょうふ	5.0%	30.3%	60.1%	4.6%	「様々な障害に対する理解を深め、一人ひとりが寄り添う心を持ち、手を取り合って暮らせる社会に」という想いを込めて作成した調布市のキャッチフレーズ
エ 調布市言語コミュニケーション条例	3.8%	11.3%	79.4%	5.5%	独自の言語である手話に対する理解促進と普及を推進するための条例
オ 調布市障害者の多様な意思疎通に關する条例	3.4%	10.9%	80.7%	5.0%	障害の特性に応じた多様な意思疎通(コミュニケーション)のための手段、配慮、支援等に対する理解促進と普及を推進するための条例

身体(65歳以上) (N=190)	内容を知っている	聞いたことはある (内容は知らない)	知らない	無回答	説明
ア 障害者差別解消法	8.9%	17.9%	61.1%	12.1%	障害者権利法とする差別の解消を推進することを目的とする法律
イ 合理的配慮	9.5%	14.7%	62.6%	13.2%	役所や事業者に対し、障害者から社会の中にあるバリア(生活がしづらくなる社会的障壁)を取り除くために何らかの対応を必要としているとの意思が伝えられた時に、負担が重すぎない範囲で対応すること
ウ バラハートちょうふ	8.9%	25.3%	54.7%	11.1%	「様々な障害に対する理解を深め、人ひとりが寄り添う心を持ち、手を取り合って暮らせる社会に」という想いを込めて作成した調布市のキャラクターズ
エ 調布市手話言語条例	5.3%	14.2%	68.4%	12.1%	独自の言語である手話に対する理解促進と普及を推進するための条例
オ 調布市障害者の多様な意思疎通に関する条例	6.3%	15.8%	68.9%	8.9%	障害の特性に応じた多様な意思疎通(コミュニケーション)のための手段、記号、支援等に対する理解促進と普及を推進するための条例

「調布市手話言語条例」

「調布市障害者の多様な意思疎通に関する条例」についてはこちら⇒

「バラハートちょうふ」についてはこちら⇒



 コラム ■ 東京 2025 デフリンピックが調布にやってくる！

デフリンピックとは、デフ+オリンピックのこと。デフ(Deaf)とは、英語で「音が聞こえない」という意味です。

デフリンピックは国際的な「聞こえない人」のためのオリンピックで、11月15日から26日まで、日本で初めて開催されます。調布市では東京アリーナ TOKYO でイベント・競技が実施されます。予約不要、入場無料で開催されます。

▶デフリンピックについて詳しくはこちら



問28 外出時に使用している主な移動手段は何か、(2つまで○)	身体(64歳以下)(N=238)		身体(65歳以上)(N=190)	
	身体(64歳以下)		身体(65歳以上)	
1 自家用車(自走運転する)	19.7%		12.1%	
2 自家用車(運転手が別にいる)	13.0%		14.7%	
3 電車	47.9%		33.7%	
4 バス	27.3%		36.8%	
5 タクシー	13.9%		17.9%	
6 徒歩・自転車・車いす	51.3%		44.2%	
7 その他(具体的に：)	4.6%		5.3%	
8 該当なし	0.8%		2.1%	
無回答	2.9%		4.7%	

問29 市内のバリアフリー・ユニバーサルデザイン(※)について、どのように感じていますか。
(それぞれ1つに○)

身体(64歳以下)(N=238)	とても充実している	充実している	あまり充実していない	充実していない	わからない	無回答
ア 車いすの人を含め誰もが安全に通れる建物の出入口や通路(段差をなくす、幅を広げるなど)	2.1%	28.2%	29.8%	13.9%	19.3%	6.7%
イ 公衆施設や病院などのスロープ、エレベーターやエスカレーター	6.7%	42.4%	22.3%	7.6%	13.9%	7.1%
ウ 車いすの人や乳幼児を運んだ人、作業者の同伴が必要な人など、誰もが使いやすいトイレ	2.5%	35.3%	24.4%	13.4%	16.8%	7.5%
エ 歩きやすいように障害物(商品や看板、放置自転車、電柱など)を取り除かれ、段差や凹凸が少なく十分に幅のある歩道や通路	1.7%	14.3%	36.1%	29.4%	12.2%	6.3%
オ 点字プロックや視覚障害者の信号機	2.5%	24.4%	25.6%	10.5%	29.4%	7.5%
カ 車いすやベビーカーで乗降しやすいバンスステップスやリフト付バス、ユニバーサルデザインタクシー	2.1%	26.1%	26.1%	12.6%	26.1%	7.1%
キ 車いす利用者等用の駐車場	1.3%	18.5%	24.8%	9.7%	38.2%	7.5%

調布市長福祉ニーズ調査【障害者アンケート(18歳以上)】

ク	誰もがわかりやすいデザイン(文字の大きさ・種類・色・イラストなど)及び位置における、多言語を用いた案内表示	3.8%	19.7%	21.8%	11.3%	35.7%	7.6%
ケ	手話の対応や音声ガイドがある施設	1.3%	8.0%	16.0%	13.4%	53.8%	7.6%
コ	補助犬と同伴での入室が配慮された店・レストランなど	0.4%	6.7%	14.7%	15.1%	55.5%	7.6%
ナ	公園・道路などを含む、まち全体のユニバーサルデザイン	2.1%	14.3%	25.2%	12.2%	38.2%	8.0%
シ	高齢者・子ども連れの家族、障害や病氣などがある人に対する人々の接し方や配慮	2.1%	18.9%	25.6%	17.6%	27.7%	8.0%

	身体(65歳以上) (N=190)	とても充実している	充実している	あまり充実していない	充実していない	わからない	無回答
ア	車いすの人を含め誰もが安全に通れる建物の出入口や通路(段差をなくす、幅を広げるなど)	2.1%	17.9%	31.6%	8.4%	27.4%	12.6%
イ	公共施設や病院などのスロープ、エレベーターやエスカレーター	5.3%	45.8%	14.7%	3.7%	18.4%	12.1%
ウ	車いすの人や乳幼児を運ぶ人、介助者の同伴が必要の人など、誰もが使いやすいトイレ	3.7%	28.4%	23.7%	5.8%	25.8%	12.6%
エ	歩きやすいように障害物(商品や看板、放置自転車、電柱など)を取り除かれ、段差や凹凸が少なく十分に幅のある歩道や道路	0.0%	16.3%	32.1%	24.2%	16.3%	11.1%
オ	点字ブロックや視覚障害者の信号機	1.6%	23.7%	21.1%	5.3%	35.3%	13.2%
カ	車いすやベビーカーで乗降しやすいノンステップバスやリフト付バス、ユニバーサルデザインタクシー	2.1%	20.5%	25.3%	5.3%	33.7%	13.2%
キ	車いす使用者等用の駐車場	1.6%	12.6%	26.3%	4.7%	41.6%	13.2%
ク	誰もがわかりやすいデザイン(文字の大きさ・種類・色・イラストなど)及び位置における、多言語を用いた案内表示	1.6%	13.7%	25.3%	6.3%	40.5%	12.6%
ケ	手話の対応や音声ガイドがある施設	1.1%	6.3%	17.9%	4.2%	57.4%	13.2%

調布市長福祉ニーズ調査【障害者アンケート(18歳以上)】

コ	補助犬と同伴での入室が配慮された店・レストランなど	0.0%	3.7%	20.0%	5.3%	56.3%	13.2%
サ	公園・道路などを含む、まち全体のユニバーサルデザイン	0.5%	13.7%	24.7%	7.9%	41.6%	11.6%
シ	高齢者・子ども連れの家族、障害や病氣などがある人に対する人々の接し方や配慮	1.6%	25.8%	28.4%	5.3%	28.3%	10.0%

※ ユニバーサルデザインとは、障害の有無・年齢・性別・人種などに関わらず、多様な人が利用しやすいよう、事前に環境などをデザインすること。

問30 誰もが暮らしやすいまちづくりに向けて、病後・障害・国籍・生活習慣などの違いによる心理的な障壁を取り除く(心のバリアフリー)のために、特に必要な取組は何だと思いますか。(2つまで○)

身体(64歳以下)(N=238)		身体 (64歳以下)	身体 (65歳以上)
1	学校における、お互いを理解し、思いやる心を育てるための教育 や、障害者などさまざまな人と触れ合う機会の充実	44.1%	35.3%
2	意欲啓発のための研修・講演会の開催	7.6%	13.2%
3	障害者や外国人など、さまざまな住民が交流する機会を増やす	29.4%	15.8%
4	わかりやすい情報発信	47.9%	45.3%
5	その他(具体的に:)	1.7%	1.6%
6	わからない	13.9%	17.4%
	無回答	8.4%	11.6%

問31 普段の暮らしや外・日とのとき、障害や病氣への差別や偏見、配慮のなさを感ずる場面はありますか。(いくつでも○)

		身体 (64歳以下)	身体 (65歳以上)
1	教育の機会	8.8%	2.1%
2	仕事や取入	23.5%	4.2%
3	近所付き合いや地域の行事・活動	6.3%	5.3%
4	店での扱いや店員の対応・態度	14.3%	6.8%
5	まちなかでの人の視線	19.7%	10.5%
6	交通機関や建物のつくりの配慮	35.7%	16.8%
7	行政職員の応対・態度	9.7%	3.2%
8	その他(具体的に:)	4.6%	3.7%
9	特に感じない	31.9%	53.2%
	無回答	7.6%	13.7%

問32 あなたは、調布市が配布しているヘルプカード(※)、ヘルプマーク(※)をもっていますか、(それぞれ1つに○)

	身体(64歳以下)(N=238)	
①ヘルプカード	1 もっていて、いつも、もち歩いている	16.8%
	2 もっているが、もち歩いていない	26.1%
	3 もっていないが、ほしいと思う	18.1%
	4 もっていないし、必要ない 無回答	34.9%
②ヘルプマーク	1 もっていて、いつも、もち歩いている	4.2%
	2 もっているが、もち歩いていない	28.2%
	3 もっていないが、ほしいと思う	14.7%
	4 もっていないし、必要ない 無回答	20.6%
		31.1%
		5.5%

	身体(65歳以上)(N=190)	
①ヘルプカード	1 もっていて、いつも、もち歩いている	21.1%
	2 もっているが、もち歩いていない	14.7%
	3 もっていないが、ほしいと思う	15.8%
	4 もっていないし、必要ない 無回答	31.6%
②ヘルプマーク	1 もっていて、いつも、もち歩いている	16.8%
	2 もっているが、もち歩いていない	21.6%
	3 もっていないが、ほしいと思う	15.8%
	4 もっていないし、必要ない 無回答	17.4%
		29.5%
		15.8%

※ヘルプカードは、障害のある人が緊急連絡先、連絡情報、手伝ってほしい内容などを記載して、普段から身に付けておくことで、緊急時や災害時、日常の困ったときに、周囲の配慮や手助けをお願いしやすいものです。障害福祉課の窓口で配布しています。これとは別に、障害のある人に限らず、外資からわからなくても援助や配慮を必要としている人のために「ヘルプマーク」もあります。

あなたの支障が必要です。

ヘルプカード

調布市

+

♥

ヘルプカード

ヘルプマーク

問33 ヘルプカードやヘルプマークをもっていることで、周囲の人に配慮してもらったり、手助けをしてもらったりすることがありますか。(1つに○)

	身体(64歳以下)(N=238)	身体(65歳以上)(N=190)	
	身体(64歳以下)	身体(65歳以上)	身体(65歳以上)
1 ある	24.4%	16.8%	3 もっていない、わからない
2 ない	25.2%	25.3%	無回答
			6.7%
			17.9%

7 デジタルの活用についておたずねします

問34 調布市の保健福祉施策(サービス)に関する情報をどこから入手していますか、(いくつでも○)

	身体(64歳以下)(N=238)	身体(65歳以上)(N=190)	
	身体(64歳以下)	身体(65歳以上)	身体(65歳以上)
1 市のホームページ		29.8%	17.4%
2 市の広報紙・チラシ		45.4%	47.4%
3 市役所・相談機関などの窓口		16.8%	12.6%
4 テレビ(ケーブルテレビを含む)・ラジオ		2.9%	6.3%
5 家族、友人・知人からの口コミ		13.4%	12.6%
6 SNS		9.2%	3.2%
7 その他(具体的に：)		4.2%	3.2%
8 知らない、情報は入手していない		21.0%	24.7%
無回答		3.8%	9.5%

問35 普段、スマートフォンなどの情報端末やパソコンなどを使っていますか。(1つに○)

	身体(64歳以下)(N=238)	身体(65歳以上)(N=190)	
	身体(64歳以下)	身体(65歳以上)	身体(65歳以上)
1 使っている	80.3%	45.3%	2 使っていない
			無回答
			3.8%
			8.4%

問36 あなたがスマートフォンなどの情報端末やパソコンなどを使ってしたいこと、暮らしの利便性を高めるアイデアがございましたら、教えてください。(自由記述)

調布市民福祉ニーズ調査【障害者アンケート(18歳以上)】

8 調布市の障害者福祉施策についておたずねします

問37 あなたは次の調布市の相談窓口や制度を知っていますか。(それぞれ1つに○)

身体(64歳以下)(N=238)	知っている	知らない	無回答	説明
ア トリヂェ (相談支援 地域活動支援センター)	28.2%	67.2%	4.6%	主に身体障害、高次脳機能障害のある人の相談窓口です。
イ ちようふだぞう (相談支援 地域活動支援センター)	30.7%	63.9%	5.5%	主に知的障害のある人の相談窓口です。
ウ 希望ヶ丘 (相談支援 地域活動支援センター)	9.2%	84.9%	5.9%	主に精神障害のある人の相談窓口です。
エ こころの健康支援センター (相談支援・デイ事業等)	18.1%	76.5%	5.5%	主に精神障害、発達障害のある人の相談窓口です。
オ 難病相談窓口 (障害福祉課・予約制)	11.8%	82.8%	5.5%	難病にかかったことでの不安や悩みごと全般に対する相談窓口です。
カ 障害者虐待防止センター (障害福祉課)	8.8%	86.1%	5.0%	障害者の虐待に関する相談・通報を受ける窓口です。
キ 地域福祉コーディネーター (社会福祉協議会)	21.8%	71.8%	6.3%	地域福祉コーディネーターは、支援者支援を主な役割として、市内8つの福祉団体に名づつ配置されており、生活上の悩みや困りごとを抱える方、制度の申請で苦しんでいる方に対し、様々な機関や団体と連携しながら、課題の解決を図ります。
ク 成年後見制度	39.5%	53.8%	5.7%	判断能力が不十分であるために意思決定が困難な人の判断能力を後見人などが補っていただくことによって、法的に保護する制度です。 市は、権利擁護支援の窓口である「利用者サポート相談」に専門の相談員を配置し、権利擁護支援を必要とする方に対し、相談支援等を行っています。(福祉総務課)

調布市民福祉ニーズ調査【障害者アンケート(18歳以上)】

身体(65歳以上)(N=190)	知っている	知らない	無回答	説明
ア トリヂェ (相談支援 地域活動支援センター)	23.2%	55.3%	11.5%	主に身体障害、高次脳機能障害のある人の相談窓口です。
イ ちようふだぞう (相談支援 地域活動支援センター)	21.6%	55.3%	3.2%	主に知的障害のある人の相談窓口です。
ウ 希望ヶ丘 (相談支援 地域活動支援センター)	8.4%	76.8%	14.7%	主に精神障害のある人の相談窓口です。
エ こころの健康支援センター (相談支援・デイ事業等)	15.8%	70.0%	14.2%	主に精神障害、発達障害のある人の相談窓口です。
オ 難病相談窓口 (障害福祉課・予約制)	11.6%	74.2%	14.2%	難病にかかったことでの不安や悩みごと全般に対する相談窓口です。
カ 障害者虐待防止センター (障害福祉課)	12.1%	73.7%	14.2%	障害者の虐待に関する相談・通報を受ける窓口です。
キ 地域福祉コーディネーター (社会福祉協議会)	32.6%	52.6%	14.7%	地域福祉コーディネーターは、支援者支援を主な役割として、市内8つの福祉団体に名づつ配置されており、生活上の悩みや困りごとを抱える方、制度の申請で苦しんでいる方に対し、様々な機関や団体と連携しながら、課題の解決を図ります。
ク 成年後見制度	40.0%	44.2%	15.8%	判断能力が不十分であるために意思決定が困難な人の判断能力を後見人などが補っていただくことによって、法的に保護する制度です。 市は、権利擁護支援の窓口である「利用者サポート相談」に専門の相談員を配置し、権利擁護支援を必要とする方に対し、相談支援等を行っています。(福祉総務課)

問38 調布市の障害者福祉施策(サービス)をより充実していくために、特に重要と考える取組は何ですか。(いくつでも○)

	身体 (64歳以下)	身体 (65歳以上)
1 困ったことや福祉サービスの利用などを気軽に相談できる窓口	58.8%	55.3%
2 相談づくりや地域での居場所サービス	18.1%	16.3%
3 手当や医療費の助成などの経済的な支援	53.4%	42.6%
4 成年後見制度など、金銭・財産などの管理の支援	13.9%	5.3%
5 ホームヘルパー、コミュニケーション支援など、社会参加の支援	26.5%	30.0%
6 ガイドヘルパー、コミュニケーション支援など、社会参加の支援	14.7%	7.9%
7 介護者の病気など、緊急時における一時預かり、ショートステイ	24.4%	23.2%
8 日中の活動場所(作業所などの障害者施設)の整備	14.3%	6.3%
9 企業などで働くための支援(就労支援)	23.5%	5.3%
10 仕事以外の趣味や余暇活動・スポーツ活動などの支援や場所の整備	18.5%	10.5%
11 グループホームなど、地域における住まいの場の整備	15.1%	12.1%
12 障害理解の促進や差別の解消	22.7%	5.3%
13 公共施設や道路、交通機関などのバリアフリー	34.9%	26.8%
14 障害に応じた多様な情報提供の充実	26.1%	21.6%
15 災害時の支援体制の整備	33.6%	28.4%
16 デジタル技術を活用した、情報提供や意識醸成支援	21.8%	5.8%
17 その他(具体的に：)	3.8%	1.6%
無回答	9.2%	17.4%

問39 市民同士が互いに支え合い、住み慣れたまちで誰もが安心して暮らすことのできるまちづくりを進めるためには、以下の①～⑤の取組が重要です。これらの取組について、ご意見、ご提案をお聞かせください。(自由記述)

取組番号

①地域活動の活性化・市民同士の支え合いの仕組みづくり

②相談・サービスの充実

③安全・安心の確保等

取組番号：①・②・③(いずれかに○。複数選択可)

ご意見・ご提案

3つの取組以外で気になっていること

9 ご家族におたずねします
(ひとり暮らし、グループホームなどの人は回答不要です)

問40 ご家族におたずねします(ご家族以外は回答不要)。

主に介護や支援をしている人の年齢を教えてください。(1つに○)

	身体 (64歳以下)	身体 (65歳以上)	身体 (64歳以下)	身体 (65歳以上)
1 10歳代	0.6%	0.0%	6 30歳代	20.6%
2 20歳代	1.1%	0.7%	7 70歳代	8.9%
3 30歳代	4.4%	0.7%	8 80歳以上	15.1%
4 40歳代	6.1%	2.2%	9 いなし	8.6%
5 50歳代	21.1%	9.4%	無回答	25.2%

問41 ご家族におたずねします(ご家族以外は回答不要)。

介護や支援にあたっている人の年齢を教えてください。(いくつでも○)

	身体 (64歳以下)	身体 (65歳以上)	身体 (64歳以下)	身体 (65歳以上)
1 障害や病気のことがよくわからない		2.2%		5.0%
2 適切な介護・支援の方法がわからない		10.6%		8.6%
3 自分の時間をもてない(余暇・外出・休養など)		21.7%		10.1%
4 自分の希望する仕事につくことが難しい		7.8%		3.6%
5 自分の学校・学習がおろそかになる		0.6%		0.0%
6 介護・支援をする家族自身の高齢化		24.4%		33.8%
7 介護・支援をする家族自身も障害や病気があ		13.3%		13.7%
8 本人のほかにも介護・支援が必要な家族が		8.9%		7.9%
9 何かあったときに本人の介護・支援を頼める人(場所)がない		20.6%		17.3%
10 相談できる場所がない		10.6%		5.0%
11 障害のある当事者、家族同士の情報交換、交流の機会がない		7.8%		2.9%
12 経済的な負担が大きい		13.9%		11.5%
13 その他(具体的に：)		2.2%		0.0%
14 特にない		17.2%		15.8%
15 いらないのでわからない		3.3%		3.6%
無回答		27.2%		30.2%

調布市民福祉センター設置【障害者アンケート(18歳以上)】

問42 ご家族におたずねします(ご家族以外は回答不要)。
 介助する人への支援として方を入れてほしいことは何ですか。(いくつでも○)

	身体 (64歳以下) (n=180)	身体 (65歳以上) (n=139)
1 介助者同士が交流したり、話し合える場を作ってくれること	4.4%	3.6%
2 本人の介助や支援から離れる時間を作ってくれること	16.7%	13.7%
3 家事や育児を手伝ってくれること	10.0%	6.5%
4 介助や支援の状況に柔軟に対応してくれる職場環境や働き方の普及	14.4%	6.5%
5 支援制度や福祉サービスなどの情報提供・相談窓口の充実	32.8%	30.9%
6 その他(具体的に：)	5.6%	2.9%
7 わからない	17.8%	15.1%
無回答	28.9%	38.8%

アンケートは以上です。たくさんの方の間にお答えいただき、誠にありがとうございました。
 調査結果は市ホームページで公表し、図書館などで閲覧できます(令和8年4月頃の予定)。

4 障害者（18歳以上・知的障害-精神障害-難病）

調布市民福祉センター企画【障害者アンケート（18歳以上）】

障害のある人が暮らしやすいまちづくりのための 福祉に関するアンケート

～ご協力をお願いします～

市民の皆さまには、百歳から調布市の福祉行政の推進にご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

市は、「地域福祉計画」「高齢者総合計画」「障害者総合計画」の福祉3計画を推進させて、子どもから高齢者まで、誰もが安心して暮らしやすいまちづくりを進めています。

このアンケートは、暮らしやすいまちづくりを確実に進めることに市民の皆さまの意見をいかに活かすため、障害者手帳や特定医療費（指定難病）受給者証をお持ちの方のみなから、2,700人を無作為抽出したところ、あなたにアンケートをお願いすることになりました。

このアンケートは無記名です。回答は統計的に処理いたしますので、個人が特定されることはありません。また、回答を調査目的以外に使用することはありません。

お忙しいところ誠に恐縮に存じますが、調査の趣意をご理解いただき、ご協力を願います。申しあげます。

令和7年10月 調布市長 長友 貴樹

皆さまの回答は、障害のある人が暮らしやすい、支え合うまちづくりに役立っています。調布市の福祉は市長が主役です。例えば、地域の活動に参加したり、誰かが困っている時に声をかけたりすることも、支え合うまちづくりのひとつです。

市民の皆さまをはじめ、地域の団体や商店、学校や企業などの皆さまと一緒に、みんなで支え合うことがとても大切になります。

i

回答者は、封筒のあて名ご本人です。（問40～42のみ、ご家族が回答してください）ただし、ご本人が回答することが難しい場合、ご家族や代理の方がご本人の意思を聞いて記入しても差し支えありません。

ハローハートちようふ

※調査票の各ページには、「音声コード(Uni-Voice)」を付しています。「音声コード」とは、1.8センチメートル角のコードを専用の読取機やスマートフォンアプリが音声を変換し、文章内容を読み上げるものです。

調布市民福祉センター企画【障害者アンケート（18歳以上）】

～記入についてお願いします～

【回答期限】令和7年11月4日(火) 【回答所要時間】30分から1時間程度(目安)

【回答方法】郵送 または インターネット

(※どちらか一つの方法で、投函もしくは送信してください)

《郵送》調査票による回答の方法

①回答は、あてはまる番号を○で囲んでください。「その他」を選択する場合は番号を○で囲み、()に具体的な内容を記入してください。

②質問によっては、回答数や回答者が偏られる場合があります。

③回答しづらい、わからない場合は無理をせず、次の問に進んでください。全ての質問に回答できなくても大丈夫です。

④回答終了後、同封の返信用封筒に入れて封かんし、回答期限までにポストに投函してください。

《インターネット》回答の方法

①以下のURL、または三次元コードから専用ウェブサイトにアクセスしてください。

②調査票と同じ質問が画面に表示されます。

③回答の途中で保存することができます。

<専用ウェブサイトのURL>

<https://smilesurvey.co/s/b0771adb/o>



【調査】についてのお問い合わせ先

調布市 福祉健康部 障害福祉課

電話 042-481-7135・7094 (直通)

Fax 042-481-4285

E-mail svougai@city.chofu.tg.jp

調布市民福祉ニーズ調査【姉書者アンケート(18歳以上)】

問1 この調査に回答していただく人を教えてください。(1つに○)

	知的	精神	難病	知的	精神	難病
1 本人	40.4%	84.9%	85.3%	3 その他	0.0%	0.6%
2 家族などが代筆	52.5%	11.2%	9.5%	無回答	7.1%	4.6%

1 あなた(ご本人)についておたずねします

問2 性別を教えてください。(1つに○)

	知的	精神	難病	知的	精神	難病	
1 男性	59.2%	43.9%	44.5%	3	その他	1.0%	0.6%
2 女性	35.8%	51.8%	52.6%	無回答	3.8%	3.3%	2.3%

問3 年齢を教えてください。(1つに○) (令和7年10月1日現在)

	知的(N=240)			精神(N=392)			難病(N=348)		
	知的	精神	難病	知的	精神	難病	知的	精神	難病
1 10歳代	7.1%	1.8%	0.6%	5	50歳代	12.1%	26.0%	19.3%	
2 20歳代	37.5%	12.8%	2.9%	6	60歳代	2.1%	14.3%	21.6%	
3 30歳代	19.6%	17.9%	4.0%	7	70歳代	1.3%	5.4%	24.4%	
4 40歳代	14.6%	18.1%	11.8%	8	80歳以上	1.7%	1.0%	13.8%	
				無回答		4.2%	2.8%	1.7%	

問4 お住まいの地域を教えてください。(1つに○)

	知的	精神	難病		知的	精神	難病
緑ヶ丘・浦坂小学校地域	7.5%	8.7%	11.8%	第二・八雲台・国領小学校地域	12.5%	15.8%	17.5%
若葉・調和小学校地域	8.8%	14.5%	12.4%	染地・杉森・布田小学校地域	15.8%	10.7%	12.4%
上ノ原・柏野小学校地域	9.6%	7.1%	8.3%	第一・富士見台・多摩川小学校地域	12.1%	13.0%	14.9%
北ノ台・深大寺小学校地域	11.7%	11.2%	7.5%	第三・石原・飛田給小学校地域	18.3%	15.8%	12.6%
				無回答	3.8%	3.1%	2.6%

調布市民福祉ニーズ調査【姉書者アンケート(18歳以上)】

問5 住居形態を教えてください。(1つに○)

	知的 障害	精神 障害	難病	知的 障害	精神 障害	難病		
1 持ち家	64.5%	36.5%	66.1%	3	グループ ホーム	1.3%	0.0%	0.3%
2 賃貸住宅 （民間アパート、都営住宅 などを含む）	30.8%	57.9%	28.4%	4 その他 （具体的に：）		1.7%	3.3%	3.4%
				無回答		1.7%	2.3%	1.7%

問6 同居している家族を教えてください。(いくつでも○)

	知的	精神	難病	知的	精神	難病
1 ひとり暮らし(グループホームなどを含む)						
2 配偶者(夫または妻)						
3 父親						
4 母親						
5 子ども(子どもの配偶者を含む)						
6 孫(孫の配偶者を含む)						
7 兄弟姉妹						
8 祖父母						
9 その他(具体的に:)						
無回答						

問7 おもちゃの箱等とその奇麗を教えてください。(いくつでも○)

	知的	精神	難病	知的	精神	難病
1 身体障害者手帳						
2 夢の手帳						
3 精神障害者保健福祉手帳						
4 特定医療費(指定難病)受給者証・マル都医療券						
5 もっていない						
無回答						

調布市民福祉ニーズ調査【障害者アンケート(18歳以上)】

身体障害者手帳	知的(n=24) 精神(n=28) 難病(n=56)			
	知的	精神	難病	難病
1級	45.8%	7.1%	16.1%	14.3%
2級	20.8%	35.7%	21.4%	0.0%
3級	16.7%	32.1%	32.1%	3.6%
			無回答	7.1%
				1.8%

愛の手帳	知的(n=224) 精神(n=47) 難病(n=2)			
	知的	精神	難病	難病
1度	4.9%	4.3%	0.0%	21.3%
2度	25.0%	10.6%	0.0%	61.7%
			無回答	6.3%
				2.1%
				0.0%

精神障害者保健福祉手帳	知的(n=8) 精神(n=319) 難病(n=8)			
	知的	精神	難病	難病
1級	12.5%	2.8%	12.5%	44.5%
2級	75.0%	50.8%	87.5%	1.9%
			無回答	12.5%
				0.0%

問8 どのような病気や障害がありますか。(いくつでも○)
※特定医療費(指定難病)受給者証を
もつ人は、「11 その他」の欄に病名をご記入ください。

	知的(N=240) 精神(N=392) 難病(N=348)			
	知的	精神	難病	難病
1 目が不自由(視覚障害)				
2 耳が不自由(聴覚障害・平衡機能障害)	2.9%	0.5%	3.4%	
3 言葉が不自由(音声・言語・そしゃく障害)	1.3%	1.0%	1.4%	
4 手足が不自由(上肢・下肢障害・身体機能障害・運動機能障害)	7.9%	1.3%	2.0%	
5 心臓・腎臓・肝臓・呼吸器・ぼうこう・直腸・小腸などの障害(内部障害)	7.5%	3.8%	13.5%	
6 免疫機能障害	1.7%	3.3%	24.7%	
7 知的障害	0.0%	0.5%	12.6%	
8 精神疾患・精神障害(発達障害を除く)	82.9%	12.8%	0.6%	
9 発達障害(自閉スペクトラム症・学習症(LD)、注意欠如・多動症(ADHD)など)	7.5%	73.5%	3.7%	
10 高次脳機能障害	33.3%	24.7%	0.9%	
11 その他(具体的に：)	1.3%	3.6%	0.3%	
無回答	4.2%	4.3%	53.4%	
				6.0%

調布市民福祉ニーズ調査【障害者アンケート(18歳以上)】

2 相談支援についておたずねします

問9 悩みや困りごとがある場合、主にどこに相談しますか。(いくつでも○)
知的(N=240) 精神(N=392) 難病(N=348)

	知的	精神	難病	難病
1 家族・親族(一緒に生んでいる・離れて住んでいる)	70.4%	59.9%	69.5%	
2 友人・知人	16.3%	27.3%	21.3%	
3 相談支援機関の職員(ちいっぴだぞう、ドルチェ、希望ヶ丘、こころの健康支援センター、サービス等利用計画の作成やモニタリングを行う相談支援専門員)	46.3%	28.3%	4.3%	
4 障害者施設(作業所、グループホームなどの職員、ヘルパー)	35.0%	15.3%	2.0%	
5 介護保険のケアマネジャー	2.1%	3.3%	12.4%	
6 市役所の職員	12.9%	12.0%	8.6%	
7 民生委員・児童委員	0.0%	0.3%	0.3%	
8 医療機関(医師、看護師、ケースワーカー、訪問看護の職員)	23.3%	46.2%	40.8%	
9 その他(具体的に：)	5.0%	5.1%	2.9%	
10 相談する人がいない	3.3%	7.7%	2.9%	
11 相談の必要はない	2.9%	1.8%	7.8%	
無回答	1.7%	2.6%	1.7%	

問10 あなたは、医療機関(歯科を含む)の受診で困ることはありますか。(いくつでも○)

	知的(N=240) 精神(N=392) 難病(N=348)			
	知的	精神	難病	難病
1 かかりつけ医(日常的に健康について相談できる医療機関)がない	9.6%	8.4%	8.6%	
2 かかりつけ歯科医(歯の健康や治療について相談できる歯科医)がない	9.2%	5.9%	4.6%	
3 定期的な健康診断を受けられない	5.8%	7.1%	2.3%	
4 定期的な歯科検診を受けられない	4.2%	5.6%	3.2%	
5 専門的な治療やハビリを行う医療機関が身近にない	2.9%	4.1%	4.6%	
6 障害を理由に診療や検診などを断られたことがある	6.7%	3.3%	1.1%	
7 通院するときに介助してくれる人がいない	1.7%	4.3%	3.2%	
8 医療費や交通費の負担が大きい	3.8%	21.4%	21.0%	
9 医師・歯科医師とコミュニケーションがとりづらい	14.6%	9.9%	2.9%	
10 その他(具体的に：)	5.8%	7.7%	7.2%	
11 特になし	52.9%	51.0%	57.8%	
無回答	5.4%	5.6%	6.0%	

調布市民福祉ニーズ調査【調査者アンケート(18歳以上)】

問11 今後、どのように生活したいですか。(1つに○)

	知的(N=240)		精神(N=392)		難病(N=348)	
	ない	ほとんど ない	時々ある	常に ある	ない	ほとんど ない
1 親や兄弟などの家族と一緒に生活する	43.3%	25.8%	43.3%	25.8%	43.3%	24.7%
2 ひどい暮らし、または自分の配偶者と一緒に生活する	17.9%	47.4%	17.9%	47.4%	17.9%	52.6%
3 グループホームで生活する	16.3%	4.1%	16.3%	4.1%	16.3%	0.3%
4 入所施設で生活する	3.8%	2.0%	3.8%	2.0%	3.8%	5.2%
5 その他(具体的に:)	2.9%	3.3%	2.9%	3.3%	2.9%	1.4%
6 わからない	13.8%	14.8%	13.8%	14.8%	13.8%	13.5%
無回答			2.1%	2.6%		2.3%

3 日頃のコミュニケーションについておたずねします

問12 次の項目についてあなたはどれくらいの頻度で感じていますか。(それぞれ1つに○)

	ない	ほとんど ない	時々ある	常に ある	無回答
知的(N=240)					
ア 自分には人とのつきあいが無いと感じることがある	26.7%	22.9%	30.4%	13.3%	6.7%
イ 自分は取り残されていると感じることがある	33.3%	26.3%	22.9%	7.9%	9.6%
ウ 自分は他の人たちから孤立していると感じることがある	37.1%	24.6%	20.0%	8.8%	9.6%
エ 自分は孤独であると感じることがある	36.7%	23.8%	22.1%	7.1%	10.4%

	ない	ほとんど ない	時々ある	常に ある	無回答
精神(N=392)					
ア 自分には人とのつきあいが無いと感じることがある	20.9%	18.6%	38.0%	18.4%	4.1%
イ 自分は取り残されていると感じることがある	18.6%	16.3%	37.8%	23.0%	4.3%
ウ 自分は他の人たちから孤立していると感じることがある	16.6%	19.4%	34.7%	24.5%	4.8%
エ 自分は孤独であると感じることがある	18.4%	18.4%	36.5%	22.4%	4.3%

調布市民福祉ニーズ調査【調査者アンケート(18歳以上)】

	ない	ほとんど ない	時々ある	常に ある	無回答
難病(N=348)					
ア 自分には人とのつきあいが無いと感じることがある	35.6%	25.6%	22.4%	12.4%	4.0%
イ 自分は取り残されていると感じることがある	43.1%	27.6%	18.7%	6.0%	4.6%
ウ 自分は他の人たちから孤立していると感じることがある	43.4%	29.6%	18.4%	4.0%	4.6%
エ 自分は孤独であると感じることがある	43.4%	27.6%	20.1%	4.9%	4.0%

問13 家族や友人たちとのコミュニケーション頻度についておたずねします。
あなたと同じように家族や友人たちとのコミュニケーション頻度について、お答えください。
(それぞれ1つに○)

	週 4 回 以上	週 2 回 程度	週 1 回 程度	2 週 間 に 1 回 程度	月 1 回 程度	月 1 回 未満	全 く ない で き な い	無 回 答
知的(N=240)								
ア 直接会って話す(手話等を含む)	26.7%	7.1%	4.2%	6.7%	10.0%	5.8%	17.9%	11.7%
イ 電話(ビデオ通話含む)	5.4%	4.6%	3.3%	3.3%	7.9%	14.2%	43.3%	17.5%
ウ SNS(※)や電子メールなど	14.2%	5.8%	2.9%	1.3%	4.2%	7.1%	44.2%	20.4%

	週 4 回 以上	週 2 回 程度	週 1 回 程度	2 週 間 に 1 回 程度	月 1 回 程度	月 1 回 未満	全 く ない で き な い	無 回 答
精神(N=392)								
ア 直接会って話す(手話等を含む)	15.1%	10.5%	9.9%	7.7%	13.0%	16.1%	19.9%	7.9%
イ 電話(ビデオ通話含む)	12.5%	7.1%	8.2%	5.4%	11.0%	18.4%	28.6%	8.9%
ウ SNS(※)や電子メールなど	24.0%	9.2%	9.7%	7.1%	10.7%	21.2%	11.0%	

調布市民福祉ニュース調査【障害者アンケート(18歳以上)】

調布市民福祉ニュース調査 難病(N=348)	週4～5回以上				2週間～1回程度		月1回程度		全くできない	
	週4～5回以上	週4～5回以上	週4～5回以上	週4～5回以上	週4～5回以上	週4～5回以上	週4～5回以上	週4～5回以上	週4～5回以上	週4～5回以上
ア 直接会って話す(手話等を含む)	22.1%	9.5%	12.6%	10.6%	13.2%	16.7%	6.9%	8.3%	8.3%	8.3%
イ 電話(ビデオ通話含む)	11.2%	8.9%	17.0%	9.2%	13.8%	19.5%	9.5%	10.9%	10.9%	10.9%
ウ SNS(※)や電子メールなど	24.1%	16.1%	12.1%	7.8%	6.6%	9.5%	12.1%	11.3%	11.3%	11.3%

※ SNS (ソーシャル・ネットワーキング・サービス) とは、登録された利用者が交流できる、コンピュータやスマートフォンなどを使用したインターネット上のサービス(例: ライン・エックス(旧ツイッター)・フェイスブックなど)。

4 災害時の対策についておたねします

問14 防災マップや洪水ハザードマップなどで避難場所、避難経路、警戒区域などを確認していますか。(1つに○)

1 確認している	知的	精神	難病	知的		精神		難病
				2 確認していない	無回答	2 確認していない	無回答	
	45.8%	45.9%	64.9%	52.9%	1.3%	51.3%	2.8%	31.3%
				無回答				3.7%

問15 災害や火災などの緊急の際、避難情報を主にどこからとりますか。(1つに○)

	知前(N=240)	知中(N=392)	知後(N=340)
	精神	精神	難病
1 防災行政無線		9.6%	10.1%
2 調布市防災・安全情報メール		21.7%	26.4%
3 調布FM		0.8%	0.9%
4 市ホームページ		6.7%	14.4%
5 ケーブルテレビ		6.3%	4.9%
6 SNS(市の公式アカウントを含む)		11.3%	19.0%
7 その他(具体的に:)		4.6%	3.4%
8 わからない		34.6%	17.2%
無回答		4.6%	3.7%

調布市民福祉ニュース調査【障害者アンケート(18歳以上)】

5 暮らしについておたねします

問16 現在、給料や工資を稼ぐ仕事をしていますか。(1つに○)

	知的	精神	難病
1 正規の社員・職員、役員	10.4%	9.2%	23.9%
2 非正規の社員、職員（嘱託、パート、アルバイト、契約、派遣）	21.3%	20.4%	14.1%
3 自由業・自営業（多額主をいを含む）	0.8%	2.0%	7.5%
4 障害者施設（作業所など）	43.3%	17.6%	1.1%
5 仕事をしていたが、現在仕事をしていない	7.9%	41.1%	44.5%
6 これまで仕事をしたことがない（学生を含む）	9.2%	6.6%	5.2%
無回答	7.1%	3.1%	3.7%

問17 職場や学校の人に、あなたの障害や病気のことを伝えていますか。(1つに○)

1 伝えている	知的	精神	難病	知的(N=240)		精神(N=392)		難病(N=34)
				2 伝えていない	無回答	10.8%	10.8%	
	78.3%	55.9%	52.9%	26.7%	20.4%	10.8%	10.8%	30.9%

問18 あなたは、どのような形で働きたい(続けたい)ですか。(1つに○)

	知的	精神	難病
1 正規の社員・職員・役員	18.3%	25.0%	29.3%
2 非正規の社員・職員（備記、パート、アルバイト、契約、派遣）	19.2%	16.6%	17.2%
3 自営業・自営業（家族を営いを含む）	0.8%	8.7%	8.9%
4 障害者施設（作業所など）	40.4%	14.0%	1.1%
5 働きたいと思わない	1.7%	7.7%	18.1%
6 働くことができない	11.3%	21.2%	17.8%
無回答	8.3%	3.8%	7.5%

調布市民福祉ニーズ調査【障害者アンケート(18歳以上)】

問19 あなたが仕事をするために、必要なことはありますか。(いくつでも○)

	知的(N=240)	精神(N=392)	難病(N=348)
1 技術、知識、資格などの習得	17.5%	32.7%	21.8%
2 病気や障害に応じた柔軟な勤務日、勤務時間の設定	30.0%	54.8%	25.9%
3 病気や障害に応じた多様な働き方(在宅ワークなど)	13.8%	38.3%	17.2%
4 雇用する会社の施設設備でのバリアフリー	5.8%	4.6%	2.9%
5 雇用する会社の相談体制や上司・同僚の病状や障害への理解、協力	35.0%	40.6%	14.4%
6 通勤や勤務中の介助や支援	16.7%	9.4%	2.9%
7 就職支援や就職後の仕事の悩みなどを相談できる窓口	22.1%	24.7%	7.8%
8 職場実習など、就職前に試みに働く機会の拡大	11.7%	15.1%	3.7%
9 その他(具体的に：)	4.6%	7.4%	2.6%
10 特に必要ない	20.4%	16.1%	42.2%
無回答	16.3%	7.9%	14.1%

問20 普段の生活の中で、次のような機会がありますか。(それぞれ1つに○)

	知的(N=240)	精神(N=392)	難病(N=348)
ア 好きなところへ出かける(ヘルパー利用も含む)	44.6%	29.2%	7.9%
イ 友人・知人との交流	21.7%	24.6%	22.1%
ウ スポーツ・運動(※1)をする機会	21.7%	29.2%	23.8%
エ 美術・音楽などの文化芸術活動(※2)の機会	17.9%	22.1%	30.8%
オ ウ、エ以外の趣味や習いごと	20.8%	10.0%	32.9%

調布市民福祉ニーズ調査【障害者アンケート(18歳以上)】

	精神(N=392)	精神(N=392)	精神(N=392)	精神(N=392)
ア 好きなところへ出かける(ヘルパー利用も含む)	45.7%	30.1%	9.9%	4.8%
イ 友人・知人との交流	28.3%	34.7%	21.9%	3.6%
ウ スポーツ・運動(※1)をする機会	19.9%	28.1%	32.4%	4.8%
エ 美術・音楽などの文化芸術活動(※2)の機会	25.3%	25.5%	29.1%	5.4%
オ ウ、エ以外の趣味や習いごと	25.3%	20.4%	30.1%	6.9%

	精神(N=348)	精神(N=348)	精神(N=348)	精神(N=348)
ア 好きなところへ出かける(ヘルパー利用も含む)	54.0%	25.0%	6.0%	5.5%
イ 友人・知人との交流	47.4%	30.2%	10.1%	4.6%
ウ スポーツ・運動(※1)をする機会	31.0%	30.2%	19.0%	5.5%
エ 美術・音楽などの文化芸術活動(※2)の機会	23.6%	32.8%	23.6%	5.2%
オ ウ、エ以外の趣味や習いごと	24.4%	27.9%	21.8%	6.6%

※1 ここでの「スポーツ・運動」とは、ウォーキング、体操、ヨガなど、競技だけでなく健康づくりのための活動も含みます。これ以外の質問についても同じです。

※2 ここでの「文化芸術活動」とは、絵を描くこと、美術館・博物館などに行くこと、歌を歌ったり、演奏したりすることを含みます。

問21 スポーツ・運動をする機会はどのくらいありますか。(1つに○)

	知的(N=240)	精神(N=392)	精神(N=348)
1 週に2回以上	18.3%	21.9%	25.0%
2 週に1回程度	14.5%	12.8%	14.4%
3 月に1、2回程度	3	3	3
4 ほとんどない	4	4	4
無回答	41.7%	50.3%	44.3%

問22 スポーツ・運動をどこでしたいですか。(いくつでも○)

	知的 (N=240)	精神 (N=392)	難病 (N=348)
1 地域の体育館	21.7%	18.6%	19.5%
2 民間のスポーツクラブ	14.6%	17.3%	22.7%
3 通所先の施設(作業所など)	28.7%	9.4%	2.9%
4 地域の公園や広場	15.0%	21.2%	23.0%
5 自宅	19.2%	39.0%	29.0%
6 その他(具体的に：)	7.1%	9.9%	7.8%
7 しない、できない	20.0%	22.7%	19.8%
無回答	11.3%	3.1%	6.3%

問23 スポーツ・運動をするために必要な支援は何ですか。(いくつでも○)

	知的 (N=240)	精神 (N=392)	難病 (N=348)
1 活動できる場所	38.8%	43.6%	38.8%
2 指導者	27.5%	19.9%	16.4%
3 障害に応じた器具・用具	12.1%	8.2%	6.6%
4 障害に応じたプログラムの充実や情報提供	30.0%	18.1%	14.9%
5 活動場所までの移動手段	20.8%	14.0%	9.8%
6 活動を介助・サポートしてくれる支援者	30.8%	12.2%	8.0%
7 一緒に活動する仲間	31.7%	29.3%	23.0%
8 その他(具体的に：)	3.3%	7.1%	6.6%
9 スポーツ・運動はしない、できない	18.3%	21.9%	19.3%
無回答	12.1%	7.1%	14.4%

問24 あなたは普段、どのくらい外出しますか。現在のことにしてお答えください。(1つに○)

	知的 (N=240)	精神 (N=392)	難病 (N=348)
1 仕事や学校等で平日は毎日外出する	67.1%	29.6%	29.9%
2 仕事や学校等で週に3～4日外出する	10.0%	18.4%	10.3%
3 遊びや趣味の活動等で頻繁に外出する	4.2%	5.1%	10.3%
4 人づきあいのためにときどき外出する	1.3%	7.1%	10.1%
5 普段は家にいるが、自分の趣味に對する用事のみだけ外出する	4.2%	13.5%	10.9%
6 普段は家にいるが、近所のコンビニなどにだけ出かける	4.6%	16.3%	15.5%
7 自宅からは出るが、家からは出ない	1.7%	4.3%	4.9%
8 自宅からほとんど出ない	1.3%	2.0%	1.7%
無回答	5.8%	3.6%	6.3%

付前1 問24で「5～8」のいずれかに答えた方にうかがいます。

	知的 (n=28)	精神 (n=142)	難病 (n=115)
1 3か月未満	39.3%	17.6%	30.3%
2 3か月～6か月未満	7.1%	5.8%	18.3%
3 6か月～1年未満	3.6%	4.9%	20.4%
4 1年～5年未満	11.3%	10.7%	35.7%
5 5年～10年未満	6.1%	14.3%	13.9%
6 10年以上	13.0%	17.9%	15.7%
無回答	7.1%	2.8%	4.3%

付前2 付前1で「3～6」のいずれかに答えた方にうかがいます。

	知的 (n=13)	精神 (n=105)	難病 (n=90)
1 病気	46.2%	68.6%	62.2%
2 介護・看護を担うことになったこと	7.7%	3.8%	10.0%
3 (就労中)自宅で仕事をしている	0.0%	3.8%	7.8%
4 学校になじめなかったこと	7.7%	5.7%	1.1%
5 職場になじめなかったこと	15.4%	10.5%	0.0%
6 交際・失敗したこと(高校・大学等)	7.7%	1.9%	0.0%
7 就職活動がうまくいかなかったこと	7.7%	6.7%	3.3%
8 人間関係がうまくいかなかったこと	7.7%	21.0%	0.0%
9 退職したこと	15.4%	22.9%	12.2%
10 その他(具体的に：)	15.4%	14.3%	8.9%
11 特に理由はない	23.1%	8.6%	10.0%
12 わからない	15.4%	3.8%	2.2%
無回答	7.7%	2.9%	1.1%

調布市民福祉ニーズ調査【障害者アンケート(18歳以上)】

問25 あなた以外で、市内にお住まいのご家族(同居・別居問わず)に下記の外出状況が当てはまる人はいますか。(1つに○)

	知的	精神	知的	精神	知的	精神	知的	精神	知的	精神
1 普段は家にいるが、自分の趣味に關する月事のとぎだけ外出する	14.2%	16.1%	18.7%	18.7%	14.2%	16.1%	18.7%	18.7%	14.2%	16.1%
2 普段は家にいるが、近所のコンビニなどには出かける	5.8%	10.5%	6.6%	6.6%	5.8%	10.5%	6.6%	6.6%	5.8%	10.5%
3 自室からは出るが、家からは出ない	0.8%	1.5%	2.6%	2.6%	0.8%	1.5%	2.6%	2.6%	0.8%	1.5%
4 自室からは出るが、家からは出ない	0.4%	0.3%	0.6%	0.6%	0.4%	0.3%	0.6%	0.6%	0.4%	0.3%
5 いずれもない	43.8%	49.0%	51.4%	51.4%	43.8%	49.0%	51.4%	51.4%	43.8%	49.0%
6 外出状況がわからない	8.3%	7.4%	3.7%	3.7%	8.3%	7.4%	3.7%	3.7%	8.3%	7.4%
無回答	26.7%	15.3%	16.4%	16.4%	26.7%	15.3%	16.4%	16.4%	26.7%	15.3%

付問1 問25で「1～4」のいずれかに答えた方にうかがいます。

ご家族の外出状況が現在の状態となつて、どのくらい続きますか。(1つに○)

	知的	精神	知的	精神	知的	精神	知的	精神	知的	精神
1 3か月未満	21.6%	19.8%	21.2%	21.2%	4	1年～5年未満	15.7%	16.2%	33.3%	33.3%
2 3か月～6か月未満	7.8%	2.7%	2.0%	2.0%	5	5年～10年未満	13.7%	16.2%	9.1%	9.1%
3 6か月～1年未満	3.9%	2.7%	10.1%	10.1%	6	10年以上	21.6%	29.7%	17.2%	17.2%
						無回答	15.7%	12.6%	7.1%	7.1%

付問2 付問1で「3～6」のいずれかに答えた方にうかがいます。

ご家族の外出状況が現在の状態になった主な理由は何ですか。(いくつでも○)

	知的	精神	知的	精神	知的	精神	知的	精神	知的	精神
1 病気	25.0%	33.3%	34.8%	34.8%	25.0%	33.3%	34.8%	34.8%	25.0%	33.3%
2 介護・看護を担うことになったこと	3.6%	11.1%	11.6%	11.6%	3.6%	11.1%	11.6%	11.6%	3.6%	11.1%
3 (障害者)自宅の仕事をしている	3.6%	5.6%	2.9%	2.9%	3.6%	5.6%	2.9%	2.9%	3.6%	5.6%
4 学校になじめなかったこと	7.1%	2.8%	2.9%	2.9%	7.1%	2.8%	2.9%	2.9%	7.1%	2.8%
5 職場になじめなかったこと	3.6%	2.8%	1.4%	1.4%	3.6%	2.8%	1.4%	1.4%	3.6%	2.8%
6 受験に失敗したこと(高校・大学等)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
7 就職活動がうまくいかなかったこと	3.6%	4.2%	0.0%	0.0%	3.6%	4.2%	0.0%	0.0%	3.6%	4.2%
8 人間関係がうまくいかなかったこと	7.1%	11.1%	5.8%	5.8%	7.1%	11.1%	5.8%	5.8%	7.1%	11.1%
9 退職したこと	10.7%	16.7%	15.9%	15.9%	10.7%	16.7%	15.9%	15.9%	10.7%	16.7%

調布市民福祉ニーズ調査【障害者アンケート(18歳以上)】

10 その他(具体的に：)	7.1%	19.4%	13.0%	13.0%
11 特に理由はない	35.7%	15.3%	17.4%	17.4%
12 わからない	3.6%	3.3%	0.0%	0.0%
無回答	10.7%	5.9%	10.1%	10.1%

6 誰もが暮らしやすいまちづくりについておたずねします

問26 調布のまちは、障害(身体障害、知的障害、精神障害、難病など)のある人にとって、福祉サービス、バリアフリー、市民意識などを総合的に考え、住みやすいまちであると感じますか。(1つに○)

	知的	精神	知的	精神	知的	精神	知的	精神
1 住みやすいと思う	32.9%	25.5%	20.4%	20.4%	32.9%	25.5%	20.4%	20.4%
2 どちらかといえば、住みやすいと思う	50.0%	49.0%	60.6%	60.6%	50.0%	49.0%	60.6%	60.6%
3 どちらかといえば、住みやすいと思わない	6.7%	12.2%	9.2%	9.2%	6.7%	12.2%	9.2%	9.2%
4 住みやすいと思わない	1.7%	7.9%	4.0%	4.0%	1.7%	7.9%	4.0%	4.0%
無回答	8.8%	5.4%	5.7%	5.7%	8.8%	5.4%	5.7%	5.7%

問27 共生社会の実現のための法律や考え方、調布市が令和6年度に制定した2つの条例を知っていますか。(それぞれ1つに○)

	内容を知っている	聞いたことはある(内容は知らない)	知らない	無回答	説明
知的(N=240)	13.3%	21.3%	57.9%	7.5%	障害を理由とする差別の解消を推進することを目的とする法律
ア 障害者差別解消法	13.3%	21.3%	57.9%	7.5%	役所や事業者に対し、障害者から社会の中にあるバリア(生活がしづらくなる社会的障壁)を取り除くために何らかの対応を必要としているとの意識が伝えられた時に、負担が重すぎない範囲で対応すること
イ 合理的配慮	15.0%	18.3%	58.8%	7.9%	「様々な障害に対する理解を深め、一人ひとりが寄り添う心を持ち、手を取り合って暮らせる社会に」という強い思いを込めて作成した調布市のキャラクターズ
ウ パラハートようふ	17.1%	33.8%	41.3%	7.9%	

調布市民福祉ニーズ調査【障害者アンケート(18歳以上)】

エ 調布市 手話 言語 事例	3.3%	13.8%	74.6%	8.3%	独自の言語である手語に対する理解促進と普及を推進するための事例
オ 調布市障害者の多様な意思疎通に関する事例	4.6%	12.5%	74.6%	8.3%	障害の特性に応じた多様な意思疎通（コミュニケーション）のための手段、配慮、支援等に対する理解促進と普及を推進するための事例

精神(N=392)	内容を知っている	聞いたことはある	(西窓は知らない)	知らない	無回答	説明
ア 障害者差別解消法	11.0%	24.0%	62.0%	3.1%		障害を理由とする差別の解消を推進することを目的とする法律
イ 合理的配慮	18.4%	21.4%	56.4%	3.8%		役所や事業者に対し、障害者から社会の中にあるバリア(生活がしづらくなる社会的障壁)を取り除くために何らかの対応を必要としているとの意図が伝えられた時に、負担が重すぎない範囲で対応すること
ウ バラハートちようふ	8.4%	34.9%	53.3%	3.3%		「様々な障害に対する理解を深め、一人ひとりが寄り添う心を持ち、手を取り合って暮らせる社会に」という想いを込めて作成した調布市のキャッチフレーズ
エ 調布市手話言語事例	3.8%	10.7%	80.4%	5.1%		独自の言語である手語に対する理解促進と普及を推進するための事例
オ 調布市障害者の多様な意思疎通に関する事例	2.6%	10.7%	83.9%	2.8%		障害の特性に応じた多様な意思疎通（コミュニケーション）のための手段、配慮、支援等に対する理解促進と普及を推進するための事例

調布市民福祉ニーズ調査【障害者アンケート(18歳以上)】

難病(N=348)	内容を知っている	聞いたことはある	(西窓は知らない)	知らない	無回答	説明
ア 障害者差別解消法	8.9%	21.8%	66.7%	2.6%		障害を理由とする差別の解消を推進することを目的とする法律
イ 合理的配慮	8.3%	18.7%	69.0%	4.0%		役所や事業者に対し、障害者から社会の中にあるバリア(生活がしづらくなる社会的障壁)を取り除くために何らかの対応を必要としているとの意図が伝えられた時に、負担が重すぎない範囲で対応すること
ウ バラハートちようふ	8.3%	32.8%	56.3%	2.6%		「様々な障害に対する理解を深め、一人ひとりが寄り添う心を持ち、手を取り合って暮らせる社会に」という想いを込めて作成した調布市のキャッチフレーズ
エ 調布市手話言語事例	3.2%	14.9%	78.2%	3.7%		独自の言語である手語に対する理解促進と普及を推進するための事例
オ 調布市障害者の多様な意思疎通に関する事例	2.9%	14.1%	79.9%	3.2%		障害の特性に応じた多様な意思疎通（コミュニケーション）のための手段、配慮、支援等に対する理解促進と普及を推進するための事例

「調布市手話言語事例」
「調布市障害者の多様な意思疎通に関する事例」についてはこちら⇒

「バラハートちようふ」についてはこちら⇒



i コラム ■ 東京2025デフリンピックが調布にやってくる！
デフリンピックとは、デフ+オリンピックのこと。デフ(Deaf)とは、英語で「盲が聞こえない」という意味です。

デフリンピックは国際的な「聞こえない人」のためのオリンピックで、11月15日から26日まで、日本で初めて開催されます。調布市では東京アリーナ TOKYO で/イベント・競技が実施されます。予約不要、入場無料で観戦できます。



▶ デフリンピックについて詳しくはこちら

調布市民福祉ニーズ調査【障害者アンケート(18歳以上)】

問28 外出時に使用している主な移動手段は何か。(2つまで○)

	知的(N=240)	精神(N=392)	知的(N=348)
	知的	精神	精神
1 自家用車(自ら運転する)	2.5%	4.8%	22.4%
2 自家用車(運転手が別にいる)	27.5%	8.4%	11.2%
3 電車	46.7%	65.1%	45.7%
4 バス	32.1%	36.5%	27.0%
5 タクシー	5.0%	4.6%	13.5%
6 徒歩・自転車・車いす	52.1%	62.0%	52.3%
7 その他(具体的に:)	1.7%	2.6%	3.4%
8 該当なし	0.8%	0.3%	0.9%
無回答	5.4%	2.6%	2.3%

問29 市内のバリアフリー・ユニバーサルデザイン(※)について、どのように感じていますか。(それぞれ1つに○)

	とても充実している	充実している	あまり充実していない	充実していない	わからない	無回答
	知的(N=240)					
ア 車いすの人を含め誰もが安全に通れる建物の出入口や通路(段差をなくす、幅を広げるなど)	5.8%	25.0%	22.9%	5.4%	30.4%	10.4%
イ 公共施設や病院などのスロープ、エレベーターやエスカレーター	9.6%	37.9%	12.5%	4.2%	25.0%	10.8%
ウ 車いすの人や乳幼児を運んだ人、介助者の同伴が必要な人など、誰もが使いやすいトイレ	11.7%	26.3%	21.7%	4.2%	25.4%	10.8%
エ 歩きやすいように障害物(商品や看板、放電自転車、電柱など)が取り除かれ、段差や凹凸が少なく十分に幅のある歩道や道路	5.8%	17.1%	30.0%	15.0%	22.5%	9.6%
オ 点字ブロックや視覚障害者の信号機	8.8%	25.8%	21.3%	4.2%	30.8%	9.2%
カ 車いすやベビーカーで乗降しやすいノンステップバスやリフト付バス、ユニバーサルデザインタクシー	8.3%	22.9%	16.3%	6.3%	35.8%	10.4%
キ 車いす使用者等用の駐車場	6.3%	17.9%	19.6%	6.7%	39.2%	10.4%

調布市民福祉ニーズ調査【障害者アンケート(18歳以上)】

	誰もがわかりやすいデザイン(文字の大きさ・種類・色・イラストなど)及び位置における、多言語を用いた案内表示	5.4%	17.5%	19.6%	4.2%	42.9%	10.4%
	ケ 手話の対応や音声ガイドがある施設	3.8%	8.3%	16.3%	7.5%	53.5%	10.4%
	コ 補助犬と同伴での入室が配慮された店・レストランなど	3.3%	8.8%	12.5%	9.6%	55.4%	10.4%
	サ 公園・通路などを含む、まち全体のユニバーサルデザイン	5.8%	16.7%	15.0%	6.7%	45.4%	10.4%
	シ 高齢者、子ども連れの家系、障害や病氣などがある人に対する人々の接し方や配慮	5.8%	19.2%	18.8%	11.3%	34.2%	10.8%
	精神(N=392)						
ア 車いすの人を含め誰もが安全に通れる建物の出入口や通路(段差をなくす、幅を広げるなど)	2.6%	24.7%	26.3%	8.7%	30.3%	6.9%	
イ 公共施設や病院などのスロープ、エレベーターやエスカレーター	5.6%	41.3%	15.6%	6.4%	24.2%	6.9%	
ウ 車いすの人や乳幼児を運んだ人、介助者の同伴が必要な人など、誰もが使いやすいトイレ	5.1%	32.9%	20.2%	6.4%	27.3%	7.7%	
エ 歩きやすいように障害物(商品や看板、放電自転車、電柱など)が取り除かれ、段差や凹凸が少なく十分に幅のある歩道や道路	3.8%	20.4%	26.3%	18.4%	24.2%	6.9%	
オ 点字ブロックや視覚障害者の信号機	4.6%	29.3%	17.9%	6.6%	33.9%	7.7%	
カ 車いすやベビーカーで乗降しやすいノンステップバスやリフト付バス、ユニバーサルデザインタクシー	3.3%	26.5%	15.8%	7.1%	39.3%	7.4%	
キ 車いす使用者等用の駐車場	2.8%	20.9%	14.5%	6.9%	47.2%	7.7%	
ク 誰もがわかりやすいデザイン(文字の大きさ・種類・色・イラストなど)及び位置における、多言語を用いた案内表示	4.1%	19.9%	19.9%	7.4%	41.5%	7.1%	
ケ 手話の対応や音声ガイドがある施設	2.0%	10.7%	14.5%	9.4%	55.9%	7.4%	

調布市民福祉ニーズ調査【障害者アンケート(18歳以上)】

コ	補助犬と同伴での入室が配慮された店・レストランなど	1.8%	9.2%	14.5%	11.2%	56.1%	7.1%
サ	公園・道路などを含む、まち全体のユニバーサルデザイン	3.6%	21.7%	16.6%	9.2%	41.8%	7.1%
シ	高齢者、子ども連れの家族、障害や病氣などがある人に対する人々の接し方や配慮	3.8%	17.1%	21.7%	15.3%	33.9%	8.2%
	誰が(誰) 無回答						
ア	重いの人を含め誰もが安全に通れる建物の出入口や通路(段差をなくす、幅を広げるなど)	1.1%	23.9%	36.2%	8.6%	25.3%	4.9%
イ	公共施設や病院などのスロープ、エレベーターやエスカレーター	3.4%	47.1%	22.4%	4.9%	17.2%	4.9%
ウ	重いの人や乳幼児を運れた人、介助者の同伴が必要など、誰もが使いやすいトイレ	2.6%	31.6%	31.3%	7.8%	21.6%	5.2%
エ	歩きやすいように障害物(商品や看板、放置自転車、電柱など)を取り除く、段差や凹凸が少なく十分に幅のある歩道や道路	0.9%	16.1%	39.4%	22.7%	16.1%	4.9%
オ	点字ブロックや視覚障害者の信号機	1.4%	28.2%	25.9%	7.2%	31.3%	6.0%
カ	重いやベビーカーで乗降しやすいノンステップバスやリフト付バス、ユニバーサルデザインタクシー	0.6%	25.3%	24.1%	8.9%	35.3%	5.5%
キ	重いの使用者専用の駐車場	2.0%	22.4%	21.0%	7.5%	39.7%	7.5%
ク	誰もがわかりやすいデザイン(文字の大きさ・種類・色・イラストなど)及び位置における、多言語を用いた案内表示	1.7%	16.1%	27.0%	8.0%	40.8%	6.3%
ケ	手話の対応や音声ガイドがある施設	0.0%	6.0%	22.1%	6.9%	58.3%	6.5%
コ	補助犬と同伴での入室が配慮された店・レストランなど	0.0%	4.9%	20.7%	10.1%	57.8%	6.6%
サ	公園・道路などを含む、まち全体のユニバーサルデザイン	0.6%	16.7%	25.0%	11.2%	40.2%	6.3%

調布市民福祉ニーズ調査【障害者アンケート(18歳以上)】

シ	高齢者、子ども連れの家族、障害や病気などがある人に対する人々の接し方や配慮	0.9%	24.4%	30.7%	8.6%	28.7%	6.5%
※	ユニバーサルデザインとは、障害の有無、年齢、性別、人種などに問わず、多様な人が利用しやすいよう、事前に環境などをデザインすること。						
問30	誰もが暮らすやすい社会に向けて、病气、障害、国籍、生活習慣などの違いによる心理的な障壁を取り除く（心のバリアフリー）ために、特に必要な取組は何だと思いますか。（2まで○）						
	知灼(N=240)	精神(N=392)	難病(N=348)				
	知灼	精神	難病				
1	学校における、お互いを理解し、思いやる心を育てるための教育	45.4%	39.5%	52.5%			
2	や、障害者などさまざまな人と触れ合う機会の充実	10.8%	11.5%	9.8%			
3	意識啓発のための研修・講演会の開催	23.8%	24.0%	19.5%			
4	障害者・外国人など、さまざまな住民が交流する機会を増やす	33.3%	46.4%	51.4%			
5	4 わかりやすい情報発信	1.7%	4.6%	2.3%			
6	5 その他(具体的に：)	18.8%	20.7%	12.4%			
	6 わからない	11.3%	6.1%	7.2%			
	無回答						
問31	普段の暮らしや水、日、土						

調布市民福祉ニーズ調査【障害者アンケート(18歳以上)】

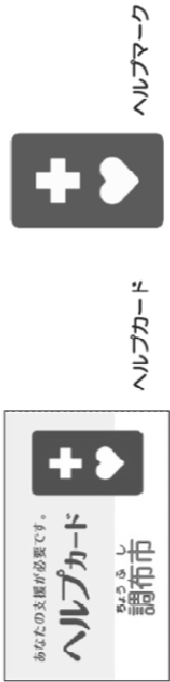
問32 あなたは、調布市が配布しているヘルプカード(※)、ヘルプマーク(※)をもっていますか。(それぞれに○)	知灼(N=240)
①ヘルプカード	1 もっていて、いつも、もち歩いている 28.7%
	2 もっているが、もち歩いていない 26.3%
	3 もっていないが、ほしいと思う 10.0%
	4 もっていないし、必要ない 28.3%
②ヘルプマーク	無回答 5.7%
	1 もっていて、いつも、もち歩いている 24.2%
	2 もっているが、もち歩いていない 17.1%
	3 もっていないが、ほしいと思う 15.8%
	4 もっていないし、必要ない 32.9%
	無回答 10.0%

①ヘルプカード	精神(N=392)
	1 もっていて、いつも、もち歩いている 14.3%
	2 もっているが、もち歩いていない 29.3%
	3 もっていないが、ほしいと思う 15.3%
	4 もっていないし、必要ない 35.2%
②ヘルプマーク	無回答 5.9%
	1 もっていて、いつも、もち歩いている 21.9%
	2 もっているが、もち歩いていない 21.4%
	3 もっていないが、ほしいと思う 19.4%
	4 もっていないし、必要ない 31.6%
	無回答 5.6%

①ヘルプカード	難病(N=348)
	1 もっていて、いつも、もち歩いている 7.2%
	2 もっているが、もち歩いていない 10.3%
	3 もっていないが、ほしいと思う 16.1%
	4 もっていないし、必要ない 60.3%
②ヘルプマーク	無回答 5.0%
	1 もっていて、いつも、もち歩いている 14.9%
	2 もっているが、もち歩いていない 9.5%
	3 もっていないが、ほしいと思う 16.1%
	4 もっていないし、必要ない 54.0%
	無回答 5.5%

調布市民福祉ニーズ調査【障害者アンケート(18歳以上)】

※ヘルプカードは、障害のある人が緊急連絡先、医療情報、手伝ってほしい内容などを記載して、普段から身に付けておくことで、緊急時や災害時、日常の困ったときに、周囲の配慮や手助けをお願いしやすくなるものです。障害福祉課の窓口で配布しています。これは別に、障害のある人に限らず、外見からわからなくても援助や配慮を必要としている人のために「ヘルプマーク」もあります。



問33 ヘルプカードやヘルプマークをもっていることで、周囲の人に配慮してもらったり、手助けしてもらったりしたことがありますか。(1つに○) 知灼(N=240) 精神(N=392) 難病(N=348)

	知灼	精神	難病	知灼	精神	難病
1 ある	13.8%	16.6%	10.9%	3 もっていない・わからない	39.6%	46.7%
2 ない	37.5%	30.4%	16.1%	無回答	9.2%	6.4%
						10.3%

7 デジタルの活用についておたずねします

問34 調布市の保健福祉施設(サービス)に関する情報をどこから入手していますか。(いくつでも○) 知灼(N=240) 精神(N=392) 難病(N=348)

	知灼	精神	難病
1 市のホームページ	16.3%	24.5%	29.3%
2 市の広報紙・チラシ	37.1%	37.2%	47.4%
3 市役所・相談機関などの窓口	17.1%	20.7%	12.6%
4 テレビ(ケーブルテレビを含む)・ラジオ	4.2%	5.1%	4.0%
5 家族、友人、知人からの口コミ	22.9%	14.8%	10.9%
6 SNS	6.3%	12.8%	9.8%
7 その他(具体的に:)	2.9%	3.1%	1.4%
8 知らない、情報は入手していない	28.3%	27.8%	22.7%
無回答	9.2%	5.1%	4.6%

調布市民福祉ニーズ調査【障害者アンケート(18歳以上)】

問35 普段、スマートフォンなどの情報端末やパソコンなどを使っていますか。(1つに○)

	知的	精神	難病	知的	精神	難病
1 使っている	55.8%	82.7%	78.4%	2 使っていない	36.7%	12.8%
				無回答	7.5%	4.6%
						3.4%

問36 あなたがスマートフォンなどの情報端末やパソコンなどを使っていたこと、暮らしの利便性を高めるアイデアがございましたら、教えてください。(自由記述)

8 調布市の障害者福祉施策についておたずねします

問37 あなたは次の調布市の相談窓口や制度を知っていますか。(それぞれ1つに○)

	知的(N=240)	知っていない	無回答	説明
ア ドルチェ (相談支援・地域活動支援センター)	26.3%	63.7%	10.0%	主に身体障害、高次脳機能障害のある人の相談窓口です。
イ ちようふだぞう (相談支援・地域活動支援センター)	83.8%	10.8%	5.4%	主に知的障害のある人の相談窓口です。
ウ 希望ヶ丘 (相談支援・地域活動支援センター)	8.8%	79.2%	2.1%	主に精神障害のある人の相談窓口です。
エ こころの健康支援センター (相談支援・デイ事業等)	27.5%	61.3%	1.3%	主に精神障害、発達障害のある人の相談窓口です。
オ 難病相談窓口 (障害福祉課・予約制)	4.2%	83.8%	2.1%	難病にかかったことでの不安や悩みごと全般に対する相談窓口です。
カ 障害者虐待防止センター (障害福祉課)	12.9%	75.4%	1.7%	障害者の虐待に関する相談・通報を受ける窓口です。

調布市民福祉ニーズ調査【障害者アンケート(18歳以上)】

キ 地域福祉コーディネーター (社会福祉協議会)	29.6%	61.3%	9.2%	地域福祉コーディネーターは、支援者支援を主な役割として、市は8つの福祉領域に1名ずつ配置されており、生活への悩みや困りごとを抱える方、制度の展開で苦しんでいる方に対し、様々な機関や団体と連携しながら、課題の解決を図ります。
ク 成年後見制度	35.4%	55.4%	9.2%	判断能力が不十分であるために意思決定が困難な人の判断能力を後見人などが補っていくことによって、法的に保護する制度です。 市は、権利擁護支援の窓口である「利用者サポート相談」に専門の相談員を配置し、権利擁護支援を必要とする方に対し、相談支援等を行っています。(福祉総務課)

	知っている	知らない	無回答	説明
アドルチェ (相談支援・地域活動支援センター)	18.9%	75.5%	5.6%	主に身体障害、高次脳機能障害のある人の相談窓口です。
イちようふだぞう (相談支援・地域活動支援センター)	27.8%	67.3%	4.8%	主に知的障害のある人の相談窓口です。
ウ希望ヶ丘 (相談支援・地域活動支援センター)	17.3%	76.8%	5.9%	主に精神障害のある人の相談窓口です。
エこころの健康支援センター (相談支援・デイ事業等)	48.0%	46.9%	5.1%	主に精神障害、発達障害のある人の相談窓口です。
オ難病相談窓口 (障害福祉課・予約制)	4.8%	89.0%	6.1%	難病にかかったことでの不安や悩みごと全般に対する相談窓口です。
カ障害者虐待防止センター (障害福祉課)	7.7%	86.2%	6.1%	障害者の虐待に関する相談・通報を受ける窓口です。
キ地域福祉コーディネーター (社会福祉協議会)	23.0%	71.4%	5.6%	地域福祉コーディネーターは、支援者支援を主な役割として、市は8つの福祉領域に1名ずつ配置されており、生活への悩みや困りごとを抱える方、制度の展開で苦しんでいる方に対し、様々な機関や団体と連携しながら、課題の解決を図ります。

調布市民福祉ニーズ調査【障害者アンケート(18歳以上)】

ク 成年後見制度	39.5%	54.6%	5.9%	判断能力が不十分であるために意思決定が困難な人の判断能力を後見人などが補っていただくことによって、法的に保護する制度です。 市は、権利擁護支援の窓口である「利用者サポート相談」に専門の相談員を配置し、権利擁護支援を必要とする方に対し、相談支援等を行っています。(福祉総務課)
ア 難病(N=348)	知らない	知っている	無回答	説明
ア ドルチェ (相談支援・地域活動支援センター)	13.5%	80.7%	5.7%	主に身体障害、盲や聴覚障害のある人の相談窓口です。
イ ちようぶだぞう (相談支援・地域活動支援センター)	21.3%	73.3%	5.5%	主に知的障害のある人の相談窓口です。
ウ 希望が丘 (相談支援・地域活動支援センター)	5.7%	87.1%	7.2%	主に精神障害のある人の相談窓口です。
エ こころの健康支援センター (相談支援・デイ事業等)	16.1%	77.0%	8.9%	主に精神障害、発達障害のある人の相談窓口です。
オ 難病相談窓口 (障害福祉課・予約制)	40.8%	54.6%	4.6%	難病にかかったことでの不安や悩みごと全般に対する相談窓口です。
カ 障害者虐待防止センター (障害福祉課)	10.1%	84.2%	5.7%	障害者の虐待に関する相談・通報を受ける窓口です。
キ 地域福祉コーディネーター (社会福祉協議会)	27.3%	67.0%	5.7%	地域福祉コーディネーターは、支援者支援を主な役割として、市内8つの福祉圏域に1名ずつ配置されており、生活上の悩みや困りごとを抱える方、制度の申請で苦しんでいる方に対し、様々な機関や団体と連携しながら、課題の解決を図ります。
ク 成年後見制度	47.7%	46.3%	8.0%	判断能力が不十分であるために意思決定が困難な人の判断能力を後見人などが補っていただくことによって、法的に保護する制度です。 市は、権利擁護支援の窓口である「利用者サポート相談」に専門の相談員を配置し、権利擁護支援を必要とする方に対し、相談支援等を行っています。(福祉総務課)

調布市民福祉ニーズ調査【障害者アンケート(18歳以上)】

問38 調布市の障害者福祉施策(サービス)をより充実していくために、特に重要と考える取組は何か。(いくつでも○)	知的(N=240)	精神(N=392)	難病(N=348)
1 困ったことや福祉サービスの利用などを気軽に相談できる窓口	55.8%	24.5%	60.6%
2 健康づくりや地域での定着サービス	24.5%	26.5%	25.6%
3 手当てや医療費の助成などの経済的な支援	38.8%	56.6%	53.4%
4 成年後見制度など、金銭・財産などの管理の支援	28.7%	19.9%	11.2%
5 ホームヘルプなど、在宅生活を支援するサービス	20.0%	25.5%	30.5%
6 ガイドヘルパー、コミュニケーション支援など、社会参加の支援	22.9%	17.6%	10.3%
7 介助者の病氣など、緊急時における一時預かり、ショートステイ	30.3%	19.1%	21.3%
8 日中の活動場所(作業所などの障害者施設)の整備	28.3%	25.3%	9.8%
9 企業などで働くための支援(就労支援)	23.3%	31.9%	17.5%
10 仕事以外の趣味や余暇活動・スポーツ活動などの支援や場所の整備	26.3%	26.5%	13.8%
11 グループホームなど、地域における住まいの場の整備	40.4%	19.1%	12.4%
12 障害理解の促進や差別の解消	31.7%	34.4%	13.5%
13 公共施設や道路、交通機関などのバリアフリー	20.4%	21.4%	28.2%
14 障害に応じた多様な情報提供の充実	29.2%	35.2%	19.3%
15 災害時の支援体制の整備	32.9%	30.6%	29.3%
16 デジタル技術を活用した、情報提供や意思疎通支援	15.0%	23.5%	15.5%
17 その他(具体的に:)	3.3%	5.9%	1.7%
無回答	11.3%	7.1%	8.9%

問39 市民同士が互いに支え合い、住み慣れたまちで誰もが安心して暮らすことのできるまちづくりを進めるためには、以下の①～③の取組が重要です。これらの取組について、ご意見、ご提案をお聞かせください。(自由記述)

取組番号: ① ・ ② ・ ③ (いずれかに○。複数選択可)

ご意見、ご提案

3つの取組以外で気になっていること

9 ご家族におたずねします
(ひとり暮らし、グループホームなどの人は回答不要)

問40 ご家族におたずねします(ご家族以外は回答不要)。

主に介助や支援をしている人の年齢を教えてください。(1 つに○)

	認知 知的	精神 知的	難病 知的	精神 知的	難病 知的	精神 知的	難病 知的
1 10歳代	1.4%	1.2%	1.1%	5 60歳代	22.5%	13.5%	11.2%
2 20歳代	6.7%	2.0%	2.2%	7 70歳代	13.9%	11.6%	15.1%
3 30歳代	1.4%	8.8%	1.1%	8 80歳以上	5.7%	7.6%	7.6%
4 40歳代	2.9%	8.8%	4.7%	9 いなし	6.7%	7.6%	23.7%
5 50歳代	29.7%	17.9%	13.7%		無回答	9.1%	19.8%

問41 ご家族におたずねします(ご家族以外は回答不要)。

介助や支援にあたってどのような不安や困りごことがありますか。(いくつでも○)

	認知 知的	精神 知的	難病 知的	精神 知的	難病 知的
1 障害や病気のことがよくわからない	1.9%	14.7%	9.0%		
2 適切な介助・支援の方法がわからない	6.7%	16.3%	10.8%		
3 自分の時間をもてない(余暇・外出・休養など)	20.6%	12.0%	10.8%		
4 自分の希望する仕事につくこと・続けることが難しい	12.4%	6.8%	2.9%		
5 自分の学校・学習がおろそかになる	0.0%	1.6%	0.4%		
6 介助・支援をする家族自身の高齢化	53.6%	27.5%	20.1%		
7 介助・支援をする家族自身も障害や障害がある	14.8%	15.9%	5.8%		
8 本人のほかにも介助・支援が必要な家族がいる	18.2%	10.0%	4.0%		
9 何かあったときに本人の介助・支援を頼める人(場所)がない	32.1%	22.3%	10.4%		
10 相談できる場所がない	5.7%	11.6%	3.6%		
11 障害のある当事者、家族同士の情報交換、交流の機会がない	11.0%	9.6%	4.7%		
12 経済的な負担が大きい	12.9%	22.3%	12.2%		
13 その他(具体的に：)	8.1%	2.8%	1.8%		
14 知らない	15.3%	16.7%	22.7%		
15 いないのでわからない	2.9%	3.6%	14.7%		
無回答	7.7%	25.5%	23.4%		

問42 ご家族におたずねします(ご家族以外は回答不要)。
介助する人への支援として力を入れてほしいことは何ですか。(いくつでも○)

	認知 知的	精神 知的	難病 知的	精神 知的	難病 知的
1 介助者同士が交流したり、話し合える場を作ってくれること	13.4%	8.8%	6.5%		
2 本人の介助や支援から離れる時間を作ってくれること	24.9%	15.5%	14.4%		
3 家事や育児を手伝ってくれること	5.7%	11.2%	6.8%		
4 介助や支援の状況に柔軟に対応してくれる職場環境や働き方の普及	22.0%	19.9%	9.0%		
5 支援制度や福祉サービスなどの情報提供・相談窓口の充実	50.2%	34.7%	22.3%		
6 その他(具体的に：)	8.1%	4.8%	1.4%		
7 わからない	12.4%	21.1%	31.7%		
無回答		12.4%	29.9%		

アンケートは以上です。たくさんのご質問にお答えいただき、誠にありがとうございます。
調査結果はホームページで公表し、図書館などで閲覧できます(令和8年4月頃の手定)。

5 障害児（18歳未満）の保護者

調布市民福祉ニーズ調査【障害児アンケート（保護者）】

子どもと保護者が暮らしやすいまちづくりのための 福祉に関するアンケート

～ご協力をお願い～

市民の皆さまには、日頃から調布市の福祉行政の推進にご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

市は、「地域福祉計画」「高齢者総合計画」「障害者総合計画」の福祉3計画を連携させて、子どもから高齢者まで、誰もが安心して暮らしやすいまちづくりを進めています。

このアンケートは、暮らしやすいまちづくりを着実に進めることに市民の皆さまの意見をいかに活かすため、障害者手帳や児童福祉通所受給者証をもつお子さんの中から 300 人を無作為抽出したところ、あなたにアンケートをお願いすることになりました。

このアンケートは無記名です。回答は統計的に処理いたしますので、個人が特定されることはありません。また、回答を調査目的以外に使用することはありません。

お忙しいところ誠に恐縮に存じますが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力をお願い申し上げます。

令和7年10月 調布市長 長友 貴樹

皆さまの回答は、子どもと保護者が暮らしやすい、支え合うまちづくりに役立っています。

調布市の福祉は市民が主役です。例えば、地域の活動に参加したり、誰かが困っている時に声をかけたりすることも、支え合うまちづくりのひとつです。



市民の皆さまをはじめ、地域の団体や商店、学校や企業などの皆さまと一緒に、みんなで支え合うことがとても大切になります。



回答は、封筒のあて名のお子さんを主にサポートしている保護者がお答えください。

パラハートちやうふ
つちがへう、ひらけよう、共に生きよう

調布市民福祉ニーズ調査【障害児アンケート（保護者）】

～記入についてのお願い～

【回答期限】 令和7年11月4日(火) 【回答所要時間】 30分(目安)

【回答方法】 郵送 または インターネット



(※どちらか一つの方法で、投函もしくは送信してください)

《郵送》調査票による回答の方法

- ① 回答は、あてはまる番号を○で囲んでください。「その他」を選択する場合は番号を○で囲み、()に具体的な内容を記入してください。
- ② 質問によっては、回答数や回答者が限られる場合があります。
- ③ **回答しづない、わからない場合は無理をせず、次の問に進んでください。全ての質問に回答できなくても大丈夫です。**
- ④ 回答終了後、同封の返信用封筒に入れて封かんし、回答期限までにポストに投函してください。

《インターネット》回答の方法

- ① 以下のURL、または二次元コードから専用ウェブサイトへアクセスしてください。
- ② 調査票と同じ質問が画面に表示されます。
- ③ 回答の途中で保存することができます。

<専用ウェブсайNURL>

<https://smilesurvey.co/s/15b22d08/o>



【調査についてのお問い合わせ先】

調布市 福祉健康部 障害福祉課

電話 042-481-7135・7094(直通)

Fax 042-481-4288

E-mail syougai@city.chofu.tg.jp



1 保護者(調査に回答していただく人)についておたずねします

問1 あて名のお子さんからみて、保護者(回答者)はどなたですか。(1つに○)

1 親	98.9%	3 祖父母	0.0%	5 その他	0.0%
2 兄弟姉妹	0.0%	4 その他の親族	0.0%	無回答	1.1%

問2 保護者の性別を教えてください。(1つに○)

1 男性	10.3%	2 女性	87.0%	3 その他	0.5%	無回答	2.2%
------	-------	------	-------	-------	------	-----	------

問3 保護者の年齢を教えてください。(1つに○) (令和7年10月1日現在)

1 10歳代	1.1%	3 30歳代	24.3%	5 50歳代	14.6%	7 70歳代	0.0%
2 20歳代	0.0%	4 40歳代	58.4%	6 60歳代	0.5%	8 80歳以上	0.0%
						無回答	1.1%

問4 お住いの地域を教えてください。(1つに○)

番号に○	(参考)地域に属する地区(○は不要)									
1	東つつじヶ丘1丁目、2丁目	緑ヶ丘	仙川町							
11.4%	西つつじヶ丘1丁目、2丁目、3丁目	若葉町1丁目								
2	東つつじヶ丘3丁目	菊野台	入間町							
7.6%	西つつじヶ丘4丁目	若葉町2丁目、3丁目								
3	佐須町1丁目、2丁目、4丁目、5丁目	調布ヶ丘3丁目	柴崎							
13.5%	深大寺南町1丁目、2丁目、3丁目	深大寺東町3丁目、4丁目								
4	深大寺東町1丁目、2丁目、5丁目、6丁目、7丁目、8丁目	深大寺北町								
8.6%	深大寺元町2丁目、3丁目、4丁目、5丁目	深大寺西町4丁目、5丁目								
5	国領町1丁目、2丁目、3丁目、4丁目、5丁目、8丁目	佐須町3丁目								
10.3%	布田2丁目、3丁目	調布ヶ丘2丁目	八雲台							
6	国領町6丁目、7丁目	布田5丁目、6丁目								
13.0%	多摩川6丁目、7丁目	染地								
7	多摩川11丁目、2丁目、3丁目、4丁目、5丁目	調布ヶ丘1丁目、4丁目								
21.6%	布田1丁目、4丁目	深大寺元町1丁目	下石原1丁目	小島町						
8	上石原	富士見町	西町							
13.0%	下石原2丁目、3丁目	飛田給	野水							
無回答	1.1%									

問5 あなた(保護者)は、ご自分の健康状態どのように感じていますか。(1つに○)

1 よい	29.2%	3 ふつう	41.1%	5 よくない	4.3%
2 どちらかといえはい	15.7%	4 どちらかといえはよくない	5.9%	無回答	3.8%

2 保護者の方に、あて名のお子さんについておたずねします

問6 あて名のお子さんの就学状況を教えてください。(1つに○)

1 小学校就学前	27.6%	2 い小学校就学後	72.4%	無回答	0.0%
----------	-------	-----------	-------	-----	------

問7 あて名のお子さんの性別を教えてください。(1つに○)

1 男性	65.9%	2 女性	33.0%	3 その他	0.5%	無回答	0.5%
------	-------	------	-------	-------	------	-----	------

問8 あて名のお子さんがおもちの手帳等とその等級を教えてください。(いくつでも○)

1 身体障害者手帳							10.3%
2 愛の手帳							39.5%
3 精神障害者保健福祉手帳							1.6%
4 特定医療費(指定難病)受給者証または小児慢性特定疾病医療受給者証							5.4%
5 児童福祉法所定受給者証・障害福祉サービス受給者証							71.4%
無回答							2.2%

身体障害者手帳 (n=19)	1級			2級			3級		
	36.8%	4級	5級	31.6%	6級	無回答	10.5%	無回答	
愛の手帳 (n=73)	10.5%	10.5%	0.0%	10.5%	0.0%	無回答	0.0%	無回答	
	1度	2度	3度	31.5%	4度	無回答	42.5%	1.4%	
精神障害者保健福祉手帳 (n=3)	1.4%	2度	23.3%	31.5%	42.5%	無回答	1.4%	無回答	
	0.0%	33.3%	66.7%	0.0%	0.0%	無回答	0.0%	0.0%	

問9 あて名のお子さんは、どのような病気や障害がありますか。(いくつでも○) ※特定医療費(指定難病)受給者証、小児慢性特定疾病医療受給者証をもつ人は、「11 その他」の欄に病名をご記入ください。

1 目が不自由(視覚障害)	1.6%
2 耳が不自由(聴覚障害・平衡機能障害)	4.3%
3 言葉が不自由(音声・言語・そしゃく障害)	10.8%
4 手足が不自由(上肢・下肢障害・体幹機能障害・運動機能障害)	6.5%
5 心臓、腎臓、肝臓、呼吸器、ぼうこう、直腸、小腸などの障害(内部障害)	3.2%
6 免疫機能障害	0.5%
7 知的障害	43.2%
8 精神疾患・精神障害(発達障害を除く)	0.0%
9 発達障害(自閉スペクトラム症、学習症(LD)、注意欠如・多動症(ADHD)など)	62.2%
10 高次脳機能障害	0.0%
11 その他(具体的に:)	9.7%
無回答	3.8%

※問 10・問 11 は、小学校就学後のお子さんについておたずねします

問10 あて名のお子さんが小学校就学後の保護者の方におたずねします。 あて名のお子さんは、現在、学校以外の時間でどのようなサービスや施設などを利用して過していますか。(いくつでも○)

1 学童クラブ・あそびバ	30.6%
2 放課後等デイサービス事業所	86.6%
3 日中一時受養事業所	3.7%
4 児童館・青少年ステーションCAPS(中・高校生世代の「第三の居場所施設」)	2.2%
5 民間の習いごと・教室・フリースペースなど	30.6%
6 その他(具体的に:)	6.7%
7 特に何も利用していない	4.5%
無回答	0.0%

問11 あて名のお子さんが小学校就学後の保護者の方におたずねします。 あて名のお子さんの放課後活動に求めていることはありますか。(いくつでも○)

1 人との交流	70.1%	5 興味の幅を広げる	59.7%
2 学習の補助	41.0%	6 コミュニケーションの力をつける	77.6%
3 体を動かす	73.1%	7 ルールやマナーを身につける	58.2%
4 家族がいない間の見守り・預か	51.5%	8 その他(具体的に:)	3.0%
		無回答	0.7%

※次の設問から全員におたずねします

問12 あて名のお子さんは、普段の生活の中で、次のような機会がありますか。(それぞれ1つに○)

	十分に ある	十分に はないが、 ある	機会が ない	必要 ない、 できない	無 回 答
ア 好きなところへ出かける(ヘルパー利用も含む)	51.9%	40.5%	4.9%	2.7%	0.0%
イ 友人・知人との交流	33.0%	45.9%	16.2%	4.9%	0.0%
ウ スポーツ・運動をする※1機会	31.9%	50.8%	12.4%	4.9%	0.0%
エ 美術・音楽などの文化芸術活動※2の機会	22.7%	44.3%	27.6%	5.4%	0.0%
オ ウ、エ以外の趣味や習いごと	23.8%	27.0%	32.4%	15.7%	1.1%

※1 ここで「スポーツ・運動」とは、ウォーキング、体操、ヨガなど、競技だけでなく健康づくりのための活動も含みます。これ以降の質問についても同じです。

※2 ここで「文化芸術活動」とは、絵を描くこと、美術館・博物館などに行くこと、歌を歌ったり、演奏したりすることを含みます。

問13 あて名のお子さんは、スポーツ・運動をする機会はどのくらいありますか。(1つに○)

1 週に2回以上	35.7%	3 月に1、2 回程度	10.8%
2 週に1回程度	31.9%	4 ほとんどしない	18.4%
		無回答	3.2%

問14 あて名のお子さんの日常生活で不安や課題と感じていることはありますか。(いくつでも○)

(保育園・幼稚園・認定こども園・学校でのこと)	
1 子どもの障害について十分に理解されていない	14.6%
2 子どもの障害に応じた十分な支援を受けていない	21.6%
3 同級生や友人・知人との人間関係	45.4%
4 保育・教育のことについて、相談できる場所がない	13.0%

(保育園・幼稚園・認定こども園・学校以外での活動のこと)

5 障害の状況に応じた専門的な療育を受けられる場所・機会が少ない	32.4%
6 障害児施設(子ども発達センター、児童発達支援事業所、放課後等デイサービスなど)で十分な支援を受けていない	14.6%
7 障害児施設以外に利用できる放課後、休日などの活動場所が少ない	31.9%
8 余暇活動(外出、スポーツ、趣味、その他の習いごと、サークル活動など)の機会が少ない	34.6%

(その他)

9 その他(具体的に:)	8.1%
10 特にない	18.4%
無回答	3.8%

問15 あて名のお子さんについて、医療機関(歯科を含む)の受診で困ることはありますか。(いくつでも○)

1 かかりつけ医(日常的に健康について相談できる医療機関)がない	4.3%
2 かかりつけ歯科医(歯の健康や治療について相談できる歯科医)がない	12.4%
3 定期的な健康診断を受けられない	3.2%
4 定期的な歯科健診を受けられない	4.9%
5 専門的な治療やリハビリを行う医療機関が身近にない	20.5%
6 障害を理由に診療や健診などを断られたことがある	4.3%
7 通院するときに介助してくれる人がいない	7.0%
8 医療費や交通費の負担が大きい	11.9%
9 医師・歯科医師とコミュニケーションがとりづらい	9.7%
10 その他(具体的に:)	13.0%
11 特にない	42.7%
無回答	5.9%

問16 将来、あて名のお子さんに、どのような進学先を希望していますか。(1つに○)

1 中学校まで	0.5%	4 大学まで	30.3%
2 高等学校まで	28.6%	5 その他(具体的に:)	5.4%
3 専門学校・高等専門学校・短期大学まで	8.6%	6 わからない	23.2%
		無回答	3.2%

問17 将来、あて名のお子さんに、どのような働き方を希望していますか。(1つに○)

1 会社やお店などで働く(一般就労)	43.2%	4 わからない	30.8%
2 地域の障害者施設(作業所など)で働く	16.2%	5 働くことは困難だと思う	3.8%
3 その他(具体的に:)	2.7%	無回答	3.2%

問18 あて名のお子さんが仕事をするために、必要と思うことは何ですか。(いくつでも○)

1 技術、知識、資格などの習得	55.7%
2 病気や障害に応じた柔軟な勤務日、勤務時間の設定	39.5%
3 病気や障害に応じた多様な働き方(在宅ワークなど)	42.7%
4 雇用する会社の施設面でのバリアフリー	6.5%
5 雇用する会社の相談体制や上司や同僚の病気や障害への理解、協力	60.5%
6 通勤や勤務中の介助や支援	27.0%
7 就職支援や就職後の仕事の悩みなどが相談できる窓口	53.5%
8 職場実習など、就職前に試みに働く機会の拡大	45.4%
9 その他(具体的に:)	6.5%
10 特にない	4.9%
無回答	4.3%

問19 将来、あて名のお子さんに、どのような生活を希望しますか。(1つに○)

1 親やきょうだい(兄弟・姉妹)などの家族と一緒に生活する	11.4%
2 ひとり暮らし、または本人の配偶者と一緒に生活する	48.1%
3 グループホームで生活する	14.6%
4 入所施設で生活する	3.8%
5 その他(具体的に:)	3.8%
6 わからない	14.6%
無回答	3.8%



3 保護者の方に、相談支援についておたずねします

問20 あなた(保護者)が悩みや困りごとを相談できる人や機関はありますか。(いくつでも○)

1 家族・親族(一緒に住んでいる・離れて住んでいる)	75.1%
2 幼稚園、保育園、認定こども園、学校の先生・職員	51.9%
3 友人・知人	47.0%
4 子ども発達センターの職員	30.3%
5 子ども家庭支援センター・子育て支援センターの職員	10.3%
6 障害相談所の職員・教育支援コーディネーター・スクールソーシャルワーカー	5.9%
7 サービス等利用計画の作成、モニタリングなどを行う相談支援専門員	17.8%
8 障害児施設(児童発達支援、放課後等デイサービスなど)の職員、ヘルパー	45.9%
9 市役所・子ども家庭センターの職員	4.9%
10 民生委員・児童委員	0.0%
11 医療機関(医師、看護師、ケースワーカー、訪問看護)の職員	27.0%
12 その他(具体的に:)	6.5%
13 相談する人がいない	2.7%
14 相談の必要はない	0.0%
無回答	1.1%

問21 あなた(保護者)は、介助や支援にあたってどのような不安や困りごことがありますか。(いくつでも○)

1 障害や病気のことがよくわからない	9.7%
2 適切な介助・支援の方法がわからない	33.5%
3 自分の時間がもてない(余暇・外出・休養など)	33.0%
4 自分の希望する仕事につくことが難しい	33.0%
5 介助・支援をする家族自身の高齢化	20.0%
6 介助・支援をする家族自身も病気や障害がある	6.5%
7 本人のほかにも介助・支援が必要な家族がいる	11.9%
8 本人のきょうだい(兄弟・姉妹)にも本人の介助や支援の負担をかけている	15.1%
9 何かあったときに本人の介助・支援を頼める人(場所)がない	35.7%
10 相談できる場所がない	10.3%
11 障害のある当事者、家族同士の情報交換、交流の機会がない	16.2%
12 経済的な負担が大きい	18.4%
13 その他(具体的に:)	8.6%
14 特にない	14.6%
無回答	1.6%

調布市民福祉ニーズ調査【障害児アンケート（保護者）】

問22 本人の介助・支援に関連し、本人のきょうだい（兄弟・姉妹）についてどのような不安や困りごことがありますか。（いくつでも○）

1 本人のきょうだいはいない	32.4%
2 きょうだいの学校・学業に影響がある	2.7%
3 きょうだいの就労に影響がある	0.5%
4 きょうだいが好きで、やりたいことを我慢している	15.7%
5 本人の介助・支援をきょうだいのみに任せなければいけないときがある	3.2%
6 きょうだいの家事の負担が大きい	1.1%
7 保護者がきょうだいに十分に接する時間が取れない	18.4%
8 きょうだいと本人の関係がうまく保てない	13.5%
9 その他（具体的に： ）	5.9%
10 特にない	29.7%
無回答	2.7%

問23 保護者への支援として力を入れてほしいことは何ですか。（いくつでも○）

1 保護者同士が交流したり、話し合える場を作ってくれること	28.1%
2 本人の育児や介助・支援から離れる時間を作ってくれること	40.5%
3 家事や育児を手伝ってくれること	24.9%
4 育児や本人の介助・支援の状況に柔軟に対応してくれる職場環境や働き方の普及	47.6%
5 支援制度や福祉サービスなどの情報提供・相談窓口の充実	59.5%
6 その他（具体的に： ）	14.6%
無回答	4.9%

4 保護者の方に、日頃のコミュニケーションについておたずねします

問24 次の項目についてあなたはどれくらいの頻度で感じていますか。（それぞれ1つに○）

	ない	ほとんどない	時々ある	常にある	無回答
ア 自分には人とのつきあいがないと感じることもある	21.6%	27.6%	34.1%	16.2%	0.5%
イ 自分を取り残されていると感じることがある	22.7%	34.1%	31.9%	10.8%	0.5%
ウ 自分是他の人たちから孤立していると感じることがある	22.7%	34.6%	32.4%	9.7%	0.5%
エ 自分は孤独であると感じることがある	27.6%	33.0%	30.3%	8.6%	0.5%

調布市民福祉ニーズ調査【障害児アンケート（保護者）】

問25 家族や友人などのコミュニケーション頻度についておたずねします。
あなたは同居していない家族や友人などのコミュニケーション頻度について、お答えください。
（それぞれ1つに○）

	週4回以上	週3回程度	週2回程度	週1回程度	2週間以上1回程度	月1回程度	月1回未満	全くない、できない	無回答
同居していない相手とのコミュニケーション方法									
ア 直接会って話す（手紙等を含む）	13.0%	13.5%	14.1%	11.4%	11.4%	13.5%	24.3%	8.6%	1.6%
イ 電話（ビデオ通話含む）	5.4%	12.4%	9.7%	11.9%	11.9%	22.7%	18.9%	17.3%	1.6%
ウ SNS*や電子メールなど	25.4%	18.9%	17.3%	12.4%	11.9%	7.6%	4.9%	1.6%	

※ SNS（ソーシャル・ネットワーク・サービス）とは、登録された利用者同士が交流できる、コンピュータやスマートフォンなどを使用したインターネット上のサービス（例：ライン・エックス（旧ツイッター）・フェイスブックなど）。

5 保護者の方に、災害時の対策についておたずねします

問26 あなた（保護者）は、防災マップや洪水ハザードマップなどで避難場所・避難経路・警戒区域などを確認していますか。（1つに○）

1 確認している	77.8%	2 確認していない	22.2%	無回答	0.0%
----------	-------	-----------	-------	-----	------

問27 あなた（保護者）は、災害や火災などの緊急の際、避難情報を主にどこからとりますか。（1つに○）

1 防災行政無線	7.6%	5 ケーブルテレビ	1.1%
2 調布市防災・安全情報メール	49.7%	6 SNS（市の公式アカウントを含む）	23.2%
3 調布FM	0.0%	7 その他（具体的に： ）	1.6%
4 市ホームページ	7.6%	8 わからない	8.6%
		無回答	0.5%

調布市民福祉センター調査【障害児アンケート（保護者）】

6 保護者の方に、誰もが暮らしやすいまちづくりについておたずねします

問28 調布のまちは、障害（身体障害、知的障害、精神障害、難病など）のある人にとって、福祉サービス、バリアフリー、市民意識などを総合的に考え、住みやすいと思わない 18.4%
1 住みやすいと思う 11.9% 3 どちらかといえば、住みやすいと思わない 4.9%
2 どちらかといえば、住みやすいと思う 63.2% 4 住みやすいと思わない 1.6%
無回答

問29 共生社会の充実のための法律や考え方、調布市が令和6年度に制定した2つの条例を知っていますか。（それぞれ1つに○）

	内容を知っている	間（内）は知らない（は知らない）	知らない	無回答	説明
ア 障害者差別解消法	18.9%	26.5%	54.6%	0.0%	障害を理由とする差別の解消を推進することを目的とする法律
イ 合理的配慮	31.4%	28.6%	40.0%	0.0%	役所や事業者に対し、障害者から社会の中にあるバリア（生活がしづらくなる社会的障壁）を取り除くために何らかの対応を必要としていること の意思が伝えられた時に、負担が重すぎない範囲で対応すること
ウ パラハートようふ	17.8%	60.0%	22.2%	0.0%	「様々な障害に対する理解を深め、一人ひとりが寄り添う心を持ち、手を取り合って暮らせる社会に」という想いを込めて作成した調布市のキャッチフレーズ
エ 調布市手話言語条例	4.3%	10.8%	84.9%	0.0%	独自の言語である手話に対する理解促進と普及を推進するための条例
オ 調布市障害者の多様な意思疎通に関する条例	3.2%	13.0%	83.8%	0.0%	障害の特性に応じた多様な意思疎通（コミュニケーション）のための手段、配慮、支援等に対する理解促進と普及を推進するための条例

「調布市手話言語条例」

「調布市障害者の多様な意思疎通に関する条例」についてはこちら⇒

「パラハートようふ」についてはこちら⇒

調布市民福祉センター調査【障害児アンケート（保護者）】

i コラム ■ 東京 2025 デフリンピックが調布にやってくる！

デフリンピックとは、デフ+オリンピックのこと。デフ(Deaf)とは、英語で「耳が聞こえない」という意味です。
デフリンピックは国際的な聞こえない人のためのオリンピック」で、11月15日から26日まで、日本で初めて開催されます。調布市では京王アリーナ TOKYO でバドミントン競技が実施されます。予約不要、入場無料で開催できます。

▶デフリンピックについて詳しくはこちら

問30 外出時に使用している主な移動手段は何ですか、(2つまで○)

1 自家用車(自ら運転する)	33.0%	6 徒歩・自転車・車いす	67.0%
2 自家用車(運転手が別にいる)	19.5%	7 その他(具体的に:)	1.6%
3 電車	45.9%	8 該当なし	0.0%
4 バス	16.2%	無回答	2.2%
5 タクシー	3.2%		

問31 市内のバリアフリー・ユニバーサルデザイン※について、どのように感じていますか。
(それぞれ1つに○)

	とても充実している	充実している	あまり充実していない	充実していない	わからない	無回答
ア 車いすの人を含め誰もが安全に通れる建物の出入口や通路(段差をなくす、幅を広げるなど)	0.0%	23.2%	35.8%	9.2%	29.7%	1.1%
イ 公共施設や病院などのスロープ、エレベーターやエスカレーター	2.7%	40.0%	28.1%	3.8%	23.8%	1.6%
ウ 車いすの人や乳幼児を運れた人、介助者の同伴が必要な人など、誰もが使いやすいトイレ	1.1%	31.9%	35.8%	7.6%	20.0%	2.7%
エ 歩きやすいように障害物(商品や看板、放置自転車、電柱など)が取り除かれ、段差や凹凸が少なく十分に幅のある歩道や通路	0.0%	15.1%	40.0%	25.4%	17.3%	2.2%
オ 点字ブロックや視覚障害者用の信号機	0.5%	25.9%	24.3%	3.2%	44.3%	1.6%
カ 車いすやベビーカーで乗降しやすいノンステップバスやリフト付バス、ユニバーサルデザインタクシー	0.0%	25.4%	25.9%	8.6%	38.4%	1.5%
キ 車いす使用者等用の駐車場	0.5%	20.0%	24.9%	2.2%	50.8%	1.6%
ク 誰もがわかりやすいデザイン(文字の大きさ・種類・色・イラストなど)及び位置における、多言語を用いた案内表示	0.0%	22.7%	22.2%	4.9%	47.6%	2.7%
ケ 手話の対応や音声ガイドがある施設	0.0%	5.4%	16.2%	7.0%	68.6%	2.7%
コ 補助犬と同伴での入室が配慮された店・レストランなど	0.0%	2.7%	16.2%	5.9%	72.4%	2.7%
サ 公園・道路などを含む、まち全体のユニバーサルデザイン	0.0%	23.2%	29.7%	7.6%	36.8%	2.7%
シ 高齢者、子ども連れの家族、障害や病気などがある人に対する人々の接し方や配慮	1.1%	21.1%	29.2%	13.0%	33.5%	2.2%

※ ユニバーサルデザインとは、障害の有無・年齢・性別・人種などに問わず、多様な人が利用しやすいよう、事前に環境などをデザインすること。

問32 誰もが暮らしやすいまちづくりに向けて、病氣・障害・国籍・生活習慣などの違いによる心理的な障壁を取り除く(心のバリアフリー)ために、特に必要な取組は何だと思いますか。(2つまで○)

1 学校における、お互いを理解し、思いやる心を育てるための教育や、	75.1%
2 障害者などさまざまな人と触れ合う機会の充実	9.2%
3 意識啓発のための研修・講演会の開催	22.7%
4 わかりやすい、情報発信	45.9%
5 その他(具体的に:)	7.0%
6 わからない	5.9%
無回答	1.6%

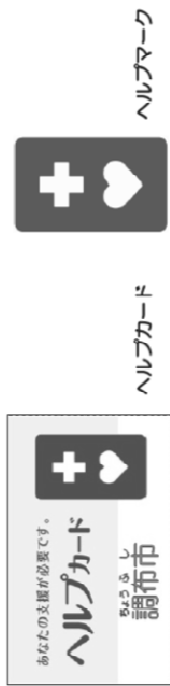
問33 あなた(保護者)は、お子さんが生活する中で、障害や病氣への差別や偏見、配慮のなさを感じることはありませんか。(いくつでも○)

1 教育・保育の機会	40.5%	6 交通機関や建物のつくりの配慮	10.3%
2 近所付き合い・地域の行事・活動	22.2%	7 行政職員の応対・態度	13.5%
3 民間の習いごと・教室	30.3%	8 その他(具体的に:)	7.6%
4 店での扱いや店員の応対・態度	11.9%	9 特に感じない	22.2%
5 まちなかでの人の接線	33.5%	無回答	1.1%

問34 お子さんは、調布市が配布しているヘルプカード※、ヘルプマーク※をもっていますか。
(それぞれ1つに○)

①ヘルプカード	1 もっている、いつも、もち歩いている	11.4%
	2 もっているが、もち歩いていない	19.5%
	3 もっていないが、ほしいと思う	22.7%
	4 もっていないし、必要ない	43.2%
	無回答	3.2%
②ヘルプマーク	1 もっている、いつも、もち歩いている	21.1%
	2 もっているが、もち歩いていない	17.3%
	3 もっていないが、ほしいと思う	21.1%
	4 もっていないし、必要ない	38.4%
	無回答	2.2%

※ヘルプカードは、障害のある人が緊急連絡先、医療情報、手伝ってほしい内容などを記載して、普段から身に付けておくことで、緊急時や災害時、日常の困ったときに、周囲の配慮や手助けをお願いしやすくするものです。障害福祉課の窓口で配布しています。これとは別に、障害のある人に限らず、外見からわからなくても援助や配慮を必要としている人のために「ヘルプマーク」もあります。



調布市民福祉センター調査【障害児アンケート（保護者）】

問35 お子さんは、ヘルプカードやヘルプマークをもっていることで、周囲の人に配慮してもらったり、手助けをしてもらったことがありますか。(1つに○)

1 ある	11.9%	2 ない	21.1%	3 もっていない・わからない	63.8%
無回答 3.2%					

7 保護者の方に、デジタルの活用についておたずねします

問36 あなた（保護者）は、調布市の保健福祉施策（サービス）に関する情報をどこから入手していますか。（いくつでも○）

1 市のホームページ	41.1%	5 家族、友人・知人からの口コミ	33.0%
2 市の広報紙・チラシ	62.2%	6 SNS	15.1%
3 市役所・相談機関などの窓口	19.5%	7 その他（具体的に： ）	3.2%
4 テレビ（ケーブルテレビを含む）・ラジオ	0.5%	8 特にない、情報は入手していない	5.4%
無回答 1.6%			

問37 お子さんやあなた（保護者）がスマートフォンなどの情報端末やパソコンなどを使ってしたいこと、暮らしの利便性を高めるアイデアがございましたら、教えてください。（自由記述）



調布市民福祉センター調査【障害児アンケート（保護者）】

8 保護者の方に、調布市の障害者福祉施策についておたずねします

問38 あなた（保護者）は、調布市が個別配布している「（あい）-ファイル」※をご存知ですか。(1つに○)

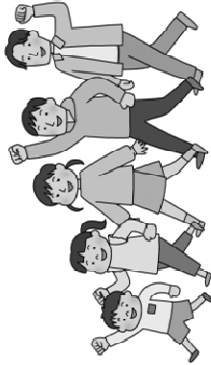
1 知っていて、使っている	36.2%	3 知らない	18.9%
2 知っていない	42.7%	無回答	2.2%

※「（あい）-ファイル」は、子どもたちが嫌やかに成長するために、保護者ときまざまな機関が連携・協力して支援できるよう、子どもの様子や、これまでに受けてきた支援の内容を書き込めるようにしたものです。
（配布場所）子ども発達センター、子ども家庭支援センターすこやか、子ども家庭センター、教育相談所、子ども政策課、障害福祉課、子ども育成課

問39 あなたは次の調布市の相談窓口や制度を知っていますか。（それぞれ1つに○）

	知 こ て い る	知 ら な い	無 回 答	説明
ア 子ども発達センター	95.1%	4.3%	0.5%	お子さんの発達に心配や不安を抱える保護者からの相談に応じ、発達に遅れやかたよりのあるお子さんに専門的支援を行います。
イ 子ども家庭支援センターすこやか (国領ココスクエア2階)	93.5%	5.9%	0.5%	子どもに関する総合相談（子育て・児童虐待等）のほか、情報や遊びの提供、子どもの一時預かりを行う施設です。
ウ 教育相談所 (調布市教育会館6階)	75.1%	24.3%	0.5%	お子さんの教育に関する心配ごとについての相談をお受けしています。
エ 教育支援コーディネーター、スクールソーシャルワーカー (調布市教育会館5階)	43.8%	54.6%	1.6%	教育全般及び福祉的な観点から、家庭や学校に関する相談をお受けしています。
オ 子ども家庭センター (文化会館なつくり西館)	74.6%	24.3%	1.1%	乳幼児の健康診査や成人のがん検診などの健診事業を提供し、保健師・栄養士・歯科衛生士などが育児相談や健康相談に応じています。
カ 障害者虐待防止センター (障害福祉課)	18.4%	80.0%	1.6%	障害者の虐待に関する相談・通報を受けける窓口です。

調布市民福祉ニーズ調査【障害児アンケート（保護者）】		
問40	調布市の障害児福祉施策（サービス）をより充実していくために、あなた（保護者）が特に重要と考える取組は何ですか。（いくつでも○）	
1	困ったことや福祉サービスの利用などを気軽に相談できる窓口	62.2%
2	健康づくりや地域での医療サービス	20.0%
3	手当や医療費の助成などの経済的な支援	56.8%
4	成年後見制度など、金銭・財産などの管理の支援	36.2%
5	ホームヘルプなど、在宅生活を支援するサービス	18.4%
6	ガイドヘルパー、コミュニケーション支援など社会参加の支援	22.2%
7	保護者の病気など、緊急時における一時預かり、ショートステイ	51.4%
8	発達に関する相談や療育の充実	64.3%
9	保育園・幼稚園などにおける受入れの推進	34.6%
10	特別支援教育の充実	53.0%
11	放課後などの活動場所（放課後等デイサービスなど）の整備	67.0%
12	学校卒業後の日中の活動場所（作業所などの障害者施設）の整備	45.4%
13	企業などで働くための支援（就労支援）	43.2%
14	趣味や余暇活動、スポーツ活動などの支援や場所の整備	36.8%
15	グループホームなど地域における住まいの場の整備	31.4%
16	障害理解の促進や差別の解消	36.8%
17	公共施設や道路、交通機関などのバリアフリー	25.9%
18	障害に応じた多様な情報提供の充実	40.0%
19	災害時の支援体制の整備	25.9%
20	デジタル技術を活用した、情報提供や意思疎通支援	18.9%
21	その他（具体的に： ）	5.9%
	無回答	1.6%



調布市民福祉ニーズ調査【障害児アンケート（保護者）】		
問41 市民同士が互いに支え合い、住み慣れたまちで誰もが安心して暮らすことのできるまちづくりを進めるためには、以下の①～③の取組が重要です。これらの取組について、ご意見、ご提案をお聞かせください。（自由記述）		
取組番号		
①地域活動の活性化・市民同士の支え合いの仕組みづくり		
②相談・サービスの充実		
③安全・安心の確保等		
取組番号： ① ・ ② ・ ③ （いずれかに○。複数選択可）		
ご意見、ご提案		
3つの取組以外で気になっていること		
アンケートは以上です。たくさんの質問にお答えいただき、誠にありがとうございました。 調査結果は市ホームページで公表し、図書館などで閲覧できます（令和8年4月頃の手定）。		



刊行物番号

2025-260

調布市民福祉ニーズ調査報告書

発行：令和 8（2026）年 3 月

編集：調布市 福祉健康部 福祉総務課

〒182-8511 東京都調布市小島町 2-35-1

電話 042-481-7101, 7102 Fax 042-481-7058